茨城県笠間市

長峰西遺跡

—畑地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010

笠間市教育委員会
有限会社　勾玉工房Mogi

茨城県笠間市

長　峰　西　遺　跡

—畑地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2010
笠 間 市 教 育 委 員 会
有限会社勾玉工房 Mogi

序

笠間市は，茨城県のほぼ中央に位置し，北西部には八溝山系が，南西部には吾国山・難台山・愛宕山が連なり，中央を北西部から東部にかけて涸沼川が台地を潤す自然豊かな地域です。また，河川流域や台地上より数多くの埋蔵文化財が確認されていることから，原始・古代より人々が生活を営むうえで最適の地域であったといえます。

今回の調査は県営畑地帯総合整備事業に関わる発掘調査であります。この調査の結果，弥生時代から奈良・平安時代の遺跡が確認され，地域の歴史を知る上で重要な資料を得ることができました。

この報告書を通して郷土の歴史に対する理解を深め，ひいては教育・文化向上の一助として多くの人々に広く活用されますことを強く願っている次第です。

最後に，発掘調査から報告書の刊行に至るまで，多大なるご指導・ご協力を賜りました関係機関並びに各位に対しまして心より感謝申し上げます。

平成22年3月

笠間市教育委員会教育長

飯　島　　勇

例　言

1. 本書は、茨城県笠間市小原359番地外に所在する長峰西遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は畑地帯総合整備事業に伴うもので、笠間市の委託を受けて、笠間市教育委員会の指導の下、有限会社勾玉工房Mogiの大賀健・田中暁穂が調査を担当し、長谷川秀久・荒井秀樹・大越直樹・大久保隆史が調査員として参加した。
3. 調査は平成20年12月15日から平成21年3月31日まで実施し、調査面積は5,815㎡である。
4. 調査記録及び出土遺物の整理は、平成21年4月1日から平成22年3月15日まで行った。
5. 発掘調査で得られた出土遺物及びその他の資料は、笠間市教育委員会に保管している。
6. 本書の編集は大賀健が行った。執筆分担は笠間市教育委員会－Ⅰ序 第1章、大賀健－Ⅰ序 第2章, Ⅹ考察 第2章・第3章、大越直樹－Ⅰ序 第4章, Ⅹ考察 第4章、角張淳一－Ⅹ考察 第1章（株式会社アルカ）、高橋 哲－Ⅹ考察第1章（株式会社アルカ）、大賀さつき－遺物観察表、田中暁穂－その他である。
7. デジタル編集は岩谷大吾・川口和之・岩崎美奈子・橋辺明子・大賀文香 が行った。石器の実測・トレース・撮影等は株式会社アルカに依頼した。遺物写真撮影は遺物の一部を大越直樹・川口和之、墨書土器の赤外線撮影を田中暁穂が行い、それ以外を（有）スギハラに依頼した。
7. 調査参加者は以下のとおりである。

野村正子　佐藤利男　小堤静江　鈴木とし江　小瀬靖夫　豊島英則　篠原一郎　根矢稔　石川久男　露久保三郎　高田幸江　鈴木晃佳　山口致辰　吹野昇　川又誠二　小坂部克巳　高野正行　仲田仙　鈴木浩　青木馨　瀧江稔　岡根光雄　中村伊重　吉田正子　中島トミ子　斉藤与志朗　海老原龍生　吉田みち　斉藤京子　武藤瑞良　吉田豊　高岡真士　小山義則　菅谷正義　川崎剛史　北村昶　小山範子　飯田昭　青木誠　横田忠利　斉藤幸一　塩畑勝利　中村薫　平林敬子　山崎一義　大山年明　松本修児　岩田時彦　大内英雄　中村柄繁次　関律子　福島枝里子　菅谷和子　飯田博美

8. 整理調査の参加者は以下のとおりである。

大賀さつき　宇佐美薫　塩澤佑介　根本時子　岩崎美奈子　小山郷子　大賀文香　篠原美代子　稲坂なお子

9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の諸氏、諸機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。

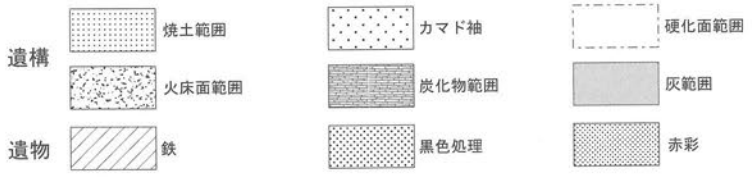
川崎純徳　能島清光　宮内勝巳　佐藤晃雅　長井正欣　土生朗治　篠原 正　林田利之　茨城県教育委員会　水戸土地改良事務所　小原地区土地改良組合　（有）カワヒロ産業　（株）スカイサーベイ　芦田測量　（有）スギハラ　（株）エイティー

凡　例

1　本書で第1図に用いた地形図は国土地理院発行2万5千分の1『笠間』である。
2　座標値は世界測地系第Ⅸ系を使用した。全体図、遺構図の方位は座標北を示し、高さの数値は標高を示している。
3　土層説明および遺物の観察には『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を用いた。
4　竪穴住居跡の計測値は主軸方位を長軸とし、方向が不明な場合は長さにより決定した。
5　掲載した図面は以下の縮尺で掲載した。

遺構図　　竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑は1/60、竈は1/30を基準としている。
出土遺物　縄文土器1/3、弥生土器1/3、土師器・須恵器1/4、土製品・石製品1/3、鉄製品1/2を基準としている。

6　掲載図面中のスクリーントーンは、次の内容を示す。



7　なお墨書土器の文字は任意の縮尺である。遺物写真は実測図の縮尺に合わせて掲載した。

目次

序
目次
Ⅰ　序章
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と考古学的環境 …… 1
　第１節　遺跡の立地 …… 1
　第２節　周辺の遺跡 …… 2
第３章　調査区の立地と区分 …… 3
　第１節　調査区のグリッド配置 …… 3
　第２節　遺跡の標準堆積土層 …… 3
第４章　調査の経過 …… 4

Ⅱ　CUT1
第１章　遺跡の概要 …… 5
第２章　検出された遺構と遺物 …… 5
　第１節　縄文時代の遺物 …… 5
　第２節　弥生時代後期～
　　古墳時代初頭の遺構と遺物 …… 5
　　第１項　住居跡 …… 5
　第３節　古墳時代の遺構と遺物 …… 15
　　第１項　住居跡 …… 15
　第４節　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 20
　　第１項　住居跡 …… 20
　　第２項　その他の遺構 …… 31
第３章　まとめ …… 32

Ⅲ　CUT2
第１章　遺跡の概要 …… 34
第２章　検出された遺構と遺物 …… 34
　第１節　弥生時代の遺構と遺物 …… 34
　　第１項　住居跡 …… 34
　第２節　古墳時代の遺構と遺物 …… 38
　　第１項　住居跡 …… 38
　第３節　平安時代の遺構と遺物 …… 40
　　第１項　住居跡 …… 40
　　第２項　溝跡 …… 42
　　第３項　遺構外出土遺物 …… 42
第３章　まとめ …… 42

Ⅳ　CUT5
第１章　遺跡の概要 …… 43
第２章　検出された遺構と遺物 …… 43
　第１節　縄文時代の遺物 …… 43
　第２節　弥生時代後期～
　　古墳時代初頭の遺構と遺物 …… 43
　　第１項　住居跡 …… 43
　第３節　古墳時代の遺構と遺物 …… 44
　　第１項　住居跡 …… 44
　第４節　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 49
　　第１項　住居跡 …… 49
　　第２項　掘立柱建物跡 …… 96
　　第３項　土坑 …… 101
　　第４項　ピット …… 102
　　第５項　遺構外出土遺物 …… 102
第３章　まとめ …… 103

Ⅴ　CUT6
第１章　遺跡の概要 …… 105
第２章　検出された遺構と遺物 …… 105
　第１節　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 105
　　第１項　住居跡 …… 105
　　第２項　掘立柱建物跡 …… 111
第３章　まとめ …… 112

Ⅵ　CUT8
第１章　遺跡の概要 …… 113
第２章　検出された遺構と遺物 …… 113
　第１節　古墳時代の遺構と遺物 …… 113
　　第１項　古墳 …… 113
　第２節　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 114
　第３節　その他の遺構 …… 115
　　第１項　土坑 …… 115
第３章　まとめ …… 115

Ⅶ　CUT9
第１章　遺跡の概要 …… 116
第２章　検出された遺構と遺物 …… 116
　第１節　住居跡 …… 116
　第２節　その他の遺構と遺物 …… 117
　第３節　遺構外出土遺物 …… 117
第３章　まとめ …… 117

Ⅷ　CUT10A
第１章　遺跡の概要 …… 118
第２章　検出された遺構と遺物 …… 119
　第１節　奈良・平安時代の遺構と遺物 …… 119
　　第１項　住居跡 …… 119
　第２節　中近世の遺構と遺物 …… 122
　　第１項　地下式坑 …… 122
　　第２項　その他の遺構と遺物 …… 123
第３章　まとめ …… 124

Ⅸ　CUT10B
第１章　遺跡の概要 …… 126
第２章　検出された遺構と遺物 …… 126
　第１節　検出された遺構 …… 126
　第２節　遺構外出土遺物 …… 126
第３章　まとめ …… 128

Ⅹ　考察
第１章　旧石器時代及び縄文時代の
　　石器について …… 128
第２章　縄文土器 …… 147
第３章　十王台式土器と古墳時代前期
　　古式土師器の共伴について …… 148
　第１節　十王台式期の住居 …… 148
　第２節　十王台式土器と五領式土器を
　　共伴する住居 …… 148
　第３節　五領式土器を出土する住居跡 …… 149
第４章　長峰西遺跡で検出された
　　初源期カマドについて …… 153
第５章　長峰西遺跡出土の墨書土器について …… 153
第６章　遺跡全体の総括 …… 154

挿図目次

挿図目次

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ……2
第2図　標準堆積土層柱状図 ……3
第3図　調査区全体図 ……折図1
CUT1
第4図　CUT1　全体図 ……折図2
第5図　5号住居跡 ……6
第6図　5号住居跡出土遺物（1） ……7
第7図　5号住居跡出土遺物（2） ……8
第8図　10号住居跡（1） ……9
第9図　10号住居跡（2） ……10
第10図　10号住居跡出土遺物 ……10
第11図　12号住居跡 ……12
第12図　12号住居跡出土遺物 ……12
第13図　13号住居跡 ……13
第14図　13号住居跡出土遺物 ……14
第15図　3号住居跡 ……15
第16図　3号住居跡出土遺物 ……15
第17図　4号住居跡（1） ……16
第18図　4号住居跡（2） ……17
第19図　4号住居跡出土遺物 ……17
第20図　8号住居跡（1） ……18
第21図　8号住居跡（2） ……19
第22図　8号住居跡出土遺物 ……19
第23図　1号住居跡（1） ……20
第24図　1号住居跡（2） ……21
第25図　1号住居跡出土遺物 ……21
第26図　2号住居跡 ……22
第27図　2号住居跡出土遺物 ……22
第28図　6号住居跡（1） ……23
第29図　6号住居跡（2） ……24
第30図　6号住居跡出土遺物 ……24
第31図　7号住居跡 ……25
第32図　7号住居跡出土遺物 ……25
第33図　9号住居跡 ……28
第34図　9号住居跡出土遺物 ……28
第35図　11号住居跡 ……29
第36図　11号住居跡出土遺物 ……30
第37図　14号住居跡 ……30
第38図　14号住居跡出土遺物 ……31
第39図　15号土坑出土遺物 ……31

CUT2
第40図　CUT2　全体図 ……33
第41図　1号住居跡 ……34
第42図　2号住居跡 ……35
第43図　2号住居跡出土遺物 ……36
第44図　3号住居跡 ……36
第45図　3号住居跡出土遺物 ……37
第46図　5号住居跡（1） ……38
第47図　5号住居跡（2） ……39
第48図　5号住居跡出土遺物 ……39
第49図　4号住居跡 ……40
第50図　4号住居跡出土遺物 ……41
第51図　6号住居跡 ……41
第52図　6号住居跡出土遺物 ……41
第53図　遺構外出土遺物 ……42

CUT5
第54図　CUT5　全体図 ……折図3
第55図　42号住居跡 ……43
第56図　42号住居跡出土遺物 ……43
第57図　18号住居跡（1） ……44
第58図　18号住居跡（2） ……45
第59図　18号住居跡出土遺物 ……45
第60図　21号住居跡 ……46
第61図　21号住居跡出土遺物 ……46
第62図　33号住居跡 ……47
第63図　33号住居跡出土遺物 ……47
第64図　36号住居跡 ……48
第65図　36号住居跡出土遺物 ……48
第66図　1号住居跡 ……49
第67図　2号住居跡 ……50
第68図　2号住居跡出土遺物 ……50
第69図　3号住居跡（1） ……51
第70図　3号住居跡（2） ……52
第71図　3号住居跡出土遺物 ……52
第72図　4号住居跡 ……53
第73図　4号住居跡出土遺物 ……53
第74図　5・6号住居跡（1） ……54
第75図　5・6号住居跡（2） ……55
第76図　5号住居跡出土遺物 ……55
第77図　6号住居跡出土遺物 ……56
第78図　40号住居跡 ……57
第79図　7・38号住居跡 ……58
第80図　7号住居跡出土遺物 ……58
第81図　38号住居跡出土遺物 ……59
第82図　8号住居跡 ……60
第83図　8号住居跡出土遺物 ……60
第84図　9・34号住居跡 ……61
第85図　9号住居跡出土遺物 ……61
第86図　10号住居跡（1） ……62
第87図　10号住居跡（2） ……63
第88図　10号住居跡出土遺物 ……64
第89図　11号住居跡（1） ……66
第90図　11号住居跡（2） ……67
第91図　11号住居跡出土遺物 ……67
第92図　12・37号住居跡 ……68
第93図　12号住居跡出土遺物 ……69
第94図　37号住居跡出土遺物 ……70
第95図　13・14・15・23・39号住居跡（1） ……70
第96図　13・14・15・23・39号住居跡（2） ……71
第97図　13・14・15・23・39号住居跡（3） ……72
第98図　13号住居跡出土遺物 ……72
第99図　14号住居跡出土遺物（1） ……73
第100図　15号住居跡出土遺物 ……74
第101図　23号住居跡出土遺物 ……75
第102図　16号住居跡 ……75
第103図　16号住居跡出土遺物 ……76
第104図　17号住居跡 ……77
第105図　19・20号住居跡（1） ……78
第106図　19・20号住居跡（2） ……79
第107図　19・20号住居跡出土遺物（1） ……79
第108図　19・20号住居跡出土遺物（2） ……80
第109図　22・35号住居跡 ……81
第110図　22号住居跡出土遺物 ……82
第111図　35号住居跡出土遺物 ……83
第112図　24・46・47号住居跡（1） ……83
第113図　24・46・47号住居跡（2） ……84
第114図　24号住居跡出土遺物 ……84
第115図　25・26・27・28・41・43号住居跡（1）…85
第116図　25・26・27・28・41・43号住居跡（2）…86
第117図　25・26・27・28・41・43号住居跡（3）…87
第118図　25・26・27・28・41・43号住居跡（4）…88

第 119 図　25 号住居跡出土遺物 ……88
第 120 図　26 号住居跡出土遺物 ……89
第 121 図　27 号住居跡出土遺物 ……89
第 122 図　28 号住居跡出土遺物 ……90
第 123 図　41 号住居跡出土遺物 ……91
第 124 図　29・30・44 号住居跡 ……91
第 125 図　29 号住居跡出土遺物 ……92
第 126 図　30 号住居跡出土遺物 ……92
第 127 図　32・45 号住居跡 ……93
第 128 図　32・45 号住居跡出土遺物 ……94
第 129 図　1 号掘立柱建物跡 ……96
第 130 図　2 号掘立柱建物跡 ……97
第 131 図　3 号掘立柱建物跡 ……98
第 132 図　4・5・6・7・8・9 号掘立柱建物跡 (1)…99
第 133 図　4・5・6・7・8・9 号掘立柱建物跡 (2) 100
第 134 図　1・2 号土坑出土遺物 ……101
第 135 図　9 号土坑出土遺物 ……101
第 136 図　19 号土坑出土遺物 ……102
第 137 図　ピット出土遺物 ……102
第 138 図　遺構外出土遺物 ……102

CUT6
第 139 図　CUT6　全体図 ……105
第 140 図　1 号住居跡 ……106
第 141 図　1 号住居跡出土遺物 ……106
第 142 図　2 号住居跡 ……107
第 143 図　2 号住居跡出土遺物 (1) ……107
第 144 図　2 号住居跡出土遺物 (2) ……108
第 145 図　3 号住居跡 ……109
第 146 図　3 号住居跡出土遺物 ……109
第 147 図　4 号住居跡 ……110
第 148 図　4 号住居跡出土遺物 (1) ……110
第 149 図　4 号住居跡出土遺物 (2) ……111
第 150 図　1 号掘立柱建物跡 ……112

CUT8
第 151 図　CUT8　全体図 ……113
第 152 図　1 号古墳 ……114
第 153 図　9 号土坑 ……114
第 154 図　9 号土坑出土遺物 ……114
第 155 図　12 号土坑 ……115

CUT9
第 156 図　CUT9　全体図 ……116
第 157 図　1 号住居跡 ……116
第 158 図　1・2・3 号土坑 ……117
第 159 図　CUT9 出土遺物 ……117

CUT10A
第 160 図　CUT10A　全体図 ……118
第 161 図　1 号住居跡 ……119
第 162 図　1 号住居跡出土遺物 (1) ……120
第 163 図　1 号住居跡出土遺物 (2) ……121
第 164 図　1 号地下式坑 ……122
第 165 図　1 号地下式坑出土遺物 ……122
第 166 図　2 号地下式坑 ……123
第 167 図　1 号土坑出土遺物 ……123
第 168 図　5 号土坑出土遺物 ……123
第 169 図　9 号土坑出土遺物 ……123
第 170 図　12 号土坑出土遺物 ……124
第 171 図　1 号溝出土遺物 ……124
第 172 図　遺構外出土遺物 ……124

CUT10B
第 173 図　CUT10B　全体図 ……125
第 174 図　遺構外出土遺物 ……126

第 175 図　出土縄文土器 ……147
第 176 図　十王台式土器編年 (1) ……150
第 177 図　十王台式土器編年 (2) ……151
第 178 図　十王台式土器編年 (3) ……152

遺構写真目次

図版 01 (全体風景)
1　航空写真全景 1(遺構配置)
2　航空写真全景 2
図版 02 (CUT1)
1　CUT1 航空写真
図版 03 (CUT1)
1　標準堆積土層
2　遺構確認全景
図版 04 (CUT1)
1　1 号住居跡全景
2　同 セクション
3　同 カマド
4　2 号住居跡セクション
5　同 カマドセクション
図版 05 (CUT1)
1　2 号住居跡全景
2　3 号住居跡全景
図版 06 (CUT1)
1　3 号住居跡セクション
2　同 カマド
3　4 号住居跡セクション
4　同 カマドセクション
5　同 全景
図版 07 (CUT1)
1　5 号住居跡全景
2　同 セクション
3　同 遺物出土状況
4　同 遺物近景 1
5　同 遺物近景 2
図版 08 (CUT1)
1　5 号住居跡 遺物近景 3
2　同 遺物近景 4
3　同 遺物近景 5
4　同 炉セクション
5　6 号住居跡全景
図版 09 (CUT1)
1　6 号住居跡遺物出土状況
2　同 カマド
3　7 号住居跡全景
4　同 遺物出土状況
5　8 号住居跡焼土分布状況
図版 10 (CUT1)
1　8 号住居跡全景
2　同 遺物出土近景 1
3　同 遺物出土近景 2
4　同 遺物出土近景 3
5　同 遺物出土近景 4
図版 11 (CUT1)
1　8 号住居跡遺物出土近景
2　同 カマド
3　同 貯蔵穴セクション

4　同 貯蔵穴完堀状況
5　9 号住居跡全景
図版 12（CUT1）
1　9 号住居跡セクション
2　同 カマドセクション
3　同 カマド
4　10 号住居跡セクション
5　同 全景
図版 13（CUT1）
1　10 号住居跡セクション
2　同 遺物出土状況 1
3　同 遺物出土状況 2
4　同 炉セクション
5　11 号住居跡全景
図版 14（CUT1）
1　11 号住居跡セクション
2　同 遺物出土状況
3　同 カマドセクション
4　同 カマド全景
5　12 号住居跡全景
図版 15（CUT1）
1　12 号住居跡セクション
2　同 炉
3　同 セクション
4　13 号住居跡炉
5　同 全景
図版 16（CUT1）
1　13 号住居跡炉
2　14 号住居跡セクション
3　同 全景
4　1 号土坑セクション
5　2 号土坑セクション
図版 17（CUT1）
1　3 号土坑セクション
2　4・5 号土坑セクション
3　7 号土坑セクション
4　8 号土坑セクション
5　9 号土坑セクション
6　11 号土坑セクション
7　12 号土坑セクション
8　同 完堀状況
図版 18（CUT1）
1　13 号土坑セクション
2　同 完堀状況
3　14 号土坑セクション
4　同 完堀状況
5　15 号土坑セクション
6　同 完堀状況
7　16 号土坑セクション
8　同 完堀状況
図版 19（CUT1）
1　18 土坑セクション
2　同 完堀状況
3　19 号土坑完堀状況
4　20 号土坑セクション
5　同 完堀状況
6　1 号溝セクション
7　2 号溝セクション
8　3 号溝セクション
図版 20（CUT1）
1　4 号溝セクション 1
2　同 セクション 2
3　同 出土遺物状況（近世磁器）
4　5 号溝セクション
図版 21（CUT2）
1　CUT2 航空写真
図版 22（CUT2）
1　標準堆積土層 1
2　標準堆積土層 2
3　1 号住居跡全景
4　同 住居跡セクション
5　同 炉セクション
図版 23（CUT2）
1　1 号住居跡炉完堀
2　2 号住居跡セクション
3　同 完堀状況
4　同 炉セクション
5　同 炉完堀状況
図版 24（CUT2）
1　3 号住居跡全景
2　同 セクション
3　同 遺物出土状況
4　4 号住居跡セクション
5　同 遺物出土状況
図版 25（CUT2）
1　4 号住居跡完堀全景
2　5 号住居跡セクション
3　同 遺物出土状況
4　同 炉セクション
5　同 炉完堀状況
図版 26（CUT2）
1　5 号住居跡全景
2　6 号住居跡セクション
3　1 号溝セクション
4　調査風景
図版 27（CUT5）
1　CUT5 航空写真
図版 28（CUT5）
1　調査前状況
2　遺構確認状況
図版 29（CUT5）
1　標準堆積土層
2　調査風景 1
3　同 2
4　遺構確認東側
5　遺構確認西側
図版 30（CUT5）
1　1 号住居跡全景
2　2 号住居跡全景
図版 31（CUT5）
1　2 号住居跡カマドセクション
2　同 カマド遺物出土状況
3　3 号住居跡セクション
4　4 号住居跡カマドセクション
5　同 カマド全景
図版 32（CUT5）
1　4 号住居跡全景
2　5・40 号住居跡全景
図版 33（CUT5）
1　5 号住居跡セクション
2　同 遺物出土全景
3　同 カマドセクション
4　同 カマド完堀状況
5　5 号住居跡遺物出土状況

図版 34（CUT5）
1　6 号住居跡 A セクション
2　同 B セクション
3　同 カマドセクション
4　同 カマド遺物出土状況
5　同 完堀状況
図版 35（CUT5）
1　7 号住居完堀状況
2　同 カマド遺物出土状況
3　同 カマドセクション
4　同 カマド完堀状況
5　9 号住居跡セクション
図版 36（CUT5）
1　3 号住居跡セクション
2　同 1 号ピット
3　同 2 号ピット
4　同 カマドセクション
5　同 カマド完堀状況
図版 37（CUT5）
1　10 号住居跡完堀状況
2　同 カマド袖
3　同 カマド掘方
4　11 号住居跡カマド完堀状況
5　同 カマド袖
図版 38（CUT5）
1　11 号住居跡掘方
2　12 号住居跡完堀状況
図版 39（CUT5）
1　12 号住居跡カマド遺物出土状況
2　同 カマド完堀状況
3　13・39 号住居跡完堀状況
4　13 号住居カマドセクション
5　同 カマド完堀状況
図版 40（CUT5）
1　14 号住居跡遺物出土状況
2　同 セクション
3　同 カマドセクション
4　同 カマド遺物出土状況
5　同 カマド完堀状況
図版 41（CUT5）
1　4 号住居跡完堀状況
2　15 号住居跡 A セクション
3　同 B セクション
4　同 カマドセクション
5　同 カマド完堀状況
図版 42（CUT5）
1　15 号住居完堀状況
2　16 号住居跡完堀状況
図版 43（CUT5）
1　16 号住居跡カマドセクション
2　同 カマド遺物出土状況 1
3　同 カマド遺物出土状況 2
4　同 カマド完堀状況
5　17 号住居跡完堀状況
図版 44（CUT5）
1　18 号住居跡完堀状況
2　同 セクション
3　同 ピット 5 セクション
4　同 炉セクション
5　同 炉完堀状況
図版 45（CUT5）
1　19・20 号住居跡全景
2　同 ピット 1 セクション
3　同 ピット 2 セクション
4　同 ピット 3 セクション
5　同 ピット 4 セクション
図版 46（CUT5）
1　19 号住居跡カマドセクション 1
2　同 カマドセクション 2
3　同 カマド遺物出土状況 1
4　同 カマド遺物出土状況 2
5　21 号住居跡全景
図版 47（CUT5）
1　21 号住居跡炉セクション
2　同 炉完堀状況
3　22・35 号住居跡遺物出土状況
4　同 住居跡セクション
5　同 カマドセクション
図版 48（CUT5）
1　22 号住居跡カマドセクション 1
2　同 カマドセクション 2
3　同 カマド完堀状況
4　23 号住居跡カマドセクション
5　24 号住居跡全景
図版 49（CUT5）
1　24 号住居 A セクション
2　同 B セクション
3　同 カマド A セクション
4　同 カマド B セクション
5　同 カマドセクション
6　同 カマド完堀状況
7　同 貯蔵穴セクション
8　同 貯蔵穴遺物出土状況
図版 50（CUT5）
1　25 号住居跡 A セクション
2　同 B セクション
3　同 カマド A セクション
4　同カマド B セクション
5　26 号住居跡遺物出土状況
図版 51（CUT5）
1　26 号住居跡カマドセクション
2　27 号住居跡 A セクション
3　同 B セクション
4　同 カマド遺物出土状況
5　同 全景
図版 52（CUT5）
1　28 号住居跡 A セクション
2　同 B セクション
3　24 号住居跡全景
4　同 セクション
5　同 カマドセクション
図版 53（CUT5）
1　29 号住居カマドセクション
2　29・44 号住居跡セクション
3　30・44 号住居跡遺物出土状況
4　同 セクション
5　32・45 号住居跡セクション
図版 54（CUT5）
1　31 号住居跡完堀状況
2　32・45 号住居跡遺物出土状況
図版 55（CUT5）
1　32 号住居跡カマドセクション
2　同 カマド完堀状況
3　32・34 号住居跡 B セクション

4　33 号住居跡セクション
5　33 号住居跡全景
図版 56（CUT5）
1　34 号住居跡全景
2　35 号住居跡全景
図版 57（CUT5）
1　35 号住居跡遺物出土状況
2　同 カマドセクション
3　36 号住居跡遺物出土状況
4　同 セクション
5　同 炉セクション
図版 58（CUT5）
1　37 号住居跡 A セクション
2　同 B セクション
3　41 号住居跡セクション
4　同 カマドセクション
5　同 カマド遺物出土状況
図版 59（CUT5）
1　41 号住居跡全景
2　42 号住居跡全景
図版 60（CUT5）
1　43 号住居跡 A セクション
2　同 B セクション
3　46 号住居跡カマドセクション
4　同 セクション
5　同 完堀状況
図版 61（CUT5）
1　1 号掘立柱建物跡
2　同 ピット 1 セクション
3　同 ピット 1 完堀状況
4　同 ピット 2 セクション
5　同 ピット 2 完堀状況
図版 62（CUT5）
1　1 号掘立柱建物跡ピット 3 セクション
2　同 ピット 3 完堀状況
3　同 ピット 4 セクション
4　同 ピット 4 完堀状況
5　同 ピット 5 セクション
6　同 ピット 5 完堀状況
7　同 ピット 6 セクション
8　同 ピット 6 完堀状況
図版 63（CUT5）
1　1 号掘立柱建物跡ピット 7 セクション
2　同 ピット 7 完堀状況
3　2 号掘立柱建物跡
4　同 ピット 1
5　同 ピット 2
図版 64（CUT5）
1　2 号掘立柱建物跡ピット 3
2　同 ピット 4
3　同 ピット 5
4　同 ピット 6
5　同 ピット 7
6　同 ピット 8
7　同 ピット 9
8　同 ピット 10
図版 65（CUT5）
1　3 号掘立柱建物跡
2　4・5 号掘立柱建物跡
図版 66（CUT5）
1　6 号掘立柱建物跡
2　7 ～ 9 号掘立柱建物跡
図版 67（CUT5）
1　3 号掘立柱建物跡
2　35 号住居跡内 1 号土坑完堀状況
3　4 号土坑完堀状況
4　6 号土坑完堀状況
5　7 号土坑完堀状況
6　8 号土坑完堀状況
7　9 号土坑セクション
8　同 完堀状況
図版 68（CUT5）
1　10 号土坑セクション
2　11 号土坑セクション
3　15 号土坑セクション
4　18 号土坑セクション
5　56 号土坑完堀状況
6　76 号土坑完堀状況
7　77 号土坑完堀状況
8　78 号土坑完堀状況
図版 69（CUT5）
1　80 号土坑完堀状況
2　81 号土坑完堀状況
3　82 号土坑完堀状況
4　ピット 29・330 完堀状況
5　ピット 33 完堀状況
6　ピット 256 ～ 259 完堀状況
7　ピット 312 完堀状況
8　ピット 315 完堀状況
図版 70（CUT5）
1　ピット 31 完堀状況
2　ピット 320 完堀状況
3　ピット 321 完堀状況
4　ピット 328 完堀状況
5　ピット 329 完堀状況
6　ピット 325 完堀状況
7　ピット 35・260・323・324 完堀状況
8　ピット 326 完堀状況
図版 71（CUT5）
1　ピット 344 完堀状況
2　ピット 345 完堀状況
図版 72（CUT6）
1　CUT6 航空写真
図版 73（CUT6）
1　遺構確認全景
2　標準堆積土層
図版 74（CUT6）
1　1 号住居跡全景
2　同 カマドセクション
3　同 カマド内遺物出土状況
4　同 カマド全景
5　2 号住居跡セクション
図版 75（CUT6）
1　2 号住居跡全景
2　同 遺物出土状況
図版 76（CUT6）
1　2 号住居跡カマドセクション
2　同 カマド遺物出土状況
3　同 カマド完堀状況
4　3 号住居跡セクション
5　同 住居跡全景
6　同 カマド全景
7　4 号住居跡カマド
図版 77（CUT6）

1　4号住居跡全景
2　1号掘立柱建物跡全景
図版78（CUT6）
1　1号土坑全景
2　2号土坑セクション
3　3号土坑全景
4　4号土坑全景
5　5号土坑・3号ピット全景
6　6号土坑全景
7　1号ピットセクション
8　1号不明遺構全景
図版79（CUT08）
1　CUT8航空写真
図版80（CUT08）
1　遺構確認全景
2　標準堆積土層
図版81（CUT08）
1　1号古墳セクション
2　同 周溝
図版82（CUT08）
1　1号土坑セクション
2　同 完堀状況
3　2号土坑セクション
4　同 完堀状況
5　3号土坑セクション
6　同 完堀状況
7　4号土坑セクション
8　同 完堀状況
図版83（CUT08）
1　5号土坑セクション
2　同 完堀状況
3　6号土坑セクション
4　同 完堀状況
5　7号土坑完堀状況
6　8号土坑セクション
7　9号土坑セクション
8　同 完堀状況
図版84（CUT08）
1　9号土坑蔵骨器
2　同 出土状況
図版85（CUT08）
1　10号土坑セクション
2　同 完堀状況
3　11号土坑セクション
4　同 完堀状況
5　12号土坑セクション
6　4号ピット完堀状況
図版86（CUT9・CUT10B）
1　CUT9・CUT10B航空写真
図版87（CUT9・CUT10A）
1　1号土坑セクション
2　2号土坑セクション
3　3号溝セクション
4　CUT10A航空写真
図版88（CUT10A）
1　1号住居跡セクション
2　1号溝完堀状況
3　1号地下式坑完堀状況
4　2号地下坑完堀状況

遺物写真図版

図版89
CUT1-SI01出土遺物
CUT1-SI02出土遺物
CUT1-SI03出土遺物
CUT1-SI04出土遺物
図版90
CUT1-SI05出土遺物
図版91（CUT1）
CUT1-SI05出土遺物
CUT1-SI06出土遺物
CUT1-SI07出土遺物
CUT1-SI08出土遺物
図版92
CUT1-SI08出土遺物
CUT1-SI09出土遺物
CUT1-SI10出土遺物
図版93
CUT1-SI11出土遺物
CUT1-SI12出土遺物
CUT1-SI13出土遺物
CUT1-SI14出土遺物
CUT1-SK15出土遺物
CUT2-SI02出土遺物
CUT2-SI03出土遺物
図版94
CUT2-SI03出土遺物
CUT2-SI04出土遺物
図版95（CUT1）
CUT2-SI05出土遺物
CUT2-SI06出土遺物
CUT2-カクニン出土遺物
CUT5-SI02出土遺物
CUT5-SI03出土遺物
図版96
CUT5-SI04出土遺物
CUT5-SI05出土遺物
CUT5-SI06出土遺物
CUT5-SI07出土遺物
図版97
CUT5-SI10出土遺物
CUT5-SI11出土遺物
図版98
CUT5-SI12出土遺物
CUT5-SI13出土遺物
CUT5-SI14出土遺物
CUT5-SI15出土遺物
図版99
CUT5-SI16出土遺物
CUT5-SI18出土遺物
CUT5-SI19出土遺物
図版100
CUT5-SI21出土遺物
CUT5-SI22出土遺物
CUT5-SI23出土遺物
CUT5-SI24出土遺物
CUT5-SI25出土遺物
CUT5-SI26出土遺物
CUT5-SI27出土遺物
図版101
CUT5-SI28出土遺物

CUT5-SI29 出土遺物
CUT5-SI30 出土遺物
CUT5-SI32・45 出土遺物
図版 102
CUT5-SI32・45 出土遺物
CUT5-SI33 出土遺物
CUT5-SI35 出土遺物
CUT5-SI36 出土遺物
図版 103
CUT5-SI37 出土遺物
CUT5-SI38 出土遺物
CUT5-SI41 出土遺物
CUT5-SI42 出土遺物
CUT5-SK09 出土遺物
CUT5-SK19 出土遺物
CUT5-SK22 出土遺物
CUT5- ピット出土遺物
CUT5- 表採出土遺物
図版 104
CUT6-SI01 出土遺物
CUT6-SI02 出土遺物
CUT6-SI03 出土遺物
CUT6-SI04 出土遺物
図版 105
CUT08-SK09 出土遺物
CUT10A-SI01 出土遺物
図版 106
CUT10A-SI01 出土遺物
CUT10A-1 号地下式土坑出土遺物
CUT10A-SD01 出土遺物
CUT10A-SK01 出土遺物
CUT10A-SK05 出土遺物
CUT10A-SK09 出土遺物
CUT10A-SK12 出土遺物
CUT10A- カクラン出土遺物
CUT10B-SK13 出土遺物
CUT10B-SK30 出土遺物
CUT10B-SK35 出土遺物
CUT10B-SK41 出土遺物
CUT10B- 遺構外出土遺物
図版 107
CUT1- 石器
図版 108
CUT5- 石器 -1
図版 109
CUT5- 石器 -2
図版 110
CUT5- 石器 -3
図版 111
CUT10A- 石器
図版 112
出土縄文遺物
図版 113
1　CUT5-SI10-4「□」
2　CUT5-SI13-05「□」
3　CUT5-SI14-04「大伴」
4　CUT5-SI14-05「□山」
5　CUT5-SI16-04「□」
6　CUT5-SI19-04「□」
7　CUT5-SI22-02「万」
8　CUT5-SI22-05「□」
図版 114
1　CUT5-SI32・45-07「□」
2　CUT6-SI03-05「□」
3　CUT6-SI03-06「□」
4　CUT10A-SI01-10「片山」
5　CUT10A-SI01-15「片山」
6　CUT10A-SI01-24「片山」

表目次

CUT1
表 1　5 号住居跡遺物観察表（1）……8
表 2　5 号住居跡遺物観察表（2）……9
表 3　10 号住居跡遺物観察表……11
表 4　12 号住居跡遺物観察表……13
表 5　13 号住居跡遺物観察表……14
表 6　3 号住居跡遺物観察表……15
表 7　4 号住居跡遺物観察表……17
表 8　8 号住居跡遺物観察表……20
表 9　1 号住居跡遺物観察表……21
表 10　2 号住居跡遺物観察表……23
表 11　6 号住居跡遺物観察表……25
表 12　7 号住居跡遺物観察表……26
表 13　7 号住居跡出土礫計測表（1）……26
表 14　7 号住居跡出土礫計測表（2）……27
表 15　9 号住居跡遺物観察表……29
表 16　11 号住居跡遺物観察表……30
表 17　14 号住居跡遺物観察表……31
表 18　15 号土坑遺物観察表……31
表 19　CUT1 土坑・ピット計測表……32
表 20　CUT1 溝計測表……32

CUT2
表 21　2 号住居跡遺物観察表……36
表 22　3 号住居跡遺物観察表（1）……37
表 23　3 号住居跡遺物観察表（2）……38
表 24　5 号住居跡遺物観察表……40
表 25　4 号住居跡遺物観察表……41
表 26　6 号住居跡遺物観察表……41
表 27　CUT2 遺構外遺物観察表……42

CUT5
表 28　42 号住居跡遺物観察表……44
表 29　18 号住居跡遺物観察表……45
表 30　21 号住居跡遺物観察表……46
表 31　33 号住居跡遺物観察表……47
表 32　36 号住居跡遺物観察表……49
表 33　2 号住居跡遺物観察表……51
表 34　3 号住居跡遺物観察表……52
表 35　4 号住居跡遺物観察表……53
表 36　5 号住居跡遺物観察表……55
表 37　6 号住居跡遺物観察表（1）……56
表 38　6 号住居跡遺物観察表（2）……57
表 39　7 号住居跡遺物観察表……59
表 40　38 号住居跡遺物観察表……59
表 41　8 号住居跡遺物観察表……60
表 42　9 号住居跡遺物観察表……61
表 43　10 号住居跡遺物観察表……65
表 44　11 号住居跡遺物観察表……67
表 45　12 号住居跡遺物観察表……69
表 46　37 号住居跡遺物観察表……70
表 47　13 号住居跡遺物観察表……73
表 48　14 号住居跡遺物観察表……74
表 49　15 号住居跡遺物観察表……74

表 50　23 号住居跡遺物観察表　……75
表 51　16 号住居跡遺物観察表　……76
表 52　19・20 号住居跡遺物観察表（1）……80
表 53　19・20 号住居跡遺物観察表（2）……81
表 54　22 号住居跡遺物観察表　……82
表 55　35 号住居跡遺物観察表　……83
表 56　24 号住居跡遺物観察表　……84
表 57　25 号住居跡遺物観察表　……88
表 58　26 号住居跡遺物観察表　……89
表 59　27 号住居跡遺物観察表　……89
表 60　28 号住居跡遺物観察表　……90
表 61　41 号住居跡遺物観察表　……91
表 62　29 号住居跡遺物観察表　……92
表 63　30 号住居跡遺物観察表　……92
表 64　32・45 号住居跡遺物観察表　……95
表 65　1・2 号土坑遺物観察表　……101
表 66　9 号土坑遺物観察表　……102
表 67　19 号土坑遺物観察表　……102
表 68　ピット遺物観察表　……102
表 69　CUT5 遺構外遺物観察表　……103
表 70　CUT5 土坑・ピット計測表　……104

CUT6
表 71　1 号住居跡遺物観察表 ……106
表 72　2 号住居跡遺物観察表 ……108
表 73　3 号住居跡遺物観察表 ……109
表 74　4 号住居跡遺物観察表 ……111
表 75　CUT6 土坑・ピット計測表　……112

CUT8
表 76　9 号土坑遺物観察表 ……115
表 77　CUT8 土坑・ピット計測表　……115

CUT9
表 78　CUT9 遺構外遺物観察表　……117

CUT10A
表 79　1 号住居跡遺物観察表（1）……121
表 80　1 号住居跡遺物観察表（2）……122
表 81　1 号地下式坑遺物観察表 ……122
表 82　1 号土坑遺物観察表 ……123
表 83　5 号土坑遺物観察表 ……123
表 84　9 号土坑遺物観察表 ……123
表 85　12 号土坑遺物観察表　……124
表 86　1 号溝遺物観察表　……124
表 87　遺構外遺物観察表　……124
表 88　CUT10A 土坑・溝計測表　……124

CUT10B
表 89　CUT10B 遺構外遺物観察表　……127
表 90　CUT10B 土坑・不明遺構計測表　……128

Ⅰ　序

第１章　調査に至る経緯

畑地帯総合整備事業は，農業に伴う道路・灌漑施設・農地などの生産基盤を総合的に整備することによって，作物品質の向上，生産作物の拡大，反収の増加，輸送費の削減，荷傷みの防止など，より高い生産性と品質のさらなる向上を目指している。

笠間市では基本施策を総合計画で目標を定め，農林業の振興を図ることを目的とした産業振興プロジェクトが重点的に進められている。また，農業生産基盤の整備の一環として，旧友部町時代の平成13年に小原地区土地改良組合が設立され，県の指導の下，効率的な畑作農業地域を作るための整備事業が実施されている。

この整備事業の計画地は常磐線をはさんで南北に分かれている。この地区には市内最大級の山王塚古墳を有する一本松古墳群があり，重要な遺跡の包蔵地である。このことから整備事業計画の中で平成15年１月に三本松遺跡の発掘調査，翌年１月に小原遺跡の発掘調査，さらに平成20年に塙谷遺跡，長峰東遺跡の発掘調査が行われ，多大な成果が得られている。

今回の整備事業計画地は長峰西遺跡の範囲内であることから，笠間市教育委員会は平成19年８月から合計７回，笠間市文化財保護審議委員の能島清光氏に試掘確認の調査を依頼した。その結果多数の住居跡が確認され，出土遺物などから弥生時代から奈良・平安時代の集落があることが推定された。

工事主体者である水戸土地改良事務所（現県央農林事務所）は，茨城県教育委員会教育長に対して，平成20年８月29日付けで長峰西遺跡について文化財保護法94条第１項の規定に基づき，土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘調査について通知した。茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要と判断し，平成20年10月21日付けで工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

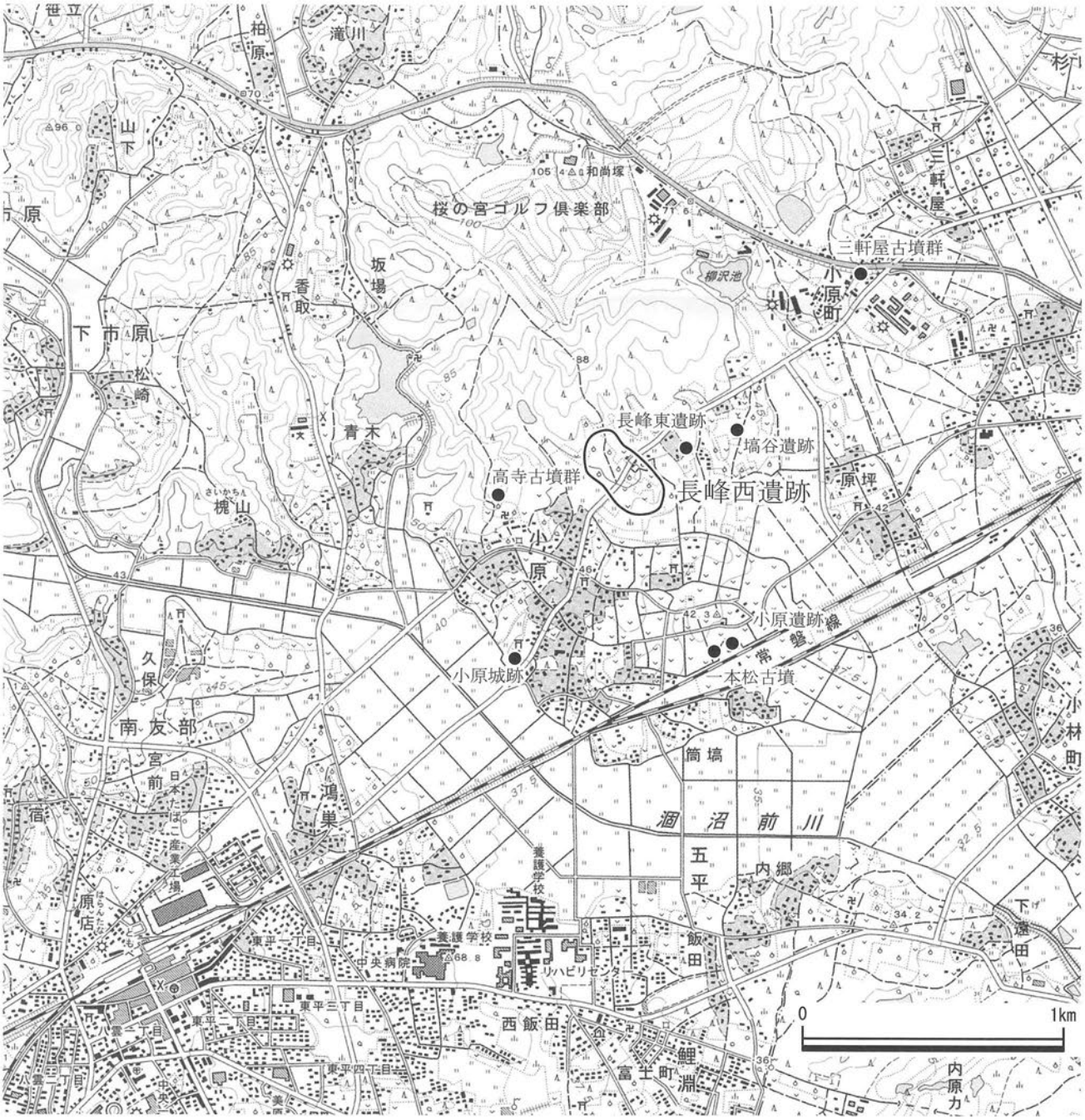
これを受けて，笠間市教育委員会は有限会社勾玉工房Mogiに調査を依頼した。承諾後，笠間市教育委員会・水戸土地改良事務所・有限会社勾玉工房Mogiは三者協議を行い，試掘調査の結果に基き，平成20年10月27日付けで文化財保護法第92条第１項の規定による発掘調査届け出を茨城県教育委員会へ提出，茨城県埋蔵文化財指導員の川崎純徳氏と笠間市文化財保護審議委員の能島清光氏を指導委員として平成20年12月15日より発掘調査を実施することとなった。

第２章　遺跡の位置と考古学的環境

第１節　遺跡の地理的環境

本遺跡が所在する茨城県笠間市は茨城県のほぼ中央に位置し，北西部には八溝山系が，南西部には吾国山・難台山・愛宕山が連なる。涸沼川は友部駅の西側で北西部から東部にかけて愛宕山の裾を巡るように大きく蛇行し、やがて古矢川と合流した後に涸沼へと流れ込む。涸沼川が山間地から低地帯へと抜けでる友部周辺では、随所に灌漑用の溜池が点在し、古くよりこの周辺が低湿地であったことが想定できる。今回の発掘調査は冬季調査であったために、この灌漑用溜池に飛来する数多くのオオハクチョウの姿が観察された。

長峰西遺跡は常磐線友部駅と内原駅の中間、小原神社の西側の台地丘陵上にあり、常磐線沿線には田園地帯が広がり、山系から緩やかに標高を下げる丘陵の先端部では、樹枝状の小枝谷が形成されており、涸沼川の支流である涸沼前川と古矢川に挟まれる台地の縁辺部に位置する。小枝谷を挟んで西側には小原神社が隣接している。遺跡の所在する台地の標高は45～47m前後で、南東端部に位置する調査区CUT1の南東側周辺は標高40.5mの低地帯となり水田地帯が広がる。また、調査区の中央部分には県道杉崎友部線が東西方向に貫いて通っており、この部分は道路開削時に掘削されて切り通しになっているが、さらに北東側に位置する調査区のCUT10Aでは標高が48mと徐々に山間地に向かい高くなる。



第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（国土地理院　1/25000　地形図『笠間』に加筆）

第２節　周辺の遺跡

市内では縄文時代の遺跡が前期から分布する。しかし弥生時代の遺跡の分布は希薄である。古墳時代に入ると、市内最大級の山王塚古墳を有する一本松古墳群があり，遺跡周辺には古墳群が点在する。奈良時代には遺跡周辺は常陸国那珂郡あるいは茨城郡に属するが、遺跡がどちらの郡に属したかは定かではない。平安末期には九条家領荘園が成立し、以後室町後期までは宍戸氏の支配を受ける。遺跡付近には中世後期に里見氏が築城したと言われる平城、小原城跡がある。遺跡北東に隣接する舌状台地には弥生～平安時代の遺跡である塙谷遺跡、長峰東遺跡があり、平成 20 年に調査が行われている。

第3章　調査区の立地と区分

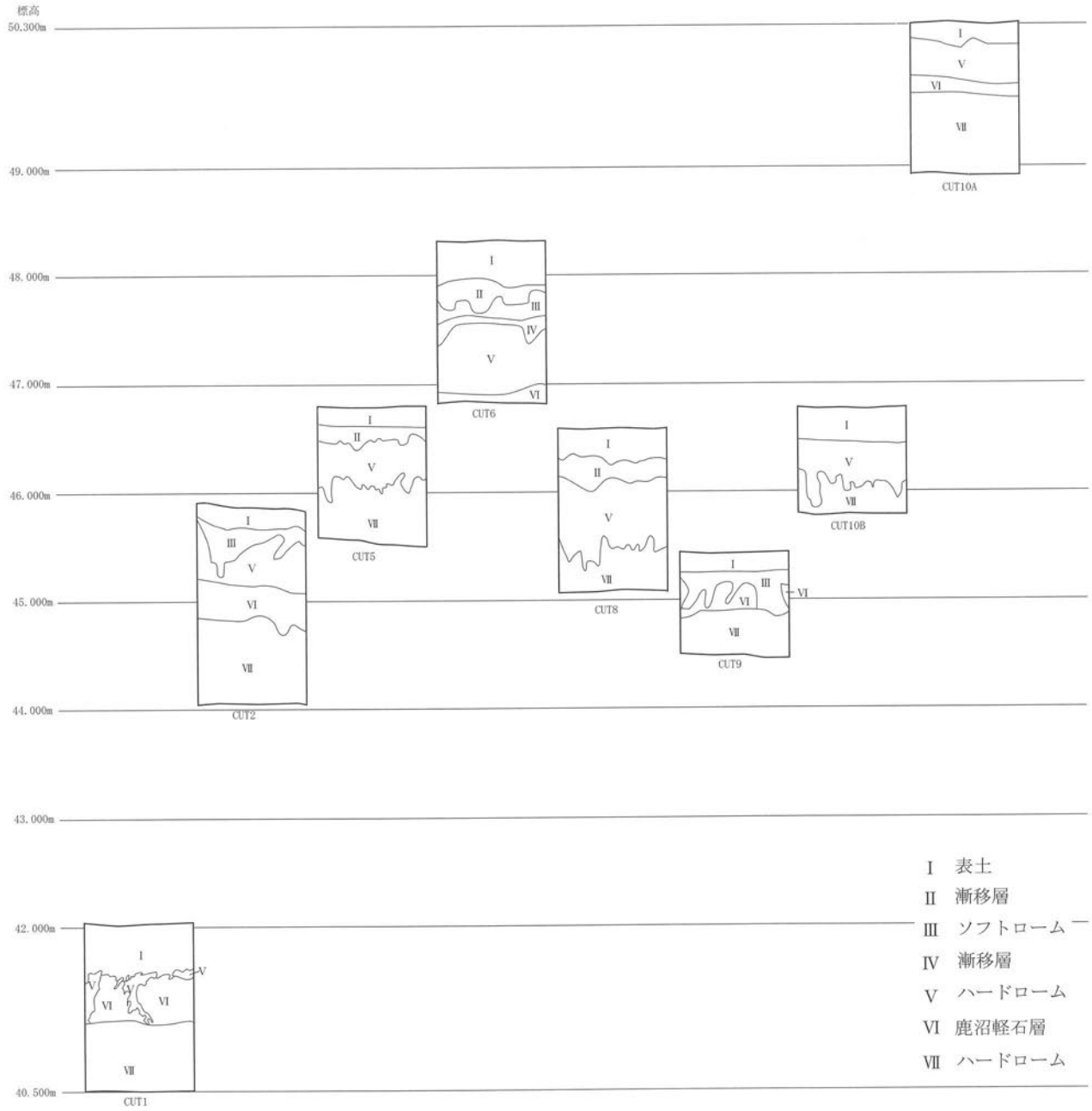
第1節　調査区のグリッド配置（第4図）

調査区のグリッド設定は世界測地系Ⅸ系により X=41.050、Y=44.200 を A1 杭とし、東に A、B・・・G、南に 1、2・・・6 としその組合せにより表記し、50m 方眼の大グリッドを設定した。更にその中を 10m 四方の小グリッドに分割し、北西から 01、02、03・・・25 と表記した。

調査区は 10 区に分かれ、CUT1・2・3・5・6・8・9・10A・10B・15 と表記した。CUT3・15 では遺構は検出されなかった。

第2節　遺跡の標準堆積土層

調査区が点在するため、各区は高低差が激しい。CUT10A が表面標高 50.300m、一番高く、CUT1 が 42.000m と一番低い。ソフトロームとその漸移層であるⅡ～Ⅳ層は検出されなかった調査区もあるが、Ⅱ層は CUT5・6 に、Ⅲ層は CUT2・6・9 に、Ⅳ層は CUT6 に見られた。Ⅴ層はハードロームで明褐色である。Ⅵ層は鹿沼軽石層で CUT1・2・6・9・10A に見られる。Ⅶ層は CUT6・9 以外に見られるハードロームで、褐色～灰オリーブ色の暗い色調である



第2図　標準堆積土層柱状図（S=1/60）

第4章　調査の経過

遺跡は、舌状に張り出した南向き緩斜面の台地上に位置している。工事により削平されるCUT1、2、3、5、6、8、9、10A、10B、15の10地区の調査を平成20年12月15日～翌21年3月31日までの予定で行うことになった。

＜平成20年12月期＞

平成20年12月15日、プレハブ、テント、トイレを設営し、発掘器材の搬入を行った。調査は、遺構密度の濃いCUT5・6から調査を開始し、進捗状況にあわせて順次、他の各地区調査を開始した。

(CUT5)　15日（～18日)、調査範囲を杭とテープで囲い、重機により表土掘削を開始する。16日、遺構精査を行う。18日（～24日)、基準杭の打設を行う。遺構確認作業の結果、調査範囲からは、弥生～平安時代に至る、竪穴住居跡及び掘立柱建物跡からなる集落跡が重複した状態で検出され、西側から順に調査を始める方針とした。25日、霜害対策としてビニールシートで遺構を養生し平成20年度の調査を終了する。

(CUT6)　15日、調査範囲を杭とテープで囲い、重機により表土を掘削する。16日、精査を開始し、奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物を主体とした遺構を確認し、基準杭打設及び各遺構の掘り下げ作業を開始する。25日、霜害対策としてビニールシートで遺構を養生し平成20年度の調査を終了する。

＜平成21年1月期＞

(CUT1)　6日（～8日)、重機による表土排土作業を開始する。13日、精査を開始。調査区南西を主体に作業を進めた。19日、基準杭打設を行う。遺構確認の結果、弥生時代～平安時代に至る竪穴住居跡が検出された。

(CUT2)　14日、表土排土作業を行う。15日、精査を開始し、各遺構の掘り下げを行う。主な遺構として弥生～平安時代の竪穴住居跡が検出された。

(CUT3)　21日、表土排土作業を行う。精査を開始するが、遺構は検出されなかった。

(CUT5・6)　6日、調査を再開し、主に竪穴住居跡の掘り下げを行った。

(CUT15)　19日、表土排土を行い、26日より精査を開始するが遺構は検出されなかった。

＜同年2月期＞

(CUT1)　主に調査区北の調査を行う。この中で、古墳時代中期の竪穴住居跡SI8は、焼失家屋で、覆土中におびただしい焼土及び炭化材が検出された。またプラン北壁には初現期のカマドが付設されていることが判明。キの字にベルトを設定して、内部を掘り下げることにした。28日、終了確認を行う。

(CUT2)　主に調査区北の調査を行う。26日、終了確認を行う。

(CUT3)　調査区は、台地上に点在する各調査区の中では最南端に位置しており、谷地に接する場所であり、雨天後は湧水もあった。13日、終了確認を行う。

(CUT5)　主に調査区中央～北の調査を行う。

(CUT6)　竪穴住居跡及び掘立柱建物跡の調査を行う。

(CUT15)　26日、調査区の撮影。終了確認を行う。

＜同年3月期＞

(CUT5・6)　遺構掘り下げを行い20日・31日に空撮を実施する。31日、終了確認を行う。

(CUT8)　調査区外北側には古墳墳丘が隣接しており、周溝の存在が想定されていた。9日、表土掘削。13日、精査を行い、終了確認を行う。

(CUT9・10A・10B)　9日、表土掘削。13日、終了確認を行う。

A B C D E F G

1 2 3 4 5 6

Y=44200 Y=44250 Y=44300 Y=44350 Y=44400 Y=44450 Y=44500

X=41000 X=40950 X=40900 X=40850 X=40800

Cut10-A

Cut10-B

Cut15

Cut8

Cut6

Cut2

Cut9

Cut5

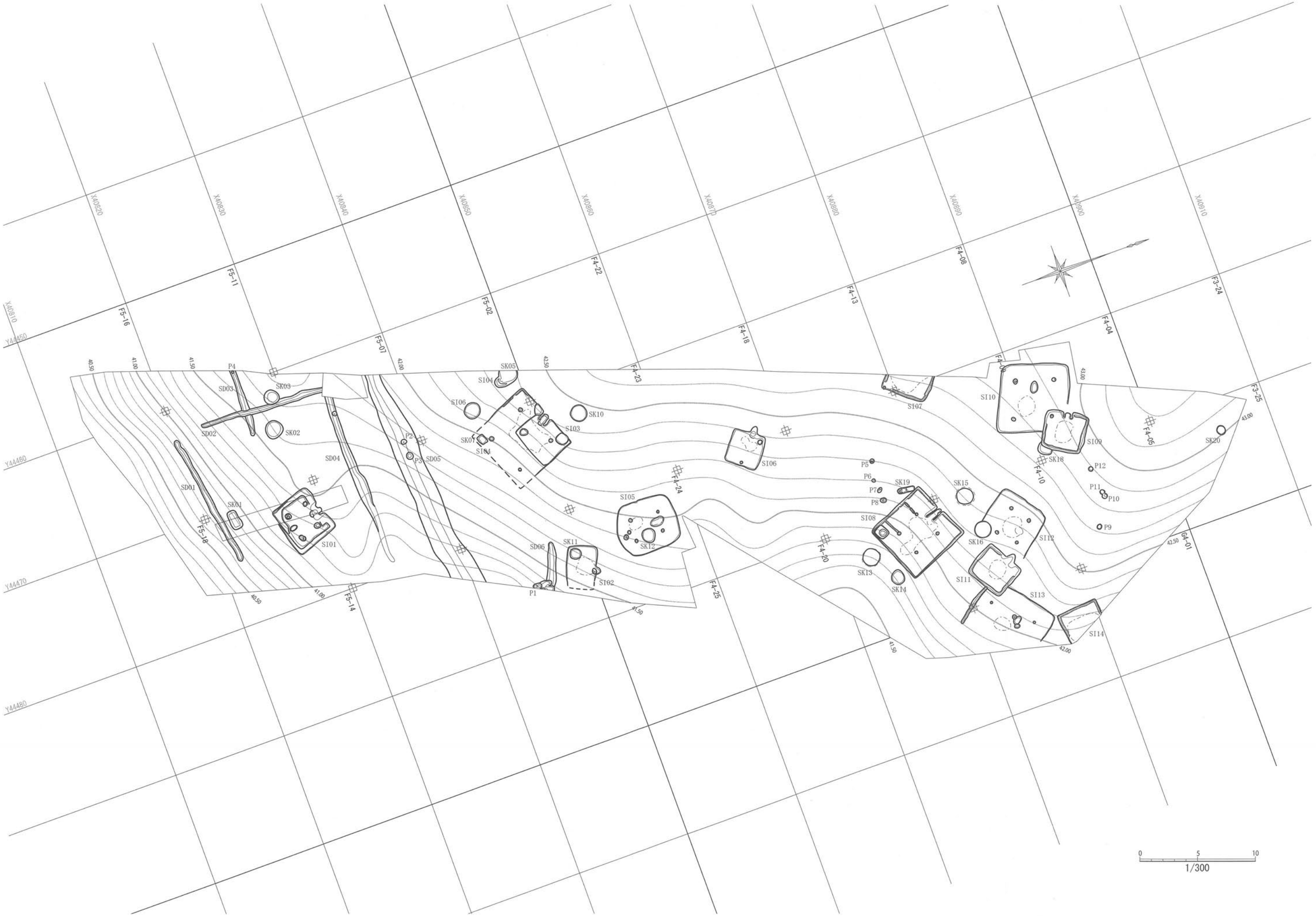
Cut1

Cut3

01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

0 1/2000 100m

第 3 図　調査区全体図 (1/2000)



－折図２－　　第４図　CUT1　全体図

Ⅱ　CUT1

第１章　遺跡の概要

本調査区域は遺跡の存在する舌状台地の南東端部に位置し、地目は畑であるが周辺を取り巻く近接する低地帯では水田地帯となっている。調査区はこの舌状部分に南北に細長く広がるもので、台地の端部を取り巻くように設定されている。

調査区の標高は北側で43.2m、南側で40.6mを測り、長峰西遺跡の調査区でもっとも標高が低い位置になる。

検出された遺構は弥生時代の住居跡４軒、古墳時代の住居跡２軒、奈良・平安時代の住居跡８軒、土坑17基、ピット17基、溝６条であったであった。その他、遺物では縄文土器、石器が少量ながら出土している。

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代の遺物

本区に於いて検出された縄文時代の遺構は検出されていない。遺物のみが検出されている。縄文土器片５点、石器４点を掲載した。いずれも弥生時代以降の住居跡覆土からの検出で遺構に伴うものはない。

第２節　弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物

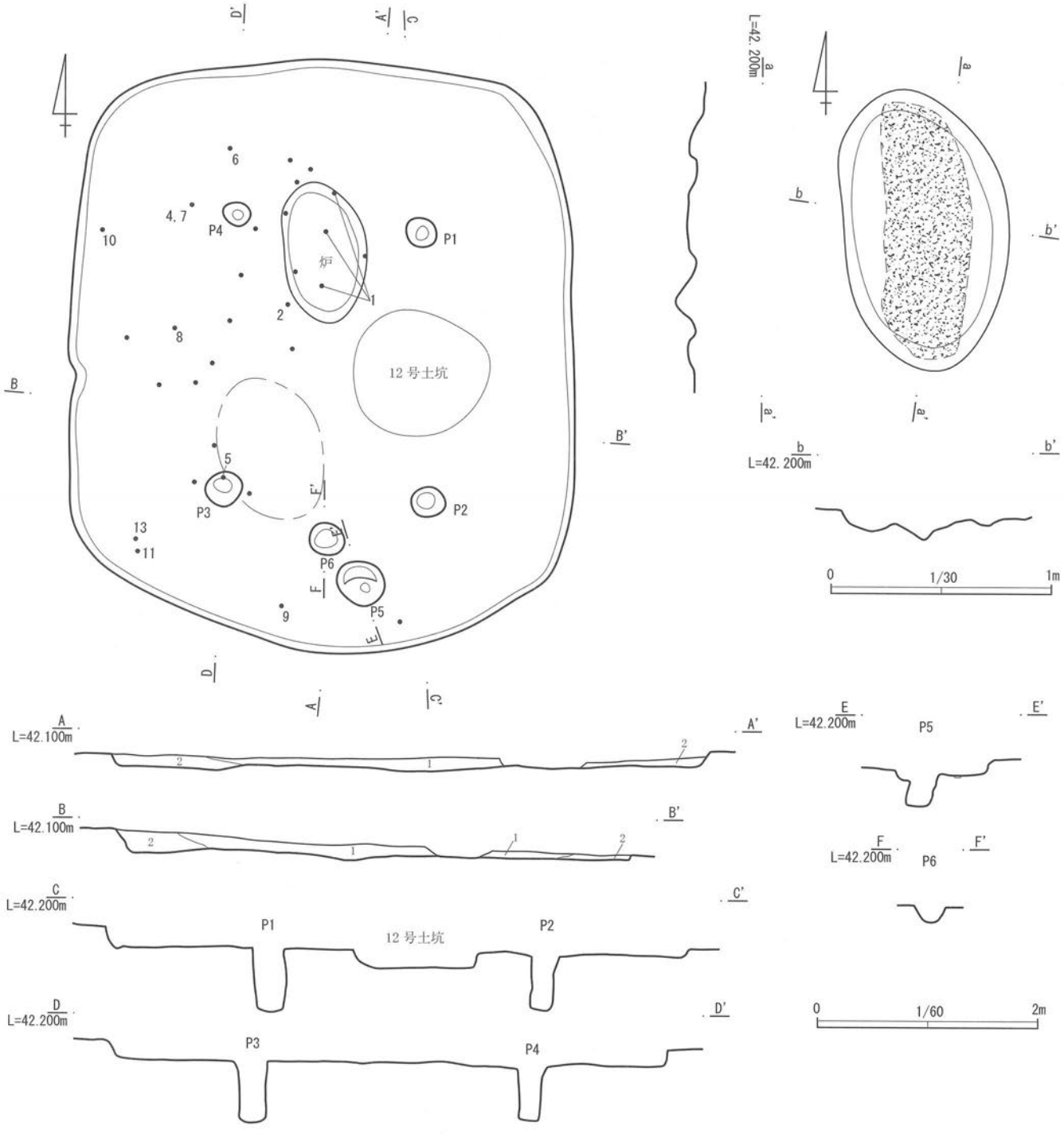
第１項　住居跡

5号住居跡　（第5・6・7図，図版07・08・90・91）

本遺構はF4-24グリッドに於いて検出された。12号土坑に切られる。規模は長軸5.46m、短軸4.62mで隅丸方形だが、南壁中央がやや張り出す。主軸方位はN0°を指す。確認面からの深さは19～4.2cmと浅い。覆土は２層に分層され、自然堆積と推定される。

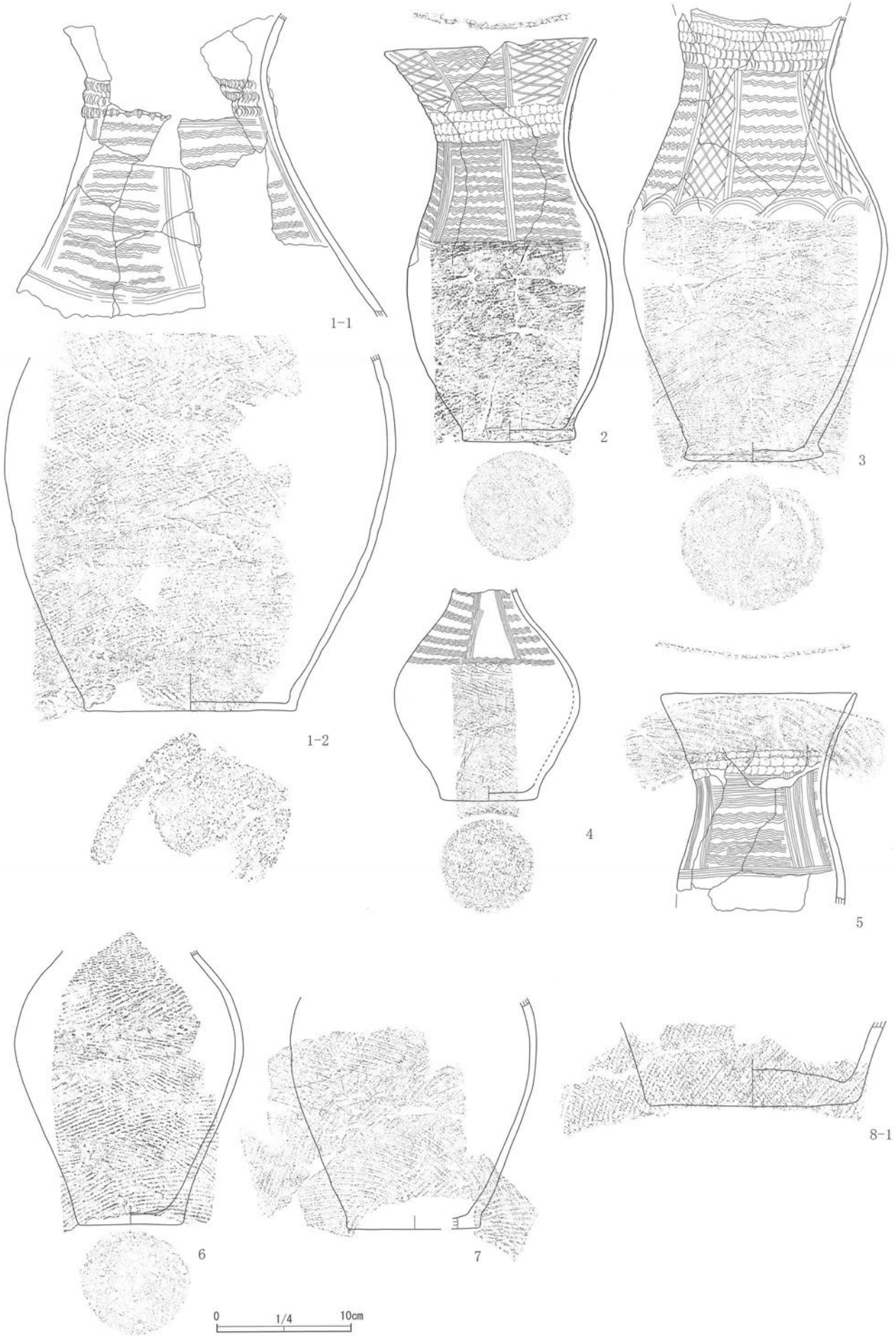
炉は住居北半中央付近に南北1.25m、東西0.76m、深さ25cm前後の小判形のものが検出された。底面は凹凸が激しく中央は南北に長く被熱痕が残存していた。ピットは６基あり、そのうちP1～P4が柱穴と見られる。P5は出入口施設に伴うと考えられる。床面は平坦であるが、硬化面はP4の北東付近しか確認されていない。

遺物は主に炉の周囲に分布していた。十王台１式の壺８点、土製紡錘車１点、土玉４点、磨石１点が出土し、弥生時代後期の遺構と判断される。

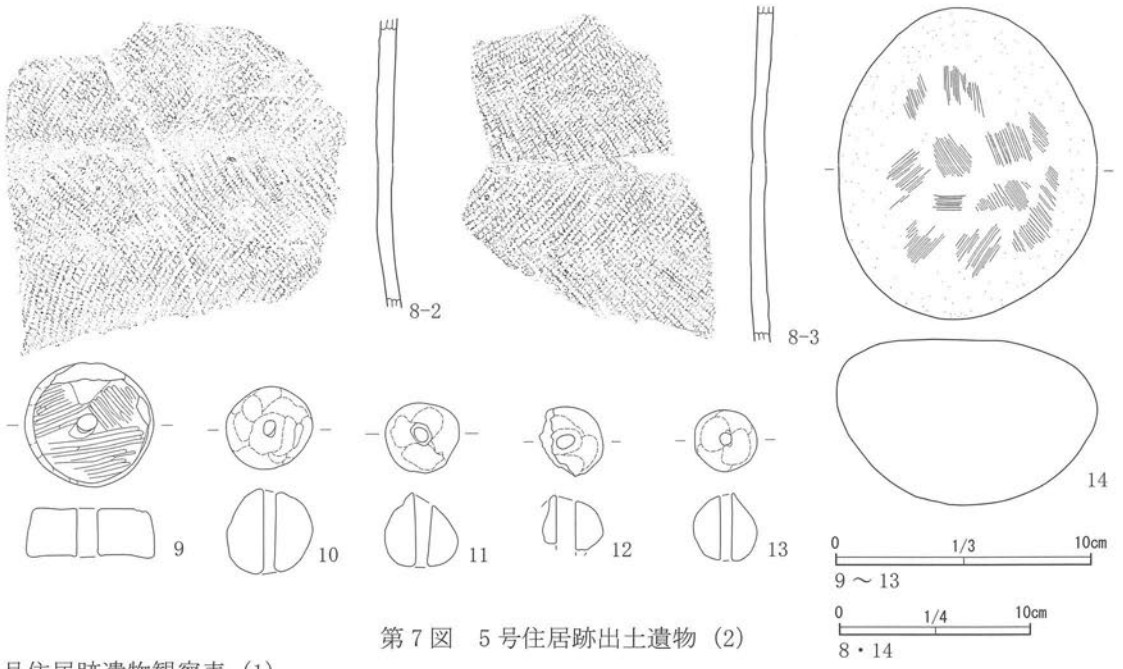


CUT1　5号住居　土層説明
1　7.5YR3/2 黒褐色土（シルト質）　ローム粒・ブロックφ～20㎜（φ5㎜主体）少　炭化粒少　しまり中　粘性強
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（シルト質）　ローム粒・ブロックφ～20㎜（φ5㎜主体）中　しまり中　粘性強

第5図　5号住居跡



第6図　5号住居跡出土遺物（1）



第７図　５号住居跡出土遺物（2）

表１　５号住居跡遺物観察表（1）

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1-1	No. 17・19・22 P1	弥生式土器	壺	—	—	〈7.7〉	2260.0	底部は平底で径が広い。胴部は緩やかに内湾して立つ。１－１と１－２は胎土・焼成より同一個体と判断したが、接合できていない。肩部より口縁は緩やかに外反し、口縁部は頸部上半に指頭圧痕を施した隆帯を巡らせた後、大きくラッパ状に開く。胴部最大径部より以下は付加条第2種の縄文を施文する。頸部はスリット状区画の内部に波状の櫛描文を横位に充填させている。口縁部は無文。底部には布目圧痕が残る。		良好	内面　10YR6/3にぶい黄橙 外面　2.5Y7/4浅黄	ほぼ精良。雲母微量。		
1-2		弥生式土器	壺	—	(15.4)	〈26.4〉				良好	内面　2.5Y7/4浅黄 外面　2.5Y6/4にぶい黄	ほぼ精良。雲母少量。		
2	No. 14	弥生式土器	壺	(15.3)	8.3	30.3	1060.9	底部は平底。胴部はやや内湾して立ち頸部で外反した後、口縁は大きく開く。胴部には付加条第1種の縄が施文され、頸部文様帯は胴部最大径よりも上位に描かれる。頸部は縦方向のスリット状区画の中に波状の櫛描文を　充填させる。櫛描文の下端には古城の連続文様が描かれる。頸部には指頭による圧痕を加えた隆帯が3条巡る。口縁部は、胴部のスリット状区画が延長され、区画内部には波状の文様と、格子目状の文様が交互に描かれる。沈線は2本1単位。底部には布目圧痕が残る。		良好	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　2.5Y6/3にぶい黄	ほぼ精良。雲母少量。	口縁1/2欠損	
3	No. 25	弥生式土器	壺	—	10.2	〈28.8〉	1288.6	底部は平底。胴部はやや内湾して立ち頸部で外反した後口縁は大きく開く。胴部には付加条第1種の縄が施文され、頸部文様帯は胴部最大径よりも上位に描かれる。頸部は縦方向のスリット状区画の中に波状と格子目文様を交互に充てんさせる。頸部上端には指頭による圧痕を加えた隆帯が4条巡る。口縁部は、胴部のスリット状区画が延長された区画体が設けられ、内部には波状の文様と、格子目状の文様が交互に描かれる。沈線は2本1単位で描かれる。口唇部には縄文が施文される。また、底部は不鮮明であるが布目の圧痕が残っている。		良好	内面　7.5YR4/3褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	ほぼ精良。雲母微量。	口縁欠損胴下半1/4欠損	
4		弥生式土器	壺	—	7.1	〈15.85〉	487.9	底部は平底。胴部は大きく張り、頸部に向かって窄まる。胴部最大径部分より上位は櫛描による縦区画のスリットが設けられ、内部に横方向の波状文が充填される部分と、無門となる区画が交互に配される。胴部は付加条第1種の縄文が施文される。口縁部は欠損している。底部は布目圧痕が施される。		良好	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	ほぼ精良。雲母微量。	口縁～頸部欠損	
5	NO. 5	弥生式土器	壺	14.2	—	〈16.3〉	518.4	胴部は緩やかに内湾し口縁部は頸部に指頭圧痕による隆帯が3条巡った後、大きくラッパ状に開く。胴部上半には縦方向のスリット状区画が設けられ、内部に横方向の波状文様が充填される部分と無文となる部分が交互に配される。口縁部は付加条第1種の縄文式土器が施文される。		良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/3にぶい黄褐	ほぼ精良。雲母少量。	口縁～胴部上半1/2	
6	No. 26	弥生式土器	壺	—	7.8	〈20.5〉	393.9	底部は平底で、やや細身である。胴部の最大径は上半に位置している。頸部から上位は欠損している。胴部は付加条第1種の縄文が施文され、上半部は区画を設けない波状文様が横位に連続して描かれる。		良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	ほぼ精良。雲母少量。	胴部1/4底部完形	
7	No. 25	弥生式土器	壺	—	9.8	〈17.4〉	243.7	底部は平底で、やや細身である。胴部の最大径は上半に位置している。頸部から上位は欠損している。胴部は付加条第2種の縄文が施文される。		良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　5Y3/2オリーブ黒	ほぼ精良。雲母微量。	胴部1/3底部1/10	
8-1	No. 11	弥生式土器	壺	—	15.4	〈6.4〉	1518.0	8－1～8－3は大形の壺であろう。胎土・焼成から同一個体と判断される。全面に付加条第1種の縄文LRが深く施文される。また、胴部には同様の付加条第1種の縄LR・RLが羽状に施文される。		良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/6明黄褐	ほぼ精良。雲母微量。	底部	
8-2		弥生式土器	壺	—	—	〈15.3〉	367.4			良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/6明黄褐	ほぼ精良。雲母微量。	胴部片	
8-3		弥生式土器	壺	—	—	〈15.9〉	241.4			良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/6明黄褐	ほぼ精良。雲母微量。	胴部片	
9	No. 1	土製品	紡錘車	縦1.95	横5.0	孔径0.8	51.7	上下面共に指によるナデ整形。側面は指頭圧痕が観察される。		良好	2.5Y 5/3黄褐	ほぼ精良。雲母・白色針状物質少量。	側面一部欠損	
10	No. 27	土製品	土玉	縦3.3	横3.3	孔径0.5	34.4	ほぼ球形。	指による整形。	良好	内外面　10YR5/3にぶい黄褐	ほぼ精良。雲母・白色粒子微量。	完形	

表２　５号住居跡遺物観察表（2）

cm, g

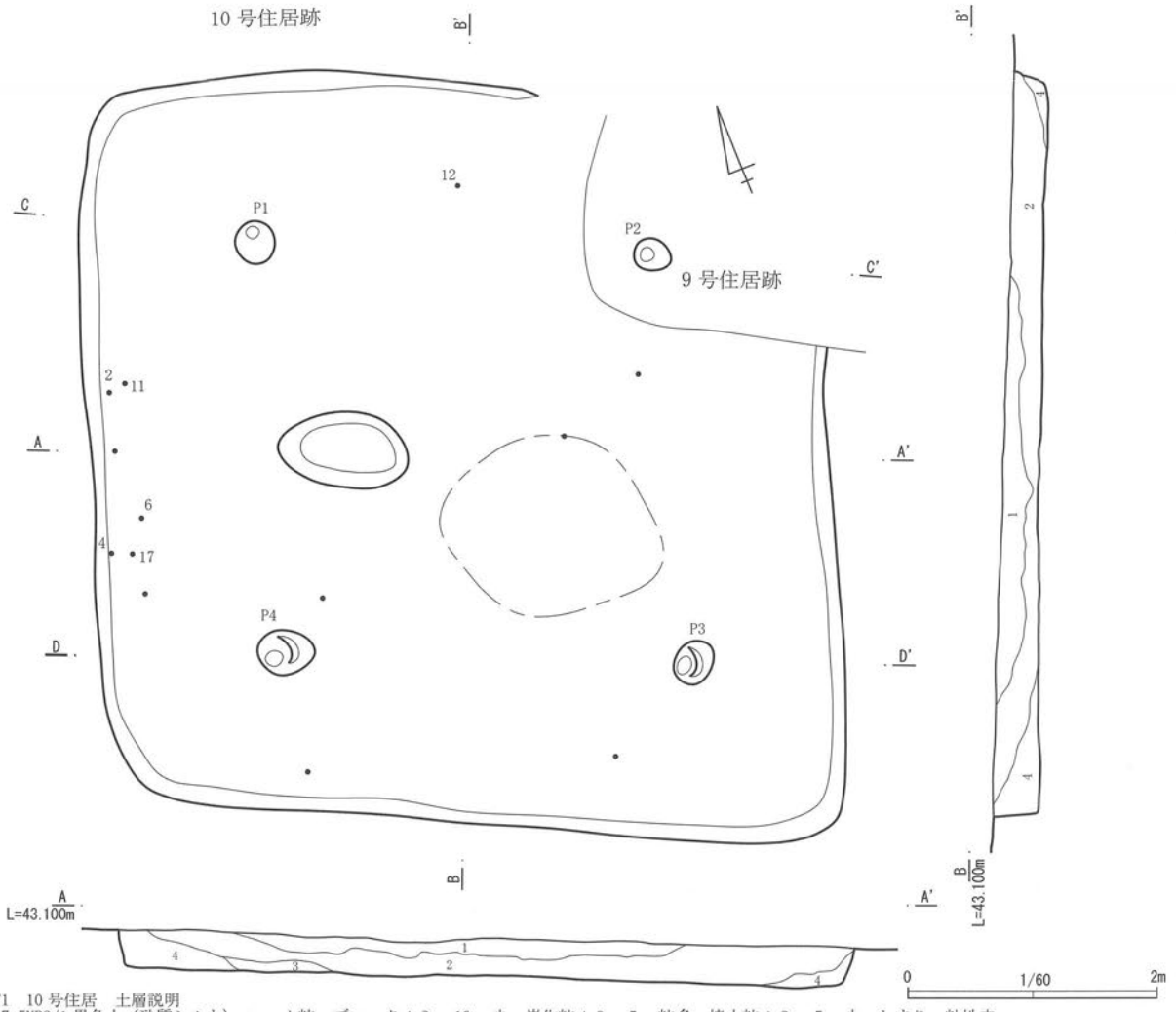
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
11	No.2	土製品	土玉	縦2.9	横2.9	孔径0.55	18.9	ほぼ球形。	指による整形。側面に深い不明圧痕有り。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	ほぼ精良。雲母・白色粒子・黒色粒子微量。	完形	
12	ホリキタ	土製品	土玉	縦2.2	横2.2	孔径0.7	13.2	球形ヵ。	指による整形。	良好	内外面 7.5YR5/4にぶい褐	ほぼ精良。雲母・白色粒子微量。	2/3	
13	No.3	土製品	土玉	縦2.7	横2.5	孔径0.5	15.4	ほぼ球形。	指による整形。	良好	10YR5/4にぶい黄褐	ほぼ精良。雲母・黒色粒子・白色針状物質少量。	完形	
14		石製品	磨石	長さ16.5	幅13.5	厚さ8.7	2640.0	材質はデイサイト。楕円形の自然礫を素材にするもので、全面に研磨の痕が観察される。					完形	

10 号住居跡　（第 8・9・10 図，図版 12・13・92）

本遺構は F4-04・F5-09 グリッドに於いて検出された。古代の住居である 9 号住居跡に切られる。規模は長軸 5.97m、短軸 6.03m の方形の住居である。主軸方位は N64.3° W を指し、確認面からの深さは 32.4 cmを測る。掘り込みは比較的深く遺存状況は良い。覆土は 4 層に分層され、自然堆積の状況を示す。

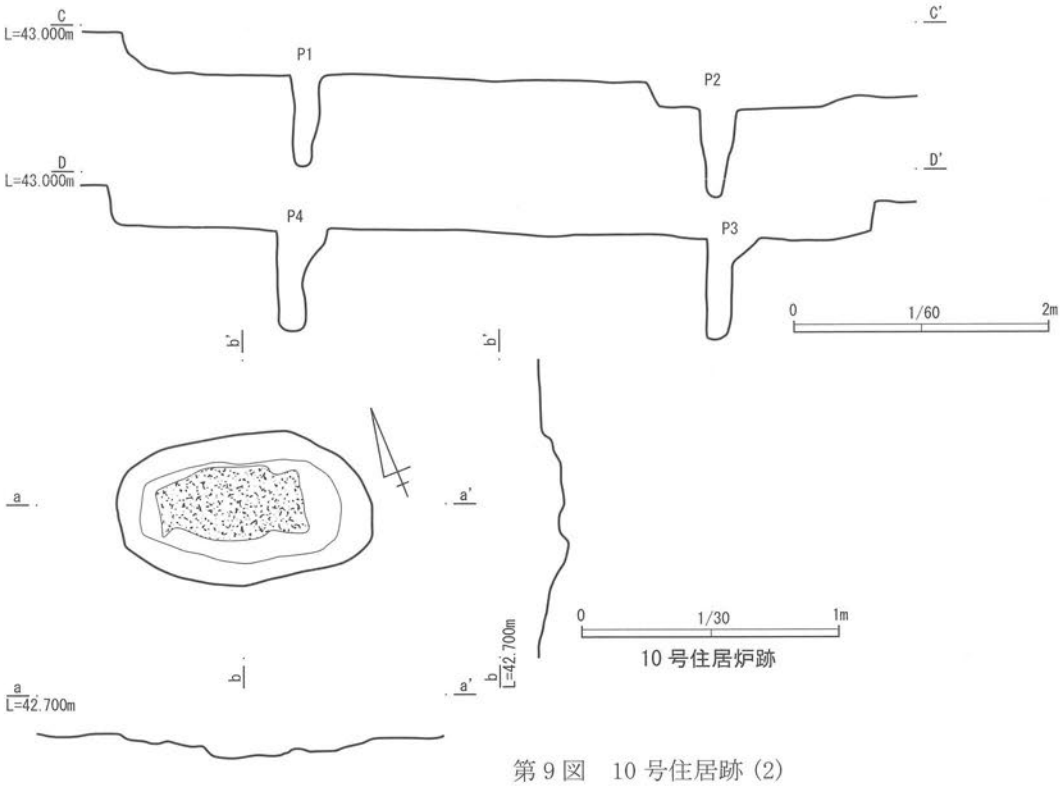
炉は住居中央やや西寄りに設けられ、長軸 105.4 cm、短軸 62.4 cm、深さ 8.8 cmの東西に長い楕円形である。底面は凹凸が見られ、焼土が分布する。柱穴は 4 本確認され、ほぼ対角線上に配される。硬化面は炉の東側のごく狭い範囲に確認された。

遺物は西壁中央付近に分布する。1 ～ 5 は五領式土器で、6 ～ 15 は弥生十王台 2 式の壺である。このほか土製紡錘車 3 点が出土している。遺物より住居の時期は 4 世紀前～中葉と判断される。

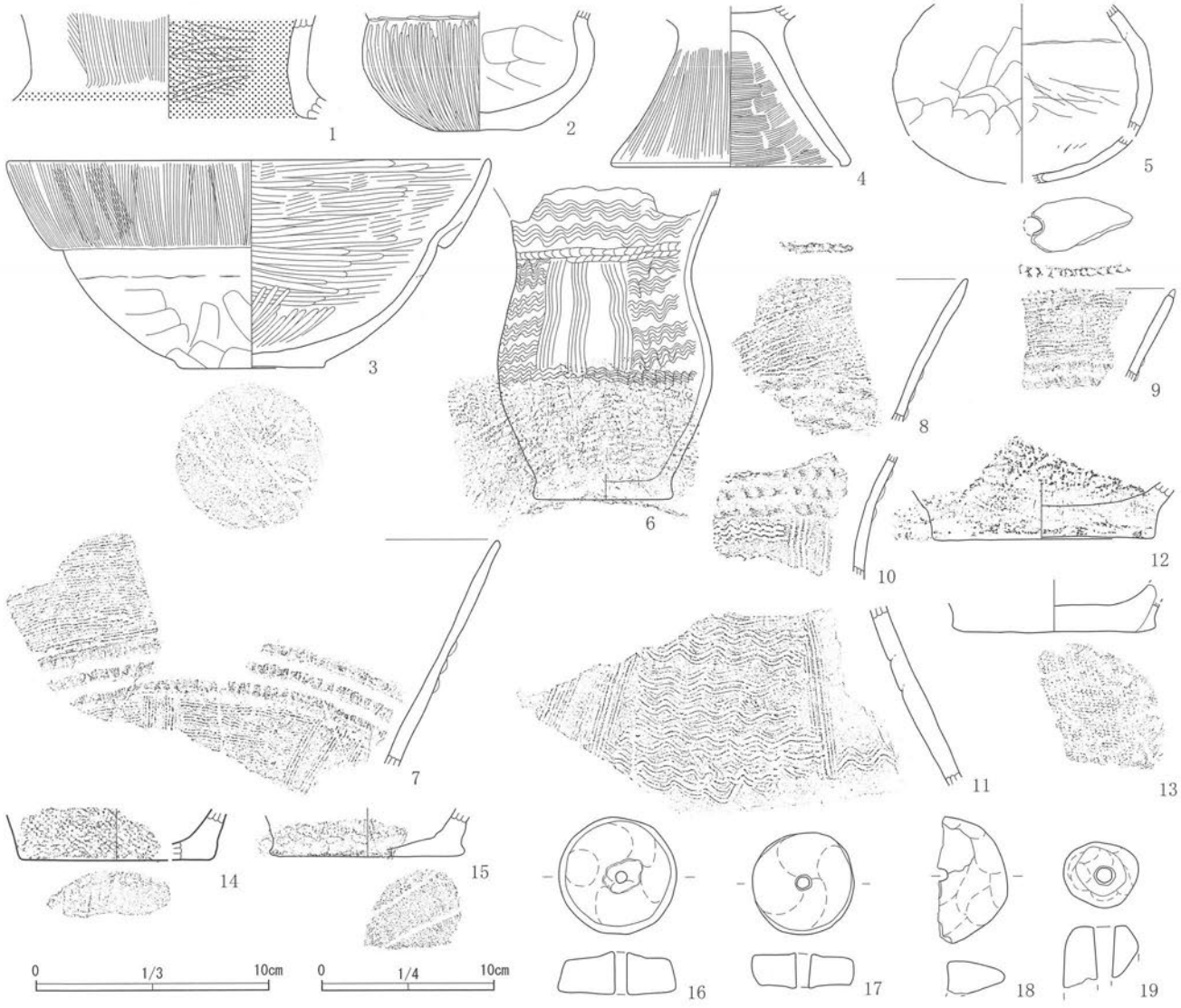


CUT1　10 号住居　土層説明
1　7.5YR2/1 黒色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 2 ～ 5 ㎜粒多　焼土粒φ 2 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性中
2　7.5YR3/2 黒色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 10 ㎜多　炭化粒φ 2 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 2 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性中
3　7.5YR1.7/1 黒色土（シルト質）　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 10 ㎜中　炭化粒φ 2 ～ 5 ㎜多　焼土粒φ 2 ～ 5 ㎜中　しまり中　粘性強
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 10 ㎜多　炭化粒φ 2 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性中

第 8 図　10 号住居跡（1）



第 9 図　10 号住居跡 (2)



第 10 図　10 号住居跡出土遺物

表３　10号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	古式土師器	壷	—	—	〈4.5〉	38.2	頭部は外反気味に立つ。	外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向のミガキ。	良好	内面　7.5YR5/4にぶい褐 外面　10YR7/6明黄褐	石英少量。白色針状物質・雲母微量。	頭部片	
2	No. 11	古式土師器	壷	—	3.5	5.2	217.8	底部は小形の平底で、やや上げ底気味。胴部は潰れた球形を呈する。器壁は厚い。	底部はナデ。胴部外面は縦方向のミガキ、内面及び底部外面はナデ。	良好	内面　10YR8/4浅黄橙 外面　2.5Y6/4にぶい黄	暗灰色粒子・黒色粒子・雲母やや多い。	口縁欠損体部完形	
3	刺カ	古式土師器	鉢	20.5	6.1	〈9.0〉	305.3	底部は平底で体部は緩やかに内湾し内側に弱い稜を有した後、口縁は更に内湾気味に開く。	底部木葉痕。体部外面はナデ、内面はミガキ。口縁外面は縦方向の刷毛目、内面は刷毛整形の後横方向の粗いミガキ。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母少量。角閃石・白色針状物質微量。	口縁～体部1/3　底部完形	
4	No. 8	古式土師器	台付甕	—	10.0	〈7.0〉	181.2	脚台部は外反気味に開く。	外面は縦方向、内面は横方向の刷毛目。	良好	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面　2.5Y6/4にぶい黄	白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。小礫(長石・石英)少量。	脚台部のみ	
5	覆土	古式土師器	甕ヵ	—	—	〈7.5〉	75.6	底部は丸底。胴部は潰れた球形を呈する。底部には6㎜程の円形の孔が穿たれているが数は不明。	体部外面はナデ、内面はナデの後刷毛状工具による削り、若しくは木口状工具による圧痕が観察される。	良好	内外面　7.5YR6/6橙	黒色粒子・白色粒子・雲母・白色針状物質少量。	体部1/3　底部片	
6	No. 9	弥生式土器	壷	—	6.0	〈13.6〉	324.2	底部は平底で幅広く安定感がある。胴部の最大径はやや下位に下がり、下膨れになる。頸部の文様帯は、胴部中央よりもやや下位にまで描かれるもので、櫛描によるスリット状区画帯により分割された中に横走する櫛描波状文が充填される。櫛歯の本数は4本以上と多い。胴部は付加条第1種の縄文が施文される。頸部の指頭圧痕隆帯は1本から2本と明瞭でなくやや粗雑で、口縁部には横方向の櫛描波状文が雑に描かれている。		良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母微量。	口縁部欠損	
7	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈9.9〉	73.3	直線的に大きく開く口縁部の大破片。頸部上位に3条の指頭圧痕の隆帯が巡る。頸部はスリット状の区画が描かれ内部に横方向の波状文が充填される。口縁部は細かな横方向の櫛描波状文が施文される。櫛歯の本数は4本以上である。		良好	内外面　2.5Y8/4浅黄	暗灰色粒子少量。	破片	
8	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈6.3〉	23.5	直線的に大きく開く口縁部の大破片。頸部上位に3条の指頭圧痕の隆帯が巡る。口縁部は細かな横方向の櫛描波状文が施文される。櫛歯の本数は4本以上である。7と同一個体の可能性がある。口唇部には縄文式土器が施文される。		良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母やや多い。ｱﾘ少量。	口縁部片	
9	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈3.9〉	14.0	直線的に大きく開く口縁部の大破片。頸部上位に指頭圧痕の隆帯が巡る。口縁部は細かな横方向の櫛描波状文が施文される。櫛歯の本数は4本以上である。7・8と同一個体の可能性がある。口唇部には縄文が施文される。		良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　2.5Y3/2黒褐	雲母少量。	口縁部片	
10	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈5.2〉	18.2	直線的に大きく開く頸部の破片。頸部上位に指頭圧痕の隆帯が3条巡る。頸部は縦方向の櫛描によるスリットが区画され区画内に横位の櫛描波状文を充填する。		良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面　2.5Y4/2暗灰黄	白色粒子・雲母微量。	破片	
11	No. 12	弥生式土器	壷	—	—	〈7.75〉	130.3	直線的に大きく開く頸部の大破片。頸部は縦方向の櫛描によるスリットで区画され区画内に横位の櫛描波状文を充填する。櫛歯の本数は6本以上。		良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	破片	
12	No. 13	弥生式土器	壷	—	(9.2)	〈2.5〉	127.6	底部は平底で、胴部は緩やかに外反気味に開く。胴部下半には僅かながら付加条第1種の縄文が施文される。		良好	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　2.5Y6/3にぶい黄	中～大礫やや多い。黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	底部破片	
13	覆土	弥生式土器	壷	—	(7.5)	〈2.3〉	56.5	底部は平底。胴部下端は僅かに外反気味に立つ。胴部側面の地文は観察されない。底部には布目の圧痕が施される。		良好	内面　2.5Y6/4にぶい黄 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質・雲母少量。	底部破片	
14	覆土	弥生式土器	壷	—	(8.2)	〈2.3〉	25.3	底部は平底。胴部下端は直線的に開く。胴部側面の地文はRLの付加条第1種縄文。底部には布目の圧痕が施される。		良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　2.5Y5/2暗灰黄	黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	底部破片	
15	覆土	弥生式土器	壷	—	(8.4)	〈2.1〉	23.6	底部は平底。胴部は下端でやや突出した後直線的に開く。胴部側面の地文はRLの付加条第1種縄文カ。底部には木葉痕が施される。		良好	内面　2.5Y7/3浅黄 外面　2.5Y5/3黄褐	黒色粒子やや多い。雲母少量。	底部破片	
16	SI-9 No. 3	土製品	紡錘車	縦1.8	横5.0	孔径0.5	54.7	断面形は上面がやや広い台形状を呈する。孔は中心から僅かにズレ偏在する。	指による整形。上面に放射状の線刻が施されている。	良好	内外面　5Y3/1オリーブ黒	ほぼ精良。	完形	寝付者
17	No. 7	土製品	紡錘車	縦1.5	横4.4	孔径0.7	36.0	断面形は板状で側面はやや丸みを帯びる。孔はほぼ中央に穿たれる。	指による整形。	良好	内外面　2.5Y6/4にぶい黄	雲母・白色針状物質微量。	完形	黒色処理
18	覆土	土製品	紡錘車	縦1.4	横2.5	孔径—	19.1	断面形は中心が厚く側縁が薄くなるもので、潰れたソロバン玉状を呈する。孔はほぼ中央に穿たれる。	指による整形。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子微量。	1/2	
19	覆土	土製品	土玉	縦(2.4)	横2.8	孔径0.8	17.9	円柱状を呈する。	指による整形。	良好	10YR5/4にぶい黄褐	ほぼ精良。	1/2	

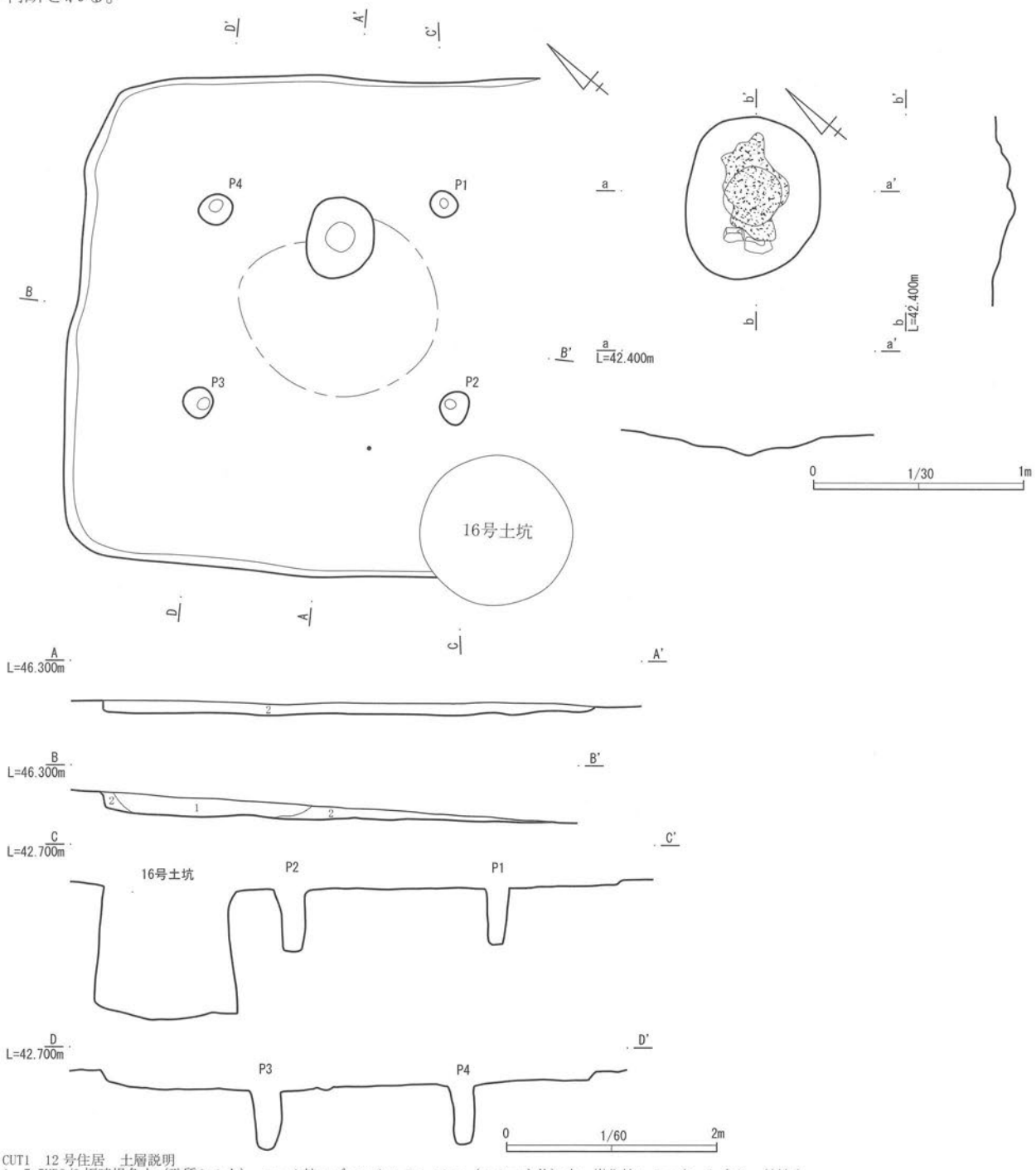
12号住居跡　（第11・12図，図版14・15・93）

本遺構はF4-10グリッドに於いて検出された。16号土坑に切られる。

方形を呈すると見られるが、深度が浅いため、南東部が削平されている。規模は長軸4.75m、残存短軸4.43m、主軸方位はN　50.8°　Eを指す。西壁には周溝が確認されたが、その他では検出されなかった。確認面からの深さは12cm以下となる。覆土は2層に分層される。

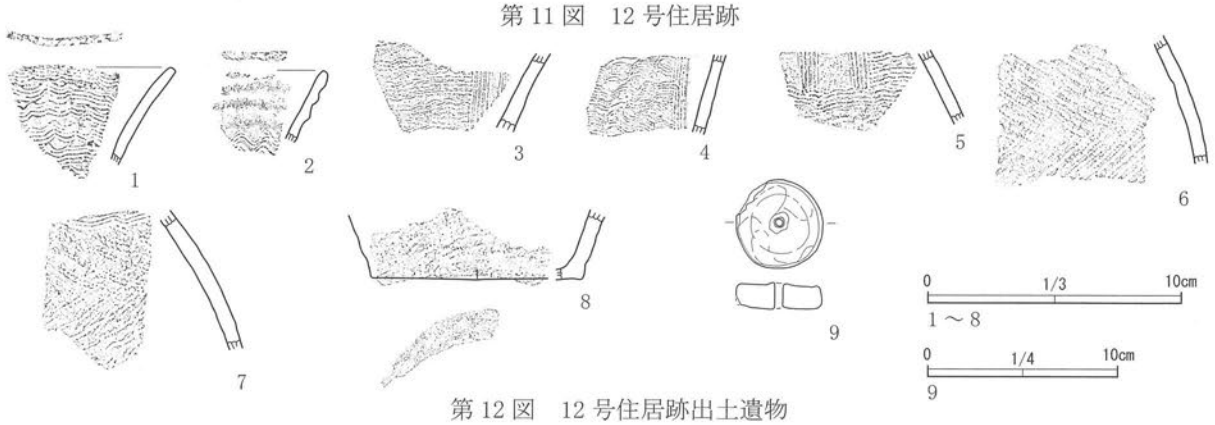
炉は南北に長い楕円形で長径76.9cm、短径61.6cm、深さ11.4cmで底面は焼土が覆っており、凹凸があり、南寄りには炉石と見られる石が出土した。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。硬化面は中心の狭い範囲に検出された。

遺物は十王台1新式の壺片8点と五領式の土器6点と土製紡錘車が出土している。遺物より弥生時代後期の遺構と判断される。



CUT1　12号住居　土層説明
1　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜（φ2㎜主体）中　炭化粒φ2㎜少　しまり・粘性中
2　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜（φ5㎜主体）多　炭化粒φ2㎜少　しまり・粘性中

第11図　12号住居跡

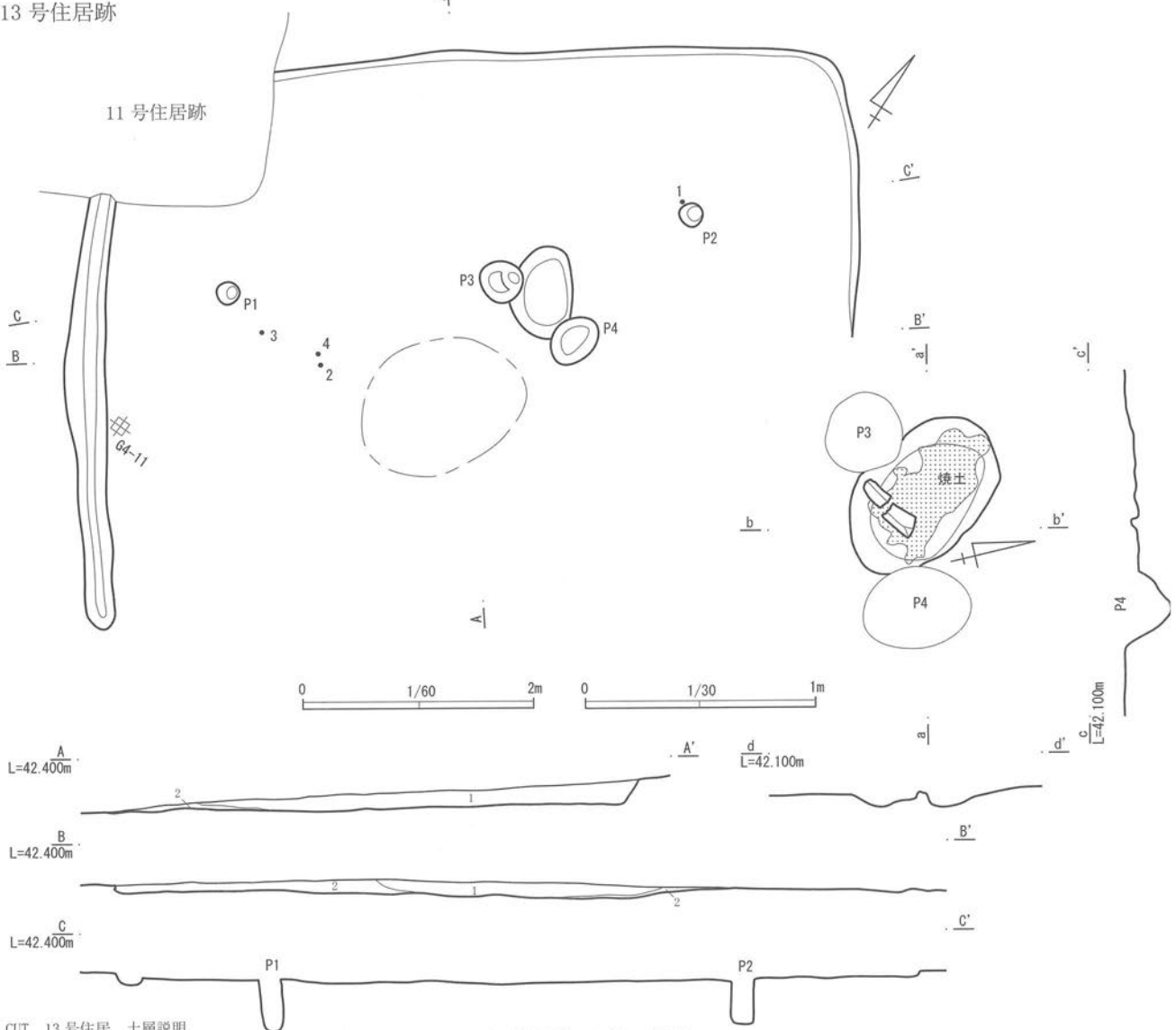


第12図　12号住居跡出土遺物

表 4　12 号住居跡遺物観察表

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈3.9〉	10.9	口縁部は大きく外反して開く。口辺部には櫛描波状文が横位に粗雑に描かれる。櫛歯の本数は5本。口唇部にはLRの縄文が施文される。		良好	内面　2.5Y3/1黒褐 外面　10YR4/2灰黄褐	ほぼ精良。雲母微量。	口縁部片	
2	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈2.9〉	6.5	口縁は直線的に開く。口唇直下に3条の指頭圧痕による流体が巡り、以下は櫛描波状文が横方向に描かれる。		良好	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　2.5Y3/2黒褐	ほぼ精良。雲母少量。	破片	
3	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈3.2〉	14.4	外反して開く頸部の破片。6条以上の櫛歯による縦方向のスリット状区画の内部に波状の櫛描文が充填される。		良好	内面　2.5Y3/2黒褐 外面　2.5Y3/1黒褐	ほぼ精良。雲母少量。	破片	
4	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈3.2〉	9.7	直線的に開く頸部の破片。5〜6条の櫛歯による縦方向ののスリット状区画の内部に波状の櫛描文が充填される。		良好	内面　2.5Y3/1黒褐 外面　2.5Y3/2黒褐	ほぼ精良。雲母微量。	破片	
5	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈3.0〉	12.7	内傾する肩部の破片。胴上半部に櫛描による縦方向のスリット状区画を設け内部に櫛描波状文が無文部と交互に配される。胴部上半には僅かながら付加条第1種の縄が施文されている。		良好	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　2.5Y3/1黒褐	ほぼ精良。雲母微量。	破片	
6	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈5.0〉	32.3	内傾する胴部の破片。外面にはやや長めの原体を用いた付加条第1種のRL・LRの縄文が施文され、羽状を構成する。		良好	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・スコリア少量。	破片	
7	覆土	弥生式土器	壷	—	—	〈5.4〉	21.9	内傾する胴部の破片。上端に横方向の櫛描波状文が描かれる。以下胴部は、やや長めの原体を用いた付加条第1種のRL・LRの縄文が施文され、羽状を構成する。		良好	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　2.5Y3/2黒褐	白色粒子・雲母やや多い。	破片	
8	覆土	弥生式土器	壷	—	(8.2)	〈2.8〉	19.4	底部は平底胴部は直線的に開く。胴下端には付加条第1種の縄文が施文される・底部は布目の圧痕が観察される。		良好	内面　2.5Y3/1黒褐 外面　10YR5/3にぶい黄褐	白色粒子・雲母微量。	底部片	
9	覆土	土製品	紡錘車	縦1.5	横4.6	孔径0.6	37.1	断面形は上面がやや広い台形状を呈する。側縁は僅かに丸みを帯びている。孔は中央に穿たれる。	指による整形。	良好	10YR6/4にぶい黄橙	ほぼ精良。白色針状物質微量	側面一部欠損	

13 号住居跡



CUT　13 号住居　土層説明
1　7.5YR2/1 黒色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜少　炭化粒多　しまり・粘性中
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜多　炭化粒少　しまり・粘性中

第 13 図　13 号住居跡

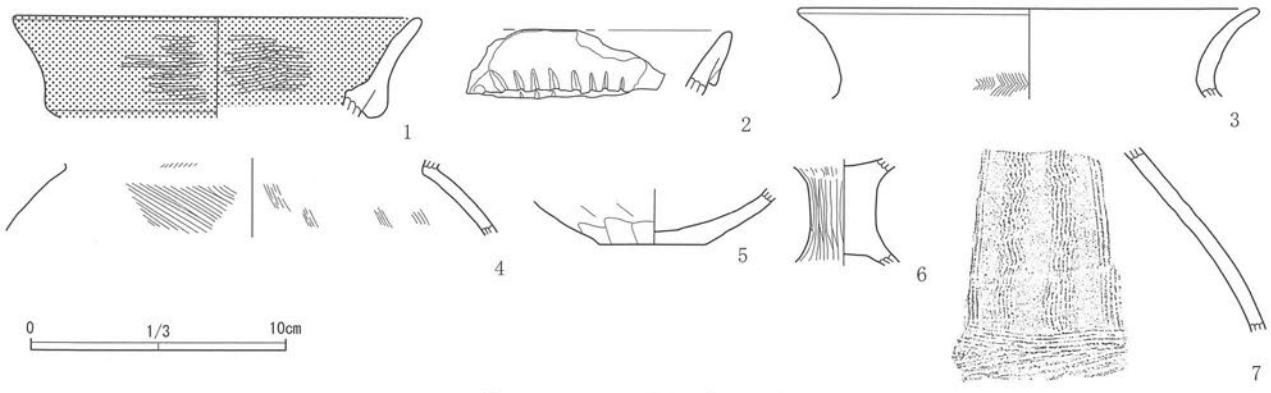
13 号住居跡　(第 13・14 図，図版 15・16・93)

本遺構は F4-10、G4-6・11 グリッドに於いて検出された。11 号住居跡に切られる。

方形を呈すると見られるが、深度が浅いため、東部が削平されている。規模は長軸 6.85m、残存短軸 5,23m、主軸方位は N 35.2° W を指す。西壁には周溝が確認されたが、その他では検出されなかった。確認面からの深さは 18.3 cm以下となる。覆土は 2 層に分層され、自然堆積の様相を示している。

炉は南北に長い楕円形で長径 79.0 cm、短径 47.1 cm、深さ 6.4 cmで底面は焼土が覆っており、凹凸があり、南寄りには炉石と見られる石が出土した。また炉に接して深さ 17 cmほどのピットが 2 基検出されたが、炉と関連するものかは不明である。柱穴は 2 基しか検出されず、位置も対称ではない。硬化面は炉の南に小規模なものが検出された。

遺物は十王台 2 式の壺片 1 点と五領式の土器 6 点が出土している。遺物より 4 世紀前～中葉の遺構と判断される。



第 14 図　13 号住居跡出土遺物

表 5　13 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	古式土師器	壺	(15.6)	—	〈4.0〉	35.5	折り返し口縁。口縁は緩やかに外反する。	内外面共にミガキ。	良好	内面　7.5YR5/6明褐 外面　2.5Y7/3浅黄	白色粒子・雲母少量。黒色粒子・白色針状物質微量	口縁部片	内外面赤彩
2	覆土	古式土師器	壺	—	—	〈2.6〉	19.1	折り返し口縁。口縁は直線的に開く。器壁は厚い。	口縁外面は横ナデの後折り返す。折り返し部分の下端には刻みがほぼ等間隔に施される。内面は刷毛による整形の後横ナデされる。	良好	内面　10YR7/6明黄褐 外面　7.5YR6/8橙	黒色粒子・白色粒子・白色針状物質小量。	口縁部片	
3	覆土	古式土師器	甕	(17.7)	—	〈3.6〉	29.7	口縁は緩やかに外反する。	口縁は内外面共に横ナデ。外面頸部には刷毛目が観察される。	良好	内面　10YR8/6黄橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁1/8	
4	覆土	古式土師器	台付甕	—	—	〈3.1〉	17.4	胴部は張る。	外面は斜方向の刷毛目。内面は斜方向の刷毛目の後ナデ整形。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母・白色粒子微量。	肩部片	
5	No. 2	古式土師器	甕	—	4.3	〈2.2〉	75.9	底部は平底で小形。胴部下端は緩やかに内湾する。	外面胴部下端はヘラケズリ、底部及び内面はヘラナデ。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR6/6明黄褐	黒色粒子・雲母やや多い。白色粒子少量。白色針状物質微量。	底部のみ	
6	No. 1	古式土師器	高坏	—	—	〈4.2〉	49.9	脚柱は棒状を呈する。	脚柱及び上腕部はミガキ、脚柱内面はナデ整形。	良好	内面　2.5Y7/4浅黄 外面　2.5Y6/4にぶい黄	雲母・白色粒子微量。	脚柱部のみ	
7	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈8.7〉	50.7	内傾する肩部の破片。胴上半部に6本1単位の櫛描により、スリット状の区画を設け、内部に2条の波状文が縦方向に充填される。以下胴部には付加条第1種LRの縄文が施文されている。		良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質微量。	破片	

第3節　古墳時代の遺構と遺物

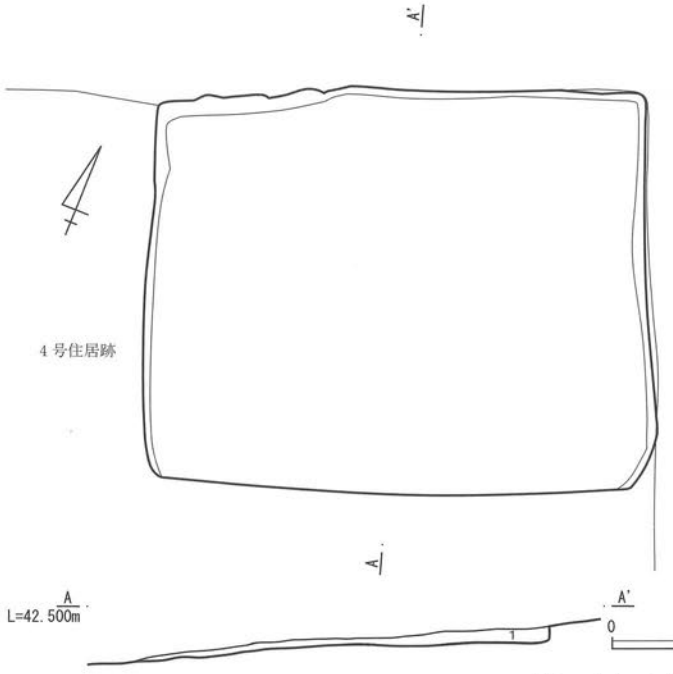
第1項　住居跡

3号住居跡　（第15・16図，図版05・06・89）

本遺構はF4-23、F5-02・03　グリッドに於いて検出された。重複する4　号住居跡より新しい。規模は長軸3.2m、短軸3.92m、主軸方位はN 22°　W を指す。確認面からの深さは最大11.0cmを測り、覆土は単層である。

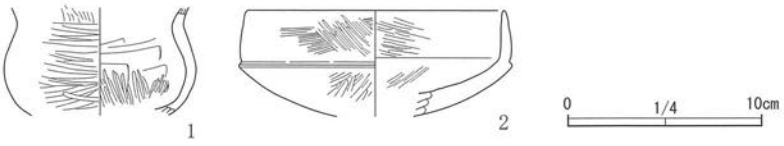
カマド・柱穴・周溝は確認されなかった。

遺物は土師器坩1　点、カマド周辺から土師器坏1　点が出土している。遺物より6　世紀後半期の遺構と判断される。



CUT1　3号住居　土層説明
1　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜（φ2～3㎜が主体）中　焼土粒・炭化粒少　しまり・粘性中

第15図　3号住居跡



第16図　3号住居跡出土遺物

表6　3号住居跡遺物観察表

cm, g

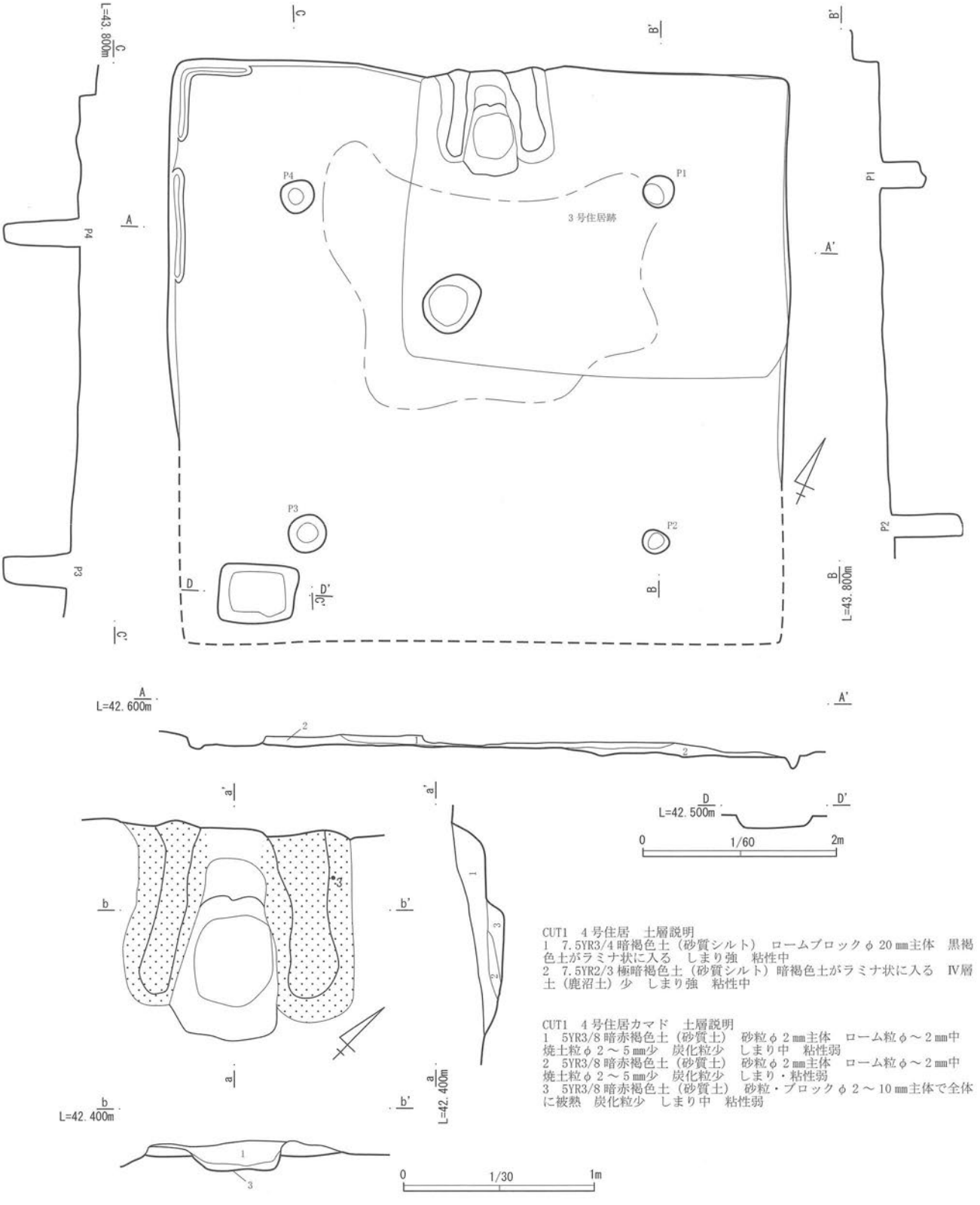
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		土師器	坩	—	—	〈5.7〉	31.1	胴部は潰れた球形ヵ。頸部で弱く括れた後、口縁は外反する。	胴部外面はヘラケズリ後荒いミガキ。内面は幅の狭いヘラ状工具によるナデ整形の後縦方向のミガキ、頸部付近はナデ。	良好	内外面 7.5YR6/6	白色粒子・黒色粒子・雲母少量、ｽｺﾘｱ・白色針状物質微量。	胴部1/4	
2	No.3 ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	(13.4)	—	〈5.6〉	105.1	底部は丸底ヵ。体部は緩やかに内湾し、上位に明瞭な稜を有した後僅かに内傾気味に立つ。体部の器壁は厚い。	口縁内外面は、横ナデ後ミガキ。体部外面はヘラケズリ後ミガキ、内面は著しく剥落しているが、僅かにミガキが観察される。	良好	内外面　5YR5/6 明赤褐	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。	口縁～体部1/4	

4号住居跡　（第17・18・19図，図版06・89）

本遺構はF4-22・23、F5-2・3 グリッドに於いて検出された。北東部を3 号住居跡に切られる。規模は長軸6.45m、南壁は削平されているため推測となるが、短軸5.27m、主軸方位はN 21.9°　W を指す。確認面からの深さは15.8cmを測る。覆土は2 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され、直線的な袖を持ち、袖内面上部は被熱する。住居ほぼ中央に炉跡が検出された。カマドの形態や炉が併設されることから、初源的な形態のカマドと考えられる。柱穴は4　本確認され、ほぼ対角線上に配される。床面は平坦で硬化面が炉の周囲に検出された。平面が長方形で長軸80.3　cm、短軸62.3　cm、深さ62cmの貯蔵穴が南西隅に検出された。

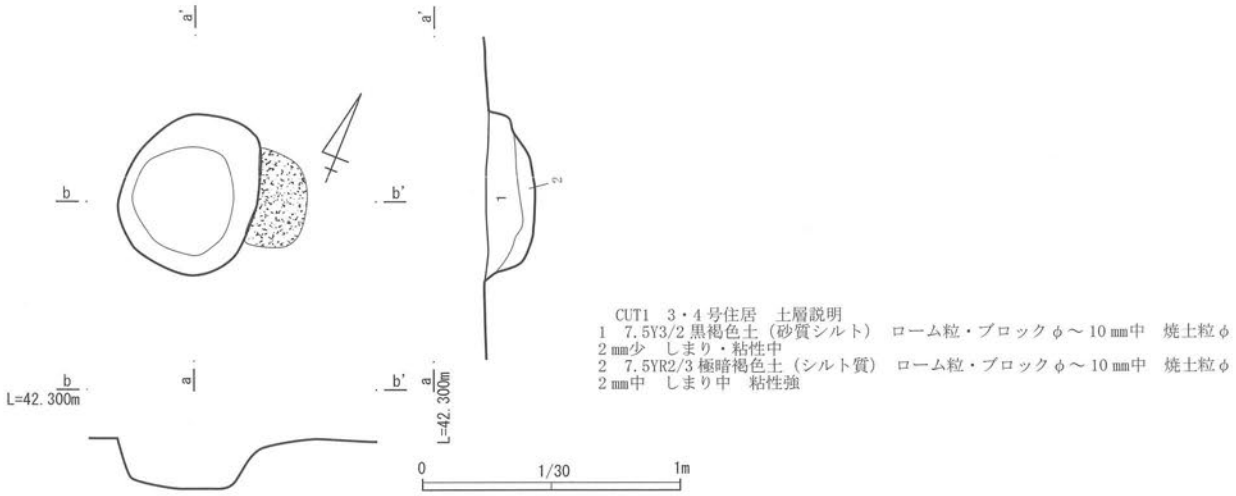
遺物は土師器坏２ 点、陶邑Ｉ型式と見られる須恵器高坏１ 点が出土した。遺物と炉をもつ住居であることから５世紀中葉の遺構と判断される。



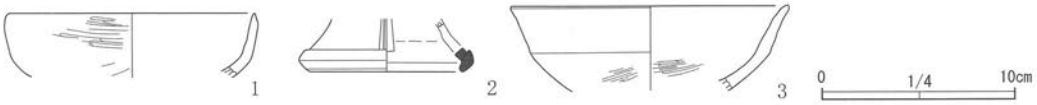
CUT1　４号住居　土層説明
1　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ロームブロックφ 20 ㎜主体　黒褐色土がラミナ状に入る　しまり強　粘性中
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）暗褐色土がラミナ状に入る　Ⅳ層土（鹿沼土）少　しまり強　粘性中

CUT1　４号住居カマド　土層説明
1　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質土）　砂粒φ２㎜主体　ローム粒φ～２㎜中　焼土粒φ２～５㎜少　炭化粒少　しまり中　粘性弱
2　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質土）　砂粒φ２㎜主体　ローム粒φ～２㎜中　焼土粒φ２～５㎜少　炭化粒少　しまり・粘性弱
3　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質土）　砂粒・ブロックφ２～10 ㎜主体で全体に被熱　炭化粒少　しまり中　粘性弱

第 17 図　４号住居跡（1）



第18図　4号住居跡（2）



第19図　4号住居跡出土遺物

表7　4号住居跡遺物観察表

cm, g

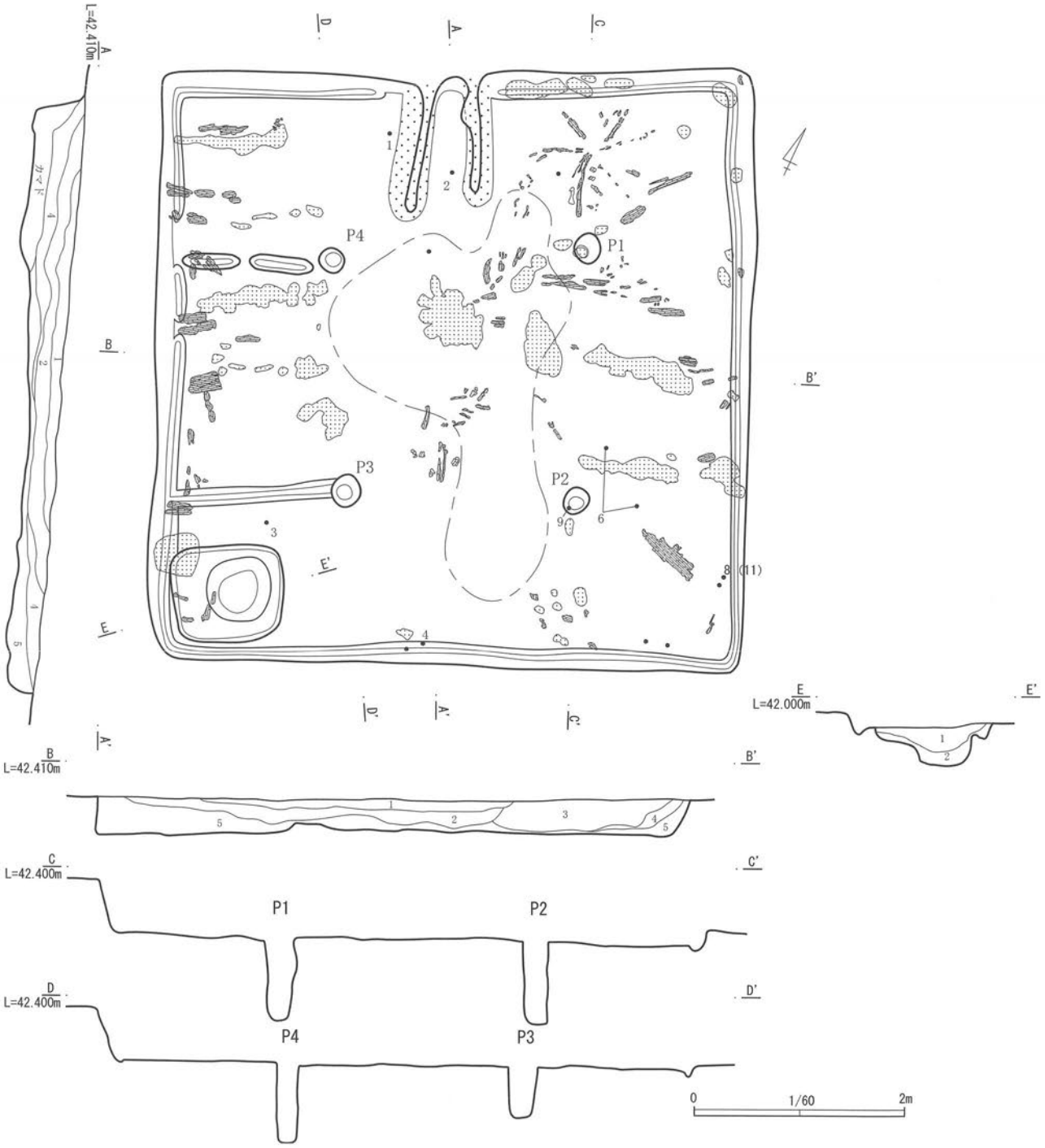
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		土師器	坏	(12.8)		〈3.4〉	16.8	底部は丸底ヵ。体部は緩やかに内湾し、下位に弱い稜を有した後慌かに外傾気味に開く。	外面口縁部はミガキ、体部はヘラケズリ。内面器面剥落。	良好	内外面 7.5YR5/8明褐	黒色粒子やや多い。雲母・白色粒子少量。	口縁～体部1/4	
2		須恵器	高坏	—	(7.6)	〈2.8〉	10.7	脚部は下半に向かい外反して開き、端部は折り返して内湾する。透かしはヘラにより切りこまれ方形を呈すると思われる。単位は不明。	ロクロ整形。	良好	内面　N6/0灰 外面　N5/0灰	白色粒子少量。鉄分の噴き出し微量。	脚部1/8	陶邑窯　5c中葉～後葉
3	SI4・覆土	土師器	坏	(14.5)	—	〈4.5〉	15.9	底部は丸底ヵ。体部は緩やかに内湾し中位に弱い稜を有した後外反する。	内外面共に部分的にミガキが残る。	良好 二次焼成ｱﾘ	内外面　5YR5/6明赤褐	黒色粒子・雲母やや多い。	口縁～体部1/2	

8号住居跡　（第20・21・22図，図版09・10・11・91・92）

本遺構はF4-14・15グリッドに於いて検出された。規模は長軸5.78m、短軸5.68m、主軸方位はN 23.5° Wを指す。確認面からの深さは30cmを測り、南の床面が低くなっている。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を示している。床面には焼土と炭化材が散っており、火災住居の可能性が考えられる。

カマドの形状は袖が直線的に伸びる初期の形態である。内部には倒位で土師器坩が出土しているが、その手前には火床面と見られる焼土範囲が確認されている。柱穴は4本確認され、ほぼ対角線上に配される。柱の掘方の径は28.5cmと細いが、深さ47.6～77.2cmと深い。P3・4から西壁には間仕切り溝が構築され、周溝は途切れてはいるが、ほぼ全周する。床の硬化面はカマド前から南壁にかけて検出された。南東隅には貯蔵穴と思われるピットが検出された。上部は長軸104cm、短軸93.1cmの方形で、下部は径60.3cmの漏斗状の形状で、深さ38.1cmとなる。

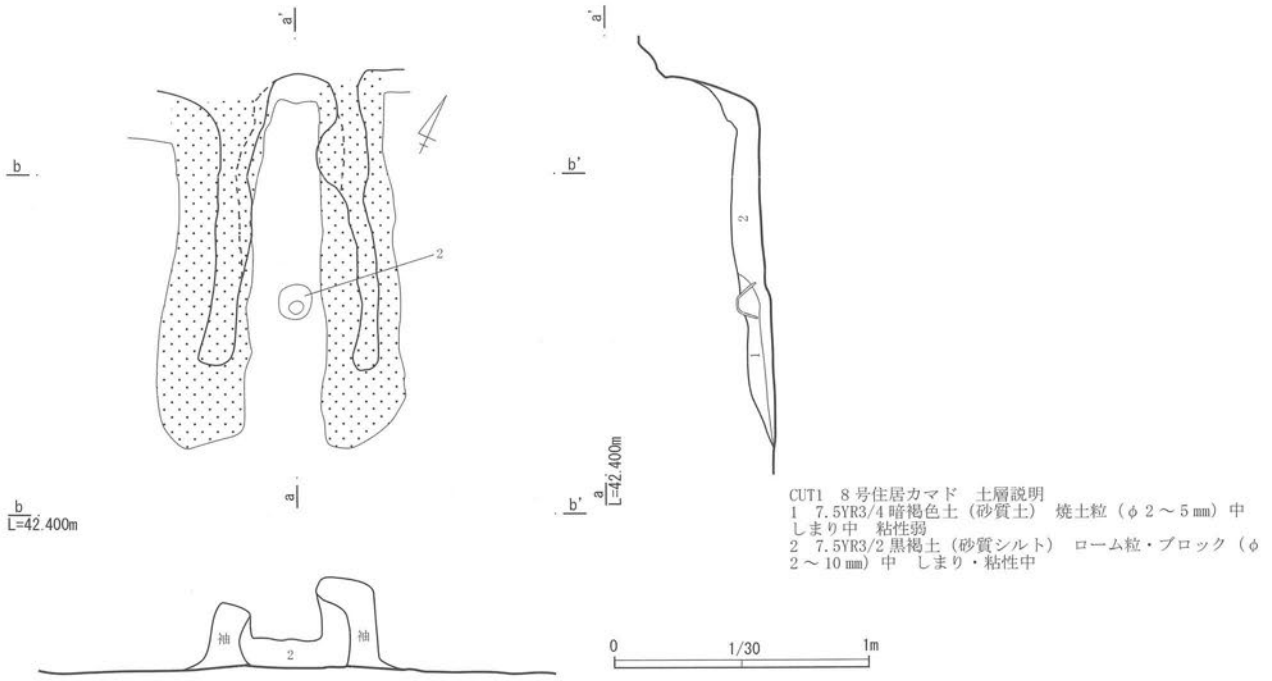
遺物はカマド内から土師器坩（2）が倒位で出土した。そのほか甕・坩・坏・鉄製品（鉄鏃・鋤先）・砥石が床面で出土した。鋤先は旧い形状である。遺物の時期とカマドの形態から古墳中期、5世紀中葉の遺構と考えられる。



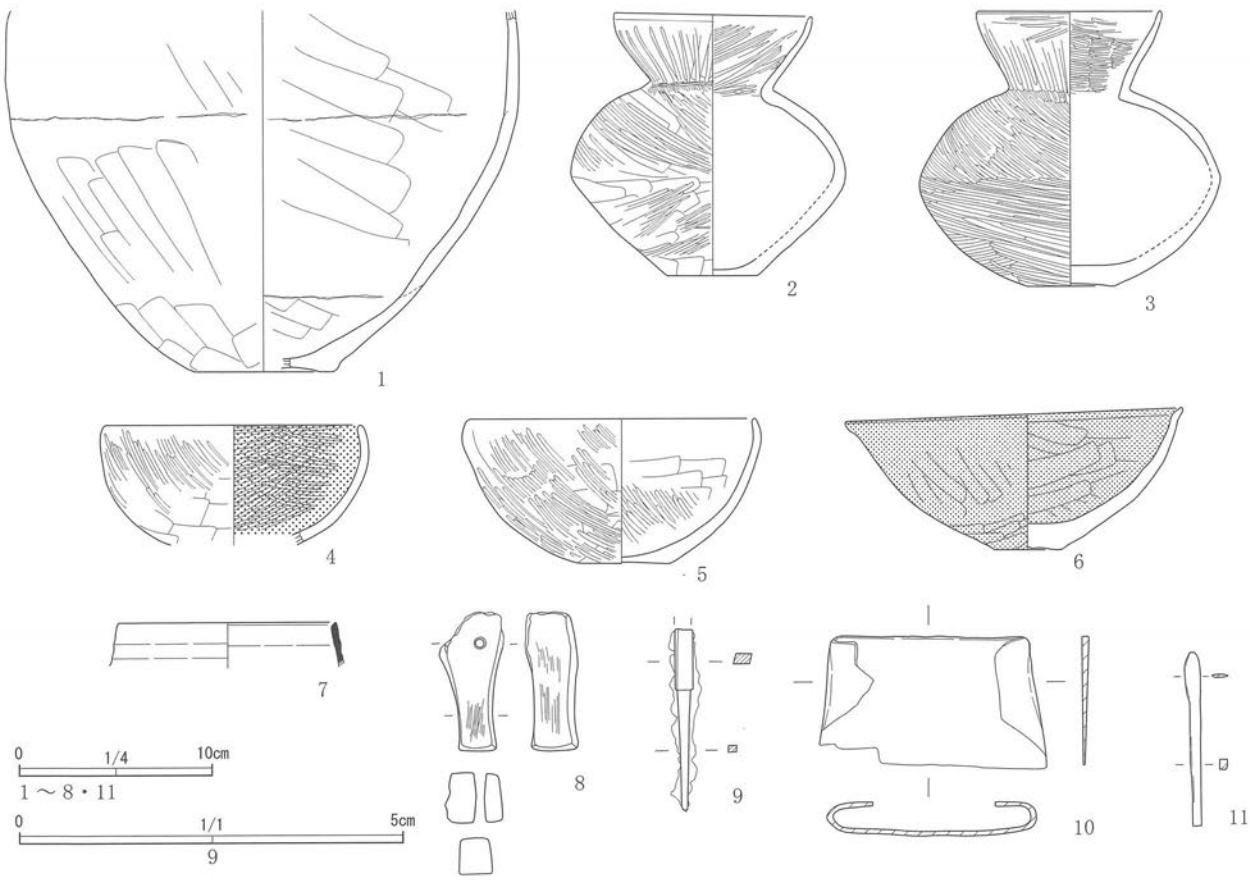
CUT1　8号住居　土層説明
1　7.5YR4/4 褐色土（砂質シルト）　ソフトローム主体　黒色土ブロックφ10～30㎜中　　しまり・粘性中
2　7.5YR1.7/1 黒色土（砂質シルト）　ローム粒φ2～3㎜（φ2㎜主体）中　炭化粒・ブロック（φ2～10㎜主体）中　焼土粒少　しまり・粘性中
3　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ2～4㎜多　炭化粒少
4　7.5YR3/2 黒褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜（φ2㎜主体）少　焼土粒多
5　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ2～4㎜少

CUT1　8号住居P5　土層説明
1　7.5YR1.7/1 黒色土（砂質シルト）　ローム粒・炭化粒・鹿沼土粒φ2㎜中　しまり・粘性中
2　7.5YR2/3　極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・鹿沼土粒φ2㎜少　しまり・粘性中

第20図　8号住居跡（1）



第 21 図　8 号住居跡 (2)



第 22 図　8 号住居跡出土遺物

表８　８号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 8	土師器	甕	—	(7.2)	〈14.0〉	975.7	底部は上げ底気味の平底。胴部は球形ヵ、緩やかに内湾する。	底部は輪台技法を用いている。胴部下端に貼付け痕有り。外面はヘラケズリ後ナデ、内面はナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面10YR5/3にぶい黄褐 外面　10YR4/2灰黄褐	長石・石英・雲母やや多い。小～大礫(長石・石英)多く混入。	胴上半～底部1/3	
2	ｶﾏﾄﾞ No. 1	土師器	坩	10.2	4.6	14.7	616.2	底部は平底で小形。胴部はソロバン玉状で最大径を中位に有す。頸部はやや窄まり「く」の字に屈曲し、口縁は内湾気味に開き口唇は僅かに受け口となる。	底部はミガキ。胴部外面は斜方向のヘラケズリの後ミガキ、内面はナデ。口縁外面はヘラケズリの後縦方向のミガキ、内面は斜方向のミガキ。口唇は内外面共に横ナデ。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	雲母・黒色粒子やや多い。白色粒子少量。小～中礫やや多く混入。	完形	
3	No. 7	土師器	坩	9.4	4.4	14.4	593.9	底部は上げ底気味の平底で小形。胴部は潰れたソロバン玉状を呈し最大径を中位に有す。頸部はやや窄まり「く」の字に屈曲し、口縁は内湾気味に開き口唇は僅かに受け口となる。	外面口縁～底部はミガキ、内面はナデ。口唇部は内外面共に横ナデ後ミガキ。	良好	内面　10YR7/3にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	雲母・黒色粒子やや多い。白色粒子少量。小～中礫やや多く混入。	口縁1/2欠損	
4	No. 5	土師器	坏	13.2	—	〈6.3〉	193.4	底部は丸底ヵ。体部は緩やかに内湾し口唇に至る。深身である。	体部外面はヘラケズリの後ミガキ、内面はミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y6/4にぶい黄	雲母・白色粒子少量。小～中礫やや少量。	底部欠損	内面黒色処理
5	No. 1	土師器	坏	13.7	4.8	7.6	246.7	底部は平底で小さい。体部は緩やかに内湾し口唇で内傾する。深身である。	底部は手持ちヘラケズリ、体部外面はヘラケズリの後ミガキ、内面はナデ。口縁は内外面共に横ナデ。	良好	内面　2.5Y3/1黒褐 外面　2.5Y7/4浅黄	長石・石英・雲母少量。小～中礫やや少量。	体部1/2欠損	
6	No. 2・3	土師器	坏	17.2	3.4	7.1	280.2	底部は上げ底気味の平底で小さい。体部は緩やかに内湾しながら大きく開き、口縁は短く外傾する。深身である。	内外面共にナデ整形。	良好	内面　10YR5/3にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母少量。小～中礫やや少量。	体部1/2欠損	内外面赤彩
7	覆土	須恵器	坏	11.4	—	〈2.4〉	1.9	口唇部は段を有しシャープに尖る。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	精良。	口縁部片	陶邑窯５ｃ中～後葉
8	No. 4	石製品	砥石	縦7.2　横3.3　厚さ2.7　孔径0.73　重量77.8。分銅形を呈し上端部のほうが広くなり,孔が穿たれる提砥である。使用により、矮小化している。										
9	No. 11	鉄製品	鉄鏃	施被　残存長1.9、　幅0.5、厚さ0.3、両関部0.5、茎長3.8　幅0.3　厚さ0.2　重量7.1。施被部分で折損しており、鏃身の形状は不明。関部は両関で茎は上半で方形、下端は丸みを帯びている。										
10	No. 10	鉄製品	鋤	縦6.8　横10.6　厚さ4.0　重量10.3、板状の鉄板の両端部を折り曲げている。平面形状は下端が広い台形を呈する。下端部は刃部となり薄く尖る。										
11	No. 12	鉄製品	鉄鏃	長さ9.8　幅0.8～0.5　厚さ6～1.5　重量10.1 錆により明確ではないが、剣身鏃であろうか逆し(棘)は明瞭でない。施被部分で折損しているものと判断される。関以下は観察できない。										

第４節　奈良・平安時代の遺構と遺物

第１項　住居跡

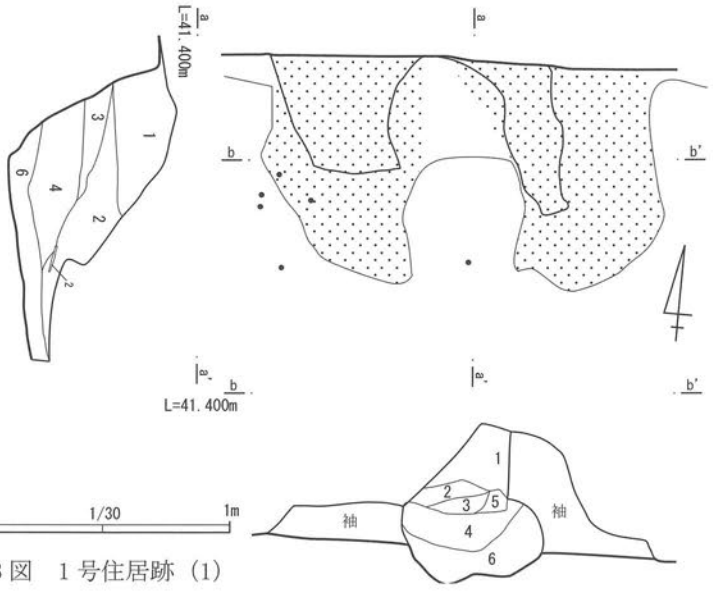
1 号住居跡　（第 23・24・25 図，図版 04・89）

本遺構は F5-13 グリッドに於いて検出された。試掘調査に於けるトレンチで確認されていたものである。規模は長軸 3.9m、短軸 4.5m、主軸方位は N　18.2°　W を指す。確認面からの深さは最大 58 cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は 6 層に分層され、自然堆積の様相を示している。

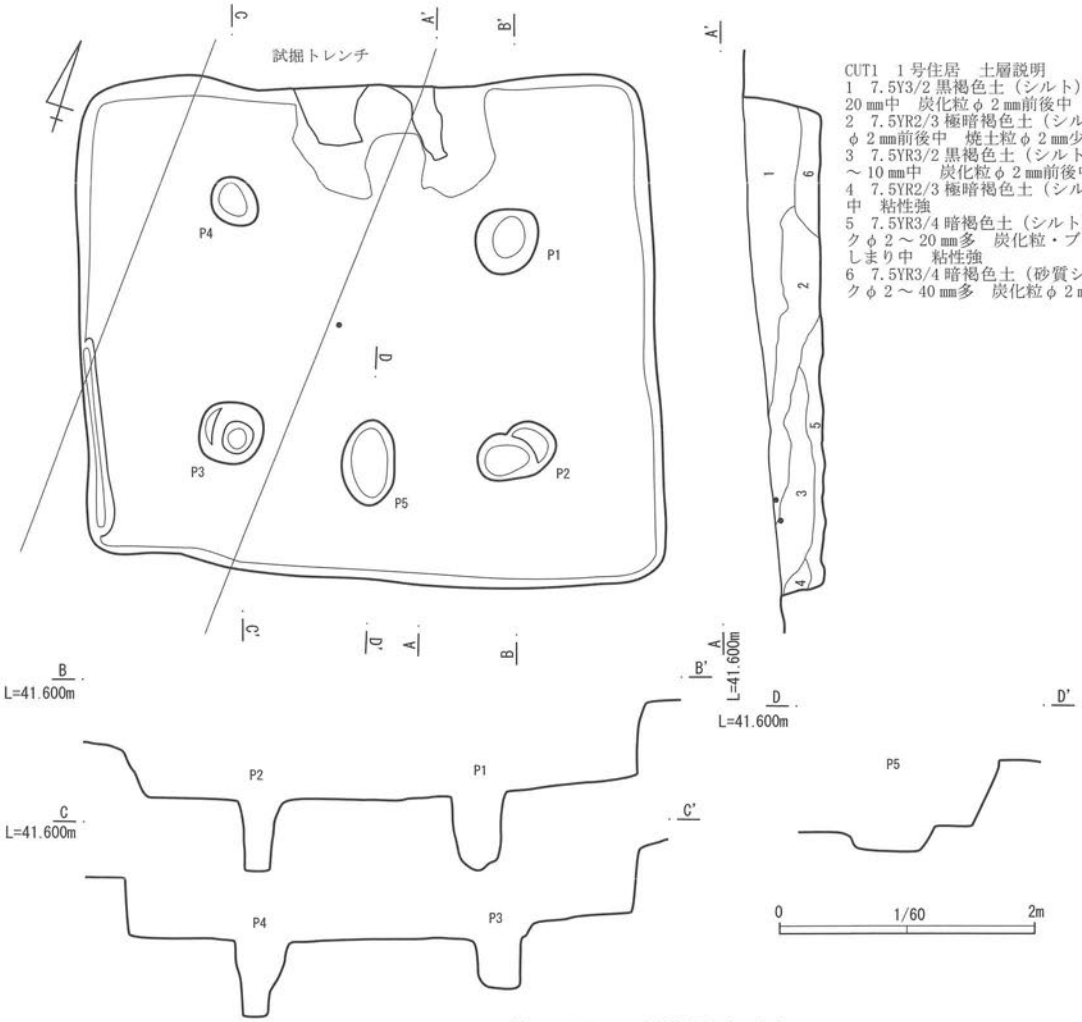
カマドは北壁中央部分に設置され､カマド左半は試掘トレンチにより上部を削平されている。柱穴は 4 本確認され、東側 2 本が若干南にずれる配置になる。また、カマドと対象の位置に出入口ピットが検出された。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。

遺物は常総甕（1・2)、須恵器蓋・坏が出土しており、9 世紀前半に属すると判断される。

CUT1　1 号住居カマド　土層説明
1　暗褐色土（粘質土）　焼土粒φ２㎜少　しまり・粘性強
2　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）　焼土粒φ～５㎜中　しまり・粘性中
3　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）焼土粒φ～５㎜主体　炭化粒少　ローム粒中　しまり・粘性中
4　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質シルト）　焼土粒φ～５㎜多　炭化粒少　ローム粒φ２㎜主体　しまり・粘性中
5　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質シルト）　焼土粒φ～５㎜多　炭化粒少　しまり中　粘性少
6　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質土）　焼土粒φ２～10㎜多（φ５㎜主体）　炭化粒・ローム粒少　しまり中　粘性少

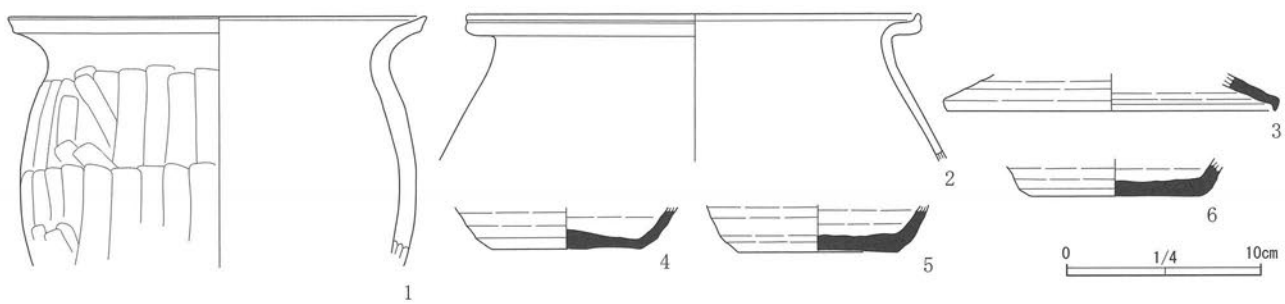


第 23 図　1 号住居跡（1）



CUT1　1号住居　土層説明
1　7.5Y3/2 黒褐色土（シルト）　ローム粒・ブロックφ～20㎜中　炭化粒φ2㎜前後中　しまり中　粘性強
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（シルト）　ローム粒多　炭化粒φ2㎜前後中　焼土粒φ2㎜少　しまり中　粘性強
3　7.5YR3/2 黒褐色土（シルト）　ローム粒・ブロックφ～10㎜中　炭化粒φ2㎜前後中　しまり中　粘性強
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（シルト）　ローム粒多　しまり中　粘性強
5　7.5YR3/4 暗褐色土（シルト）　ローム粒・ロームブロックφ2～20㎜多　炭化粒・ブロック（φ2㎜前後）少　しまり中　粘性強
6　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～40㎜多　炭化粒φ2㎜前後少　しまり・粘性中

第24図　1号住居跡（2）



第25図　1号住居跡出土遺物

表9　1号住居跡遺物観察表

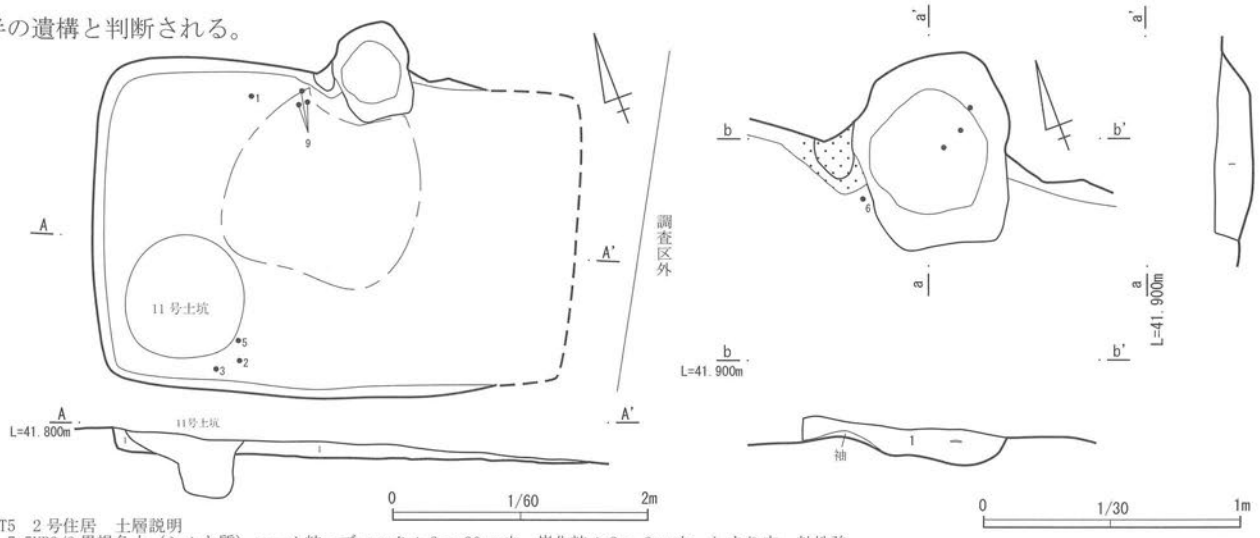
cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	甕	21.8	—	〈13.2〉	960.0	胴部は球形ヵ、胴部は緩やかに内湾する。口縁は「C」の字に外反し口唇は摘上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面剥落。	良好 二次焼成ｱﾘ	内外面 10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・金雲母やや多い。ｽｺﾘｱ少量、白色針状物質微量。	口縁～胴部上半	
2	No.1・2	土師器	甕	(23.6)	—	〈7.8〉	152.1	胴部は張るヵ。口縁は、頭部で「く」の字に屈曲しほぼ水平に短く開く。口唇は摘上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部も内外面共にナデ。	良好	内面　2.5Y6/4にぶい黄 外面　2.5Y5/3黄褐	長石・石英・雲母やや多い。	口縁1/3	
3	覆土	須恵器	蓋	(16.9)	—	〈2.0〉	17.4	端部はやや内傾気味に屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　2.5Y5/2暗灰黄	ほぼ精良 鉄分の吹き出し少量。	端部片	
4	覆土	須恵器	坏	—	7.6	〈2.2〉	49.4	底部は平底で体部下半は僅かに内湾する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y8/2灰白 外面　2.5Y7/3浅黄	石英やや多い。長石少量。	底部1/2	
5	覆土	須恵器	坏	—	8.4	〈2.5〉	68.9	底部は平底で体部下半は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　7.5Y6/2灰オリーブ	長石やや多い。鉄分の吹き出し少量。	底部1/2	
6	覆土	須恵器	坏	—	8.6	〈2.0〉	94.8	底部は平底で体部下半は僅かに内湾する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　5Y5/2灰オリーブ	長石・鉄分の吹き出し少量。	底部1/3	

2 号住居跡　（第 26・27 図，図版 04・05・89）

本遺構は F4-24、F5-04 グリッドに於いて検出された。11 号土坑により住居南西隅を切られる。規模は長軸 3m、短軸 3.8m、主軸方位は N 21° E を指す。主軸方位が短い長方形を呈する。確認面からの深さは 18 ㎝でごく浅く東壁は削平されほとんど検出されなかった。覆土は 1 層である。カマドは北壁中央に敷設されるが、袖が左袖の一部のみが残存する。柱穴は確認されなかった。床面は平坦で硬化面がカマド前から住居中央部において検出された。

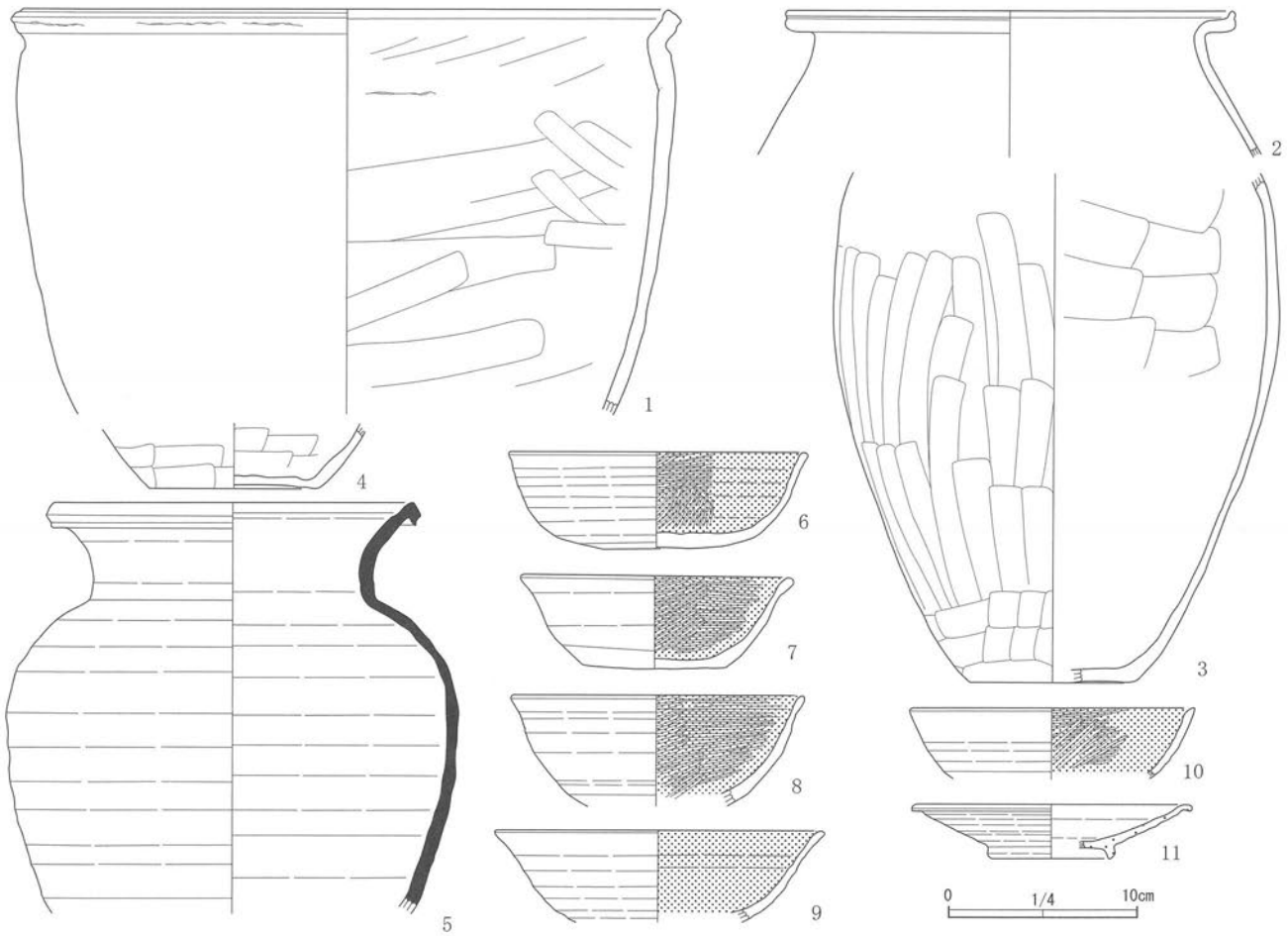
遺物はカマド左脇と南西床面付近、カマド内部より出土した。カマド出土の土師器坏は内面ミガキ・黒色処理である（6・8）。椀形の器形が多い。11 は灰釉陶器高台付皿で黒笹 90 号窯段階のものと見られる。遺物からは 9 世紀後半の遺構と判断される。



CUT5　2 号住居　土層説明
1　7.5YR3/2 黒褐色土（シルト質）ローム粒・ブロックφ 2 ～ 30 ㎜少　炭化粒φ 2 ～ 3 ㎜少　しまり中　粘性強

CUT1　2 号住居カマド　土層説明
1　7.5YR1.7/1 黒色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 2 少　しまり・粘性中

第 26 図　2 号住居跡



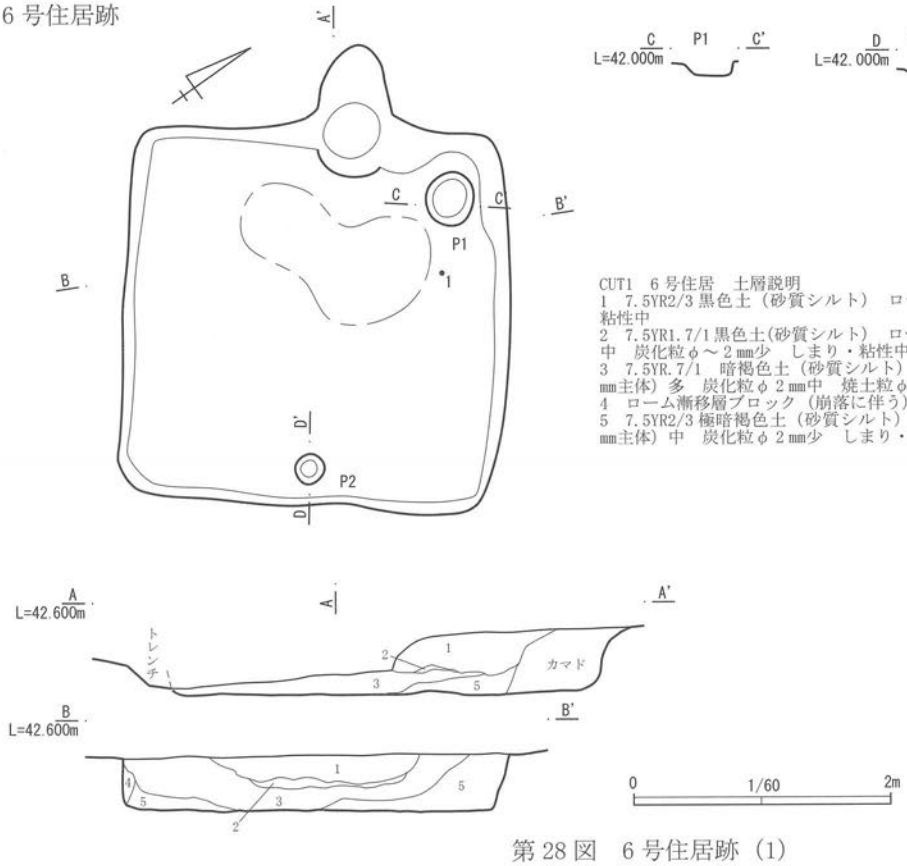
第 27 図　2 号住居跡出土遺物

表 10　2 号住居跡遺物観察表

cm, g

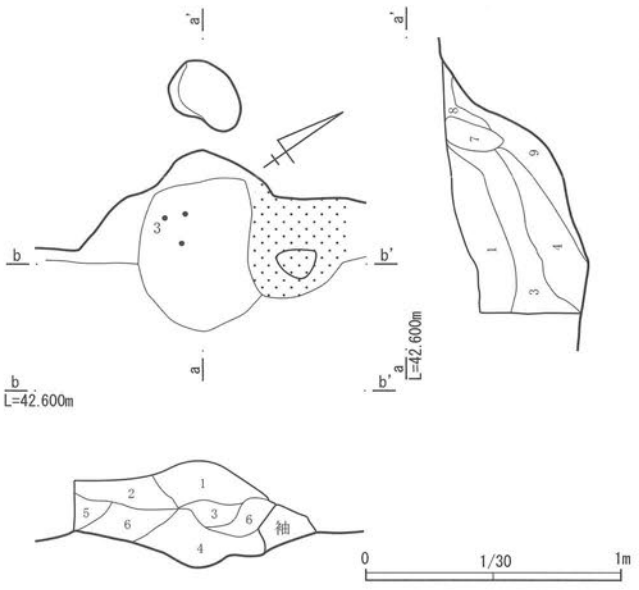
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 4	土師器	甕	(34.0)	—	〈21.6〉	653.8	胴部は僅かに内湾気味に立ち、口縁で短く「C」の字に外反する。口唇は摘み上げられる。回転台使用か。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部内外面は回転台を使用し整形したと思えるヘラの痕が観察される。	良好	内面　7.5YR6/6 橙 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒子・黒色粒子・雲母少量、ｽｺﾘｱ微量。	口縁～胴部上半1/4	輪積痕ｱﾘ
2	No. 2	土師器	甕	(17.4)	—	〈7.0〉	61.8	口縁は、頸部で「く」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部も内外面共にナデ。	良好	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	黒色粒子やや多い、白色粒子・雲母・ｽｺﾘｱ少量。	口縁部1/8	
3	No. 1	土師器	甕	—	(8.7)	〈27.2〉	559.8	底部は平底。胴部は長胴で最大径を上位に持つものと思われる。	底部はナデ。胴部外面は縦方向、下端は横方向のヘラケズリ。内面はナデ。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　2.5Y4/2 暗灰黄	黒色粒子・金雲母やや多い、白色粒子・スコリア少量。	胴部～底部1/3	
4		土師器	甕	—	8.8	〈3.5〉	84.9	底部のみの資料。底部は上げ底気味の平底。胴部下端は緩やかに内湾しながら開く。	外面底部は及び内面はナデ、胴部下端は横方向のヘラケズリ。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y3/3 暗オリーブ褐 外面　10YR 5/3 にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・雲母・少量。	体部1/3 底部2/3	
5	No. 3	須恵器	甕	(18.8)	—	〈21.9〉	346.9	胴部は緩やかに内湾し、肩部は張る。頸部は「く」の字に外反し口唇は折り返した後摘上げが観察される。端部はシャープに尖る。	ロクロ整形。	良好	内外面　2.5Y7/2 灰黄	小礫・細礫をやや多く含む。長石、石英目立つ。	口縁～胴部上半1/3	
6	ｶﾏﾄﾞ No. 1	土師器	坏	15.6	6.3	5.1	177.1	底部は丸底気味の平底で体部は内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ	良好	内面　5Y3/1 オリーブ黒 外面　2.5Y6/4 にぶい黄	石英・雲母多い。黒色粒子・白色粒子少量。	口縁～体部2/3　底部完形	内面黒色処理 墨書 火ﾀﾞｽｷｱﾘ
7		土師器	坏	14.0	7.6	5.0	144.5	底部は平底。体部は下半で緩やかに内湾し、内面口縁直下に弱い稜を有した後外傾する。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1 オリーブ黒 外面　5Y3/2 オリーブ黒	雲母やや多い。白色粒子・白色針状物質少量。	口縁1/2欠損欠損	内面黒色処理
8	NO. 5・6 ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	(15.2)	—	〈5.9〉	76.1	体部は緩やかに内湾し、口辺で器厚になった後僅かに外傾する。口唇直下に細い沈線が一条廻る。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1 オリーブ黒 外面 10YR6/4 にぶい黄橙	白色針状物質・雲母やや目立つ。石英・黒色粒子少量。ｽｺﾘｱ微量。	口縁～体部1/3	内面黒色処理
9	No. 15・16・17	土師器	坏	(17.0)	—	〈4.9〉	42.4	体部は緩やかに内湾しながら開く。体部の器壁は薄いが口縁で僅かに肥厚する。	ロクロ整形。内面は磨いていると思われるが、二次焼成を受けている為に観察は困難。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y3/1 黒褐 外面　10YR6/4 にぶい黄褐	黒色粒子多い。白色針状物質・雲母・白色粒子やや多い。	口縁～体部1/4	内面黒色処理ｶ
10		土師器	坏	(14.8)	—	〈3.8〉	36.0	体部は緩やかに内湾する。口縁で僅かに膨らみを有す。	ロクロ整形。外面体部下端は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　2.5Y3/1 黒褐 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	雲母・黒色粒子・白色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～体部1/8	内面黒色処理
11		灰釉陶器	Ⅲ	(14.2)	(6.2)	〈2.9〉	35.3	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部は僅かに内湾気味に大きく開き、口縁は玉縁状になる。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　2.5Y7/1 灰白	ほぼ精良 鉄分の吹き出し少量。	口縁～底部1/3	猿投窯 内面(見込み部を除く)～外面体部下端にかけて付け掛け

6 号住居跡



CUT1　6 号住居　土層説明
1　7.5YR2/3 黒色土（砂質シルト）　ローム粒φ～3㎜少　炭化粒少　しまり・粘性中
2　7.5YR1.7/1 黒色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ2～10㎜(φ2㎜主体)中　炭化粒φ～2㎜少　しまり・粘性中
3　7.5YR.7/1　暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～50㎜（φ2㎜主体）多　炭化粒φ2㎜中　焼土粒φ～2㎜少　しまり・粘性中
4　ローム漸移層ブロック（崩落に伴う）(砂質シルト)　しまり中　粘性中
5　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～50㎜（φ3㎜主体）中　炭化粒φ2㎜少　しまり・粘性中

第 28 図　6 号住居跡（1）



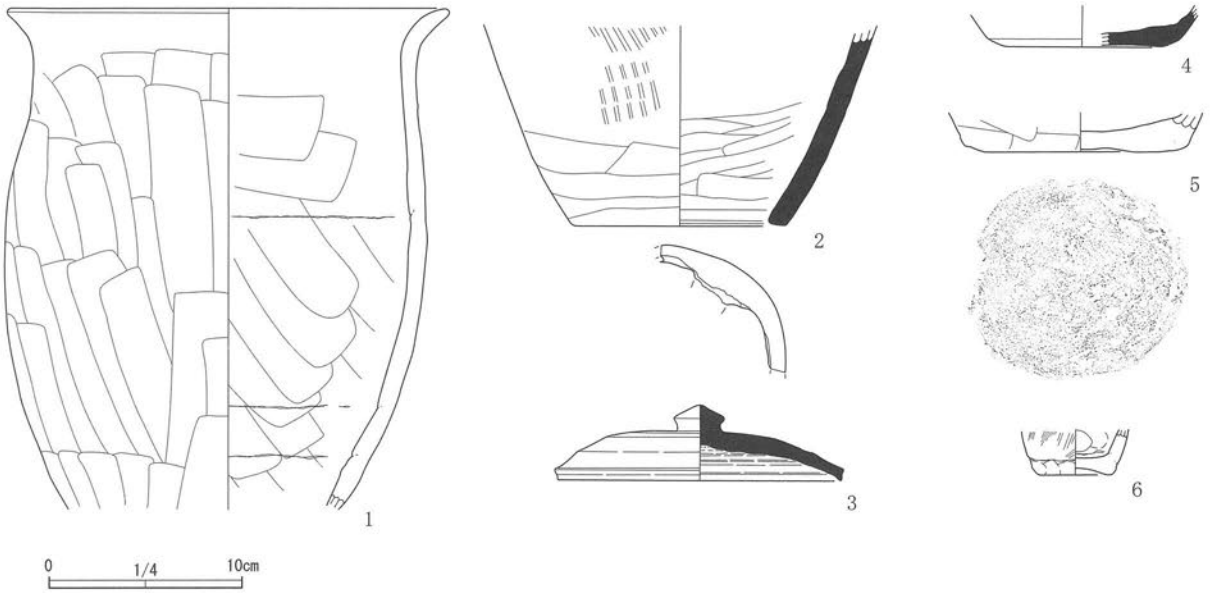
CUT1　6号住居カマド　土層説明
1　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ2㎜　中　しまり・粘性中
2　7.5YR1.7/1 黒褐色土（シルト質）　ローム粒φ～5㎜少　しまり中　粘性強
3　7.5YR1.7/1 黒褐色土（シルト質）　ローム粒・ブロックφ～10㎜少　しまり・粘性中
4　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ～5㎜少　焼土粒φ2～5㎜少　しまり・粘性中
5　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ～10㎜（φ5㎜主体）　しまり中　粘性強
6　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質土）　雲母（φ2～3㎜）が主体　焼土ブロックφ2～30㎜（φ5㎜主体）多　ローム粒多　しまり中　粘性弱
7　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質土）　雲母（φ2～3㎜）が主体　ローム粒中　しまり強　粘性なし
8　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質土）　焼土粒・炭化粒中　しまり・粘性中
9　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒少　しまり・粘性中

第29図　6号住居跡（2）

6号住居跡　（第28・29・30図，図版08・09・91）

本遺構はF4-18・19グリッドに於いて検出された。規模は長軸3.64m、短軸3,03m、主軸方位はN 54.3°　Wを指す。確認面からの深さは43.4㎝を測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を示している。カマドは煙道が遺存しており、傾斜は緩やかである。右袖が一部残り、煙道の排煙部分とカマド天井部に被熱痕が見られる。北隅にP1、東壁中央にP2が検出された。P2は出入口ピットと見られるが、P1は浅く、性格は不明である。

遺物は土師器甕（1）が北壁寄りの床面に完形に近い状態で横倒しで出土した。須恵器蓋（3）はカマド内の底面近くから出土している。遺物より遺構の年代は9世紀前半期と判断される。



第30図　6号住居跡出土遺物

表 11　6 号住居跡遺物観察表

cm, g

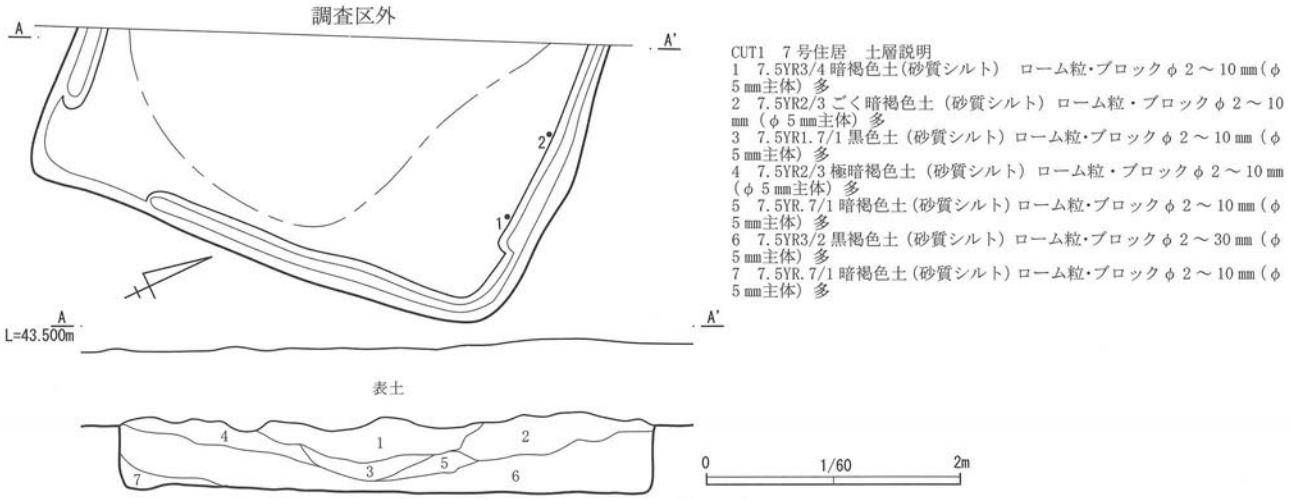
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 29	土師器	甕	22.6	—	〈26.4〉	2660.0	胴部の張りは弱く長胴気味。口縁は緩やかに外反する。器壁は厚い。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面は縦方向のヘラケズリ、内面はヘラナデ。内面に輪積痕有り。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英等少～中礫・雲母やや多い。	口縁一部欠損　胴下半	注記はSI05取り上げﾐｽ
2	覆土	須恵器	甑	—	10.9	〈10.6〉	257.4	バケツ型ヵ。多孔式であるが孔の数は不明。胴部下端で僅かに内湾した後直線的に開く。	回転台使用ヵ。胴部外面平行叩き、下端は回転を利用した粗いヘラケズリ。内面は当て具痕、下端でナデ整形が行われている。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　5Y6/2灰オリーブ	白色粒子少量。鉄分の噴き出し微量。	胴上半1/3 底部欠損	
3	ｶﾏﾄﾞ ｶﾏﾄﾞ No. 1	須恵器	蓋	14.6	2.6	14.6	146.7	天井は緩やかに内湾し端部は短く垂下する。返しは持たない。天井中央に擬宝珠状のツマミを有す。	ロクロ整形。天井部のヘラケズリは1/8。	良好	内外面　7.5Y6/1灰	白色粒子・白色針状物質少量。小礫・鉄分の噴き出し微量。	1/2	
4	覆土	須恵器	坏	—	8.0	〈2.2〉	62.9	底部は上げ底気味の平底で、体部下端は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。外面体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　5Y5/1灰	白色粒子・黒色粒子・鉄分の噴き出しやや多い。雲母・小礫少量。	底部1/2	新治産
5	No. 12	土師器	甕	—	10.3	〈2.1〉	286.1	底部は中央にやや窪みを有す。内面は緩やかに内湾している。器壁は厚い。	底部は刷状及び布目状圧痕が観察される。内面はナデ。	良好	内面　5Y5/6オリーブ 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	底部	注記はSI05取り上げﾐｽ
6	覆土	土製品	手捏	—	3.6	〈2.4〉	23.4	底部は上げ底気味、体部下端は直線的に開く。	内外面共に指による整形を行っているが、外面には刷毛状工具によるケズリが観察される。	良好	内面　2.5Y7/4浅黄 外面　2.5Y7/3浅黄	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。小礫(石英)微量。	体下半1/2 底部完形	

7 号住居跡　（第 31・32 図，図版 09・91）

本遺構は F4-8・9・13 グリッド、西側調査区壁際において検出された。西部が調査区外となるため全体が不明だが、残存規模は長軸 4.07m、短軸(2.41)m、主軸方位は N 1.5° E を指す。確認面からの深さは 55 cmを測り、掘り込みが深い。覆土は 7 層に分層され、自然堆積の様相を示している。

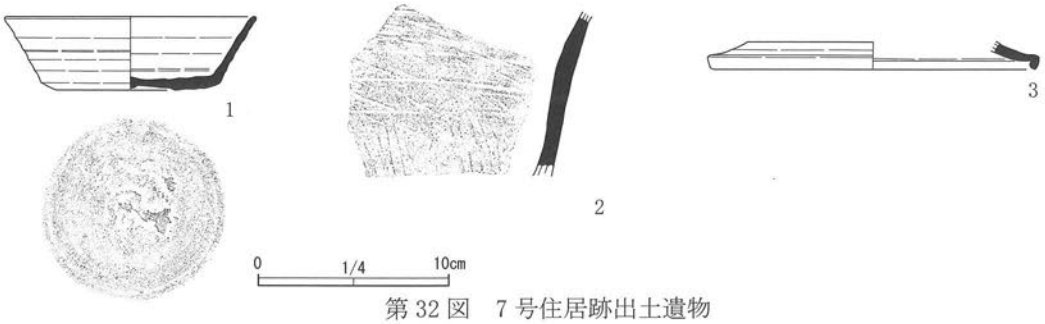
カマド・炉は検出されていないが、調査区外にカマドが存在する可能性がある。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。柱穴は検出されず、比較的浅く幅広い周溝が南隅を除き巡っている。

遺物は 3 点掲載したが、1 は北壁東隅近くの床面に近い位置から出土し、2 は北壁際床上約 30 cmからの出土であり、小片であることから、住居に伴うものかは不明である。3 は住居覆土中からの出土である。遺物の時期から遺構の年代は 8 世紀中～後葉と見られる。



CUT1　7 号住居　土層説明
1　7.5YR3/4 暗褐色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜(φ 5 ㎜主体) 多
2　7.5YR2/3 ごく暗褐色土（砂質シルト）ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜（φ 5 ㎜主体）多
3　7.5YR1.7/1 黒色土（砂質シルト）ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜（φ 5 ㎜主体）多
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜（φ 5 ㎜主体）多
5　7.5YR.7/1 暗褐色土(砂質シルト)ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜(φ 5 ㎜主体) 多
6　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）ローム粒・ブロックφ 2～30 ㎜（φ 5 ㎜主体）多
7　7.5YR.7/1 暗褐色土(砂質シルト)ローム粒・ブロックφ 2～10 ㎜(φ 5 ㎜主体) 多

第 31 図　7 号住居跡



第 32 図　7 号住居跡出土遺物

表 12　7 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	須恵器	坏	(13.0)	9.55	<3.85>	121.0	底部は上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　7.5Y5/1灰	白色粒子・黒色粒子・白色斜状物質少量。	口縁～体部1/3　底部完形	
2	No. 2	須恵器	甕	—	—	—	106.0	頸部は緩やかに外反する。	回転台使用か。外面上半には平行沈線が4条廻り、その後ホ口状工具による斜方向の圧痕が施される。下半は平行叩き。内面は当て具痕、ナデ整形が観察される。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　7.5Y5/1灰	長石・石英・雲母の疎き出し少量。	頸部片	
3	覆土	須恵器	甕	(16.9)	—	<2.0>	13.4	端部は屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y5/2灰オリーブ 外面　5Y5/1灰	白色針状物質やや目立つ。白色粒子少量。	端部1/6	

表 13　7 号住居跡出土礫計測表（1）

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	5.6	5.2	3.4	117.8	輝石安山岩
2	6.2	5.8	3.9	209.5	輝石安山岩
3	5.3	4.3	3.5	62.5	輝石安山岩
4	6.4	5.0	3.5	105.8	輝石安山岩
5	5.4	4.0	2.9	58.8	輝石安山岩
6	6.6	3.4	2.9	93.2	輝石安山岩
7	4.7	2.7	3.7	61.5	輝石安山岩
8	6.5	6.2	2.7	93.6	輝石安山岩
9	5.5	3.1	2.8	61.6	輝石安山岩
10	5.4	3.7	3.6	54.9	輝石安山岩
11	4.7	4.5	2.8	52.4	輝石安山岩
12	4.1	3.8	2.9	46.3	輝石安山岩
13	6.3	4.0	1.0	31.0	輝石安山岩
14	5.2	3.7	1.8	38.8	輝石安山岩
15	3.8	3.5	1.6	29.9	輝石安山岩
16	4.4	3.6	1.8	35.0	輝石安山岩
17	5.4	3.0	2.7	35.1	輝石安山岩
18	4.2	4.0	2.7	30.3	輝石安山岩
19	5.0	2.9	2.4	28.8	輝石安山岩
20	3.5	3.0	2.8	35.0	輝石安山岩
21	4.2	3.2	1.8	22.7	輝石安山岩
22	4.7	3.3	1.8	23.3	輝石安山岩
23	7.0	3.9	2.8	70.7	輝石安山岩
24	4.7	3.2	1.5	19.6	輝石安山岩
25	4.5	3.0	1.5	22.8	輝石安山岩
26	4.0	2.3	2.3	19.1	輝石安山岩
27	4.1	2.4	1.9	23.3	輝石安山岩
28	3.1	2.4	2.4	15.0	輝石安山岩
29	3.7	2.8	1.1	17.9	輝石安山岩
30	4.0	3.2	1.0	10.8	輝石安山岩
31	3.7	3.2	1.2	11.1	輝石安山岩
32	3.3	2.6	1.6	13.0	輝石安山岩
33	3.5	3.0	1.9	16.9	輝石安山岩
34	3.6	2.5	1.7	13.0	輝石安山岩
35	3.8	2.1	2.1	14.7	輝石安山岩
36	3.7	2.2	1.2	11.2	輝石安山岩
37	2.5	1.3	2.0	7.6	輝石安山岩
合計重量				1614.5	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	5.7	5.2	2.0	26.6	ガラス滓
2	1.7	1.4	1.0	2.3	ガラス滓
合計重量				28.9	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	8.6	6.9	6.7	303.8	緑泥片岩
2	5.3	3.6	1.7	35.6	緑泥片岩
合計重量				339.4	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	5.3	4.6	3.5	118.3	ガラス質安山岩
2	4.1	3.1	1.9	25.9	ガラス質安山岩
合計重量				144.2	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	4.9	4.0	2.5	62.4	石英斑岩
2	4.5	3.1	2.6	32.1	石英斑岩
3	4.8	4.7	3.1	70.4	石英斑岩
合計重量				164.9	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	5.7	4.8	2.1	79.7	鉄石英
2	4.3	2.6	3.1	60.3	鉄石英
3	6.0	3.4	1.3	21.4	鉄石英
4	3.9	2.7	1.7	19.7	鉄石英
5	4.8	2.8	2.2	38.2	鉄石英
6	5.5	3.5	2.3	33.2	鉄石英
7	3.8	3.6	2.1	24.4	鉄石英
8	2.5	2.5	2.2	19.5	鉄石英
9	2.8	2.5	2.5	10.7	鉄石英
10	2.7	2.0	1.9	8.3	鉄石英
11	3.0	2.0	1.1	6.7	鉄石英
12	3.2	1.7	1.2	5.8	鉄石英
合計重量				327.9	

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	4.2	3.6	2.2	36.5	頁岩
2	4.1	3.1	1.6	23.0	頁岩
3	5.6	4.1	1.0	16.8	頁岩
4	5.0	3.0	2.0	35.9	頁岩
5	4.3	3.8	0.8	14.2	頁岩
6	5.0	2.9	1.3	10.6	頁岩
7	5.2	3.2	0.9	9.3	頁岩
8	4.0	2.3	1.0	7.7	頁岩
9	3.4	2.6	1.7	10.1	頁岩
10	2.8	1.0	1.6	5.2	頁岩
11	2.0	1.7	1.0	4.2	頁岩
12	2.2	1.3	1.1	2.5	頁岩
合計重量				176.0	

CUT1 SI-07被熱礫計測表

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	6.6	5.4	4.8	204.5	砂岩
2	8.8	5.9	3.1	228.3	砂岩
3	6.7	6.6	2.6	166.0	砂岩
4	6.6	4.9	2.8	123.3	砂岩
5	8.1	5.6	3.3	154.4	砂岩
6	6.9	5.4	2.3	95.2	砂岩
7	5.6	5.1	4.0	182.4	砂岩
8	6.0	3.9	3.1	81.9	砂岩
9	7.8	3.6	3.8	120.6	砂岩
10	7.0	3.2	3.3	101.2	砂岩
11	5.5	3.7	4.4	80.2	砂岩
12	5.3	4.0	3.0	83.4	砂岩
13	5.7	4.2	3.0	91.5	砂岩
14	8.0	4.6	2.2	71.0	砂岩
15	6.0	5.0	2.0	78.4	砂岩
16	4.7	4.5	3.5	89.1	砂岩
17	5.6	4.5	2.2	72.9	砂岩
18	5.5	3.6	2.7	64.7	砂岩
19	5.5	4.3	2.8	65.6	砂岩
20	7.9	3.7	2.9	88.1	砂岩
21	5.7	3.7	3.2	57.0	砂岩
22	5.6	4.6	3.7	76.9	砂岩
23	5.2	4.5	2.8	66.1	砂岩
24	6.9	4.5	2.2	57.4	砂岩
25	6.2	3.0	2.5	38.5	砂岩
26	4.5	3.2	2.7	53.2	砂岩
27	4.7	4.7	2.5	55.9	砂岩
28	5.0	2.5	2.6	39.3	砂岩
29	5.2	4.1	2.2	50.6	砂岩
30	4.5	3.2	3.3	60.2	砂岩
31	4.7	3.8	1.9	35.5	砂岩
32	4.6	3.5	2.2	41.2	砂岩
33	5.2	4.3	3.1	57.4	砂岩
34	5.7	3.9	2.3	42.7	砂岩

番号	法量（cm・g）				材質
	縦	横	厚さ	重量	
35	5.1	2.3	2.7	41.1	砂岩
36	4.8	4.0	1.2	23.8	砂岩
37	4.9	3.5	2.0	41.8	砂岩
38	4.6	2.7	1.8	23.6	砂岩
39	3.3	2.8	2.6	32.1	砂岩
40	4.8	2.8	1.3	24.1	砂岩
41	4.1	2.7	3.0	43.0	砂岩
42	4.9	3.3	3.0	48.7	砂岩
43	4.5	3.9	1.6	27.6	砂岩
44	5.5	5.2	1.1	27.5	砂岩
45	4.7	3.2	2.0	34.4	砂岩
46	4.2	3.0	2.1	25.2	砂岩
47	4.3	3.2	1.6	29.2	砂岩
48	4.7	2.4	2.0	19.1	砂岩
49	4.4	2.6	1.5	23.2	砂岩
50	3.8	3.4	3.0	29.5	砂岩
51	4.5	2.9	1.3	14.8	砂岩
52	3.5	3.0	1.6	20.3	砂岩
53	3.8	3.5	1.9	23.5	砂岩
54	4.0	2.3	1.9	22.6	砂岩
55	3.7	3.0	1.7	14.6	砂岩
56	3.8	3.5	3.1	29.8	砂岩
57	4.0	2.5	2.6	28.4	砂岩
58	4.7	2.8	2.1	24.4	砂岩
59	4.5	1.9	1.9	14.9	砂岩
60	3.3	2.2	1.8	14.6	砂岩
61	3.6	3.2	2.0	16.3	砂岩
62	3.8	3.3	0.9	10.7	砂岩
63	2.8	1.9	1.3	6.0	砂岩
64	3.3	1.9	1.5	11.6	砂岩
65	3.5	2.1	1.9	11.2	砂岩
66	4.2	2.5	2.0	17.7	砂岩
67	3.5	3.0	2.1	15.8	砂岩
68	3.8	2.1	1.4	12.0	砂岩
69	2.7	2.5	1.3	8.0	砂岩
70	2.9	2.4	1.2	8.4	砂岩
71	3.4	2.0	1.3	9.5	砂岩
72	2.7	2.6	1.3	11.0	砂岩
73	4.0	2.9	1.4	12.5	砂岩
74	3.3	2.3	2.3	12.4	砂岩
75	3.4	2.9	2.0	19.7	砂岩
76	2.8	2.6	1.1	13.0	砂岩
77	3.5	2.3	2.0	15.0	砂岩
78	3.4	2.2	2.2	16.3	砂岩
79	3.3	2.1	1.2	10.1	砂岩
80	3.6	2.7	1.0	9.0	砂岩
81	2.8	2.3	2.0	11.1	砂岩
82	3.4	2.7	1.8	17.2	砂岩
83	2.9	1.7	1.9	9.8	砂岩
84	3.1	2.0	1.5	8.9	砂岩
85	2.5	1.9	1.5	6.2	砂岩
86	3.2	1.5	1.7	8.6	砂岩
87	3.5	2.2	1.3	10.7	砂岩
88	3.6	2.2	1.2	8.2	砂岩
89	3.6	1.5	1.4	7.7	砂岩
90	3.3	2.6	1.2	7.5	砂岩
91	4.0	1.9	1.9	16.8	砂岩
92	2.7	1.6	1.4	8.4	砂岩
93	2.4	1.7	1.0	3.2	砂岩
94	2.1	1.5	1.7	5.3	砂岩
95	3.3	2.2	1.7	10.0	砂岩
96	2.8	2.6	0.9	6.5	砂岩
97	2.4	1.8	0.7	3.9	砂岩
98	2.4	1.3	1.0	3.0	砂岩
99	4.2	2.7	2.5	32.7	砂岩
100	1.9	1.5	1.5	4.9	砂岩
101	2.0	1.6	1.2	4.7	砂岩
102	1.8	1.7	1.7	5.8	砂岩
103	2.3	1.7	1.0	4.9	砂岩
合計重量				4128.6	

表 14　7 号住居跡出土礫計測表 (2)

番号	法量 (cm・g)				材質
	縦	横	厚さ	重量	
1	7.7	5.7	2.6	123.3	凝灰岩
2	7.3	6.4	4.8	216.5	凝灰岩
3	8.4	4.3	4.8	192.7	凝灰岩
4	7.0	6.4	3.2	155.1	凝灰岩
5	6.9	5.7	5.3	178.4	凝灰岩
6	8.3	5.6	3.4	183.7	凝灰岩
7	6.6	5.8	4.1	217.0	凝灰岩
8	6.6	4.8	4.2	158.2	凝灰岩
9	5.9	4.7	3.3	106.5	凝灰岩
10	6.5	4.9	3.3	104.8	凝灰岩
11	5.8	5.2	2.7	85.2	凝灰岩
12	5.5	4.2	3.3	66.7	凝灰岩
13	6.2	4.5	3.6	70.0	凝灰岩
14	6.2	5.0	1.5	56.2	凝灰岩
15	6.8	5.8	2.1	76.3	凝灰岩
16	6.6	4.4	2.5	70.7	凝灰岩
17	5.6	4.3	1.5	2.2	凝灰岩
18	7.2	1.8	3.3	59.5	凝灰岩
19	7.0	4.7	1.9	62.5	凝灰岩
20	6.1	3.9	2.5	71.5	凝灰岩
21	6.4	3.7	3.1	79.3	凝灰岩
22	5.3	3.7	3.4	78.0	凝灰岩
23	4.6	3.2	4.0	58.8	凝灰岩
24	5.1	4.6	2.3	72.0	凝灰岩
25	4.4	3.0	3.5	44.5	凝灰岩
26	4.3	3.2	3.2	51.4	凝灰岩
27	4.9	3.3	2.5	49.5	凝灰岩
28	4.9	4.3	2.7	47.2	凝灰岩
29	4.7	4.0	2.5	46.2	凝灰岩
30	4.5	3.6	2.6	39.6	凝灰岩
31	5.1	3.2	2.7	44.1	凝灰岩
32	4.7	3.9	3.0	51.4	凝灰岩
33	6.1	4.0	3.0	81.8	凝灰岩
34	5.4	3.5	3.0	52.1	凝灰岩
35	5.7	3.0	2.7	53.8	凝灰岩
36	4.5	2.8	2.6	38.9	凝灰岩
37	4.6	4.1	1.9	27.3	凝灰岩
38	5.5	4.1	2.8	52.4	凝灰岩
39	4.8	3.4	3.2	51.4	凝灰岩
40	5.0	3.5	2.0	39.4	凝灰岩
41	4.4	2.4	2.0	26.6	凝灰岩
42	3.7	3.0	1.4	20.0	凝灰岩
43	3.3	3.1	2.0	25.4	凝灰岩
44	4.7	2.9	1.6	26.3	凝灰岩
45	3.6	2.8	2.2	25.0	凝灰岩
46	4.4	3.3	1.4	24.2	凝灰岩
47	3.9	2.6	2.9	26.6	凝灰岩
48	6.2	3.9	2.6	36.1	凝灰岩
49	3.5	2.5	2.5	22.2	凝灰岩
50	5.0	3.0	2.2	34.4	凝灰岩
51	3.3	2.6	1.8	31.7	凝灰岩
52	4.9	3.8	1.6	35.2	凝灰岩
53	4.1	3.1	2.7	32.7	凝灰岩
54	4.4	3.1	1.7	19.8	凝灰岩
55	4.1	3.2	1.5	20.5	凝灰岩
56	3.4	2.8	2.3	17.9	凝灰岩
57	4.7	2.6	3.6	35.3	凝灰岩
58	3.8	3.1	1.9	21.7	凝灰岩
59	3.8	3.2	1.8	30.3	凝灰岩
60	4.2	3.0	1.8	20.6	凝灰岩
61	3.7	3.0	2.7	22.5	凝灰岩
62	4.0	3.6	2.0	24.1	凝灰岩
63	3.8	2.0	1.9	13.7	凝灰岩
64	3.4	2.4	2.0	18.3	凝灰岩
65	5.3	3.1	1.7	21.4	凝灰岩
66	4.9	1.8	1.4	13.6	凝灰岩
67	3.9	2.6	2.8	24.5	凝灰岩
68	4.1	2.6	1.1	20.4	凝灰岩
69	3.9	2.3	2.3	21.8	凝灰岩
70	4.8	2.0	1.6	14.6	凝灰岩
71	3.7	2.3	1.5	12.2	凝灰岩
72	3.4	1.9	1.2	11.7	凝灰岩
73	2.8	2.8	2.2	16.6	凝灰岩
74	3.4	2.5	2.4	12.2	凝灰岩
75	2.9	2.5	1.5	9.7	凝灰岩
76	3.5	1.2	2.5	12.8	凝灰岩
77	3.2	2.4	1.9	14.1	凝灰岩
78	3.6	3.3	2.2	24.5	凝灰岩
79	3.3	2.7	1.9	13.7	凝灰岩
80	2.9	1.2	1.9	8.3	凝灰岩
81	3.6	3.6	2.1	25.1	凝灰岩
82	4.3	3.2	1.9	25.4	凝灰岩
83	3.8	3.1	1.3	16.2	凝灰岩
84	3.0	1.7	1.9	8.8	凝灰岩
85	3.1	2.6	1.2	10.5	凝灰岩
86	3.0	2.0	2.1	11.4	凝灰岩
87	2.6	2.0	1.8	8.5	凝灰岩
88	3.4	2.5	1.9	15.3	凝灰岩
89	2.4	2.2	2.3	7.8	凝灰岩
90	2.8	2.1	1.5	8.6	凝灰岩
91	3.6	3.1	1.3	11.0	凝灰岩
92	3.1	2.4	1.1	10.5	凝灰岩
93	3.3	2.6	1.3	12.2	凝灰岩
94	3.8	2.3	2.0	10.8	凝灰岩
95	3.5	2.3	1.2	10.8	凝灰岩
96	2.3	2.3	1.2	7.2	凝灰岩
97	2.8	2.4	1.1	7.4	凝灰岩
98	2.1	1.7	1.3	7.0	凝灰岩
99	2.7	2.1	1.6	8.1	凝灰岩
100	2.4	2.2	0.8	6.9	凝灰岩
101	3.2	1.7	0.9	6.3	凝灰岩
102	2.9	2.7	1.7	15.0	凝灰岩
103	3.3	2.4	2.0	15.6	凝灰岩
104	3.0	2.2	1.4	10.3	凝灰岩
105	2.9	2.2	1.5	9.0	凝灰岩
106	3.0	1.9	1.0	6.2	凝灰岩
107	2.6	2.2	1.2	7.5	凝灰岩
108	2.7	2.7	2.5	12.6	凝灰岩
109	2.3	1.8	1.0	6.1	凝灰岩
110	3.0	2.5	2.6	17.4	凝灰岩
111	2.9	2.2	1.3	8.3	凝灰岩
112	2.4	2.4	1.5	10.3	凝灰岩
113	2.9	2.3	1.3	8.6	凝灰岩
114	2.8	2.6	2.3	17.7	凝灰岩
115	2.7	2.2	2.1	13.2	凝灰岩
116	2.9	1.9	1.5	9.0	凝灰岩
117	2.7	1.7	1.5	8.9	凝灰岩
118	2.4	2.2	2.0	9.1	凝灰岩
119	2.9	2.1	1.4	9.0	凝灰岩
120	2.2	2.0	1.5	8.3	凝灰岩
121	2.5	1.9	1.6	8.2	凝灰岩
122	2.6	2.0	1.9	8.0	凝灰岩
123	3.1	2.5	1.6	10.2	凝灰岩
124	2.6	1.1	1.5	3.9	凝灰岩
125	2.2	1.7	1.5	5.9	凝灰岩
126	2.6	2.1	1.3	6.0	凝灰岩
127	2.8	2.0	1.5	7.3	凝灰岩
128	2.6	1.6	1.5	5.5	凝灰岩
129	2.5	1.6	1.9	7.5	凝灰岩
130	2.4	1.9	1.6	6.7	凝灰岩
131	2.3	0.9	1.2	3.1	凝灰岩
132	2.3	1.6	1.5	5.0	凝灰岩
133	2.3	1.6	1.6	5.6	凝灰岩
134	2.5	1.5	1.2	4.8	凝灰岩
135	1.9	1.8	2.0	6.8	凝灰岩
136	2.4	1.7	1.7	7.7	凝灰岩
137	2.0	1.8	1.2	4.0	凝灰岩
138	2.0	1.5	1.4	4.9	凝灰岩
139	1.8	1.5	1.5	3.3	凝灰岩
140	2.0	1.8	1.0	3.1	凝灰岩
141	1.9	1.0	0.7	3.0	凝灰岩
142	1.8	1.3	1.4	3.1	凝灰岩
143	2.1	1.2	1.3	4.4	凝灰岩
144	2.0	1.6	0.7	2.4	凝灰岩
145	1.4	1.3	1.1	2.7	凝灰岩
146	1.6	1.2	1.3	2.9	凝灰岩
147	1.4	1.1	1.0	1.4	凝灰岩
148	1.6	1.2	0.8	1.3	凝灰岩
149	1.2	1.0	0.5	0.7	凝灰岩
150	1.5	1.0	0.7	1.2	凝灰岩
151	0.9	0.8	0.9	1.0	凝灰岩
152	1.1	1.0	1.1	1.1	凝灰岩
153	1.1	0.9	0.9	0.8	凝灰岩
154	1.1	0.8	0.7	0.7	凝灰岩
155	1.5	1.0	0.6	0.7	凝灰岩
156	1.3	0.9	0.5	0.7	凝灰岩
157	1.1	0.6	0.6	0.3	凝灰岩
合計重量				4763.1	
1	6.6	5.8	4.1	233.7	チャート
2	5.4	3.4	4.0	102.8	チャート
3	7.4	4.4	3.5	149.1	チャート
4	5.6	5.6	3.5	82.6	チャート
5	5.7	4.3	2.1	55.8	チャート
6	4.7	4.4	1.6	48.3	チャート
7	5.9	3.8	1.9	47.4	チャート
8	4.3	3.4	2.8	56.6	チャート
9	4.8	4.1	2.6	57.2	チャート
10	4.8	3.8	1.6	38.7	チャート
11	4.8	3.9	2.5	46.1	チャート
12	4.7	2.5	3.1	50.2	チャート
13	4.0	3.2	2.7	43.8	チャート
14	4.3	3.7	3.0	45.4	チャート
15	4.8	4.1	3.1	46.6	チャート
16	5.8	4.6	2.8	51.1	チャート
17	6.0	3.8	3.2	73.1	チャート
18	4.5	4.1	2.5	40.0	チャート
19	4.0	2.9	2.7	35.2	チャート
20	4.0	3.9	2.8	46.8	チャート
21	3.6	3.3	1.8	31.2	チャート
22	5.7	2.5	2.4	36.4	チャート
23	4.0	3.0	2.9	38.9	チャート
24	3.8	3.7	2.5	47.2	チャート
25	3.7	3.5	3.0	44.3	チャート
26	4.2	3.2	2.9	42.5	チャート
27	4.4	3.9	3.5	41.0	チャート
28	3.8	2.4	2.4	30.6	チャート
29	3.4	2.4	2.2	14.8	チャート
30	4.0	2.6	2.4	28.9	チャート
31	3.5	3.1	2.4	24.6	チャート
32	4.1	2.7	3.1	24.0	チャート
33	4.8	2.8	1.8	26.9	チャート
34	3.2	2.6	2.4	25.8	チャート
35	3.4	3.3	2.9	27.2	チャート
36	4.1	2.8	1.9	26.3	チャート
37	4.2	4.1	2.4	22.3	チャート
38	3.9	3.4	2.2	24.4	チャート
39	4.2	2.8	1.5	14.3	チャート
40	3.6	2.7	2.2	23.8	チャート
41	3.3	2.3	2.5	15.7	チャート
42	3.5	2.5	2.4	22.0	チャート
43	3.3	1.9	2.3	15.2	チャート
44	3.3	2.6	1.2	11.9	チャート
45	3.4	2.7	1.9	17.2	チャート
46	3.1	2.8	2.2	19.4	チャート
47	3.4	1.9	2.3	13.7	チャート
48	3.3	2.6	2.5	23.0	チャート
49	3.3	2.8	2.0	19.8	チャート
50	3.3	3.0	1.8	17.5	チャート
51	2.9	2.8	1.5	13.8	チャート
52	3.4	2.0	1.7	13.9	チャート
53	2.9	2.5	2.0	16.4	チャート
54	3.5	2.2	1.9	15.5	チャート
55	4.0	2.3	2.0	12.5	チャート
56	3.6	2.2	1.3	8.8	チャート
57	3.2	2.4	2.0	14.7	チャート
58	3.1	2.5	1.3	13.0	チャート
59	3.5	2.8	1.8	14.9	チャート
60	2.5	1.9	2.2	12.4	チャート
61	2.6	2.4	1.3	9.3	チャート
62	3.4	2.6	1.3	12.3	チャート
63	2.6	2.2	1.4	9.3	チャート
64	2.9	2.8	1.6	10.3	チャート
65	3.0	2.4	1.8	8.9	チャート
66	2.8	2.5	1.2	8.0	チャート
67	3.6	1.9	2.1	12.0	チャート
68	4.5	1.7	0.9	7.4	チャート
69	4.2	1.8	1.5	10.2	チャート
70	2.8	1.8	1.5	7.2	チャート
71	2.8	1.7	1.6	12.6	チャート
72	2.1	1.9	1.5	8.4	チャート
73	2.2	1.9	1.1	3.7	チャート
74	2.5	1.7	1.3	6.1	チャート
75	3.0	1.4	1.0	5.7	チャート
76	2.7	2.2	1.5	10.1	チャート
77	2.4	2.1	1.1	6.5	チャート
78	2.5	1.6	1.4	6.2	チャート
79	2.2	1.8	1.3	5.3	チャート
80	2.1	2.0	1.7	8.7	チャート
81	1.7	1.7	1.3	4.3	チャート
82	2.1	1.7	1.3	3.9	チャート
83	2.4	1.5	1.0	2.8	チャート
84	2.3	1.7	1.2	4.7	チャート
85	2.4	1.5	1.0	2.8	チャート
86	2.3	1.7	1.2	4.7	チャート
87	2.1	1.6	0.8	3.1	チャート
88	1.8	1.2	1.3	2.7	チャート
89	2.1	1.1	0.6	1.6	チャート
90	1.7	1.0	0.3	0.8	チャート
合計重量				2449.3	

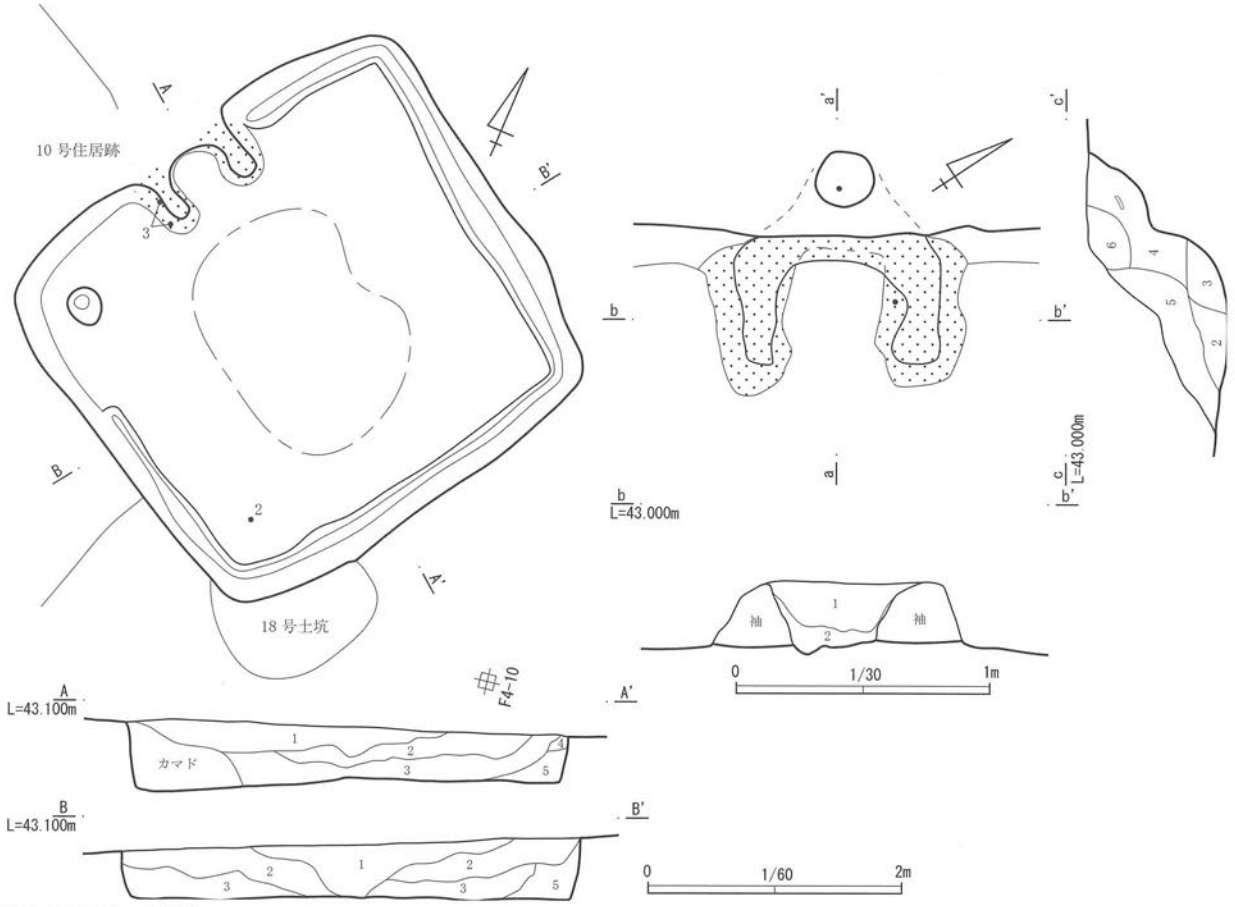
総合計重量　　14,135.9

9 号住居跡　（第 33・34 図，図版 11・12・92）

本遺構は F4-4 グリッド、調査区北部で検出された。18 号土坑に切られ、10 号住居跡を切る。規模は長軸 3.40m、短軸 3.67m、主軸方位は N 56.6° W を指す。確認面からの深さは約 41 cmを測り、掘り込みが深い。覆土は 5 層に分層され、自然堆積の様相を示している。

カマドは西壁中央に設けられ、袖がやや直線的に伸びる。床面は平坦で硬化面が中央に見られる。柱穴は検出されず、周溝は 10 号住居跡との重複部分を除いて巡っている。

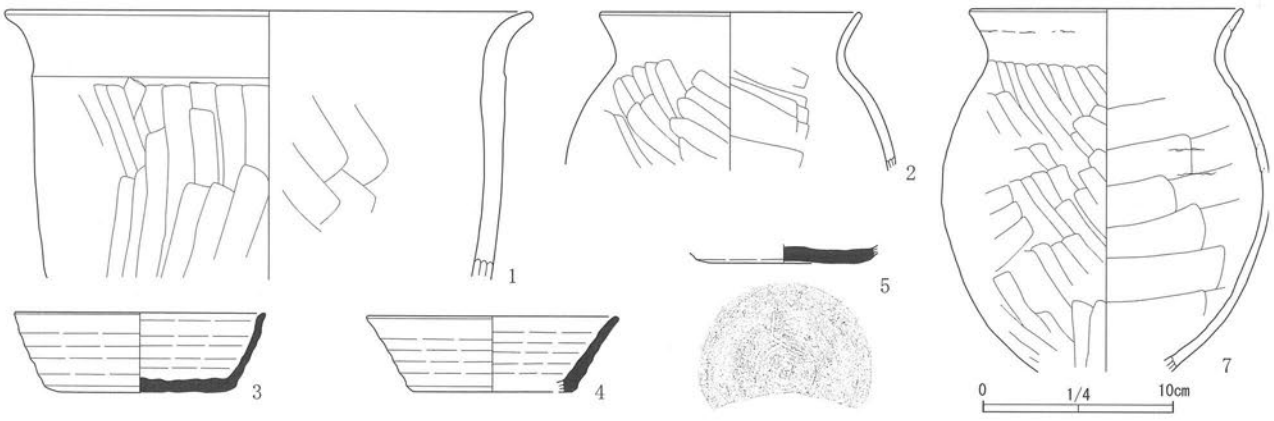
遺物は土師器甑・甕、須恵器坏が出土している。遺物の時期から 8 世紀中頃の住居と判断される。



CUT1　9 号住居　土層説明
1　7.5YR3/4 暗褐色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ 2～50㎜(φ 4㎜主体)少　しまり・粘性中
2　7.5YR2/1 黒色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ 2～50㎜(φ 4㎜主体)多　しまり・粘性中
3　7.5YR3/4 暗褐色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ 2～50㎜(φ 4㎜主体)少　しまり・粘性中
4　7.5YR4/4 褐色土　ソフトロームブロック　しまり強　粘性中
5　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　炭化粒少　しまり・粘性中

CUT1　9 号住居カマド　土層説明
1　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2㎜　中　焼土粒φ 2㎜少
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・焼土ブロックφ 2㎜多
3　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2～10㎜少
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ロームブロックφ 2～20㎜（10㎜主体）多
5　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・焼土粒φ 2㎜　多　土器片多く混入

第 33 図　9 号住居跡



第 34 図　9 号住居跡出土遺物

表 15　9 号住居跡遺物観察表

cm, g

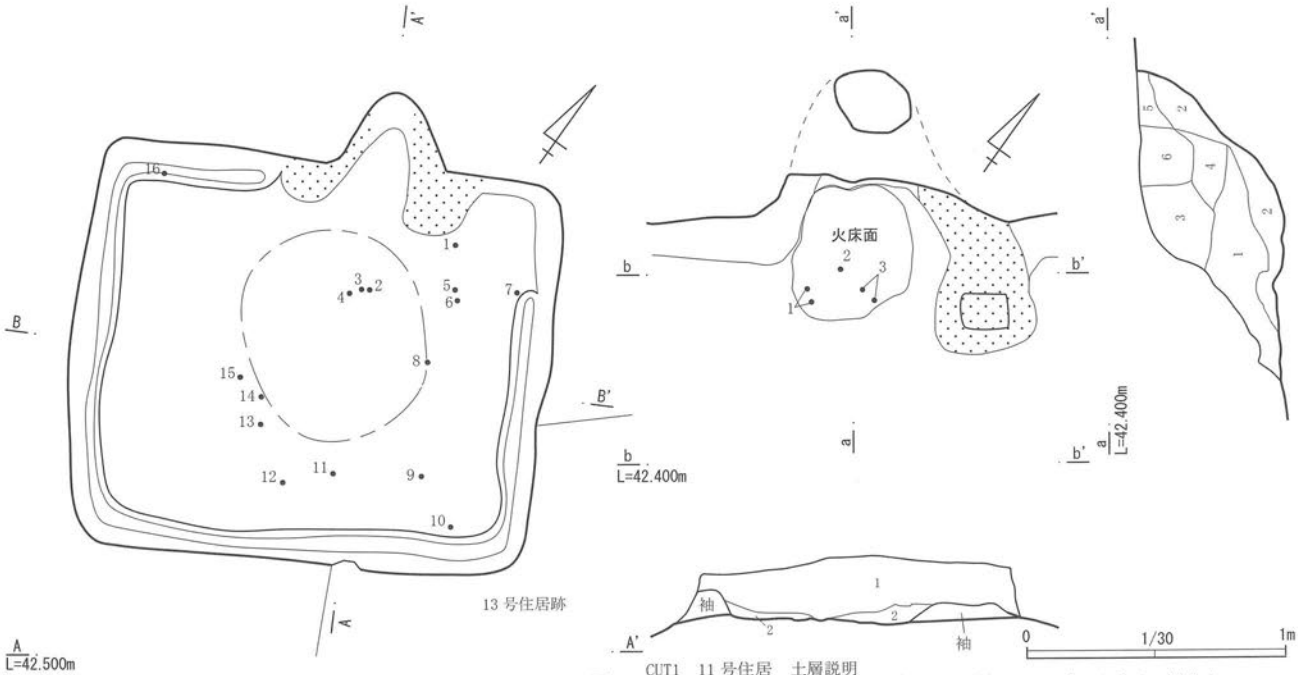
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甑ヵ	(14.4)	—	〈14.2〉	495.8	バケツ型ヵ。胴部は僅かに内湾するものの直線的で、口縁に向かい緩やかに外反する。器壁は厚い。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英・雲母多い。	口縁1/3 同上半1/4	
2	No.5	土師器	甕	13.6	—	〈8.4〉	69.1	胴部の張りは強い。口縁は緩やかに「く」の字に外反する。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	内外面　10YR6/6明黄褐	白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～胴上半1/4	
3	No.1 ｶﾏﾄﾞ No.2	須恵器	坏	13.0	8.6	4.2	160.2	底部は平底。体部下端は直線的に開き、上位で僅かに内湾した後口唇で短く外反する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y7/3浅黄 外面　2.5Y7/4浅黄	暗灰色粒子・黒色粒子少量。雲母微量。	口縁部1/6 欠損	
4	覆土	須恵器	坏	(13.0)	(8.4)	〈4.0〉	29.1	体部は外反気味に開く。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　5Y6/1灰	長石・黒色粒子少量。雲母・白色粒子微量。	口縁～底部1/5	新治産
5	覆土	須恵器	坏	—	7.6	〈1.0〉	61.5	底部はやや上げ底気味の平底。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　7.5Y7/1灰白	鉄分の噴き出し・黒色粒子少量。白色針状物質微量。小礫(長石・石英)少量。	底部5/8	ヘラ記号ｱﾘ
6	No.6・10 ﾎﾘｶﾀ	土師器	甕	(14.4)	—	〈19.2〉	413.1	胴部はやや長胴気味の球形で最大径を中位に有す。口縁は緩やかに「く」の字に外反する。	口縁は内外面共に横ナデ、体部外面は斜方向のナデ、内面は横方向のナデ。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/6明黄褐	雲母・白色針状物質・白色粒子少量。	口縁～胴下半1/2	

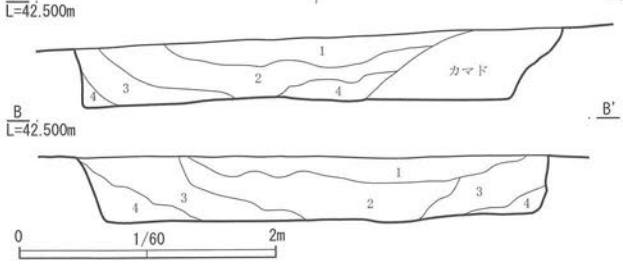
11 号住居跡　(第 35・36 図，図版 13・14・93)

本遺構は F4-10 グリッドに於いて検出された。13 号住居跡を切る。規模は長軸 3.77m、短軸 3.76m、主軸方位は N 31°　W を指す。確認面からの深さは 50 cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。周溝は北東隅とカマドを除き全周する。覆土は 4 層に分層され、自然堆積の様相を示している。

カマドは北壁東寄りに付設され右袖が若干遺存する。壁外に煙道が確認され、火床面が検出され、カマド内から遺物も出土した。柱穴は検出されなかったが、カマド前から住居中央にかけて硬化面が確認された。

遺物から遺構も 8 世紀中葉と見られる。

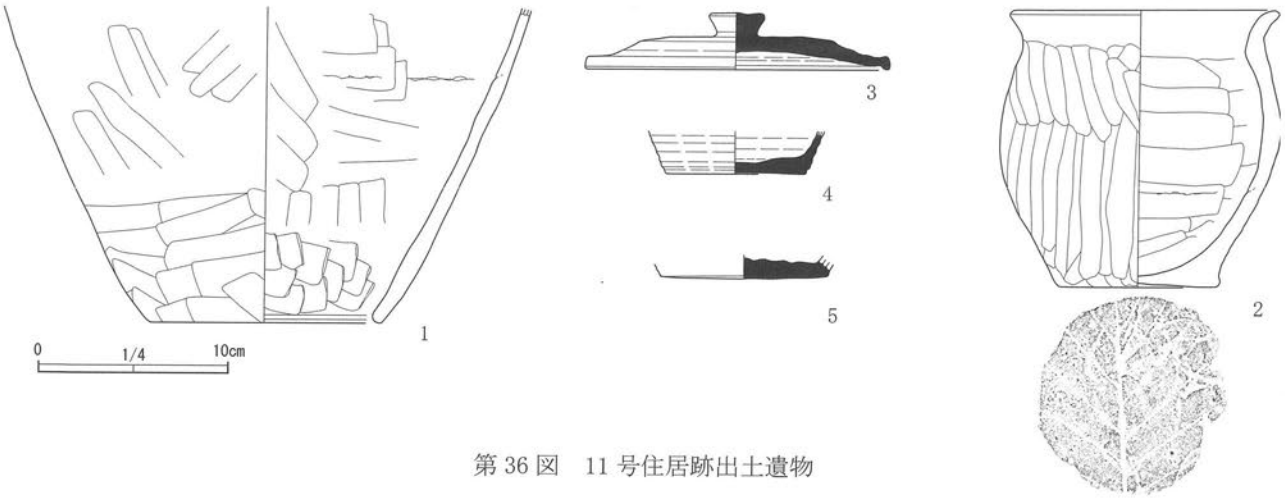




CUT1　11 号住居　土層説明
1　7.5YR2/3 黒色土（砂質シルト）　ローム粒φ～3 mm少　しまり・粘性中
2　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2～30 mm（φ 2 mm主体）主体　1 層に類似した黒色土φ 2～50 mm（φ 5 mm主体）多　炭化粒少　しまり・粘性中
3　7.5YR2/3 黒色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2～3 mm中　炭化粒少　しまり・粘性中
4　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2～50 mm（φ 5 mm主体）多　しまり・粘性中

CUT1　11 号住居カマド　土層説明
1　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒中　しまり・粘性中
2　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質シルト）　ローム粒少　炭化粒・焼土粒少　しまり・粘性中
3　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2 mm中　しまり・粘性中
4　7.5YR3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2 mm中　しまり・粘性中
5　7.5YR2/3 黒色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2 mm少　しまり・粘性中
6　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ 2 mm中　焼土粒中　しまり・粘性中

第 35 図　11 号住居跡



第 36 図　11 号住居跡出土遺物

表 16　11 号住居跡遺物観察表

cm, g

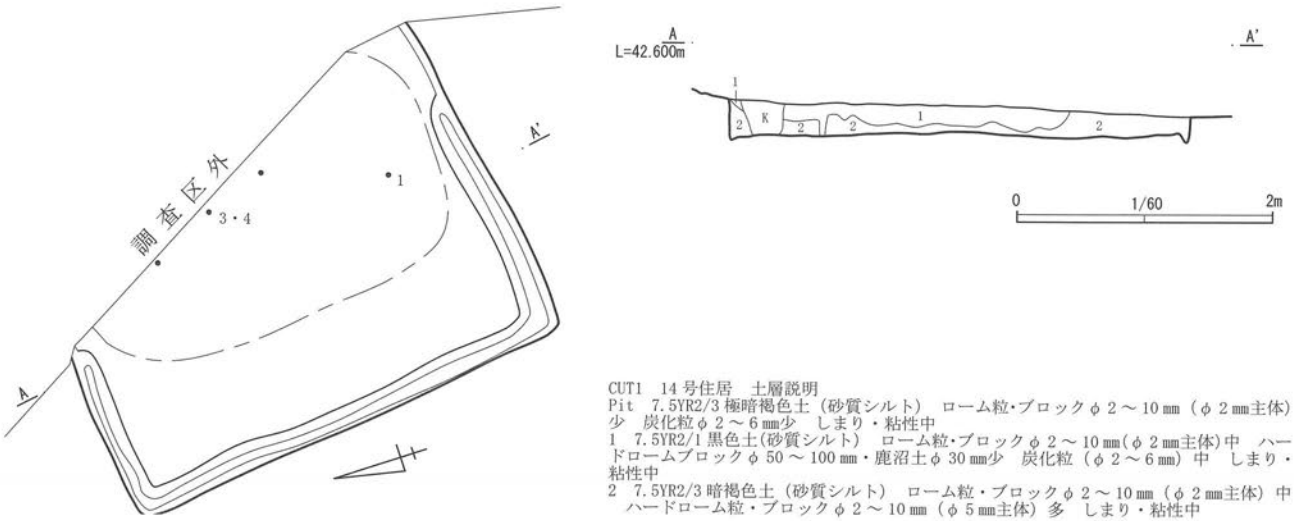
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		土師器	甑	—	12.0	〈16.3〉	516.2	バケツ形。胴部は直線的に開く。	外面はナデ、下端はヘラケズリ。内面はヘラナデ。	良好	内外面　10YR5/4 にぶい黄褐	長石・石英・雲母多い。	体下半1/4	
2		土師器	甕	13.4	8.2	14.7	832.7	底部はやや上げ底気味の平底で広さがある。胴部は最大径を中位に有すものの張りは弱い。口縁は緩やかに「く」の字に外反する。器壁は厚い。	底部木葉痕。胴部外面ヘラケズリ、内面はナデ。口縁は内外面共に横ナデ。	良好	内面　10YR5/4 にぶい黄褐 外面　7.5YR5/4 にぶい褐	白色粒子・雲母多い。黒色粒子少量。白色針状物質微量。	胴部一部欠損	
3	No. 9	須恵器	蓋	(15.9)	摘み径2.9	3.0	153.5	天井は緩やかに内湾し端部は短く垂下する。返しは持たない。天井中央に扁平な擬宝珠状のツマミを有す。	ロクロ整形。天井部のヘラケズリは1/6。	良好	内面　5Y4/1灰 外面　5Y6/1灰	鉄分の噴き出しやや多い。小〜中礫目立つ。	天井部1/2	
4	No. 15	須恵器	坏	—	(8.3)	〈2.3〉	36.7	底部は小形でやや上げ底気味の平底。体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　N7/0灰白 外面　5Y7/1灰白	黒色粒子・石英・雲母やや多い。角閃石微量。	底部1/4	
5	覆土	須恵器	坏	—	7.2	〈1.3〉	89.4	底部は平底で厚さがある。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　5Y5/1灰	白色粒子やや多い。鉄分の噴き出し少量。小〜中礫（長石・石英）目立つ。	底部完形	

14 号住居跡　（第 37・38 図，図版 16・93）

本遺構は G4-6 グリッド、調査区北部で検出された。調査区壁に掛かり、全体は不明だが、残存規模は長軸 3.67m、短軸（2.71）m、主軸方位は N 7.1° W を指す。確認面からの深さは約 23 cmを測る。覆土は 2 層に分層される。

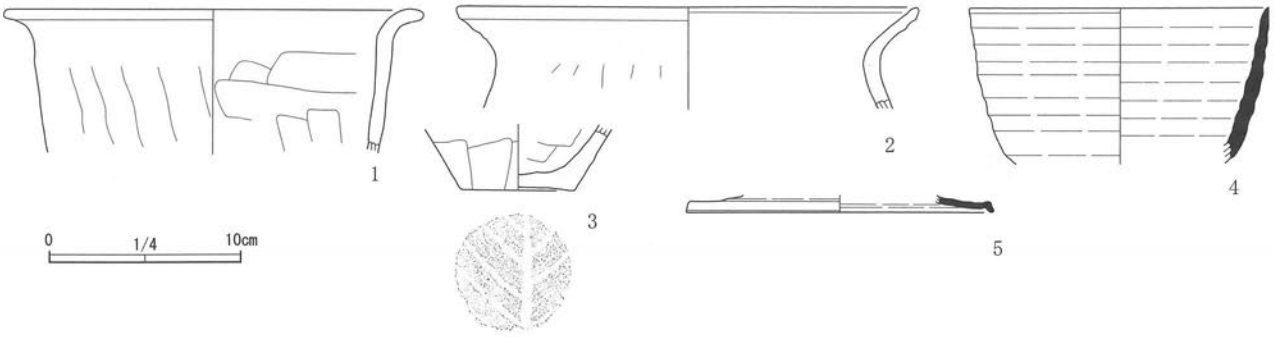
カマドは検出されていないが調査区外に存在すると思われる。床面は平坦で硬化面が中央に見られる。柱穴は検出されず、周溝は調査範囲では概ね検出された。

遺物は土師器甑・甕、須恵器蓋・坏が出土している。遺物の時期から 9 世紀前半の遺構と判断される。



CUT1　14 号住居　土層説明
Pit　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜（φ 2 ㎜主体）少　炭化粒φ 2 〜 6 ㎜少　しまり・粘性中
1　7.5YR2/1 黒色土(砂質シルト)　ローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜(φ 2 ㎜主体)中　ハードロームブロックφ 50 〜 100 ㎜・鹿沼土φ 30 ㎜少　炭化粒（φ 2 〜 6 ㎜）中　しまり・粘性中
2　7.5YR2/3 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜（φ 2 ㎜主体）中　ハードローム粒・ブロックφ 2 〜 10 ㎜（φ 5 ㎜主体）多　しまり・粘性中

第 37 図　14 号住居跡



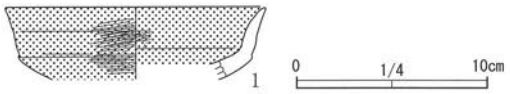
第 38 図　14 号住居跡出土遺物

表 17　14 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 4	土師器	甕	(21. 4)	—	〈7. 6〉	135. 0	胴部は直線的に立ち、口縁は「C」の字に外反する。	口縁は内外面共に横ナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好	内面　2. 5Y4/2暗灰黄 外面　2. 5Y5/3黄橙	小～中礫(長石、石英)多量混入。	胴部上位～口縁1/4	
2	覆土	土師器	甕	(23. 8)	—	〈5. 4〉	87. 1	口縁は「く」の字に外反し、口唇は摘み上げられた後面取られている。	口縁は内外面共に横ナデ、体部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好 二次焼成?	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面7. 5YR6/6橙	黒色粒子・雲母やや多い。白色粒子少量。	口縁部1/5	
3	No. 2	土師器	甕	—	6. 0	〈3. 5〉	138. 6	底部はやや上げ底気味の平底。胴部下端は直線的に開く。	底部木葉痕。胴部下端外面ヘラケズリ、内面はナデ。	良好	内面　7. 5YR5/6明褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	小礫(長石・石英・雲母)・黒色粒子多い。	胴部下端～底部	
4	No. 2	須恵器	坏	(15. 6)	—	〈8. 3〉	62. 3	体部は僅かに内湾するものの直線的に立つ。深身である。	ロクロ整形。	良好	内面　2. 5Y6/3にぶい黄 外面　2. 5Y7/2灰黄	雲母多い。長石・石英少量。	口縁～体部1/6	
5	覆土	須恵器	蓋	(15. 9)	—	〈0. 9〉	11. 7	弓張り状を呈し、裾部で僅かに外反した後端部は短く垂下する。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y4/1灰 外面　2. 5Y5/2暗灰黄	鉄分の噴き出し少量。白色粒子・小礫微量。	端部1/8	

第 2 項　その他の遺構　(図版 18・93)



第 39 図　15 号土坑出土遺物

表 18　15 号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	坏	(13. 7)	—	〈3. 8〉	33. 2	底部は丸底か。体部は緩やかに内湾し下位に明瞭な稜を有した後外反する。器壁は厚い。	外面はミガキ。内面は剥落しているが、体部に僅かにミガキが観察される。	良好	内面　7. 5YR5/6明褐 外面　7. 5YR5/4にぶい褐	黒色粒子・雲母少量。白色粒子微量。	口縁～体部1/8	

表 19　CUT1 土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	規　模 長径×短径×深さ(cm)	備　考
SK01	F5-13	175.6×86.4×26.0	
SK02	F5-12	159.7×158.2×10.0	
SK03	F5-12	132.0×125.2×16.0	>SD02
SK04	F5-2	93.0×(41.8)×9.0	<SK05
SK05	F5-2	164.1×(121.2)×27.0	>SK04
SK06	F5-2	141.3×138.7×71.0	
SK07			欠番
SK08			欠番
SK09			欠番
SK10	F4-23	145.9×144.6×28.0	
SK11	F5-4	98.1×92.5×35.0	>SI02
SK12	F4-24	124.1×111.3×15.0	>SI05
SK13	F4-15	149.7×146.8×88.0	
SK14	F4-15	95.5×93.4×33.0	
SK15	F4-10	145.6×137.2×104.0	
SK16	F4-10	147.9×144.3×129.0	>SI12
SK17			欠番
SK18	F4-4	129.6×(104.8)×12.0	<SI09
SK19	F4-14	150×44.1×40.0	

遺構名	位　置	規　模 長径×短径×深さ(cm)	備　考
SK20	F3-25	88.2×77.8×25.0	
P01	F5-4	73.8×55.1×30.0	
P02	F5-7	50.1×40.8×17.0	>SD05
P03	F5-8	64.9×55.1×11.0	>SD05
P04	F5-11	23.2×23.2×28.0	>SD03
P05	F4-14	38.8×36.3×31.0	
P06	F4-14	30.4×30.1×70.0	
P07	F4-14	49.2×31.5×109.0	
P08	F4-14	53.5×41.1×33.0	
P09	F4-5	44.5×36.0×18.0	
P10	F4-5	44.2×44.2×47.0	
P11	F4-5	41.2×41.2×48.0	
P12	F4-5	40.2×40.2×50.0	

表 20　CUT1 溝計測表

遺構名	重複	方位	断面形	規模	走向	備考
1号溝	7・11・17・18・21号住居、P30～33・37を切る	N35° E	鍋底状	幅1.50～2.00m 深さ40～50cm	底面標高北端19.57m、南端18.40m。 北-南	土師器・須恵器・縄文土器が出土。
2号溝	1号住居を切る	N65° E	皿状	幅0.48～0.83m 深さ9～12cm。	底面標高北端21.05m、南端21.12m。 南西-北東	須恵器片が出土
3号溝	P34～36に切られる。P22を切る。	N35° E	鍋底状	幅0.50～1.30m 深さ9～12cm	底面標高北端20.99m、南端20.87m。 北－南	土師器・須恵器・近世陶磁器・鉄製品・礫が出土している。
4号溝	21号掘立柱建物を切る	概ねN90° E	皿状	幅0.60～0.90m 深さ8～15cm	底面標高東端20.89m、西端20.81m。 東－西－南西	土師器・須恵器・近世陶磁器・発泡滓・礫が出土している。
5号溝	25・26号住居、16・17号掘立柱建物を切る	N65° W	鍋底状	幅1.70～1.90m 深さ30～35cm	底面標高北端20.53m、南端20.57m。 北－南	土師器・須恵器・瓦・礫が出土している。

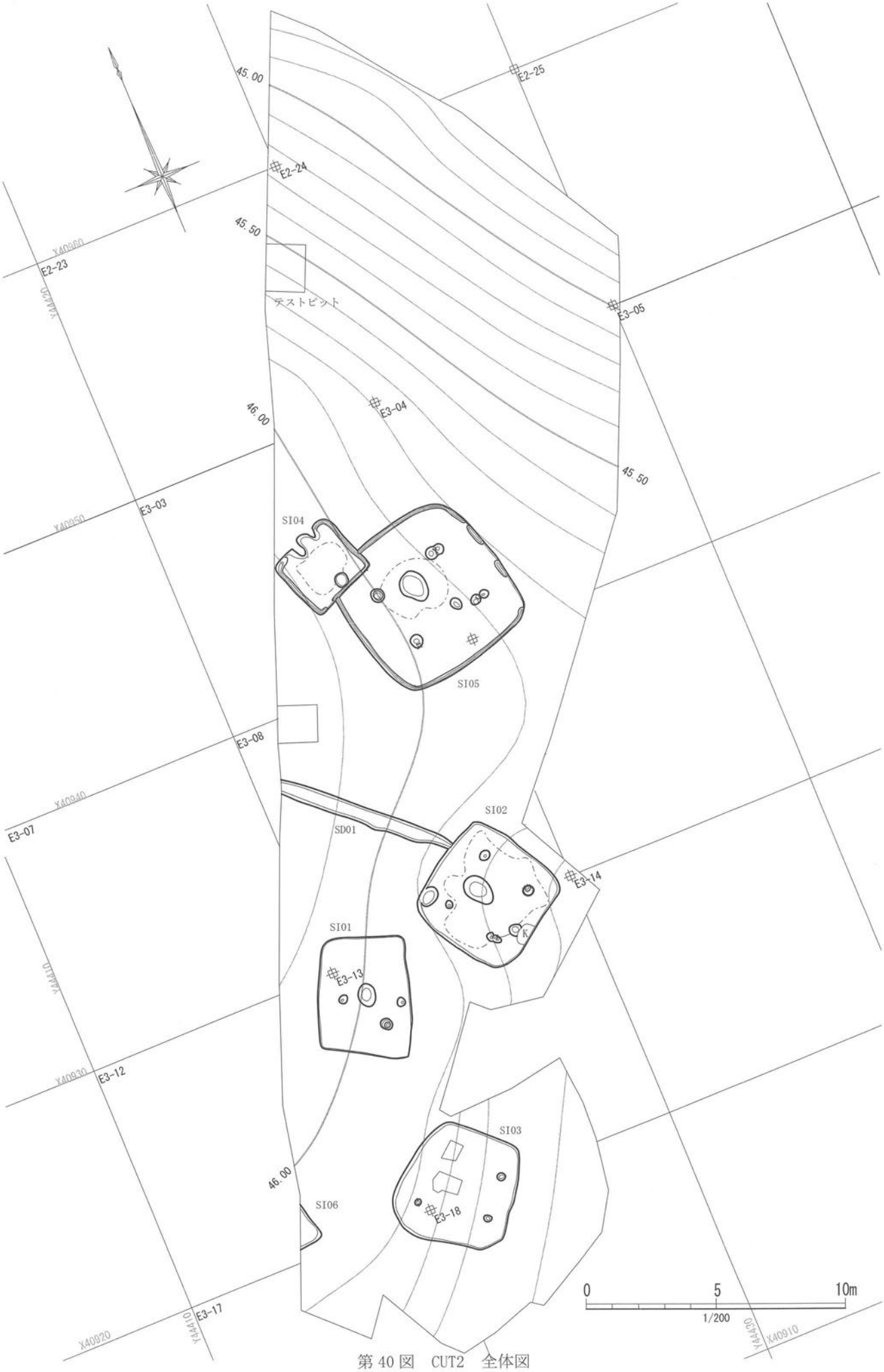
第 3 章まとめ

CUT1 においては縄文土器が出土しており、付近に当該期の遺構が存在する可能性が指摘される。

弥生時代の遺構は 5・10・12・13 号住居が検出され、5･12 が弥生時代後期、10・13 が 4 世紀前～中葉、弥生時代末期と判断される。十王台 1 式～ 2 式新段階の壺が主に出土し、2 式段階では五領式土器との共伴関係が重要である。

古墳時代に入ると 3・4・8 号住居が検出され、陶邑産須恵器が出土した 5 世紀前～中葉の 4・8 号住居においては住居の隅に長方形の貯蔵穴を持つ。3 号住居は 6 世紀後半の住居でカマドが住居隅に付設される。

奈良・平安時代になると 8 世紀中葉には 9・11 号住居、やや遅れて 8 世紀後半にかけて 7 号住居が見られる。9 世紀前半になると、1・6・14 号住居が出現し、9 世紀後半には 2 号住居 1 軒となる。前代までの住居と比較して規模が縮小化し、カマドが壁の中央に配されるようになる。



第40図　CUT2　全体図

Ⅲ　CUT2

第１章　遺跡の概要

本調査区は１区の北西に位置し、おおむね南北方向に長三角形状の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で46mを測り、北東方向に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は住居跡６軒である。弥生時代住居跡３軒、古墳時代住居跡１軒、平安時代住居跡２軒である。その他では、時期不明の溝１条が検出されている。遺構は耕作によって大きく攪乱を受けており、遺構の遺存状況は不良である。

第２章　検出された遺構・遺物

第１節　弥生時代の遺構と遺物

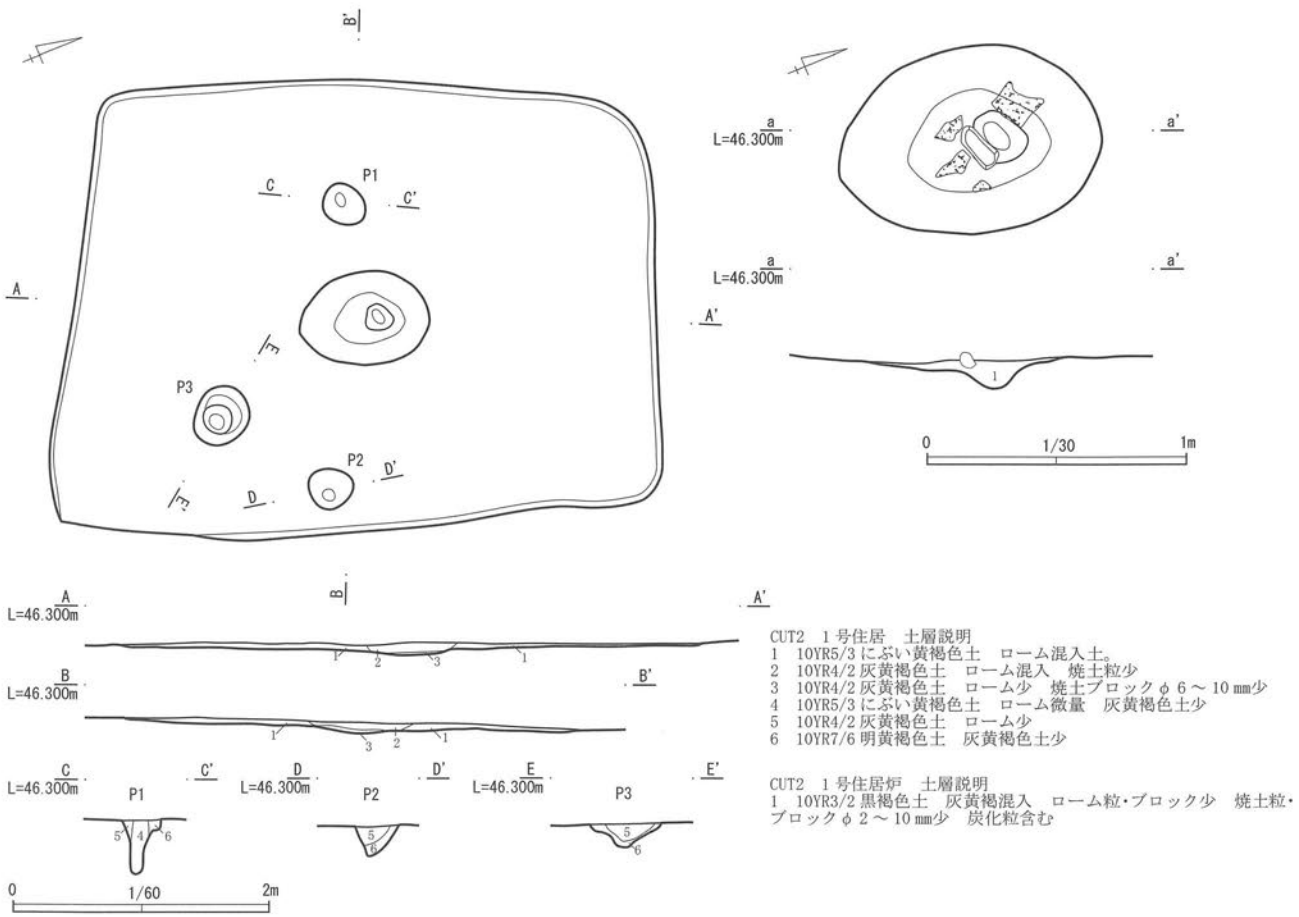
第１項　住居跡

1号住居跡　（第41図，図版22・23）

本住居跡はE3-8,12,13グリッドに於いて検出された。長軸は4.57m、短軸は（3.59）m、確認面下の掘り込みの深さは５cm以下で、覆土は単層である。住居東部は削平され残存していないが、平面は方形であったと推測される。柱穴は炉を挟んで東西に１基ずつ検出された。P3については柱穴としていいか不明である。

炉は住居のほぼ中央に敷設されたと考えられるが、掘り込みの深さは3.8cmと浅く、103cm×74cmの楕円形を呈する。炉の中央より北寄りに径21.4cmで深さ11cmのピットが見られ、その縁から炉石が出土した。焼土は炉底面に疎らに検出された。

遺物の出土はなく、時期が明示できないが、遺構の形状から弥生～古墳時代の住居の可能性が考えられる。



CUT2　１号住居　土層説明
1　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム混入土。
2　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム混入　焼土粒少
3　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム少　焼土ブロックφ６～10㎜少
4　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム微量　灰黄褐色土少
5　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム少
6　10YR7/6 明黄褐色土　灰黄褐色土少

CUT2　１号住居炉　土層説明
1　10YR3/2 黒褐色土　灰黄褐混入　ローム粒・ブロック少　焼土粒・ブロックφ２～10㎜少　炭化粒含む

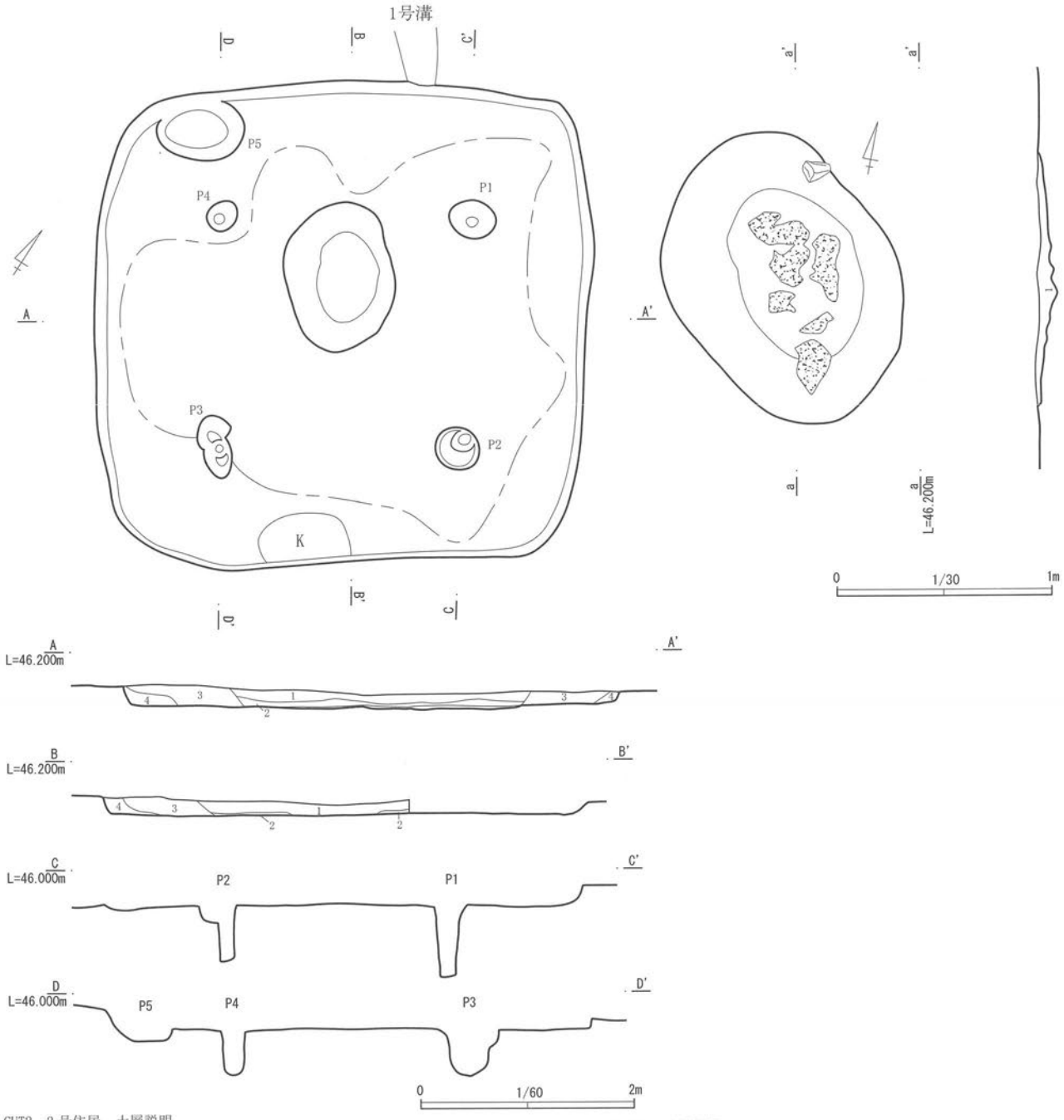
第41図　１号住居跡

2号住居跡　（第42・43図，図版23・93）

本住居跡はE3-8,13グリッドに於いて検出された。長軸は45.8m、短軸は46.5m、確認面下の掘り込みの深さは10cmで、覆土は4層である。平面は方形である。柱穴は4基あり、対称に配され、炉が北西寄りに敷設される。硬化面は住居内に広く分布している。

炉は南北に長い不整楕円形で142.5cm×103.1cmの楕円形を呈する。掘り込みの深さは6.4cm以下で底面にはやや凹凸が見られる。焼土は炉底面に疎らに検出された。炉石の一部と見られる礫が炉の縁より出土した。

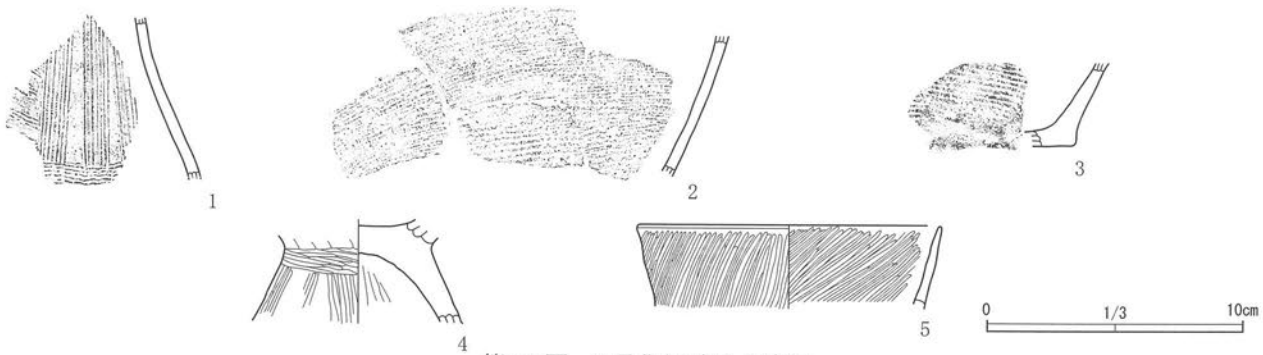
遺物は十王台2式の壺片3点と五領式の台付甕（4）、坩（5）が共伴している。遺物の時期から、4世紀前半～中葉の遺構と判断される。



CUT2　2号住居　土層説明
1　10YR2/3黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒少
2　10YR2/2黒褐色土　ロームブロック多　焼土粒・炭化粒少
3　10YR5/3にぶい黄褐色土　ローム粒少　炭化粒微量
4　10YR5/4にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロックφ5～25㎜やや多

CUT2　2号住居炉　土層説明
1　10YR2/3黒褐色土　ローム粒少　焼土粒φ2～3㎜・焼土ブロックやや多

第42図　2号住居跡



第 43 図　2 号住居跡出土遺物

表 21　2 号住居跡遺物観察表

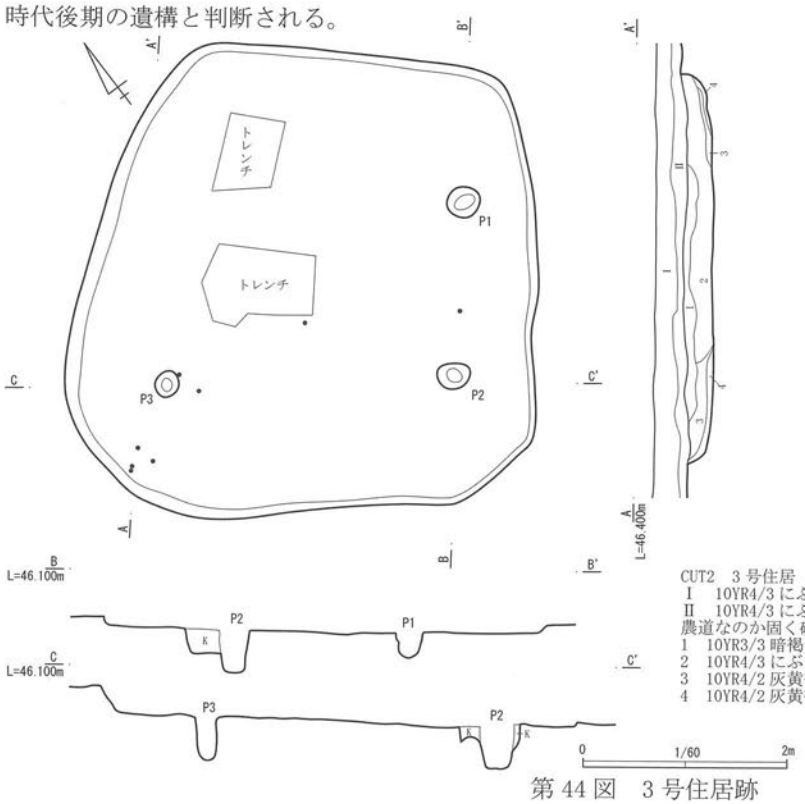
cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈6.9〉	17.2	内傾する頸部の破片。縦方向のスリット状区画の内部に縦方向の条線と横方向の条線を交互に充填する。櫛歯の本数は7本程度と多い。		良好	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　10YR3/41黒褐	雲母・白色針状物質微量。	胴部片	
2	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈5.8〉	44.6	胴下半部の破片である。全面に付加条第1種の縄が施文される。		良好	内面　10YR7/3にぶい黄橙 外面　10YR2/2黒褐	雲母微量。	胴部片	
3	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈3.3〉	15.3	底部の細片である。胴部下端にまで付加条第1種の縄が施文され		良好	内面　2.5YR7/2灰黄 外面　2.5YR8/3淡黄	白色粒子少量。雲母微量。	底部片	
4	覆土	土師器	台付甕	—	—	〈4.1〉	65.8	接合部の資料。脚部は大きく開く。	脚部外面はミガキ、内面はナデ。上塊部の調整は不明。	良好	脚内面　7.5YR7/6橙 脚外面　10YR6/4にぶい黄橙 上塊部　10YR6/3にぶい黄橙	長石・石英やや多い。白色針状物質微量。	接合部1/2	古墳時代中期
5	覆土	土師器	坩	-11.8	—	〈3.3〉	32.2	口縁は直線的に立ち、口辺で僅かに薄くなる。	内外面共に斜方向のミガキ。	良好	内外面　10YR7/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母少量。	口縁部1/3	

3 号住居跡　（第 44・45 図，図版 24・94）

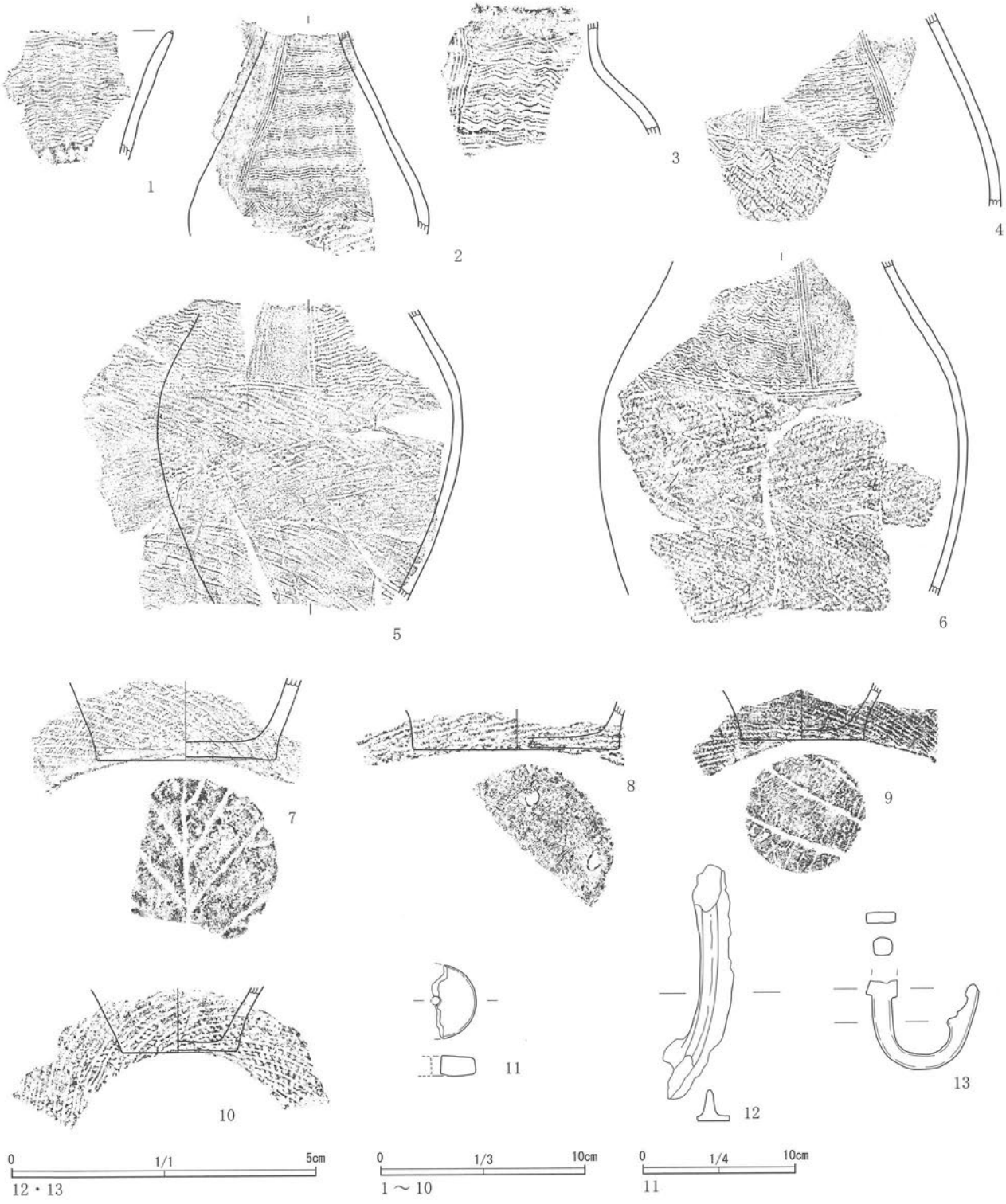
本住居跡は E3-12, 13, 17, 18 グリッドに於いて検出された。長軸は 4.49m、短軸は 4.38m、確認面下の掘り込みの深さは 31.7 ㎝で、覆土は 4 層で自然堆積の様相を呈する。平面は南西が広角になる隅丸方形である。柱穴は 3 基しか検出されず、硬化面や炉も検出されていない。

遺物は十王台 1 式古段階の壺（1 ～ 10）、土製紡錘車（11）、鉄製鋤先（12）などが出土した。遺物の時期から弥生時代後期の遺構と判断される。



CUT2　3 号住居　土層説明
Ⅰ　10YR4/3 にぶい黄褐色土　耕作土。
Ⅱ　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロックφ 2 ～ 20 ㎜少　耕作土。農道なのか固く硬化する
1　10YR3/3 暗褐色土　黒褐色土少
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒少　炭化粒微量
3　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム微量　炭化粒微量
4　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム少

第 44 図　3 号住居跡



第45図　3号住居跡出土遺物

表22　3号住居跡遺物観察表（1）

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈6.8〉	27.5	緩やかに外反する口縁部の破片。頸部に指頭圧痕による低い隆帯が巡り、口辺部は横方向位の櫛描波状文が密に施文される。		良好	内面　7.5YR6/4にぶい橙 外面　10YR5/3にぶい黄褐	白色粒子微量。	胴部片	
2	覆土	弥生式土器	壺	—	—	〈10.7〉	62.3	頸部がやや細身になる壺である。下半で緩やかに内湾した後、強く内傾する。頸部には縦方向のスリット状区画が設けられ、内部に横方向の櫛描波状文が等間隔に描かれる。文様部は胴部の最大部分までで、最大部分には弧状の櫛描文が巡る。胴部下半にはLRの付加条第1種の縄が施文される。		良好	内面　7.5YR7/6橙 外面　10YR8/4浅黄橙	石英・雲母微量。	胴部片	
3		弥生式土器	壺	—	—	〈6.3〉	26.7	頸部は緩やかに外反気味に屈曲する。脚部には縦方向のスリット状区画が設けられ、内部に横方向の櫛描波状文がやや雑に充填される。頸部は上端には指頭圧痕による低い隆帯の貼り付けが観察される。		良好	内外面 7.5YR5/3にぶい褐	黒色粒子・雲母微量。	胴部片	
4		弥生式土器	壺	—	—	〈10.1〉	47.8	頸部に向かい緩やかに内湾する胴部上半の破片。胴上半から頸部にかけては縦方向のスリット状区画が設けられ、無文帯と櫛描波状文が充填される部分が交互に配される。文様部との境には、櫛描波状文が巡る。胴部はRLの付加条第1種の縄文が施文される。		良好	内面　10Y7/3にぶい黄橙 外面　10Y6/3にぶい黄橙	白色粒子・雲母微量。	胴部片	

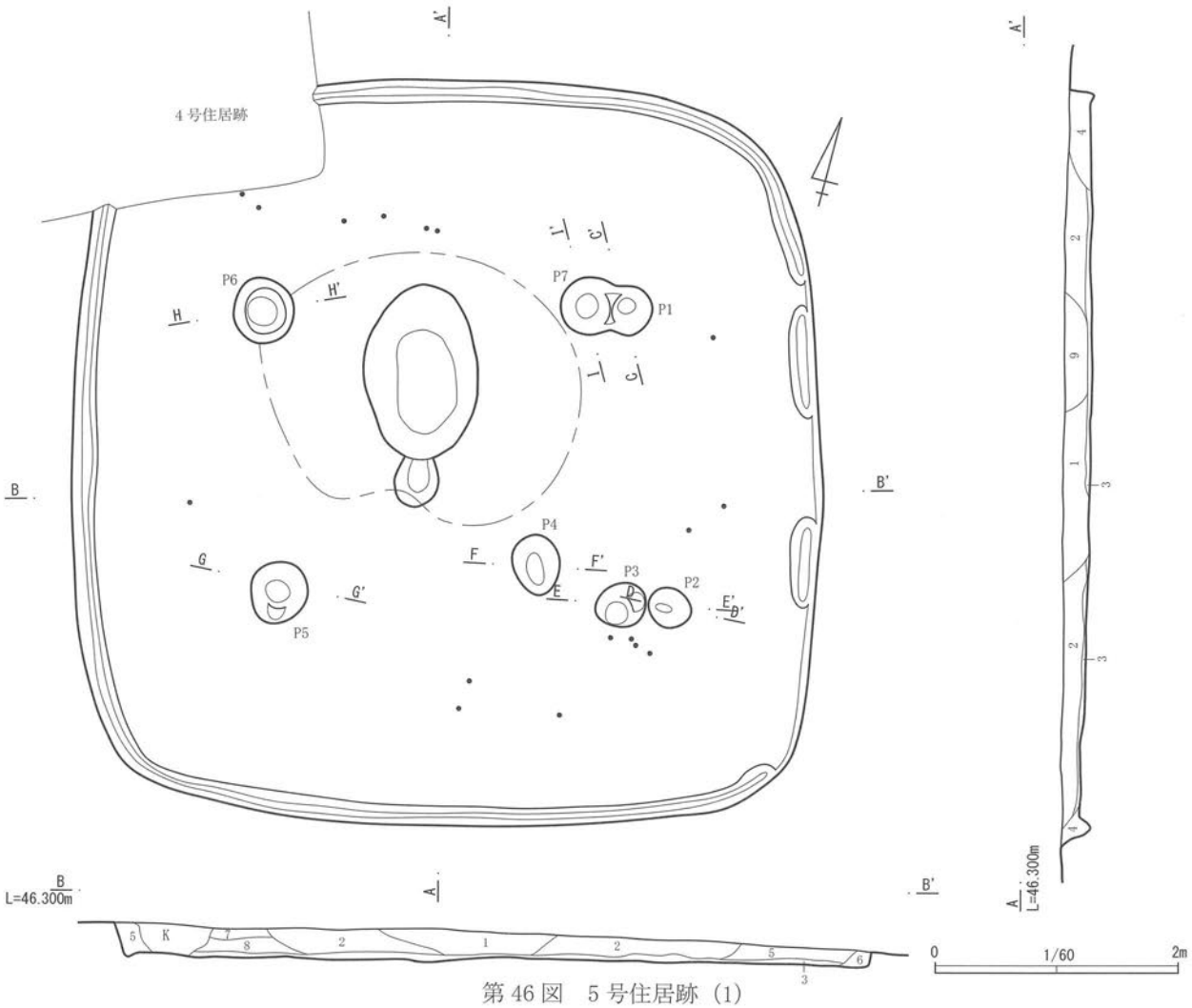
表 23　3 号住居跡遺物観察表（2）

cm, g

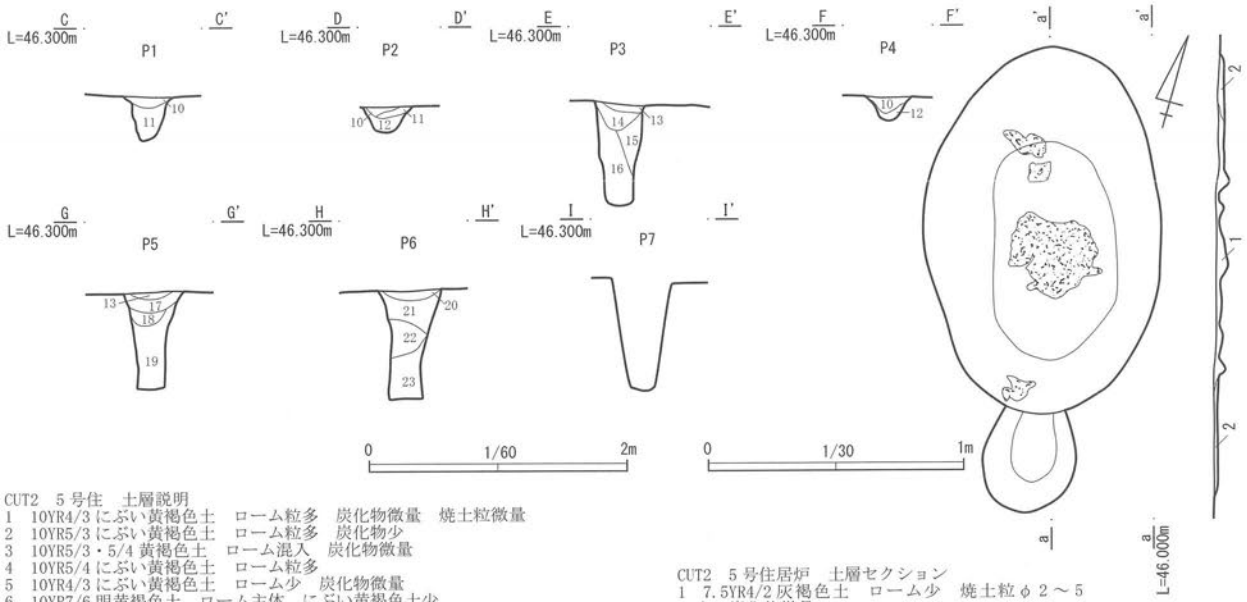
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
5		弥生式土器	壺	—	—	〈14.5〉	168.6	細身の壺形土器で、文様部は胴部最大径よりも上半に位置する。文様帯は縦方向のスリット状区画が設けられ、横方向の櫛描波状文が密に施文される区と無文部が交互に配される。胴部はRL、LR、RLの付加条第1種の縄文が施文され羽状を構成している。		良好 二次焼成ｱﾘ	内外面　2.5Y6/4にぶい黄	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。白色針状物質・小礫（石英）微量。	胴部大破片	煤付着
6	SI-4 No.4	弥生式土器	壺	—	—	〈16.7〉	146.9	細身の壺形土器で、文様部は胴部最大径よりも上半に位置する。文様帯は縦方向のスリット状区画が設けられ、横方向の櫛描波状文が密に施文される区と無文部が交互に配される。胴部はLR、RL、LRの付加条第1種の縄文が施文され羽状を構成している。		良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母小量。	胴部大破片	
7		弥生式土器	壺	—	8.7	〈4.0〉	134.9	底部はやや上げ底気味の平底で、胴部下端は僅かに内湾する。	底部木葉痕	良好	内面　2.5Y7/2灰黄 外面　2.5Y7/3浅黄	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。小礫（石英）やや目立つ。	底部2/3	
8		弥生式土器	壺	—	〈2.0〉	10.0	53.4	底部はやや上げ底気味の平底で、胴部下端は直線的に開く。	底部布目	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母小量。白色針状物質微量。	底部1/2	
9		弥生式土器	壺	—	6.0	〈2.5〉	74.2	底部はやや上げ底気味の平底で、胴部下端は直線的に開く。小形である。	底部木葉痕	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/3にぶい黄褐	黒色粒子・雲母微量。	胴部下端～底部	
10		弥生式土器	壺	—	5.6	〈3.2〉	71	底部は平底で、胴部下端は緩やかに外反する。小形である。		良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR8/6黄橙 外面　2.5Y6/4にぶい黄	白色粒子・黒色粒子・雲母・ｽｺﾘｱ小量。金雲母微量。	胴部下端～底部	
11		土製品	紡錘車	長さ5.0	厚さ1.3	—	18.7	断面形は板状で側面はやや丸みを帯びる。	指による整形。	良好	5Y3/1オリーブ黒	白色針状物質・雲母少量。	1/2	
12		鉄製品	鋤先ヵ	残存長7.8　幅1.0　厚さ1.1　重量19.4。弧状を呈する鉄製品の断片である。鍛造品で断面は逆T字を呈する。鋤先の上端付近の破片と判断した。										
13		鉄製品	不明	残存長2.5　茎部　幅0.65　厚さ0.6　両関部　幅1.0　厚さ0.3　重量7.6。釣り針状に屈曲する。屈曲部分の断面形は円形で、上端部分では長方形を呈する。こ										

第 2 節　古墳時代の遺構と遺物

第 1 項　住居跡



第 46 図　5 号住居跡（1）



CUT2　5号住　土層説明
1　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒多　炭化物微量　焼土粒微量
2　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム粒多　炭化物少
3　10YR5/3・5/4 黄褐色土　ローム混入　炭化物微量
4　10YR5/4 にぶい黄褐色土　ローム粒多
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム少　炭化物微量
6　10YR7/6 明黄褐色土　ローム主体　にぶい黄褐色土少
7　10YR5/4 にぶい黄褐色土　ローム粒多
8　10YR4/2 灰黄褐色土　明黄褐土混入　ローム粒多　炭化物微量
9　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒多　黒褐色土少　炭化物微量
10　10YR5/2 灰黄褐色土　ローム粒少　炭化物微量
11　10YR5/2 灰黄褐色土　ローム混入　ローム粒多　炭化物微量
12　10YR7/6 明黄褐色土　ローム主体
13　2.5Y4/1 黄灰色土　黄褐色土混入　ローム少　炭化粒微量
14　10YR5/4 にぶい黄褐色土　ローム粒少　黄灰色土微量
15　10YR5/4 にぶい黄褐色土　ローム粒やや多　鹿沼土・炭化物微量。
16　10YR7/6 明黄褐色土　ローム主体　にぶい黄褐色土微量
17　10YR5/3 にぶい黄褐色土　黄褐色土混入　ローム粒・ブロックφ2～15㎜多　炭化物少
18　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム粒φ2～8㎜少　炭化物多
19　10YR5/3 にぶい黄褐色土　炭化物・鹿沼土少
20　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム少　炭化物粒微量
21　2.5Y5/3 黄褐色土　黄褐色土主体　ローム粒・ブロックφ2～12㎜少　焼土粒・炭化粒微量
22　2.5Y5/3 黄褐色土　ロームブロック微量　鹿沼土粒微量　炭化物少
23　2.5Y5/3 黄褐色土　ローム粒微量　鹿沼土粒微量

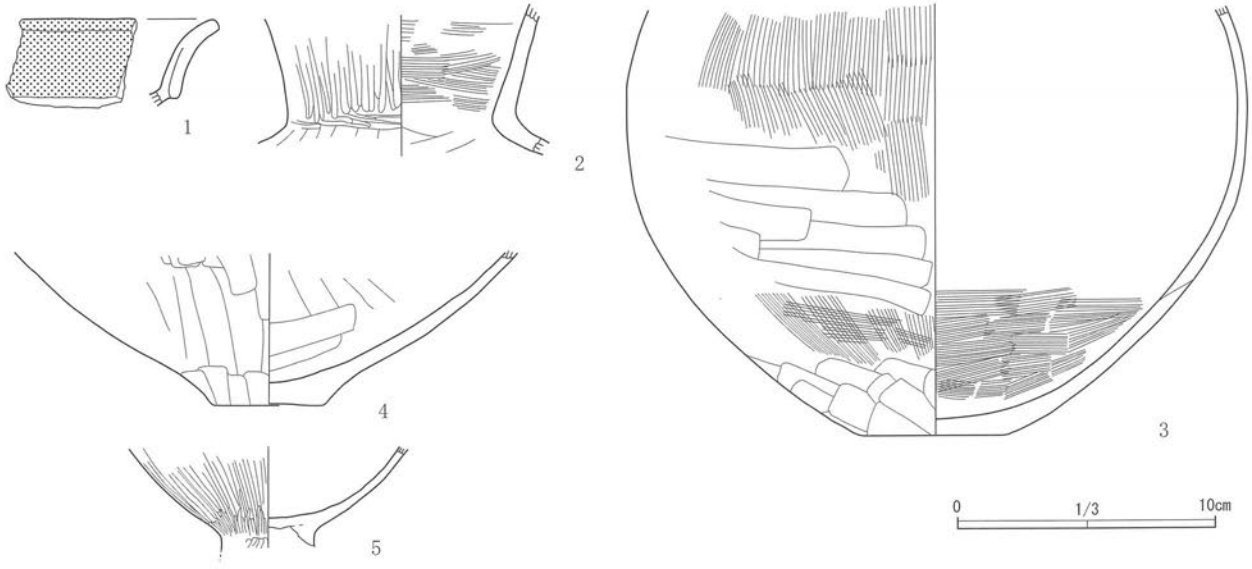
CUT2　5号住居炉　土層セクション
1　7.5YR4/2 灰褐色土　ローム少　焼土粒φ2～5㎜少　炭化物微量
2　7.5YR4/2 灰褐色土　ローム混入　焼土粒・ブロック少　炭化物微量

第47図　5号住居跡（2）

5号住居跡　（第46・47・48図，図版25・26・95）

本住居跡はE3-3, 4, 8, 9グリッドに於いて検出された。4号住居跡に切られる。長軸は6.21m、短軸は6.19m、確認面下の掘り込みの深さは25㎝で、覆土は8層である。平面は隅丸方形であり、硬化面は炉の周囲にのみ検出された。周溝が明瞭に巡るが、東壁溝は部分的にしか見られない。柱穴はP3・5～7となり、柱穴の内側に北寄りに南北に長い楕円形の炉が敷設されている。炉には南にごく浅い小ピットが付随する。長径183.6㎝、短径93㎝、深さ4.5㎝以下で底面の凹凸は激しい。部分的に焼土が検出された。

遺物から古墳時代前期末の時期のものと判断される。



第48図　5号住居跡出土遺物

表 24　5 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		土師器	壺	—	—	〈3.5〉	21.2	複合口縁。口縁は段を有した後、緩やかに外反する。	口縁は内外面共にミガキ、頭部外面は縦方向の刷毛目が観察される。	良好	内外面　5Y6/6橙	小礫(石英・長石)やや多い	口縁部片	口縁部内外面赤彩
2	No. 1	土師器	甕	—	—	〈5.0〉	57.9	口縁は、頭部で「く」の字に屈曲し直線的に僅かに開く。	外面はミガキ、内面は横方向の刷毛目。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子・雲母微量。	頭部1/4	
3	No. 6・7	土師器	甕	—	5.7	〈17.0〉	349.9	底部は平底で小形。胴部は球形ヵ。下半に接合痕が認められる。	底部は多方向のヘラケズリ。胴部外面は刷毛整形の後、下半と中央にヘラケズリを施している。中央のヘラケズリは接合後に行われている。内面下半刷毛整形。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・雲母やや多い。白色針状物質少量。角閃石・ｽｺﾘｱ微量。	底部～胴下半部1/5	
4		土師器	甕	—	4.2	〈6.0〉	142.9	底部は輪台技法を用いている。胴部下半は僅かに内湾するものの大きく開く。	内外面共にナデ整形。	良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母小量。白色針状物質微量。	底部～胴下半部1/6	
5	No. 16	土師器	高坏	—	—	〈3.9〉	58.2	上塊部は緩やかに内湾する。器壁は薄い。	外面はミガキ、内面は器面剥落。	良好	内面　7.5YR7/8黄橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子・黒色粒子・雲母・ｽｺﾘｱ微量。	上塊体下半部	

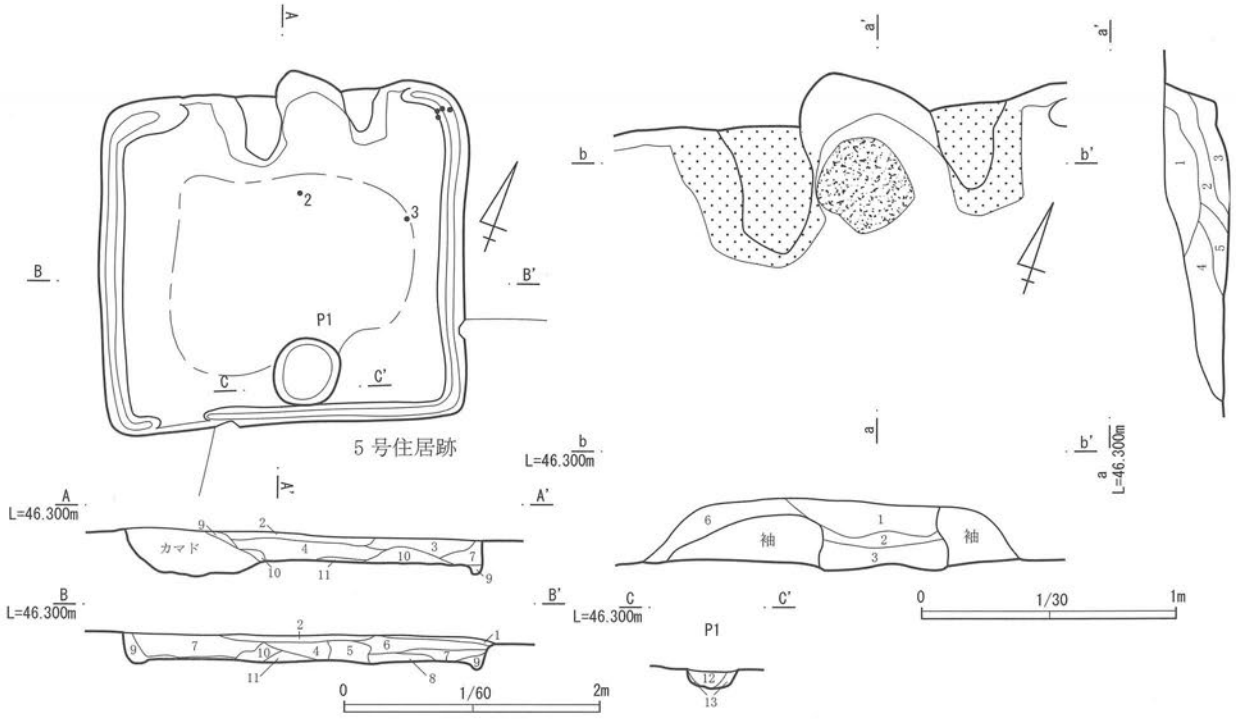
第 3 節　平安時代の遺構と遺物

1 項　住居跡

4 号住居跡　（第 49・50 図，図版 24・25・94）

本住居跡は E3-3 グリッドに於いて検出された。5 号住居跡を切る。長軸は 2.60m、短軸は 2.85m、確認面下の掘り込みの深さは 16 ㎝で、覆土は 11 層である。平面は方形であり、北壁のほぼ中央にカマドが付設されている。柱穴は出入り口に当るピットしか検出されていない。硬化面は住居中央に広く確認された。カマドは袖が遺存しており、火床面も検出された。

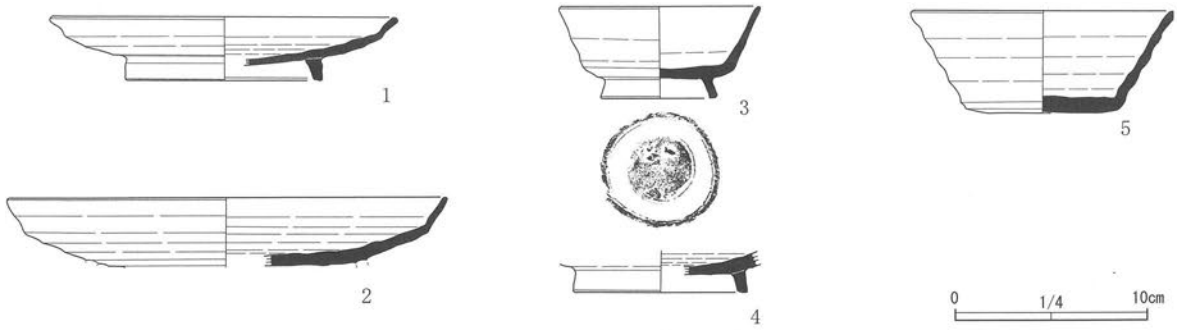
遺物は須恵器 5 点（高台付盤・高台付坏・坏）が出土した。遺物の時期から遺構は 9 世紀前半と判断される。



CUT2　4 号住居　土層説明
1　10YR5/2 灰黄褐色土　ローム粒少　焼土粒微量
2　10YR2/2 黒褐色土　灰黄褐土混入　ローム少　焼土粒微量
3　10YR2/2 黒褐色土　ローム土混入　ローム粒・炭化粒・焼土粒やや多量。
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒微量
5　2.5Y4/2 暗灰黄色土　ローム土混入
6　10YR4/2 灰黄褐色土　黒褐色土微量。ローム粒少
7　10YR5/2 灰黄褐色土　ローム粒微量
8　10YR2/3 黒褐色土　黒褐色土・ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜多　焼土粒・炭化粒やや多
9　2.5Y5/3 黄褐色土　ロームやや多
10　2.5Y8/4 淡黄色山砂　灰黄褐色土・赤褐色焼土ブロック少
11　10YR4/3 にぶい黄褐色土　焼土・炭化物少
12　10YR4/2 灰黄褐色土　ロームブロックφ 2 ～ 7 ㎜微量
13　10YR4/2 灰黄褐色土　ロームブロックφ 10 ～ 12 ㎜多

CUT2　4 号住居カマド　土層説明
1　10YR4/2 灰黄褐色土　浅黄色山砂混入　ローム粒多　炭化物少　人為堆積
2　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒子少　焼土粒・炭化粒微量
3　5YR4/2 灰褐色土　ローム粒微量　焼土粒φ 2 ～ 8 ㎜少　炭化物微量　ｶﾏﾄﾞ天井部崩落土
4　10YR4/2 灰黄褐色土　浅黄色山砂・ローム粒・炭化物混入　焼土微量　人為堆積
5　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒やや多　浅黄山砂多　炭化粒少　焼土粒微量
6　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒・ブロックφ 3 ～ 10 ㎜少

第 49 図　4 号住居跡



第 50 図　4 号住居跡出土遺物

表 25　4 号住居跡遺物観察表

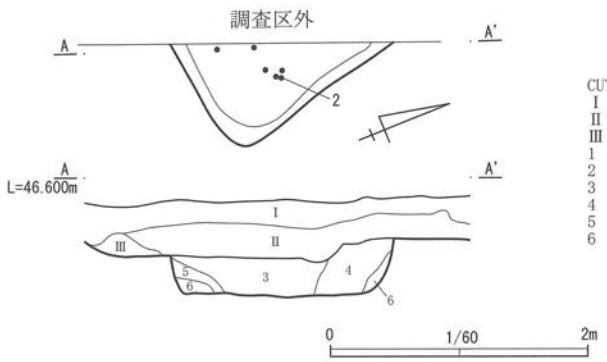
cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1・2	須恵器	高台付盤	-17.8	-10	3.3	70.8	高台は「ハ」の字に付される。外端接地。体部は僅かに内湾しながら大きく開く。口縁は体部上位で稜を有した後外反する。口唇は肥厚する。	ロクロ整形。底部及び体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　5Y5/1灰	鉄分の噴き出し・白色粒子少量。小礫の混入やや多い。雲母極微量。	口縁～体部1/4	転用硯ヵ
2	No. 6	須恵器	高台付盤	-22.8	—	〈3.5〉	139.5	高台欠損。体部は緩やかに内湾しながら大きく開く。口縁は体部上位で稜を有した後外反する。口唇の器壁は薄い。	ロクロ整形。底部及び体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y6/2灰黄 外面　5Y6/2灰オリーブ	鉄分の噴き出しやや多い。白色粒子少量。小礫の混入やや多い。雲母極微量。	体部1/2	
3	No. 5	須恵器	高台付坏	10.3	6.0	4.9	132.8	小形の坏である。高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部は箱型で僅かに直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　7.5Y6/2灰オリーブ	白色粒子やや多い。白色針状物質微量。小～中礫(長石・石英)目立つ。	完形	底部ヘラ記号ア
4		須恵器	高台付坏	—	-8.9	2.2	34.5	高台は「ハ」の字に付される。外端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y5/1黄灰 外面　N5/0灰	白色粒子やや多い。白色針状物質少量。小～中礫(長石・石英)目立つ。	底部1/3	
5	No. 4	須恵器	坏	-13.6	6.4	5.4	74.1	底部は平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内外面　10Y5/1灰	小～中礫(石英・長石)少量。	体部1/8 底部1/2	転用硯ヵ

6 号住居跡　（第 51・52 図，図版 26・95）

本住居跡は E3-12 グリッドに於いて検出された。大半が調査区外であるために全容は不明である。残存する長軸は（1.38）m、短軸は（1.02）m、確認面下の掘り込みの深さは 28 cmで、覆土は 4 層である。

遺物は須恵器高台付坏・坏が出土した。遺物の時期から遺構は 9 世紀前半と判断される。



CUT2　6 号住居　土層説明
Ⅰ　現表土　10YR4/2 灰褐色土
Ⅱ　旧表土　10YR3/2 黒褐色土
Ⅲ　ロームへの漸移層　10YR5/3 にぶい黄褐色土
1　10YR3/1 黒褐　10YR3/3 暗褐色土微量含む。　旧表土が埋没したものと推測される。
2　10YR3/3 暗褐　10YR3/1 黒褐少量含む。　旧表土が埋没したものと推測される。
3　10YR5/3 にぶい黄褐　ローム粒子少量含む。焼土粒子微量。10YR3/3 暗褐色土微量含む。
4　10YR4/3 にぶい黄褐　ローム粒子少量含む。炭化物微量。
5　10YR4/1 褐灰　ローム粒子微量含む。焼土粒子・炭化物粒子微量。
6　10YR4/3 にぶい黄褐・10YR7/6 明黄褐ローム混入土　明黄褐色ローム主体。

第 51 図　6 号住居跡

第 52 図　6 号住居跡出土遺物

表 26　6 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1・5	須恵器	高台坏付	17.5	11.4	6.8	253.9	高台は「ハ」の字に付される。見込みで弱く屈曲した後直線的に立つ。箱形で大振りの坏である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。外縁は回転ヘラケズリにより面取りされている。	良好	内面　7.5Y7/2灰白 外面　10Y8/2灰白	石英・雲母多い。	底部1/2 体部1/4欠損	新治産
2	No. 3	須恵器	坏	11.5	6.3	4.3	139.3	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　10YR6/2灰オリーブ	白色粒子やや多い。	体部1/5欠損	

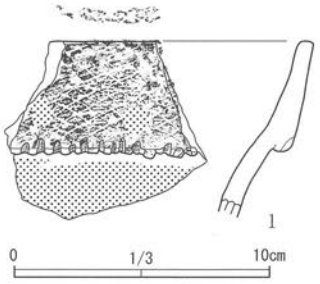
第2項　溝跡

1号溝跡

全長7.12m、幅35～71㎝、深さ3～10㎝である。遺物が出土していないため、遺構の時期は不明である。

第3項　遺構外遺物　（第53図，図版95）

確認面より弥生土器の赤彩の壺が出土している。



第53図　遺構外出土遺物

表27　CUT2遺構外遺物観察表

©㎝, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		弥生式土器	壺	—	—	〈7.0〉	67.3	口縁部外面は、横方向の丁寧なミガキの後に網目状撚糸文が施文されている。弥生時代最終末または、古墳時代初頭の可能性が高い。		良好	赤彩部分 2.5YR5/6明赤褐 口縁外面　10Y R7/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母・白色針状物質微量。	口縁部片	赤彩

第3章　まとめ

弥生時代の遺構は3号住居は十王台1式古段階の土器が出土した。弥生時代後期である。2号住居は十王台2式と五領式土器が共伴する4世紀前半～中葉の遺構である。5号住居は古墳時代前期末である。4・6号住居は9世紀前半に属する。1号住居は遺物の出土が無く、時期が明確ではないが弥生～古墳時代にかけての住居と推測される。

－ 折図 3 －　　第 54 図　CUT5　全体図

Ⅳ　CUT5

第１章　遺跡の概要

本調査区域は遺跡の存在する舌状台地上にあり、調査区の標高は北側で 47.8m、南側で 45.5m を測り、台地上の安定した立地である。

検出された遺構は弥生時代の住居跡１軒、古墳時代の住居跡４軒、奈良・平安時代の住居跡 39 軒、掘立柱建物跡９棟、土坑 49 基、ピット 139 基であった。その他、遺物では縄文土器が少量ながら出土している。石器については縄文・弥生時代のものが出土した。

第２章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代の遺物

本区に於いて縄文時代の遺構は検出されていないが、土器・石器が出土している。

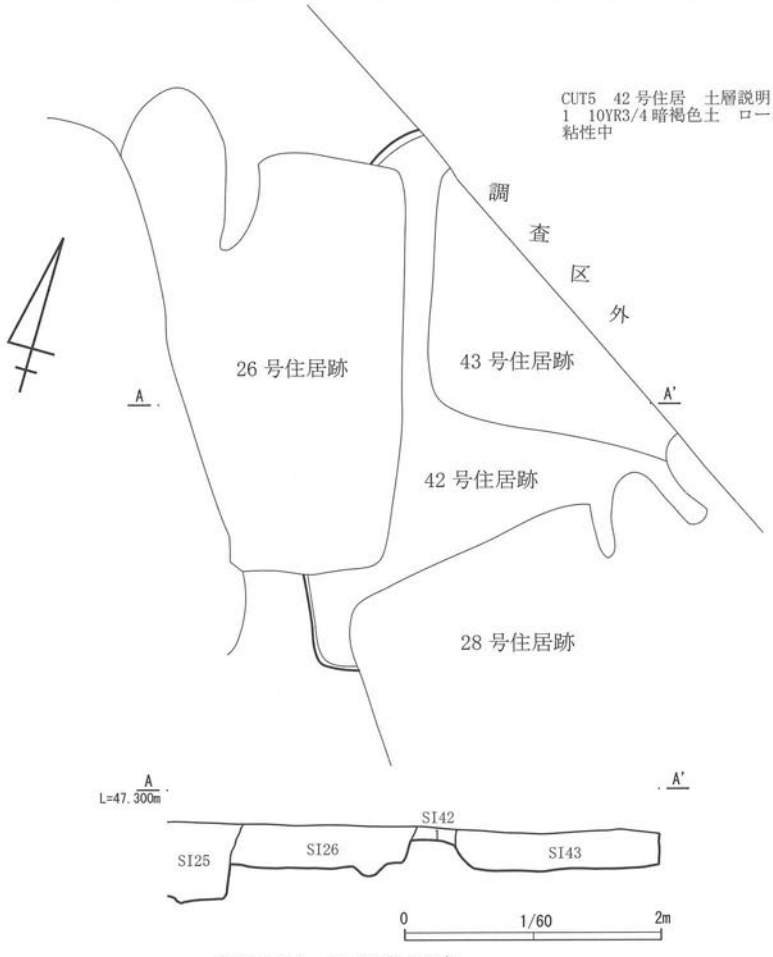
第２節　弥生時代後期～古墳時代初頭の遺構と遺物

第１項　住居跡

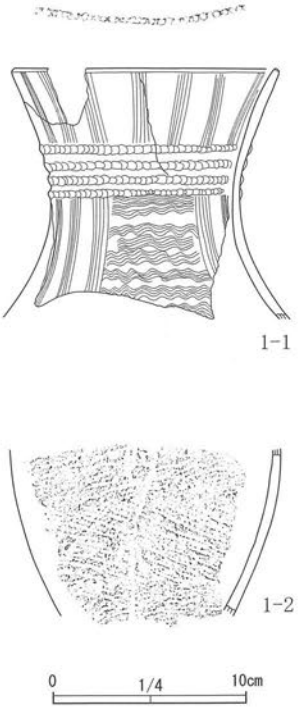
42 号住居跡　（第 55・56 図，図版 59・103）

本遺構は D3-16 グリッド、調査区北西端において検出された。26・28・43 号住居跡に切られているため遺構の全容が不明である。確認面からの深さは約 12 cmと見られる。

遺物は十王台１式新段階の壺が出土した。遺物から弥生時代後期の遺構と考えられる。



第 55 図　42 号住居跡



第 56 図　42 号住居跡出土遺物

表 28　42 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 3	弥生式土器	壺	13. 1	—	—	312. 7	緩やかに外反する口縁で頸部に4条の指頭圧痕による微隆帯が巡る。頸部及び口縁部には4本1単位の櫛歯状工具により、縦方向のスリット状区画が設けられ、頸部では、横方向の櫛描波状文と、無文部が交互に配される。口縁部には横方向の櫛描文は施されない。口唇部には縄文が回転施文されている。掲載した1-2は同一個体と判断した胴部の資料である。やや長胴気味で、底部は欠損している。胴部には付加条第1種の縄がLRとRLで羽状を構成する。		良好	内面　2. 5Y6/2灰黄 外面　2. 5Y6/3にぶい黄	白色粒子やや多い。雲母・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～肩部1/3、胴部片	接合実測

第 3 節　古墳時代の遺構と遺物

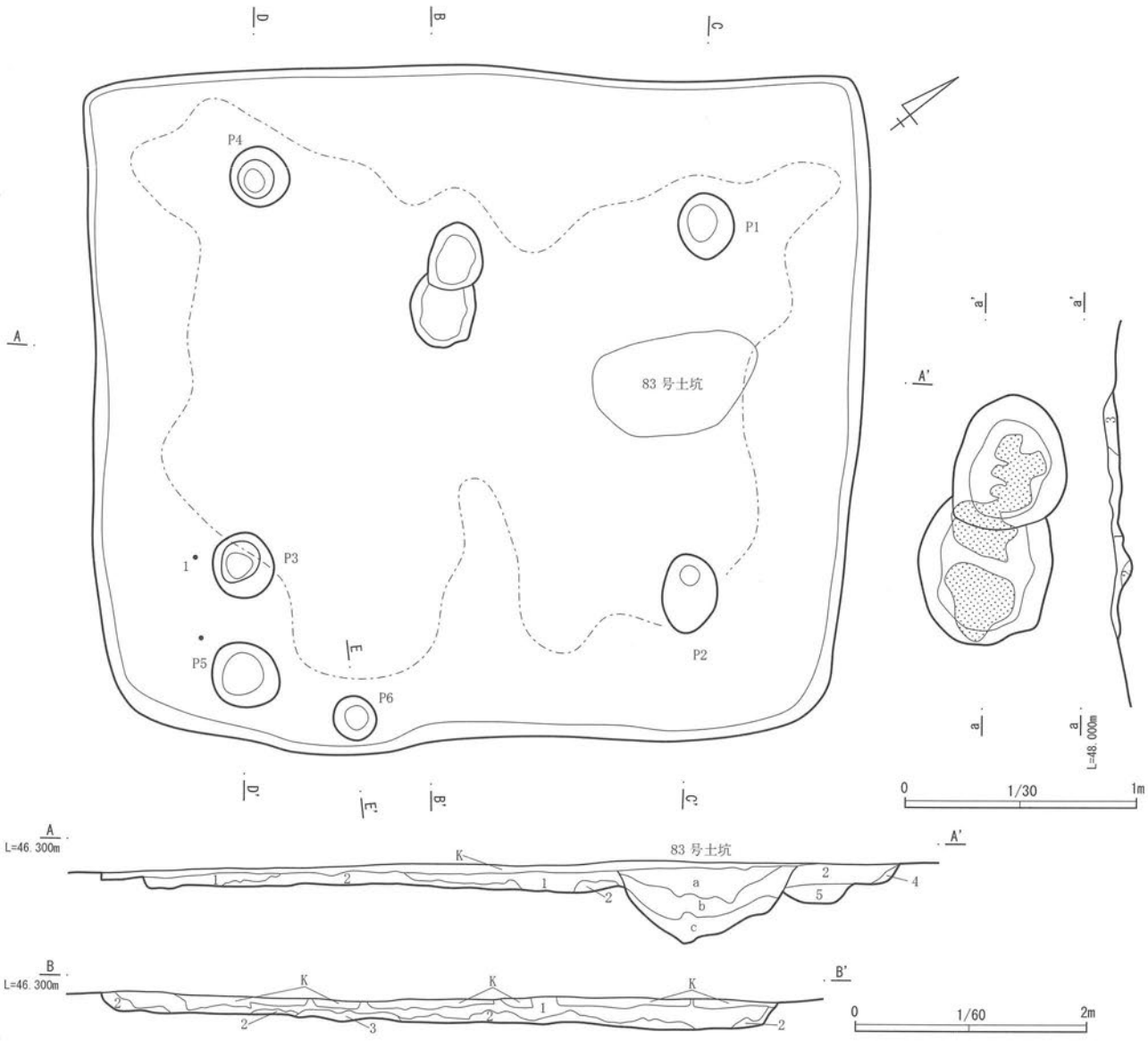
第 1 項　住居跡

18 号住居跡　（第 57・58・59 図，図版 44　・99）

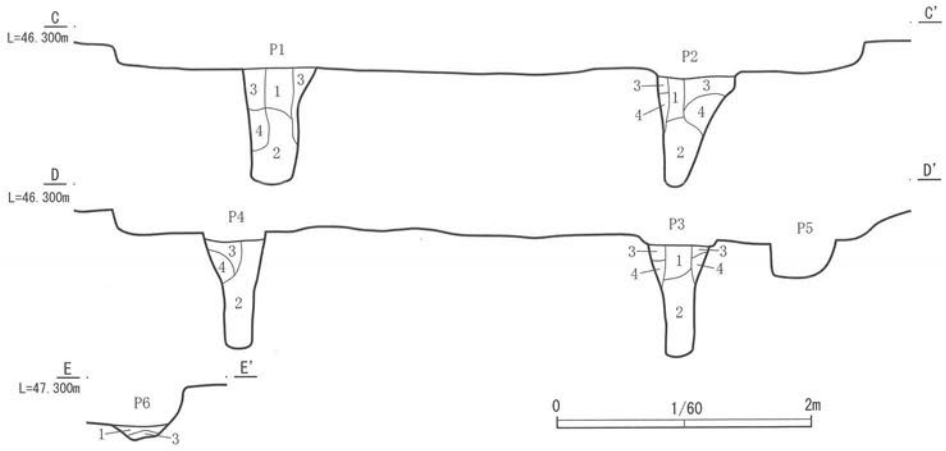
本遺構はC3-18･19 グリッド､調査区北部において検出された｡83 号土坑に切られる｡南北に長い長方形で長軸 6. 04m、短軸 6. 74m、主軸方位はN 53. 9°　W である。確認面からの深さは 21 cmである。

炉は中央よりやや東壁に寄せて敷設され、双円状の平面形で長径 114 cm、短径 57 cm、深さ 3 ～ 7. 5 cmで、底面に焼土が分布する。柱穴は 4 基確認され、ほぼ対称の位置に設けられている。周溝はなく、硬化面は住居内に広く確認できた。

遺物は五領式の最終段階、4 世紀後半のもので、遺構もその時期と判断される。



第 57 図　18 号住居跡（1）

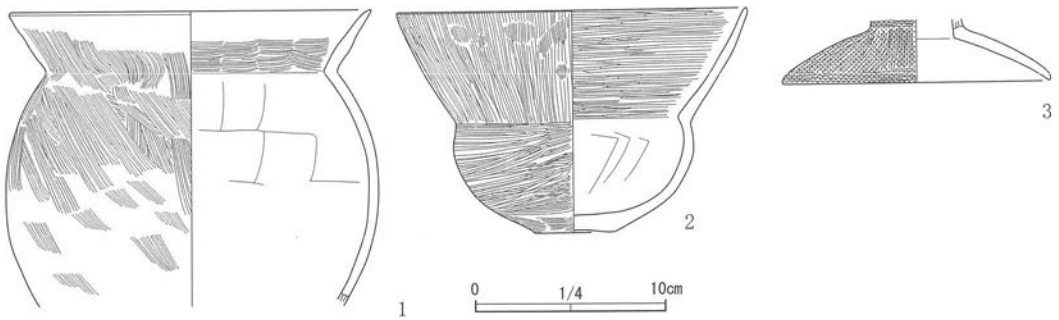


CUT5　18 号住居　土層説明
住居を切る土坑　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
2　10YR4/6 にぶい黄褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性強
3　7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強
4　10YR4/6 にぶい黄褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強
5　10YR4/6 にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 10 ㎜微量　しまり・粘性中

CUT5　18 号住居 P1 ～ 4・6　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり中　粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり中　粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒微量　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強

CUT5　18 号住居炉　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　炭化物粒中　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化物粒少　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強

第 58 図　18 号住居跡（2）



第 59 図　18 号住居跡出土遺物

表 29　18 号住居跡遺物観察表

cm, g

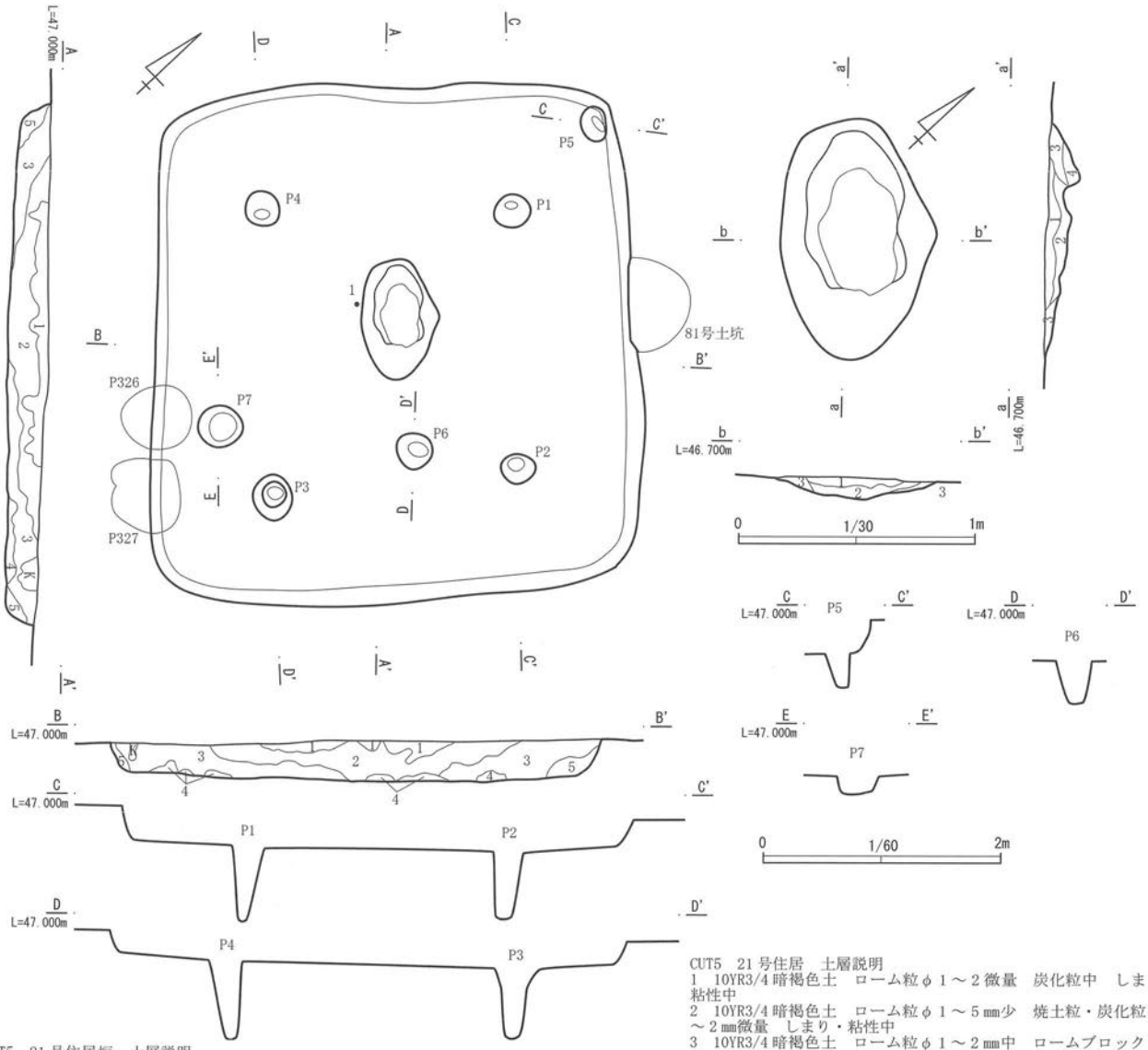
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 2	土師器	甕	(18.7)	〈15.5〉	—	269.5	胴部は球形。口縁は「く」の字に屈曲し直線的に開く。	外面口縁は横ナデの後頸部に縦方向、胴部に斜方向の刷毛目。内面口縁は横ナデの後横方向の刷毛目、内面はナデ整形。刷毛は何れも細かい。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/4 にぶい黄褐 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	白色粒子・雲母・少量礫やや多い。白色針状物質・角閃石少量。	口縁1/2 胴上半1/4	
2	覆土	土師器	坩	(18.3)	11.7	4.2	199.4	底部は上げ底気味の平底。胴部は潰れた球形を呈し、頸部で「く」の字に屈曲した後僅かに内湾気味に大きく開く。	外面口縁は刷毛整形後縦方向のミガキ、胴部下半に刷毛目が観察されるが後にほぼ全面にミガキを施している。底部刷毛目。内面口縁は横方向のミガキ、胴部はヘラナデ。ミガキは何れも丁寧。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　10YR4/3 にぶい黄褐	小礫少量。黒色粒子・雲母微量。	口縁～体部1/4	
3	覆土	土師器	高坏	—	〈3.3〉	(13.8)	46.1	裾部の資料ヵ。緩やかに内湾するものである。脚部は屈曲して立つ。	外面は刷毛整形後ミガキ、内面はナデ。	良好	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　10YR5/4 にぶい赤褐	小礫少量。長石・雲母	脚部1/4	外面赤彩

21 号住居跡　（第 60・61 図，図版 46・47・100）

本遺構は C3-25 グリッドにおいて検出された。81 号土坑、P326・327 に切られる。平面形は方形で長軸 4.44m、短軸 4.14m、主軸方位は N 47° W である。確認面からの深さは 30 ㎝で、覆土は 5 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

炉は中央に敷設され、楕円形の平面形で長径 102 ㎝、短径 66 ㎝、深さ 9 ～ 15 ㎝である。柱穴は 4 基確認され、ほぼ対称の位置に設けられている。周溝はなく、硬化面は確認されていない。

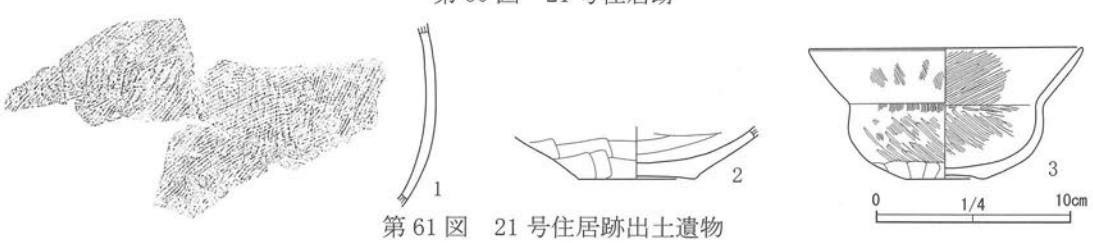
遺物は五領式土器で十王台式並行段階直後、4 世紀後半のもので、遺構もその時期と判断される。



CUT5　21号住居炉　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　焼土粒少　炭化物粒少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　焼土粒φ1～2㎜多　炭化粒φ1～2㎜中　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～4㎜少　焼土粒φ1～2㎜少　炭化粒φ1～2㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜少　焼土粒φ1～5㎜中　炭化粒φ1～2㎜中　しまり強　粘性中

CUT5　21号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2微量　炭化粒中　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜少　焼土粒・炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　ロームブロックφ3～10㎜微量　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～3㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性強
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒1～2㎜少　しまり中　粘性強

第60図　21号住居跡



第61図　21号住居跡出土遺物

表30　21号住居跡遺物観察表

cm, g

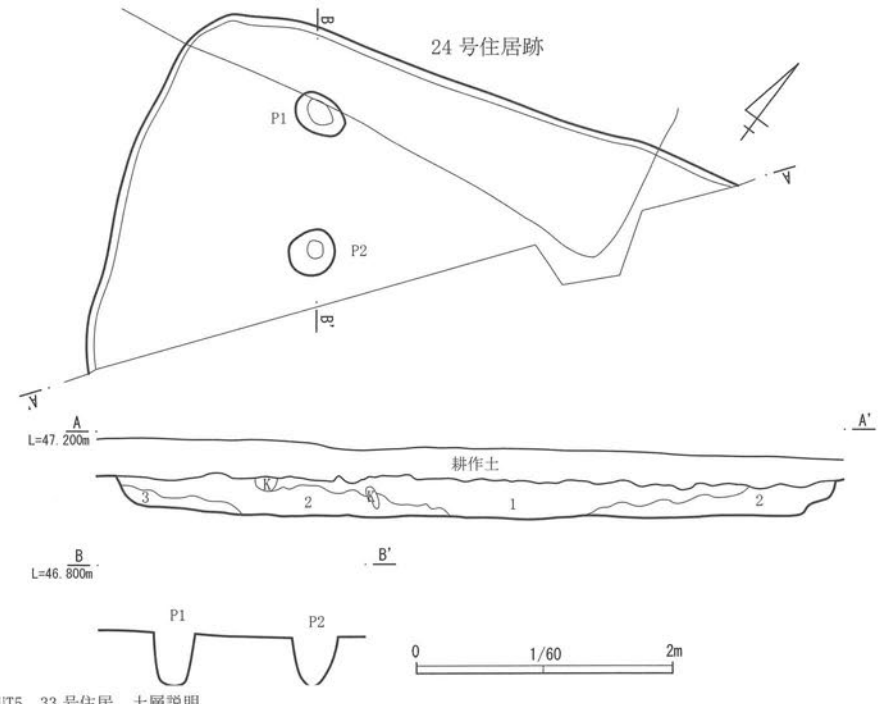
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No.1	土師器	甕	—	—	—	96.4	緩やかに内湾する胴部の資料。	外面は刷毛目、内面はナデ整形。	良好	内面　10YR4/4褐 外面　10YR7/4にぶい黄橙	白色粒子やや多い。雲母少量。白色針状物質・角閃石微量。	胴部	
2	覆土	土師器	甕	—	〈2.8〉	6.0	69.6	底部はやや上げ底気味の平底で、胴部下端は大きく開く。	外面はヘラケズリ、内面はナデ整形。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	小～中礫多量混入。雲母少量。白色針状物質微量。	底部2/3	
3	覆土	土師器	坩	(13.8)	6.9	4.0	64.5	底部は小形で、削りだしによる上げ底気味の平底。胴部は潰れた球形を呈し、頸部で屈曲した後大きく開く。	外面口縁は横ナデの後部分的な刷毛、頸部には短い縦方向の刷毛、胴部は刷毛後ミガキ、下端部はヘラケズリが観察される。　内面にはミガキが施されている。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母・角閃石少量。スコリア微量。	1/8	

33 号住居跡　（第 62・63 図，図版 55・102）

本遺構は C3-25、D3-21 グリッドにおいて検出された。24 号住居跡に切られる。南は調査区外になるため全容は不明である。平面形は方形と推測される。長軸（4.50）m、短軸（2.94）m、主軸方位は N 18° W である。確認面からの深さは 30 cmで、覆土は 3 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

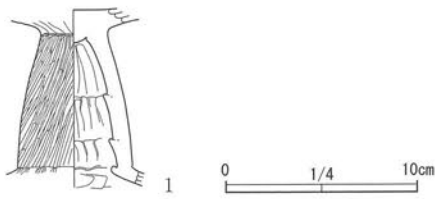
炉・カマドは検出されなかった。ピットは 2 基確認されたが柱穴になりうるのか不明である。周溝はなく、硬化面は確認されていない。

遺物は高坏脚部を掲載した。その形態から 5 世紀代と考えられ、遺構もその時期と判断される。



CUT5　33 号住居　土層説明
1　10YR3/1 黒褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中

第 62 図　33 号住居跡



第 63 図　33 号住居跡出土遺物

表 31　33 号住居跡遺物観察表

cm, g

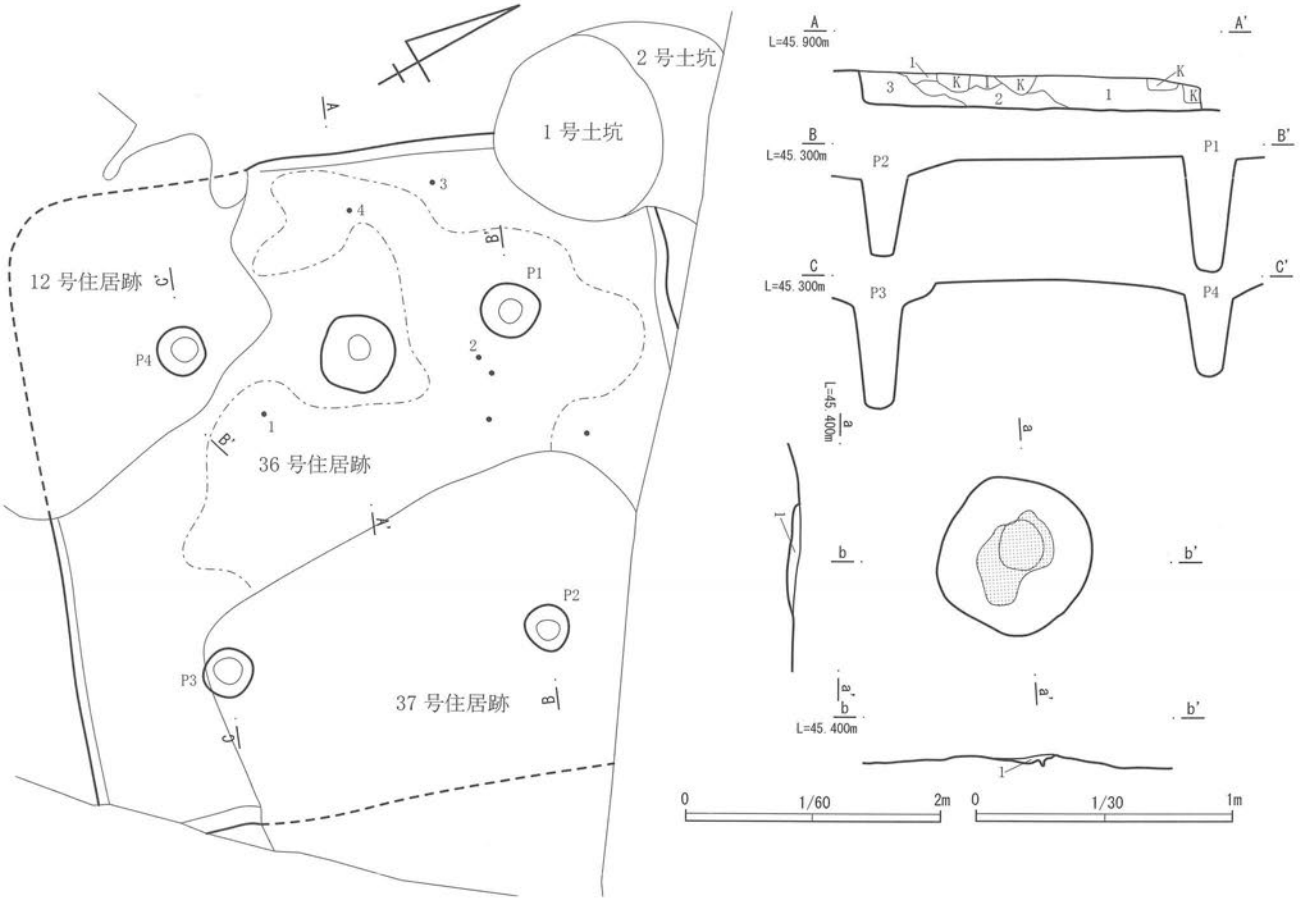
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	高坏	—	〈9.4〉	—	194.3	脚柱部はやや膨らみを有し、裾部で屈曲し大きく開く。	外面はミガキ、内面はヒダ状のナデ整形で、輪積痕を複数有する。	良好	内面　10YR6/3 にぶい黄橙 外面　7.5YR6/6 橙	雲母・白色粒子・角閃石少量。白色針状物質・小礫微量。	脚柱部	

36 号住居跡　（第 64・65 図，図版 57・102）

本遺構は D4-11・12 グリッド、調査区東端において検出された。12・37 号住居跡、1・2 号土坑に切られる。平面は方形と見られるが、遺存する長軸（5.22）m、短軸（4.80）m、主軸方位は N 68.5° W である。確認面からの深さは 24 cmである。

炉は西の 2 基の柱穴の間に敷設され、平面形は円形で長径 63 cm、短径 60 cm、深さ 4.5 cmで、底面に焼土が分布する。柱穴は 4 基対称に配置されている。周溝はなく、硬化面は炉周辺に確認できた。

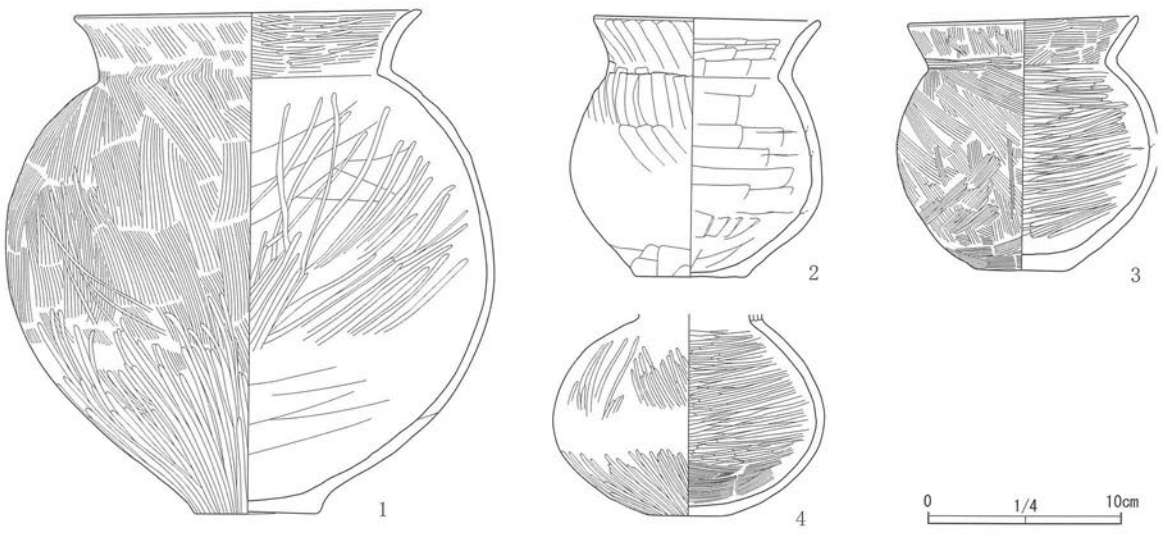
遺物は 5 世紀前～中葉で、遺構もその時期と判断される。



CUT5　36 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 7 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 15 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中

CUT5　36 号住居炉　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中

第 64 図　36 号住居跡



第 65 図　36 号住居跡出土遺物

表 32　36 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 5	土師器	甕	18.1	26.3	6.6	1654.5	底部は平底で円盤状に突出する。胴部は球形で頸部は広く、口縁は「く」の字に屈曲した後外反する。	外面口縁及び胴部は刷毛整形後下半はミガキ。内面口縁は刷毛の後ミガキ、胴部内面はナデ整形を行っているが、接合部より上方にはミガキが観察される。底部は多方向のヘラケズリ。	良好	内面　7.5YR5/4 にぶい褐 外面　7.5YR5/6 明褐	雲母・白色粒子・角閃石少量。白色針状物質・中礫微量。	胴部1/5欠損	
2	No. 3	土師器	甕	11.7	13.6	5.6	604.4	底部は平底。胴部は球形で頸部は広く、口縁は「く」の字に屈曲した後僅かに外反する。	外面口縁は斜方向、胴部上半は縦方向のヘラケズリ、頸部にはヘラ端部の圧痕が廻る。内面口縁は横ナデの後下半は横方向のヘラケズリ、胴部はナデ整形。輪積痕有り。底部はナデ後ミガキ。	良好 二次焼成アリ	内面　5YR5/6明赤褐 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	ほぼ完形	
3	No. 7	土師器	甕	11.7	13.2	4.5	487.9	底部は平底。胴部は球形で頸部は広く、口縁は「く」の字に屈曲した後開く。	外面口縁～胴部は刷毛整形、頸部には狭く、口縁～胴部には部分的にミガキが観察される。内面口縁は横方向の刷毛、胴部はミガキが施されている。	良好	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　10YR5/4 にぶい黄橙	白色粒子・スコリア・雲母少量。	完形	
4	No. 6	土師器	坩	—	〈10.6〉	4.0	433.5	底部は平底で狭い。胴部は潰れた球形を呈する。	外面は著しく剥落しているがミガキが観察される。内面はミガキ、下端は刷毛整形。底部はミガキ。	良好 二次焼成アリ	内面　10YR4/3 にぶい黄褐 外面　10YR5/3 にぶい黄褐	白色粒子・小礫やや多い。雲母・スコリア少量。	胴部ほぼ完形	

第 4 節　奈良・平安時代の遺構と遺物

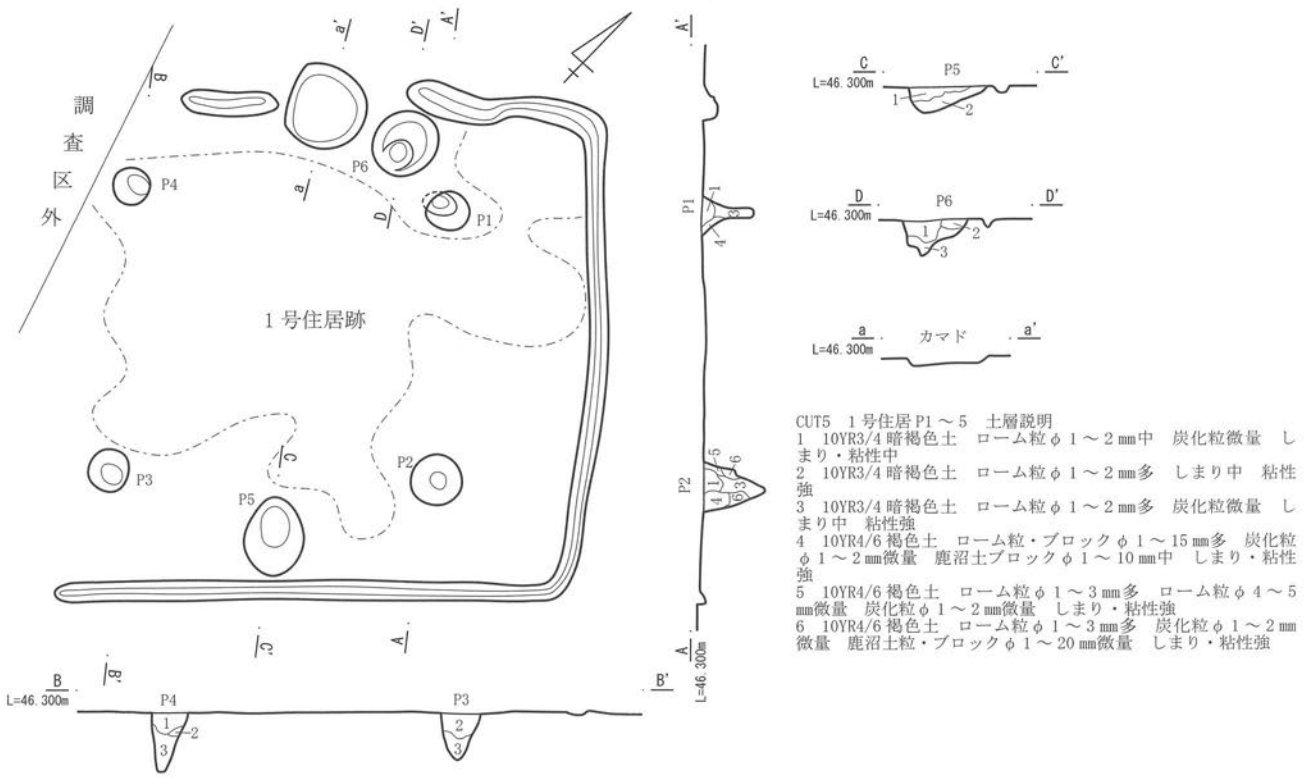
第 1 項　住居跡

1 号住居跡　（第 66 図，図版 30）

本遺構は C4-2,7 グリッド、調査区南東端で検出された。

一部調査区壁に掛かるが、残存規模は長軸 4.02m、短軸 (4.62) m、主軸方位は N 42° W を指す。住居壁が削平されており、確認面において既に周溝が検出される状況であった。よってカマドも掘方のみ検出された。周溝は東壁部分が調査区外となるがその他はカマド部分を除き確認された。柱穴は 4 基確認され、出入口ピットがカマドと対称の位置に検出された。またカマド右脇にピットが見られるが、その性格は不明である。

遺物は土師器片・礫が出土したのみで、掲載遺物はない。住居の形態から、奈良・平安時代の遺構と推測される。



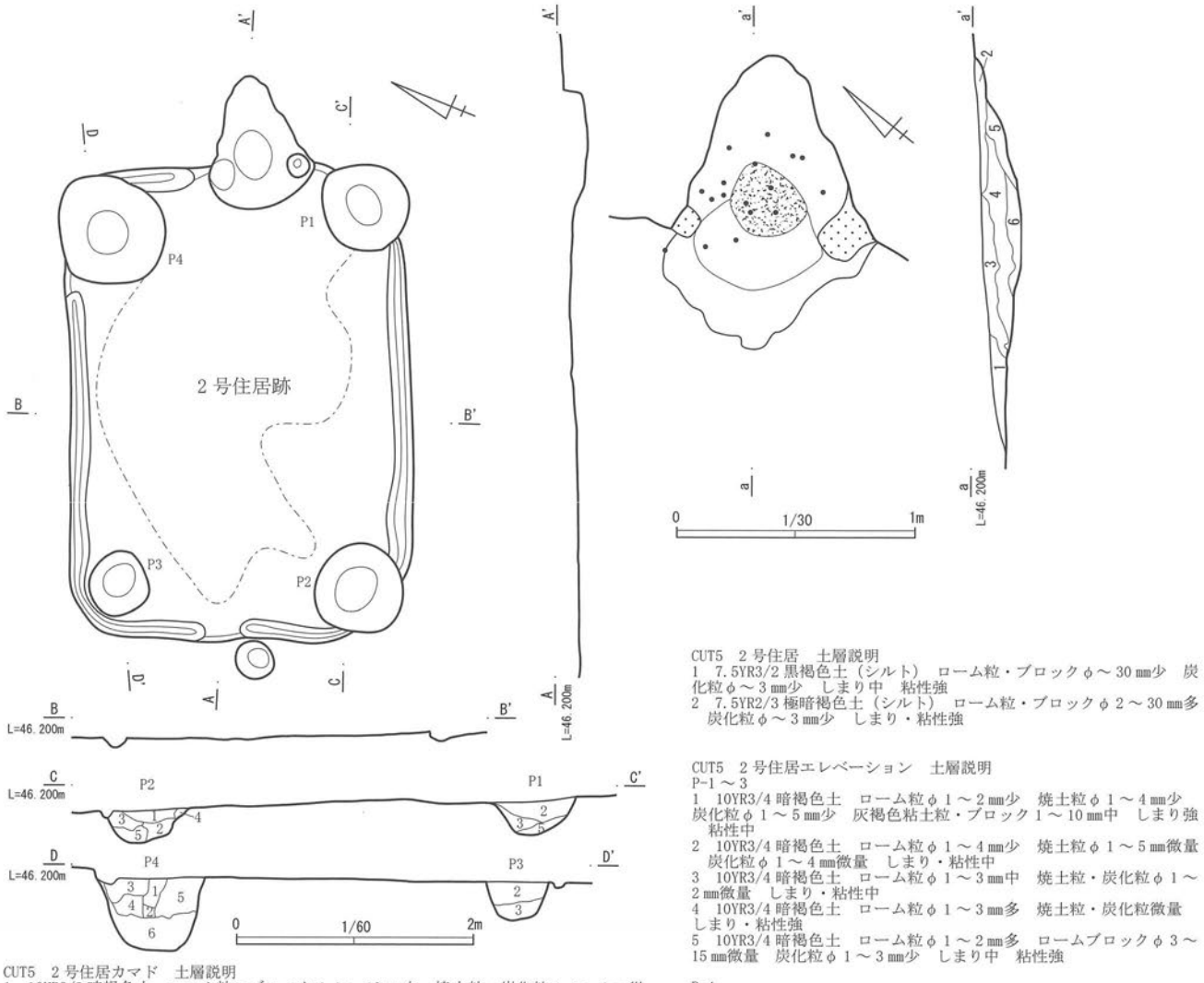
第 66 図　1 号住居跡

2号住居跡　（第67・68図，図版30・31・95）

本遺構はC4-8グリッドにおいて検出された。平面形は主軸方位に長い長方形で、長軸4.08m、短軸2.94m、主軸方位N 66.5° Eである。遺構は削平されていたため、確認面ではすでに床面となっていた。

カマドは東壁中央に付設され、袖は基部のみが確認された。火床面が遺存する。主柱穴は4基であるが、他の住居と異なり住居の四隅に掘方を大きく穿つ形態を採る。硬化面は住居内に広く見られ、周溝はカマド・主柱穴を除き、ほぼ全周する。

遺物は内面黒色処理の坏などが出土しており、その編年から遺構も9世紀中頃と判断される。



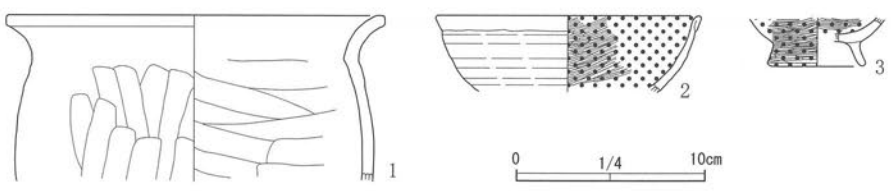
CUT5　2号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜少　焼土粒・炭化粒φ1～2㎜微量　雲母粒少　しまり・粘性中
2　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多量　ロームブロックφ20㎜微量　焼土粒φ1～3㎜少　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性強
3　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　ロームブロックφ20㎜微量　焼土粒φ1～3㎜中　炭化粒φ1～3㎜中　雲母粒微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　ロームブロックφ15㎜微量　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　焼土ブロックφ100㎜含む　炭化粒φ1～3㎜中　雲母粒中　しまり強　粘性中
5　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～10㎜少　焼土粒・ブロックφ1～10㎜中　炭化粒φ1～2㎜少　雲母粒微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～4㎜微量　炭化粒φ1～2㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性強

CUT5　2号住居　土層説明
1　7.5YR3/2黒褐色土（シルト）　ローム粒・ブロックφ～30㎜少　炭化粒φ～3㎜少　しまり中　粘性強
2　7.5YR2/3極暗褐色土（シルト）　ローム粒・ブロックφ2～30㎜多　炭化粒φ～3㎜少　しまり・粘性強

CUT5　2号住居エレベーション　土層説明
P-1～3
1　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～4㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　灰褐色粘土粒・ブロック1～10㎜中　しまり強　粘性中
2　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～4㎜少　焼土粒φ1～5㎜微量　炭化粒φ1～4㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　焼土粒・炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒・炭化粒微量　しまり・粘性強
5　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　ロームブロックφ3～15㎜微量　炭化粒φ1～3㎜少　しまり中　粘性強

P-4
1　10YR3/4暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強
2　10YR4/6褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強
3　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強
4　10YR3/4暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～20㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強
5　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強。
6　10YR4/6褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　炭化粒φ1～3㎜微量　しまり中　粘性強

第67図　2号住居跡



第68図　2号住居跡出土遺物

表 33　2 号住居跡遺物観察表

cm, g

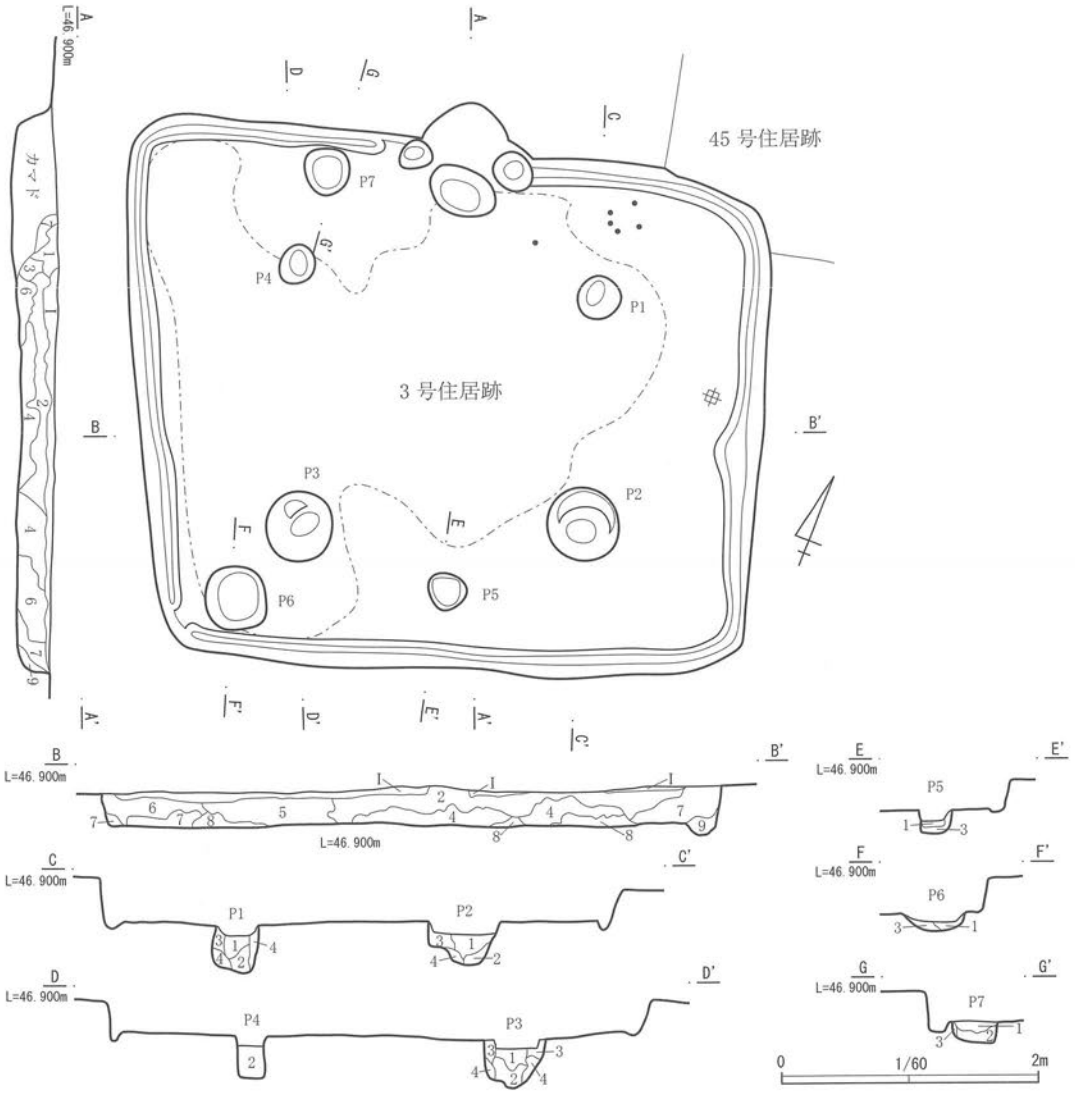
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	土師器	甕	(19.8)	〈8.9〉	—	113.0	胴部の張りは弱い。口縁は「C」の字に外反し口唇は面取られる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好 二次焼成?!	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～胴部1/5	
2	P-3	土師器	坏	(13.7)	〈4.1〉	—	20.3	体部は緩やかに内湾し、口縁は折り返している。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y2/1黒 外面　10YR7/6明黄褐	黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～体部1/8	内面黒色処理
3	P-4	土師器	高台付坏	—	〈2.6〉	(4.8)	15.5	高台は「ハ」の字に付される。体部は下端で内湾する。	ロクロ整形。内外面共に丁寧なミガキ。	良好	内外面　7.5Y2/1黒	白色粒子・雲母微量。	高台部1/3	内外面黒色処理

3 号住居跡　（第 69・70・71 図，図版 32・95）

本遺構は C3-23・C4-3 グリッドで検出された。45 号住居跡を切る。平面形は主軸方位が狭い長方形で、長軸 4.26m、短軸 4.92m 、主軸方位 N 17° W である。確認面からの深さは 30 cmで、覆土は 9 層に分層される。

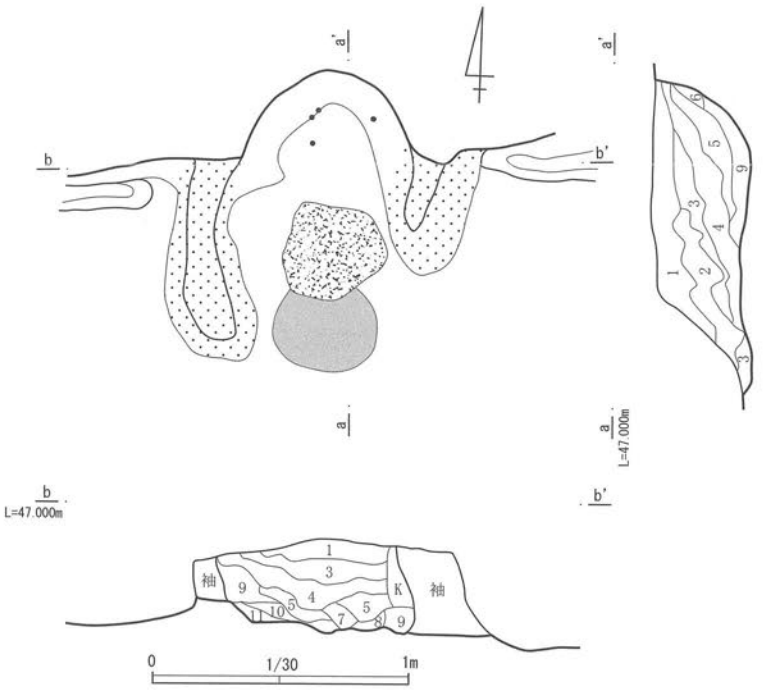
カマドの遺存状況は比較的良好で、袖はやや弧を描くように火床面・灰層を囲む。主柱穴は 4 基確認され、カマドと対称の位置に出入口ピットが配される。周溝はカマドを除き全周する。硬化面は住居中央と西壁付近で確認された。

遺物は土師器甕・須恵器坏が出土し、遺物から遺構は 9 世紀後半と判断される。



CUT5　3 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒微量　炭化粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒φ 1 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　ロームブロックφ 4 ～ 20 ㎜微量　焼土粒・炭化粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　しまり・粘性中
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強
9　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ローム粒φ 3 ～ 4 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり中　粘性強

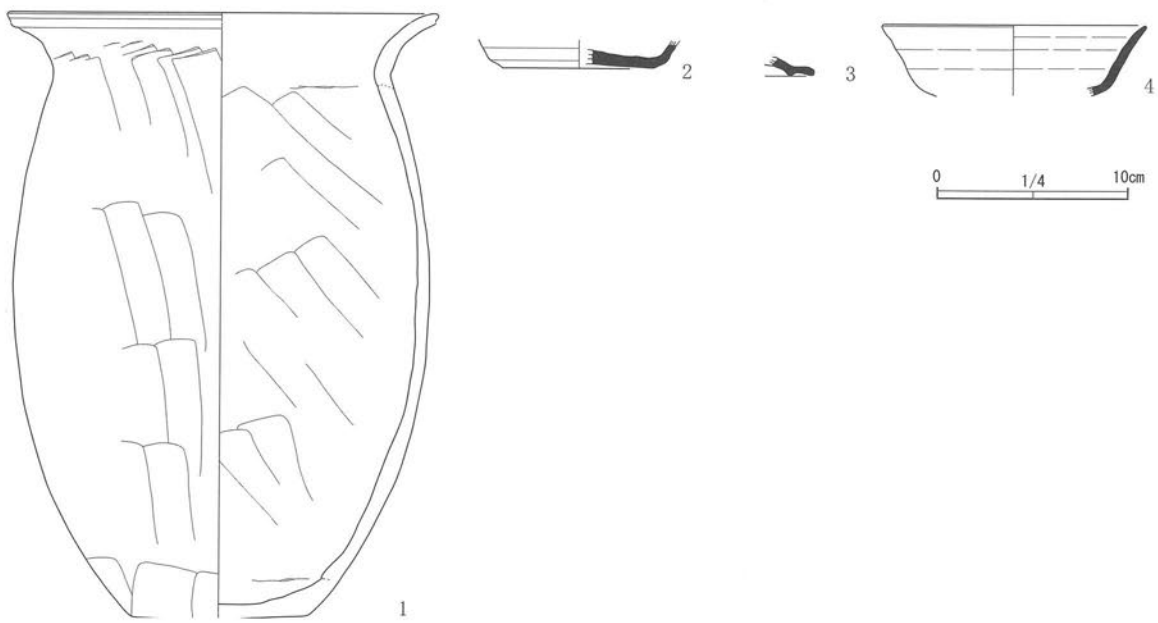
第 69 図　3 号住居跡（1）



CUT5　3号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　炭化物粒φ1～5㎜微量　灰褐色粘土粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒φ1～3㎜微量　炭化粒φ1～3㎜微量　灰褐色粘土粒φ1～3㎜少　しまり・粘性強
3　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒・ブロックφ3～10㎜少　炭化粒φ1～3㎜微量　灰褐色粘土粒・ブロックφ1～30㎜多　灰粒多　しまり・粘性強
4　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化物粒φ1～10㎜微量　灰褐色粘土粒φ1～5㎜多　灰粒多　しまり強　粘性中
5　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒φ1～3㎜微量　灰粒多　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～80㎜多　焼土粒・ブロックφ3～10㎜多　しまり・粘性中
7　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　灰褐色粘土粒φ1～5㎜多　しまり・粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～15㎜多　灰粒微量　しまり・粘性中
9　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～3㎜微量　灰褐色粘土粒φ1～2㎜多　灰粒微量　しまり・粘性中
10　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒φ1～2㎜多　炭化粒φ1～3㎜微量　灰粒微量　しまり・粘性中
11　10YR4/2 灰褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～2㎜中　灰粒微量　しまり・粘性中

CUT5　3号住居 P1～7　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　ロームブロックφ3～20㎜微量　焼土粒微量　炭化粒微量　しまり中　粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性強
4　10YR4/6 褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強

第70図　3号住居跡（2）



第71図　3号住居跡出土遺物

表34　3号住居跡遺物観察表

cm, g

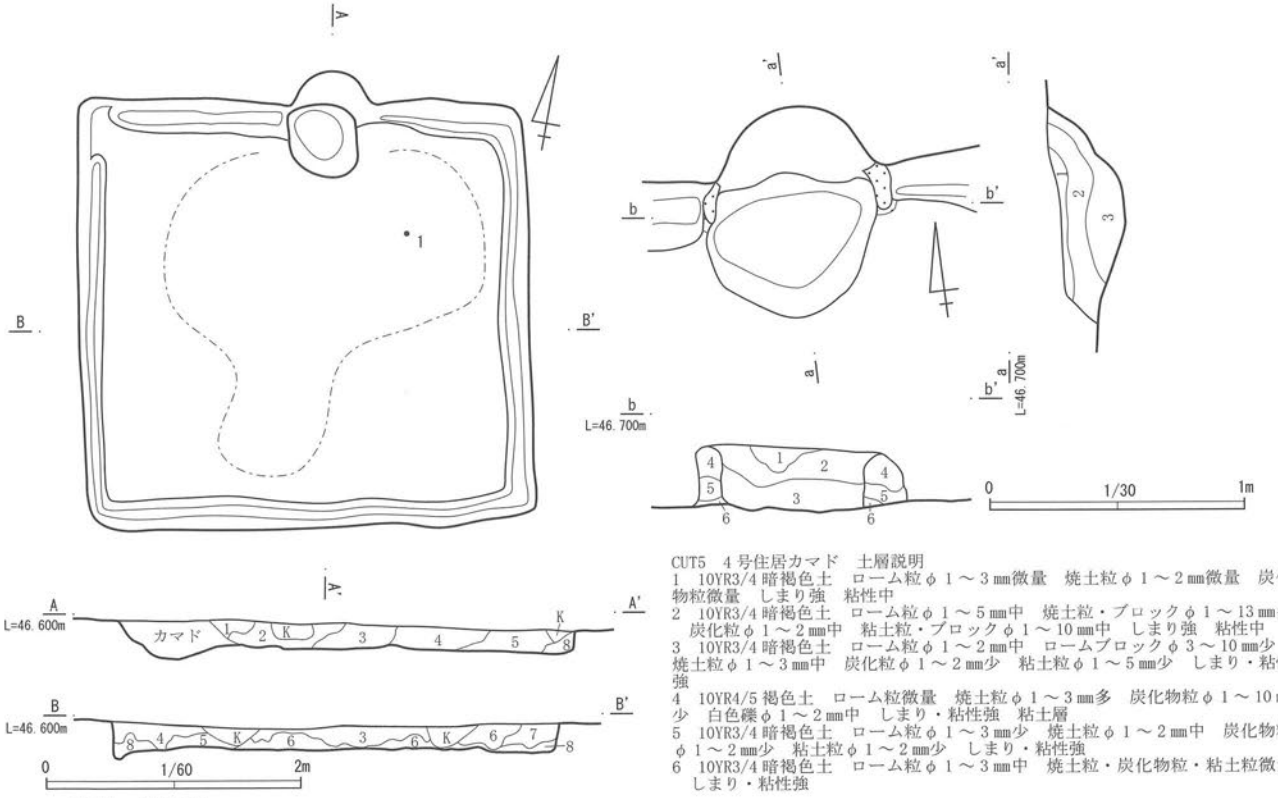
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No.4	土師器	甕	22.2	32.0	9.3	1192.7	長胴甕。口縁は「C」の字に外反し、口頸は僅かに摘み上げた後面取られる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。底部は一方向のヘラケズリ。頭部にヘラ端部圧痕有り。	良好 二次焼成?	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　2.5Y6/4にぶい黄	黒色粒子・角閃石・雲母多い。白色粒子少量。	口縁～胴下半1/2 底部完形	
2	覆土	須恵器	坏	—	〈1.5〉	(8.0)	38.0	底部は上げ底気味の平底。体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　10Y5/1灰	白色粒子少量。中礫微量。	底部1/2	
3	覆土	須恵器	蓋	—	〈1.0〉	—	3.3	端部の資料。返しを持つ。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y7/1灰白 外面　5Y7/2灰白	雲母やや多い。	端部片	新治産
4	ｽﾘｹｼ	須恵器	坏	(13.8)	〈3.7〉	—	12.1	見込みは弱く屈曲した後外反気味に緩やかに開く。	ロクロ整形。体部下端の調整は不明。	良好	内面　5Y8/2灰白 外面　2.5Y8/2灰白	石英少量。	口縁～体部片	

4号住居跡　（第72・73図，図版31・32・96）

本遺構はC3-24グリッドで検出された。平面形は方形で、長軸3.42m、短軸3.54m 、主軸方位N 11° Wである。確認面からの深さは18㎝で、覆土は8層に分層される。

カマドの遺存状況は悪く、袖は基部が僅かに残る程度である。ピットは確認されなかった。周溝はカマドと西隅を除き全周する。硬化面は住居中央と南壁中央壁付近で確認された。

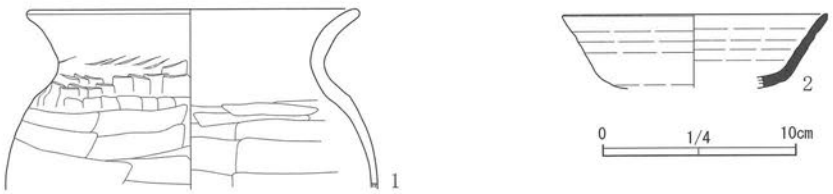
遺物は土師器甕・須恵器蓋坏が出土し、遺物から遺構は8世紀後半と判断される。



CUT5　4号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜微量　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化物粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜中　焼土粒・ブロックφ1～13㎜多　炭化粒φ1～2㎜中　粘土粒・ブロックφ1～10㎜中　しまり強　粘性中
3　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　ロームブロックφ3～10㎜少　焼土粒φ1～3㎜中　炭化粒φ1～2㎜少　粘土粒φ1～5㎜少　しまり・粘性強
4　10YR4/5褐色土　ローム粒微量　焼土粒φ1～3㎜多　炭化物粒φ1～10㎜少　白色礫φ1～2㎜中　しまり・粘性強　粘土層
5　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒φ1～2㎜中　炭化物粒φ1～2㎜少　粘土粒φ1～2㎜少　しまり・粘性強
6　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　焼土粒・炭化物粒・粘土粒微量　しまり・粘性強

CUT5　4号住居　土層説明
1　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　ローム粒φ3～5㎜微量　焼土粒φ1～2㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　雲母粒少　しまり中　粘性強
2　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜少　焼土粒φ1～2㎜中　炭化粒φ1～2㎜微量　雲母粒微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～4㎜少　焼土粒φ1～3㎜微量　炭化粒φ1～5㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　ローム粒φ4～5㎜微量　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～3㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　ロームブロックφ4～10㎜微量　焼土粒φ1～5㎜微量　炭化粒・ブロックφ1～30㎜中　しまり・粘性中
6　10YR2/3黒褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　ロームブロックφ30～50㎜微量　焼土粒φ1～3㎜微量　炭化粒φ1～3㎜中　雲母粒微量　しまり強　粘性中
7　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～4㎜少　焼土粒微量　炭化粒φ1～5㎜少　しまり強　粘性中
8　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒微量　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性強

第72図　4号住居跡



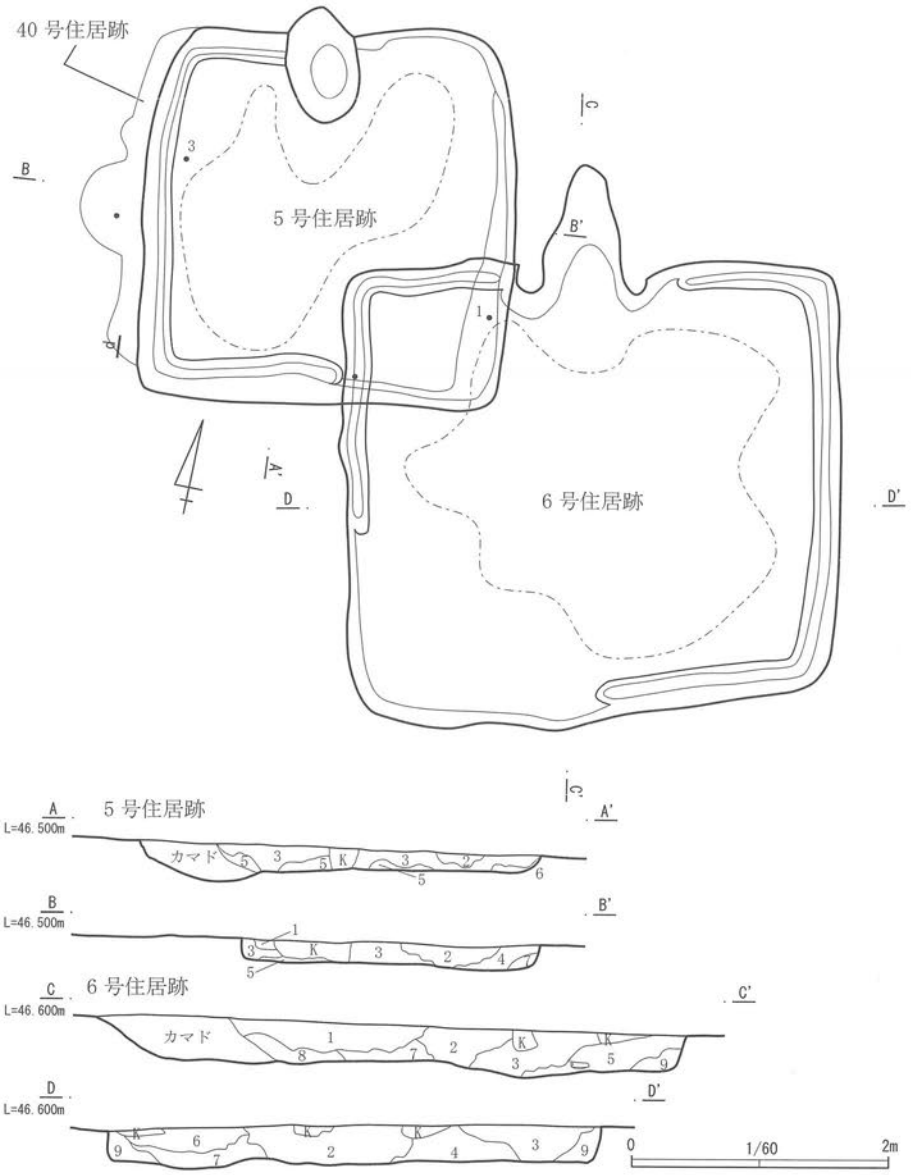
第73図　4号住居跡出土遺物

表35　4号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No.1	土師器	甕	17.0	〈9.5〉	—	622.7	胴部は張る。口縁は「C」の字に外反肥厚する。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面は横位のヘラケズリ、内面横位のナデ。外面頸部直下は縦の短いヘラケズリ後に、強く幅の狭い横ナデが行われている。頸部にはヘラ端部圧痕有り。	良好	内面　7.5YR5/4にぶい褐 外面　7.5YR6/6橙	白色粒子・雲母やや多い。黒色粒子。スコリア少量。白色針状物質微量。	口縁～胴部上半	
2	覆土	須恵器	坏	(13.7)	〈3.9〉	—	15.0	見込みは弱く屈曲した後、体部下半は直線的に、上半は緩やかに外反気味に開く。	ロクロ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内外面　5Y8/1灰白	石英やや多い。長石・雲母少量。	口縁～体部1/12	新治産

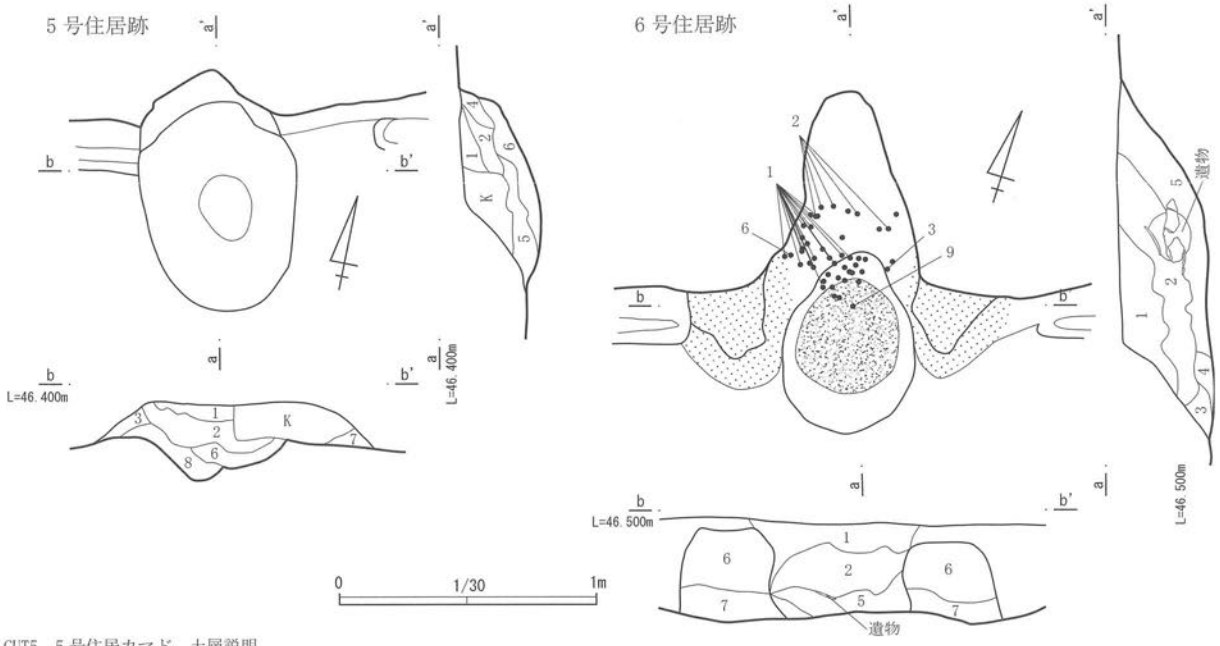
5・6 号住居跡



CUT5　5 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　炭化粒微量　しまり。粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり・粘性強
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　しまり・粘性強

CUT5　6 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　ロームブロックφ 30 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化物φ 1 ～ 12 ㎜少　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 4 ㎜少　炭化物φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ローム粒φ 3 ～ 4 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化物φ 1 ～ 10 ㎜中　しまり強　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜中　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 25 ㎜多　しまり・粘性強
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 40 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性強

第 74 図　5・6 号住居跡（1）



CUT5　5 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ㎜程微量　白色粒微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜・φ 6 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒微量　しまり・粘性中
3　10YR4/4 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 4 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒少　白色粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 4 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　白色粒少　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 3 ～ 5 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　白色粒微量　しまり・粘性中
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土ブロックφ 10 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒少　しまり・粘性強

CUT5　6 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜少　ローム粒φ 5 ～ 6 ㎜微量　焼土粒・炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒少　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロックφ 3 ～ 20 微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜中　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　粘土粒微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 8 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜多　粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　しまり強　粘性中
6　10YR4/4 褐色土　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性強　粘土層
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜中　焼土粒少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒微量　しまり・粘性強

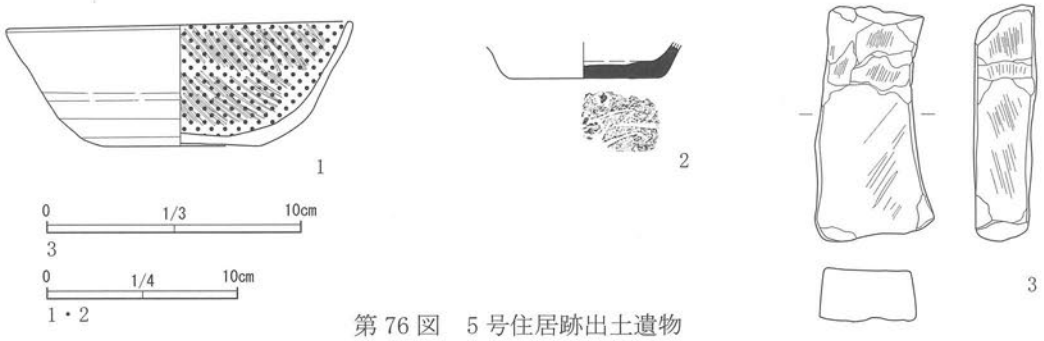
第 75 図　5・6 号住居跡（2）

5 号住居跡　（第 74・75・76 図，図版 32・33・96）

本遺構は C4-9 グリッドにおいて検出された。6 号住居跡に切られ、40 号住居跡を切る。平面形は方形で、長短軸 2.88m、主軸方位 N 10° W である。確認面からの深さは 18 ㎝で覆土は 9 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設されているが、遺存状況が悪く、掘り方のみ確認された。ピットは確認されなかった。硬化面は住居内に広く見られるが、周溝は 6・40 号住居跡に影響されない範囲では検出された。

遺物は内面黒色処理の坏・須恵器坏・砥石が出土している。遺物から遺構も 8 世紀後半と判断される。



第 76 図　5 号住居跡出土遺物

表 36　5 号住居跡遺物観察表

㎝，g

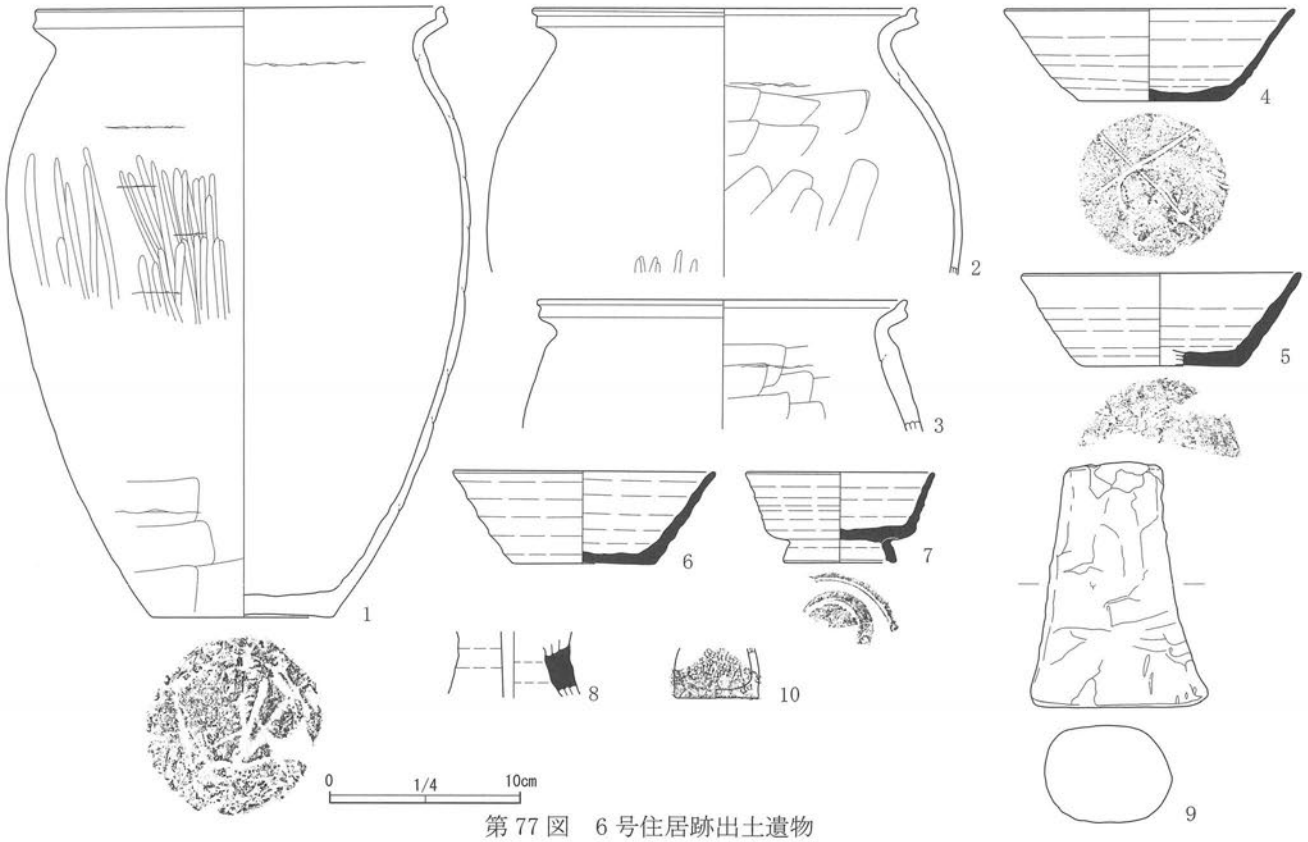
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	土師器	坏	17.8	6.4	8.3	336.0	底部は上げ底気味の平底。体部下端は緩やかに内湾した後開き、口縁で僅かに受け口となる。大振りの坏である。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好二次焼成ｱﾘ	内面　5Y4/1灰 外面　2.5Y6/4にぶい黄	雲母・石英・白色粒子やや多い。白色針状物質微量。	口縁1/2欠損	内面黒色処理
2	覆土	須恵器	坏	—	〈1.9〉	(7.8)	22.7	底部は平底で，体部下端は見込みで弱く屈曲する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りの後ヘラケズリを行っている。	還元不良	内外面　2.5Y6/3にぶい黄	石英・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	底部1/5	底部ヘラ記号
3	No. 4	石製品	砥石	縦9.0	横4.5	厚さ2.0	144.2	棒状の砥石。下端に向かいやや扇形に開く。使用面は上下両面及び側面。右側面はやや湾曲するもので鎌砥石であろう。材質は凝灰岩。						

6 号住居跡　（第 74・75・77 図，図版 34・96）

本遺構は C4-9 グリッドにおいて検出された。5・40 号住居跡を切る。平面形は方形で、長軸 3.72m、短軸 3.90m、主軸方位 N 12° W である。確認面からの深さは 30 cmで覆土は 7 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され袖と火床面が確認され、内部から支脚も出土している。ピットは確認されなかった。硬化面は住居中央に見られるが、周溝は西壁から南壁にかけて検出されない部分がある。

遺物は土師器甕・須恵器坏などで、カマド内からの出土が顕著である。遺物から遺構も 9 世紀前半と判断される。



第 77 図　6 号住居跡出土遺物

表 37　6 号住居跡遺物観察表（1）

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1, 9～12, 16, 17, 19, 21, 22, 24, 28, 30, 34	土師器	甕	21.0	32.3	9.5	1975.0	底部はやや上げ底気味の平底。胴部下半は僅かに内湾するが直線的に開き、最大径を上位に有す。口縁は「く」の字に外反し、口唇の摘み上げは明瞭である。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はナデ後ミガキが観察される。、内面はナデ。底部は一方向のヘラケズリ。頭部にヘラ端部圧痕有り。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/4にぶい黄橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母やや多い。	口縁、胴一部欠損	常総型甕 ｶﾏﾄﾞ砂付着 8世紀後～9世紀中ヵ
2	No. 2～5	土師器	甕	(19.8)	〈14.1〉	—	595.0	胴部の張りは強い。口縁は「く」の字に外反し、口唇の摘み上げは明瞭である。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はナデ後ミガキが観察される。内面はヘラナデ。	良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・雲母やや多い。	口縁～胴上半3/4	常総型甕
3	No. 6, ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	(19.0)	〈6.9〉	—	130.2	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に屈曲し、口唇の摘み上げは明瞭である。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部内外面共にナデ。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR7/4にぶい黄橙	雲母・白色粒子・角閃石やや多い。スコリア・中礫少量。	口縁1/4	常総型甕ヵ
4	No. 1	須恵器	坏	15.0	4.8	7.6	194.1	底部は平底で、体部は見込みで弱く屈曲した後直線的に開き口縁で僅かに外反する。火ぶくれ有り。	ロクロ整形。底部は回転糸きり後ナデ。	良好	内面　10Y5/1灰 外面　7.5Y5/1灰	白色粒子	口縁1/4欠損	底部ヘラ記号 歪みが激しい
5	覆土	須恵器	坏	(14.4)	4.9	(8.0)	115.5	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は見込みで屈曲した後直線的に開き、口辺で器薄になる。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	還元不良	内面　10YR5/2灰黄褐 外面　7.5YR6/4にぶい橙	小～中礫の混入多量。白色針状物質やや多い。	口縁～底部1/3	底部ヘラ記号ヵ
6	No. 39	須恵器	坏	13.4	4.9	7.4	127.1	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は見込みで屈曲した後直線的に開き、口縁で僅かに外傾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りの後多方向の手持ちヘラケズリを行っている。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　5Y5/1灰	白色粒子・小～中礫の混入やや多い。白色針状物質少量。	口縁～底部1/2	
7	ｵﾌｶﾀ	須恵器	高台付坏	(9.8)	4.8	5.8	52.6	高台は「ハ」の字に付される。体部は見込みで屈曲した後僅かに外反気味に開く。外端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。外縁の面取りは弱い。	良好	内外面　7.5Y6/2灰オリーブ	白色粒子・小礫少量。雲母微量。	口縁～底部1/3	底部ヘラ記号

表 38　6 号住居跡遺物観察表（2）

cm, g

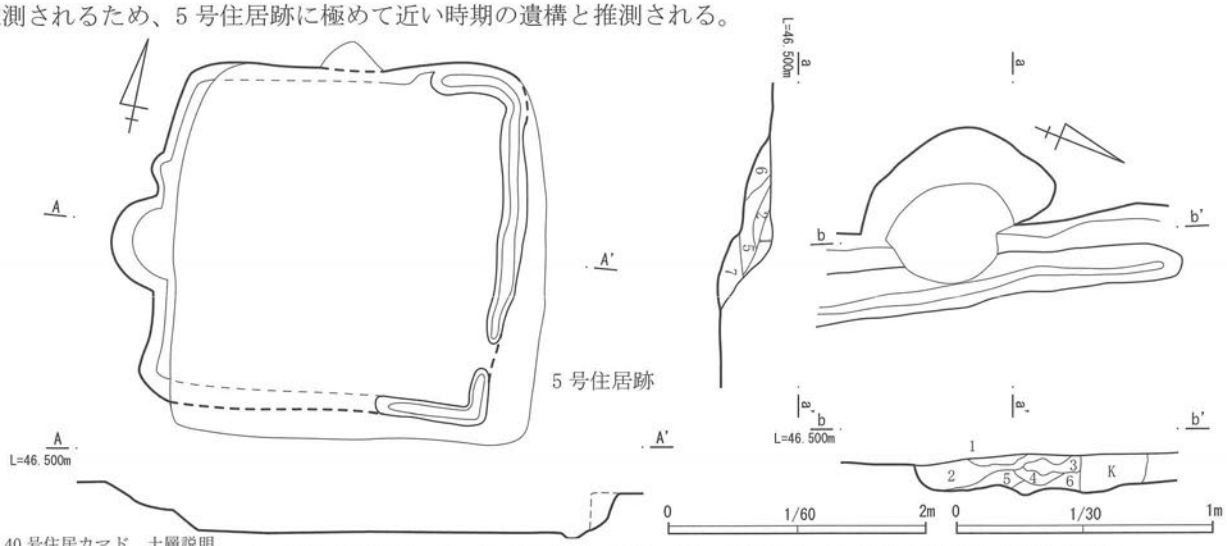
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
8	8号カマド	須恵器	高坏	—	3.5	—	17.7	脚部は緩やかに外反する。4方透し。	ロクロ整形。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　10Y5/1灰	白色粒子・鉄分の噴き出し・中礫少量。	脚部片	
9	No. 18	土製品	支脚	縦12.7	横6.5	厚さ5.0	719.7	円錐台形を呈する。	手・指による整形。	良好	10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・小礫金雲母少量。	完形	
10	S16	弥生式土器	ミニチュア土器	—	2.9	4.6	29.0	底部は平底で、体部はやや内湾気味に立つ。外面胴部に縄文が施文され、胎土・焼成及び器形から弥生時代のミニチュア土器と判断した。同様なミニチュア土器は、本遺跡の弥生時代の住居跡からは検出されていない。		良好	内面　2.5YR3/3暗オリーブ褐 外面　2.56YR5/4黄褐	雲母やや多量。小～中礫・白色粒子少量。白色針状物質微量。	底部～体部下半	混入遺物

40 号住居跡　（第 78 図，図版 32）

本遺構は C4-9 グリッドにおいて検出された。5 号住居跡に切られる。平面形は方形で、長軸 2.70m、短軸 2.82m、主軸方位 N 92°　W である。確認面からの深さは 30 cmである。

カマドは西壁壁中央に付設されるが、遺存状況は悪く掘方のみを検出した。ピット・硬化面とも確認されなかった。周溝は東壁周辺にのみ検出された。

遺物は土師器・須恵器の小片のみで、時期を特定出来なかった。しかし本遺構は 5 号住居跡へと建替えが行われたと推測されるため、5 号住居跡に極めて近い時期の遺構と推測される。



CUT5　40 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土ブロックφ 30 ㎜含む　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒多　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土ブロックφ 3 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒少　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり・粘性強
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜多　灰褐色粘土粒微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色粒微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　灰褐色粘土粒微量　しまり・粘性強
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化物粒微量　白色粒微量　しまり強・粘性中

第 78 図　40 号住居跡

7 号住居跡　（第 79・80 図，図版 35・96）

本遺構は C4-13・14 グリッドにおいて検出された。38 号住居跡を切る。平面形は主軸方位が長い長方形で、長軸 3.78m、短軸 3.12m、主軸方位 N 17.5°　W である。確認面からの深さは 30 cmで、覆土は 7 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され袖が検出された、ピットは確認されなかった。硬化面はカマド前と住居東部に偏在している、周溝はカマドと北西・南西隅が欠ける以外は全周する。

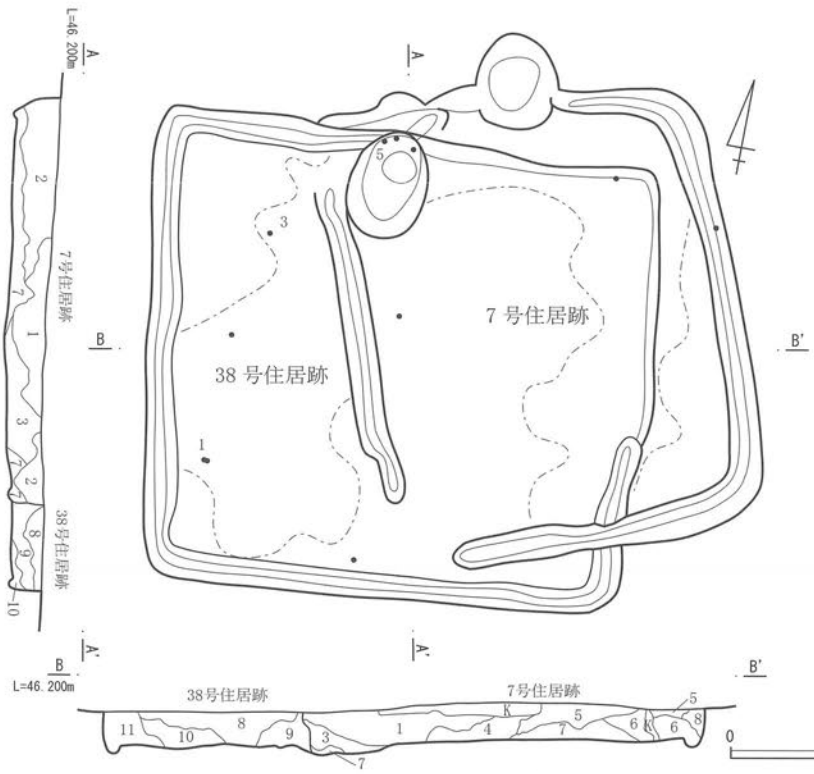
遺物は須恵器蓋坏で、蓋（1）内面には墨痕とともに「可」という墨書がされる。遺物から遺構も 9 世紀後半と判断される。

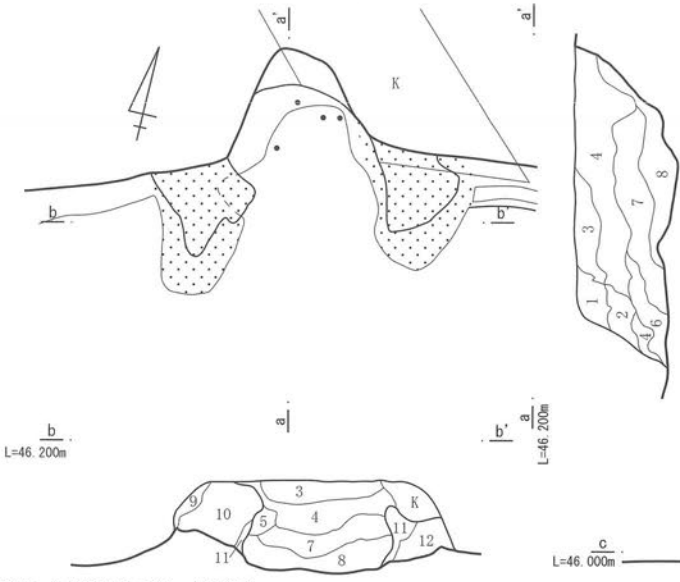
38 号住居跡　（第 79・81 図，図版 103）

本遺構は C4-13・14 グリッドにおいて検出された。7 号住居跡に切られる。平面形は方形で、長軸 3.78m、短軸 4.02m、主軸方位 N 7°　W である。確認面からの深さは 24 cmで、覆土は 4 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設されるが、7 号住居跡により破壊されたものか掘方しか検出されなかった。ピットは確認されなかった。硬化面は住居中央に見られるが、周溝はカマドと 7 号住居跡と重複する部分を除き全周する。

遺物は土師器甕・須恵器坏・砥石などで、遺物から遺構も 9 世紀前半と判断される。





CUT5　7・38 号住居　土層説明

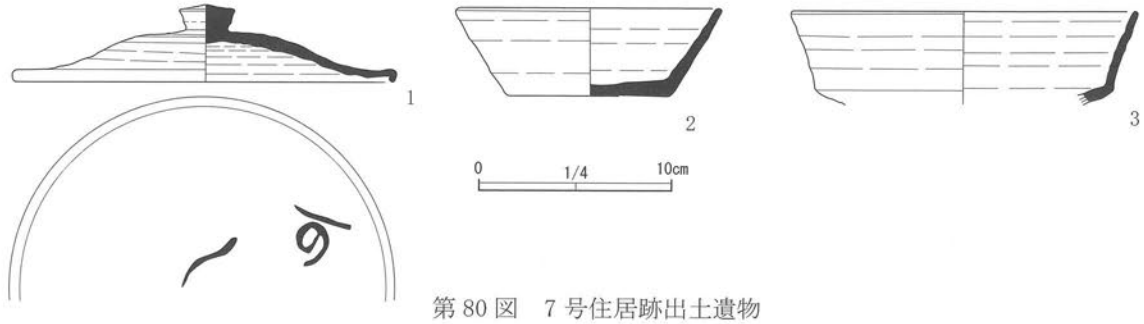
土層説明（7 号住）

1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 5 ～ 30 ㎜少　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 40 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 5 ～ 10 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒 φ 2 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
a　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 40 ㎜多　しまり強　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜微量　しまり・粘性中
10　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性中
11　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　しまり・粘性中
b　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり強　粘性中

CUT5　7 号住居カマド　土層説明

1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　褐灰色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　褐灰色粘土ブロック φ 1 ～ 10 ㎜中　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　褐灰色粘土ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ロームブロック φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　褐灰色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
9　10YR4/4 褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色礫 φ 1 ～ 2 ㎜多　しまり・粘性強　粘土層
10　10YR4/4 褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　白色礫 φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強　粘土層
11　10YR4/4 褐色土　ローム粒微量　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色礫 φ 1 ～ 2 ㎜多　しまり・粘性強　粘土層
12　10YR4/4 褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　焼土粒微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　白色礫 φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強　粘土層

第 79 図　7・38 号住居跡

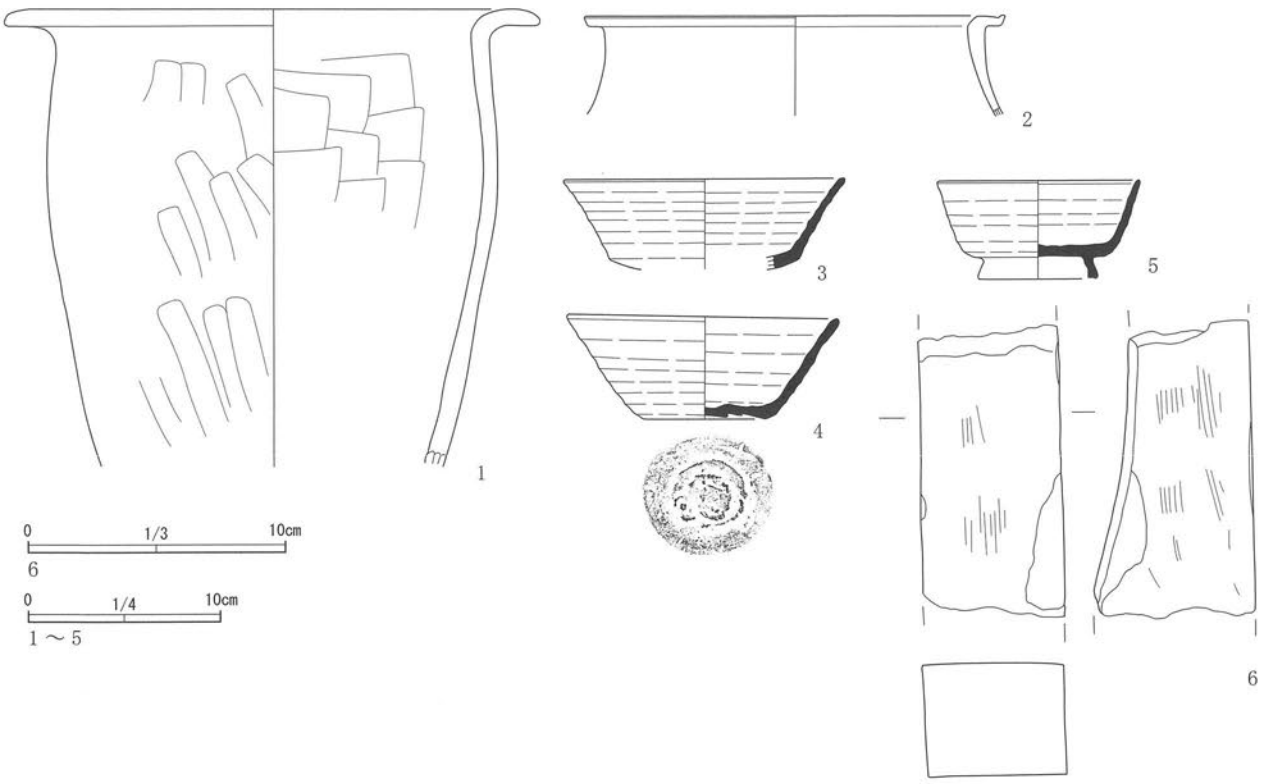


第 80 図　7 号住居跡出土遺物

表 39　7 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 5	須恵器	蓋	20.0	4.1	3.0	320.7	天井は緩で僅かに外反する弓張状。鈕は擬宝珠状を呈する。端部は短く屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。天井の回転ヘラケズリは1/4。	良好	内外面　5Y6/1灰	鉄分の噴き出し・白色粒子・小礫ややや多い。白色針状物質微量。	端部一部欠損	内面墨書「可」。重ね焼き痕有り。SI-38から移動
2	覆土	須恵器	坏	(13.4)	4.6	8.1	53.9	底部は僅かに上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内面　5Y5/1灰 外面　5Y5/2灰オリーブ	小～中礫ややや多い。白色粒子・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁1/8 体～底部1/4	
3	覆土	須恵器	坏	(17.6)	4.9	—	72.2	体部下端の面取りは緩やか、体部は僅かに外反気味に開く。	ロクロ整形。	良好	内外面　7.5Y5/1灰	小～中礫・白色粒子少量。鉄分の噴出し微量。	口縁～体部1/3	



第 81 図　38 号住居跡出土遺物

表 40　38 号住居跡遺物観察表

cm, g

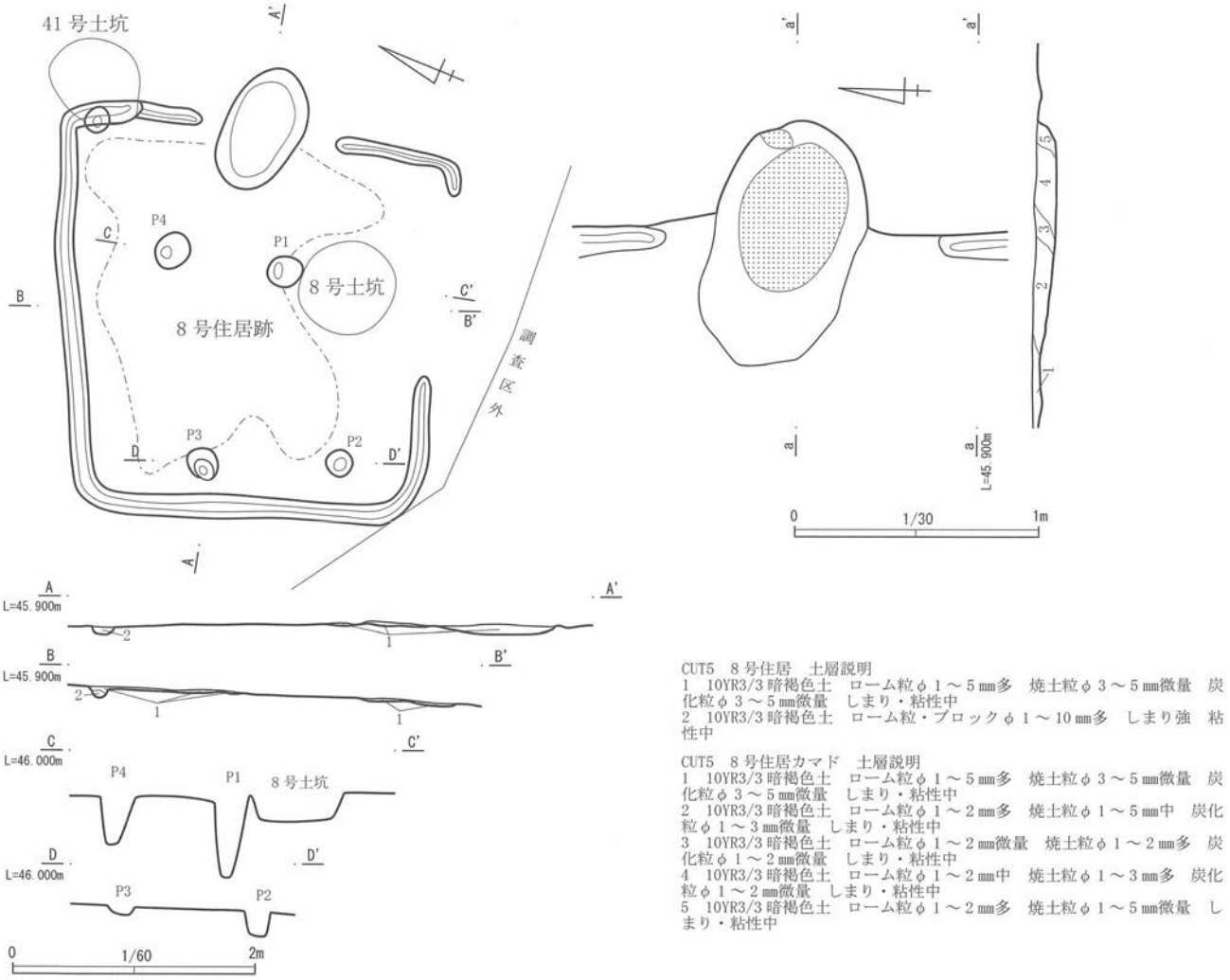
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 4	土師器	甕	(25.3)	〈24.1〉	—	630.6	胴部の張りは弱くやや長胴気味。口縁は「C」の字に屈曲しほぼ水平に開く。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR5/3にぶい黄褐	小～中礫・石英多量混入。金雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～胴下半1/5	
2	SI-7	土師器	甕	(21.7)	〈5.3〉	—	48.2	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に屈曲しほぼ水平に開いた後摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母少量。	口縁部1/8	
3	No. 3	須恵器	高台付坏	(14.3)	〈4.7〉	—	68.2	体部は下端で屈曲した後緩やかに外反する。	ロクロ整形。	良好	内面　7.5Y6/1灰 外面　10YR6/1褐灰	白色粒子ややや多い。鉄分の噴出し・白色針状物質少量。	口縁～体部1/2	
4	No. 2	須恵器	坏	13.8	5.45	6.4	174.2	底部は上げ底気味の平底である。体部は直線的に開く。やや箱型。	ロクロ整形。底部は粗い回転ヘラ切りである。	良好	内面　5Y6/3オリーブ黄 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子ややや多い。白色針状物質微量。小～中礫ややや多い。	口縁1/4欠損	ヘラ記号
5	No. 7	須恵器	高台付坏	10.4	5.2	6.1	138.2	高台は「ハ」の字に付される。見込みは平坦で、体部は直線的に立つ。	ロクロ整形。回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y5/1灰 外面　5Y6/1	白色粒子ややや多い。雲母・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁1/5欠損	
6	ｷﾘｶﾀ	石製品	砥石	縦6.0	横2.8	厚さ2.3	87.0	断面方形の素材で、上下両端を欠損している。下端は平坦で、置き砥石であろう。上面はゆるやかに湾曲するもので、鎌砥石と考えられる。						

8 号住居跡　（第 82・83 図，図版 96）

本遺構は C4-14・19 グリッドにおいて検出された。8・41 号土坑に切られる。平面形は東壁が傾行するものの概ね方形で、長軸 3.42m、短軸 3.12m 、主軸方位 N 67° E である。住居壁はほとんど削平されている。

カマドは底面のみ検出され、火床面が確認された。主柱穴は 4 基確認されたが、配置に歪みがある。周溝はカマドと南壁の一部を除き全周する。硬化面は住居内に広がる。

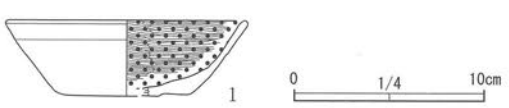
遺物は土師器・須恵器の小片が出土したが、内面黒色処理の坏を掲載した。遺物から遺構は 9 世紀前半と判断される。



CUT5　8 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　炭化粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり強　粘性中

CUT5　8 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　炭化粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中

第 82 図　8 号住居跡

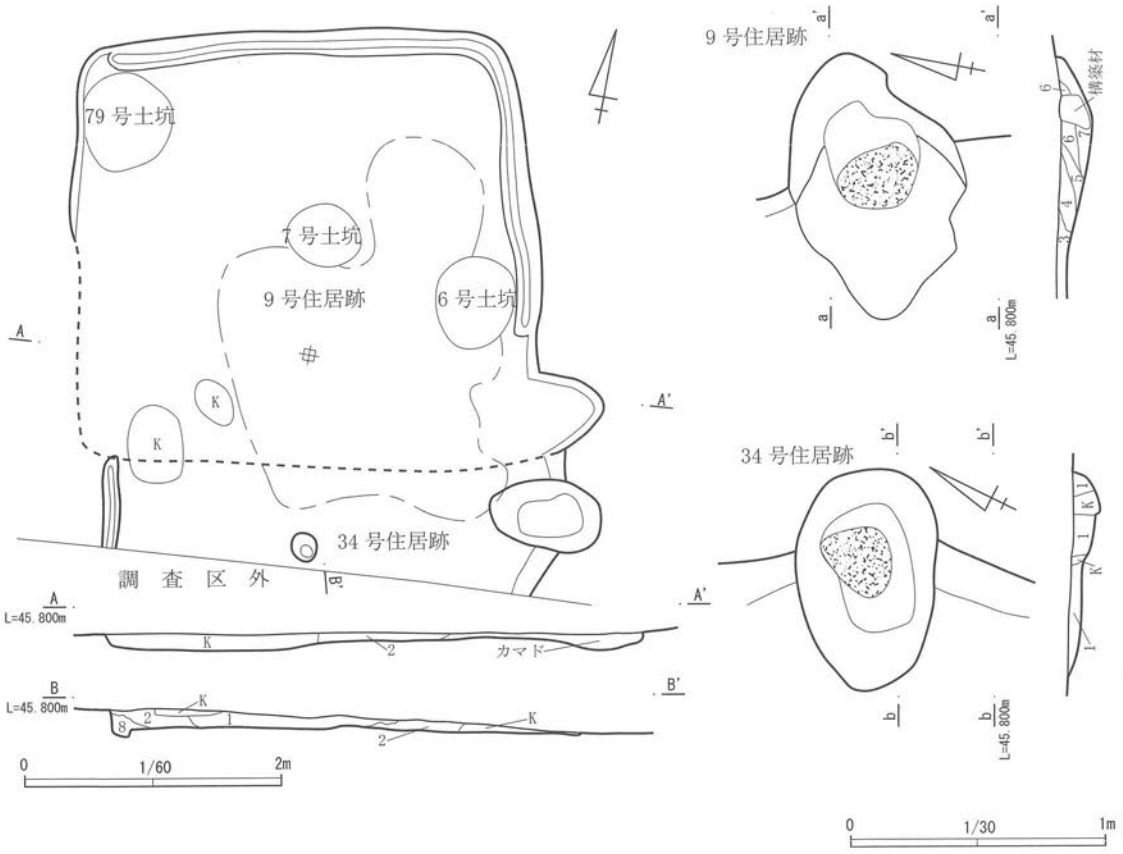


第 83 図　8 号住居跡出土遺物

表 41　8 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	坏	12.2	4.0	6.5	71.7	底部の切り離しは粗い。体部は見込みで内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り、体部内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y5/3黄褐	白色粒子・雲母・角閃石少量。	口縁1/4～底部	内面黒色処理



CUT5　9 号住居・カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒少　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　雲母粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒ブロックφ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性
7　10YR4/4 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒微量　しまり強　粘性中
8　10YR4/4 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒微量　炭化粒微量　しまり強　粘性中

CUT5　34 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　雲母粒少　しまり中　粘性強

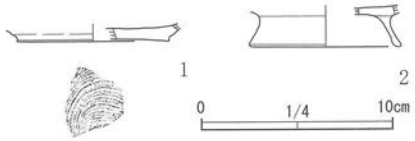
第 84 図　9・34 号住居跡

9 号住居跡　（第 84・85 図，図版 35・36・96）

本遺構は C4-14・15・19・20 グリッドにおいて検出された。遺構の検出の状況から 34 号住居跡を切ると推測される。6・7・79 号土坑に切られる。平面形は方形と考えられ、長軸 3.72m、短軸（3.42）m、主軸方位 N 80° E である。確認面からの深さは 12 ㎝で、覆土は 3 層に分層される。

カマドは東壁南隅に付設されるが底面のみ遺存し、火床面が検出された。硬化面はカマド前と住居東部に偏在している、周溝は北・東壁に確認された。

遺物は土師器坏類で、遺物から遺構も 9 世紀後半と判断される。



第 85 図　9 号住居跡出土遺物

表 42　9 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	—	〈0.9〉	(8.0)	12.2	底部は僅かに上げ底気味の平底。見込みは平坦。	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	良好	内外面　10YR7/6 明黄褐	黒色粒子少量。雲母・白色粒子微量。	底部1/4	
2	覆土	土師器	高台付坏	—	〈2.2〉	(7.8)	15.9	高台は「ハ」の字に付され薄くやや丈高、端部で肥厚する。	ロクロ整形。坏部底部内面は丁寧なミガキが観察される。	良好	内面　5Y4/1 灰 外面　10YR7/6 明黄橙	黒色粒子少量。雲母・白色粒子微量。	脚部1/4	内面黒色処理

34 号住居跡　（第 84 図，図版 56）

本遺構は C4-19・20 グリッドにおいて検出された。遺構の検出の状況から 9 号住居跡に切られると推測され、また南部が調査区外になるため、平面形は不明だが、長軸 3.60m、短軸（0.72）m、主軸方位 N 80° E である。確認面で既に床面が検出され、覆土は 3 層に分層される。

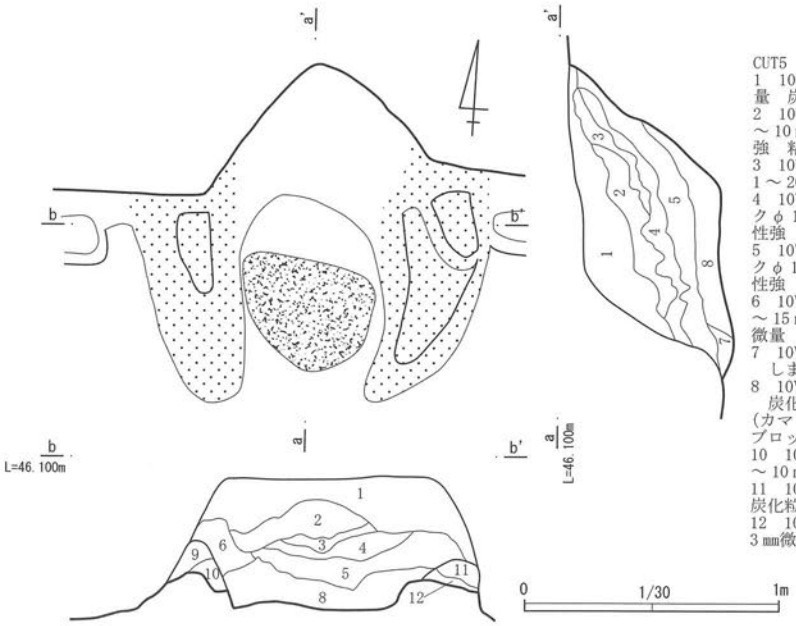
カマドは東壁に付設されるが底面のみ遺存し、火床面が検出された。硬化面はカマド前と住居東部に偏在している、周溝は北・東壁に確認された。

遺物は土師器・須恵器の小片が出土しているが、時期は不明である。遺構は奈良・平安時代と考えられ、重複遺構の年代から下限は 9 世紀後半である。

10 号住居跡　（第 86・87・88 図，図版 37・97）

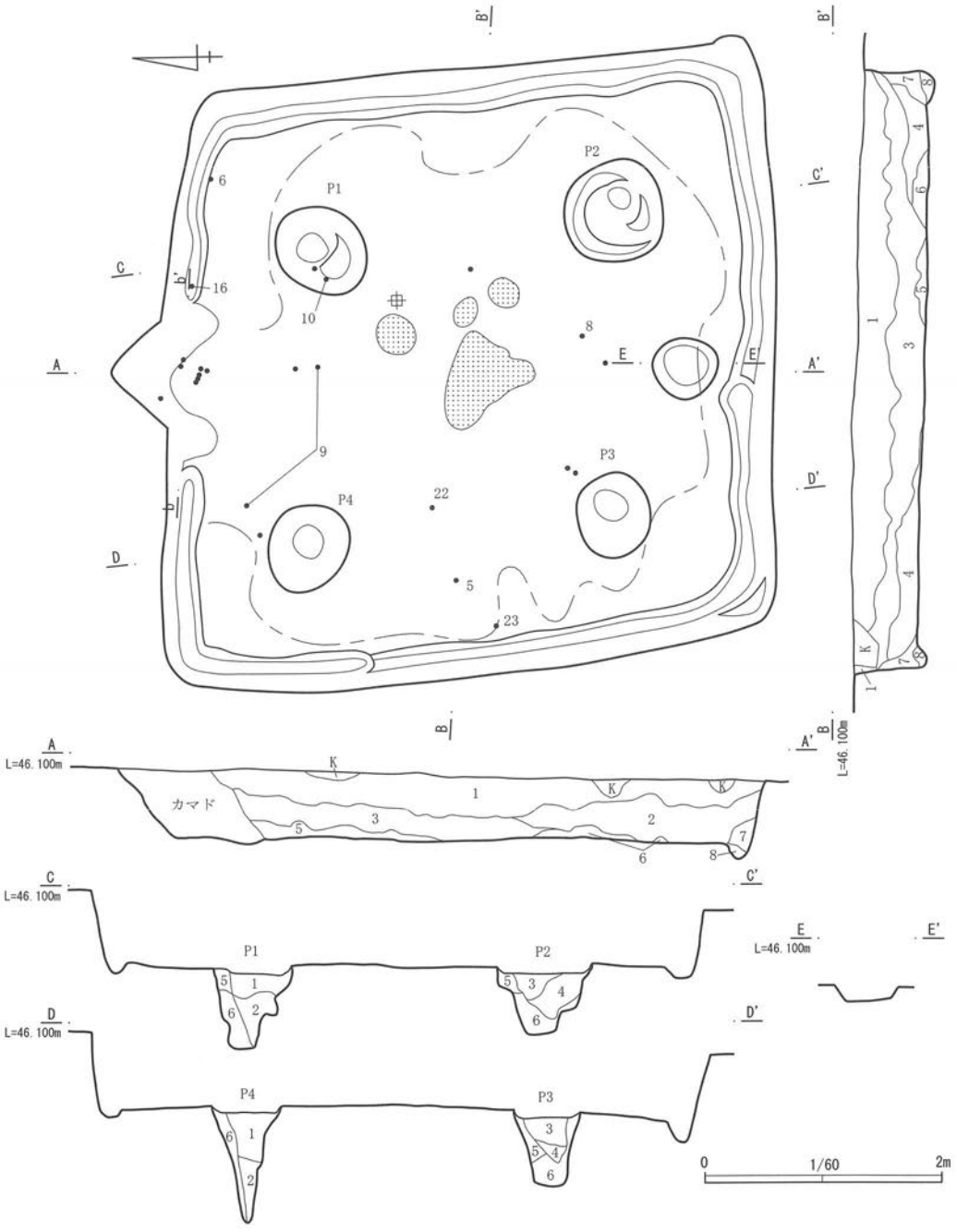
本遺構は C4-9・10・14・15 グリッドにおいて検出された。平面形は方形で、長軸 5.16m、短軸 5.22m、主軸方位 N 3° W である。確認面からの深さは 54 ㎝で遺存状態は良好である。覆土は 8 層に分層され自然堆積の様相を呈する。カマドは北壁中央に付設され袖は丸味を持ち、火床面を囲む。主柱穴は 4 基確認され、掘方は比較的大きい。他に出入口ピットがカマドと対称の位置に検出された。硬化面は住居内に広く確認され、中央には焼土が分布している。周溝はカマドを除き全周する。

遺物は土師器甕・坏、須恵器甕・瓶・蓋・坏・高台付盤などで、本遺跡の当該期の遺構の中では良好な遺物群である。遺物から遺構は 8 世紀後半と判断される。なお土師器坏（4）は底部外面に墨書がなされるが、釈読は出来ない。この土器については覆土中からの出土であり、土器の特徴から 9 世紀後半～ 10 世紀の時期と考えられ、遺構廃絶後の混入の可能性が高い。



CUT5　10 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　灰粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 3 ～ 5 ㎜微量　炭化粒φ 2 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　明黄褐色土粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり中　粘性強
4　10YR6/4 にぶい黄橙色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒･ブロックφ 1 ～ 40 ㎜中　炭化物粒φ 1 ～ 30 ㎜中　灰粒微量　しまり・粘性強
5　10YR6/4 にぶい黄橙色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒･ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　灰粒微量　しまり・粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 15 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　灰粒微量　しまり強　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
（カマドソデ）9　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性強
10　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性強
11　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性強
12　10YR4/6 褐色土　ローム粒・焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性強

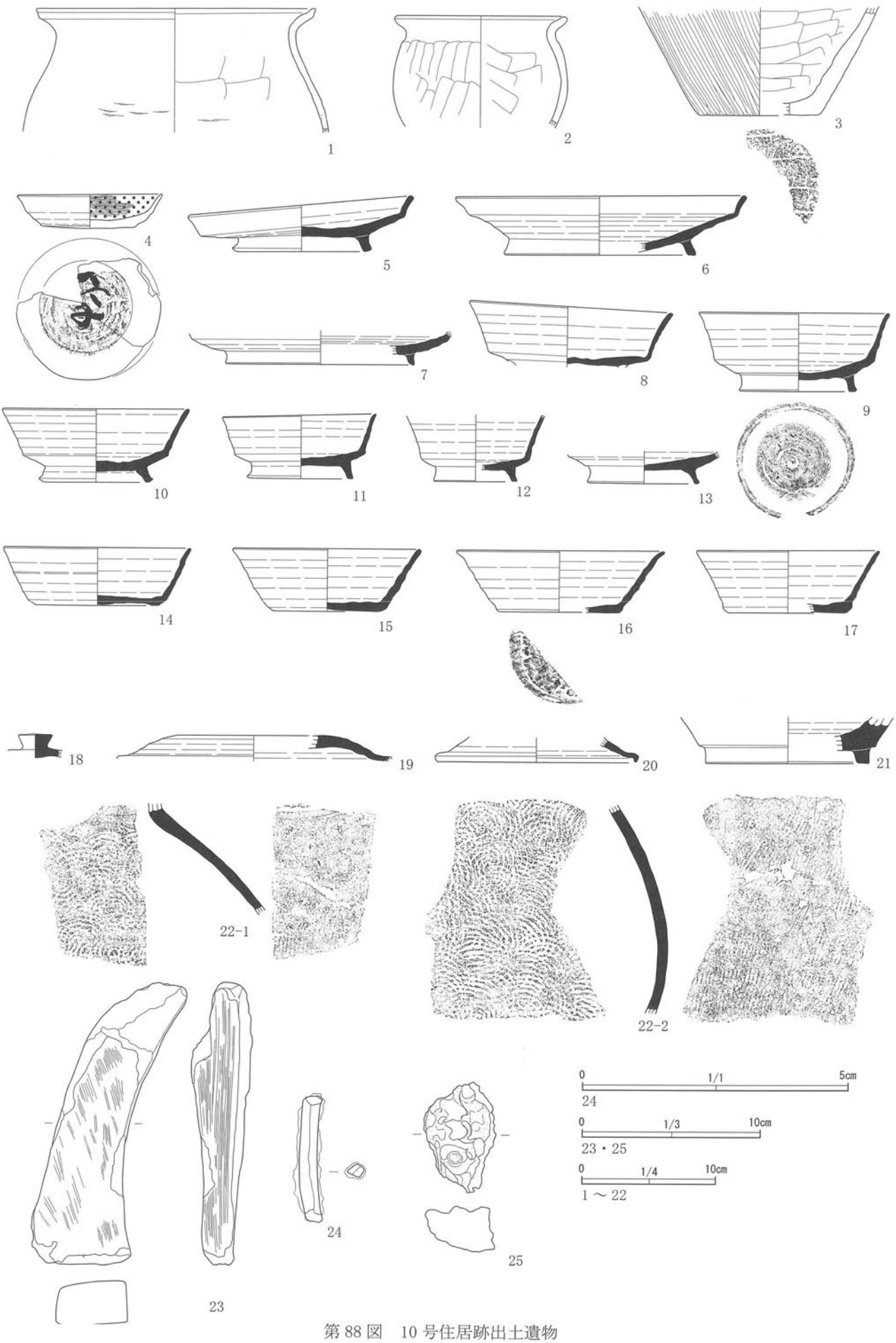
第 86 図　10 号住居跡（1）



CUT5　10 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 5 微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 8 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜中　ロームブロックφ 6 ～ 15 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 20 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり中　粘性強
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 15 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　炭化粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜多　ロームブロック 5 ～ 20 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒・炭化粒微量　しまり・粘性中
8　10YR3/3 暗褐　ローム粒子・ロームブロックφ 1 ～ 2 ㎜やや多量・φ 3 ～ 4 ㎜少量含む。焼土粒子ごく微量。炭化粒子ごく微量。ややしまる。やや粘性あり。

CUT5　10 号住居 P1 ～ P4　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少量　ロームブロックφ 3 ～ 30 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強
3　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
4　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒微量　炭化粒微量　しまり・粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性強

第 87 図　10 号住居跡（2）



第88図　10号住居跡出土遺物

表 43　10 号住居跡遺物観察表

cm, g

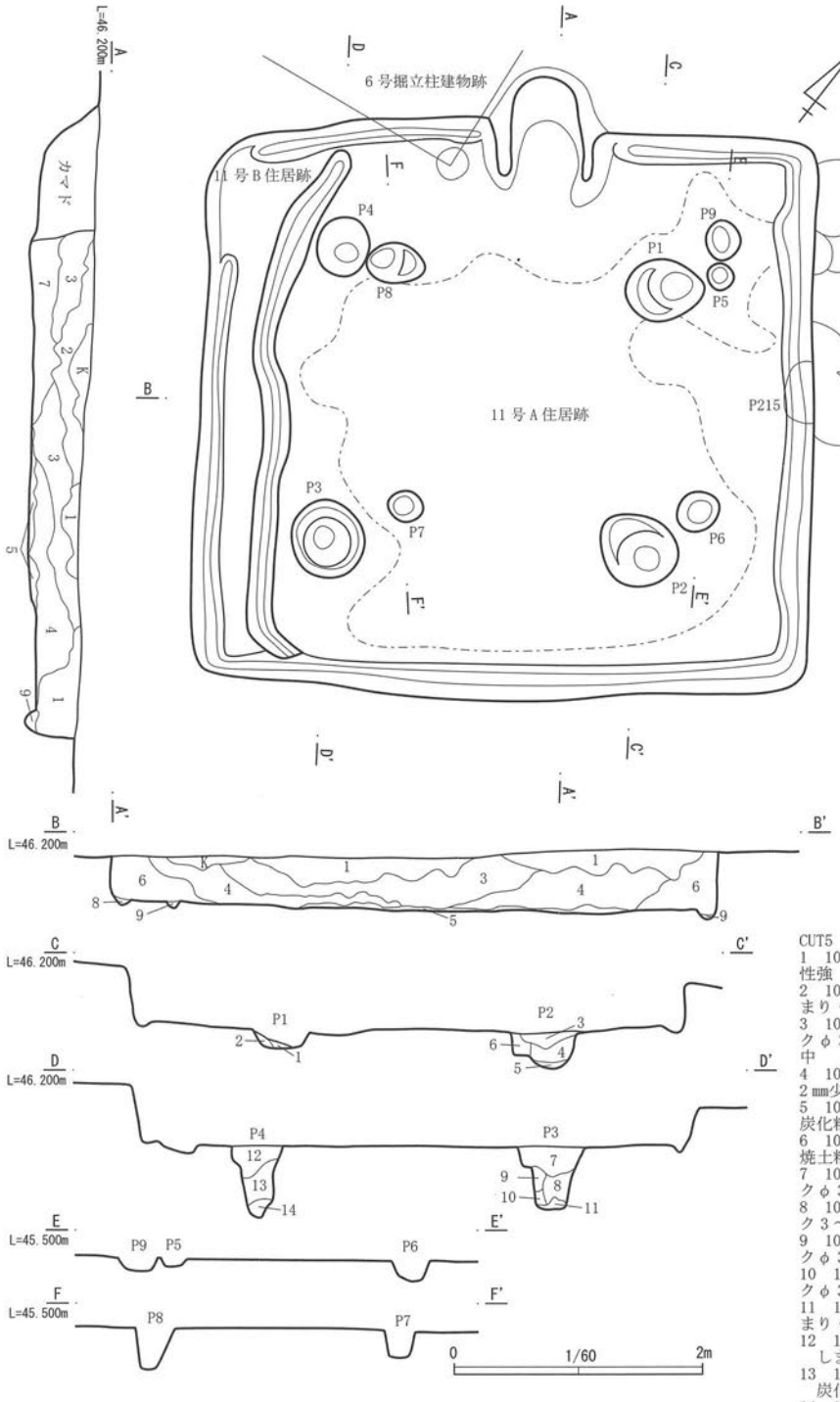
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	甕	(20.8)	<9.45>	—	78.6	胴部の張りは弱い。口縁は「C」の字に外反し口唇の摘み上げは明瞭。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。胴部外面にヘラの当り有り。	良好 二次焼成列	内面　10YR5/1にぶい黄橙 外面　7.5YR7/6橙	雲母多い。長石・石英やや多い。	口縁～胴上半1/8	常総型甕
2	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	(12.7)	<8.5>	—	77.7	小形の甕である。胴部は球形か。口縁は「C」の字に外反し口唇直下で僅かに受け口となる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。	良好 二次焼成列	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　5YR5/6明赤褐	長石・石英多い。雲母やや多い。	口縁～胴部1/8	
3	覆土	土師器	甕	—	<8.3>	(9.0)	244.3	底部は平底で、胴部下半は直線的に開く。	底部木葉痕。胴部外面は縦方向のミガキ、内面はナデ。	良好	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　2.5Y5/3黄褐	雲母多い。長石・石英少量。	胴下半～底部1/3	常総型甕
4	覆土	土師器	坏	10.8	2.6	7.1	75.8	底部は平底で、体部下半は緩やかに内湾し、口縁で僅かに外反する。浅い。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。体部内面はミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～底部2/3	内面黒色処理 底部外面墨書「仁」 底部ヘラ記号ヵ
5	No. 18	須恵器	高台付盤	16.5	3.55	9.5	191.8	高台は「ハ」の字に付される。見込はほぼ平坦で、屈曲した後口縁はやや外反する。高台端部は鋭く尖る。内端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。	還元不良	内面　5Y5/1灰 外面　2.5Y4/1黄灰	鉄分の噴き出し・白色粒子・小礫やや多い。白色針状物質少量。	1/2	歪みが激しい
6	No. 10	須恵器	高台付盤	(11.6)	<4.5>	(14.2)	32.0	高台は「ハ」の字に付される。見込は緩やかに内湾し、屈曲した後口縁はやや外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。	良好	内外面　10Y6/1灰	小～中礫・白色粒子少量。白色針状物質・鉄分の噴出し微量。	1/3	
7	覆土	須恵器	高台付盤	—	<2.6>	14.1	31.3	高台は「ハ」の字に付される。見込は緩やかに内湾し、屈曲した後口縁はやや外反する。外端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。	良好	内面　2.5Y7/2灰黄 外面　2.5Y6/2灰黄	鉄分の噴出し多い。白色粒子・小礫少量。	底部片	
8	No. 14	須恵器	高台付坏	15.1	<4.7>	—	166.0	底部は僅かに上げ底気味。体部は薄く、外反気味にほぼ直立する。高台欠損。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後、中心を逸れてナデ整形を行っている。	還元不良	内面　5Y5/1灰 外面　7.5Y4/1灰	小～中礫・白色粒子やや多い。白色針状物質・鉄分の噴出し微量。	口縁～体部1/2欠損 高台欠損	
9	No. 21, 22	須恵器	高台付坏	13.2	6.0	8.7	252.7	高台は「ハ」の字に付される。見込は緩やかに内湾し、体部はやや外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。	良好	内外面　7.5Y6/1灰	小～中礫・鉄分の噴出し多い。白色針状物質やや多い。	口縁～体部1/2欠損	底部ヘラ記号
10	No. 12	須恵器	高台付坏	14.0	5.6	7.8	159.5	ロクロ整形。高台は「ハ」の字に付される。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。内端接地。外縁の面取りは鋭い。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後高台貼付け。	良好	内外面　7.5Y6/1灰	黒色粒子・鉄分の噴出し・小～中礫多い。	1/2	底部ヘラ記号
11	ｶﾏﾄﾞ No. 8	須恵器	高台付坏	11.4	4.8	7.4	200.7	小型で浅い。高台は「ハ」の字に付される。体部の器壁は薄くやや外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後高台貼付け。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　10Y6/1灰	黒色粒子・鉄分の噴出し多い。白色粒子微量。	完形	
12	No. 20	須恵器	高台付坏	—	<5.1>	6.3	38.9	小型である。高台は「ハ」の字に付される。体部の器壁は薄くやや外反する。	ロクロ整形。底部の調整は不明。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　7.5Y5/2灰オリーブ	白色粒子・白色針状物質・小礫少量。鉄分の噴出し微量。	体部1/8 底部1/2	
13	No. 11	須恵器	高台付坏	—	<2.5>	8.0	118.5	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部下端は僅かに内湾する。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y5/2灰オリーブ 外面　7.5Y5/1灰	白色粒子・小礫多い。白色針状物質少量。	底部完形	転用硯ヵ
14	ｶﾏﾄﾞ No. 3	須恵器	坏	14.0	4.4	9.3	87.9	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内面　7.5Y5/2灰オリーブ 外面　7.5Y5/1灰	小礫・白色針状物質・鉄分の噴出し少量。	1/2	火ダスキ有り
15	覆土	須恵器	坏	14.0	4.8	7.8	104.5	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラケズリ。	良好	内外面　5Y7/2灰白	黒色粒子やや多い。石英・小～中礫少量。	口縁～体部1/4 底部4/5	
16	No. 9	須恵器	坏	15.4	<4.7>	(9.0)	51.0	底部はやや上げ底気味の平底、体部は直線的に開いた後口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内外面　7.5Y5/1灰	小～中礫少量。白色針状物質微量。	1/8	
17	覆土	須恵器	坏	13.8	<4.75>	(8.9)	53.3	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後部分的に手持ちヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y6/1灰 外面　10Y6/1灰	黒色粒子やや多い。白色粒子・小～中礫少量。雲母微量。	口縁1/8 体～底部1/4	
18	覆土	須恵器	蓋	—	1.8	ﾂﾏﾐ径2.6	17.5	ツマミは扁平な擬宝珠状を呈する。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y5/2灰オリーブ	白色粒子少量。	ツマミのみ	
19	覆土	須恵器	蓋	—	<2.0>	—	21.3	天井は緩で僅かに外反する弓張状を呈する。端部は僅かに残存するが形状は不明。返しは無い。	ロクロ整形。天井は狭く回転ヘラケズリが行われている。	良好	内外面　5Y6/1灰	鉄分の噴出し多い。小礫微量。	天井部片 ツマミ・端部欠損	
20	覆土	須恵器	蓋	15.0	<1.9>	—	16.4	縁部は僅かに外反し、端部は短く折れる。	ロクロ整形。	良好	内面　10Y6/1灰 外面　7.5Y5/1灰	鉄分の噴出し・小～中礫・白色粒子少量。	端部片	
21	覆土	須恵器	甕	—	<3.6>	(12.3)	40.4	高台は厚手で短く畳付けは平坦。外縁の面取りは狭く鋭い。胴部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。	良好	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面　5Y6/2灰オリーブ	鉄分の噴出し・黒色粒子少量。	高台部1/5	
22-1		須恵器	甕	—	<8.0>	—	119.1	胴部の張りは強く緩やかに内湾する。	胴部外面平行叩き、内面青海波。	良好	内面　2.5GY5/1オリーブ 外面　10Y3/1灰	小～大礫やや多く混入。白色粒子多い。	胴部大破片	
22-2	No. 19	須恵器	甕	—	<16.0>	—	242.8	胴部の張りは強く緩やかに内湾する。	胴部外面平行叩き、内面青海波。	良好	内面　2.5GY5/1オリーブ 外面　10Y3/2灰	小～大礫やや多く混入。白色粒子多い。	胴部大破片	
23	No. 17	石製品	砥石	縦16.0	横8.65	厚さ2.6	355.3	素材には細雲母片岩が用いられている。自然礫を素材にするもので弧状に湾曲する。上下及び側面に使用が認められる。湾曲の状況から雑砥石と判断した。						
24		鉄製品	釘ヵ	縦4.9	厚さ0.5	重量6.9		棒状を呈する。断面は方形で、両端共に折損している。						
25		鉄滓	鉄滓	縦6.3	横4.1	厚さ2.55	重量90.2	塊状の鉄滓。						

11 号 A・B 住居跡　（第 89・90・91 図，図版 37・38・97）

本遺構は D4-16 グリッドにおいて検出された。6 号掘立柱建物跡、P215・216 に切られる。平面形は方形で、両住居跡とも長軸 47.4m、A 住居跡が短軸 4.44m、B 住居跡が短軸 4.98m、主軸方位 N 36.5° W である。確認面からの深さは 42 cmで遺存状態は良好である。覆土は 9 層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され袖はやや直線的に伸びた後、やや内へと入る。内部では火床面と灰層が検出された。主柱穴はその位置から A 住居が P5 ～ 9、B 住居が P1 ～ 4 と考えられる。硬化面は住居内に広く確認された。周溝はカマドと B 住居の西隅を除き全周する。両遺構は A 住居から B 住居に東南壁を拡張したものと考えられる。

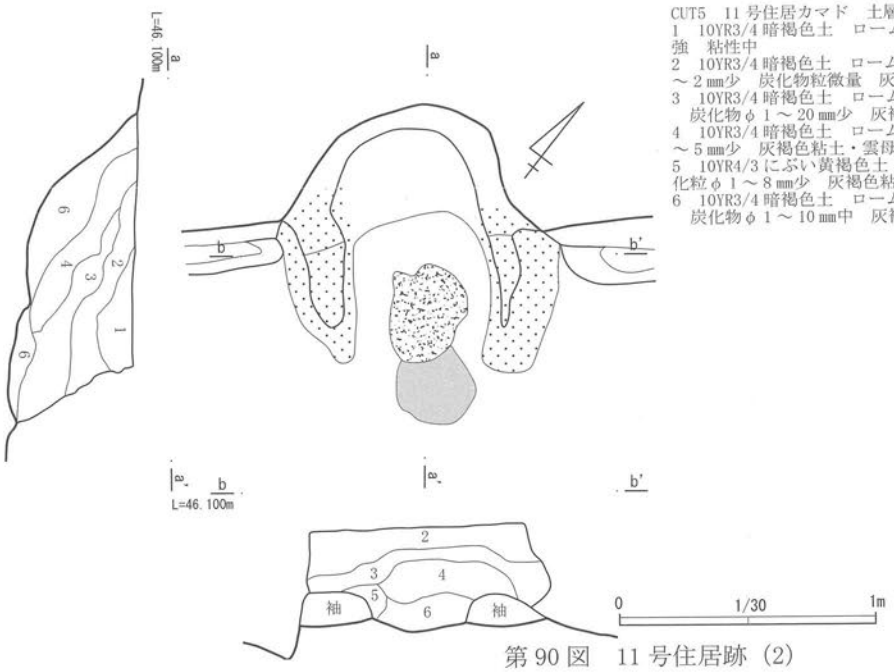
遺物は体部外面に墨書された土師器片、須恵器坏類、砥石である。遺物から 8 世紀後半と判断される。



CUT5　11 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒微量　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロック φ 3 ～ 15 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ローム粒 φ 3 ～ 5 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化物 φ 4 ～ 10 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　ローム粒 φ 3 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロック 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　しまり・粘性強
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強・粘性中
7　10YR4/4 褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　炭化物粒 φ 1 ～ 10 ㎜中　灰褐色粘土粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり中　粘性強
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒微量　しまり・粘性強
9　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化物粒微量　しまり・粘性強

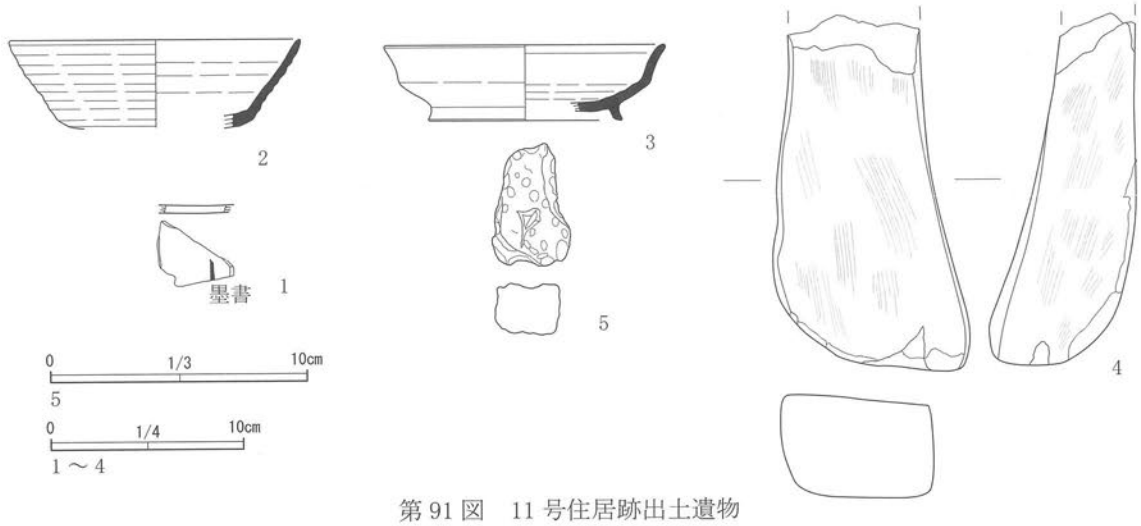
CUT5　11 号住居 P1 ～ 4　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　しまり中　粘性強
2　10YR4/6 褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロック φ 3 ～ 20 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒・炭化粒微量　しまり・粘性強
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒・炭化粒微量　しまり中　粘性強
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック 3 ～ 20 少　炭化粒 φ 1 ～ 3 微量　しまり中　粘性強
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロック φ 3 ～ 20 ㎜中　しまり・粘性強
10　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜中　しまり・粘性強
11　10YR4/6 褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
12　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
13　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
14　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性強

第 89 図　11 号住居跡（1）



CUT5　11号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　灰褐色粘土・雲母粒少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　ローム粒φ3㎜微量　焼土粒φ1～2㎜少　炭化物粒微量　灰褐色粘土・雲母粒少　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒・ブロックφ1～10㎜少　炭化物φ1～20㎜少　灰褐色粘土・雲母粒φ1～20㎜中　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒φ1～5㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　灰褐色粘土・雲母粒φ1～10㎜多　しまり・粘性強
5　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　焼土粒φ1～2㎜少　炭化粒φ1～8㎜少　灰褐色粘土・雲母粒φ1～3㎜多　しまり・粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒・ブロックφ1～10㎜少　炭化物φ1～10㎜中　灰褐色粘土・雲母粒φ1～2㎜多　しまり・粘性強

第90図　11号住居跡（2）



第91図　11号住居跡出土遺物

表44　11号住居跡遺物観察表

cm, g

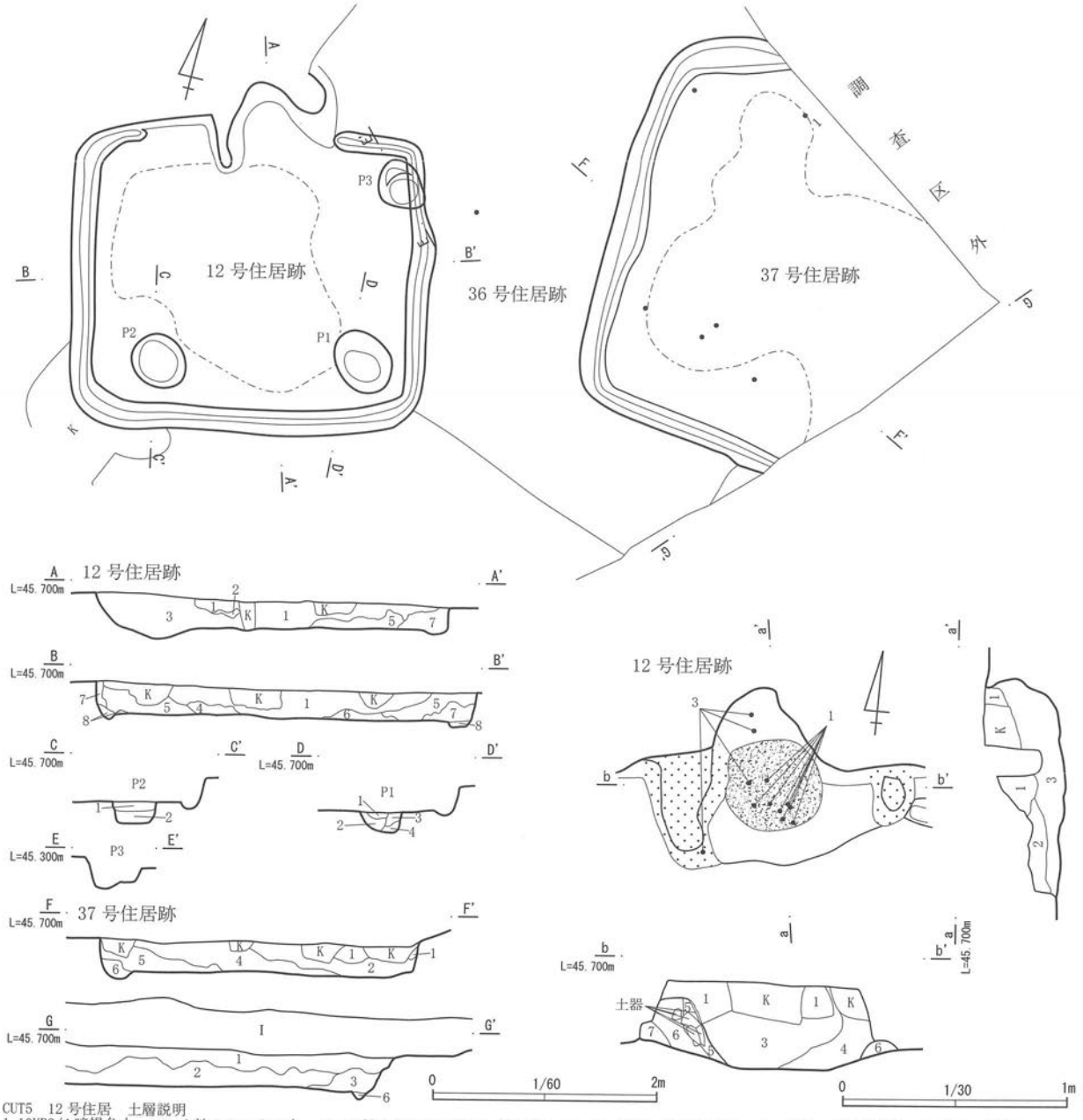
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	坏	—	—	—	5.7	僅かに内湾する。	内外面共にナデ整形。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　7.5YR6/6橙	白色粒子・黒色粒子・白色針状物質微量。	体部片	体部外面墨痕
2	覆土	須恵器	坏	(14.9)	〈4.6〉	—	42.6	体部は下端で内湾し、やや直線的に開く。	ロクロ整形。	良好	内外面 7.5YR8/1灰白	黒色粒子・石英少量。	口縁～体部1/4	
3	覆土	須恵器	高台付坏	(14.3)	〈4.0〉	-10	41.2	高台は「ハ」の字に付される。体部下半で緩やかに内湾し、中位に稜を有した後外反する。	ロクロ整形。	良好	内外面　7.5Y6/1灰	白色粒子・白色針状物質微量。小～中礫少量。	口縁～底部1/4	
4	覆土	石製品	砥石	縦9.3	横5.0	厚さ2.75	196.8	砂岩製の砥石である。自然礫を使用するもので、上端部は折損している。上下両面に使用が認められる。曲面の状況から鎌砥石と判断される。						
5	覆土	石製品	軽石製石製品	縦4.75	横2.9	厚さ1.9	6.8	やや丸みを帯びた不正形で、表面には擦痕が観察される。						

12号住居跡　（第92・93図，図版38・39・98）

本遺構はD4-11グリッドにおいて検出された。36号住居跡を切る。平面形は方形で、長軸2.88m、短軸3.18m、主軸方位N 15° Wである。確認面からの深さは28㎝である。覆土は8層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、左袖はやや直線的に伸び、火床面を囲む。右袖はほとんど遺存していない。ピットは3基見られるが、柱穴となるかは不明である。硬化面は住居内に広く確認された。周溝はカマドを除き、ほぼ全周する。

遺物は土師器甕、須恵器坏が出土し、遺物から遺構は9世紀前半と判断される。



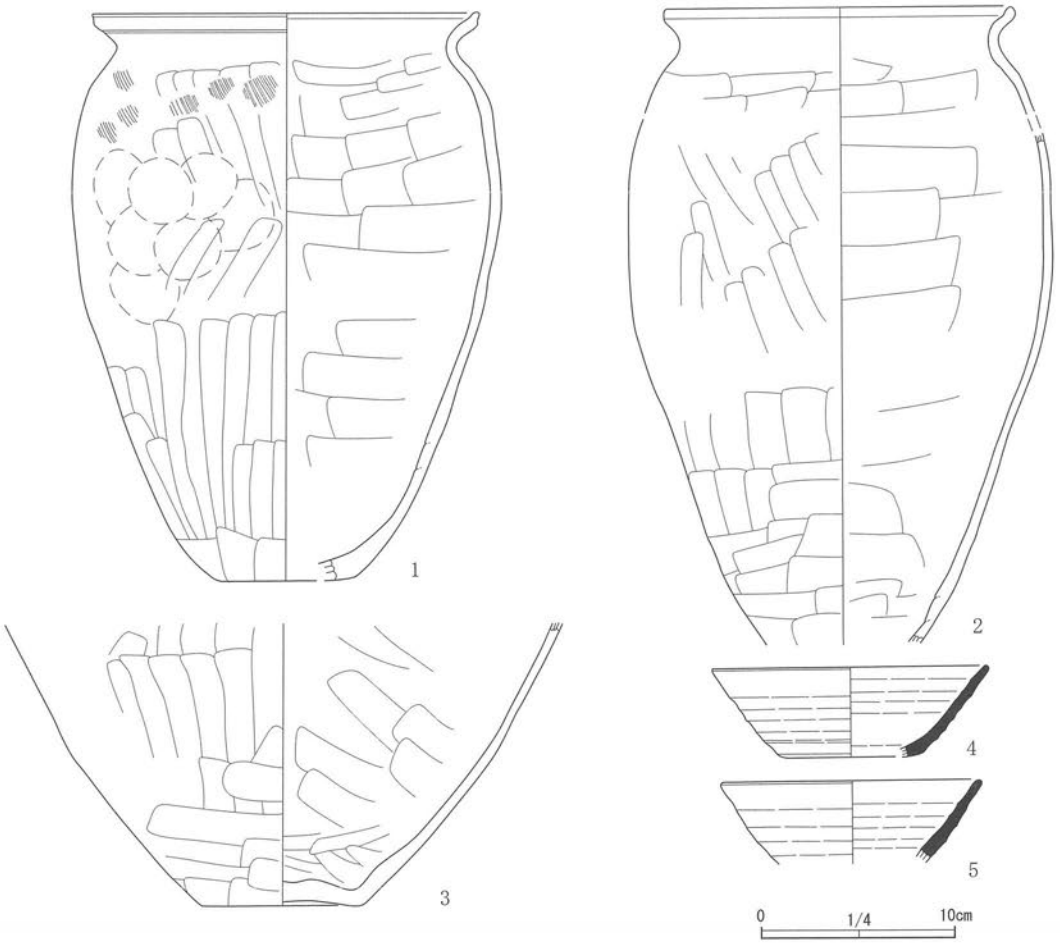
CUT5　12 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ローム粒φ 3 ～ 4 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒多　しまり・粘性中
3　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒中　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒微量　炭化粒・雲母微量　しまり・粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ローム粒 3 ～ 5 ㎜少　ロームブロックφ 20 ㎜　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ローム粒・ブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　炭化粒・雲母微量　しまり・粘性中

CUT5　12 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり中　粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり中　粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり中　粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒微量　しまり・粘性強
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒多　炭化物粒少　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり強　粘性中
6　10YR4/4 褐色土　ローム層　しまり・粘性強
7　10YR4/6 褐色土　ローム層　しまり・粘性強

CUT5　12 号住居 P1・2　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中

CUT5　37 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　ローム粒φ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　ローム粒・ブロックφ 3 ～ 20 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜・φ 5 ㎜微量　雲母粒中　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒子微量　雲母粒微量　しまり・粘性中

第 92 図　12・37 号住居跡



第 93 図　12 号住居跡出土遺物

表 45　12 号住居跡遺物観察表

cm, g

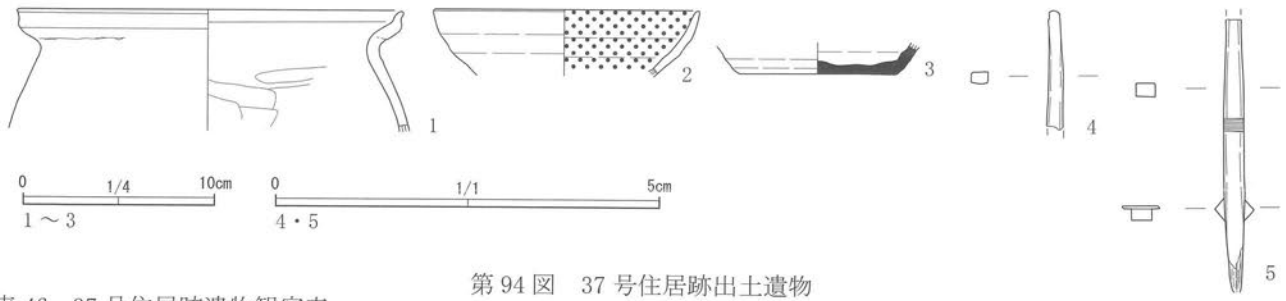
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 7, 8, 9, 10, 20, 212 7	土師器	甕	19.8	29.8	7.0	993.7	胴部の張りは弱くやや長胴気味。口縁は短く「く」の字に外反し、口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。外面胴部上半はナデ整形であるが、僅かに肩部に平行叩きが観察される。下半にはヘラケズリが施される。胴部内面はヘラナデ。輪積痕有り。	良好 二次焼成?	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　7.5YR6/8橙	長石・石英・雲母・小～中礫やや多い。白色針状物質微量。	口縁～胴下半1/2 底部1/5	常総型甕
2	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	(17.9)	〈33.5〉	—	432.3	胴部の張りは弱く長胴である。口縁は短く「C」の字に外反し、口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。外面胴部上半はナデ整形、下半はヘラケズリが施される。胴部内面はヘラナデ。輪積痕有り。	良好 二次焼成?	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子・雲母・小～中礫やや多い。	口縁～胴下半1/5	常総型甕
3	No. 1, 2 ｶﾏﾄﾞ No. 6, 18	土師器	甕	—	〈14.7〉	8.0	321.4	底部はやや上げ底気味の平底で、胴部下半は大きく開く。	胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ。底部砂目。	良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR4/3にぶい黄褐	白色粒子・雲母・金雲母多い。小～中礫やや多い。	胴下半1/5 底部4/5	
4	ｶﾏﾄﾞ	須恵器	坏	14.2	4.75	(6.4)	45.1	体部下端で緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。	良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　2.5Y5/2暗灰黄	白色粒子・白色針状物質やや多い。小～中礫少量。	口縁～体部1/4	比企産 底部ヘラ記号カ
5	覆土	須恵器	坏	13.4	〈4.35〉	—	32.2	体部は直線的に開く。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　2.5Y5/1黄灰	白色粒子・黒色粒子少量。小礫微量。	口縁～体部1/4	

37 号住居跡　（第 92・94 図，図版 58・103）

本遺構は D4-12 グリッドにおいて検出された。36 号住居跡を切る。東が調査区外となるが、平面形は方形と推測される。長軸 3.66m、短軸（3.48）m、主軸方位 N　0.5°　W である。確認面からの深さは 30 cmである。覆土は 6 層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは調査区外にあると推測される。ピットは検出されていない。硬化面は住居内に広く確認された。周溝は調査区内では全周する。

遺物は土師器甕、内面黒色処理の坏、須恵器坏、鉄鏃が出土し、遺物から遺構は 9 世紀前半と判断される。



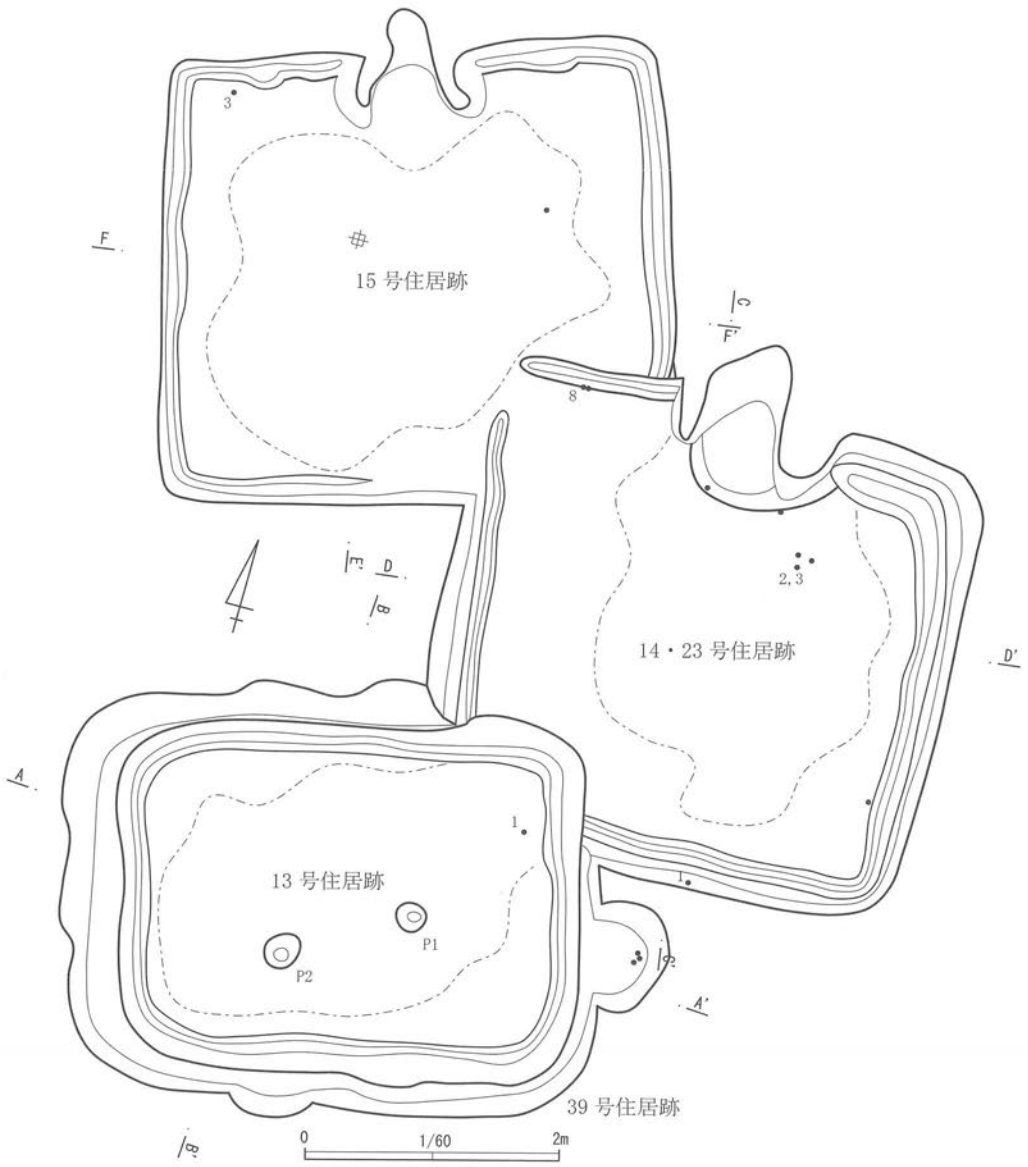
第 94 図　37 号住居跡出土遺物

表 46　37 号住居跡遺物観察表

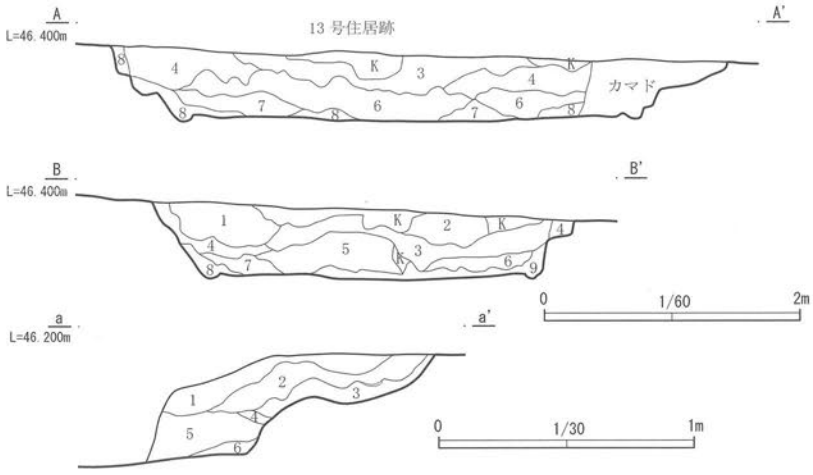
cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 2	土師器	甕	(19.8)	〈6.4〉	—	59.3	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に外反し、口唇は明瞭に摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　10YR4/3にぶい黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・雲母・スコリア少量。	口縁～肩部1/5	常総型甕
2	覆土	土師器	坏	(13.6)	〈3.5〉	—	15.8	体部は緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。	良好 二次焼成ヲ	内面　10Y2/1黒 外面　2.5Y5/3黄褐	雲母少量。白色粒子・黒色粒子微量。	口縁部～体部1/8	内面黒色処理
3	覆土	須恵器	坏	—	〈1.7〉	(8.0)	25.0	底部は平底で体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内外面　10Y6/1灰	白色粒子・鉄分の噴出し少量。	底部1/7	
4		鉄製品	棒状品	長さ3.2　厚さ0.3　重量1.6				棒状を呈するもので、断面形は方形を呈する。鏃の茎部の可能性も想定したが、断面刑が方形より不明棒状製品とした。						
5		鉄製品	鏃	長さ7.3　厚さ0.4　重量4.4				4同様棒状を呈する下端に向かい、やや丸みを帯びるが、全体に断面は方形で上端部が欠損する。鏃の可能性がある。中央付近に繊維の巻きつけ痕が観察される。						

13・14・15・23・39 号住居跡

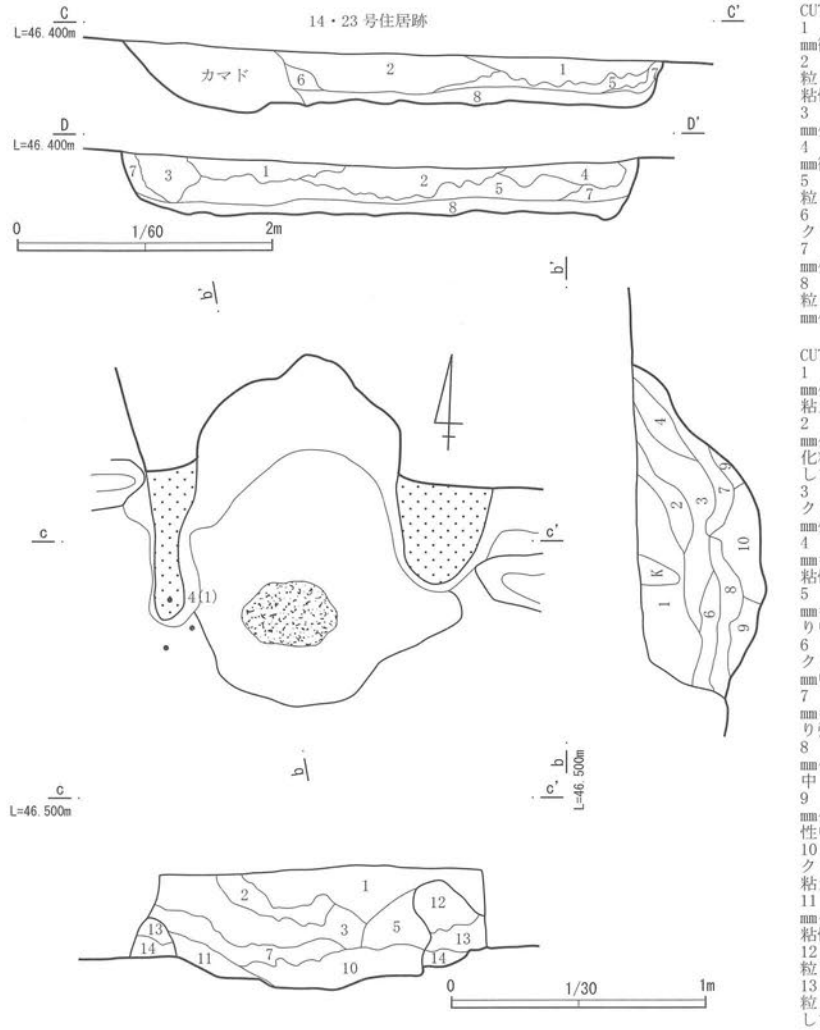


第 95 図　13・14・15・23・39 号住居跡（1）



CUT5　13 号住居　土層説明
1　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
2　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　褐灰粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　灰粒微量　しまり・粘性中
3　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　灰粒微量　しまり・粘性中
4　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
5　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
6　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中
7　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
8　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 80 ㎜多　しまり・粘性中

CUT5　13 号住居カマド　土層説明
1 ← 1　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　灰褐色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　灰褐色粘土粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　しまり強　粘性中
6 ← 2　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
8 ← 3　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　灰褐色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒・炭化粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜少量　炭化粒微量　しまり・粘性中

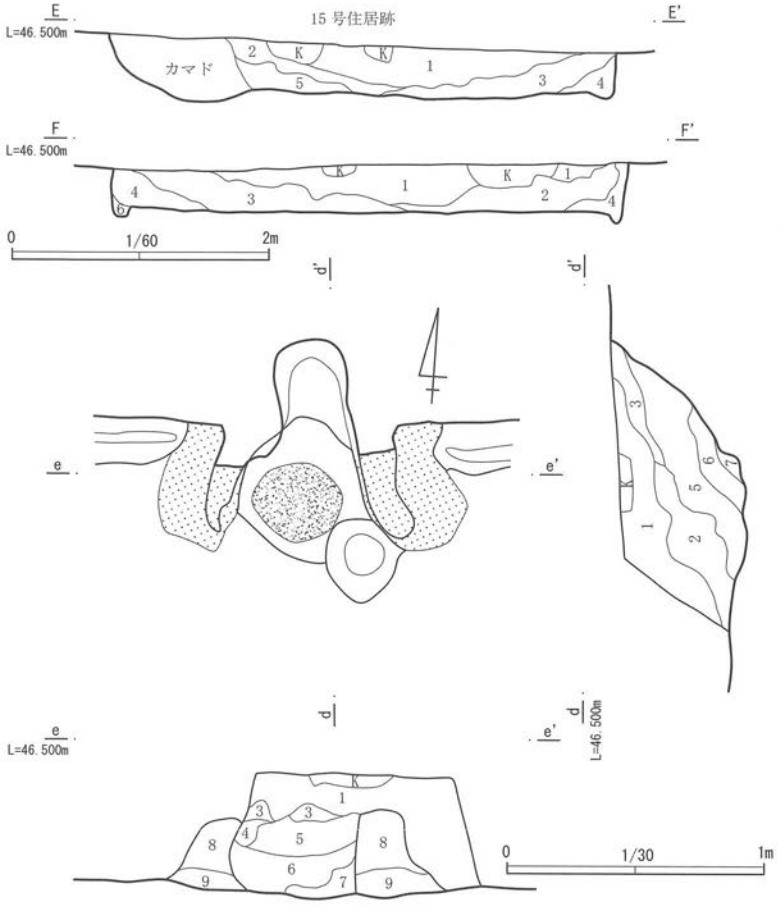


CUT5　14・23 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 15 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化物粒微量　しまり・粘性強
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 15 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土ブロック φ 6 ～ 20 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性強

CUT5　14 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土ブロック φ 20 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　黄褐色粘土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土ブロック φ 4 ～ 20 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒 φ 3 ～ 5 ㎜微量　黄褐色粘土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 12 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　黄褐色粘土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　粘土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　しまり中　粘性強
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 6 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　黄褐色粘土粒 φ 1 ～ 4 ㎜多　しまり中　粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　黄褐色粘土粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　しまり・粘性強
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 8 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　黄褐色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強・　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　黄褐色粘土粒少　しまり強　粘性中
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　黄褐色粘土粒微量　しまり強　粘性中
10　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 15 多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化 φ 5 ㎜微量　黄褐色粘土粒微量　しまり強　粘性中
11　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 1 ～ 3 ㎜少　黄褐色粘土 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
12　10YR4/6 褐色土　ローム粒微量　焼土粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり中　粘性強　黄褐色粘土層
13　10YR4/4 褐色土　ローム粒微量　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　灰褐色粘土層・黄褐色粘土層 φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強
14　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　黄褐色粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性強

第 96 図　13・14・15・23・39 号住居跡（2）

13・14・15・23・39 号住居跡



CUT5　15 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 10 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜中　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜中　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 35 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜少　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 15 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜中　しまり・粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中

CUT5　15 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜中　ロームブロックφ 5 ～ 10 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜少　炭化物粒φ 1 ～ 12 ㎜少　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　しまり・粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 20 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　焼土ブロックφ 20 ～ 30 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜少　粘土ブロックφ 1 ～ 25 ㎜中　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化物φ 10 ㎜微量　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜多　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜中　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜多　炭化物φ 1 ～ 10 ㎜多　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜中　しまり・粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒微量　しまり・粘性中
8　10YR4/6 褐色土　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性強　粘土層
9　10YR4/6 褐色土　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒微量　しまり・粘性強　ローム層

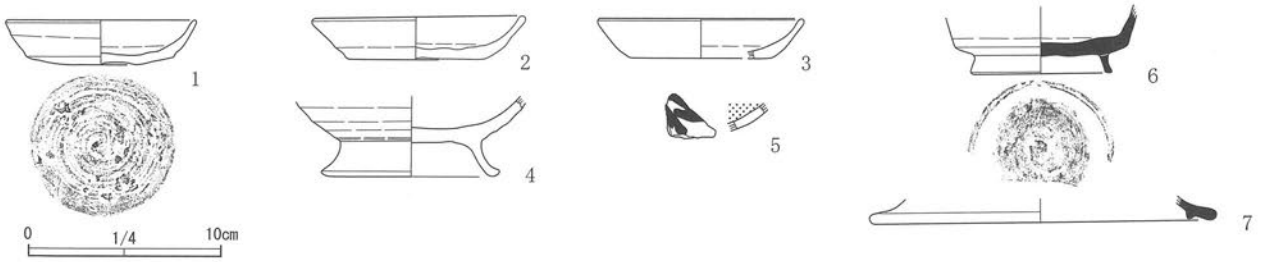
第 97 図　13・14・15・23・39 号住居跡（3）

13 号住居跡　（第 95・96・97・98 図，図版 39・98）

本遺構は C4-10 グリッドにおいて検出された。14・23・39 号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸 4.20m、短軸 3.30m、主軸方位 N 77° E である。確認面からの深さは 54 cmである。覆土は 9 層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されなかった。ピットは東西に 2 基検出された。硬化面は住居内に広く確認された。周溝は全周する。

遺物は土師器坏類、墨書土器片が出土した。須恵器蓋は 7 世紀末～ 8 世紀初めのもので、遺構外遺物と考えられる。須恵器高台付坏（6）は重複する 39 号住居跡カマド出土遺物である。遺物から遺構は 10 世紀前半と判断される。



第 98 図　13 号住居跡出土遺物

表 47　13 号住居跡遺物観察表

cm, g

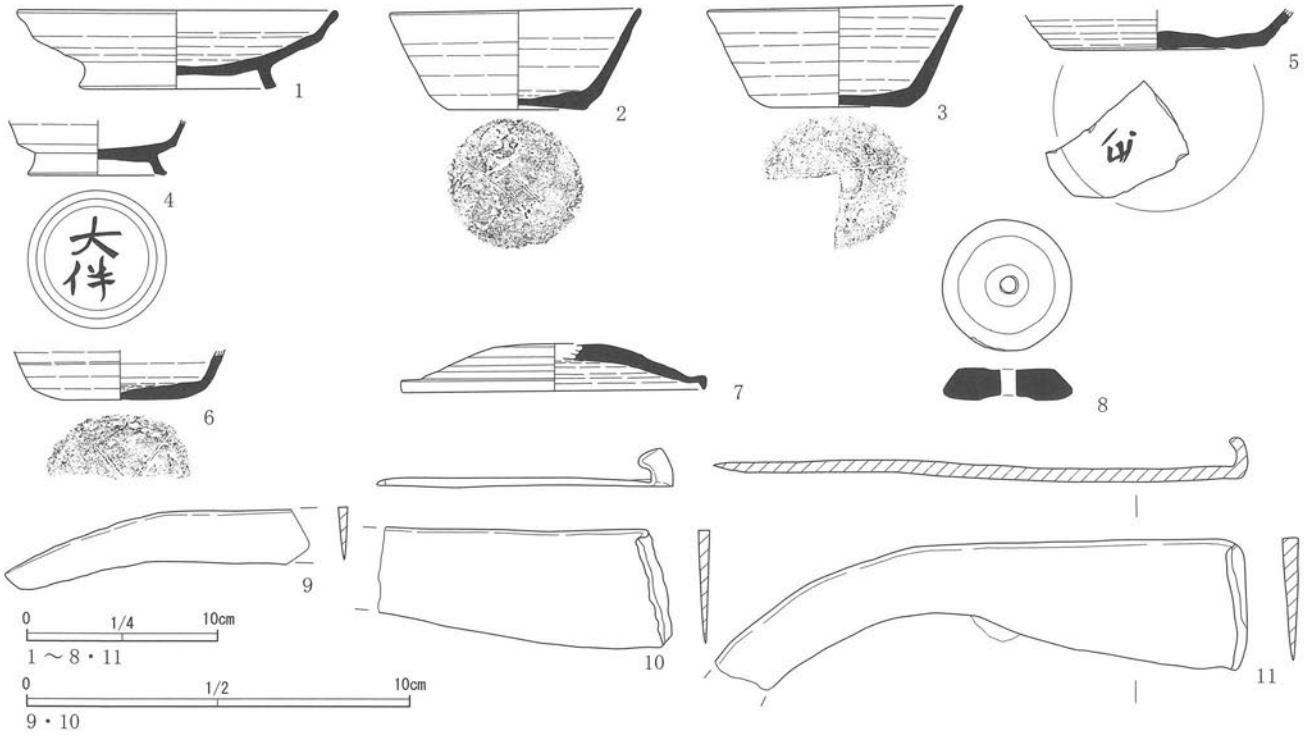
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No.1	土師器	皿	9.7	2.35	7.6	69.7	底部は丸底気味の平底で体部は緩やかに内湾する。小形で浅い。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。	良好	内面　7.5YR6/6 橙 外面　7.5YR7/6 橙	黒色粒子・雲母・白色針状物質少量。白色粒子・スコリア微量。	口縁一部欠損	底部ヘラ記号
2	覆土	土師器	皿	11.0	2.3	7.1	77.5	底部は平底で体部は緩やかに内湾する。小形で浅い。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。	良好	内面　10YR6/4 にぶい黄橙 外面　2.5YR6/4 にぶい黄	黒色粒子やや多い。雲母・スコリア少量。白色針状物質微量。	口縁1/2欠損	底部ヘラ記号ヵ
3	覆土	土師器	皿	(10.4)	2.1	—	48.5	底部は平底で体部は緩やかに内湾する。小形で浅い。	ロクロ整形。底部調整不明。	良好	内面　7.5YR7/4 にぶい黄橙 外面　10YR7/4 にぶい黄橙	雲母・黒色粒子・白色粒子少量。白色粒子・スコリア微量。	1/3	
4	ｶﾏﾄﾞ	土師器	高台付坏	—	〈4.3〉	(8.6)	75.9	高台は「ハ」の字に付され端部で強く外反する。丈高である。体部は下端で緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ロクロナデ。	良好	内面　7.5YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR7/6 橙	金雲母・白色針状物質・黒色粒子やや多い。白色粒子・スコリア微量。	体部1/4 高台1/8	
5	覆土	土師器	坏	—	〈1.5〉	—	2.7	僅かに内湾する体部片ヵ。	ロクロ整形、下半に回転ヘラケズリが観察される。	良好	内面　5Y2/1 黒 外面　10YR6/4 にぶい黄橙	雲母・白色粒子微量。	体部片	内面黒色処理 体部外面墨書「□」
6	ｶﾏﾄﾞ	須恵器	高台付坏	—	〈3.6〉	7.2	82.4	高台は薄手で「ハ」の字に付される。体部は体部は下端で屈曲しほぼ直立する。	ロクロ整形。底部回転ヘラ切り。	良好	内面　2.5Y6/2 灰黄 外面　2.5Y6/1 黄灰	鉄分の噴出し多い。白色粒子・小礫微量。	底部2/3	底部ヘラ記号 火ぶくれ有り
7	覆土	須恵器	蓋	(17.6)	〈1.3〉	—	5.9	端部は僅かに外反し、返しを持つ。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y5/1 灰 外面　5Y4/1 灰	白色粒子・少礫やや多い。	端部片	

14 号住居跡　（第 95・96・97・99 図，図版 40・41・98）

本遺構は C4-10 グリッドにおいて検出された。15 号住居跡を切る。土層の堆積状況からは 23 号住居跡の建替えで、8 層上面が 14 号住居跡床面になると考えられる。平面形は方形で長軸 3.84m、短軸 4.08m、主軸方位 N 1.5° W である。確認面からの深さは 30 cmである。覆土は 7 層に分層される。

カマドは北壁中央に付設され、やや直線的に伸び、火床面が確認された。ピットは検出されていない。硬化面はカマドから住居内中央にかけて分布し、周溝はカマド以外はほぼ全周する。

遺物は須恵器蓋坏類、須恵器転用紡錘車、鉄製品が出土した。墨書土器は坏の底部外面に「□山」、高台付坏底部外面に「大伴」である。遺物から遺構は 8 世紀後半と判断される。



第 99 図　14 号住居跡出土遺物

表 48　14 号住居跡遺物観察表

cm, g

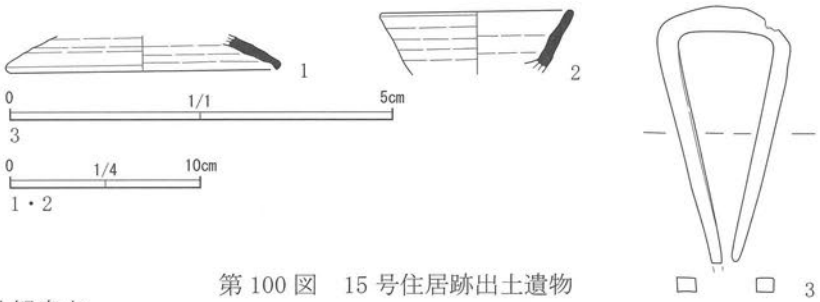
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 6	須恵器	高台付盤	16.4	4.15	9.4	210.4	高台は「ハ」の字に付される。見込みは緩やかに内湾した後屈曲し、口縁は外反する。内端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y5/2暗灰黄 外面　7.5Y4/1灰	鉄分の噴出しやや多い。白色針状物質・小　～中礫少量。	口縁1/2欠損	底部ヘラ記号 内面に火ﾀﾞｽｷﾞﾙ 体部外面～底部に自然釉付着。
2	No. 4	須恵器	坏	12.9	5.2	7.2	238.5	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後多方向の手持ちヘラケズリ。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　5Y6/3オリーブ黄	白色粒子・白色針状物質やや多い。小～中礫少量。	完形	底部ヘラ記号 比企産ヵ
3	No. 4	須恵器	坏	12.9	5.2	7.2	149.9	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開き、器壁は口縁にかけて薄くなる。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内面　10Y5/1灰 外面　7.5Y5/1灰	黒色粒子・鉄分の噴出し・小～中礫やや多い。	体～底部3/4　口縁一部	底部ヘラ記号
4	ｶﾏﾄﾞNo. 1	須恵器	高台付坏	—	〈2.95〉	6.9	86.8	高台は「ハ」の字に付される。見込みで屈曲しほぼ直立する。外端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内面　2.5GYオリーブ灰 外面　10Y5/1灰	白色粒子・白色針状物質・小～中礫少量。	高台部のみ	底部外面墨書「大伴」 比企産ヵ
5	覆土	須恵器	坏	—	〈2.1〉	(11.0)	38.5	底部は平底で体部は下端で緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	還元不良	内外面 7.5YR5/4にぶい褐	白色粒子・白色針状物質・小～中礫少量。	底部1/4	底部外面墨書「□」
6	覆土	須恵器	坏	—	〈2.65〉	(7.6)	40.2	底部は平底で肥厚している。体部は下端で緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラケズリ。	一部還元不良	内面　2.5Y5/1黄灰 外面　2.5Y5/2暗灰黄	白色粒子・小～中礫やや多い。白色針状物質少量。	底部1/2	底部ヘラ記号
7	覆土	須恵器	蓋	(15.8)	〈2.5〉	—	32.6	天井は撓で僅かに外反する弓張状。端部は屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。天井のヘラケズリは1/4。	一部還元不良	内面　5Y5/1灰 外面　5Y4/1灰	白色粒子・小～中礫やや多い。白色針状物質少量。	天井～端部1/8 ツマミ欠損	重ね焼き痕有り
8	No. 7	須恵質製品	紡錘車	縦1.75	横6.7	孔径0.9	80.2	扁平な逆台形を呈する。上面端部は丸みを帯びている。上下面の孔周縁には皿状の浅い窪みを有す。孔は中央に焼成前に穿たれている。	側縁はロクロ整形の後回転ヘラケズリ、上面は手持ちヘラケズリ、下面は回転ヘラケズリ、孔周縁は回転ナデ整形。仕上げとして、全体に研磨が行われている。	良好	2.5Y6/3にぶい黄	雲母やや多い。長石・石英少量。	完形	新治産
9		鉄製品	鎌	残存長7.2　幅1.4　厚さ0.2　重量9.5。				右鎌。先端に向かい湾曲は弱く中ほどで折損している。基部の厚みから想定して小形の鎌であろう。						
10		鉄製品	鎌	残存長7.8　幅3.0　厚さ0.3　重量28.3。				刃部は折損している。基部側はやや厚みがあり幅広である。着柄部は折り返して内湾気味に立つ。						
11		鉄製品	鎌	残存長14.9　幅3.0　厚さ0.4　重量46.9。				刃部先端付近を欠損する。基部側は幅広で厚みを有する。先端部に向かい大きく屈曲する。比較的大振りの鎌。着柄部は折り曲げられて内湾気味に立つ。						

15 号住居跡　（第 95・96・97・100 図，図版 41・42・98）

本遺構は C4-5・10 グリッドにおいて検出された。14・23 号住居跡に切られる。平面形は方形で長軸 3.60m、短軸 4.02m、主軸方位 N 17°　W である。確認面からの深さは 36 ㎝である。覆土は 6 層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、袖は袖はハの字状に伸び、火床面が確認された。ピットは検出されていない。硬化面は住居内に広く確認され、周溝はカマドと他遺構と重複する部分以外は全周する。

遺物は須恵器蓋坏、鉄製品が出土した。遺物から遺構は 8 世紀中葉と判断される。



第 100 図　15 号住居跡出土遺物

表 49　15 号住居跡遺物観察表

cm, g

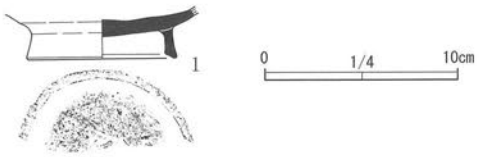
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	須恵器	蓋	14.0	〈1.9〉	—	15.6	撓部は僅かに内湾し、端部は短く折れる。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y8/1灰白	黒色粒子・石英やや多い。	撓～端部1/4	
2	覆土	須恵器	坏	10.0	〈3.3〉	—	18.5	体部は下端で内湾し、やや直線的に開く。口辺で薄くなり僅かに受け口となる。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y5/1灰	白色粒子・黒色粒子少量。白色針状物質・雲母微量。	口縁～体部1/4	
3	No. 2	鉄製品	不明	縦9.0　横4.8　厚さ0.5　幅0.7　重量35.1				断面が方形の鉄製品で、縦に長い二等辺三角形状に折り曲げられている。先端部には細く実る。鎹の可能性もある。						

23 号住居跡　（第 95・96・97・101 図，図版 48・100）

本遺構は C4-10 グリッドにおいて検出された。15 号住居跡を切る。土層の堆積状況からは建替えがあり、8 層上面が 14 号住居跡床面になると考えられる。平面形は方形で長軸 3.42m、短軸 3.60m、主軸方位 N　1.5°　W である。確認面からの深さは 36 ㎝である。覆土は 1 層に分層される。

カマド・硬化面・周溝は検出されなかった。

遺物は須恵器高台付坏を掲載した。遺物から遺構の時期は 8 世紀中～後半と判断される。



第 101 図　23 号住居跡出土遺物

表 50　23 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	須恵器	高台付坏	—	〈2.8〉	(7.7)	66.3	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。見込みは緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好 二次焼成?	内面　2.5Y5/1黄灰 外面　5Y55/1灰	小～中礫・鉄分の噴出し少量。	底部高台部分1/2	底部ヘラ記号

39 号住居跡　（第 95・96・97 図）

本遺構は C4-10 グリッドにおいて検出された。13 号住居跡に切られる。重複する 14・23 号住居跡との新旧関係は不明である。平面形は長方形で長軸 4.20m、短軸 3.42m、主軸方位 N 77° E である。確認面からの深さは 42 cmである。13 号住居跡にほとんど削平されているため覆土の堆積状況は不明である。

カマドは東壁中央に付設されたが、掘方のみしか検出されていない。周溝は確認されていない。

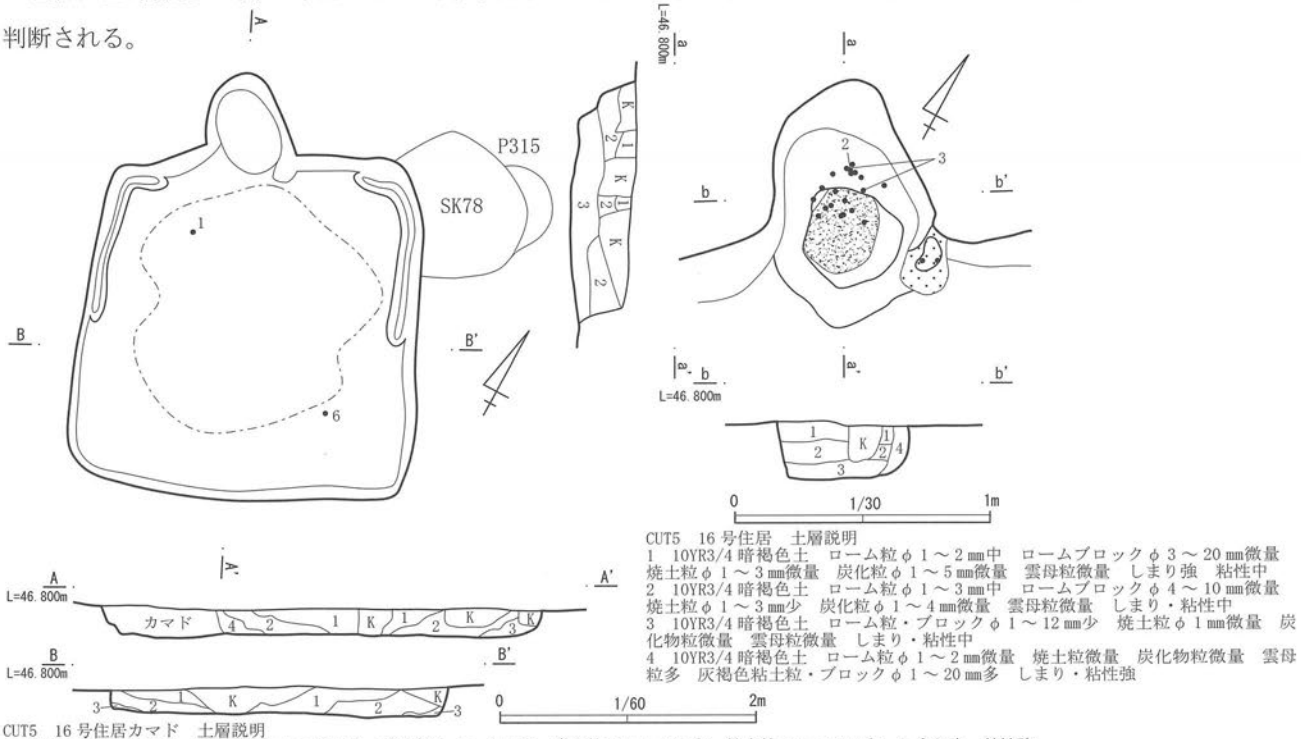
遺物は 13 号住居跡として掲載した須恵器高台付坏（6）が 39 号住居跡カマド出土遺物である。遺物から遺構は 9 世紀代と判断される。

16 号住居跡　（第 102・103 図，図版 42・43・99）

本遺構は C4-4 グリッドにおいて検出された。SK76 との切合いは不明である。平面形は主軸方位に長い長方形で長軸 2.76m、短軸 2.64m、主軸方位 N 26.5° W である。確認面からの深さは 21 cmである。覆土は 4 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設されたが、右袖基部が遺存し、火床面が検出されただけである。周溝はカマドを除く北半に確認された。硬化面は住居中央に検出された。柱穴は確認されていない。

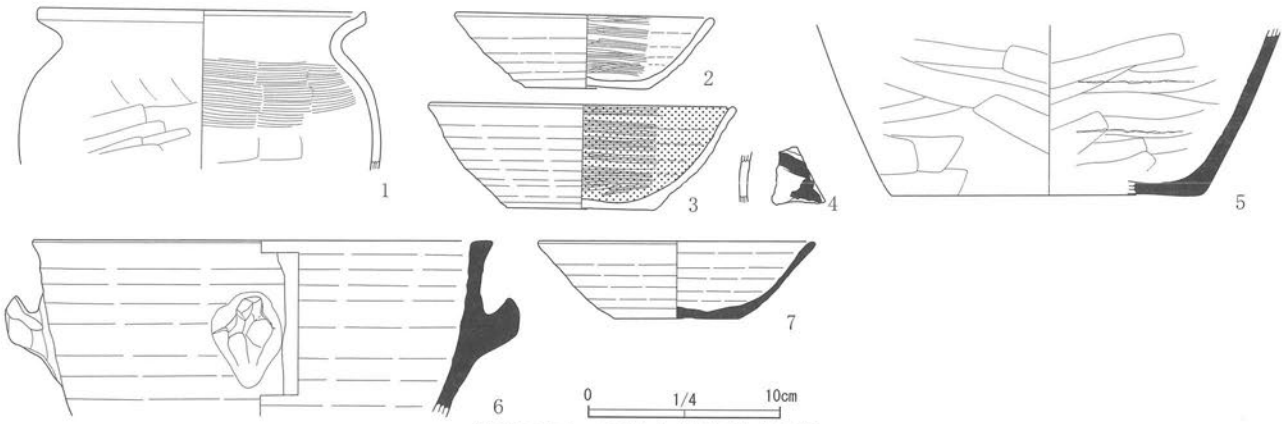
遺物は土師器甕・坏、内面黒色処理坏、須恵器甕・甑・坏、墨書土器片が出土した。遺物から遺構は 9 世紀中葉と判断される。



CUT5　16 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 20 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　雲母粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 4 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 12 ㎜少　焼土粒φ 1 ㎜微量　炭化物粒微量　雲母粒微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒微量　炭化物粒微量　雲母粒多　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　しまり・粘性強

CUT5　16 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり中　粘性強
2　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒少　しまり・粘性中
3　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒中　しまり・粘性中
4　10YR3/4　暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒・炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　粘土粒少　しまり・粘性中

第 102 図　16 号住居跡



第 103 図　16 号住居跡出土遺物

表 51　16 号住居跡遺物観察表

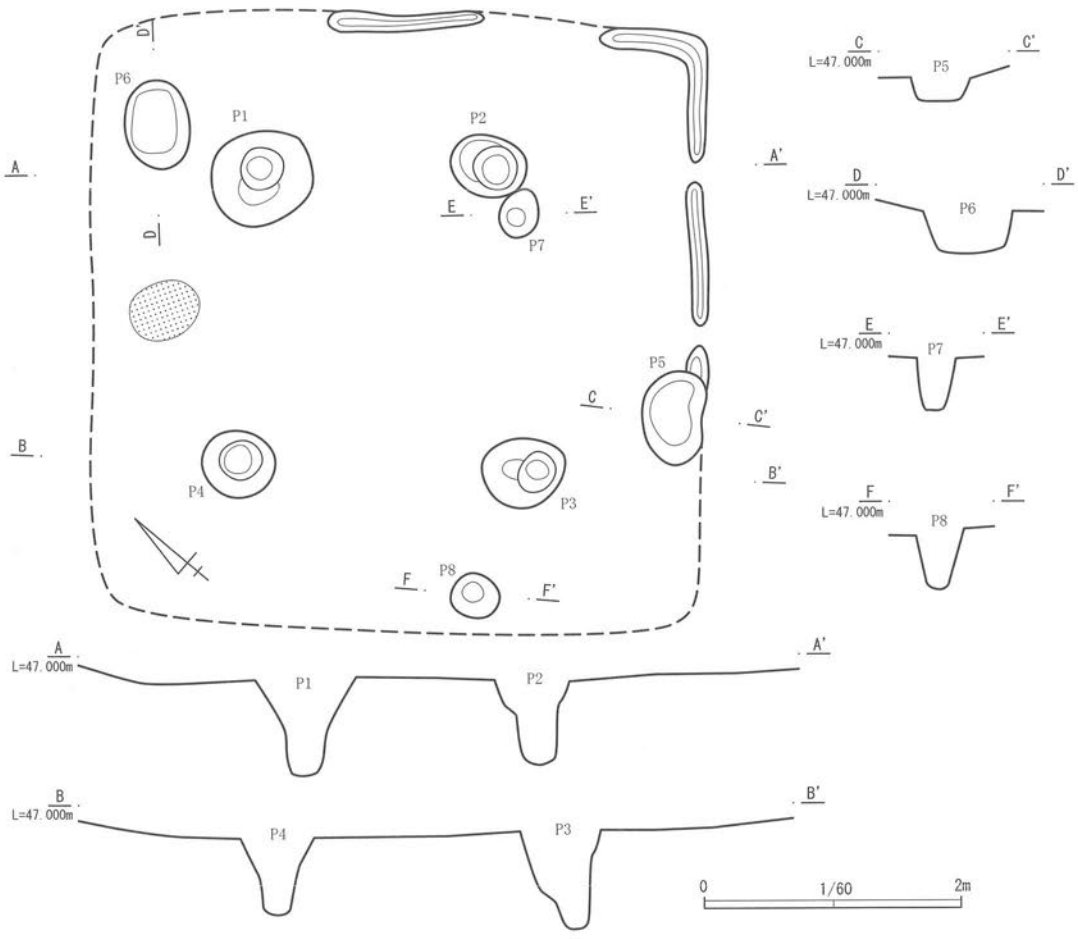
cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 2	土師器	甕	(16. 8)	〈8. 4〉	—	135. 7	胴部の張りは強い。口縁は「C」の字に外反し、口唇の摘み上げは明瞭である。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はナデ、内面はナデ後頭部直下には横方向の刷毛状工具による整形が観察される。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母やや多い。白色粒子・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～底部1/4	
2	ｶﾏﾄﾞ No. 15	土師器	坏	13. 0	3. 85	6. 3	140. 2	底部は平底。体部は僅かに内湾するものの直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	内面　7. 5YR6/6橙 外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・金雲母・白色針状物質少量。	完形	
3	ｶﾏﾄﾞ No. 3, 18	土師器	坏	(15. 6)	5. 5	7. 5	104. 3	底部は平底。体部は僅かに内湾しながら大きく開く。深さがある。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ、体部下端は回転ヘラケズリ、内面はミガキ。	良好	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	金雲母・白色針状物質・白色粒子少量。	1/4	内面黒色処理
4	覆土	土師器	坏	—	〈2. 6〉	—	3. 7	僅かに内湾する。	内面ミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2. 5Y6/4にぶい黄	雲母・白色粒子微量。	体部片	体部外面墨書 内面黒色処理
5	覆土	須恵器	甕	—	〈9. 0〉	(16. 0)	297. 5	体部はバケツ状を呈するヵ。底部は平底で胴部下端は直線的に立つ。	回転台使用ヵ。外面はナデ後ヘラケズリ、内面はナデ整形。内面に輪積痕有り。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　5Y5/1灰	小～中礫ややや多い。鉄分の噴出し・白色粒子少量。	胴下半～底部1/3	
6	No. 1	須恵器	甕	(21. 0)	〈9. 4〉	—	111. 1	体部はバケツ状を呈する。口縁直下に牛角状の把手が付されるが単位は不明。	回転台による整形ヵ。口唇は摘み上げられた後面取りされる。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2. 5Y5/3黄褐	雲母・白色粒子少量。	口縁～胴上半1/8	9世紀中～後葉
7	ｶﾏﾄﾞ	須恵器	坏	(14. 3)	4. 1	6. 5	105. 3	底部は平底。体部は下半で内湾した後僅かに外反肥厚する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り、体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2. 5Y6/3にぶい黄 外面　5Y7/2灰白	黒色粒子・雲母少量。白色粒子微量。	口縁～体部1/3　底部完形	

17 号住居跡　（第 104 図，図版 43）

本遺構は C3-23 グリッドにおいて検出された。平面形は方形で長軸 4. 80m、短軸 4. 92m、主軸方位 N 39° W である。確認面において既に周溝の大半が削平されており、東隅周辺のみ遺存している。火床面が検出されたためカマドは北西壁中央にあったと推測される。柱穴は 4 基あり、対称に配置されている。

遺物は弥生土器・土師器片、礫が出土したが、時期は不明である。カマドを持つことから、古代と推測される。



第 104 図　17 号住居跡

19 号住居跡　（第 105・106・107・108 図，図版 45・46・99）

本遺構は C3-24 グリッドにおいて検出された。20 号住居跡を切る。平面形は方形で長軸 4.80m、短軸 4.80m、主軸方位 N　15.5°　W である。確認面からの深さは 42 cmで遺存状況は良好である。覆土は 9 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央にあり両脇に柱穴がある。対称の位置にあと 2 基の柱穴があり、すべての柱が住居の内に傾斜するように掘方が検出された。カマドは右袖基部が遺存し、内部に火床面と灰層が検出され、遺物も多く出土した。住居中央には炉が検出された。平面形は円形で長径 72 cm、短径 60 cm、深さ 7.5 cmである。炉には焼土が一面覆っている。

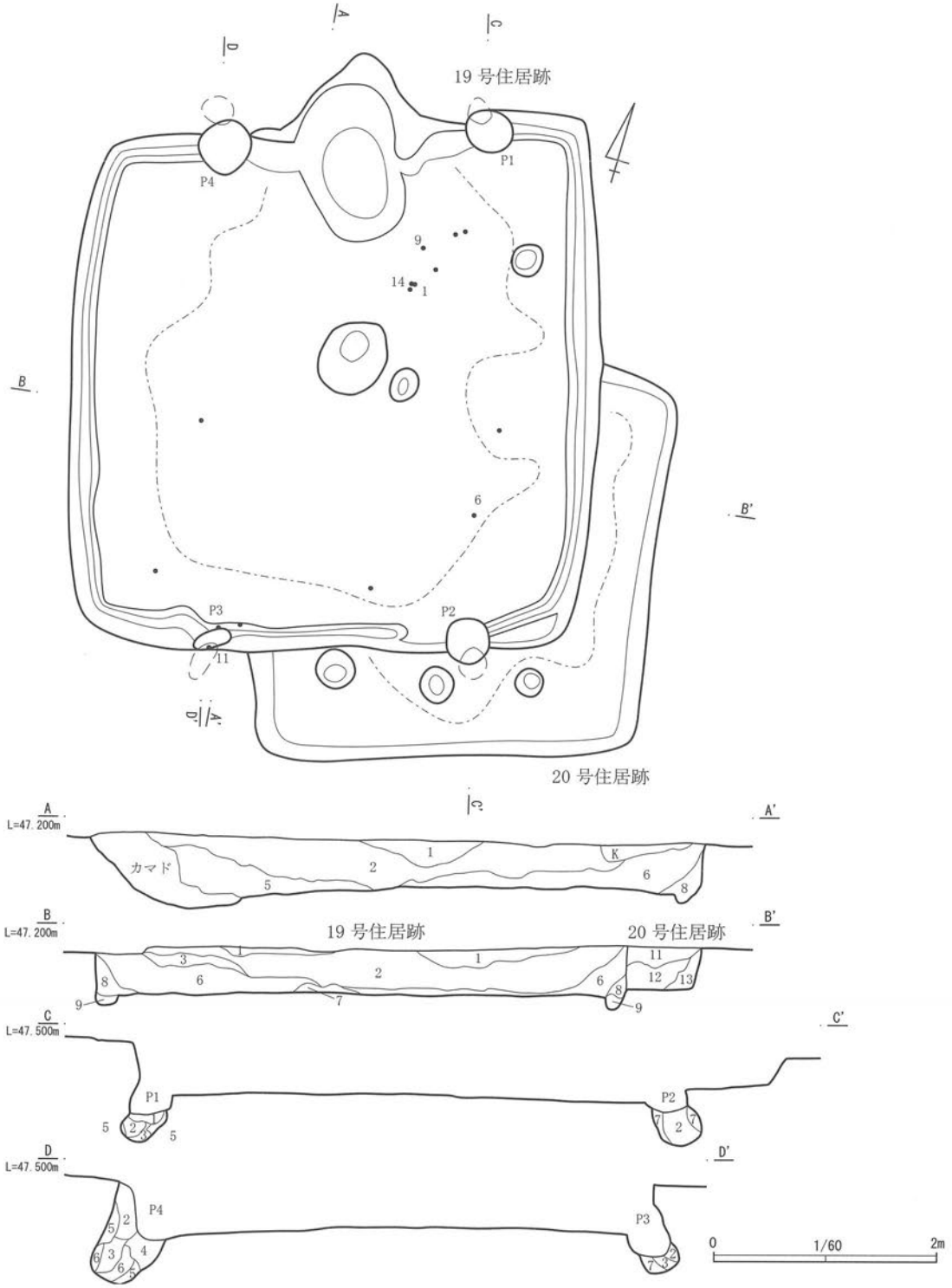
遺物は須恵器坏（11）・高坏（17）を除き、本遺構の遺物であるが、墨書土器片 2 点を含む。鉄製品では鏃・穂摘具が出土した。遺物から遺構の時期は 9 世紀後半と判断される。

20 号住居跡　（第 105・106・107・108 図，図版 45）

本遺構は C3-24 グリッドにおいて検出された。19 号住居跡に切られるため、全容は不明だが、平面形は方形で長軸 3.60m、短軸 3.60m、主軸方位 N　14°　W である。確認面からの深さは 40 cmである。覆土は 3 層に分層される。

カマドは確認されなかった。柱穴と出入口施設と見られるピットが南壁付近に検出された。検出された硬化面からは住居内に広く分布したと推測される。周溝は検出されなかった。

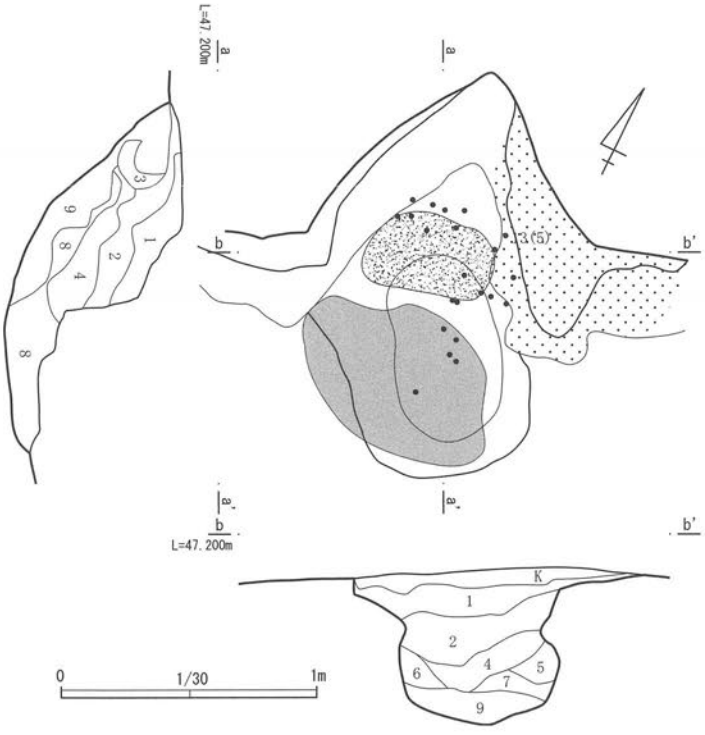
遺物は須恵器坏（11）・高坏（17）が出土した。遺物から遺構の時期は 8 世紀後半と判断される。



CUT5　19・20 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　ロームブロックφ 4 ～ 20 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 8 ㎜微量　炭化粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 7 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜微量　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 45 ㎜多　しまり・粘性強
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 8 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロックφ 4 ～ 15 ㎜中　炭化粒微量　しまり・粘性強
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり中　粘性強
10　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
11　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
12　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
13　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒。・ブロックφ 1 ～ 12 ㎜多　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 3 微量　しまり・粘性強

CUT5　19・20 号住居 P1 ～ 4　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒少　しまり弱　粘性中
2　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒微量　炭化粒少　しまり・粘性中
3　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　鹿沼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり弱　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒少　鹿沼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　鹿沼土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり弱　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜少　しまり強　粘性中

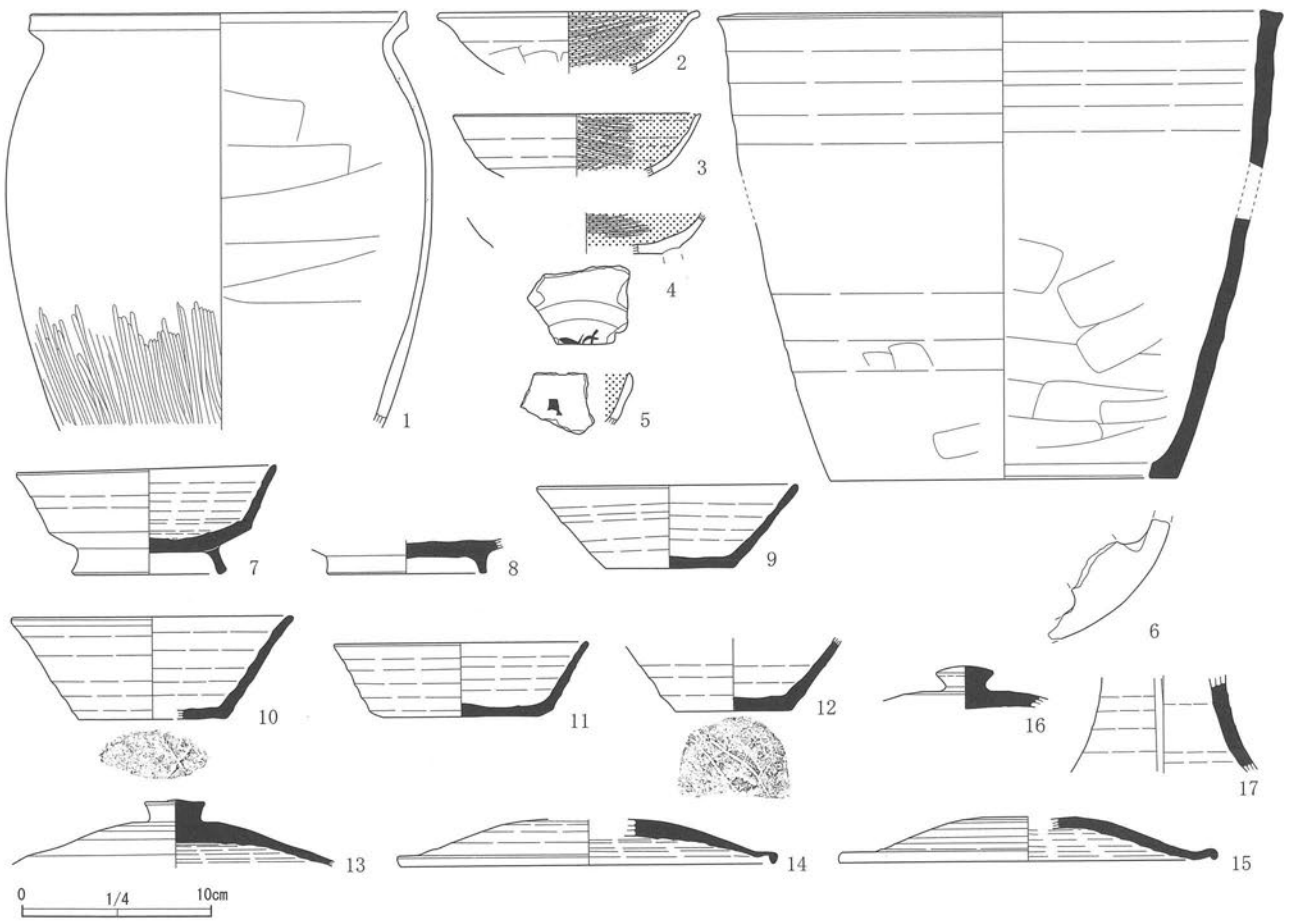
第 105 図　19・20 号住居跡（1）



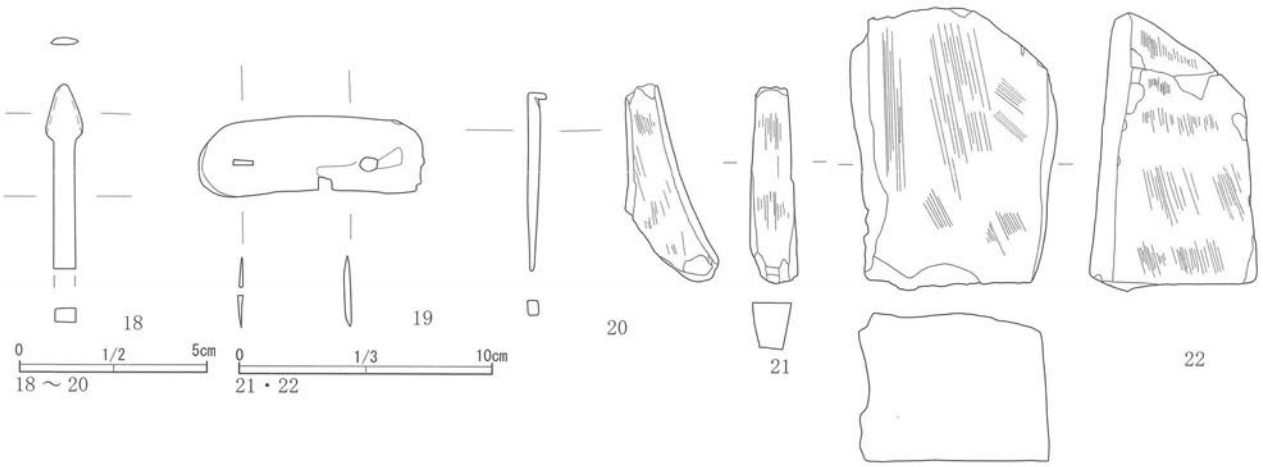
CUT5　19号住居炉　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒子φ1～3㎜多　炭化物粒φ1～10㎜中　しまり中　粘性強　灰層
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒φ1～5㎜中　しまり・粘性中　炭化物層

CUT5　19号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～4㎜中　焼土粒φ1～5㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　粘土粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～6㎜中　ロームブロックφ7～30㎜微量　焼土粒φ1～7㎜中　炭化粒φ1～3㎜少　粘土粒φ1～5㎜中　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～5㎜多　炭化粒φ1～3㎜少　粘土粒φ1～2㎜中　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～3㎜中　焼土ブロックφ4～15㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　粘土粒φ1～5㎜多　しまり・粘性強
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～20㎜多　炭化粒φ1～3㎜少　粘土粒φ1～5㎜中　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒φ1～3㎜微量　粘土粒φ1～5㎜中　しまり・粘性強
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～3㎜少　炭化粒φ1～2㎜少　粘土粒φ1～3㎜微量　しまり・粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～40㎜少　炭化粒φ1～5㎜少　粘土粒φ1～3㎜微量　しまり・粘性中
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒φ1～3㎜多　焼土ブロックφ4～10㎜少　炭化粒φ1～2㎜中　粘土粒φ1～3㎜中　しまり・粘性中

第106図　19・20号住居跡（2）



第107図　19・20号住居跡出土遺物（1）



第 108 図　19・20 号住居跡出土遺物（2）

表 52　19・20 号住居跡遺物観察表（1）

cm, g

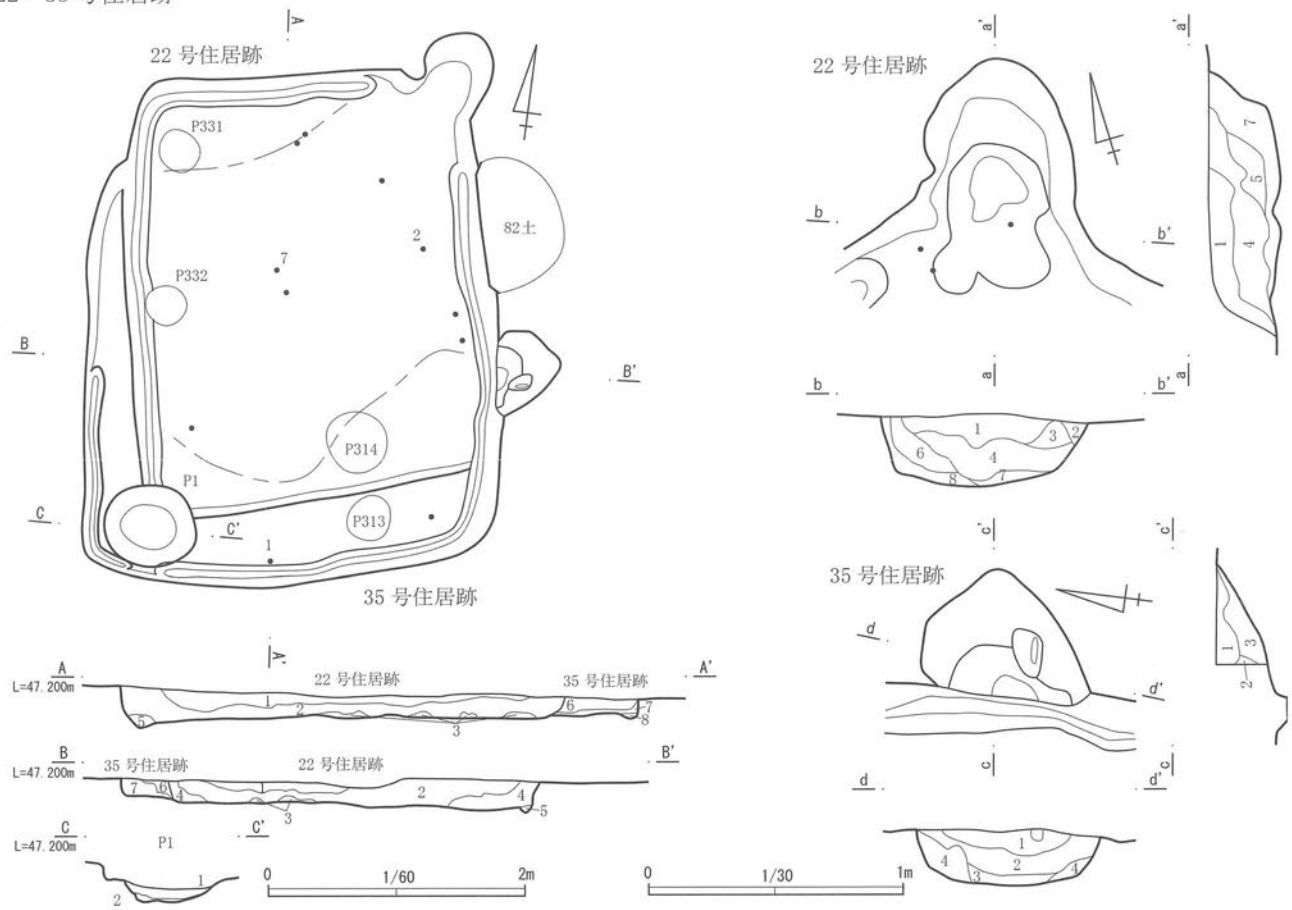
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 15	土師器	甕	(19.8)	〈22.3〉	—	268.2	胴部の張りは弱くやや長胴気味。口縁は短く「く」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はナデ後下半に縦方向のミガキ、内面はナデ。	良好 二次焼成?!	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	長石・石英・雲母やや多い。	口縁～胴下半1/4	常総型甕
2	覆土	土師器	坏	(13.6)	〈3.3〉	—	20.0	体部は緩やかに内湾した後口縁で外反肥厚する。開きは大きく浅い。	ロクロ整形。外面下半は手持ちヘラケズリ、内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/6明黄褐	白色針状物質やや多い。白色粒子・雲母少量。スコリア・中礫微量。	口縁～体部1/8	内面黒色処理
3	覆土	土師器	坏	(12.9)	〈3.3〉	—	18.6	体部は緩やかに内湾し口縁に至る。口辺の器壁は薄い。	ロクロ整形。外面下半は回転ヘラケズリ、内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質やや多い。雲母・中礫・スコリア少量。	口縁～体部1/5	内面黒色処理
4	覆土	土師器	坏	—	〈2.2〉	—	18.3	高台欠損。体部は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙にぶい黄橙	白色針状物質やや多い。石英・雲母少量。	体部1/8	内面黒色処理 底部外面墨書「□」
5	覆土	土師器	坏	—	〈2.8〉	—	6.9	僅かに内湾する。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質やや多い。黒色粒子・雲母少量。	口縁部片	内面黒色処理 体部外面墨書
6	No. 8	須恵器	甕	(27.5)	〈25.0〉	18.2	259.2	多孔式の甕でバケツ形を呈する。体部は直線的に立つ。口唇は摘上げられた後面取りされる。	回転台使用。外面はヘラケズリが僅かに観察される。内面はナデ整形。	良好 二次焼成?!	内外面 7.5YR7/6橙	角閃石・雲母・やや多い。スコリア・小～中礫・白色粒子・白色針状物質少量	口縁1/8 胴下半～底部1/8	接合実測
7	覆土	須恵器	高台付坏	13.6	5.6	8.2	226.4	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部は、見込みで緩やかに内湾した後屈曲し直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面　2.5Y6/2灰黄	小～中礫多量混入。白色針状物質微量。	口縁1/4欠損	
8	覆土	須恵器	高台付坏	—	〈1.85〉	8.3	130.0	高台は短くほぼ垂直に立つ。見込みは平坦。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後周縁をロクロナデ。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　5Y6/2灰オリーブ	白色粒子・白色針状物質少量。黒色粒子・鉄分の噴出し微量。	高台部のみ	
9	No. 4	須恵器	坏	13.7	4.4	7.0	157.2	底部は平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	小～大礫多量混入。白色粒子鉄分の噴出し少量。	口縁一部欠損	
10	覆土	須恵器	坏	(14.8)	5.5	(8.0)	63.0	底部は平底で、体部は直線的に開き、口辺で僅かに外反する。	ロクロ整形。底部切り離しは不明であるがナデ整形を行っている。	一部還元不良	内面　2.5YG6/1オリーブ灰 外面　7.5Y6/2灰オリーブ	小～大礫多量混入。白色粒子・鉄分の噴出し微量。	口縁～底部1/5	底部ヘラ記号
11	No. 12	須恵器	坏	(13.1)	3.95	8.0	71.4	底部は平底で、体部は僅かに外反気味に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後周縁をロクロ整形。	良好	内外面　10Y5/1灰	白色粒子やや多い。鉄分の噴出し・中礫微量。	体部1/4 底部2/3	
12	覆土	須恵器	坏	—	〈3.9〉	6.1	58.0	底部は平底で、体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後周縁をロクロ整形。	還元不良	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　5Y4/1灰	小～中礫多量混入。白色粒子・白色針状物質少量。	体～底部1/4	底部ヘラ記号
13	ｶﾏﾄﾞNo. 5	須恵器	蓋	—	〈3.65〉	ﾂﾏﾐ径3.1	181.0	天井は緩やかに内湾する。端部欠損。ツマミはやや扁平な擬宝珠状を呈する。	ロクロ整形。天井の回転ヘラケズリは1/3。	還元不良	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面　2.5Y6/4にぶい黄	小～中礫・白色粒子やや多い。黒色粒子・白色針状物質少量。	裾～端部欠損	
14	No. 2	須恵器	蓋	(19.8)	〈2.4〉	—	113.3	天井は裾で僅かに外反する弓張状。端部は屈曲する。返しは無い。ツマミ欠損。	ロクロ整形。天井の回転ヘラケズリは1/4。	還元不良	内面　2.5Y5/2暗灰黄 外面　2.5Y6/3にぶい黄	小～大礫やや多い。白色粒子・黒色粒子・鉄分の噴出し・白色針状物質少量。	天井～端部1/4	
15	覆土	須恵器	蓋	19.8	〈2.4〉	—	75.0	天井は弓張り状を呈し裾でやや強く外反する。端部は屈曲する。返しは無い。ツマミ欠損。	ロクロ整形。天井の回転ヘラケズリは1/2強。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　10Y5/1灰	小～中礫多量混入。鉄分の噴出し微量。	天井～端部1/4	

表 53　19・20 号住居跡遺物観察表（2）

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
16	覆土	須恵器	蓋	—	〈2.25〉	ﾂﾏﾐ径3.0	40.8	ツマミは扁平な擬宝珠状を呈する。	ロクロ整形。ツマミ周縁は回転ヘラケズリが行われている。	良好	内外面　4.5Y6/1灰	白色粒子少量。白色針状物質微量。	ツマミのみ	
17	ｶｸﾆﾝ	須恵器	高坏	—	〈5.3〉	—	37.4	脚部は緩やかに外反する。4方透し。	ロクロ整形。	良好	内面　7.5Y6/1灰 外面　10Y5/1灰	鉄分の噴出しやや多い。白色粒子少量。白色針状物質微量。	脚部1/4	
18	覆土	鉄製品	鏃	鏃身1.65　幅10　厚さ0.2 厚さ0.4　幅0.6　重量4.9。				鏑被三角形鏃。鏃身は小ぶりの三角形で腸快はない。茎部は欠損する。鏑被部の断面形は長方形である。						
19	覆土	鉄製品	穂摘具	全長5.9　幅2.15　厚さ0.15　孔径0.55　重量7.4				楕円形を呈する。上下両端共に薄く尖る。目釘は2か所確認出来る。下端の刃部はやや内湾する。						
20	覆土	鉄製品	釘	全長4.8　頭部0.5　厚さ0.4　重さ2.7				断面方形を呈する。頭部は折り曲げられてL字に屈曲する。						
21		石製品	砥石	縦7.6	横1.9	厚さ1.8	45.7	分銅形を呈する。孔は観察されない。4面共によく使用されており側面は双方ともに大きく湾曲する。鎌砥石。材質は凝灰岩。						
22		石製品	砥石	縦11.1	横8.2	厚さ5.7	819.4	方形の角礫を用いるもので状面及び側面に細かな擦痕状の擦り跡が残っている。材質は砂岩であろう。						

22・35 号住居跡



CUT5　22・35 号住居　土層説明
1　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　ロームブロックφ 3 ～ 20 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化物粒微量　しまり・粘性強
6　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 微量　炭化物粒微量　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化物粒微量　しまり・粘性強
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒微量　炭化物粒微量　しまり・粘性強
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒微量　炭化物粒微量　しまり・粘性強

CUT5　22 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜多　粘土粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒中　粘土粒・ブロックφ 1 ～ 20 多　しまり強　粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 6 ㎜中　しまり強　粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性強
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり中　粘性強
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 7 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性中
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜中　粘土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 12 ㎜中　焼土粒・炭化物粒・粘土粒微量　しまり・粘性中

CUT5　35 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　細砂粒多　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　細砂粒多　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　細砂粒多　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　細砂粒少　しまり・粘性中

CUT5　35 号住居 P1　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロックφ 10 ～ 30 ㎜中　焼土粒微量　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜多　しまり・粘性中

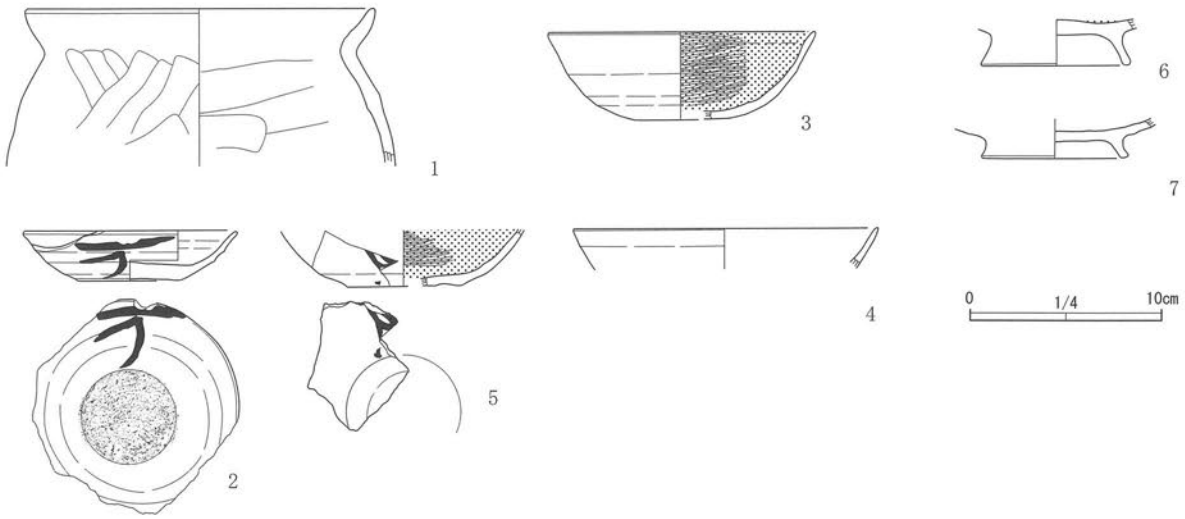
第 109 図　22・35 号住居跡

22 号住居跡　（第 109・110 図，図版 47・48・100）

本遺構は C3-20 グリッドにおいて検出された。82 号土坑・P314・331・332 に切られ、35 号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸 4.02m、短軸 2.88m、主軸方位 N 9° W である。確認面からの深さは 21 cmで、覆土は 5 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北東隅に付設されるが、袖は遺存していない。ピットは検出されず、硬化面は広く分布している。周溝はカマドと南壁を除き検出された。

遺物は土師器甕・坏類が出土し、土師器坏（2）は体部外面に正位で「万」と墨書されている。内面黒色処理の坏も体部外面に墨書がされるが、釈読出来なかった。遺物から遺構の時期は 9 世紀後半と判断される。



第 110 図　22 号住居跡出土遺物

表 54　22 号住居跡遺物観察表

cm, g

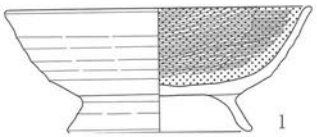
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	(17.7)	〈8.3〉	—	81.7	胴部はやや張る。口縁は「く」の字に緩曲し僅かに受け口となる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ整形。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR4/3にぶい黄褐	黒色粒子・角閃石・雲母やや多い。小礫少量。白色針状物質微量。	口縁～肩部1/8	
2	No.2	土師器	坏	10.8	2.7	5.1	52.1	底部はやや上げ底気味の平底で、体部は大きく開く。体部の器壁は薄く浅い。	ロクロ整形。底部は回転糸切り。	良好	内面　10YR7/3にぶい黄橙 外面　10YR8/3浅黄橙	黒色粒子やや多い。白色粒子・雲母・角閃石少量。白色針状物質微量。	口縁2/3欠損	体部外面正位墨書「万」
3	ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	(13.8)	〈4.6〉	5.0	53.9	底部は平底。体部は緩やかに内湾し口縁で僅かに外傾する。	ロクロ整形。体部下半～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母・金雲母・白色粒子微量。	口縁～体部1/5　底部1/3	内面黒色処理
4	ｶﾏﾄﾞ	土師器	坏	(15.7)	〈2.1〉	—	7.6	僅かに内湾気味に開く。	ロクロ整形。	良好	内外面　10YR7/4にぶい黄橙	雲母・黒色粒子微量。	口縁部片	
5	覆土	土師器	坏	—	〈3.0〉	(6.0)	20.8	底部は平底。体部は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR5/4にぶい黄褐	雲母・黒色粒子微量。	体～底部1/5	内面黒色処理。体部外面墨書
6	覆土	土師器	高台付坏	—	〈2.4〉	7.5	75.4	高台は「ハ」の字に付されやや丈高。見込みは平坦である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ後ロクロナデ。見込みはミガキ。	良好	内面　10YR4/1褐灰 外面　10YR6/4にぶい黄褐	雲母・黒色粒子微量。	底部のみ高台部僅かに残る。	内面黒色処理
7	No.8	土師器	高台付坏	—	〈2.15〉	(7.1)	39.6	高台は「ハ」の字に付されやや丈高。見込みは平坦である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。見込みはミガキ。	良好	内面　5Y3/2オリーブ黒 外面　2.5Y5/3黄褐	黒色粒子やや多い。白色粒子・雲母・白色針状物質微量。	底部1/2　高台部僅かに残る。	内面黒色処理　底部ヘラ記号ヵ

35 号住居跡　（第 109・111 図，図版 47・48・102）

本遺構は C3-20 グリッドにおいて検出された。P313・22 号住居跡に切られる。大半が削平されるため全容は不明だが、平面形は長方形で長軸 3.30m、短軸 3.42m、主軸方位 N 84° E である。確認面からの深さは 12 cmで、覆土は 3 層に分層される。

カマドは東壁に付設されるが、袖は遺存していない。ピットは検出されなかった。周溝は西壁南半と南壁に周溝が確認された。

遺物は内面黒色処理の高台付坏が出土した。遺物から遺構の時期は 9 世紀後半と判断される。

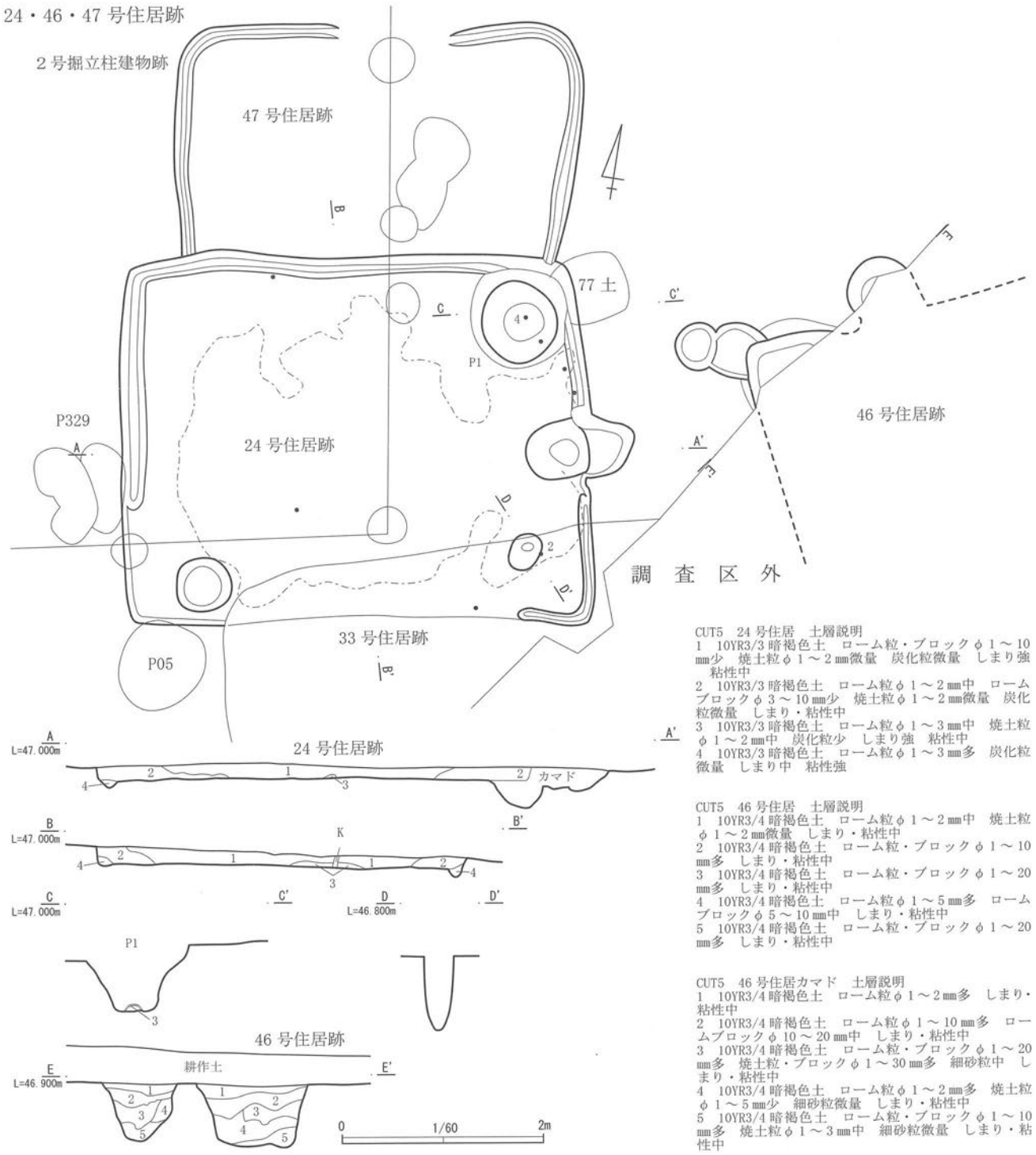


第 111 図　35 号住居跡出土遺物

表 55　35 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 2	土師器	高台付坏	15.8	6.5	8.9	257.3	高台は「ハ」の字に付され丈高である。体部は下端で緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。外面底部及び体部下端は回転ヘラケズリ、内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母少量。白色針状物質微量。	口縁1/4欠損	内面黒色処理 内面に一本暗文?

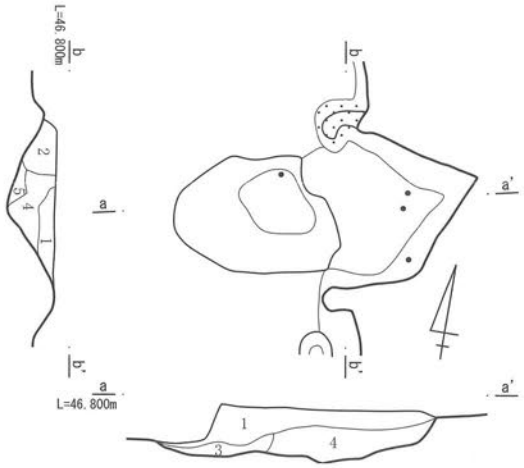


CUT5　24 号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック φ 3 ～ 10 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒微量　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　炭化粒少　しまり強　粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強

CUT5　46 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 5 ～ 10 ㎜中　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり・粘性中

CUT5　46 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 10 ㎜多　ロームブロック φ 10 ～ 20 ㎜中　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜多　細砂粒中　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　細砂粒微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　細砂粒微量　しまり・粘性中

第 112 図　24・46・47 号住居跡（1）



第113図　24・46・47号住居跡（2）

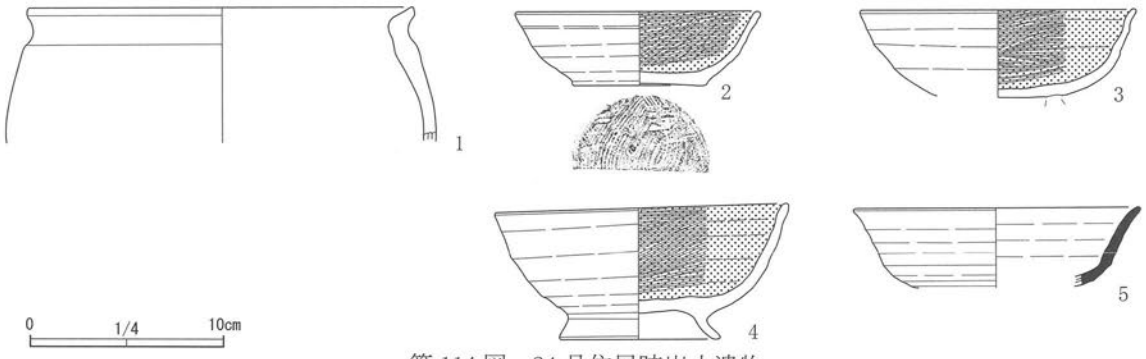
CUT5　24号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　焼土粒φ1～5㎜少　炭化粒φ1～2㎜少　粘土粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜少　焼土粒φ1～3㎜多　炭化粒φ1～2㎜少　粘土粒φ1～5㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　焼土粒φ1～3㎜少　炭化粒φ1～2㎜少　粘土粒微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜少　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒φ1～3㎜中　粘土粒φ1～2㎜中　しまり強　粘性中
5　10YR3/4暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～3㎜多　炭化物粒少　粘土粒少　しまり・粘性中

24号住居跡　（第112・113・114図，図版48・49・100）

本遺構はC3-25、D3-21グリッドにおいて検出された。P05・77号土坑・2号掘立柱建物跡に切られる。33・47号住居跡を切る。平面形は方形と推測され、残存する長軸3.96m、短軸（2.34）mである。確認面からの深さは18㎝で、覆土は4層に分層され自然堆積の様相を呈する。

カマドは東壁に付設されるが、袖は基部が僅かに残るのみである。北東隅には貯蔵穴（P1）が検出された。南壁～西壁の一部以外は周溝が確認された。硬化面は住居内に広く分布する。

遺物は内面黒色処理の高台付坏などが出土した。遺物から遺構の時期は9世紀後半と判断される。



第114図　24号住居跡出土遺物

表56　24号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞNo	土師器	甕	19.8	〈7.1〉	—	87.5	胴部の張りは弱い。口縁は小さく「C」の字に外反し口唇の摘み上げられる。器壁は厚い。	器面剥落。	良好 二次焼成?!	内面　7.5YR7/6橙 外面　10YR7/6明黄褐	小～中礫・雲母多い。	口縁～肩部1/8	
2	No.1	土師器	坏	12.5	3.9	7.0	78.3	底部はやや上げ底気味の平底で僅かに突出している。体部は緩やかに内湾し上半で直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転糸きり。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　10YR7/4にぶい黄橙	雲母・黒色粒子・白色針状物質微量。	1/2	内面黒色処理
3	P-1	土師器	坏	14.2	〈4.6〉	—	138.7	底部は平底。体部下半で内湾し、弱い段を有した後口縁は僅かに外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄褐	雲母・スコリア少量。	体部1/4・高台部欠損	内面黒色処理
4	P-1 No.2	土師器	高台付坏	15.0	6.9	8.2	321.4	高台はやや強く外反気味に付される。体部は緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。体部内面は丁寧なミガキ、下端は回転ヘラケズリが行われている。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y5/3黄褐	雲母・白色粒子・石英やや多い。小～大礫少量混入。	ほぼ完形	内面黒色処理
5	覆土	須恵器	坏	(14.7)	〈4.1〉	—	19.3	体部は下端で内湾した後緩やかに外反する。	ロクロ整形。	良好	内外面　7.5Y5/1灰	小～中礫・鉄分の噴出し微量。	口縁～体部1/8	

46号住居跡　（第112・113図，図版60）

本遺構はD3-21グリッドにおいて検出された。ほとんどが調査区外であり、カマドと住居壁の一部のみ検出された。主軸方位N 18° Wである。確認面からの深さは60㎝である。周溝は確認されなかった。

遺物が出土していないが、カマドが付設されることから古代の遺構と推測される。

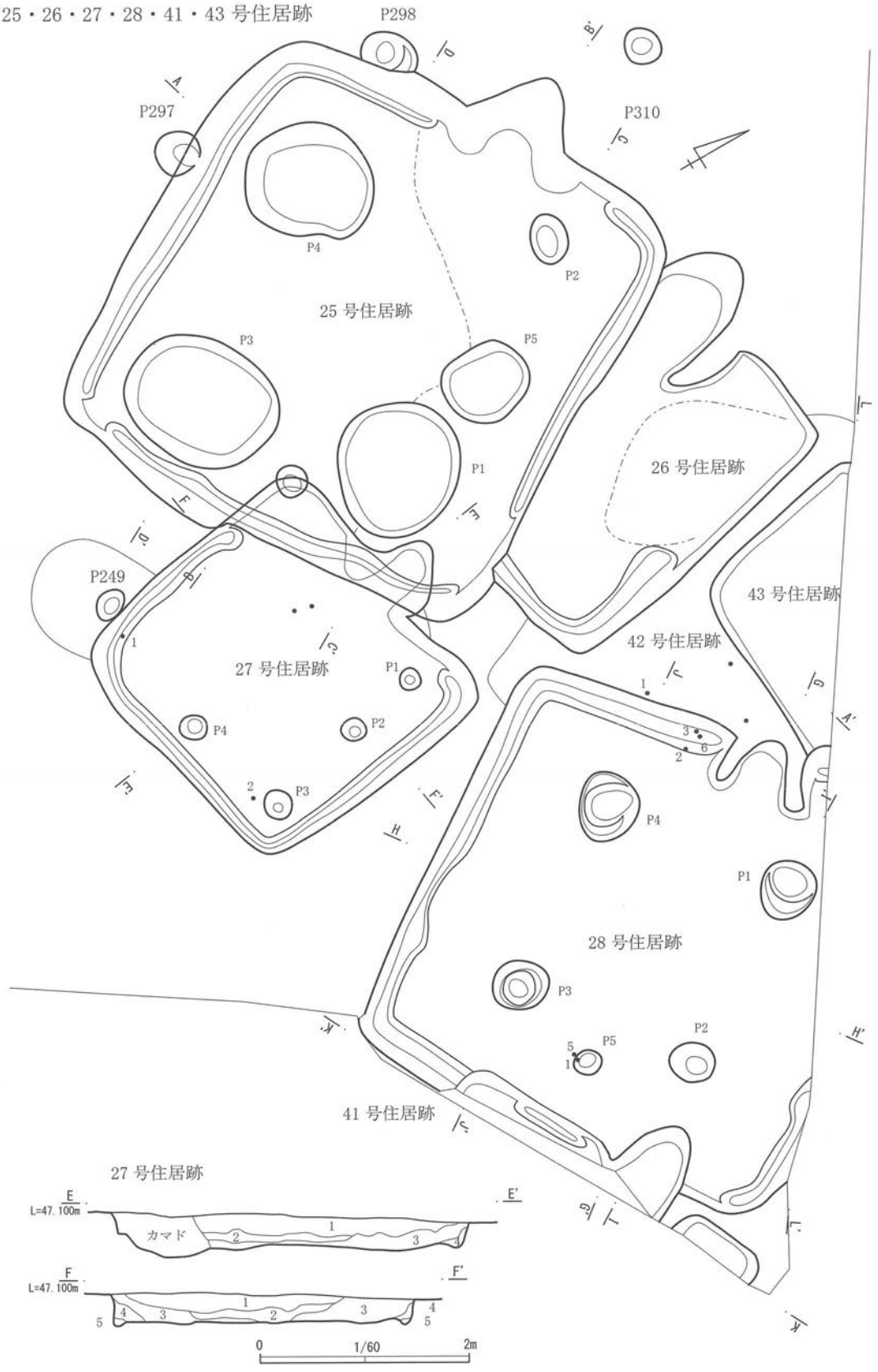
47号住居跡　（第112・113図）

本遺構はC3-25、D3-21グリッドにおいて検出された。2号掘立柱建物跡、24号住居跡に切られ、33号住居跡を切る。平面形は長方形で長軸4.62m、短軸3.72m、主軸方位N 80° Eである。確認面において、既に床面が検出されていた。

カマドは検出されていない。24号住居跡との重複部分を除き検出された。

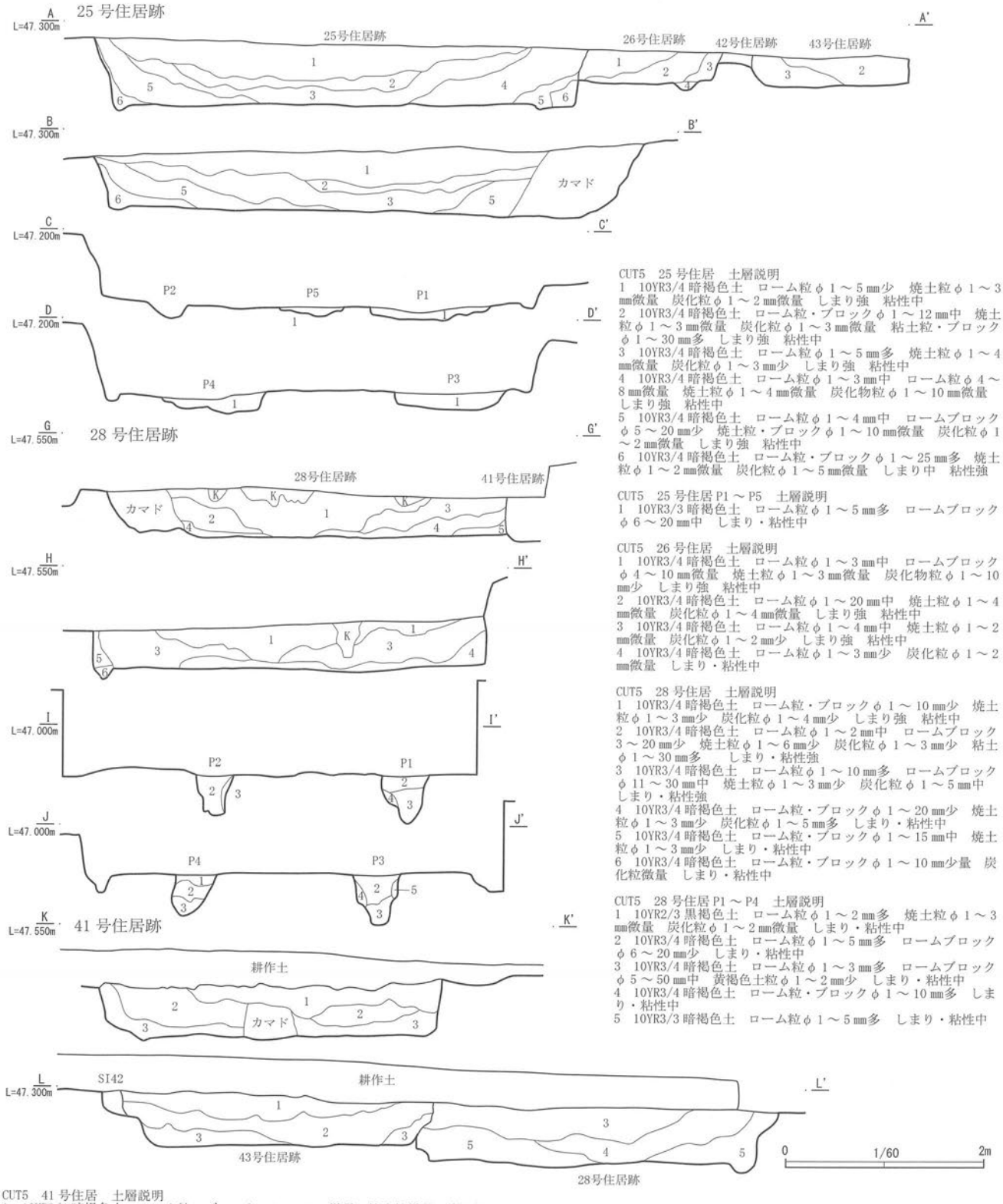
遺物は弥生土器・土師器片が出土した。遺構は古代と推測される。

25・26・27・28・41・43 号住居跡



CUT5　27 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 少　粘土粒少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 中　粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒微量　しまり中　粘性強
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 30㎜多　しまり・粘性強

第 115 図　25・26・27・28・41・43 号住居跡（1）



CUT5　25 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 12 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　粘土粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜多　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 4 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　ローム粒 φ 4 ～ 8 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 4 ㎜微量　炭化物粒 φ 1 ～ 10 ㎜微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　ロームブロック φ 5 ～ 20 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 25 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　しまり中　粘性強

CUT5　25 号住居 P1 ～ P5　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 6 ～ 20 ㎜中　しまり・粘性中

CUT5　26 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロック φ 4 ～ 10 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化物粒 φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 20 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 4 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中

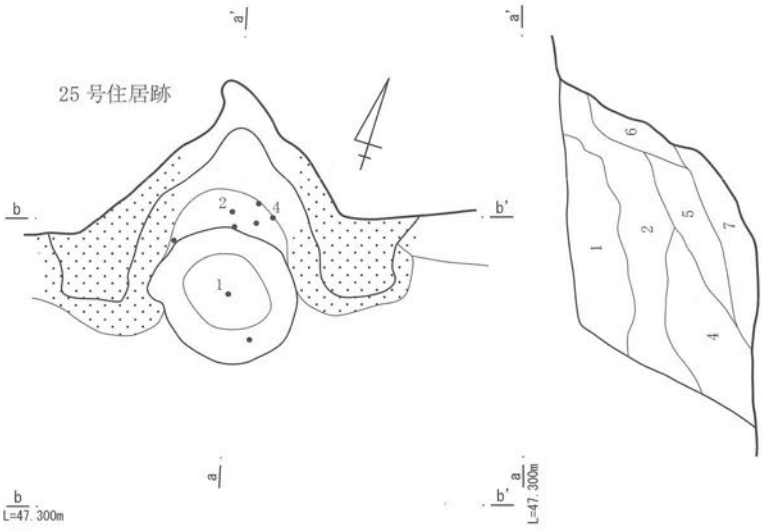
CUT5　28 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック 3 ～ 20 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 6 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土 φ 1 ～ 30 ㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 10 ㎜多　ロームブロック φ 11 ～ 30 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 15 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少量　炭化粒微量　しまり・粘性中

CUT5　28 号住居 P1 ～ P4　土層説明
1　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 6 ～ 20 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロック φ 5 ～ 50 ㎜中　黄褐色土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中

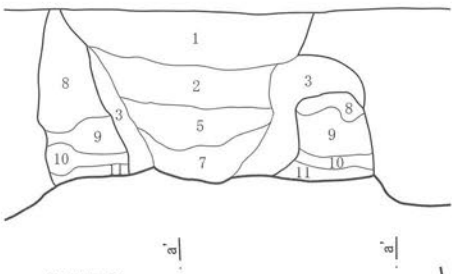
CUT5　41 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　焼土粒微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 12 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中

CUT5　43 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロック φ 4 ～ 15 微量　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロック 4 ～ 20 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック φ 3 ～ 25 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中

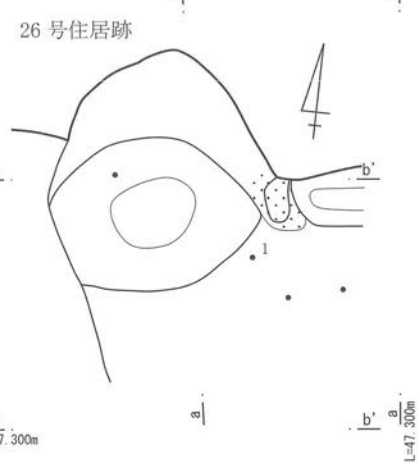
第 116 図　25・26・27・28・41・43 号住居跡 (2)



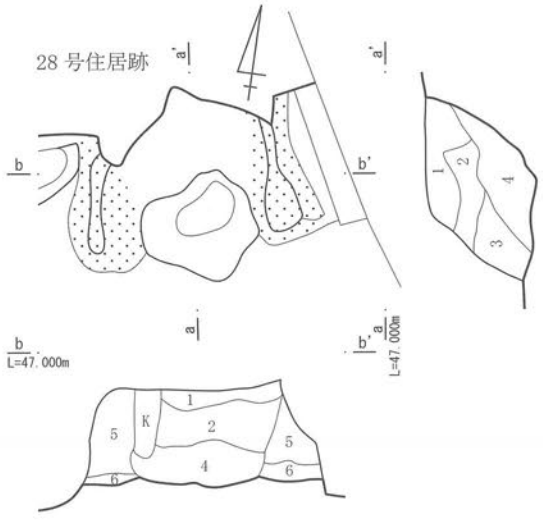
CUT5　25 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜少　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　しまり強　粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化物粒中　灰褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　灰褐色粘土粒中　しまり・粘性強
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　灰褐色粘土粒中　しまり・粘性強
（カマドソデ部）8　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム粒少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化物粒微量　しまり・粘性強　灰褐色粘土層
9　10YR5/2 灰黄褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 4 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜少　しまり・粘性強　灰褐色粘土層
10　10YR6/3 にぶい黄橙色土　ローム粒少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性強　灰褐色粘土層
11　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 20 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 4 ㎜少　灰褐色粘土粒少　しまり・粘性強



CUT5　26 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　炭化物φ 10 ㎜微量　黄褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 40 ㎜中　しまり・粘性強
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　黄褐色粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜少　黄褐色粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 15 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　黄褐色粘土粒少　しまり・粘性強

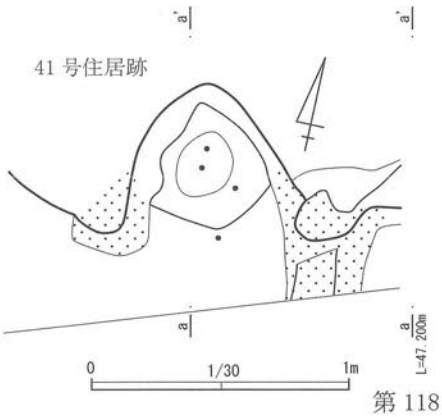


CUT5　27 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化物粒・粘土粒微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜中　粘土粒少　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒少　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化物粒・粘土粒微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 5 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒少　しまり強　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 4 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり・粘性強



CUT5　28 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロックφ 3 ～ 10 ㎜微量　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 10 ㎜微量　黄褐色粘土粒少　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜少　黄褐粘土粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　しまり中　粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 40 ㎜少　炭化粒 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒・ブロックφ 1 ～ 30 ㎜中　炭化粒φ 1 ～ 5 ㎜少　黄褐粘土粒少　しまり・粘性中

第 117 図　25・26・27・28・41・43 号住居跡（3）



CUT5　41 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　粘土粒微量　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜中　ロームブロック φ 3 ～ 12 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 4 ㎜中　粘土粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　粘土粒微量　しまり中　粘性強

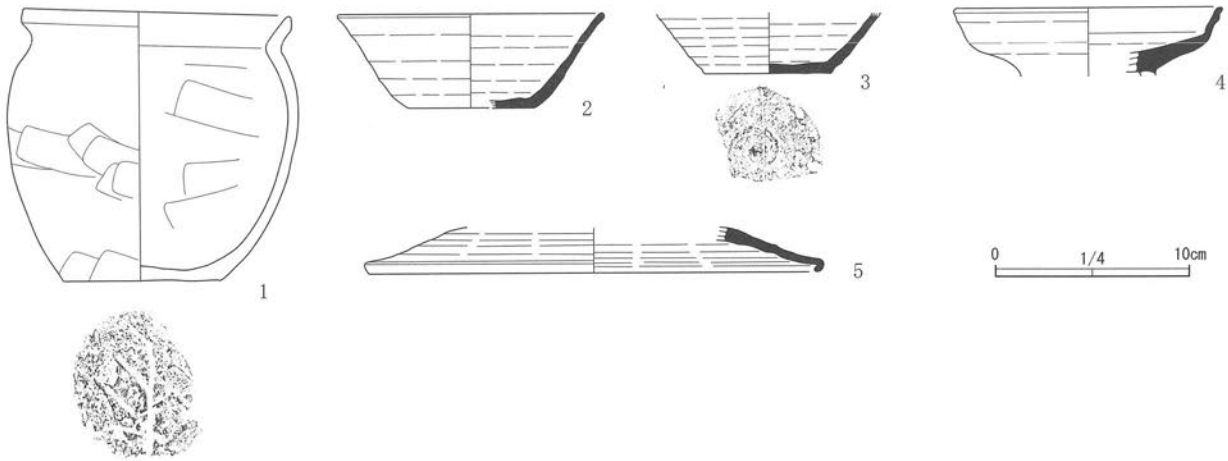
第 118 図　25・26・27・28・41・43 号住居跡（4）

25 号住居跡　（第 115・116・117・119 図，図版 50・100）

本遺構は D3-16 グリッドにおいて検出された。27 号住居跡・P297・298 に切られ、26 号住居跡を切る。平面形は方形で長軸 4.68m、短軸 4.50m、主軸方位 N 31° W である。確認面からの深さは 60 ㎝で、覆土は 6 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、袖の基部が遺存し、内部からは遺物が出土している。ピットは 5 基検出されたが、径が大きく浅いため柱穴とは考えにくい。周溝はカマドを除きほぼ全周する。

遺物は土師器甕、須恵器蓋・坏が出土した。遺物から遺構の時期は 9 世紀前半と判断される。



第 119 図　25 号住居跡出土遺物

表 57　25 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No.6	土師器	甕	14.7	14.2	8.0	471.4	底部は平底。胴部は最大径を上位に持つもので張りは弱い。口縁は短く「く」の字に外反し口唇は摘み上げられる。口縁は広さが有る。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ整形。底部木葉痕。	良好	内面　7.5YR6/6 橙 外面　5YR5/6明赤褐	長石・石英・雲母多い。	口縁1/8欠損　胴部1/3欠損	
2	No.1	須恵器	坏	(13.5)	5.0	(6.5)	51.5	底部は平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部の切り離しは不明であるが、ナデ整形を行っている。	一部還元不良	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　2.5Y6/2灰黄	白色粒子ややや多い。白色針状物質微量。	口縁～底部1/4	
3	SI-27	須恵器	坏	—	〈3.2〉	(6.6)	46.5	底部は平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後周縁ナデ整形。	一部還元不良	内面　10Y5/1灰 外面　2.5YG6/1オリーブ灰	小～中礫・白色針状物質やや多い。	体部1/8 底部2/3	底部ヘラ記号 比企産ヵ
4	No.3	須恵器	高台付盤	(13.6)	〈3.6〉	—	65.8	体部下半で直線的に大きく開いた後屈曲し口縁に至る。口唇直下に沈線状の窪みが観察される。	ロクロ整形。	一部還元不良	内面　2.5Y6/2灰黄 外面　5Y5/1灰	白色粒子・鉄分の噴出し少量。	口縁～体部1/4	
5	ｶﾏﾄﾞ。ｵﾘｶﾀ	須恵器	蓋	(23.5)	〈2.4〉	—	31.5	大形の蓋である。裾部は僅かに外反し端部は短く屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。天井に僅かに回転ヘラケズリが確認される。	良好	内面　7.5YR4/1灰 外面　7.5Y6/1灰	小～中礫・鉄分の噴出し微量。	裾～端部1/2弱	

26 号住居跡　（第 115・116・117・120 図，図版 50・51・100）

本遺構は D3-16 グリッドにおいて検出された。25 号住居跡に切られ、42 号住居跡を切る。西半が 25 号住居跡と重複するため、全容は不明だが、平面形は方形と見られ、長軸 3.36m、短軸（2.16）m、主軸方位 N 13° W である。確認面からの深さは 30 cmで、覆土は 4 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、右袖が確認された。ピットは検出されず、周溝は南東隅に検出された。硬化面が東部に分布する。

遺物は土師器甕を掲載した。遺構は重複する 25 号住居跡の 9 世紀前半の時期を下限とする古代である。

第 120 図　26 号住居跡出土遺物

表 58　26 号住居跡遺物観察表

cm, g

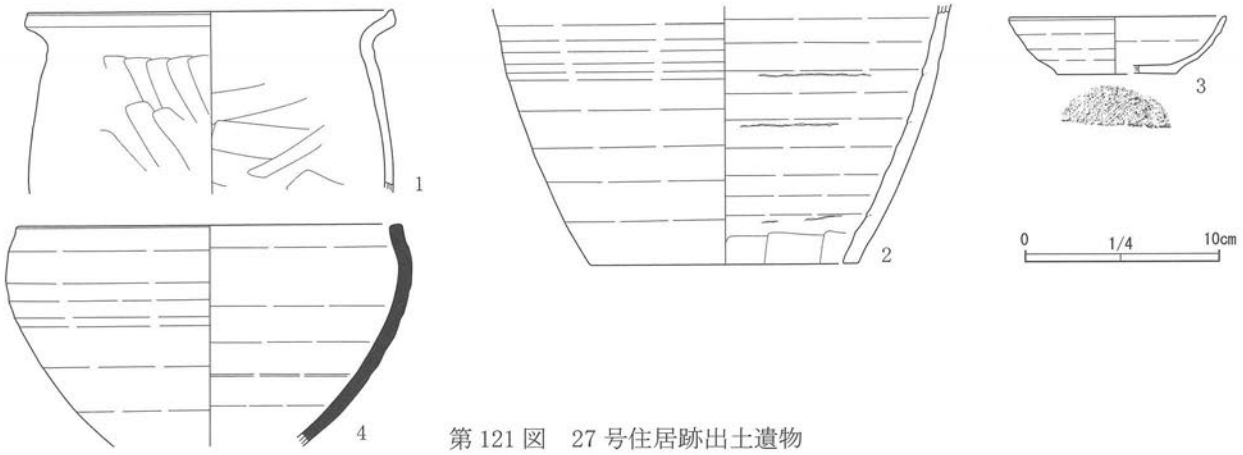
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	土師器	甕	(19.6)	〈6.8〉	—	99.2	胴部は張る。口縁は「C」の字に強く外反し口唇の摘み上げは明瞭。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR7/4にぶい黄橙	白色粒子・雲母微量。	口縁～肩部1/4	常総型甕

27 号住居跡　（第 115・116・117・121 図，図版 51・100）

本遺構は D3-16 グリッドにおいて検出された。25 号住居跡を切る。平面形は方形で長軸 2.82m、短軸 2.94m、主軸方位 N10° W である。確認面からの深さは 27 cmで、覆土は 5 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設されている。ピットは 4 基確認された。周溝は北壁を除きほぼ全周する。硬化面は確認されなかった。

遺物は土師器甕・甑・坏、須恵器仏鉢が出土した。遺物から 9 世紀後半の遺構と判断される。



第 121 図　27 号住居跡出土遺物

表 59　27 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 4	土師器	甕	(18.8)	〈9.6〉	—	57.8	胴部の張りは弱い。口縁は「C」の字に外反し口唇の摘み上げは明瞭。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部外面はヘラケズリ、内面はナデ整形。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　10YR6/6明黄褐	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。	口縁～肩部1/5	常総型甕ヵ
2	No. 3	土師器	甑	—	〈13.6〉	(14.0)	248.8	バケツ形を呈する。体部は僅かに内湾するものの直線的に立つ。	回転台使用ヵ。胴部内面に輪積痕、下端にヘラケズリが観察される。	良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	胴下半～底部1/4	
3	覆土	土師器	坏	(11.0)	3.0	(6.2)	20.5	底部は平底で僅かに突出する。体部は緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。底部回転糸切り。	良好	内外面　10YR7/4にぶい黄橙	黒色粒子少量。雲母・スコリア・角閃石微量。	口縁～体部1/8　底部1/3	
4	No. 4	須恵器	鉢	(19.4)	〈11.8〉	—	169.5	底部欠損。胴部は緩やかに内湾し口縁で内傾する。深身の鉢である。	ロクロ整形。外面胴部下端回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y5/2灰オリーブ 外面　5Y5/1灰	白色粒子・鉄分の噴出し少量。	口縁～体部1/5	火ダスキ有り

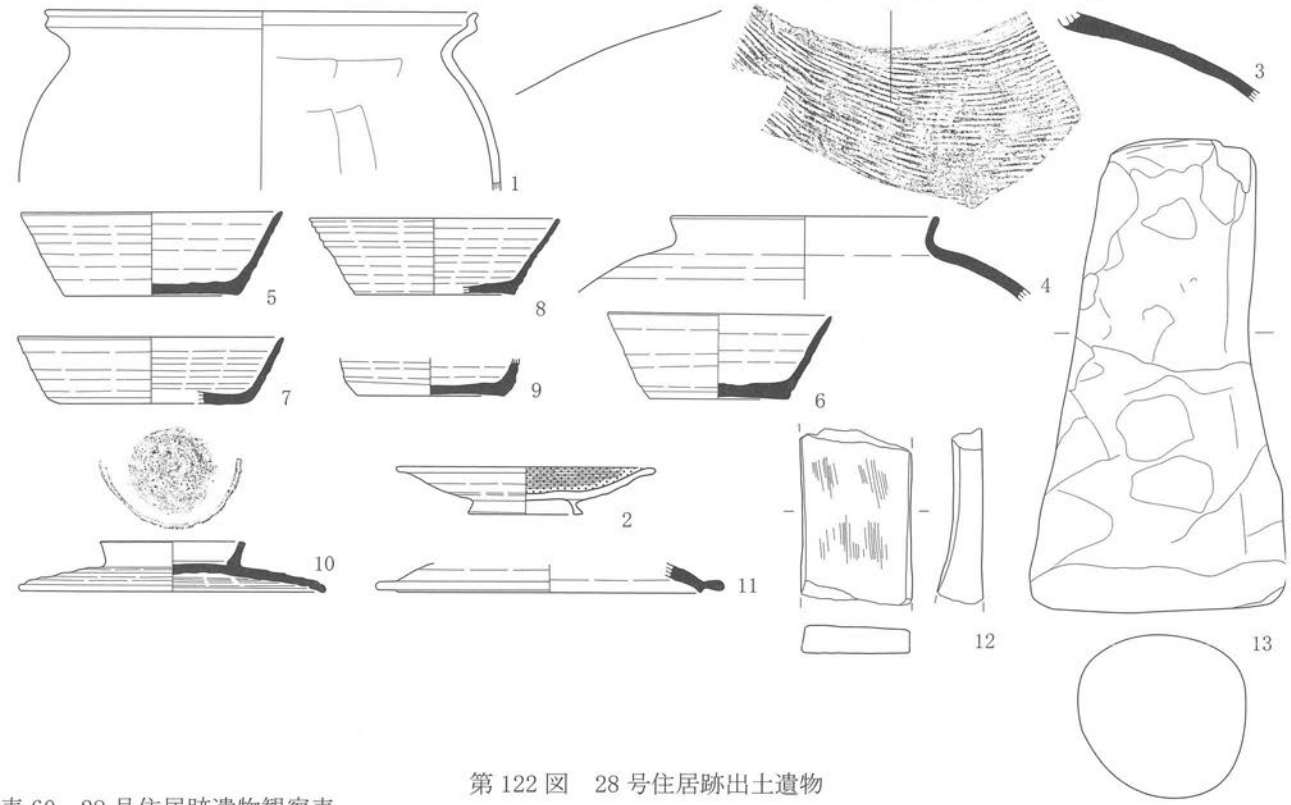
28 号住居跡　（第 115・116・117・122 図，図版 52・101）

本遺構は D3-16・17 グリッドにおいて検出された。41・43 号住居跡に切られ、42 号住居跡を切る。北部が調査区外となるが、平面形は方形と見られ、長軸 4.32m、短軸 4.38m、主軸方位 N39.5° W である。確認面からの深さは 60

cmで、覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、袖はややハの字状に開く。柱穴は4基あり、対称に配される。周溝はカマドや遺構の重複部分を除き全周する。硬化面は確認されなかった。

遺物は土師器甕、須恵器甕・壺・蓋・坏類が出土した。内面黒色処理の高台付皿は9世紀後半、須恵器蓋（11）は7世紀末～8世紀初めと考えられ、遺構外の遺物である。遺物から8世紀後半の遺構と判断される。



第122図　28号住居跡出土遺物

表60　28号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 4	土師器	甕	(22.0)	〈9.4〉	—	89.8	胴部は張る。口縁は「C」の字に強く外反し口唇の摘み上げは明瞭。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　7.5YR5/6明褐	長石・石英・雲母多い。	口縁～肩部1/8	常総型甕
2	No. 3	土師器	高台付皿	13.1	2.5	5.5	108.4	高台は短く「ハ」の字に付される。体部は見込みで僅かに内湾した後大きく開き口縁で外反する。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y6./3にぶい黄	白色針状物質・雲母やや多い。小～中礫少量。	口縁1/3欠損	内面黒色処理
3	No. 1	須恵器	甕	—	〈4.8〉	—	604.3	大形の甕である。肩部の張りは強い。	外面平行叩き、内面当て具痕。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　5Y7/2灰白	黒色粒子やや多い。白色粒子少量。	肩部大破片	
4	覆土	須恵器	壺	(13.7)	〈4.4〉	—	30.7	肩部の張りは強く、口縁は僅かに外傾気味に短く直立する。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y8/1灰白 外面　5Y8/2灰白	黒色粒子やや多い。	肩部片。	
5	No. 4, 5	須恵器	坏	(13.5)	4.4	9.0	139.8	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に立つ。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y6/4にぶい黄 外面　7.5Y6/1褐灰	ほぼ精良。	口縁～体部1/4　底部完形	火ダスキ有り
6	No. 2	須恵器	坏	11.4	4.6	7.2	156.8	やや小振りな坏である。底部は僅かに上げ底気味の平底。体部は直線的に立つ。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y6/1灰 外面　5Y6/1灰	黒色粒子やや多い。雲母・白色粒子微量。	口縁1/3欠損欠損	新治産
7	ホゾカタ	須恵器	坏	(13.7)	3.5	(9.5)	49.7	底部は平底。体部は直線的に開く。浅い。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　7.5Y6/2灰オリーブ	白色粒子・鉄分の噴出し少量。	1/3	
8	No. 1・3	須恵器	坏	(12.8)	4.0	(8.2)	23.1	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内外面　5Y8/1灰白	黒色粒子やや多い。	口縁1/16体～底部1/4	
9	覆土	須恵器	坏	—	〈2.0〉	7.6	61.2	底部はやや上げ底気味の平底。体部下端は直線的に立つ。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　10Y5/1灰 外面　7.5Y6/1灰	黒色粒子やや多い。雲母・白色粒子微量。	底部4/5	新治産ヵ
10	No. 2	須恵器	蓋	15.8	2.7	ﾂﾏﾐ径7.2	223.9	天井は緩やかに内湾し端部に至る。返しは無い。ツマミは環状を呈する。内外面端部付近に沈線が一条巡る。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y5/2灰オリーブ 外面　7.5Y5/1灰	鉄分の噴出し・小～中礫多い。	ツマミ1/2欠損	ツマミ内ヘラ記号「＃」
11	覆土	須恵器	蓋	(17.7)	〈11.5〉	—	17.5	弓張り状を呈し、返しを有す。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　2.5Y7/1灰白	白色粒子・黒色粒子少量。	端部1/8	7世紀末～8世紀初頃
12	覆土	石製品	砥石	縦7.3	横4.5	厚さ1.2	69.0	横幅が1寸5分の砥石。凝灰岩製の砥石で、板状を呈する。流通砥石の可能性がある。断面形は長方形、上面は曲面になっており、鎌砥石として用いられている。						
13	No. 1	土製品	支脚	長さ18.7	幅10.5	厚さ6.5	1428.6	断面は円形を呈する。	不明。	二次焼成有り	外面　2.5Y8/2灰白	小～中礫・雲母やや多い。	完形	

41 号住居跡　（第 115・116・118・123 図，図版 58・59・103）

本遺構は D3-16･17 グリッドにおいて検出された。28 号住居跡を切る。大半が調査区外となるが、残存長軸(0.42)m、短軸 3.42m、主軸方位 N25°　W である。確認面からの深さは 54 cmで、覆土は 3 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁に付設され、両袖が遺存する。

遺物は土師器甕 1 点を掲載した。重複する遺構の時期から 8 世紀後半を上限とする遺構と推測される。

第 123 図　41 号住居跡出土遺物

表 61　41 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	(20.6)	〈8.0〉	—	52.3	胴部は張る。口縁は「C」の字に外反し口唇の摘上げは強い。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　5YR5/6明赤褐 外面　7.5YR5/4にぶい褐	長石・石英・金雲母多い。	口縁～肩部1/5	常総型甕

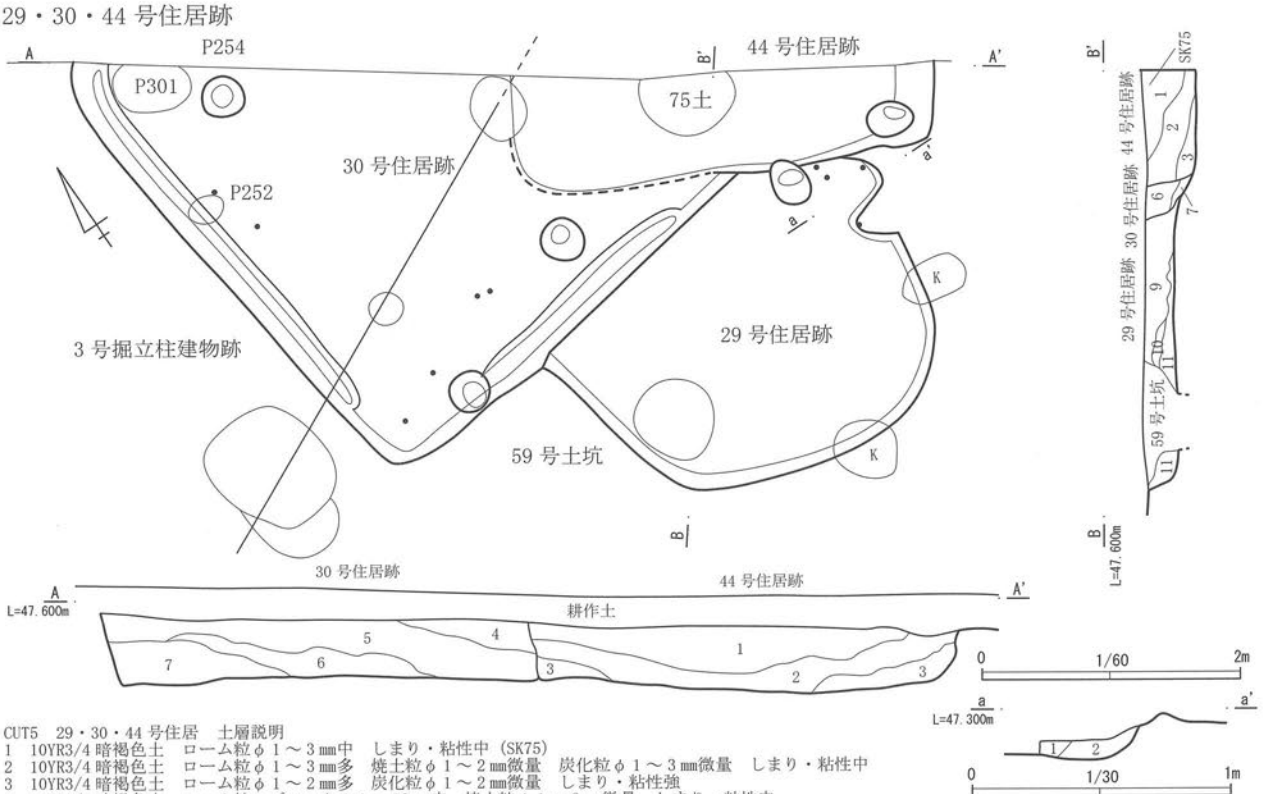
43 号住居跡　（第 115・116 図，図版 60）

本遺構は D3-16 グリッドにおいて検出された。28･42 号住居跡を切る。北半が調査区外となるが、残存長軸（1.92）m、短軸（1.92）m、確認面からの深さは 24 cmで、覆土は 3 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。

遺物は弥生土器・土師器・須恵器の小片で時期を特定出来ないが、重複する遺構の時期から 8 世紀後半を上限とする遺構と推測される。

29・30・44 号住居跡



CUT5　29・30・44 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中（SK75）
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜多　炭化粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜微量　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 2 ㎜中　しまり・粘性中
9　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒多　しまり・粘性中
10　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多　ロームブロックφ 4 ～ 20 ㎜少　しまり・粘性中

CUT5　29 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒微量　焼土粒φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜中　焼土粒φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化物粒φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性中

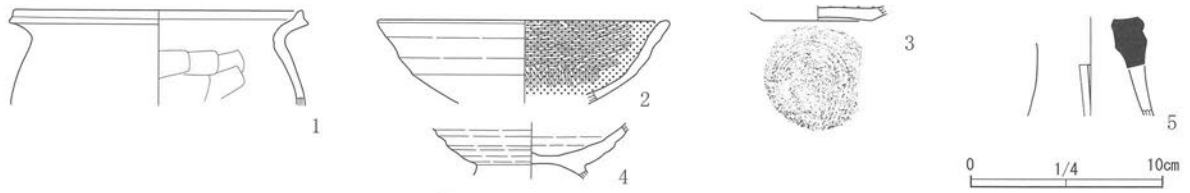
第 124 図　29・30・44 号住居跡

29 号住居跡　（第 124・125 図，図版 53・101）

本遺構は C3-15 グリッドにおいて検出された。59 号土坑、30・44 号住居跡に切られる。検出された範囲からは平面形が隅丸方形になると推測される。長軸 2.76m、短軸（2.22）m、主軸方位 N85°　E 確認面からの深さは 24 cmで、覆土は 3 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは東壁に設けられる。

遺物は土師器甕・坏類、須恵器高坏が出土した。内面黒色処理坏（2）は 9 世紀後半の特徴を有するため、遺構外遺物と推測される。重複する遺構の時期の 9 世紀前半を下限とする古代の遺構と推測される。



第 125 図　29 号住居跡出土遺物

表 62　29 号住居跡遺物観察表

cm, g

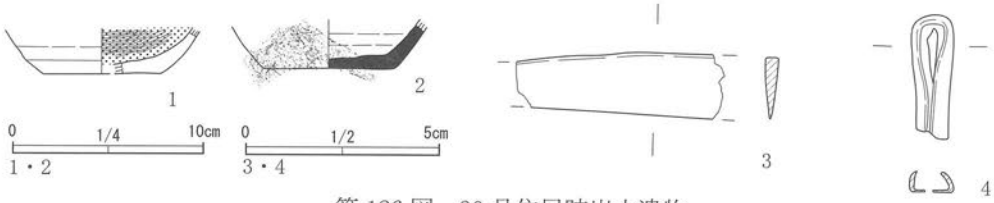
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	甕	(14.8)	〈5.0〉	—	61.2	胴部は張るか。口縁は「C」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ、胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成?!	内面　5Y2/2オリーブ黒 外面　7.5Y5/4にぶい褐	雲母・白色針状物質微量。	口縁～肩部1/4	
2	覆土	土師器	坏	14.7	〈4.35〉	—	50.5	体部は緩やかに内湾した後外反肥厚する。	ロクロ整形。外面下半は回転ヘラケズリ、内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質少量。雲母微量。	口縁～体部1/4	内面黒色処理
3	覆土	土師器	坏	—	〈0.8〉	5.7	32.5	底部はやや上げ底気味の平底。	ロクロ整形。底部内面はミガキ、外面は回転糸切り。	良好	内面　10YR3/1黒褐 外面　2.5Y4/2暗灰黄	白色粒子・雲母やや多い。	底部7/8	内面黒色処理
4	覆土	土師器	高台付坏	—	〈3.0〉	—	45.9	体部は緩やかに内湾し、高台は大きく開く。口縁・畳付部分欠損。	ロクロ整形。	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母・黒色粒子少量。	坏部1/2 口縁・高台畳付欠損	
5	覆土	須恵器	高坏	—	〈5.2〉	—	34.1	脚柱は外反気味に開く。	ロクロ整形。4 方透かし。	良好	内面　2.5Y5/3黄褐 外面　5Y5/1灰	白色粒子やや多い。鉄分の噴出し微量。	脚柱部1/4	

30 号住居跡　（第 124・126 図，図版 53・101）

本遺構は C3-15 グリッドにおいて検出された。29 号住居跡を切り、P252・254・301・44 号住居跡に切られる。北部は調査区外となるが、平面形は方形となると推測される。残存長軸（4.20）m、短軸（3.60）m 主軸方位 N7°　W である。確認面からの深さは 48 cmで、覆土は 4 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。ピットは 3 基検出されたが、柱穴となるかは不明である。周溝は南西隅を除き調査区内では全周する。硬化面は検出されていない。

遺物は土師器坏、須恵器坏、鉄製品が出土した。遺物から遺構は 9 世紀前半と判断される。



第 126 図　30 号住居跡出土遺物

表 63　30 号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	土師器	坏	—	〈2.4〉	(6.2)	31.9	底部は平底。体部下半は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y5/2暗灰黄	白色針状物質やや多い。雲母少量。	底部1/5	内面黒色処理
2	覆土	須恵器	坏	—	〈2.6〉	(6.6)	45.3	底部は平底。体部下半は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後回転ヘラケズリ。	良好	内面　2.5Y7/2灰黄 外面　5Y7/2灰白	小～中礫・石英やや多い。	底部1/2	側面ヘラ記号「＋」
3	覆土	鉄製品	鎌	縦〈5.5〉	横1.75	厚さ0.4	重量16.1	基部及び先端が欠損している。断面形は上端が厚く下端が薄く刃になる。僅かに湾曲する事から鎌としたが刀子の可能性もある。						
4	覆土	銅製品	不明	縦3.2	横1.1	厚さ0.5	重量6.4	板状の銅板をL字に折り曲げたもので、本製品に付される飾り金具か、二つに折り曲げられている。						

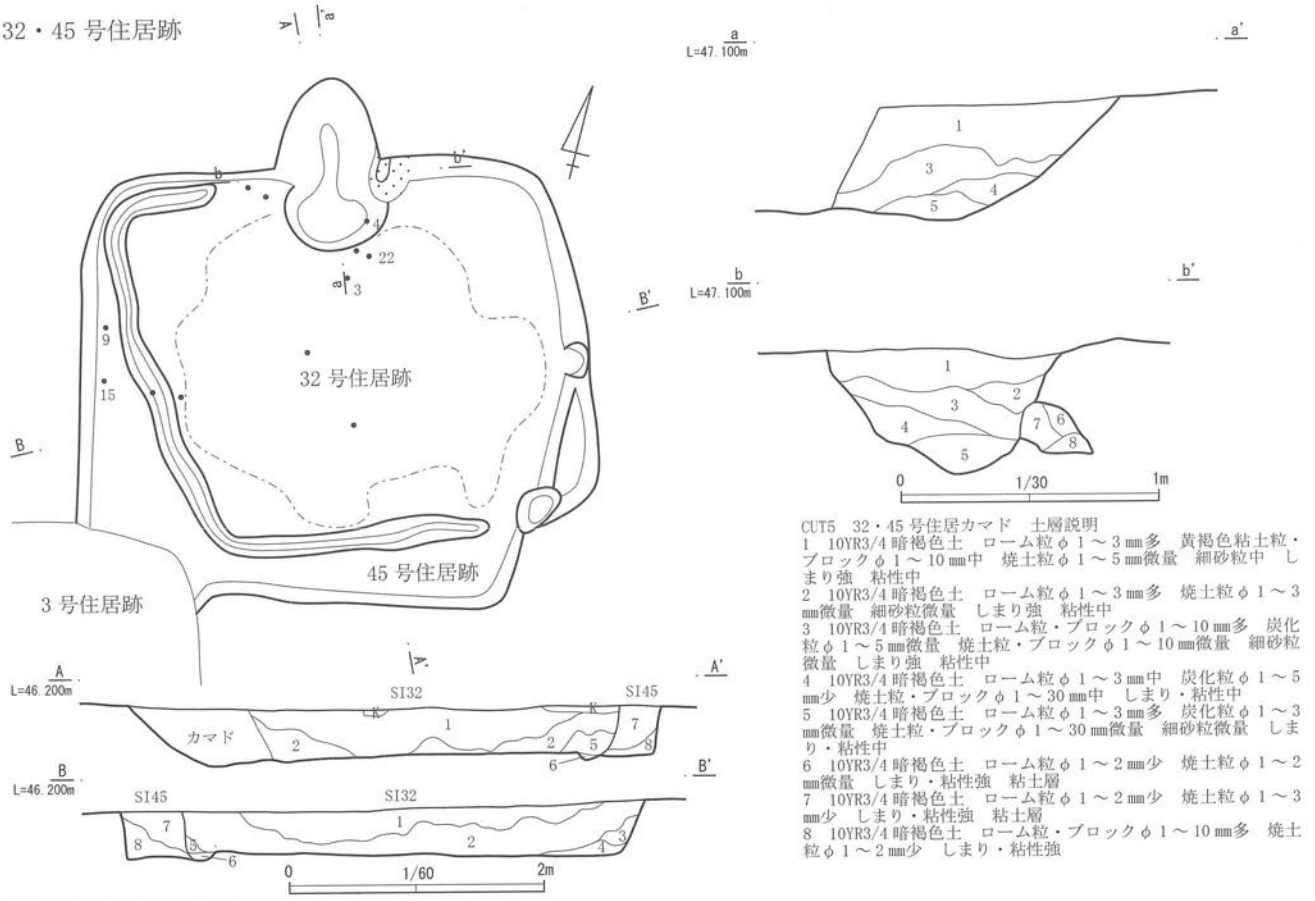
44 号住居跡　（第 124 図，図版 53）

本遺構は C3-15 グリッドにおいて検出された。29・30 号住居跡を切り、3 号掘立柱建物跡・75 号土坑に切られる。大半が調査区外となるが、平面形は方形となると推測される。残存長軸（3.30）m、短軸（0.78）m、主軸方位不明である。確認面からの深さは 48 cmで、覆土は 3 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは検出されていない。ピットは検出されなかった。周溝・硬化面は検出されていない。

遺物は出土していないが、重複する遺構の時期から上限は 9 世紀前半と判断される。

32・45 号住居跡



CUT5　32・45 号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　黄褐色粘土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　細砂粒中　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　細砂粒微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　細砂粒微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜中　しまり・粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜微量　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜微量　細砂粒微量　しまり・粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり・粘性強　粘土層
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり・粘性強　粘土層
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり・粘性強

CUT5　32・45 号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　ロームブロック φ 4 ～ 10 ㎜微量　焼土粒 φ 1 ～ 5 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　ロームブロック φ 6 ～ 30 ㎜少　焼土粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒 1 ～ 2 ㎜微量　炭化粒 φ 1 ～ 6 ㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　焼土粒 φ 1 ～ 3 ㎜少　炭化粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 8 ㎜中　焼土粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 3 少　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜中　焼土粒 1 ～ 4 ㎜少　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
7　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜少　しまり強　粘性中
8　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　炭化粒 φ 1 ～ 2 ㎜微量　しまり強　粘性中

第 127 図　32・45 号住居跡

32 号住居跡　（第 127・128 図，図版 54・55・101）

本遺構は C3-24 グリッドにおいて検出された。45 号住居跡を切る。平面形はやや菱形となる方形で長軸 3.12m、短軸 3.42m、主軸方位 N20° W である。確認面からの深さは 36 cmで、覆土は 6 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設されるが、右袖が僅かに残るのみである。ピットは検出されず、周溝は西半にしか確認されなかった。硬化面は住居中央に広く分布する。

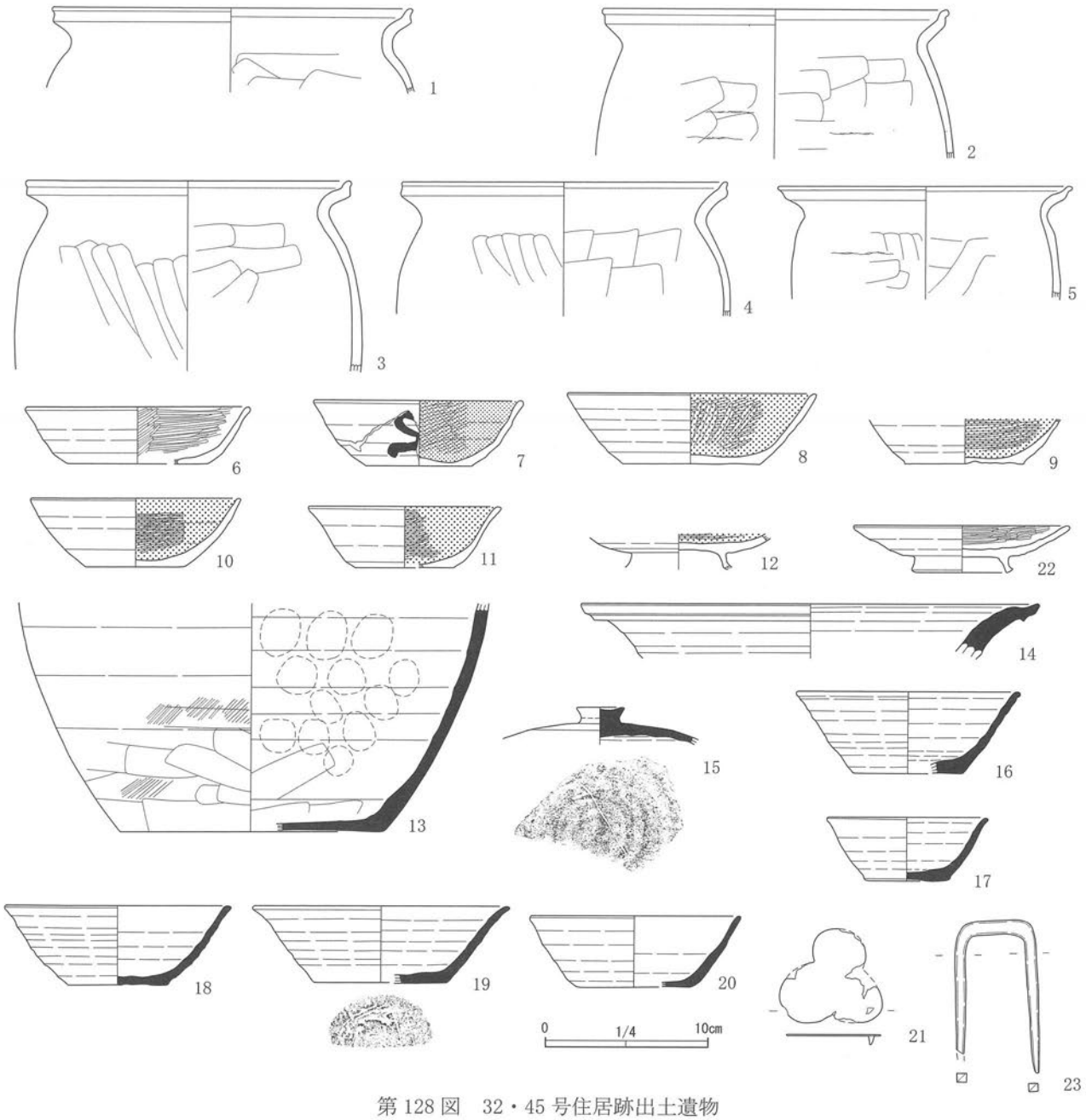
遺物は土師器甕・坏、須恵器甕・蓋・坏類・鉄製品が出土した。45 号住居との重複のため、遺物を一括掲載した。このうち掘方より出土した土師器甕（1・5）、須恵器坏（19）、覆土出土の土師器坏（6）については 45 号住居跡の遺物で、9 世紀前半の特徴を有する。その他の遺物は 9 世紀中～後半の時期と考えられ、遺構の時期も同様と判断される。

45 号住居跡 （第 127・128 図，図版 54・55・101）

本遺構はC3-24 グリッドにおいて検出された。32 号住居跡に切られる。平面形は東壁が膨らむ不整方形で長軸 3.36m、短軸 3.78m、主軸方位 N5° W である。確認面からの深さは 36 ㎝で、覆土は 2 層に分層される。

カマドは検出されておらず、32 号住居跡のカマドにより削平された可能性も考えられる。ピット・周溝・硬化面は検出されなかった。

遺物は土師器甕・坏、須恵器坏が出土した。32 号住居との重複のため、遺物を一括掲載した。このうち掘方より出土した土師器甕（1・5）、須恵器坏（19）、覆土出土の土師器坏（6）については 45 号住居跡の遺物である。遺物から 9 世紀前半の遺構と判断される。



第 128 図　32・45 号住居跡出土遺物

表 64　32・45 号住居跡遺物観察表

(cm, g)

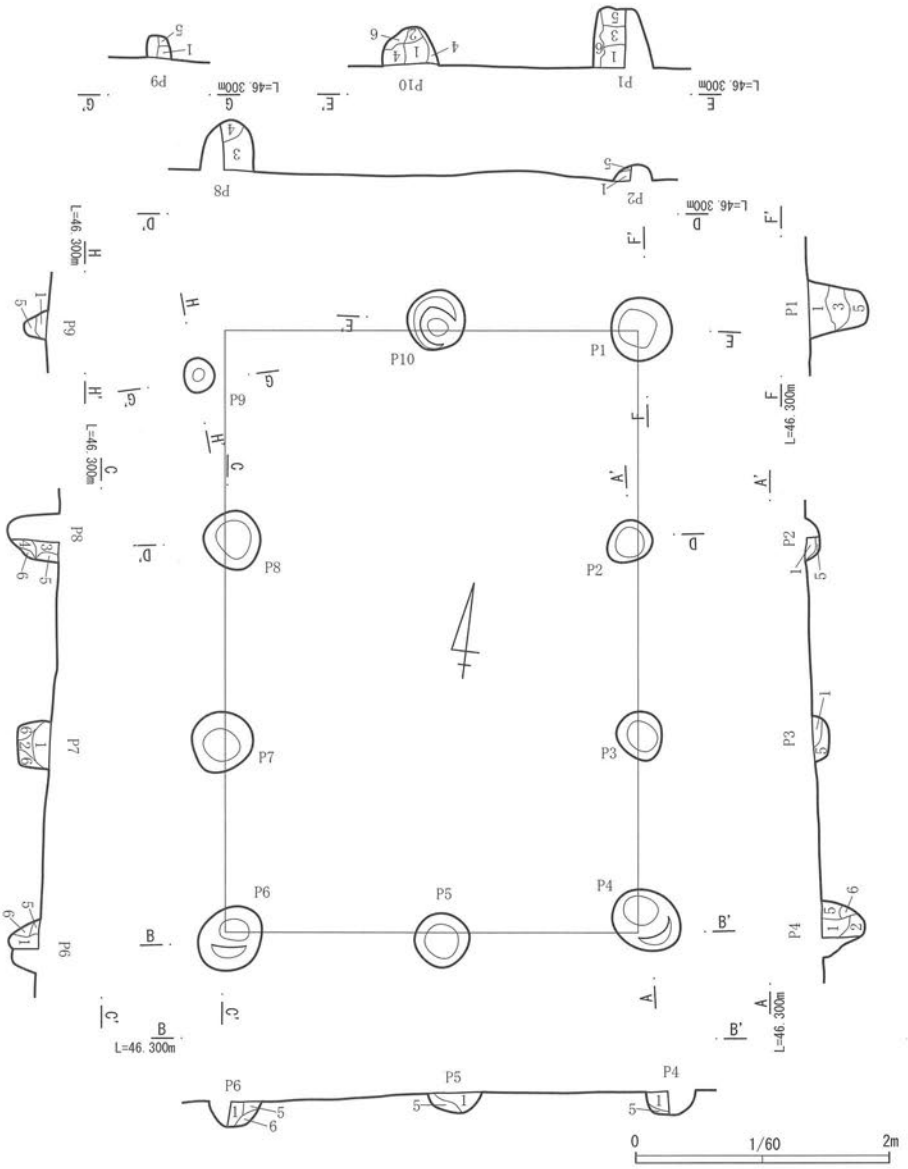
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾘｶﾀ	土師器	甕	(21.8)	<5.2>	—	113.0	胴部はやや張る。口縁は「C」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　7.5YR5/4にぶい褐 外面　5YR4/4にぶい黄褐	白色粒子やや多い。雲母・黒色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁1/3	常総型甕
2	ｶﾘｶﾀ 貯蔵穴	土師器	甕	(20.7)	<9.2>	—	88.0	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR3/2黒褐 外面　10YR4/2灰黄褐	白色粒子・雲母やや多い。白色針状物質微量。	口縁1/8 肩部1/4	常総型甕
3	No. 3	土師器	甕	(19.5)	<11.8>	—	163.5	胴部の張りは弱い。口縁は「C」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　7.5YR5/4にぶい褐	白色粒子・雲母やや多い。黒色粒子・スコリア少量。	口縁～胴部1/5	常総型甕
4	ｶﾏﾄﾞ No. 1	土師器	甕	(19.8)	<8.3>	—	124.7	胴部はやや張る。口縁は「く」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内面ヘラナデ、外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　7.5YR6/6橙	白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～肩部1/3	常総型甕
5	ｶﾘｶﾀ	土師器	甕	(17.7)	<7.0>	—	33.1	胴部の張りは弱い。口縁は「C」の字に外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR1/3にぶい黄褐 外面　7.5YR6/6橙	白色粒子・雲母少量。スコリア微量。	口縁～肩部1/8	常総型甕
6	覆土	土師器	坏	(13.6)	<3.5>	(8.6)	24.5	底部は平底。体部は緩やかに内湾し口縁は僅かに外反する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	内面　5YR6/6橙 外面　7.5Y5/4にぶい褐	白色粒子・雲母・白色針状物質少量。	1/5	
7	覆土	土師器	坏	(12.4)	4.1	6.5	73.8	底部は平底。体部は緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	内面　7.5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	雲母・白色針状物質・白色粒子やや多い。スコリア微量。	口縁～体部1/2　底部3/4	内面黒色処理 体部外面墨書
8	覆土	土師器	坏	(14.8)	4.35	8..3	65.0	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	内面　10Y2/1黒 外面　10YR4/3にぶい黄褐	白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁～体部1/4　底部1/2	内面黒色処理
9	No. 12	土師器	坏	—	<2.8>	7.35	93.4	底部は平底。体部下半はは緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　2.5Y6/4にぶい黄	雲母・白色針状物質・白色粒子やや多い。スコリア微量。	体下半～底部完形	内面黒色処理
10	覆土	土師器	坏	12.8	4.3	6.0	102.9	底部は平底。体部下半はは緩やかに内湾し口縁に至る。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　2.5Y3/2黒褐 外面　2.5Y4/2暗灰黄	雲母・白色針状物質やや多い。スコリア微量。	口縁～体部1/3　底部完形	内面黒色処理
11	覆土	土師器	坏	(11.5)	3.75	6.0	15.6	底部は平底。体部は緩やかに内湾し口縁は外反肥厚する。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子・雲母・白色針状物質少量。	口縁1/16 体～底部1/4	内面黒色処理
12	覆土	土師器	高台付坏	—	<2.35>	—	58.9	高台は「ハ」の字に付される。見込みは平坦で、体部下端は緩やかに内湾する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。体部下端は回転ヘラケズリ。内面はミガキ。	良好	内面　5Y2/1黒 外面　10YR4/3にぶい黄褐	雲母・白色針状物質・白色粒子やや多い。スコリア少量。	底部4/5	内面黒色処理
13	覆土	須恵器	甕	—	<14.1>	(16.2)	497.5	バケツ形ヵ。底部はやや上げ底気味の平底。胴部は僅かに内湾しながら開く。	回転台使用。胴部下半ヘラケズリ後僅かに平行叩きが観察される。内面当て具痕。	還元不良	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR5/3にぶい黄褐	黒色粒子・小～中礫やや多い。金雲母・白色粒子少量。	底部2/3	
14	覆土	須恵器	甕	(27.7)	<3.4>	—	49.4	大きく外反する口縁部の資料。口唇は折り返した後摘み上げられる。折り返した端部は突線状にシャープに尖る。	回転台使用。	良好	内面　5Y7/1灰白 外面　5Y7/2灰白	黒色粒子・石英やや多い。	口縁1/8	
15	No. 11	須恵器	蓋	—	<2.3>	ﾂﾏﾐ径2.7	64.5	天井は緩やかに内湾する。縁～端部欠損。ツマミはやや扁平な擬宝珠状を呈する。	ロクロ整形。天井に狭く回転ヘラケズリが廻る。	還元不良	内面　5Y5/1灰 外面　5Y6/1灰	小～大礫・白色粒子少量。鉄分の噴出し・白色針状物質微量。	天井部2/3	天井内面にヘラ記号
16	覆土	須恵器	坏	(13.3)	5.0	(6.5)	47.5	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。底部の調整は不明。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　7.5Y6/2灰オリーブ	小～中礫多量混入。	口縁1/2 体～底部1/10	
17	覆土	須恵器	坏	(9.5)	<3.9>	(5.0)	48.2	底部はやや上げ底気味の平底で僅かに突出している。体部は緩やかに内湾した後口縁で短く外反する。小振りな坏である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内外面　5Y5/1灰	小～中礫やや多く混入。白色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～底部1/3	
18	覆土	須恵器	坏	13.7	4.9	6.2	139.5	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内外面　5Y7/2灰白	黒色粒子やや多い。小～中礫少量。雲母微量。	口縁～体部1/4欠損	
19	ｶﾘｶﾀ	須恵器	坏	15.4	4.7	8.0	83.9	底部は平底。体部は直線的に開いた後緩やかに外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内外面　2.5Y7/2灰黄	黒色粒子・石英やや多い。小～中礫少量。	口縁～底部1/4	ヘラ記号
20	覆土	須恵器	坏	(12.6)	4.4	7.0	53.3	底部は平底。体部は緩やかに内湾した後上半で器壁になり直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	良好	内面　2.5Y7/3浅黄 外面　2.5Y6/3にぶい黄	黒色粒子・金雲母少量。鉄分の噴出し微量。	口縁～底部1/3	
21		鉄製品	飾金具	縦5.8　横6.3		厚さ0.1	重量12	薄い鉄板をカタバミ状に連結し一部にリベット状の目釘が観察される。不明飾り金具とした。						
22	No. 1	土師器	皿	(13.0)	2.85	6.2	105.4	高台は「ハ」の字に付される。見込みは平坦で体部は直線的に大きく開く。登付部分に刻みを有す。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラ切りが施されている。	良好	内面　2.5Y3/1黒褐 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色針状物質・白色粒子やや多い。金雲母少量。	口縁1/2欠損	内面黒色処理
23		鉄製品	鏃ヵ	全長9.3	幅0.6	厚さ0.5	重量35.8	断面が方形の鉄製品で、縦に長い「コ」の字状に折り曲げられている。先端部には細く尖る。鏃の可能性もある。						

第2項　掘立柱建物跡　（第129図，図版61・62・63）

1号掘立柱建物跡

本遺構はC4-8グリッドにおいて検出された。主軸方位N6.5°　Wである。南北棟の3×2の側柱建物で、桁行の柱間は1.38～1.68m、梁行の柱間は1.68～1.98mである。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径27～54cm、深さ18～48cmである。P1・6は柱痕が確認された。

遺物は土師器・須恵器・弥生土器の小片が出土した。



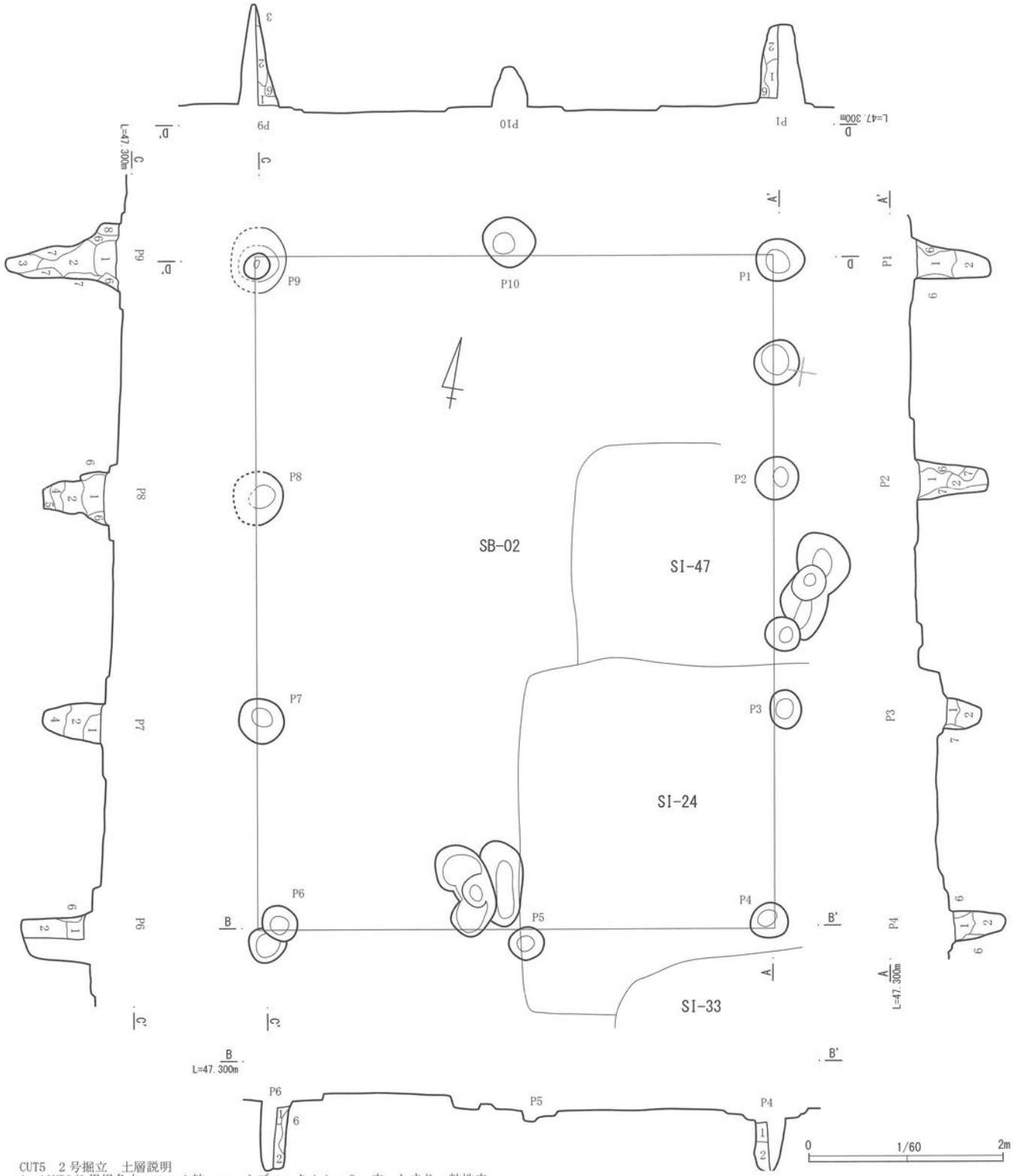
CUT5　1号掘立　土層説明
1　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ1～5㎜多　しまり・粘性中
2　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ1～10㎜多　しまり・粘性中
3　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ1～2㎜中　しまり・粘性中
4　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ1～3㎜多　しまり・粘性中
5　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ3～20㎜多　しまり・粘性中
6　10YR3/3暗褐色土　ローム粒・ロームブロックφ1～5㎜極多　φ5～30㎜中　しまり・粘性中

第129図　1号掘立柱建物跡

2 号掘立柱建物跡　(第 130 図, 図版 63・64)

本遺構は C3-20･25、D3-21 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N9.5° W である。南北棟の 3 × 2 の側柱建物で、桁行の柱間は 2.28 ～ 2.52m、梁行の柱間は 2.52 ～ 2.70m である。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径 48 ～ 60 cm、深さ 12 ～ 108 cmである。柱痕は確認されなかった。

遺物は土師器・須恵器・弥生土器などの小片が出土した。



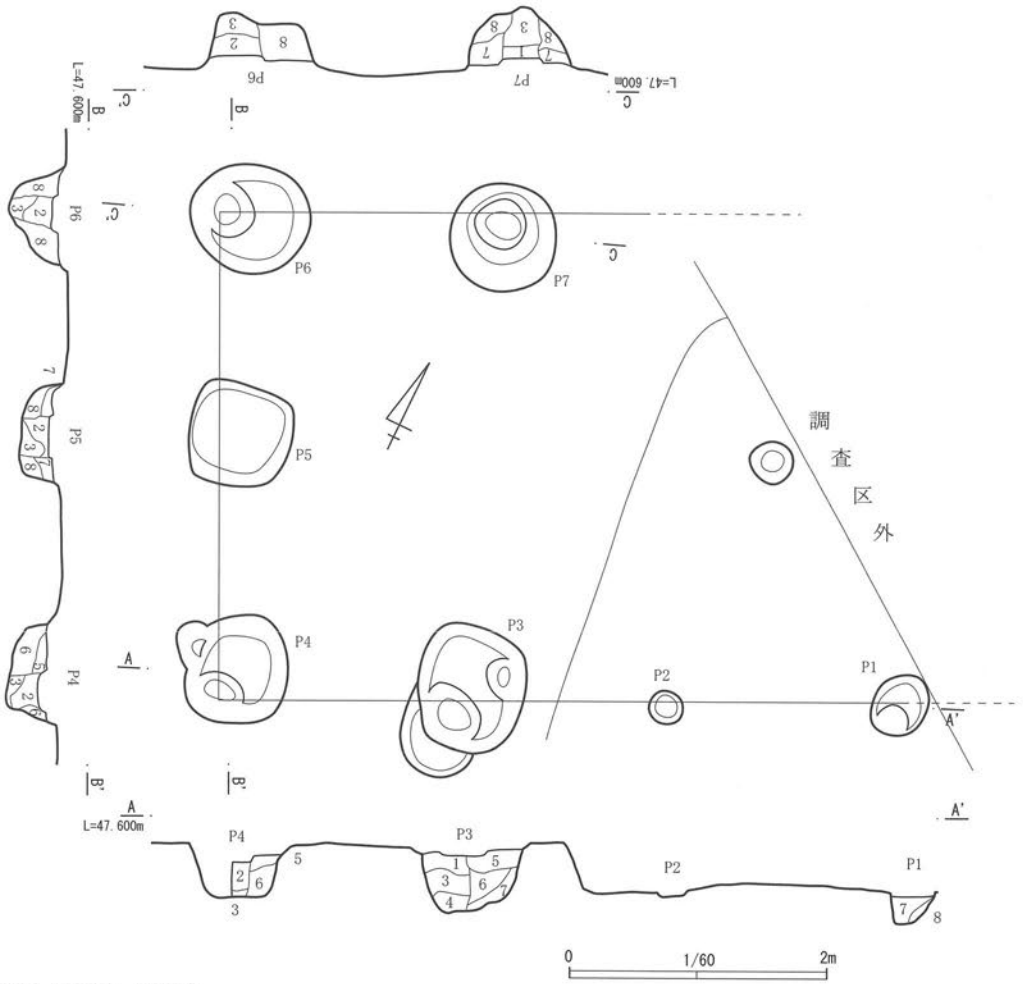
CUT5　2 号掘立　土層説明
1　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中
2　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 2 ㎜極微　しまり・粘性中
3　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 5 ㎜微　しまり・粘性中
4　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 3 ㎜多　しまり・粘性中
5　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 10 ㎜極多　しまり・粘性中
6　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 30 ㎜極多　しまり・粘性中
7　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 3 ㎜極多　φ 3 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
8　10YR4/6 褐色土　ローム粒・ロームブロックφ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中

第 130 図　2 号掘立柱建物跡

3 号掘立柱建物跡　（第 131 図，図版 65・67）

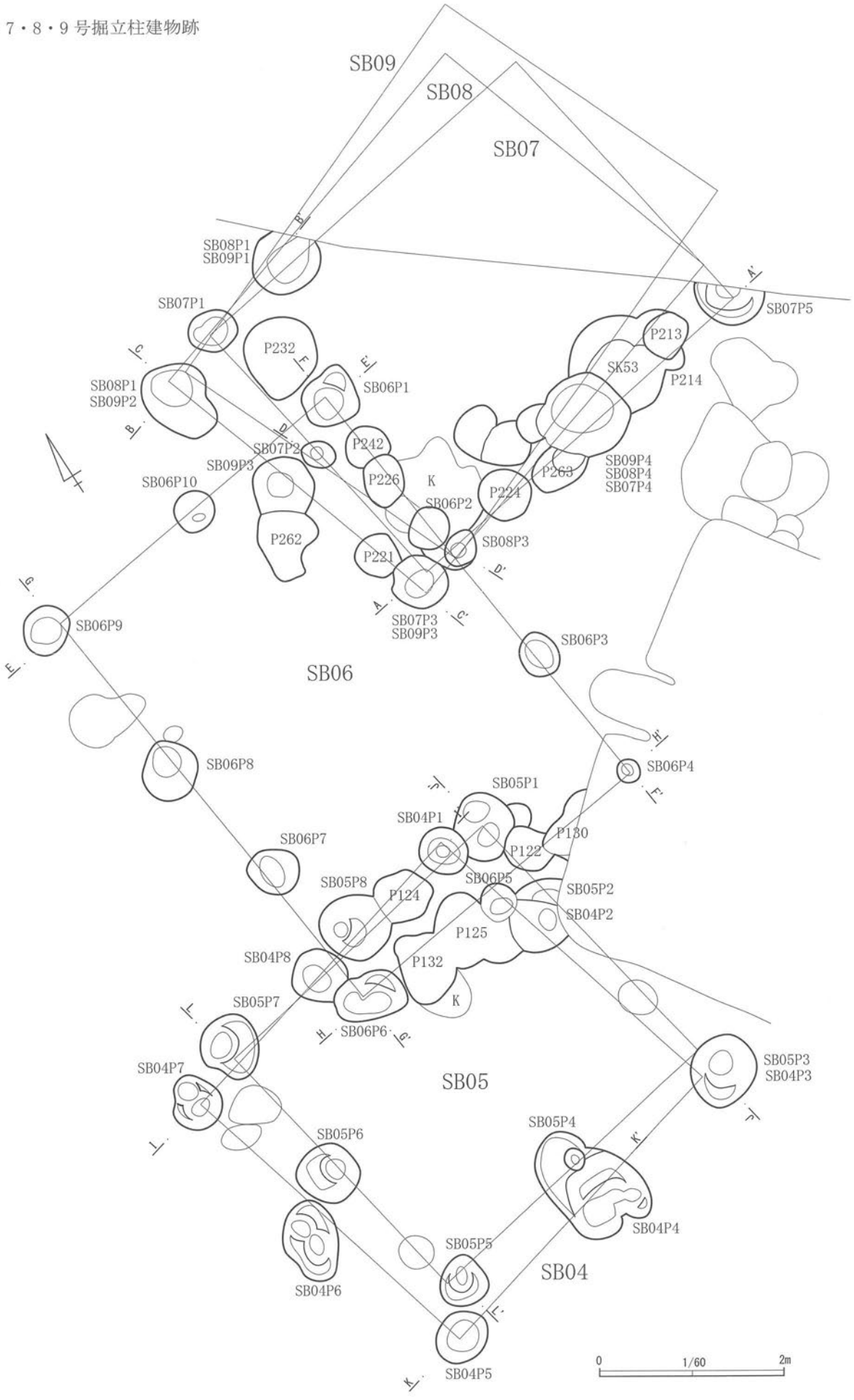
本遺構は C3-15 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N65°　E である。30・44 号住居跡を切る。東西棟の 3 間以上×2 の側柱建物で、桁行の柱間は 1.62 ～ 1.80m、梁行の柱間は 1.92m である。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、規模は長径 54 ～ 96 cm、深さ 6 ～ 54 cmである。P4 ～ 7 に柱痕が確認された。

遺物は土師器・弥生土器などの小片が出土した。

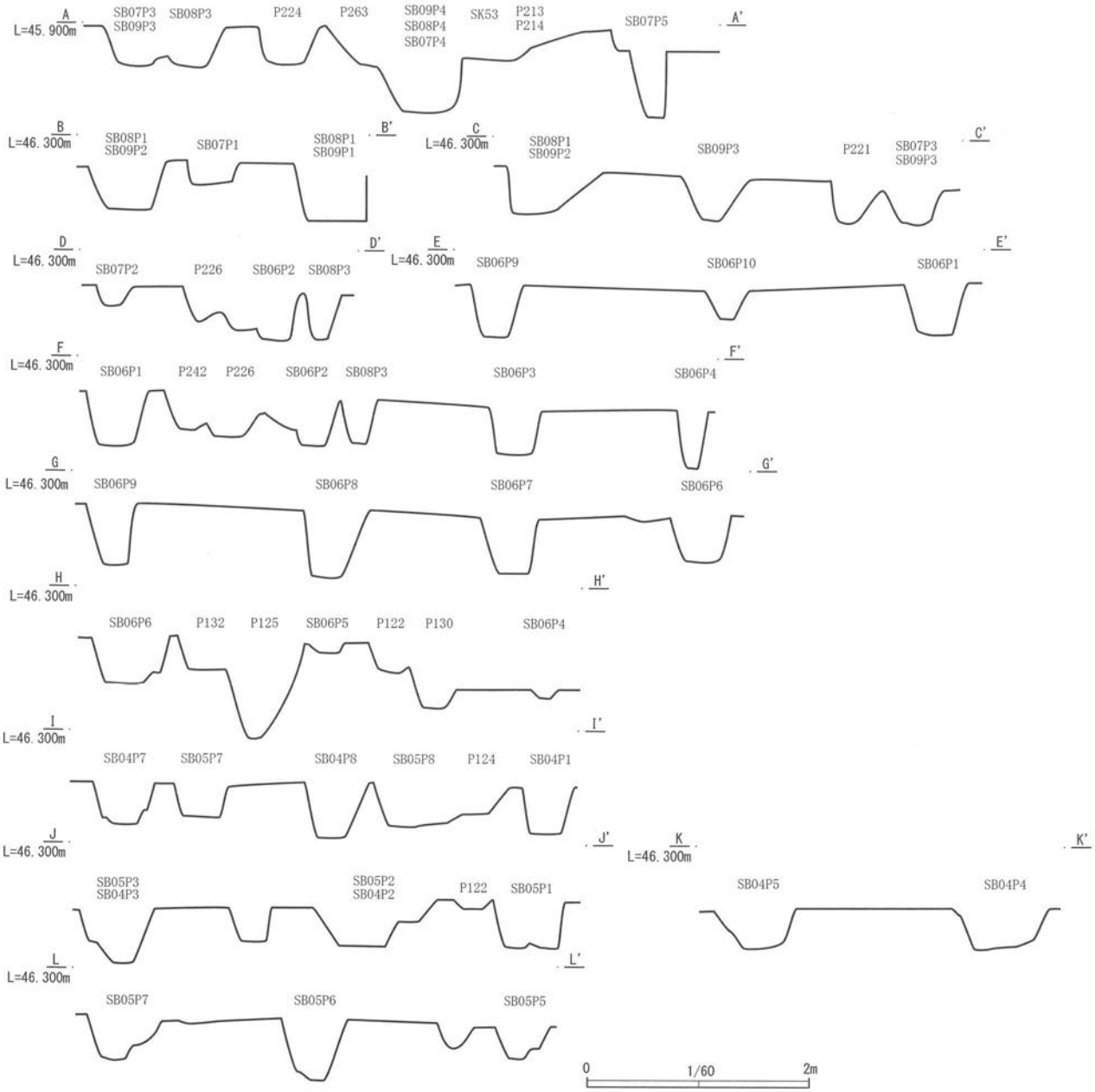


CUT5　3 号掘立　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　ロームブロック φ 5 ～ 10 ㎜中　しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜多　しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 10 ㎜少　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 20 ㎜多　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 3 ㎜中　しまり・粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜中　しまり・粘性中
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒 φ 1 ～ 5 ㎜多　しまり・粘性中
8　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロック φ 1 ～ 30 ㎜多　しまり・粘性中

第 131 図　3 号掘立柱建物跡



第 132 図　4・5・6・7・8・9 号掘立柱建物跡（1）



第 133 図　4・5・6・7・8・9 号掘立柱建物跡（2）

4 号掘立柱建物跡　（第 132・133 図，図版 65）

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N15°　W である。2 × 2 の側柱建物で、柱間は 1.92 ～ 2.10m である。柱穴の平面形は円形または不整楕円形で、規模は長径 66 ～ 90 cm、深さ 30 ～ 54 cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

5 号掘立柱建物跡　（第 132・133 図，図版 65）

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N11°　W である。2 × 2 の側柱建物で、柱間は 1.92 ～ 2.10m である。柱穴の平面形は円形または不整楕円形で、規模は長径 66 ～ 90 cm、深さ 30 ～ 54 cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

6 号掘立柱建物跡　（第 132・133 図，図版 66）

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N7°　W である。南北棟の 3 × 2 の側柱建物で、柱間は 1.62 ～ 1.92m である。柱穴の平面形は円形または楕円形で、規模は長径 30 ～ 78 cm、深さ 12 ～ 60 cmである。

柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

7 号掘立柱建物跡　(第 132・133 図，図版 66)

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N11°　W である。東西棟で 2 間以上× 2 の側柱建物で、柱間は 1.62 ～ 2.40m である。柱穴の平面形は円形または不整円形で、規模は長径 36 ～ 90 cm、深さ 18 ～ 60 cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

8 号掘立柱建物跡　(第 132・133 図，図版 66)

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N18°　W である。東西棟で 2 間以上× 2 の側柱建物で、柱間は 1.92 ～ 2.10m である。柱穴の平面形は円形または不整円形で、規模は長径 48 ～ 90 cm、深さ 48 ～ 102 cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

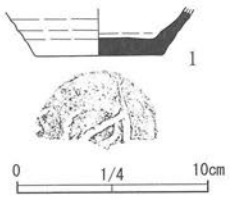
9 号掘立柱建物跡　(第 132・133 図，図版 66)

本遺構は C4-10、D4-6 グリッドにおいて検出された。主軸方位 N23°　W である。東西棟で 2 間以上× 2 の側柱建物で、柱間は 1.80 ～ 2.40m である。柱穴の平面形は円形または不整楕円形で、規模は長径 48 ～ 90 cm、深さ 36 ～ 102 cmである。柱痕は確認されなかった。遺物は出土しなかった。

第 3 項　土坑　(第 134・135・136 図，図版 67・68・69・103)

SK01・02 は D4-11 グリッドに位置し、重複しているが新旧関係は不明である。SK09 は C3-19 グリッド、SK19 は C3-25 に位置する。

遺物はいずれも奈良・平安時代に属する。

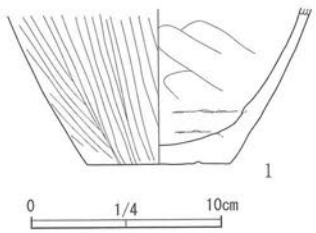


第 134 図　1・2 号土坑出土遺物

表 65　1・2 号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		須恵器	坏	—	〈2.5〉	6.6	48.0	底部は平底。体部下半は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	還元不良	内面　2.5Y7/4浅黄 外面　10YR5/4にぶい黄褐	黒色粒子少量。スコリア・石英・白色針状物質微量。	底部1/2	底部ヘラ記号

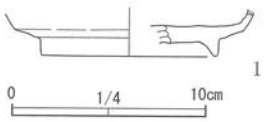


第 135 図　9 号土坑出土遺物

表 66　9 号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	土師器	甕	—	〈8.2〉	7.5	410.1	底部は平底。胴部下半は直線的に開く。	底部に棒状の沈線有り。胴部下半外面はミガキ、内面はナデ。	良好 二次焼成?!	内面　7.5YR5/4 にぶい褐 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	小〜中礫(石英・長石)やや多い。雲母少量。	胴下半〜底部	ｶﾏﾄﾞ砂付着 常総型甕



第 136 図　19 号土坑出土遺物

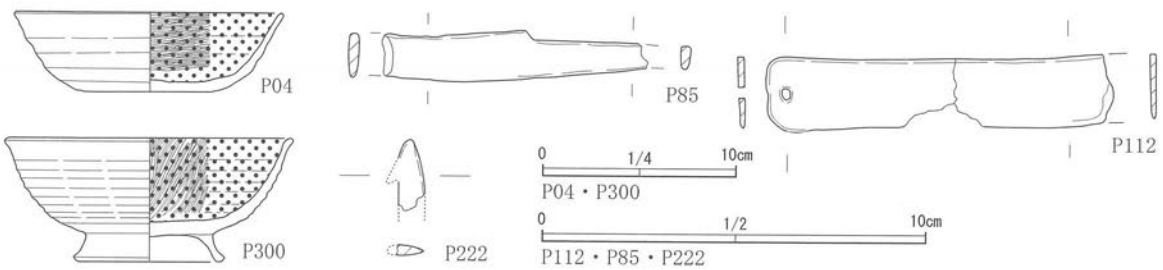
表 67　19 号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		須恵器	高台付坏	—	〈2.6〉	(9.0)	63.7	高台は「ハ」の字に付される。見込みは平坦で体部下端で屈曲する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	還元不良	内外面 7.5YR7/6橙	小〜中礫(石英・長石)やや多い。スコリア少量。	底部1/2	

第 4 項　ピット　(第 137 図，図版 69・70・71・103)

P04・85・112・222・300 からは遺物が出土した。詳細は観察表に記した。



第 137 図　ピット出土遺物

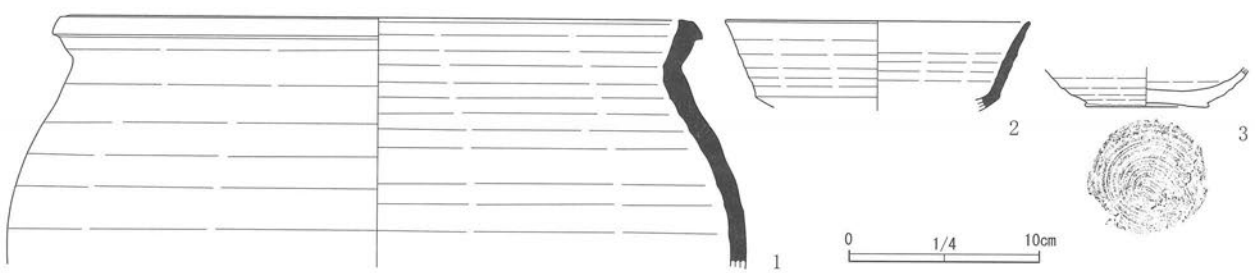
表 68　ピット遺物観察表

cm, g

CUT1 遺構	報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
P-4	1	P4	土師器	坏	13.8	4.2	6.5	100.6	底部は平底で見込みで緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。体部下半には回転ヘラケズリが観察される。内面はミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　2.5Y6/4にぶい黄	小〜中礫(石英・長石)やや多い。雲母少量。	口縁〜体部1/4　底部完形	内面黒色処理
P-85	1		鉄製品	刀子	残存長〈7.0〉　幅1.2　厚さ0.25　重量8.9				切先及び茎部は折損している。刃部側は研ぎだしによるものか、関が消滅して、片関状になっている。本来は両関つくりであろう。						
P-112	1		鉄製品	穂摘具	残存長〈9.4〉　幅1.9　厚さ0.2　重量9.5				隅丸の長方形状の鉄板で、左側端部に孔が穿たれる。断面は上下両端共に薄く扁平である。						
P-222	1		鉄製品	鏃	残存長〈1.9〉　残存幅〈0.7〉　厚さ0.2　重量5.1				鏃身部の破片ヵ。先端部は尖る。						
P-300	1	b	土師器	高台坏付	(14.4)	6.65	7.3	145.0	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部は緩やかに内湾した後、口縁で僅かに外傾する。	ロクロ整形。内面ミガキ。	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　7.5YR6/6橙		口縁〜体部1/3　高台部1/2	内面黒色処理

第 5 項　遺構外出土遺物　(第 138 図，図版 103)

遺構外の遺物は須恵器甕・高台付坏を掲載した。8 世紀後半〜9 世紀前半の時期のものと見られる。



第 138 図　遺構外出土遺物

表 69　CUT5 遺構外遺物観察表

(cm, g)

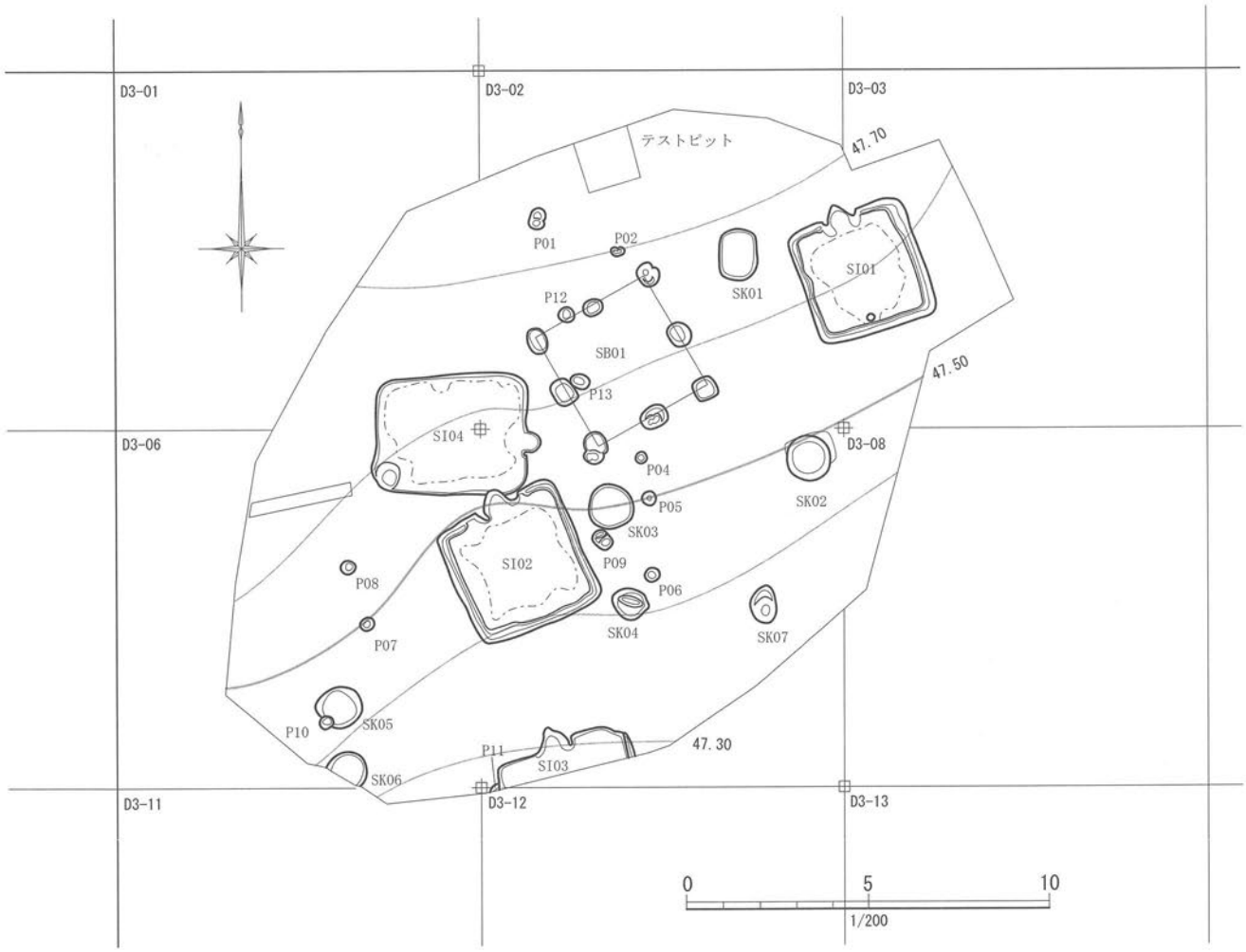
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		須恵器	甕	(23.0)	(13.1)	—	471.7	大形の甕である。胴部の張りはやや強く、口縁は「く」の字に屈曲し折り返した後摘み上げられる。折り返した端部は突線状にシャープに尖る。	回転台使用か。	良好	内面　5Y7/2灰白 外面　5Y7/1灰白	黒色粒子・石英やや多い。	口縁～肩部1/4	
2		須恵器	高台付坏	(15.8)	(4.7)	—	33.6	体部下端で屈曲した後やや外反気味に開く。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y4/1灰 外面　2.5Y5/2暗灰黄	小～中礫(石英・長石)やや多い。白色粒子少量。鉄分の噴出と微量。	口縁～体部1/4	
3	覆土	土師器	坏	—	(2.1)	6.1	69.2	底部は平底で僅かに突出する。体部下端は緩やかに内湾する。体部を打ち欠き擬口縁とし、灯明皿として転用。	ロクロ整形。底部は回転糸切り。左回転。	良好	内外面　10YR7/4にぶい黄橙	黒色粒子・雲母・白色針状物質微量。	体部下端～底部	灯明皿として転用

第3章　まとめ

本区に於いて縄文時代の遺構は検出されていないが、土器・石器が出土している。本調査区での弥生時代後期の遺構は 42 号住居跡であるが、遺構の重複が激しく、全容を捉えることが出来なかった。古墳時代に入ると、十王台式直後の 4 世紀後半の 18・21 号住居跡が検出された。ついで 5 世紀になると 33 号住居跡、5 世紀前～中葉の 36 号住居跡が現れる。奈良・平安時代になって、8 世紀中葉から住居は急増し、8 世紀後半～ 9 世紀後半が集落のピークと見られる。この調査区での最大の特徴は住居の建替えや拡張の例が 9 例にも及ぶことである。継続的に集落が営まれたと推測される。

表 70　CUT5 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模 長径×短径×深さ (cm)	備考
SK01	D4-11	120×100×40	>SI36
SK02	D4-11	140×(40)×34	
SK03	D4-6	80×(40)×38	
SK06	C4-14	71.4×60.9×41	>SI09
SK07	C4-14	58.9×48.0×13	>SI09
SK08	C4-19	84.0×78.1×21	>SI08
SK09	C3-19	118.6×113.2×29	
SK10	C3-24	108.3×90.0×30	
SK11	C3-20	107.0×101.1×20	
SK12	C3-20	57.6×43.5×24	
SK15	C3-20	116.4×114.1×21	
SK18	D3-16	112.0×104.9×32	
SK19	C3-25	114.7×104.7×14	
SK20	D3-16	109.4×(88.8)×23	>SI27
SK21	C4-10	114.1×100.2×36	
SK25	C3-15	74.1×68.2×10	
SK26	C3-20	79.0×62.6×10	
SK27	C3-20	58.8×55.2×14	
SK30	C3-19・	116.4×111.7×10	
SK31	C3-19	102.3×99.9×11	
SK34	C4-9	115.8×115.2×21	
SK35	C4-9	78.2×(49.2)×38	
SK39	C4-15	69.2×65.5×23	
SK40	C4-15	92.2×72.3×20	
SK41	C4-14	81.8×67.8×55	
SK43	C4-15	112.7×93.9×44	
SK44	C4-15	84.4×(61.8)×30	
SK45	C4-15	114×111×34	
SK52	D4-11	110×(64.2)×26	
SK59	C3-15	63.9×62.1×25	>SI29
SK61	C4-15	86.2×(55.8)×23	<SK45, P265
SK63	C4-3	100.6×69.1×20	
SK64	C4-8	58.8×48.2×43	
SK65	C4-8	72.5×62.3×35	
SK66	D4-11	73.4×61.5×21	<P265
SK67	C4-8	84.4×62.5×40	
SK68	C4-8	68.6×63.0×52	
SK70	C4-3	69.1×57.3×21	
SK71	C4-3	75.7×60.6×23	
SK72	C4-3	90.7×83.5×26	
SK73	C4-4	102.7×100.3×26	
SK74	C4-3	131.5×116.4×14	
SK75	C3-15	74.1×(45.8)×16	>SI44
SK77	D3-21	70.0×(52.6)×15	>SI24
SK78	C4-4	111.1×64.3×35	>SI16
SK79	C4-14	80.9×68.5×54	>SI09
SK80	C3-14	103.4×77.6×31	
SK81	C3-25	81.5×(50.7)×14	>SI21
SK82	D3-16	104.6×(55.6)×21	>SI22
SK83	C3-19	147.5×87.6×60.6	>SI18
P04	C3-25	65.5×53.6×	
P05	C3-25	92.1×83.6×31	
P06	D3-16	91.6×73.6×41	
P07	C3-19	36.4×36.4×28	
P08	C3-20	45.0×43.4×32	
P10	C3-25	77.3×44.3×46	
P11	C3-19	49.3×49.3×25	
P12	C3-20	60.0×57.4×13	
P13	C3-20	46.6×42.4×50	
P14	C3-20	64.7×62.7×18	
P15	C3-25	57.4×46.3×45	
P16	C3-25	58.3×34.9×21	
P17	C3-25	72.1×69.5×29	
P18	C3-25	51.8×48.6×30	
P20	C3-25	50.5×45.7×20	
P21	C3-25	41.1×37.6×19	
P22	C3-24	39.4×35.3×22	
P23	C3-24	39.1×35.7×20	
P30	C3-25	45.8×44.7×24	
P33	C4-5	31.5×25.8×51	
P34	C4-5	96.1×88.5×47	
P35	C4-5	49.4×39.8×51	
P36	C4-5	59.1×55.3×49	
P37	C3-20	37.7×37.7×32	
P49	C4-5	47.6×41.8×51	
P51	C4-5	110.8×65.9×44	
P54	C4-14	73.1×33.1×30	
P55	C4-14	86.5×(50.7)×64	
P63	C4-10	29.7×24.0×29	
P64	C4-10	126.8×70.5×14	
P65	C4-10	47.7×30.7×24	
P66	C4-10	26.1×23.5×33	
P67	C4-10	35.0×24.3×60	
P69	C4-10	63.6×55.0×34	
P70	C4-10	65.6×38.3×33	
P73	C4-10	57.0×45.5×13	
P74	C4-10	46.5×35.3×15	
P79	C4-10	48.7×26.6×18	
P83	C4-15	42.7×40.1×29	
P84	C4-15	53.2×44.5×28	
P89	C4-15	44.9×43.7×17	
P90	C4-15	39.2×31.8×18	<P91
P91	C4-15	50.8×48.7×21	
P92	C4-10	82.3×72.8×21	
P93	C4-10	36.7×26.3×17	
P96	C4-15	31.9×30.1×22	
P99	C4-15	42.8×38.1×63	
P100	C4-10	54.9×50.5×17	
P101	C4-15	36.3×31.8×40	
P103	C4-15	34.4×31.7×10	
P104	C4-15	40.6×29.3×24	
P114	C4-15	78.1×56.0×82	
P118	C4-15	38.8×35.7×29	
P128	C4-15	42.3×38.8×25	
P133	C4-15	76.1×61.4×15	
P140	C4-15	49.3×37.4×28	
P144	C4-15	39.5×23.0×47	
P149	C4-15	47.2×35.5×43	
P150	C4-14	47.9×37.5×22	
P154	C4-15	29.1×28.2×15	
P155	C4-15	26.4×25.5×18	
P156	C4-15	57.2×53.0×19	
P157	C4-15	49.1×39.1×57	
P158	C4-15	57.5×41.8×38	
P159	C4-15	38.9×34.5×18	
P173	D4-11	34.8×33.5×20	
P174	C4-15	46.7×43.2×52	
P205	D4-11	45×48.5×65	
P206	D4-11	15×48.5×28	
P207	D4-11	69.6×48.8×29	
P210	D4-11	63.9×35.8×28	
P211	D4-11	25.6×25.2×29	
P212	D4-6	43.2×43.2×24	
P215	D4-11	39.3×48.8×67	>SI11
P216	D4-11	40×58.2×61	
P248	C4-15	37.6×26.2×46	
P250	C3-20	36.5×29.6×20	
P251	C3-20	40.5×38.9×34	
P252	C3-15	25.4×21.2×10	>SI30
P254	C3-15	30.6×29.4×12	>SI30
P261	C4-10	47.6×38.9×23	
P265	D4-11	33.3×27.3×33	
P266	C4-20	32.8×27.3×13	
P269	C4-15	36.7×34.0×38	
P272	C4-15	46.5×41.3×25	
P273	C4-15	50.2×43.3×17	
P274	C4-15	43.3×38.2×24	
P275	C4-15	41.3×36.5×22	
P276	C4-15	28.2×22.0×18	
P277	C4-15	32.1×31.8×21	
P278	C4-15	28.2×27.3×21	
P279	C4-15	94.7×33.8×17	
P281	C4-13	39.3×39.3×15	
P282	C4-8	335.2×30.1×49	
P283	C4-8	58.7×52.8×38	
P284	C4-8	(38.9)×43.1×43	
P285	C4-8	62.1×74.1×15	
P286	C4-8	32.4×30.3×22	
P287	C4-8	71.7×49.4×57	
P288	C4-8	47.0×34.8×43	
P289	C4-9	45.7×41.6×11	
P290	C4-9	42.7×40.0×23	
P291	C4-9	23.3×23.2×23	
P292	C4-9	29.1×23.2×12	
P293	C4-9	29.4×29.2×40	
P294	C4-8	36.4×35.3×19	
P295	C4-8	27.8×24.7×30	
P296	C4-3	36.2×32.4×15	
P297	D3-16	45.3×42.1×38	>SI25
P298	D3-16	54.7×36.5×40	>SI25
P301	C3-15	58.8×35.2×13	>SI30
P307	D3-16	39.2×37.7×28	
P308	D3-16	37.5×37.5×17	
P309	D3-16	32.9×30.6×16	
P310	D3-16	31.7×30.5×12	
P311	C4-4	37.8×37.7×20	
P313	C3-20	38.9×33.4×20	>SI21
P314	C3-20	49.0×45.8×30	>SI21
P315	C4-4	63.6×39.8×30	
P316	C4-4	68.3×55.3×22	
P320	C3-14	25.9×25.9×28	
P322	C4-5	68.1×52.7×63	
P323	C4-5	50.6×36.8×51	
P324	C4-5	90.7×41.0×34	
P325	C4-5	46.7×45.8×40	
P326	C3-25	50.9×48.4×39	>SI21
P327	C3-25	63.6×44.9×46	>SI21
P329	C3-25	46.9×44.1×17	
P331	C3-20	33.1×32.1×35	>SI21
P332	C3-20	33.6×32.7×22	>SI21
P333	C3-25	31.0×30.6×25	
P334	D3-16	48.2×45.8×35	
P335	D3-21	33.2×31.0×43	
P336	C3-25	46.3×45.8×31	
P340	C4-9	38.2×30.8×36	
P350	C4-13	19.1×17.6×16	
P351	C4-13	31.0×24.1×28	
P353	C4-12	38.1×36.5×41	
P354	C4-8	38.1×32.2×25	



第 139 図　CUT6　全体図

V　CUT6

第 1 章　遺跡の概要

本調査区はCUT5 区の北東、D3 グリッドに位置する。調査区の標高は中央付近で 47.5m を測り、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は掘立柱建物跡 1 棟、竪穴住居跡 4 軒、土坑 7 基、ピット 12 基である。

第 2 章　検出された遺構・遺物

第 1 節　奈良・平安時代の遺構と遺物

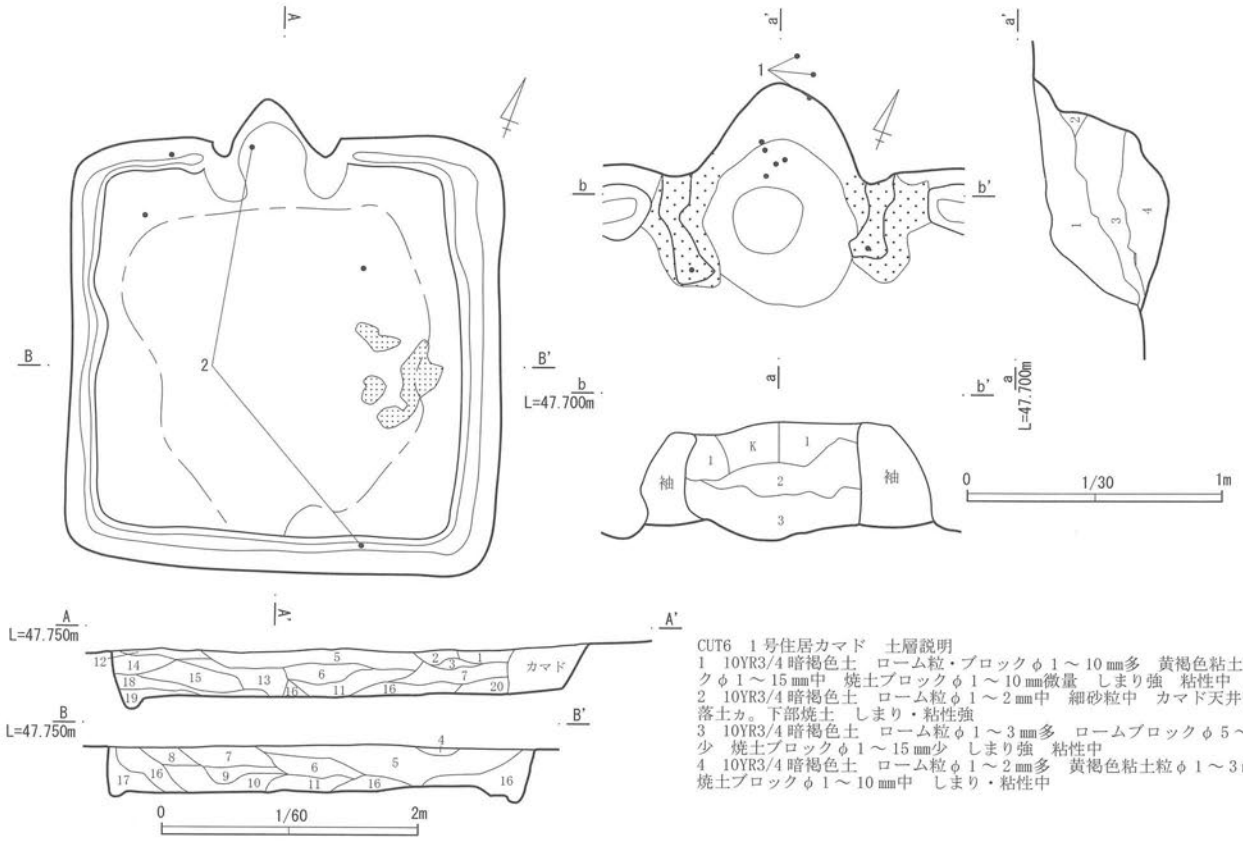
第 1 項　住居跡

1 号住居跡　（第 140・141 図，図版 74・104）

本遺構は D3-2・3 グリッドに於いて検出された。規模は長軸 3.42m、短軸 3.35m、主軸方位は N　20.8°　W を指す。確認面からの深さは 37 cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は 20 層に分層される。

カマドは北壁中央に設置され、袖がやや内湾するように残存し、煙道も検出された。袖の端部には 17 cm前後の大きさの礫が基礎にされている。柱穴は検出されなかった。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。

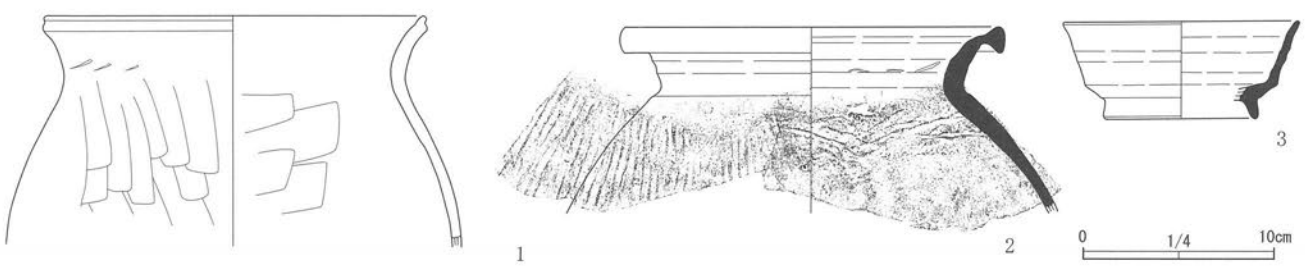
遺物は土師器甕、須恵器甕・高台付坏が出土した。遺物から 9 世紀前半に属する遺構と判断される。



CUT6　1号住居カマド　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　黄褐色粘土ブロックφ1～15㎜中　焼土ブロックφ1～10㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　細砂粒中　カマド天井部の崩落土カ。下部焼土　しまり・粘性強
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　ロームブロックφ5～15㎜少　焼土ブロックφ1～15㎜少　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　黄褐色粘土粒φ1～3㎜多　焼土ブロックφ1～10㎜中　しまり・粘性中

CUT6　1号住居　土層説明
1　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒φ2～5㎜多　粘土微量　人為堆積
2　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒φ2～5㎜多　炭化物微量　人為堆積
3　10YR4/2 灰黄褐色土　ローム粒φ2～3㎜少　粘土微量　人為堆積
4　10YR4/2 灰黄褐色土　黄褐色土混入　ローム粒微量　人為堆積
5　10YR4/2 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土・黄褐色土混入　ローム粒・ブロックφ2～30㎜多　焼土粒・炭化物微量　人為堆積
6　10YR3/2 黒褐色土　灰黄褐色土混入　ローム粒・ブロック微量　人為堆積
7　10YR5/3 にぶい黄褐色土　黄褐色土混入　ローム粒・ブロックφ2～8㎜多　人為堆積
8　2.5Y5/3 黄褐色土　ローム粒・ブロック少
9　10YR4/2 灰黄褐色土・10YR5/4 にぶい黄褐色混入　ローム粒多　炭化物微量　人為堆積
10　10YR2/3 黒褐色土・10YR5/3 にぶい黄褐色土混入　ローム粒多　ロームブロック少　焼土粒微量　人為堆積
11　2.5Y7/6 明黄褐色土・10YR4/2 暗灰黄色土混入　ロームブロックφ10～15㎜　淡黄色灰　炭化物微量　人為堆積
12　10YR4/2 灰黄褐色土　黄褐色土微量　淡黄色灰少　人為堆積
13　10YR3/1 黒褐色土ブロックφ10～30㎜・にぶい黄褐色土・黄褐色土混入　ロームブロックφ5～30㎜　人為堆積
14　10YR5/3 にぶい黄褐色土　ローム粒多　ロームブロック微量　人為堆積
15　10YR5/3 にぶい黄褐色土・2.5Y5/3 黄褐色土混入　ロームブロックφ5～25㎜多　黒褐色土ブロックφ5～15㎜少　人為堆積
16　10YR4/3 にぶい黄褐色土　ローム粒・ブロックφ3～10㎜少　灰黄褐色土微量　炭化物微量
17　10YR4/3～5/3 黄褐・2.5Y5/3 黄褐の混入土　ローム粒子・ロームブロック少量。炭化物微量。人為堆積。
18　2.5Y5/2 暗灰黄色土・10YR5/3 黄褐色土混入　淡黄色灰少　ローム粒・ブロック微量　人為堆積
19　2.5Y5/2 暗灰黄色土　淡黄色灰　ローム粒・ブロック微量　人為堆積
20　7.5Y4/3 褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物微量　人為堆積

第140図　1号住居跡



第141図　1号住居跡出土遺物

表71　1号住居跡遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ ｵﾘｶﾀ ,ｶﾏﾄ, ｶﾏﾄﾞNo.1～3	土師器	甕	-19.6	—	〈11.8〉	436.2	胴部はやや張る。口縁は「C」の字に緩やかに外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　7.5YR5/4 にぶい褐 外面　10YR5/4 にぶい黄褐	長石・石英・雲母多い。	口縁～肩部1/2	常総型甕
2	No.2, ｶﾏﾄﾞNo.7	須恵器	甕	-19.2	—	〈9.5〉	320.3	胴部はやや張る。口縁は「く」の字に屈曲し口唇は折り返した後摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面は平行叩き、内面には当て具痕が観察される。	良好	内外面　7.5Y5/1 灰	小～中礫(長石・石英)・白色針状物質・白色粒子少量。	口縁～肩部1/4	
3	覆土	須恵器	高台付坏	-12	-8	5.1	32.1	高台は「ハ」の字に付される。体部は見込みで屈曲し僅かに外反気味に開く。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y6/1灰 外面7.5Y6/1灰	白色粒子・鉄分の噴出し少量。	口縁1/8 体部1/4 底部1/8	

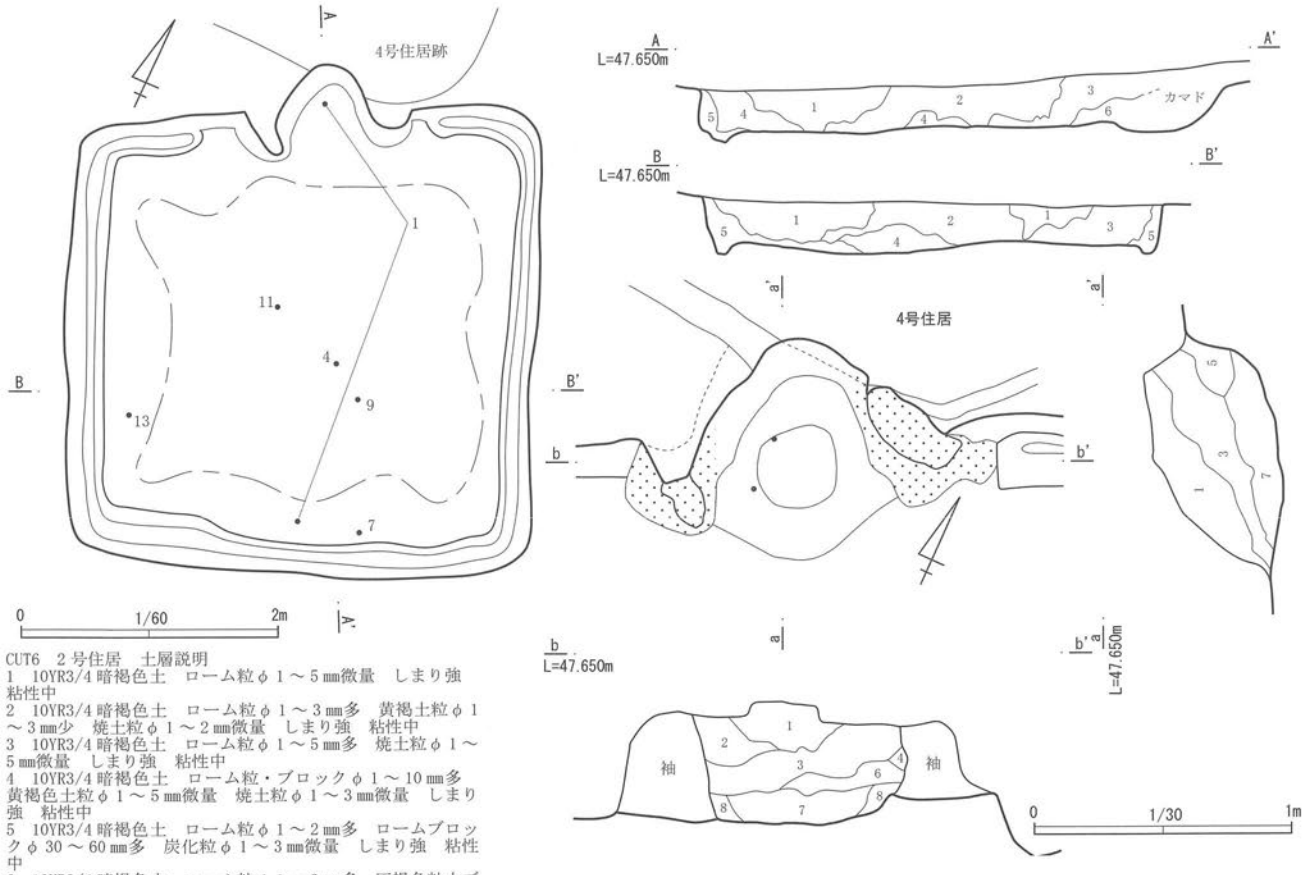
2号住居跡　（第142・143・144図，図版74・75・76・104）

本遺構はD3-6・7グリッドに於いて検出された。

カマドの一部が4号住居跡に切られる。規模は長軸3.70m、短軸3.69m、主軸方位はN 24.3° Wを指す。確認面からの深さは30cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は6層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央部分に設置されるが、袖は僅かしか残存しない。柱穴は検出されなかった。床面は平坦で硬化面が全体に広がっている。周溝はカマドの部分を除きほぼ全周する。

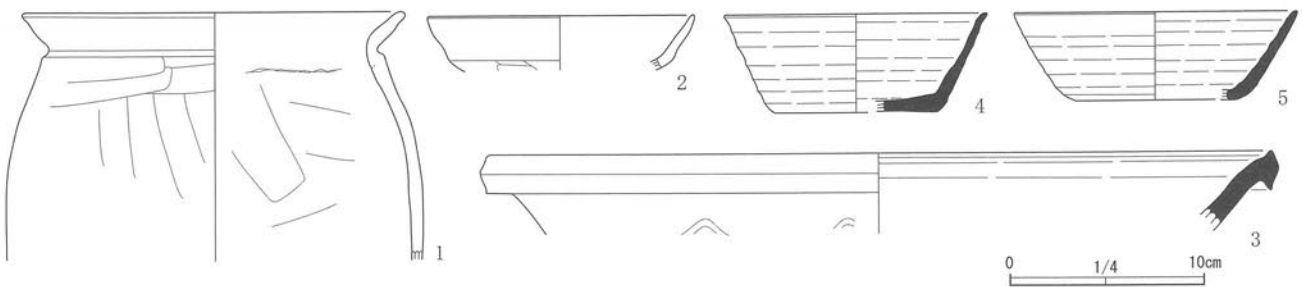
遺物は土師器甕・坏、須恵器甕・蓋・坏類、石製紡錘車が出土した。遺物から9世紀前半に属すると判断される。



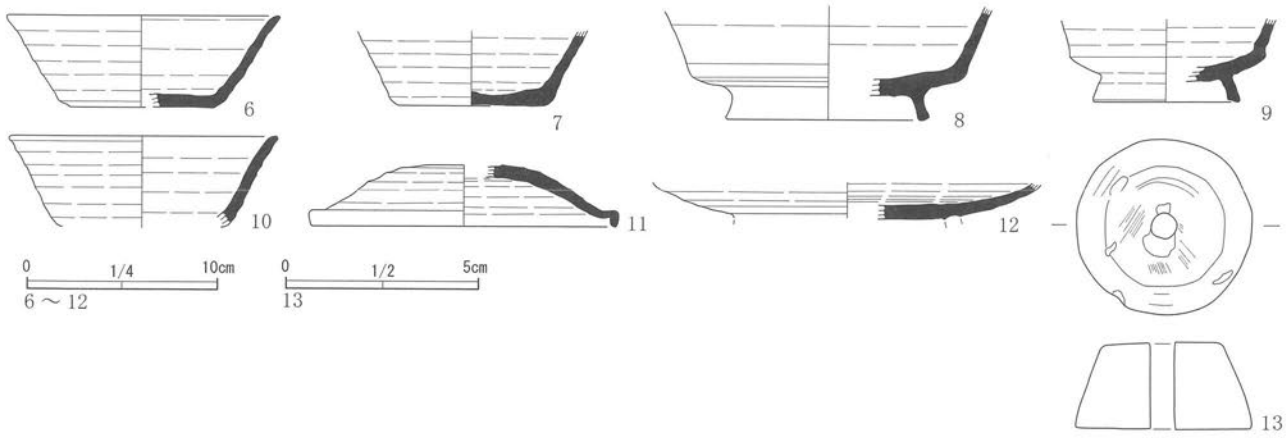
CUT6　2号住居　土層説明
1　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　黄褐土粒φ1～3㎜少　焼土粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒φ1～5㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　黄褐色土粒φ1～5㎜微量　焼土粒φ1～3㎜微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　ロームブロックφ30～60㎜多　炭化粒φ1～3㎜微量　しまり強　粘性中
6　10YR3/4 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　灰褐色粘土ブロックφ2～10㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中

CUT6　2号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　黄褐色粘土粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　黄褐色粘土ブロックφ1～15㎜多　焼土粒・ブロックφ1～50㎜微量　しまり・粘性強
3　10YR4/4 褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　黄褐色土ブロックφ1～30㎜多　細砂粒多　しまり・粘性強　カマド横築材の崩落土か。
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　黄褐色粘土粒φ1～5㎜多　焼土粒φ1～3㎜微量　炭化粒φ1～5㎜微量　しまり強　粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒・ブロックφ1～20㎜微量　炭化粒φ1～5㎜微量　しまり・粘性中
6　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　黄褐色粘土粒φ1～3㎜多　焼土粒・ブロックφ1～30㎜多　炭化粒φ1～5㎜微量　しまり・粘性強
7　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～5㎜微量　しまり強　粘性中
8　10YR4/6 褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～2㎜微量　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中

第142図　2号住居跡



第143図　2号住居跡出土遺物（1）



第 144 図　2 号住居跡出土遺物（2）

表 72　2 号住居跡遺物観察表

cm, g

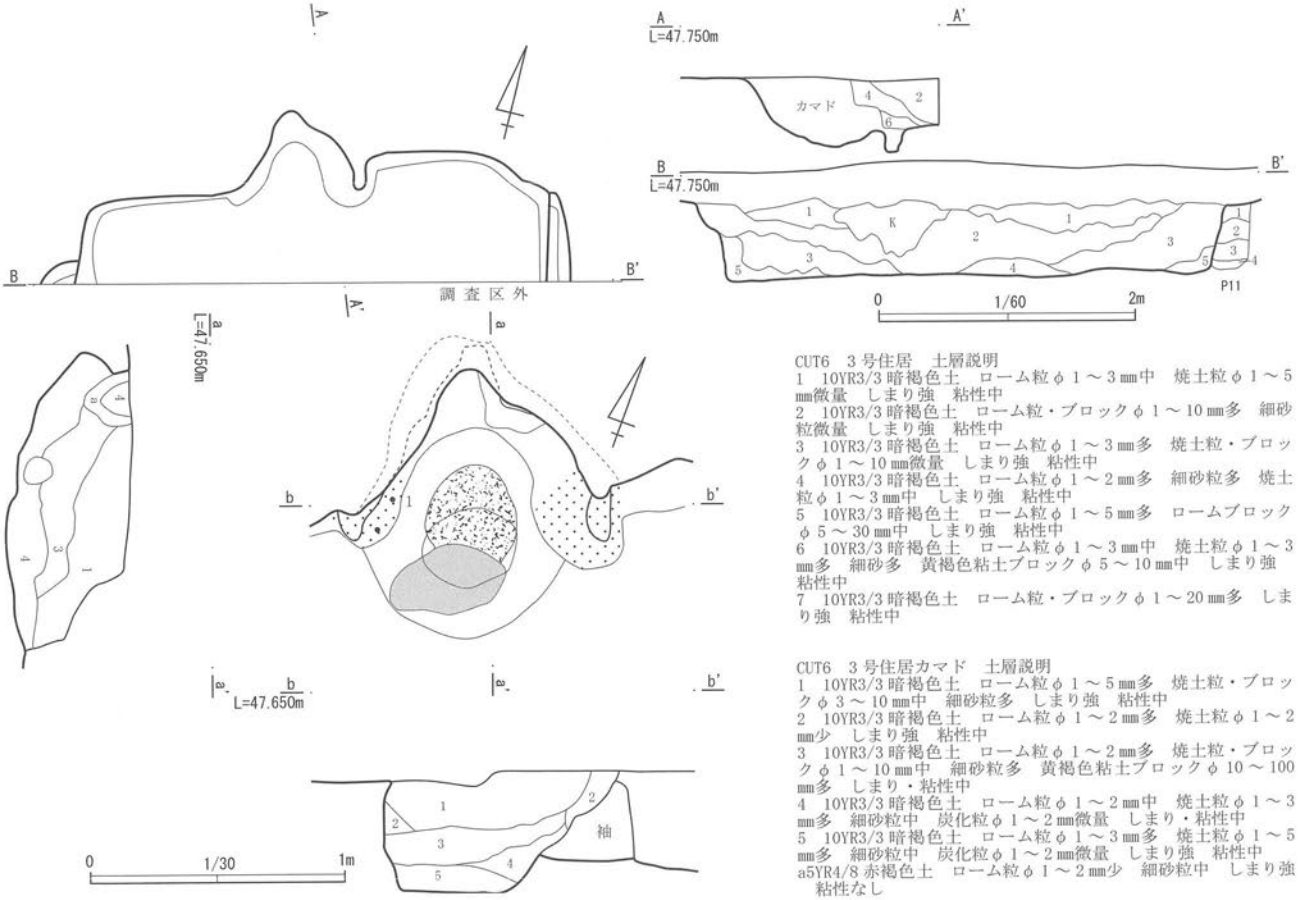
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 5, ｶﾏﾄﾞ No. 1	土師器	甕	-19.5	—	〈12.9〉	183.3	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に屈曲し、中央で肥厚した後短く開く。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　10YR3/1黒褐 外面　10YR5/3にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・雲母微量。	口縁～胴上半1/4	
2	覆土	土師器	坏	-13.9	—	〈2.8〉	12.5	体部は下半で緩やかに内湾し、中央に弱い稜を有した後僅かに受け口となり開く。	口縁外面～体部内面は横ナデ。体部外面下半は手持ちヘラケズリ。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　7.5Y7/6橙	黒色粒子・白色粒子・スコリア微量。	口縁1/8	
3	覆土	須恵器	甕	-40.6	—	〈4.1〉	134.8	口縁は直線的に開き、口頸は折り返した後摘み上げられる。端部はシャープに尖る。	回転台使用。口縁直下に波状文が観察される。	還元不良	内面　5Y4/1灰 外面　2.5Y4/1黄灰	小～中礫・白色粒子少量。	口縁1/4	
4	No. 2	須恵器	坏	-13.6	-8.5	5.2	77.1	底部は平底。体部は直線的に開いた後口縁で短く外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後周縁をナデ整形。	良好	内面　10Y5/1灰 外面　7.5Y5/1灰	小～中礫・白色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁～底部1/4	
5	覆土	須恵器	坏	-14.4	-8	4.5	42.2	体部は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　5Y6/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子・白色針状物質やや多い。	口縁～底部1/4	比企産カ
6	覆土	須恵器	坏	-14.5	-8.2	4.6	66.5	底部は平底。体部は直線的に開いた後口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	還元不良	内外面　10YR5/6黄褐	小～中礫・白色粒子・白色針状物質少量。	口縁～底部1/4	
7	No. 4	須恵器	坏	—	7.5	〈3.9〉	72.4	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は一方向の手持ちヘラケズリ。	良好	内外面　5Y5/1灰	小～中礫・白色粒子・白色針状物質少量。	体～底部1/2	
8	覆土	須恵器	高台付坏	—	-11	〈5.9〉	64.3	高台は「ハ」の字に付される。体部は見込みで屈曲し直線的に開く。内端接地。	ロクロ整形。体部下端回転ヘラケズリ。底部の調整は不明。	良好	内外面　5Y6/1灰	鉄分の噴出し多量。小～中礫・白色粒子少量。	体～底部1/4	
9	No. 3	須恵器	高台付坏	—	-6.6	〈4.4〉	53.1	高台は「ハ」の字に付される。体部は見込みで屈曲し直線的に開く。小形である。外端接地。	ロクロ整形。底部の調整は不明。	良好	内外面　5Y6/3オリーブ黄	小～中礫(長石・石英)黒色粒子やや多い。白色針状物質・白色粒子少量。	体～底部1/3	
10	覆土	須恵器	坏	-13.7	—	〈4.6〉	34.9	体部は下端で緩やかに内湾した後直線的に開き、僅かに外反しながら口縁に至る。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y6/1灰 外面　5Y5/2灰オリーブ	鉄分の噴出し多量。白色粒子微量。	口縁～体部1/5	
11	No. 1	須恵器	蓋	-15.8	—	〈3.1〉	66.3	天井は弓張り状を呈し屈でやや強く外反し端部は屈曲する。返しは無い。ツマミ欠損。	ロクロ整形。天井の回転ヘラケズリは1/4弱。	良好	内外面　5Y5/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子・白色針状物質やや多い。鉄分の噴出し少量。	天井～端部1/4	
12	覆土	須恵器	高台坏皿	—	—	〈1.8〉	80.4	見込みは緩やかに内湾し体部は大きく開く。口縁・高台欠損。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	一部還元不良	内面　5Y5/2灰オリーブ 外面　2.5Y5/2暗灰黄	白色針状物質・白色粒子少量。	体～底部1/4	重ね焼き痕 火ダスキ有り
13	No. 6	石製品	紡錘車	縦2.2	横4.5	孔径0.6	57.6	断面は逆台形を呈し孔は中央に穿たれる。側面及び上下面には研磨が見られる。					完形	凝灰岩

3 号住居跡　（第 145・146 図，図版 76・104）

本遺構はD3-7グリッドに於いて検出された。大半が調査区外となり、カマドの付設された北壁のみの検出となった。P11 を切っている。規模は残存長軸（1.02）m、短軸 3.78m、主軸方位はN　81.1°　W を指す。確認面からの深さは 50 cmを測り、掘り込みが深い。覆土は 5 層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央部分に設置されるが、袖は僅かしか残存しない。柱穴・周溝・硬化面は検出されなかった。

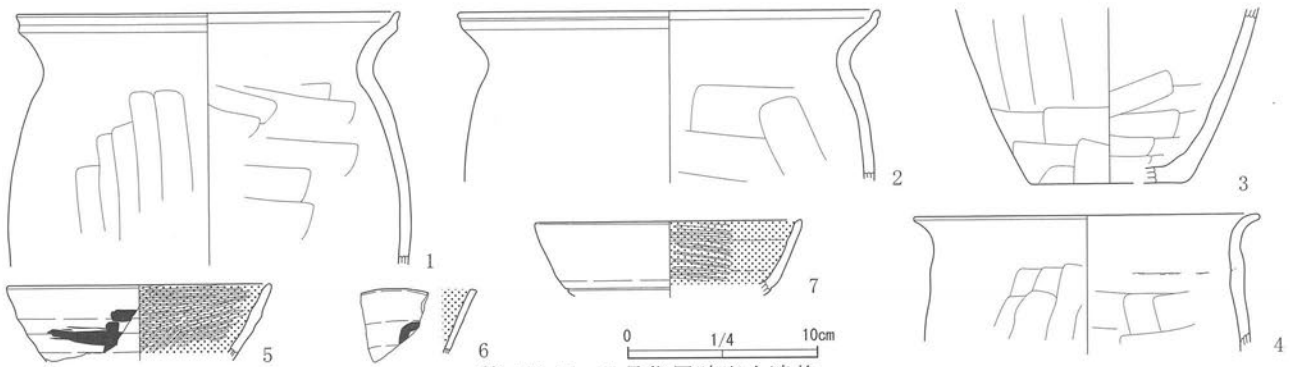
遺物は土師器甕、内面黒色処理の坏が出土した。墨書土器 2 点が出土したが、釈読出来なかった。遺物から 9 世紀後半に属すると判断される。



CUT6　3号住居　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　焼土粒φ1～5㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～10㎜多　細砂粒微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒・ブロックφ1～10㎜微量　しまり強　粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　細砂粒多　焼土粒φ1～3㎜中　しまり強　粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　ロームブロックφ5～30㎜中　しまり強　粘性中
6　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　焼土粒φ1～3㎜多　細砂多　黄褐色粘土ブロックφ5～10㎜中　しまり強　粘性中
7　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ1～20㎜多　しまり強　粘性中

CUT6　3号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～5㎜多　焼土粒・ブロックφ3～10㎜中　細砂粒多　しまり強　粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒φ1～2㎜少　しまり強　粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜多　焼土粒・ブロックφ1～10㎜中　細砂粒多　黄褐色粘土ブロックφ10～100㎜多　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜中　焼土粒φ1～3㎜多　細砂粒中　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性中
5　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜多　焼土粒φ1～5㎜多　細砂粒中　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中
a5YR4/8 赤褐色土　ローム粒φ1～2㎜少　細砂粒中　しまり強　粘性なし

第145図　3号住居跡



第146図　3号住居跡出土遺物

表73　3号住居跡遺物観察表

cm, g

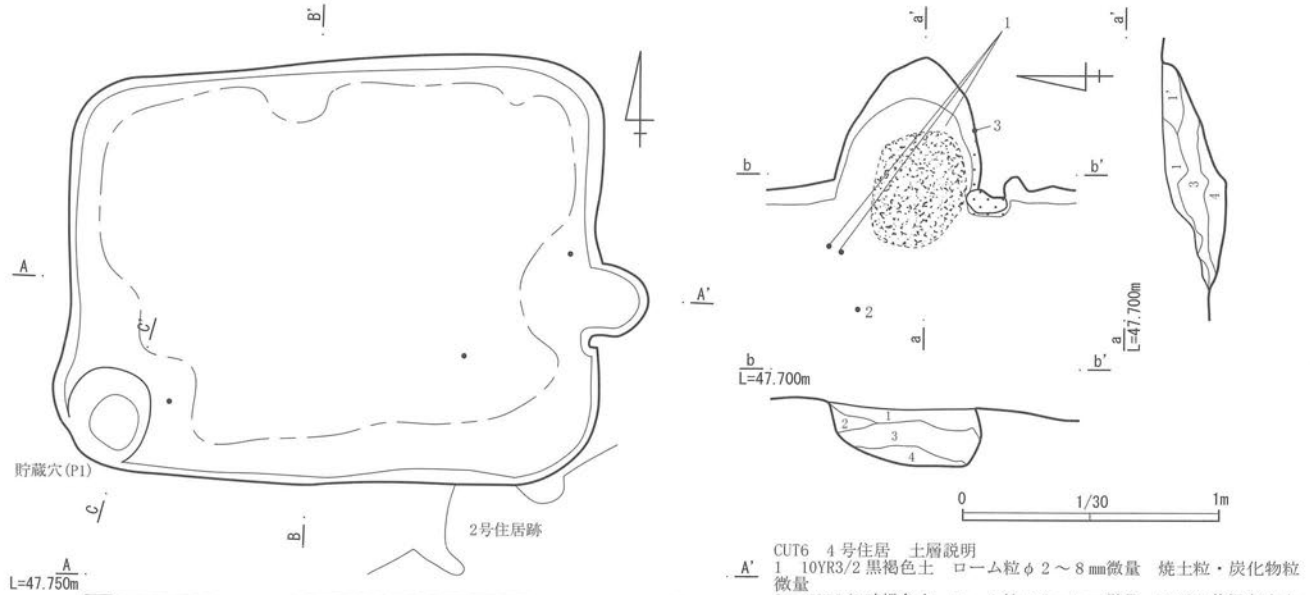
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ，ｶﾏﾄﾞNo2	土師器	甕	-19.7	—	〈12.9〉	314.4	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に緩やかに外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR4/3にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・白色針状物質少量。金雲母やや多い。	口縁～肩部2/3	常総型甕
2	ｶﾏﾄﾞ，ｶﾏﾄﾞNo5	土師器	甕	-21.7	—	〈8.9〉	93.3	胴部の張りは弱い。口縁は「く」の字に緩やかに外反し口唇は摘み上げられる。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好	内面　7.5YR6/6橙 外面　7.5YR5/6明褐	白色粒子・黒色粒子・金雲母多い。角閃石・スコリアやや多い。	口縁～肩部1/3	
3	ｶﾏﾄﾞ，ｶﾏﾄﾞNo3	土師器	甕	—	-8	〈9.0〉	161.6	底部は平底。胴部はやや内湾気味に立つ。	外面胴部下半～底部はヘラケズリ、内面はナデ。内面に輪積痕有り。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　7.5YR5/6明褐 外面　10YR4/3にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・金雲母多い。	胴部下半～底部1/2	
4	ｶﾏﾄﾞ	土師器	甕	-17.7	—	〈7.1〉	42.9	胴部はほぼ直線的に立ち、緩やかに「C」の字に外反し口唇に至る。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部内外面ナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YR5/3にぶい黄褐	白色粒子・金雲母多い。	口縁～肩部1/8	
5	覆土	土師器	坏	〈13.6〉	—	〈3.95〉	23.1	体部は僅かに内湾気味に開く。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　10YR5/4にぶい黄褐	雲母やや多い。白色粒子少量。	口縁～体部1/5	内面黒色処理 体部墨書
6	覆土	土師器	坏	—	—	〈3.3〉	5.3	体部は直線的に開く。	ロクロ整形。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　7.5Y2/1黒 外面　10YR5/4にぶい黄橙	金雲母・白色粒子少量。白色針状物質微量。	口縁部片	内面黒色処理 体部墨書
7	覆土	土師器	坏	-13.8	—	〈3.9〉	27.3	体部は僅かに内湾気味に開く。	ロクロ整形。底部下端は回転ヘラケズリが行われている。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　10Y2/1黒 外面　10YR6/4にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。	口縁～体部1/4	内面黒色処理

4号住居跡　（第147・148・149図，図版76・77・104）

本遺構はD3-1・2・6・7グリッドに於いて検出された。南接する2号住居跡のカマドを切っている。平面形は主軸方位の長い長方形で、規模は長軸4.15m、短軸3.35m、主軸方位はN 90° Eを指す。確認面からの深さは17.2㎝を測り、掘り込みはやや浅い。覆土は9層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは東壁中央部分に設置され、右袖が僅かに残存する。火床面も検出された。柱穴・周溝は検出されなかったが、南西隅に貯蔵穴と見られるP1が確認され、長径74.6㎝、短径66.7㎝、深さ19.4㎝である。

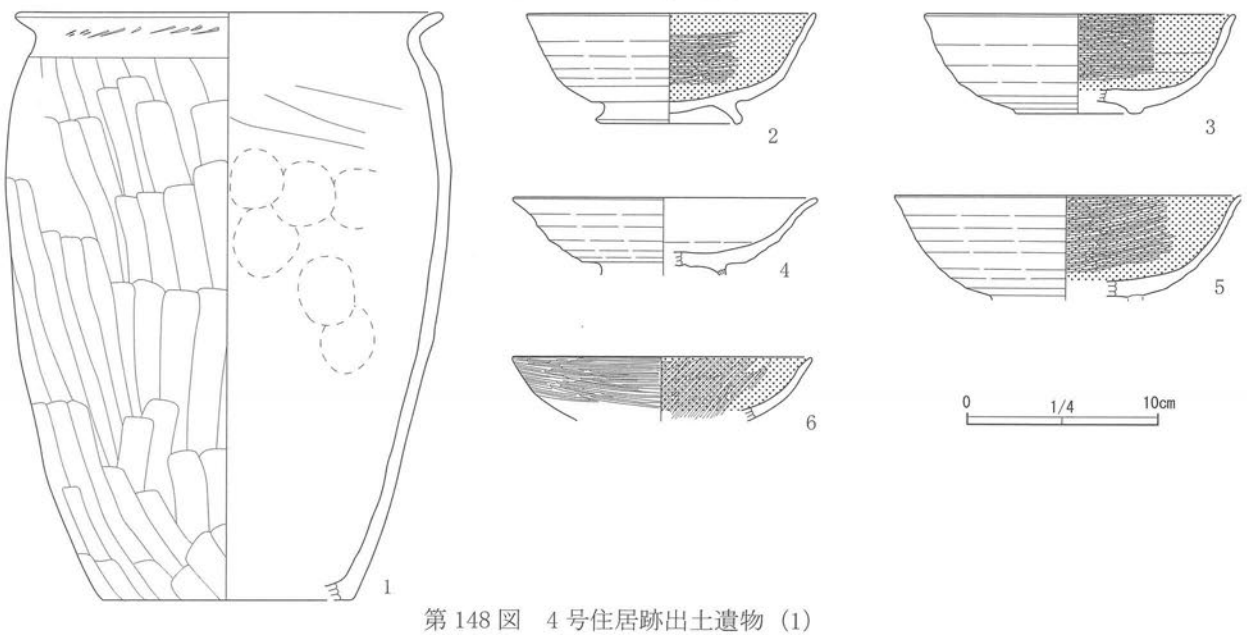
遺物は土師器甕・坏類・石製支脚が出土した。遺物から9世紀後半に属すると判断される。



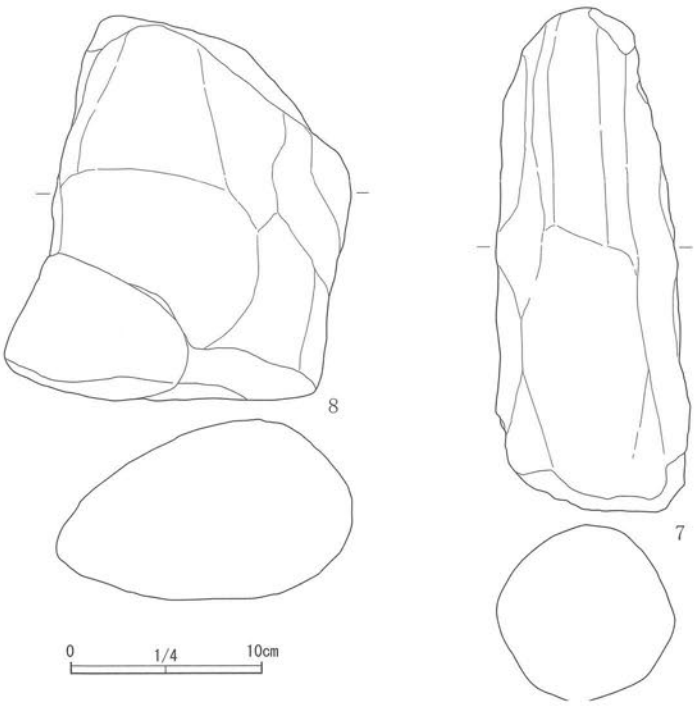
CUT6　4号住居　土層説明
1　10YR3/2黒褐色土　ローム粒φ2～8㎜微量　焼土粒・炭化物粒微量
2　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ2～5㎜微量　にぶい黄褐色土少
3　10YR3/2黒褐色土　ローム微量含む
4　10YR3/2黒褐色土・2.5YR5/3黄褐色土混入　ローム粒φ2～7㎜微量　焼土粒・炭化物粒微量
5　10YR4/2灰黄褐色土　焼土粒・炭化物粒多
6　2.5YR5/3黄褐色土　ロームブロック含む
7　2.5Y4/2暗灰黄色土・10YR4/2灰黄褐色土混入　ロームブロックφ2～40㎜微量　炭化物粒微量
8　10YR3/2黒褐色土　ローム粒微量
9　10YR7/6明黄褐色土　ローム多　黒褐色土微量
10　10YR4/2灰黄色土・2.5Y5/3黄褐色土混入　ローム粒・ブロック少
11　10YR4/2灰黄色土　ローム含む
12　10YR7/6明黄褐色土　ローム主体　灰黄褐色土混入

CUT6　4号住居カマド　土層説明
1　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　黄褐色粘土粒φ1～2㎜少　焼土粒φ1～3㎜微量　しまり強　粘性中
2　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　黄褐色粘土粒φ1～2㎜微量　焼土粒φ1～2㎜微量　しまり強　粘性中
3　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　黄褐色粘土粒φ1～5㎜多　焼土粒・ブロックφ1～10㎜中　炭化粒φ1～2㎜微量　しまり・粘性強
4　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～2㎜微量　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　炭化粒・ブロックφ1～10㎜微量　しまり・粘性強
?　10YR3/3暗褐色土　ローム粒φ1～3㎜中　焼土粒・ブロックφ1～10㎜多　しまり強　粘性中

第147図　4号住居跡



第148図　4号住居跡出土遺物（1）



第 149 図　4 号住居跡出土遺物（2）

表 74　4 号住居跡遺物観察表

cm, g

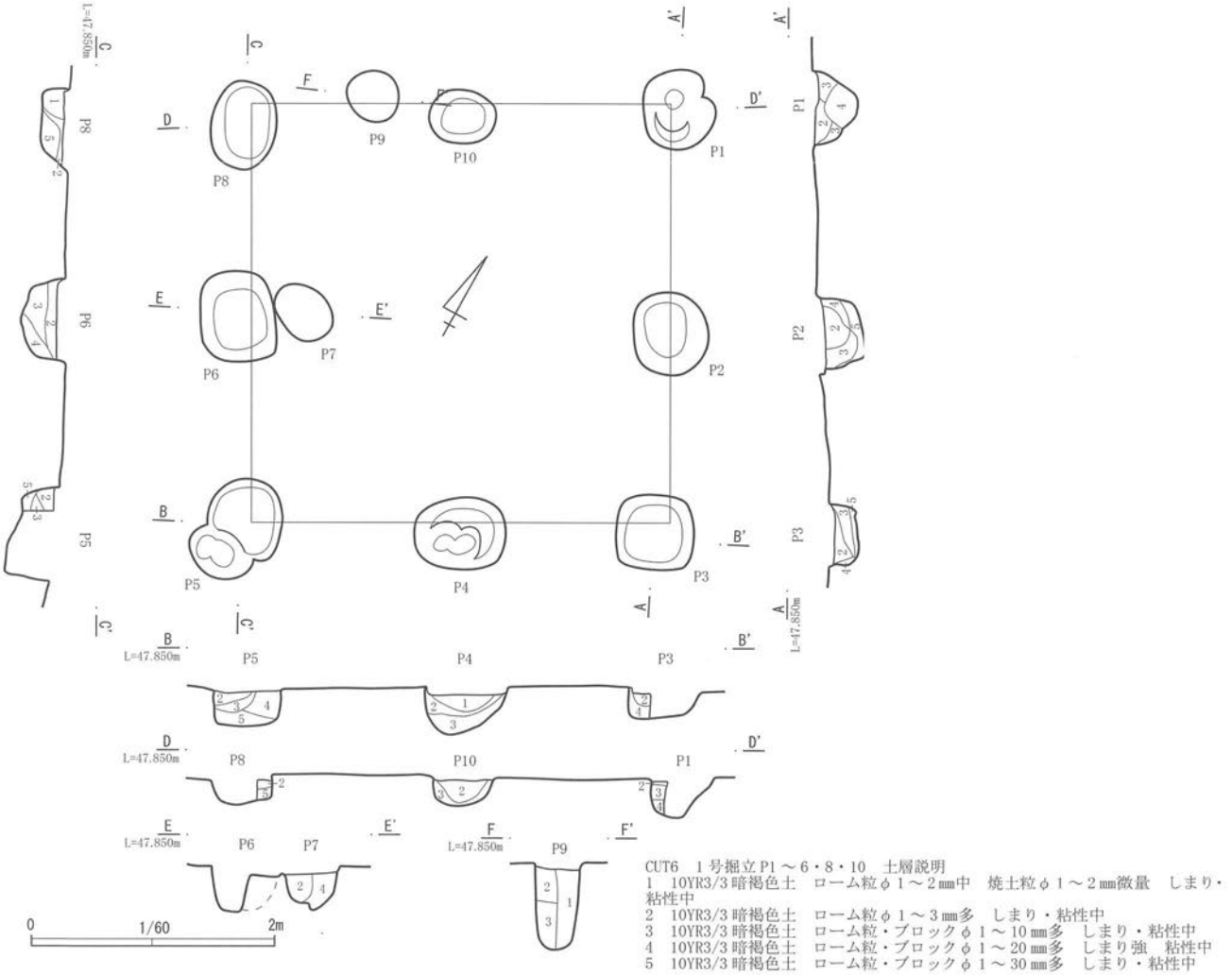
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1・2, ｶﾏﾄﾞ No. 2 , ｶﾏﾄﾞ	土師器.	甕	22.0	-13.1	30.2	1,680.0	胴部は最大径を上位に有すが張りは弱く長胴気味。口縁は短く「C」の字に外反する。口縁及び底部は広さがある。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面ヘラケズリ、内面には当て具痕有り。底部木葉痕。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　10YRにぶい黄橙	金雲母多い。黒色粒子・白色粒子ややや多い。白色針状物質少量。	口縁～胴部4/5　底部一部	SI-1, 3と接合 底部木葉痕 内面酸化鉄付着
2	No. 3 ｶﾏﾄﾞ No. 3 ｶﾏﾄﾞ	土師器	高台付坏	-14.8	7.6	5.7	88.3	高台は「ハ」の字に付される。内端接地。体部は下半で緩やかに内湾した後直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラ切り後ナデ。内面はミガキ。	良好 二次焼成?	内面　2.5Y4/2暗灰黄 外面　2.5Y5/3黄褐	黒色粒子・白色粒子・金雲母・雲母やや多い。白色針状物質微量。	口縁～体部1/5　底部3/4	内面黒色処理
3	ｶﾏﾄﾞ No. 1	土師器	高台付坏	-15.9	-6.6	5.1	74.0	高台は摩滅しており、擬高台として使用か。体部は緩やかに内湾して開き口縁で短く外反する。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ、底部は回転ヘラケズリか。内面は丁寧なミガキ。	良好 二次焼成?	内面　7.5YR4/3褐 外面　10YR5/4にぶい黄褐	白色粒子・黒色粒子・雲母・スコリア少量。	口縁～体部1/8　底部1/2	内面黒色処理
4	ｶﾏﾄﾞ	土師器	高台付坏	-15.7	—	<4.0>	56.1	高台端部欠損。体部は緩やかに内湾した後外反してやや大きく開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切りか。	良好 二次焼成?	内面　10YR6/4にぶい黄褐 10YR6/3にぶい黄橙	黒色粒子・スコリアやや多い。	口縁～体部1/4　底部1/3	
5	覆土	土師器	高台付坏	-17.8	—	<5.4>	37.0	高台欠損。体部は下半で緩やかに内湾して開き口縁で短く外反する。大振りな坏である。	ロクロ整形。体部下端は回転ヘラケズリ。内面は丁寧なミガキ。	良好	内面　5Y4/1灰 外面　2.5Y7/3浅黄	黒色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	1/8	内面黒色処理
6	覆土	土師器	坏	-15.4	—	<3.4>	46.6	体部は緩やかに内湾し口縁で短く外傾する。	ロクロ整形。内外面共にミガキ。	良好	内面　2.5Y5/2暗灰黄 外面　2.5Y5/33黄褐	黒色粒子・白色粒子・雲母少量。白色針状物質微量。	口縁1/3	内面黒色処理
7		石製品	支脚	縦26.7	横10.2	厚さ9.3	2,000.0	自然の礫を削り出し支脚として使用。円柱状を呈する。						凝灰質砂岩
8		石製品	支脚	縦20.4	横17.0	厚さ9.5	2,520.0	自然の礫を削り出し支脚として使用。断面は楕円形の柱状を呈する。						凝灰質砂岩

第 2 項　掘立柱建物跡

1 号掘立柱建物跡　（第 150 図，図版 77）

本遺構は D3-2・7 グリッドにおいて検出された。主軸方位は N29.1°　W である。2 × 2 の側柱建物で、1.52 ～ 1.73 m である。柱穴の平面形は円形または隅丸方形で、規模は長径 57.9 ～ 78.4 cm、深さ 22.6 ～ 41.5 cmである。柱痕は確認されなかった。

遺物が出土していないため、時期が不明である。



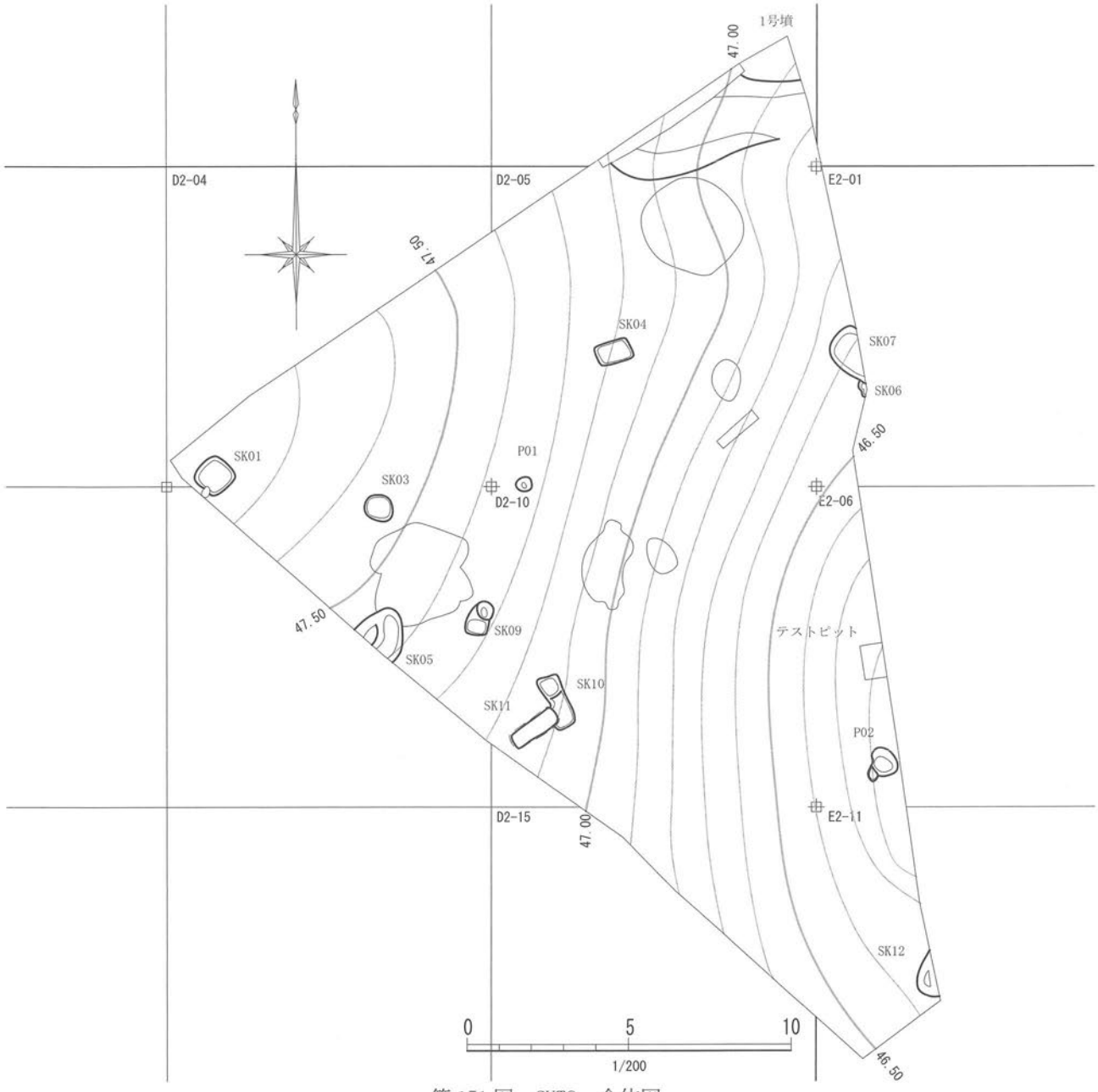
第150図　1号掘立柱建物跡

表75　CUT6土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模 長径×短径×深さ(cm)	備考	遺構名	位置	規模 長径×短径×深さ(cm)	備考
SK01	D3-02	122×118.2×30		P04	D3-07	31.8×28.4×15	
SK02	D3-07	128.2×119.4×50		P05	D3-07	40×38.9×50	
SK03	D3-07	124.6×122.4×22		P06	D3-07	42.6×40.9×52	
SK04	D3-07	107.2×85×16		P07	D3-06	42.5×33.3×30	
SK05	D3-06	127.1×114×12	>P10	P08	D3-06	44.9×42.5×32	
SK06	D3-06	114.8×(81.1)×42		P09	D3-07	63.3×45.8×50	
SK07	D3-07	105.8×72.9×29		P10	D3-06	40.7×39×40	<SK05
P01	D3-02	62.7×41.3×54		P11	D3-12	(27.5)×(14.1)×52	<SI03
P02	D3-02	30.5×25.3×54		P12	D3-02	45.4×43.7×72	SB01P9から変更
P03	—	—	欠番	P13	D3-02	55.3×38.9×30	SB01P7から変更

第3章　まとめ

1･2号住居跡は9世紀前半、3･4号住居跡は9世紀後半の遺構である。1号掘立柱建物跡は時期が不明である。奈良･平安時代の集落の本体と推測されるCUT5に近接する調査区であるため、集落の続きと考えられる。



第 151 図　CUT8　全体図

VI　CUT8

第 1 章　遺跡の概要

本調査区は CUT2 の北西に位置し、概ね南東方向に長三角形状の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で 47.00m を測り、西から南東に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の尾根部に当たる。検出された遺構は古墳 1 基、土坑 11 基、火葬墓 1 基、ピット 2 基である。

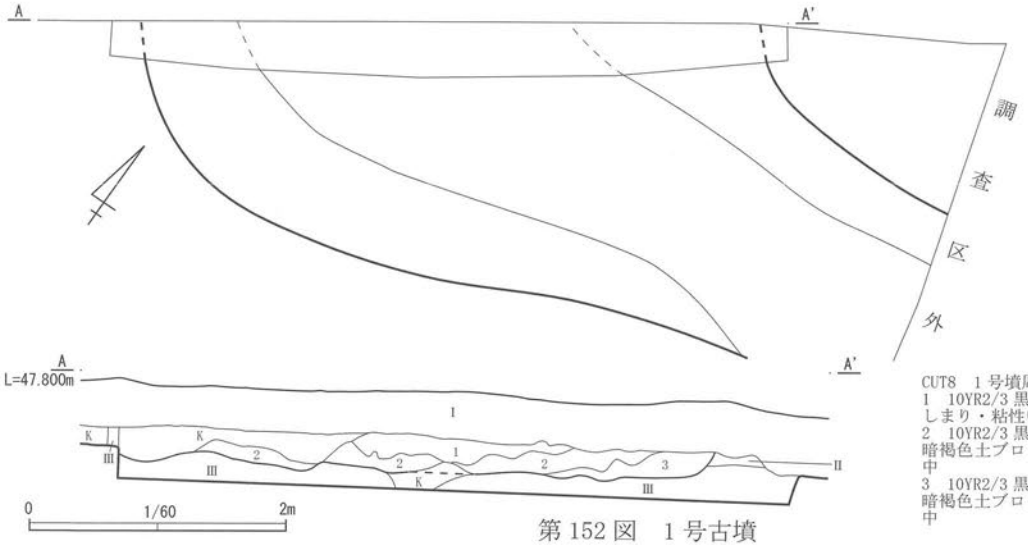
第 2 章　検出された遺構・遺物

第 1 節　古墳時代の遺構と遺物

第 1 項　古墳

1 号古墳　（第 152 図，図版 81）

調査区北隅に周溝のみ検出された。墳丘が調査区外に存在する喜平塚古墳の一部と見られる。古墳の墳丘部は現況で標高約 50.6m を測る円墳である。



第 152 図　1 号古墳

第 2 節　奈良・平安時代の遺構と遺物

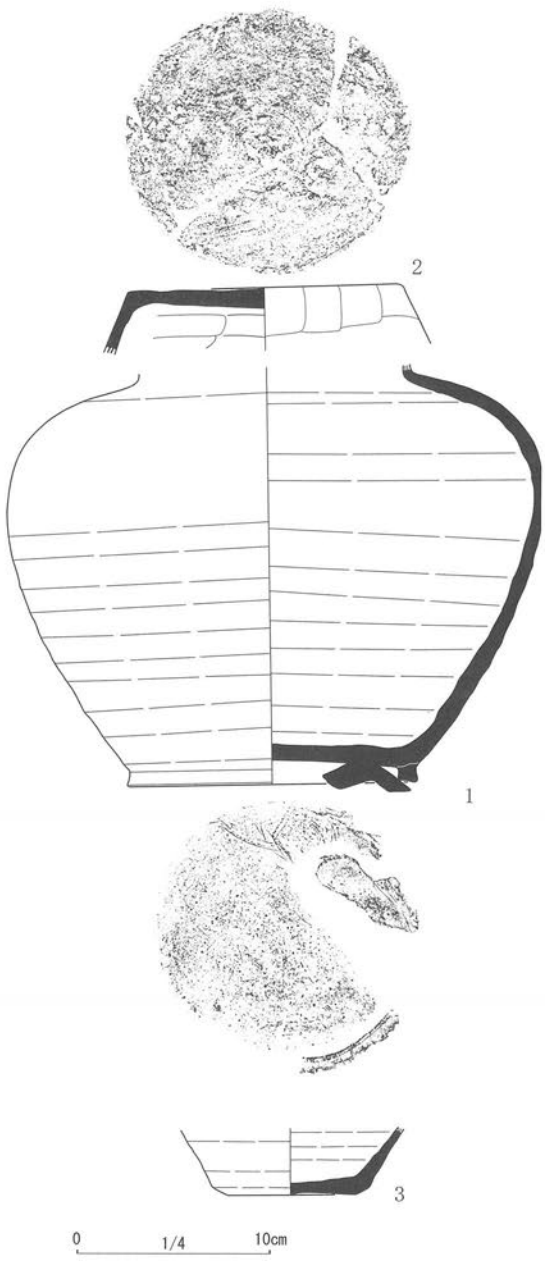
9 号土坑　（第 153・154 図，図版 83・84・105）

第 153 図　9 号土坑

長径 105 ㎝、短径 72.6 ㎝で南北に長い楕円形である。深さは 19 ㎝であるが、骨蔵器が土坑上端よりも高いため本来の土坑は深いとみられる。土坑の北隅に倒位で骨蔵器を埋納している。内部からは人骨が発見された。火葬骨のため性別・年齢等は不明である。骨蔵器は東海系の灰釉陶器壺で、口縁部を意図的に打ち掻いている。蓋は新治産の甕底部を転用したものである。いずれも 9 世紀前半と見られる。

吉沢悟氏によれば、茨城県は全国的にも骨蔵器の出土例が多く、約 200 点となっている。主な骨蔵器として高級な銅製容器・奈良三彩・灰釉陶器・須恵器の壺があり、日用品として土師器・須恵器の甕が利用される。骨蔵器の外容器としては石櫃・木櫃が見られる。骨蔵器の埋納方法は土浦市・石岡市を中心とする霞ヶ浦沿岸では正位、国府が所在した水戸市を中心とした那珂川流域は倒位が多く見られる。火葬墓の立地については単独・墓群のどちらもあるが、卓越した古墳群や官衙・寺院の近隣など地域の拠点的立地が選択される傾向が顕著である（吉沢悟 1995）。

本遺跡周辺には古墳群が多く、調査区にかかる喜平塚古墳との関連の可能性も考えられる。火葬の受容については全国的に見て畿内・九州・関東が抜きんでており、関東では千葉県を筆頭として茨城県・群馬県・神奈川県が積極的であると見られる。火葬に



第 154 図　9 号土坑出土遺物

限らず、寺院や仏教系遺物の出土が非常に多く、仏教の受容に積極的であったとも言える。受容層としては寺院建立などを積極的に行っていた郡司や在地有力者層を想定できる。

表 76　9 号土坑遺物観察表

cm, g

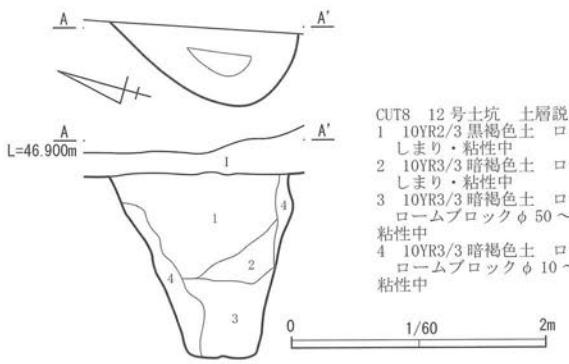
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	No. 1	灰釉陶器	壺（蔵骨器）	—	14.8	<21.4>	2710	高台は短く直立する。肩部の張りは強く、最大径を上位に有す。見込みは平坦で胴部下半は直線的に開く。口縁は人為的に打ち欠かれている。外端接地。焼成時に於ける置き台（坏）が底部に付着。	ロクロ整形。底部の調整は不明。	良好	内面　7.5Y4/1灰 外面　7.5Y2/1黒	小～大礫・鉄分の噴出しやや多い。	口縁部打ち欠き	原始灰釉陶器ｂ、東海系（猿投窯）
2	No. 2	須恵器	甕（蔵骨器蓋）	—	14.0	<3.2>	260.9	底部はやや上げ底気味の平底。胴部下端は僅かに外傾し直線的に立つ。	底部は砂目、中央部に同心円状の不明圧痕有り。内面はナデ整形。外面下端はヘラケズリ。	良好	内面　5Y7/2灰白 外面　2.5Y6/3にぶい黄	長石・石英・雲母やや多い。	底部のみ	蓋として使用新治産
3	No. 2	須恵器	坏	—	6.5	<3.4>	72.1	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り。	還元不良	内外面　10YR5/3にぶい黄褐	小～中礫・白色針状物質やや多い。鉄分の噴出し微量。	体部下半～底部1/2	

第 3 節　その他の遺構

第 1 項　土坑

12 号土坑　（第 155 図，図版 85）

本遺構は E2-11 グリッドにおいて検出した。調査区南端にあり、殆どが調査区外であるが、深さは 144 cmあり、上端の幅が 150 cmなのに対し、下端が 50 cmと窄まる形態を採る。縄文時代の陥し穴の可能性が考えられる。



CUT8　12 号土坑　土層説明
1　10YR2/3 黒褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多しまり・粘性中
2　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多しまり・粘性中
3　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 3 ㎜多ロームブロックφ 50 ～ 100 ㎜中　しまり・粘性中
4　10YR3/3 暗褐色土　ローム粒φ 1 ～ 5 ㎜多ロームブロックφ 10 ～ 50 ㎜中　しまり・粘性中

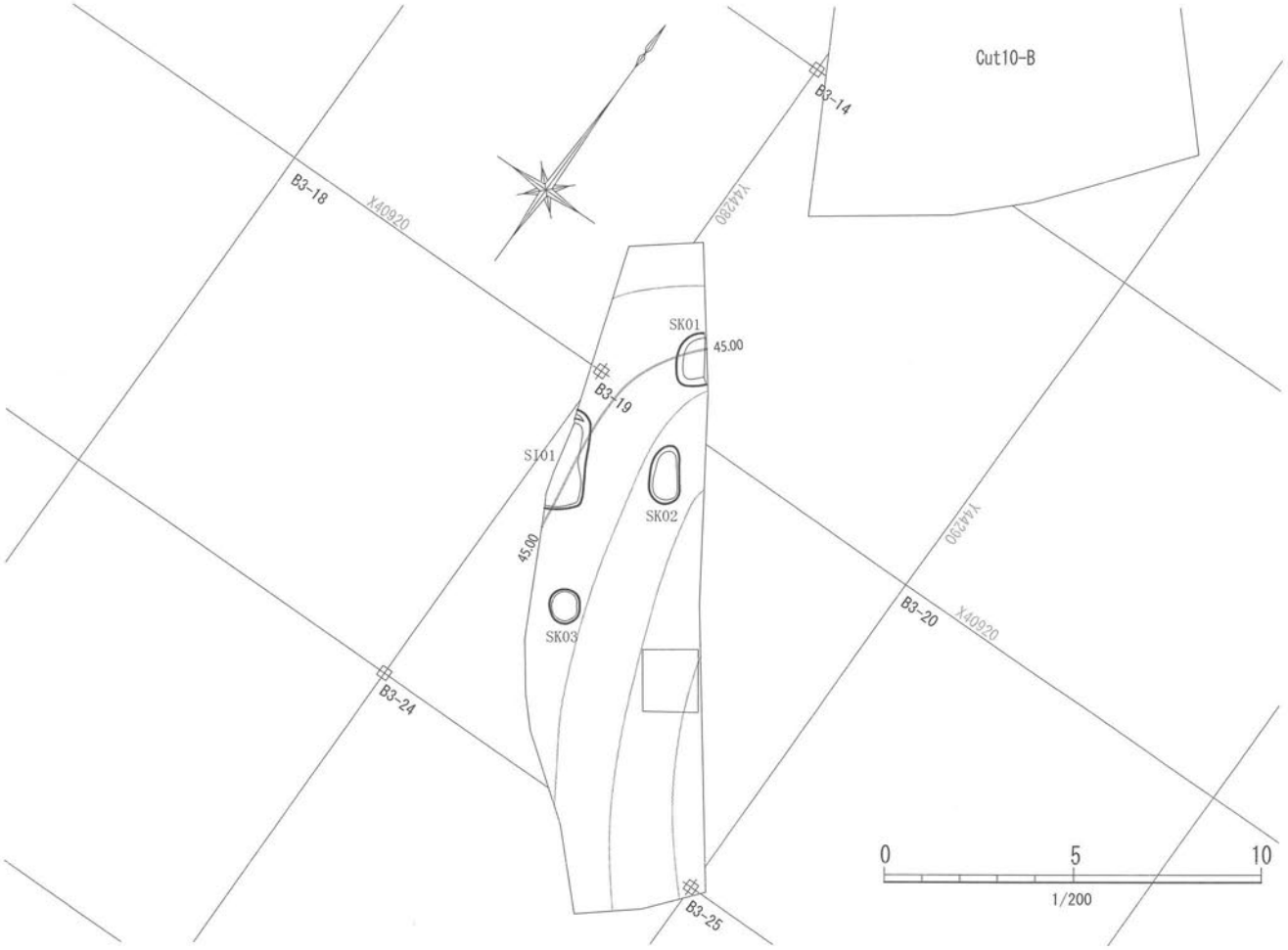
第 155 図　12 号土坑

表 77　CUT8 土坑・ピット計測表

遺構名	位置	規模	備考
		長径×短径×深さ(cm)	
SK01	D2-04	113.5×113.1×31	
SK02	—	—	欠番
SK03	D2-09	153.7×(127.7)×36	
SK04	D2-05	105.6×74.7×12	
SK05	D2-09	87.5×80.7×10	>P10
SK06	E2-01	(47.7)×(16.2)×29	>SK07
SK07	E2-01	(94.2)×(81.3)×22	<SK06
SK08	—	—	欠番
SK09	D2-09	110.4×68.6×31	火葬墓
SK10	D2-10	168.7×58.5×23	<SK11
SK11	D2-10	157.6×52.6×3	>SK10
SK12	E2-11	136.4×(55.4)×112	
P01	D2-05	47.6×43.4×50	
P02	E2-06	103.2×93.5×36	
P03	—	—	欠番
P04	—	—	欠番

第 3 章　まとめ

喜平塚古墳に関しては周溝のみの調査に留まったため、詳細は不明である。しかし火葬墓（9 号土坑）に関して、他の火葬墓の埋葬傾向から考えて、集落の外れの、喜平塚古墳が近接する立地を意識して選択している可能性が高い。9 世紀後半と見られる CUT5 の 27 号住居跡からは仏鉢が出土しており、この集落が仏教の受容に積極的であったことを示唆するものと考えられる。縄文時代の陥し穴については、本調査区では縄文土器は出土していないが、他の調査区で出土していることから、当該期の遺構が存在したことは十分に想定される。



第156図　CUT9　全体図

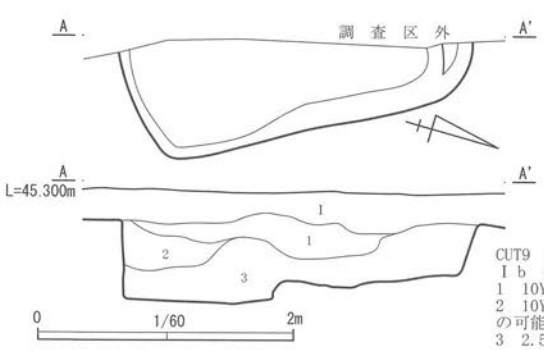
Ⅶ　CUT9

第1章　遺跡の概要

本調査区はCUT10Bの南に位置し、概ね南西方向に長三角形状の調査範囲である。調査区の標高は中央付近で45.00mを測り、東から北西に向かって緩やかに傾斜している。舌状台地の端部に当たる。検出された遺構は竪穴住居跡1軒、土坑3基である。

第2章　検出された遺構・遺物

第1節　住居跡



第157図　1号住居跡

1号住居跡　（第157図）

調査区中央調査区壁に一部がかかる状態で検出された。残存長軸（2.70）m、短軸（0.96）m、主軸方位N 28.5° W、確認面からの深さは66㎝である。カマド・周溝・硬化面は検出されなかった。遺物は出土していない。

CUT9　1号住居跡　土層説明
Ⅰb　表土　耕作土
1　10YR4/3にぶい黄褐色土・10YR6/4にぶい黄橙色土混入　ローム土少　焼土粒子微量
2　10YR4/3にぶい黄褐色土・10YR6/4にぶい黄橙色土混入　ローム土中　鹿沼土ブロック中　人為堆積の可能性あり
3　2.5Y7/4浅黄色土　ローム土含む　鹿沼土粒・ブロックφ5～30㎜多　人為堆積

第2節　その他の遺構と遺物

1号土坑　（第158図，図版87）

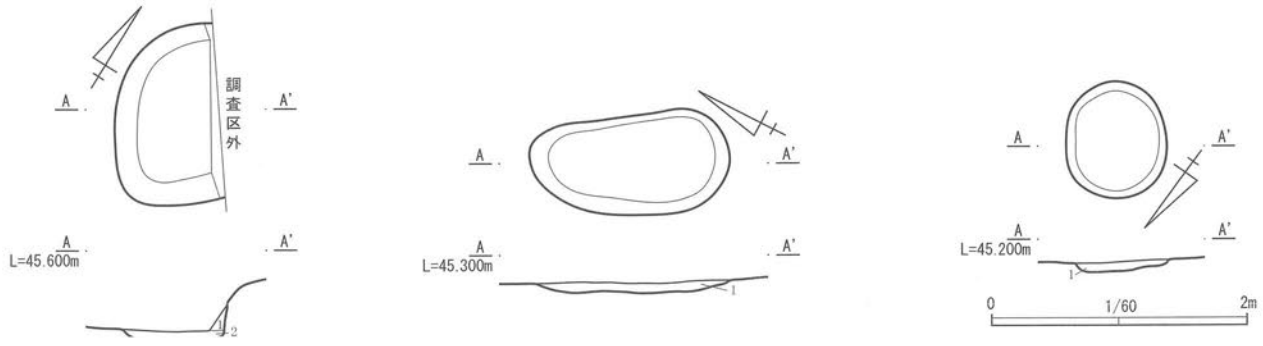
本遺構はB3-14グリッド、調査区東壁にかかる形で検出した。残存長径140㎝、短径(100)㎝で長方形と推測される。深さは8.5㎝と浅く、性格は不明である。遺物は出土していない。

2号土坑　（第158図，図版87）

本遺構はB3-19グリッドにおいて検出した。長径160㎝、短径80㎝で、深さは7.3㎝と浅い楕円形であるが、性格は不明である。遺物は出土していない。

3号土坑　（第158図）

本遺構はB3-19グリッドにおいて検出した。径80㎝で、深さは9.9㎝と浅い円形となるが、性格は不明である。遺物は出土していない。



CUT9　1号土坑　土層説明
1　10YR4/3にぶい黄褐色土　鹿沼土粒・ブロック
φ5～10㎜多　人為堆積
2　10YR5/3にぶい黄褐色土　鹿沼土粒・ブロック
φ2～12㎜多　人為堆積

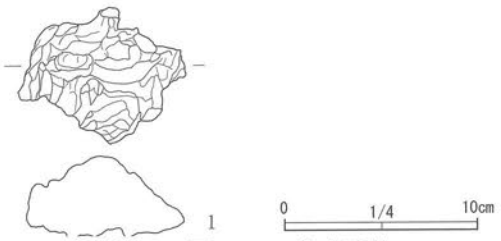
CUT9　2号土坑　土層説明
1　10YR4/2灰黄褐色土　鹿沼土粒φ2～5㎜少
炭化物微量　人為堆積

CUT9　3号土坑　土層説明
1　10YR5/4にぶい黄褐色土　鹿沼土粒φ2～5㎜
微量　人為堆積

第158図　1・2・3号土坑

第3節　遺構外出土遺物　（第159図）

表土中からは遺物が出土した。詳細は観察表に記した。



第159図　CUT9出土遺物

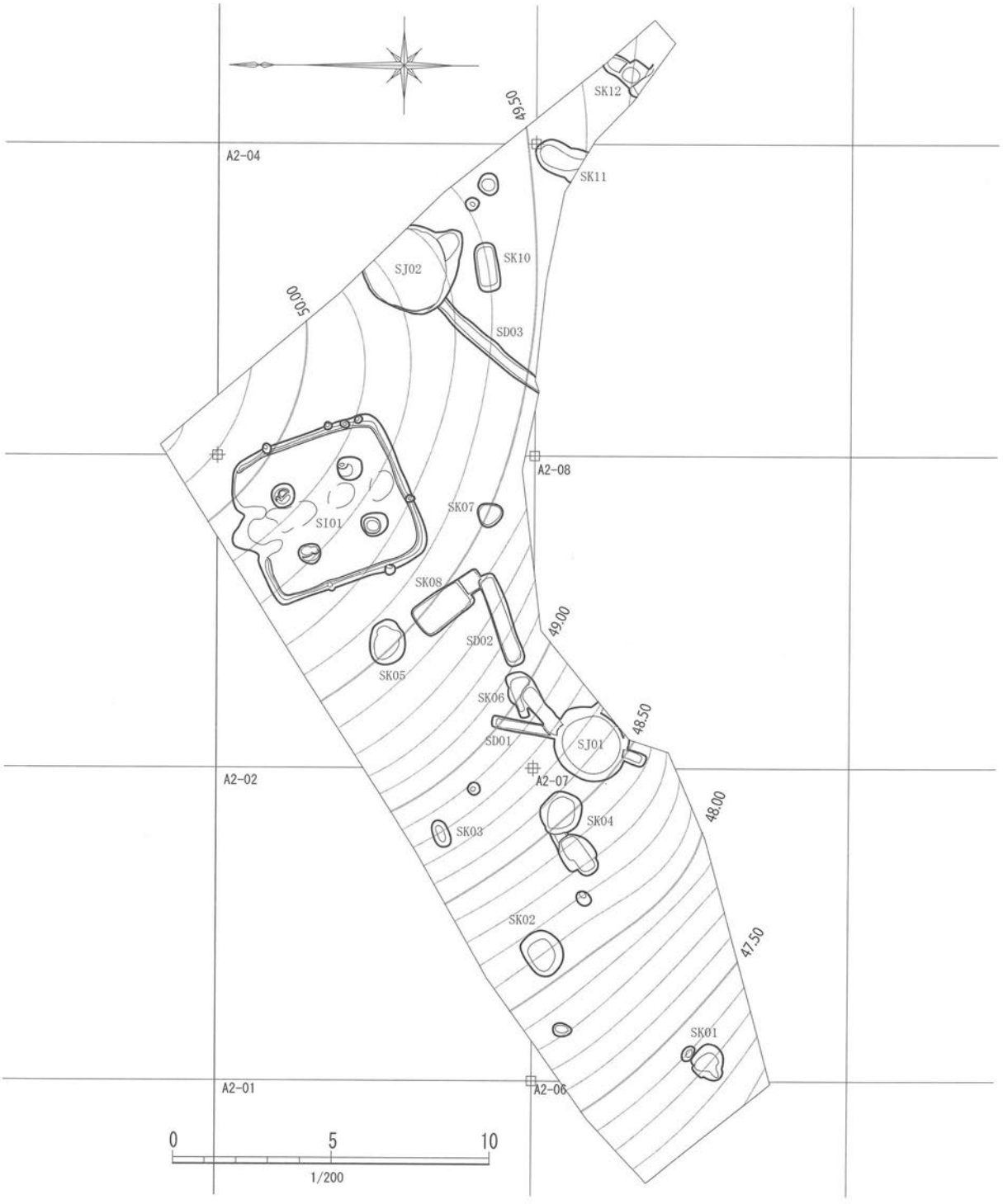
表78　CUT9遺構外遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		鉱滓	鉄滓	縦7.0	横8.1	厚さ4.0	164.4	塊状。						

第3章　まとめ

調査区の地形と隣接する調査区の遺構密度などを鑑みるに、本調査区は集落の外れか、空閑地に当ると考えられる。本調査区の調査によって集落の範囲を確認することが出来た。



第 160 図　CUT10A　全体図

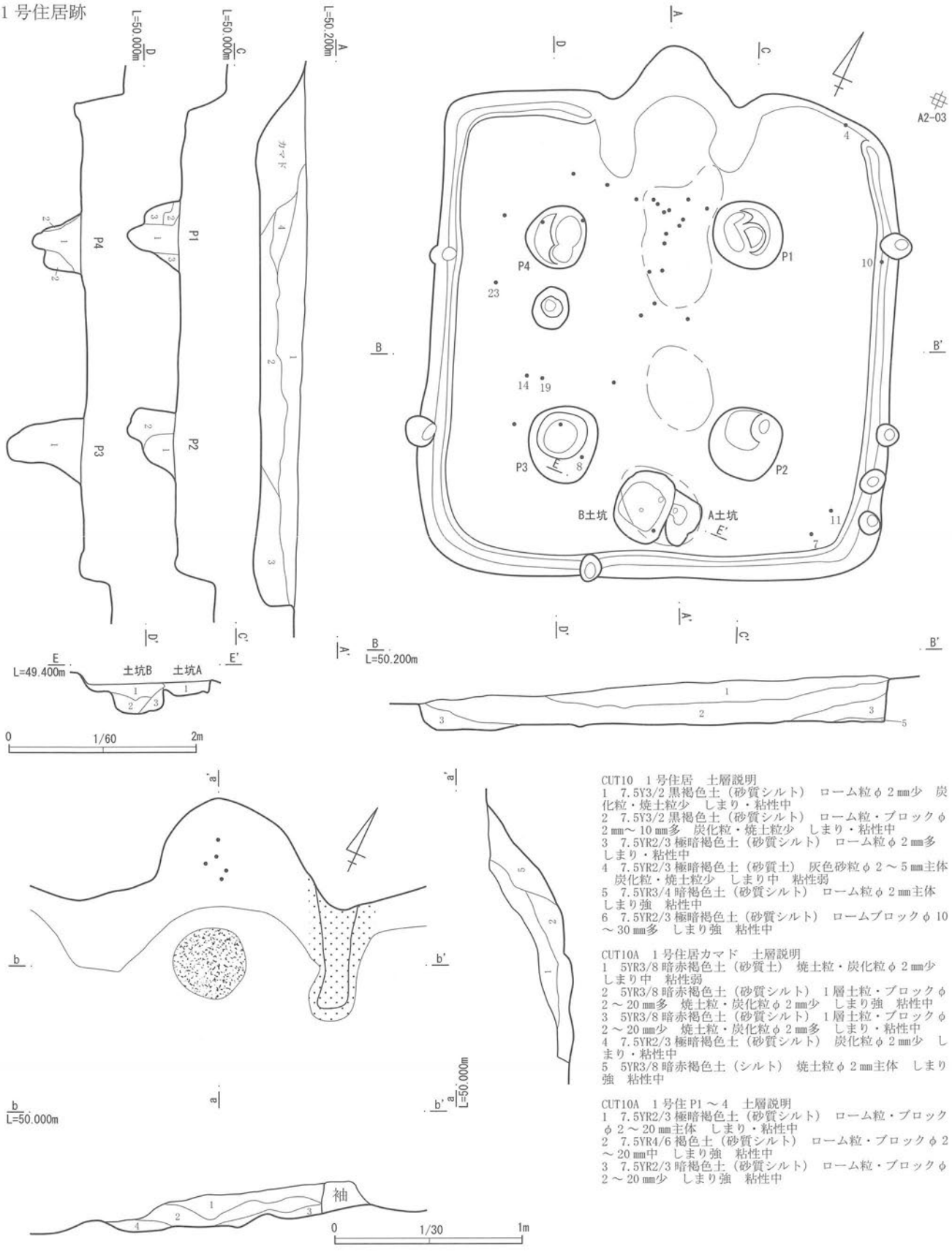
Ⅷ　CUT10A

第 1 章　遺跡の概要

本調査区は遺跡の西端にあり、調査区の北端の標高は 52.00m を測り、南端では 47.50m となる傾斜のある地区である。

検出された遺構は竪穴住居跡 1 軒、地下式坑 2 基、溝 3 条、土坑 11 基である。

１号住居跡



CUT10　１号住居　土層説明
1　7.5Y3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ２㎜少　炭化粒・焼土粒少　しまり・粘性中
2　7.5Y3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ２㎜～10㎜多　炭化粒・焼土粒少　しまり・粘性中
3　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ２㎜多　しまり・粘性中
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質土）　灰色砂粒φ２～５㎜主体　炭化粒・焼土粒少　しまり中　粘性弱
5　7.5YR3/4 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒φ２㎜主体　しまり強　粘性中
6　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ロームブロックφ10～30㎜多　しまり強　粘性中

CUT10A　１号住居カマド　土層説明
1　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質土）　焼土粒・炭化粒φ２㎜少　しまり中　粘性弱
2　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質シルト）　１層土粒・ブロックφ２～20㎜多　焼土粒・炭化粒φ２㎜少　しまり強　粘性中
3　5YR3/8 暗赤褐色土（砂質シルト）　１層土粒・ブロックφ２～20㎜少　焼土粒・炭化粒φ２㎜多　しまり・粘性中
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　炭化粒φ２㎜少　しまり・粘性中
5　5YR3/8 暗赤褐色土（シルト）　焼土粒φ２㎜主体　しまり強　粘性中

CUT10A　１号住P１～４　土層説明
1　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ２～20㎜主体　しまり・粘性中
2　7.5YR4/6 褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ２～20㎜中　しまり強　粘性中
3　7.5YR2/3 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ２～20㎜少　しまり強　粘性中

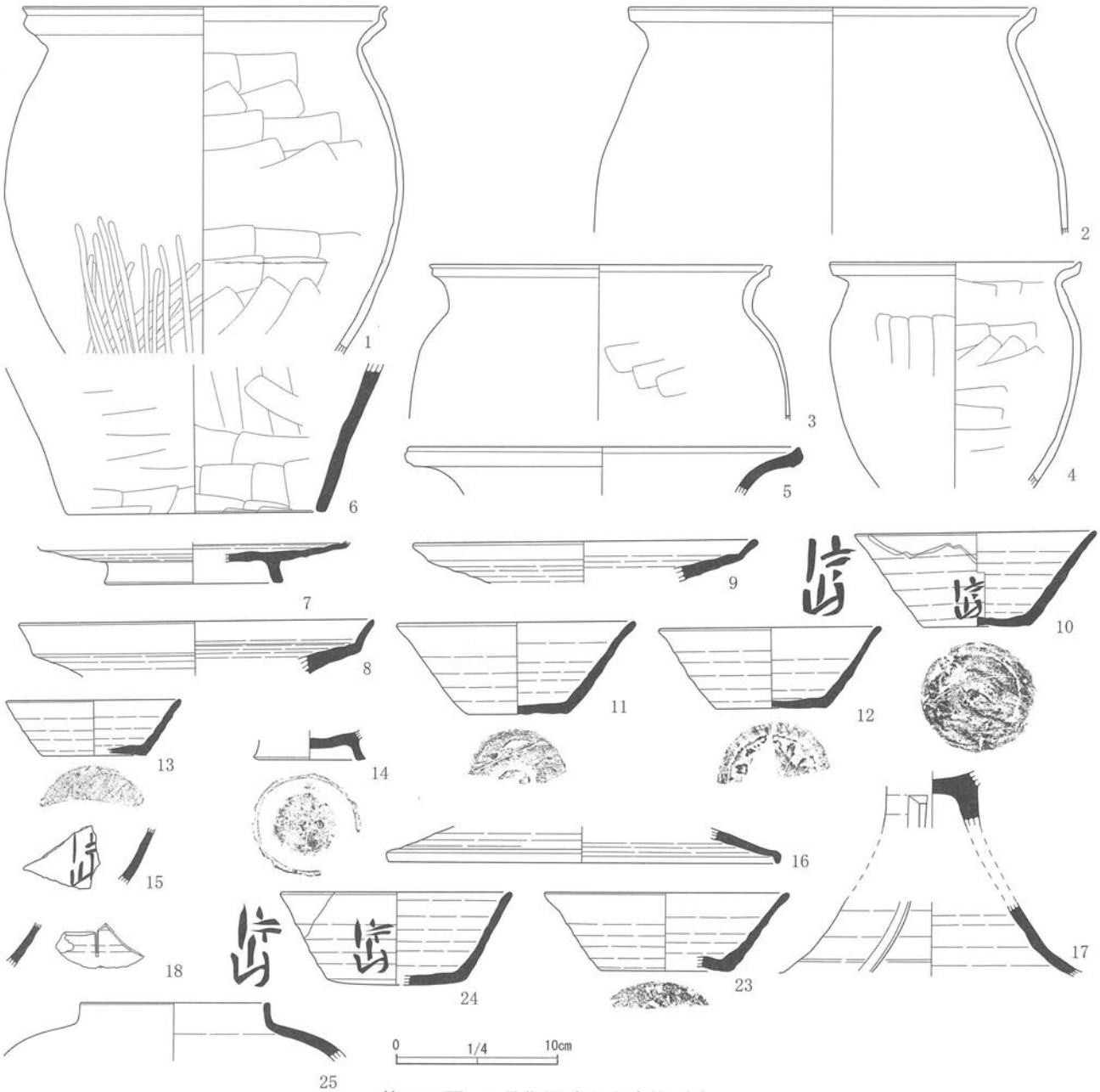
第161図　１号住居跡

1号住居跡　（第161・162・163図，図版88・105・106）

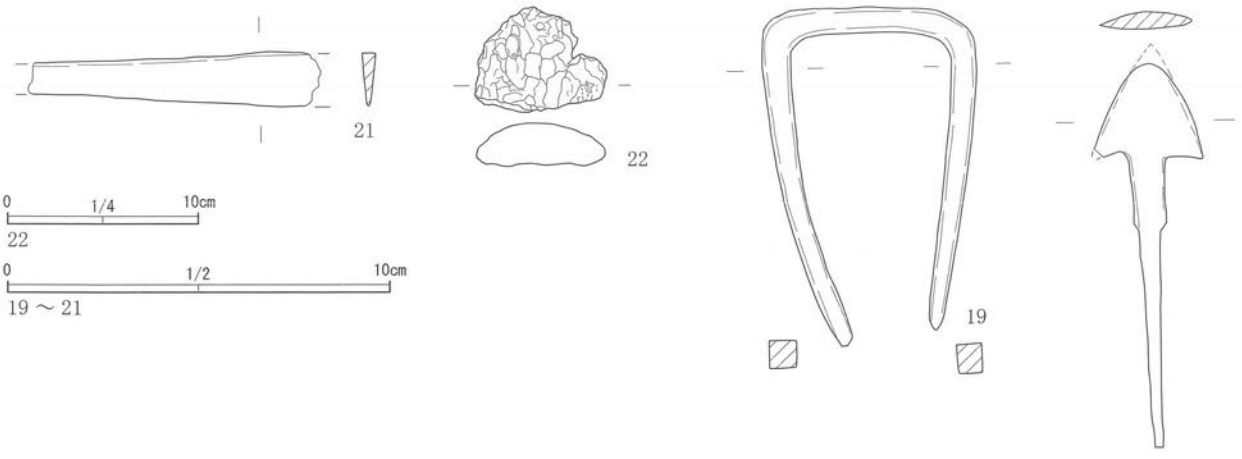
本遺構はA2-3グリッドに於いて検出された。規模は長軸5.25m、短軸5.02m、主軸方位はN 22° Wを指す。確認面からの深さは48cmを測る。掘り込みが深く遺存状況は良好である。覆土は5層に分層され、自然堆積の様相を呈する。

カマドは北壁中央に付設され、右袖が内湾するように残存し、柱穴は4基が対称に配される。硬化面は住居中央に部分的に検出された。周溝はカマドを除いてほぼ全周する。周溝には30cm前後の径のピットが東壁に4基、西壁に2基、南壁に1基確認された。

遺物は土師器甕とともに、須恵器甕・甑・高台付盤・蓋・坏など須恵器の占める率が比較的高い。遺物から9世紀前半に属する遺構と判断される。墨書土器では「片山」が3点出土した。いずれも須恵器坏体部外面に正位に墨書しており、字形には共通性があるため、同時に墨書された可能性も考えられる。



第162図　1号住居跡出土遺物（1）



第 163 図　1 号住居跡出土遺物（2）

表 79　1 号住居跡遺物観察表（1）

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	ｶﾏﾄﾞ No. 31	土師器	甕	22.2	—	<21.0>	454.5	胴部の張りはやや強い。胴部は緩やかに内湾し口縁で「く」の字に屈曲し口唇の摘上げは明瞭。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面はナデ、下半はミガキ。内面はナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　7.5YR5/4 明褐 外面　7.5YR5/6 にぶい褐	長石・石英・雲母多い。	口縁1/2 胴部1/4	
2	ｶﾏﾄﾞ No. 17, 32	土師器	甕	24.7	14.1	—	190.6	胴部の張りはやや強い。胴部は緩やかに内湾し口縁で短く「C」の字に屈曲し口唇の摘上げは明瞭。器壁は薄い。	器面剥落。	良好 二次焼成ｱﾘ	内外面　5YR5/6 明赤褐	小礫（長石・石英）多い。雲母やや多い。	口縁～肩部1/4	
3	ｶﾏﾄﾞ No. 32	土師器	甕	(20.6)	—	<9.6>	107.8	胴部の張りはやや強い。胴部は緩やかに内湾し口縁で短く「C」の字に屈曲し口唇の摘上げは明瞭。器壁は薄い。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面は剥落。内面はナデ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　10YR6/4 にぶい橙 外面　7.5YR6/6 橙	長石・石英多い。雲母やや多い。	口縁～肩部1/4	
4	No. 1	土師器	甕	15.2	—	<13.7>	212.9	小形の甕である。胴部はやや張る。口縁は短く「く」の字に屈曲し口唇の摘上げは明瞭。口縁は広さがある。	口縁は内外面共に横ナデ。胴部外面はナデ、下半は剥落。内面はナデ整形。	良好	内面　10YR4/2灰黄褐 外面　10YR4/1褐灰	小礫（長石・石英）やや多い。雲母・スコリア少量。	口縁～胴下半1/2	
5	覆土	須恵器	甕	(23.8)	—	<3.0>	34.2	口縁は緩やかに外反し、口唇で折り返した後摘み上げられる。	内外面共に横ナデ。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　5Y5/1灰	雲母やや多い。白色粒子少量。	口縁部1/8	
6	覆土	須恵器	甕	—	(16.0)	—	95.1	バケツ形を呈し、直線的に立つ。	内外面共に上半ははナデ、下端はヘラケズリ。	還元不良	内面　2.5Y6/3にぶい黄 外面10YR5/3にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子少量。白色針状物質・雲母微量。	体部下半1/5	
7	No3	須恵器	高台付盤	—	11.0	<2.5>	142.5	高台は「ハ」の字に付される。見込みは緩やかに内湾し、僅かに屈曲部分が認められる。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリか。	還元不良	内外面 2.5YR5/2灰赤	鉄分の噴出し多い。長石・石英・雲母やや多い。	底部1/2	内面に重ね焼き痕ｱﾘ
8	No. 6	須恵器	高台付盤	21.7	—	<2.5>	59.3	高台欠損。見込みは直線的に大きく開き、口縁は屈曲した後緩やかに外反し立つ。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	鉄分の噴出し多い。	口縁～体部1/4	
9	覆土	須恵器	高台付盤	20.8	—	<2.6>	42.7	高台欠損。見込みは直線的に大きく開き、口縁は屈曲した後緩やかに外反し立つ。	ロクロ整形。	還元不良	内面　7.5YR5/3 にぶい褐 外面　10YR5/3にぶい黄褐	小～中礫（長石・石英）・白色粒子・白色針状物質多い。	口縁～体部1/4	
10	No. 2	須恵器	坏	14.6	6.7	6.7	197	底部は平底で体部は直線的に開く。深身である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内外面　5Y7/2灰白	小～大礫・白色粒子多い。角閃石やや多い。	口縁1/4欠損	体部外面正位墨書「片山」底部ヘラ記号
11	No. 4	須恵器	坏	14.6	6.0	5.5	126.2	底部は平底。体部は直線的に開いた後口縁で僅かに外反する。深身である。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　7.5Y6/2灰オリーブ	小～大礫・白色粒子やや多い。黒色粒子・白色針状物質少量。	1/2	底部ヘラ記号
12	覆土	須恵器	坏	(13.2)	6.8	4.9	54.5	底部は平底。体部は直線的に開いた後口縁で僅かに外反する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子やや多い。黒色粒子・白色針状物質少量。	口縁1/4 体～底部1/2	底部ヘラ記号
13	覆土	須恵器	坏	(10.7)	6.4	3.4	27.3	小形の坏である。底部は上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後一方向の手持ちヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y7/2灰白 外面　5Y56/2灰オリーブ	黒色粒子・白色針状物質少量。	口縁～体部1/4 底部1/2	底部ヘラ記号
14	No. 9	須恵器	高台付坏	—	6.4	<1.85>	53.8	高台は「ハ」の字に付される。見込みは緩やかに内湾する。内端接地。	ロクロ整形。底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　7.5Y6/2灰オリーブ 外面　10Y6/1灰	小～中礫・白色粒子・鉄分の噴出しやや多い。	底部のみ	底部ヘラ記号
15	覆土	須恵器	坏	—	—	<3.4>	7.3	緩やかに内湾する体部片。	ロクロ整形。	良好	内面　5Y7/2灰白 外面　5Y6/2灰オリーブ	白色粒子・白色針状物質・黒色粒子少量。	体部片	体部外面墨書「片山」
16	覆土	須恵器	蓋	(23.8)	—	<2.25>	29.8	形状は弓張り状を呈する。裾部はやや外反し端部は屈曲する。返しは無い。	ロクロ整形。	良好	内面　2.5Y6/1黄灰 外面5Y6/2灰オリーブ	鉄分の噴出し多い。小礫・白色粒子少量。	裾～端部1/6	
17		須恵器	高坏	—	—	<12.7>	50.5	裾部は緩やかに外反する。透かしは3方。	ロクロ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　5Y6/2灰オリーブ 外面　5Y5/1灰	小～中礫・白色粒子少量。黒色粒子・白色針状物質微量。	接合部1/3 裾部片	接合実測

表 80　1 号住居跡遺物観察表（2）

cm, g

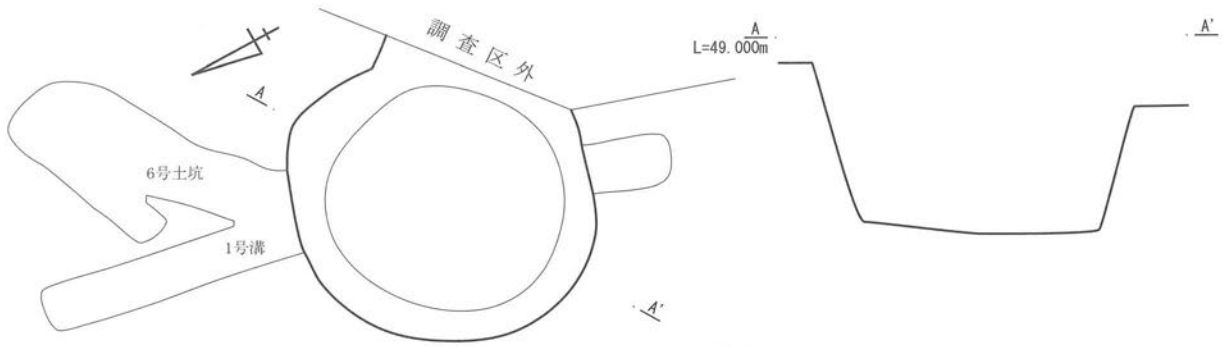
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
18	ｶﾏﾄﾞ	須恵器	不明	—	—	<2.6>	8.1	幅1～2ミリ程のスリットが確認される。	ロクロ整形。	良好	内外面　5Y6/1灰	白色粒子・白色針状物質・黒色粒子少量。		
19	No. 10	鉄製品	鎌	全長8.7　幅0.7　厚さ0.7　重量36.7。				断面方形の棒状鉄を「コ」の字に折り曲げ、先端部分はやや細くとがっている。鎌と判断した。						
20		鉄製品	鉄鏃	鏃身残存長<3.1>　鏃身幅<2.9>　鏑被2.0　鏑被幅0.9　茎5.4　茎幅0.4　重量11.2				三角形鏑被鏃である。鏃身は三角形を呈し、腸抉がやや張る。茎部との間には関部がある。断面形は鏃身部でレンズ形、鏑被部は方形、茎部は円形になる。ほぼ完形である。						
21		鉄製品	刀子	残存長<7.7>　厚さ0.8　幅0.35　重量10.5				先端および基部は欠損する。先端部分に向かって研ぎ減らされて細くなる。基部側は欠損しており関部の造りは確認できない。						
22		鉱滓	鉄滓	縦5.4　横6.7　厚さ2.2　重量81.2				塊状を呈する。やや塊形に近い。						
23	No. 12	須恵器	坏	14.7	(7.6)	4.85	67.3	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開き、口唇で外反肥厚する。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後ナデ。	良好	内面　2.5GY オリーブ灰 外面　10Y5/1灰	小～中礫・白色粒子多い。黒色粒子・白色針状物質微量。	口縁～底部1/3	
24	ホリカタ	須恵器	坏	14.0	5.75	8.4	106.1	底部は僅かに丸底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ整形。底部は回転ヘラ切り後中央部分をナデ整形。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子やや多い。鉄分の噴出し・針状物質少量。	口縁～底部1/2弱	体部外面正位墨書「片山」
25	ホリカタ	須恵器	短頸壺	(11.5)	—	<3.6>	63.6	肩部の張りは強く、口縁は短く立つ。	ロクロ整形。	良好 二次焼成ｱﾘ	内面　5Y3/1オリーブ黒 7.5Y4/1灰	小～中礫・白色粒子やや多い。鉄分の噴出し・針状物質少量。	口縁～肩部1/6	自然釉が被熱し発泡している。

第 2 節　中近世の遺構と遺物

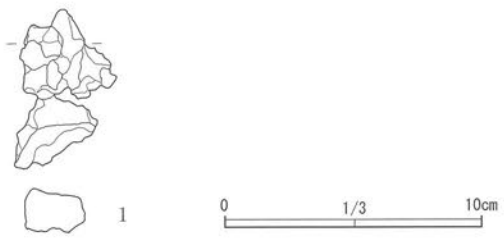
第 1 項　地下式坑

1 号地下式坑　（第 164・165 図，図版 88・106）

本遺構は A2-3 グリッド、調査区南壁際において検出された。1 号溝との新旧関係は不明である。長径 2.55m、短径 2.22m、 深さ 1.24m である。一部調査区外になるため、地下式坑としての構造が不明である。遺物は鉄滓 1 点であるため、時期は不明であるが、中近世に属すると考えられる。



第 164 図　1 号地下式坑



第 165 図　1 号地下式坑出土遺物

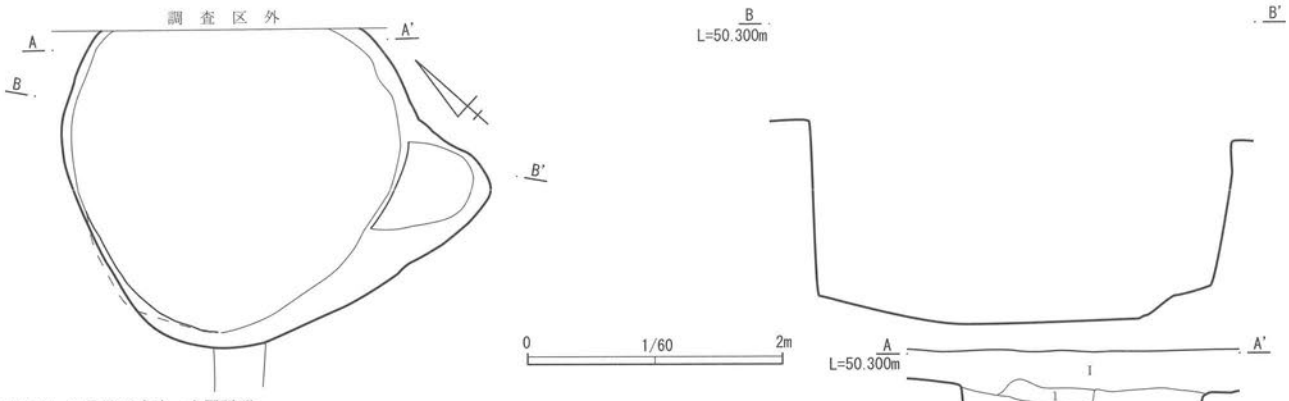
表 81　1 号地下式坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1		鉱滓	鉄滓	縦6.2	横4.1	厚さ1.7	29	塊状の鉄滓。						

2 号地下式坑　（第 166 図，図版 88）

本遺構は A2-4 グリッド、調査区東壁際において検出された。3 号溝との新旧関係は不明である。長径 2.71m、短径 (2.52) m、 深さ 1.79m である。南東に一部調査区外になるため、地下式坑としての構造が不明である。遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、中近世に属すると考えられる。



CUT10A　2号地下式坑　土層説明
1　7.5Y3/2 黒褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜中　炭化粒φ2㎜中　しまり弱　粘性中
2　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜中　炭化粒φ2㎜中　しまり弱　粘性中
3　7.5Y3/2 黒褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　炭化粒φ2㎜少　しまり弱　粘性中
4　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜中　鹿沼土粒・ブロックφ2～10㎜少　炭化粒φ2㎜多　しまり弱　粘性中
5　7.5YR4/4 褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜主体　炭化粒φ2㎜中　しまり・粘性中
6　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜多　炭化粒φ2㎜中　しまり・粘性中
7　7.5YR2/3 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜中　炭化粒φ2㎜少　しまり・粘性中
8　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　炭化粒φ2㎜少　しまり・粘性中
9　7.5YR2/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜多　鹿沼土ブロックφ10～50㎜少　しまり強　粘性なし
10　7.5YR2/3 暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　しまり強　粘性中
11　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　しまり強　粘性中
12　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜中　しまり強　粘性中
13　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　炭化粒φ2㎜中　しまり強　粘性中
14　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　鹿沼土ブロックφ10～50㎜少　炭化粒φ2㎜中　しまり強　粘性中
15　7.5YR2/3 暗褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜多　鹿沼土ブロックφ10～50㎜主体　しまり強　粘性なし
16　7.5YR2/3 極暗褐色土（砂質シルト）　ローム粒・ブロックφ2～10㎜少　炭化粒φ2㎜中　しまり・粘性中
17　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜多　鹿沼土ブロックφ10～50㎜主体　しまり強　粘性なし
18　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒・ブロックφ2～10㎜多　鹿沼土ブロックφ10～50㎜主体　しまり強　粘性なし

第166図　2号地下式坑

第2項　その他の遺構と遺物　（第167・168・169・170・171・172図，図版106）

その他の遺構としては土坑が12基、溝が3条検出された。1号土坑からは鉄釉の土瓶、9号土坑からは肥前系の白磁の輪花皿、1号溝からは肥前系の染付の小杯が出土した。また須恵器蓋が出土しているが、時期は明確ではない。陶磁器はいずれも近世の遺物と考えられる。5号土坑からは須恵器甕・坏が出土しており、8世紀の遺物と見られる。

第167図　1号土坑出土遺物

表82　1号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	陶器	土瓶	—	(6.5)	<1.4>	29.1	底部はやや上げ底気味の平底。体部下端は直線的に開く。	ロクロ整形。体部下端～底部は回転ヘラケズリ。	良好	内面　5Y5/4オリーブ 外面　10YR6/4にぶい黄橙	白色粒子・黒色粒子微量。	底部1/2	鉄釉

第168図　5号土坑出土遺物

表83　5号土坑遺物観察表

cm, g

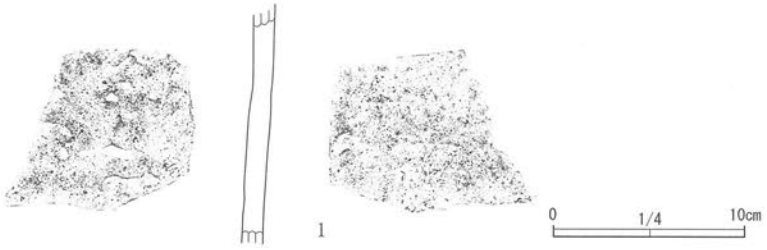
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	W	須恵器	甕	(28.3)	—	<7.5>	66.7	バケツ形ヵ。口縁は短く「C」の字に外反し、口唇は折り返した後摘み上げられる。	回転台使用ヵ。	良好	内外面　5Y5/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子少量。鉄分の噴出し・針状物質微量。	口縁部1/8	
2	W	須恵器	坏	—	6.8	<4.5>	74.8	底部はやや上げ底気味の平底。体部下端は直線的に開く。器壁は厚い。	ロクロ整形。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ナデ整形。	良好	内外面　5Y6/2灰オリーブ	小～中礫・白色粒子・鉄分の噴出し・針状物質少量。	体部1/3 底部1/2	

第169図　9号土坑出土遺物

表84　9号土坑遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	S	白磁	輪花皿	(13.8)	—	<2.7>	19.8	口縁部には輪花が施まれ、波状を成す。	ロクロ成形の後型打成形を行う。	良好	内外面 7.5GY8/1明緑灰	精良	口縁部1/4	肥前系。透明釉に口唇部に錆釉を施す。



第170図　12号土坑出土遺物

表85　12号土坑遺物観察表

cm, g

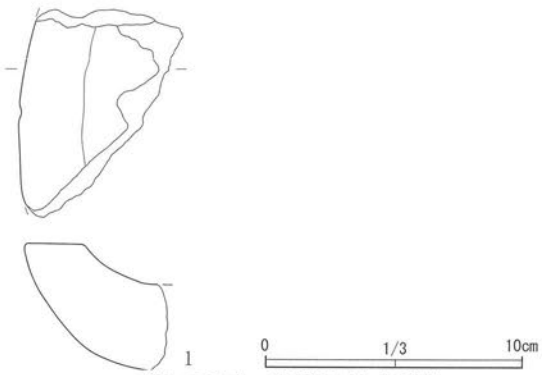
報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	N	焼締陶器	甕	—	—	<12.5>	140.4	胴部の破片である。直線的に開く。	叩きによる整形後にナデを行う。押印見られない。	良好	内面　10YR6/3にぶい黄橙 外面　7.5YR6/4にぶい橙	長石少量	胴部片	常滑

第171図　1号溝出土遺物

表86　1号溝遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	S	須恵器	蓋	—	—	<2.8>	53.6	天井は緩やかに内湾する。ツマミは擬宝珠状を呈する。	ロクロ成形。天井は回転ヘラケズリが廻る。	良好	内面　7.5Y5/1灰 外面　5Y4/1灰	鉄分の噴出し多い。小礫・白色粒子少量。	ツマミ部のみ	
2	S	染付	小杯	—	2.4	<1.8>	8	高台は低く、体部は曲線的に立ち上がった後緩やかに開く。	ロクロ成形。	良好	内外面　5GY8/1灰白	精良	底部3/4	肥前系



第172図　遺構外出土遺物

表87　遺構外遺物観察表

cm, g

報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
1	覆土	石製品	茶臼	縦8.0	横6.4	厚さ4.8	180.4	下臼の受け皿部分の破片である。内湾する鍔状の突出部で、内面の成形はやや粗い。						

第3章　まとめ

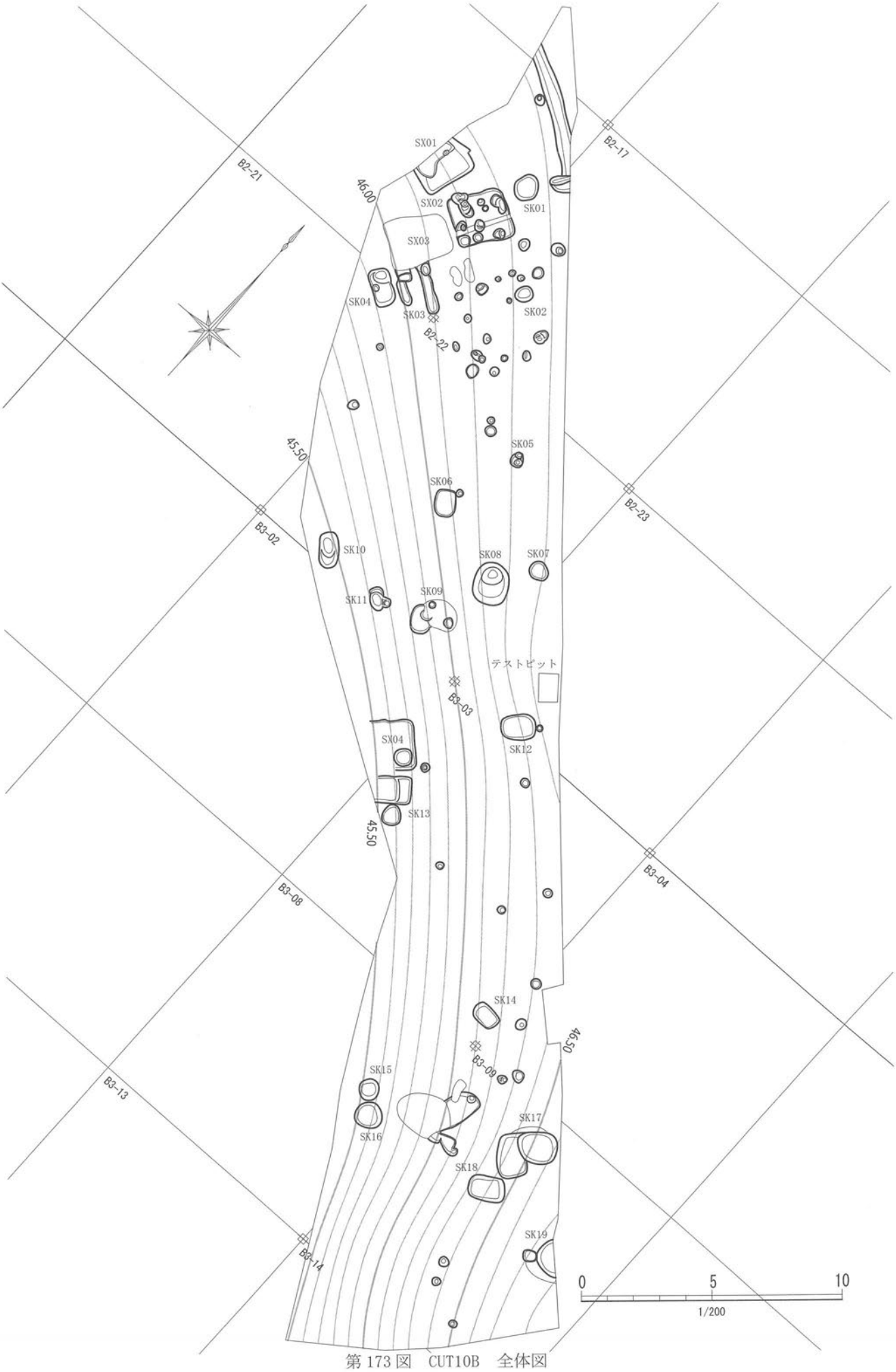
本調査区においては、平安時代の住居跡から墨書土器「片山」が3点出土したことが特徴として挙げられる。3点は墨書内容・位置、字形に共通性があり、同時使用の可能性が考えられる。

遺跡内の集落の広がりから、本調査区は古代の集落の端部か空閑地である可能性が高い。

中近世には地下式坑が2基掘削されたが、その他に遺物として中世後期の常滑甕や近世後期の肥前系磁器が出土している。よって土坑・溝などについて時期は不明ながら、中近世の遺構の可能性が想定される。

表88　CUT10A土坑・溝計測表

遺構名	位置	規模 長径×短径×深さ(cm)
SK01	A2-7	111.4×105.8×37
SK02	A2-7	144.2×122.4×338
SK03	A2-2	91.1×50.5×34
SK04	A2-7	277.2×135.3×78
SK05	A2-3	143.7×111.1×52
SK06	A2-3	251.7×105.5×48
SK07	A2-3	78.3×75.3×30
SK08	A2-4	211.9×190.6×
SK10	A2-4	157.4×70.6×35
SK11	A2-9	(151.9)×96.0×43
SK12	A2-10	(139.0)×80.5×40
SD01	A2-3・8	506.4×37.2×36
SD02	A2-3	310.6×61.1×79
SD03	A2-4	408.2×47.4×13



第 173 図　CUT10B　全体図

Ⅸ　CUT10B

第 1 章　遺跡の概要

本調査区は CUT10A の南東 CUT9 の北西に位置する。北西から南東に細長い調査区で、北東から南西にかけて傾斜する台地端部である。検出された遺構は性格不明遺構 4 基、土坑 19 基である。

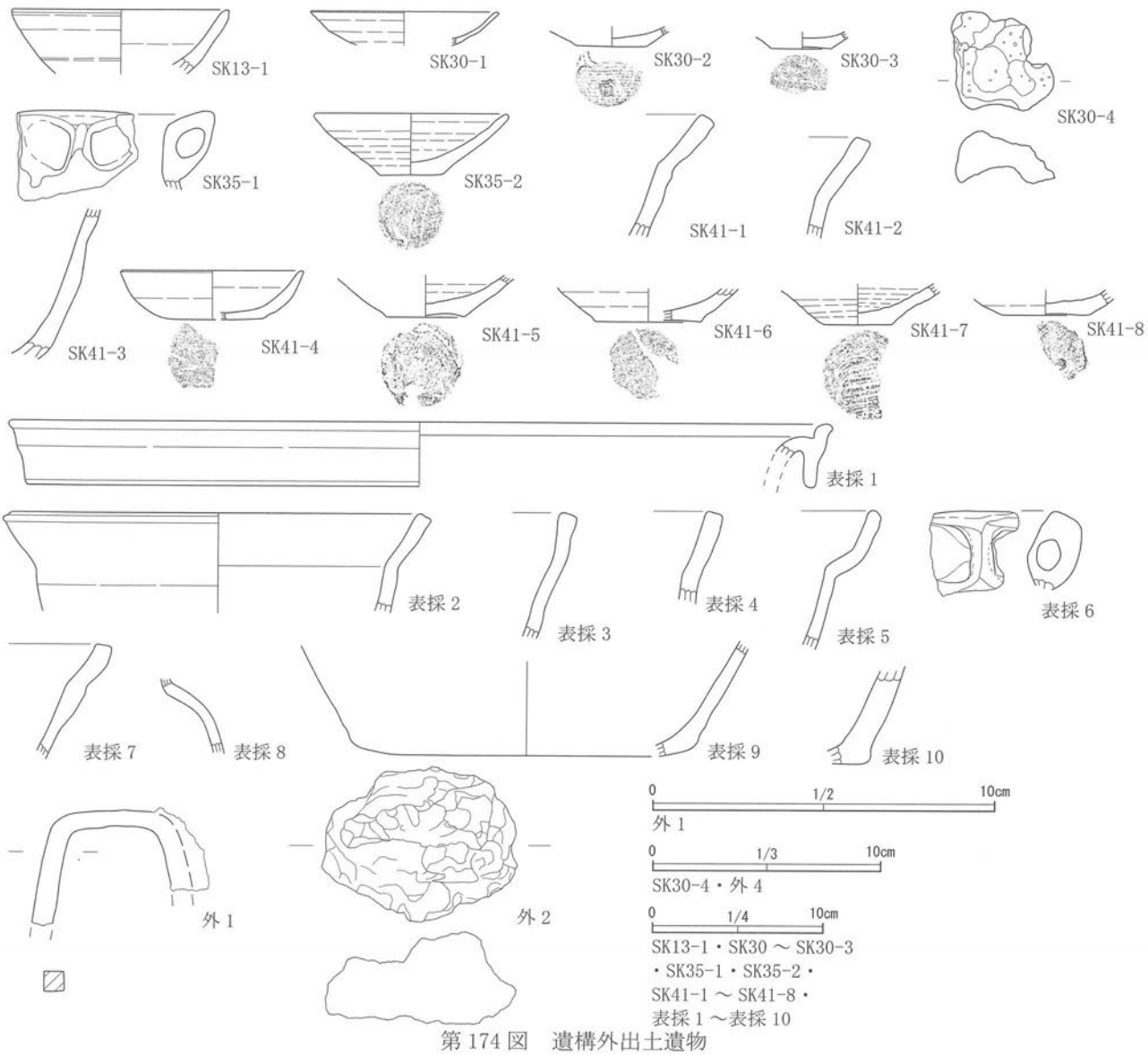
第 2 章　検出された遺構・遺物

第 1 節　検出された遺構

各遺構の詳細については、表 90 に示した。性格不明遺構については平面が方形であるという共通性があるという点が指摘される。13・30・35・41 号土坑については内耳鍋・かわらけが出土しており、中世後期の遺構と考えられる。その他の遺構については遺物が出土していないが、遺構外遺物も中世後期であることから、中世後期以降に属する可能性が高い。

第 2 節　遺構外出土遺物　（第 174 図，図版 106）

土師質の内耳鍋片、土師質のかわらけ、常滑甕片、鉄製品、鉄滓が出土している。土器類についてはいずれも中世後期の時期に属しており、本調査区の遺構が中世後期以降に属する可能性を示すものと推測される。



第 174 図　遺構外出土遺物

表 89　CUT10B 遺構外遺物観察表

(単位 g)

CUT1遺構	報告番号	注記	種類	器種	口径	底径	器高	重量	器形の特徴	整形の特徴	焼成	色調	胎土	残存	備考
一括	1	表採	焼締陶器	甕	(47.5)	—	<3.8>	132.1	口縁部断面がN字状をなす。	折返し口縁	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　5YR5/4にぶい赤褐	白色粒多い	口縁部1/4	常滑産
	2	表採	焙烙	内耳鍋	23.8	—	<5.9>	107	やや深さのある器形で、胴部上半で屈曲後口縁は内湾気味に開く。口唇部は面取られる。	ロクロ成形	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　10YR7/4にぶい黄橙	石英・雲母・白色粒多量	口縁部1/5	内面煤付着
	3	表採	焙烙	内耳鍋	—	—	<7.4>	60.4	口縁は内湾気味に立ち、口唇部は面取られる。	ロクロ成形	良好	内面　7.5Y3/2オリーブ黒 外面　7.5Y2/1黒	中礫・雲母多量	口縁部片	外面煤付着
	4	表採	焙烙	内耳鍋	—	—	<5.5>	58.8	口縁は内湾気味に立ち、口唇部は面取られる。	ロクロ成形	良好	内面　2.5Y6/4にぶい黄 外面　2.5Y3/2黒褐	雲母微量	口縁部片	外面煤付着
	5	表採	焙烙	内耳鍋	—	—	<8.2>	60.2	胴部はやや直線的に立ち、屈曲後、口縁は内湾気味になる。口唇部は面取られる。	ロクロ成形	良好	内面　2.5Y4/3オリーブ褐 外面　2.5Y4/2暗灰黄	石英・雲母・白色粒多量	口縁部片	外面煤付着
	6	表採	焙烙	内耳鍋	—	—	<4.6>	36.3	楕状の把手が内面の屈曲部に付される。	ロクロ成形	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR4/1褐灰	石英・雲母やや多い	内耳部片	外面煤付着
	7	表採	焙烙	内耳鍋	—	—	<6.7>	79	胴部は直線的に開き口縁部で僅かに屈曲して内湾気味に開く。	ロクロ成形	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　2.5Y3/2黒褐	石英・雲母・白色粒多量	口縁部片	外面煤付着
	8	表採	瓦質土器	甕	-	—	<4.4>	40	胴上半から肩部の破片。緩やかに内湾する。	ロクロ成形	良好	内面　5Y3/1オリーブ黒 外面　5Y2/1黒	白色粒・小礫少量	胴部片	
	9	表採	焙烙	内耳鍋	—	<20.0>	<5.6>	69.1	底部は平底。胴部は直線的に開く。	ロクロ成形	良好	内面　2.5Y7/4浅黄 外面　5Y3/1オリーブ黒	雲母微量	底部1/12	外面煤付着
	10	表採	焙烙	内耳鍋	—	-	<5.8>	113.9	底部は平底。胴部は内湾気味に立つ。	ロクロ成形	良好	内面　10YR4/3オリーブ褐 外面　2.5Y3/2黒褐	石英・雲母やや多い	底部片	内外面煤付着
SK-13	1	S	土師質土器	かわらけ	(12.4)	-	<3.8>	34.1	やや深さのある器形。体部は緩やかに内湾する。やや厚みがある。底部は欠損している。	ロクロ成形	良好	内面　7.5YR7/6橙 外面　7.5YR6/6橙	雲母・白色粒やや多量	口縁部1/3	
SK-30	1	W	土師質土器	かわらけ	10.8	—	<2.85>	4.5	やや浅めの器形。薄手で、体部は緩やかに内湾後、口縁部はやや外反気味に開く。	ロクロ成形	良好	内外面 7.5YR6/6橙	雲母微量	口縁部1/10	
	2	W	土師質土器	かわらけ	—	3.9	<1.2>	15.9	底部は平底。体部は内湾気味に立つ。	ロクロ成形、底部糸切り後ヘラケズリ	良好	内外面 7.5YR6/6橙	雲母微量	底部2/3	
	3	W	土師質土器	かわらけ	—	3.4	<1.0>	10.7	底部は平底。体部は内湾気味に立つ。	ロクロ成形、底部糸切り	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　10YR4/2灰黄褐	雲母やや多量	底部1/2	
	4	W	鉱滓	鉄滓	縦4.3　横4.35　厚さ2.2　重量37.2				塊状を呈する。						
SK-35	1		焙烙	内耳鍋	—	—	<4.7>	52.3	楕状の内耳が内面の屈曲部に付される。	ロクロ成形	良好	内面　10YR7/4にぶい黄橙 外面　10YR4/3にぶい黄褐	石英・雲母・白色粒多量	内耳部片	外面煤付着
	2	S	土師質土器	かわらけ	(11.2)	6.6	3.6	76.9	底部は平底で体部はやや内湾気味に大きく開く。やや深さがある。	ロクロ成形、底部糸切り後ヘラケズリ	良好	内面　7.5YR7/6橙 外面　7.5YR6/6橙	石英・雲母・白色粒多量	口縁～体部1/2 底部完形	
SK-41	1	No.1S	焙烙	内耳鍋	-	—	<7.3>	150.1	胴部はやや直線的に立ち、屈曲後、口縁は内湾気味になる。口唇部は面取られる。	ロクロ成形の後に耳は指により貼り付け成形される。	良好	内面　2.5YR6/4にぶい黄 外面　5Y2/1黒	雲母微量	口縁部片	外面煤付着
	2	S	焙烙	内耳鍋	—	-	<6.0>	63.9	胴部はやや直線的に立ち、屈曲後、口縁は内湾気味になる。口唇部は面取られる。	ロクロ成形。	良好	内面　10YR5/4にぶい黄褐 外面　5Y3/1オリーブ黒	石英・雲母・白色粒多量	口縁部片	外面煤付着
	3	S	焙烙	内耳鍋	—	-	<8.2>	92.3	胴部はやや直線的に立った後、屈曲する。口縁は欠損する。	ロクロ成形。	良好	内面　10YR6/4にぶい黄橙 外面　7.5Y2/1黒	雲母やや多量	胴部片	外面煤付着
	4	S,表採	土師質土器	かわらけ	(10.5)	6.2	2.9	31.9	底部は平底。体部は緩やかに内湾して立つ。	ロクロ成形	良好	内外面　2.5Y4/2暗灰黄	雲母やや多量	1/3	
	5	S	土師質土器	かわらけ	-	4.6	<2.5>	84.3	底部はやや上げ底気味の平底。体部は直線的に開く。	ロクロ成形	良好	内面　10YR5/3にぶい黄褐 外面　2.5Y3/2黒褐	雲母微量	体部下端～底部	
	6	S	土師質土器	かわらけ	—	6.2	<2.0>	39.4	底部は平底。体部は直線的に開く。	ロクロ成形、底部糸切り	良好	内外面　10YR7/4にぶい黄橙	雲母微量	体部下端～底部	
	7	S	土師質土器	かわらけ	—	4.0	<2.4>	37.5	底部は平底。体部は外反気味に開く。	ロクロ成形、底部糸切り後ヘラケズリ	良好	内面　10YR3/1黒褐 外面　10YR4/2灰黄褐	雲母微量	底部2/3	内面煤付着
	8	S	土師質土器	かわらけ	-	(4.9)	<1.5>	19	底部は僅かに上げ底気味になる。体部は内湾気味に立つ	ロクロ成形、底部糸切り	良好	内外面　10YR6/4にぶい黄褐	雲母微量	底部1/2	
遺構外	1		鉄製品	鎹	残存長4.15　残存高3.4　厚さ0.6　幅0.55				棒状の鉄を「コ」の字に折り曲げている。断面形は方形で、先端部はいずれも欠損している。						
	2		鉱滓	鉄滓	縦6.5　横8.5　厚さ4.0　重量292.8				塊状を呈する。						

第3章　まとめ

台地傾斜部分という立地からか、中世以前の遺構は検出されなかった。遺物の時期から遺構は中世後期以降に属すると推測される。

表90　CUT10B土坑・不明遺構計測表

遺構名	位　置	規　模 長径×短径×深さ(cm)	遺構名	位　置	規　模 長径×短径×深さ(cm)
SX01	B2-16	165.0×(133.7)×42	SK09	B2-22	111.3×85.9×56
SX02	B2-16	225.0×189.3×22	SK10	B2-22	137.6×77.8×21
SX03	B2-16	233.6×174.8×25	SK11	B2-22	92.4×53.3×50
SX04	B3-2・3	195.5×158.7×38	SK12	B2-23	134.1×102.4×23
SK01	B2-16	104.6×91.3×13	SK13	B3-3	79.2×69.4×112
SK02	B2-17	72.1×58.9×13	SK14	B3-3・4	109.7×69.1×19
SK03	B2-21	103.7×34.5×15	SK15	B3-8	82.3×77.6×105
SK04	B2-21	146.1×79.3×36	SK16	B3-8	105.7×101.1×186
SK05	B2-22	59.9×51.8×76	SK17	B3-9	230.7×166.9×41
SK06	B2-22	108.2×80.8×18	SK18	B3-9	141.9×90.7×41
SK07	B2-22	76.9×71.5×16	SK19	B3-9	146.5×(61.1)×13
SK08	B2-22	161.7×132.3×33			

X　考察

第1章　長峰西遺跡の石器

1　　整理の方法

（ア）　　石器の選択と実測図の有無

予め選択された石器について全点観察表を作成し、実測図に必要な石器とそうでない石器を選択した。実測図のない石器はCUT6の剥片で、これはメノウの小剥片である。全体が水による摩耗を受けており、剥離面観察が難しいため、図にすることを控えた。残りの石器は全点図化した。

（イ）　観察表

観察表は、器種・石材・法量の他に、石器の観察所見を文章で、成形加工・刃部属性などを記号で表現した。

①　　器種

器種は慣習にもとづいた石器の名称である。製作者の意図を有る程度反映するが、同じ器種の中には複数の「石器の種類」（製作者が作り分けた石器）が含まれる場合がある。

ナイフ形石器：旧石器時代の示準石器。本遺跡のナイフ形石器は石刃素材の杉久保系のナイフ形石器。

尖頭器：平坦剥離で形態形成され、先端を加工で尖らせる石器。本遺跡の尖頭器は縄文時代のものと考えられる。

掻器：剥片の先端に急角度の剥離で刃部を形成した石器。本遺跡の掻器は、剥片の縁辺を利用した掻器で、刃部は加工でなく、刃こぼれ痕である。

石鏃：押圧剥離で形成された脚部をもつ三角形の石器。本遺跡では凹基鏃が主体である。凹基鏃の未製品は、一対の脚部を形成するために、基部が直線状となる三角形鏃となる。本遺跡にはこれらの凹基鏃未製品も出土している。局部磨製石鏃は、石鏃の基部を研磨したもので、縄文早期から晩期にわたる広い時期にみられる。ひとつの遺跡に数点程度が出土する。

石錐：剥片の縁辺に急角度の押圧剥離で尖った刃部を形成する石器である。

楔形石器：挟み撃ちされた石器の総称。前期旧石器から弥生時代まで、いずれの石器文化にも存在する。石器文化の個性によって楔形石器の役割は決まる。本遺跡の楔形石器は、石鏃のブランク（予め加工された素材）と考えられる。

敲石と叩石：敲石は円礫に小さな敲打痕の集合で窪みが形成される石器。通常は2箇所の窪みが形成される。叩石はハンマーストーンのこと。棒状礫が多く、先端もしくは側面の一端に敲打痕が残される。

磨製石斧：本遺跡の磨製石斧は基部断片であるが、擦切技法がみられるのが特徴である。擦切技法は縄文早期から前期にかけて東北・北海道に分布が濃い。

剥片と石核：母岩（石核）から打ち割られた石片が剥片。打面形態と剥離の開始部によって打撃の種類が有る程度判別できる。使用痕剥片は、剥片にマイクロフレイキングが付いているもの。二次加工剥片は、刃部が不明もしくは

未加工で、加工の役割（形態形成であるのか、刃部形成なのか）が不明なものに用いる器種名称。

土器磨石：ほぼ全面摩耗の円礫が通常である。本遺跡の石器は、棒状の礫を両端からおりとって、その折れ面に摩耗面が残るものである。

スタンプ形石器・三角錐形石器：縄文早期中葉から末にかけて主に南関東で出土する石器。円礫を叩折で半裁して、その叩折面を機能部とする。北関東では円礫の側辺に急角度の加工で成形し、三角錐形石器と呼称される。

②　　打面の形態

打面は自然面打面、平坦打面、切子打面、調整打面、小打面の５種類ある。小打面は、石核の縁をこするようにして生ずる剥片の打面で、線状・点状・無打面の３種類がある。これは剥離技術と関連する。一方、自然面打面、平坦打面、切子打面、調整打面は、剥離技術とともに剥片剥離技法とも強い関連をもつ。

本遺跡の縄文時代の剥片の打面は、線状打面や平坦打面が多く、石核を調整しないでそのままハンマーを振り下ろす直接打撃が主体を占める。切子打面の場合は、打面に複数の剥離面があり、その稜線上を加撃するが、本遺跡の場合は稜線が潰れていないのでソフトハンマーの可能性が高い。

③　　成形加工・刃部属性

HD：ハードハンマーの直接打撃。一般的な剥離技術。

S’D：圧縮力の高いソフトハンマーの直接打撃。一般的な剥離技術。

HVD：ハードハンマーの垂直打撃。一般的な剥離技術。

S’P：圧縮力の高いソフトハンマーの押圧剥離。主に縄文時代以降の石鏃の押圧剥離にみられる。

HP/刃潰し：ハードハンマーの押圧剥離の刃潰し。主に旧石器時代のナイフ形石器の成形加工にみられる。

MF：マイクロフレイキング。いわゆる刃こぼれ痕である。使用痕剥片の刃部縁辺にみられる不整剥離の総称。刃部に損傷ない部分とマイクロフレイキングの付いている部分がある場合は「素刃・MF」と記載してある。

研磨痕・敲打痕・磨痕：研磨痕は石材を磨いた痕跡で、本遺跡では局部磨製石鏃と磨製石斧にみられる。敲打痕は垂直打撃などによって石器の表面に形成された「潰れた割れ円錐の集合」である。これらは敲石の刃部に生ずる使用痕である。磨痕は磨りによって生じた摩耗痕もしくは研磨痕であり、その判別が難しいが、磨っている属性のことである。明らかに摩耗している場合は、「摩耗」と表記した。

穿孔：ドリルで開けた穿孔痕のことである。本遺跡では砂岩製の２点の石器に回転穿孔痕が観察される。

叩折と折れ:叩折は、石器を持ってハンマーの代わりになる台石などに叩きつける場合、ハンマーの垂直打撃によって切り立った剥離面が生ずる場合を言う。いずれも剥離の開始部にコーンが生ずる。折れは引っ張り応力によって「曲げタイプの剥離の開始部」が生じ、コーンのない剥離面である。

④　　剥離の開始部

剥離の開始部はコーン型、曲げ型、くさび型の３種類ある。本遺跡は平坦打面、切子打面にコーン型がみられる。曲げ型の剥片は切子打面のチャートの小形剥片にもみられる。これは打面を立てて、ハンマーを寝かせる状態で剥離しているからである。剥離の開始部からは、本遺跡について数種類の剥離技術がみられる。

2　　出土石器の特徴

（ア）　CUT10A

旧石器時代のナイフ形石器と打面の折れた剥片が出土している。ナイフ形石器の先端は加工で切り取られるように成形されており、先端は折れてはいない。

その他に縄文時代の叩石が1点出土している。

（イ）　CUT1

石鏃・剥片・石核・石鏃は規則正しい丁寧な凹基鏃で完形品。剥片は石核調整の痕跡が左側辺にあるやや中形の剥片。石核は節理面が多く、硬いめのうの石核。剥片剥離はほとんど行われていない。叩石は、側辺と末端に敲打痕が残る。

（ウ）　CUT2

敲石の出土である。表裏に敲打痕が残る。

（エ）　CUT5

本遺跡の中で最も出土量が多い地点である。小形の剥片類・石鏃・局部磨製石鏃・石錐・掻器はチャートを主体とする。石鏃は小形で、剥片類も石鏃の素材剥離の残りであろうと推定される。従ってこの地点では石鏃の製作が行われていたのであろう。石錐は無打面の剥片の側辺裏面に押圧剥離で刃部を形成している。8の掻器は縦折の剥片が素材。打面近辺に一枚のノッチがあり、左側辺は叩き折られている加工である。刃部は末端辺の蝶番剥離を利用し、そこにマイクロフレイキングが付いている。素刃の掻器とでもいえようか。

7の尖頭器はめのう製で半両面加工。

11は削器。刃部は左側辺で素刃。マイクロフレイキングがついている。加工は右側辺向こう。表裏にハードハンマーで縁辺をおしつけて不規則剥離となっている。

12は珪質頁岩の使用痕剥片。刃部は正面左側辺手前。右側辺は縦折。

30は磨製石斧。右側辺に擦切技法の痕跡が残っている。

33と34は不明石製品。柔らかい砂岩（もしくは凝灰岩）の礫に回転穿孔痕が付いている石製品である。詳細は不明である。

（オ）　CUT5の弥生時代の石器

25号住居址と32号住居址から礫端片（円礫から最初に剥離される剥片）の断片が出土した。弥生時代の大型直縁刃石器との可能性があったので、高倍率の顕微鏡を用いて縁辺を精査した。結果は使用痕なしであったので、器種を剥片とした。

（カ）　CUT5グリッド・確認面・表採の石器

40は中形のガラス質安山岩の剥片。41は土器磨石とした。通常は円礫であるが、この石器は棒状礫を叩折り、その折れ面に摩耗がある。折れ面は上下とも摩耗が観察される。摩耗面以外の側辺は細かい敲打痕が観察される。詳細は不明である。

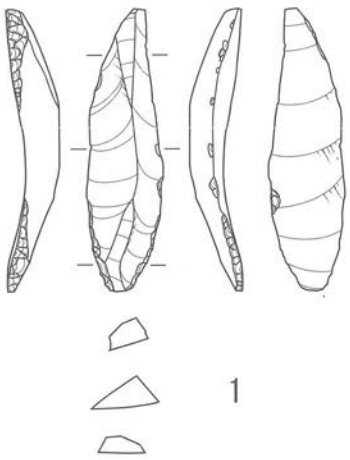
46は表採確認面出土の石器である。スタンプ型石器の北関東型式である三角錐型石器であろう。この石器は縄文早期中葉から末までの示準石器である。

3　　石器群のまとめ

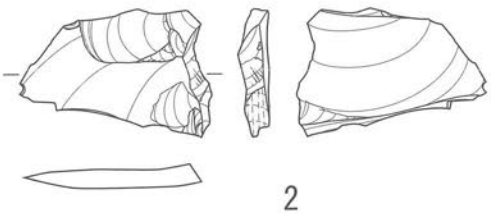
本遺跡の石器群は地点ごとに旧石器時代、縄文時代、縄文・弥生時代とわかれる。旧石器時代のナイフ形石器は、姶良丹沢火山灰降灰以後の時期であろう。珪質頁岩を用いている点や杉久保系の形態などは、東北日本との関連を伺わせる興味深い資料である。

縄文時代については、CUT1については時期的な様相など、ほとんどわからない。有茎鏃がないので、後期中葉以前の石器であろうと推定される。

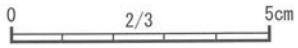
CUT5の縄文時代は、石鏃の製作、尖頭器の伴出、三角錐型石器の出土などから、主に縄文早期末から前期の初頭までの石器群と推定される。



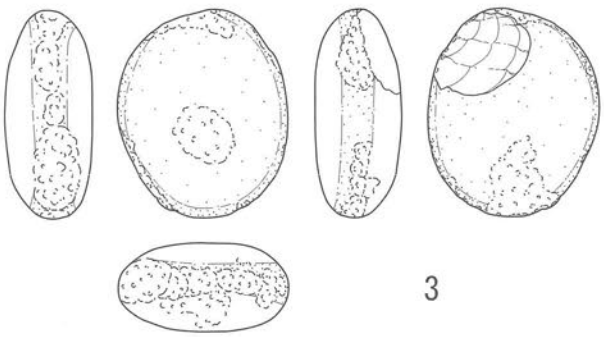
1



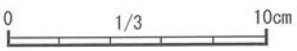
2



旧石器時代

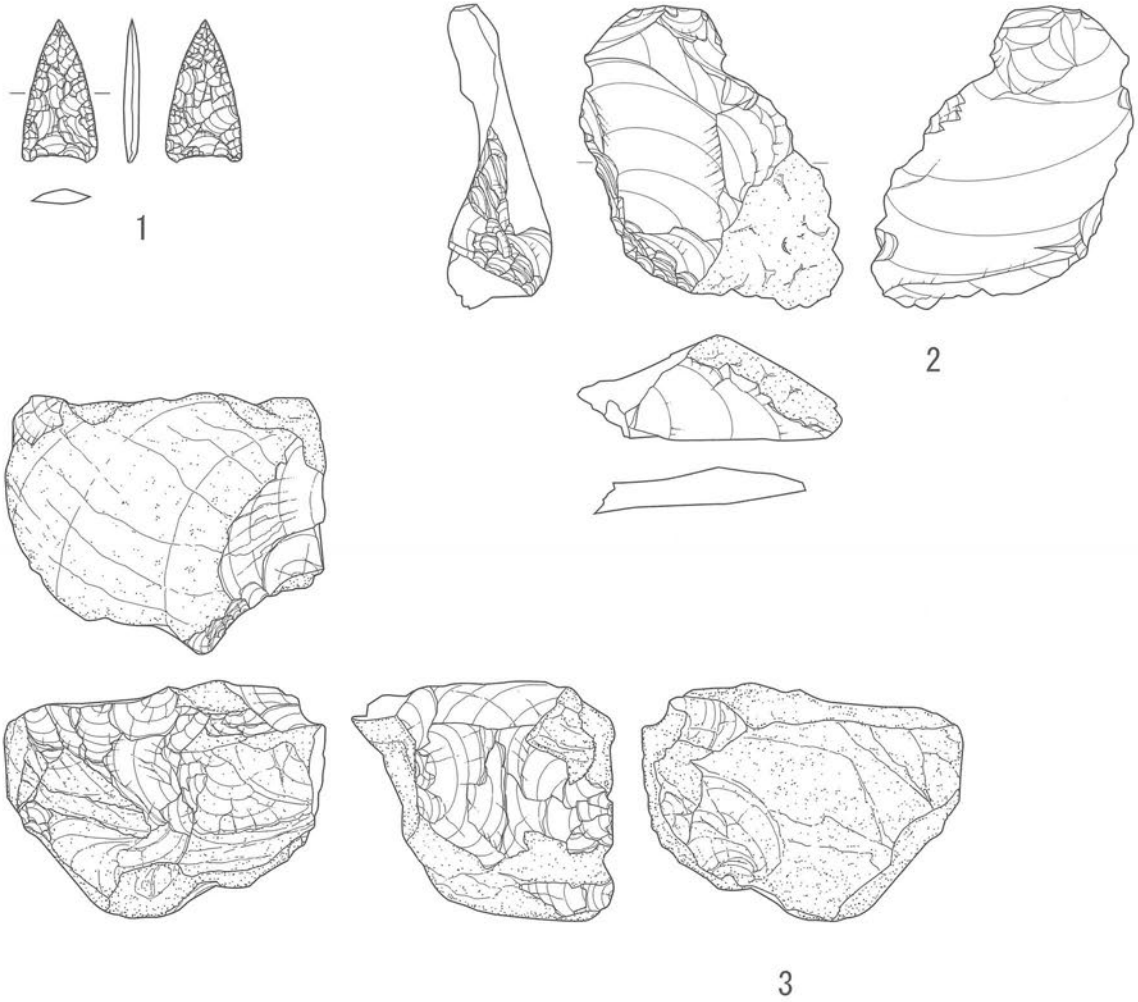


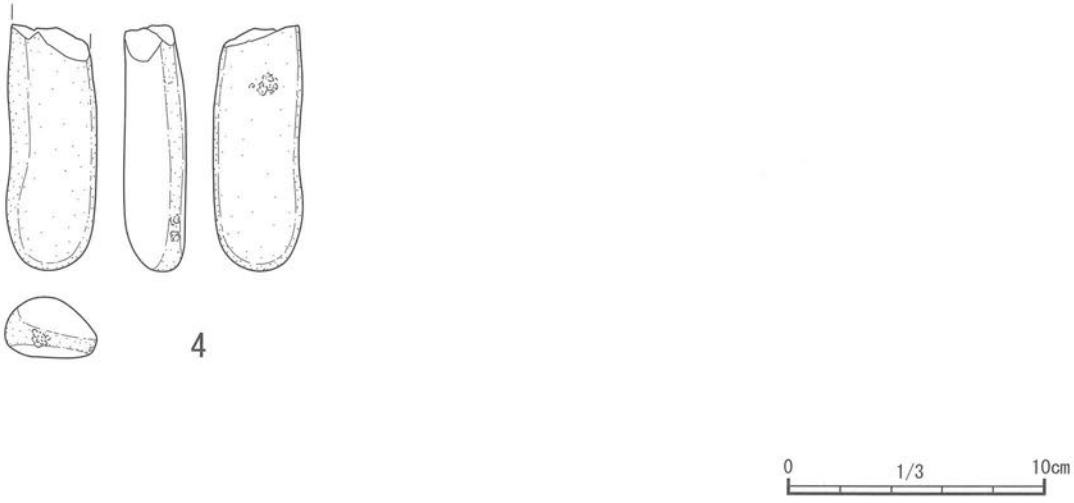
3



長峰西遺跡　CUT10A

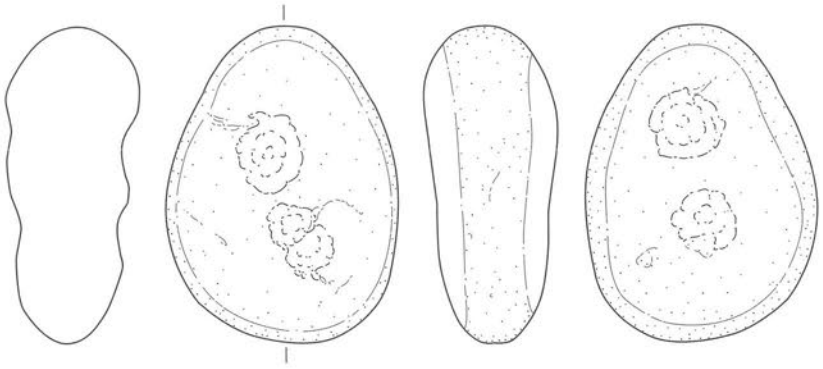
1





長峰西遺跡　CUT1

2

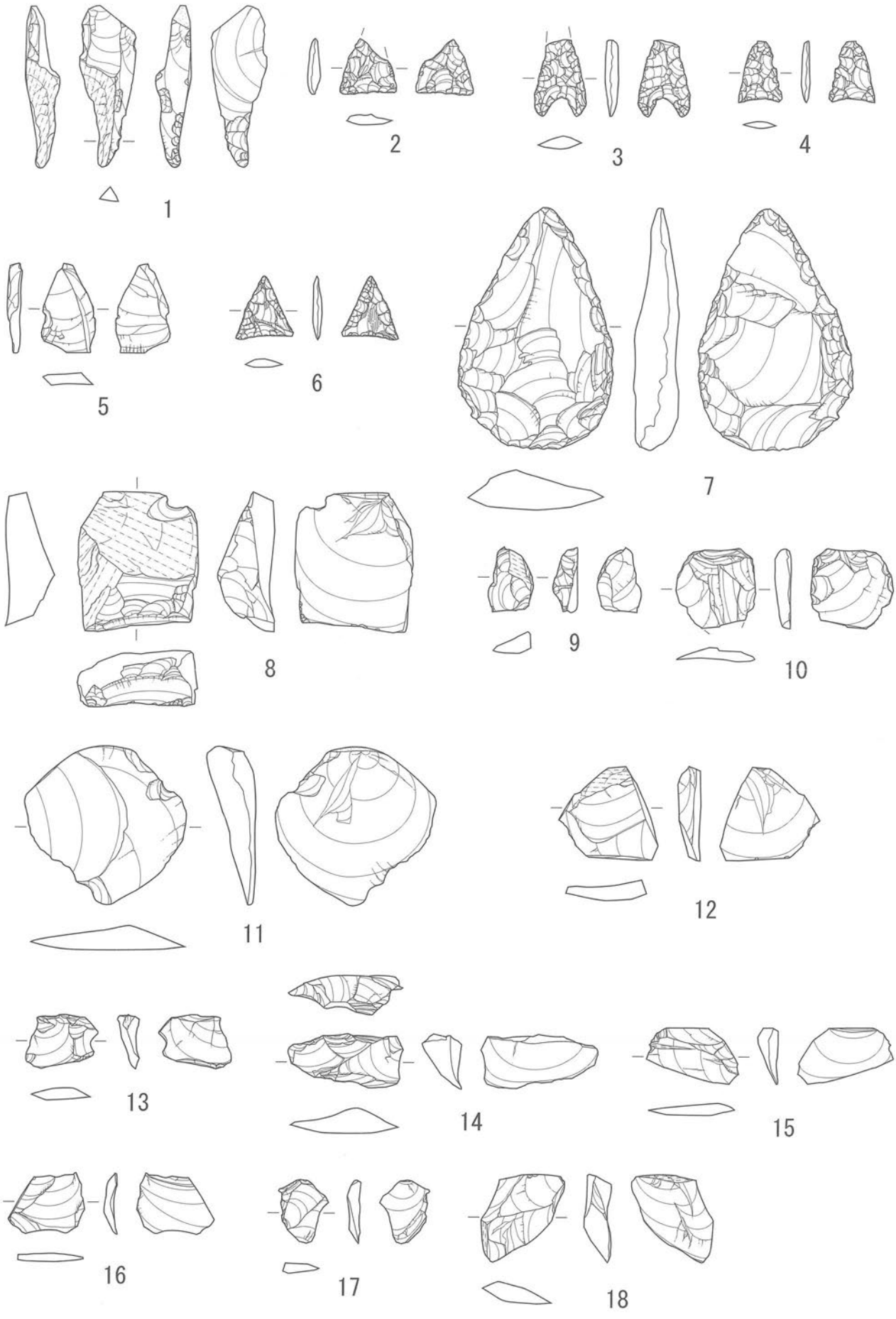


1

0 1/3 10cm

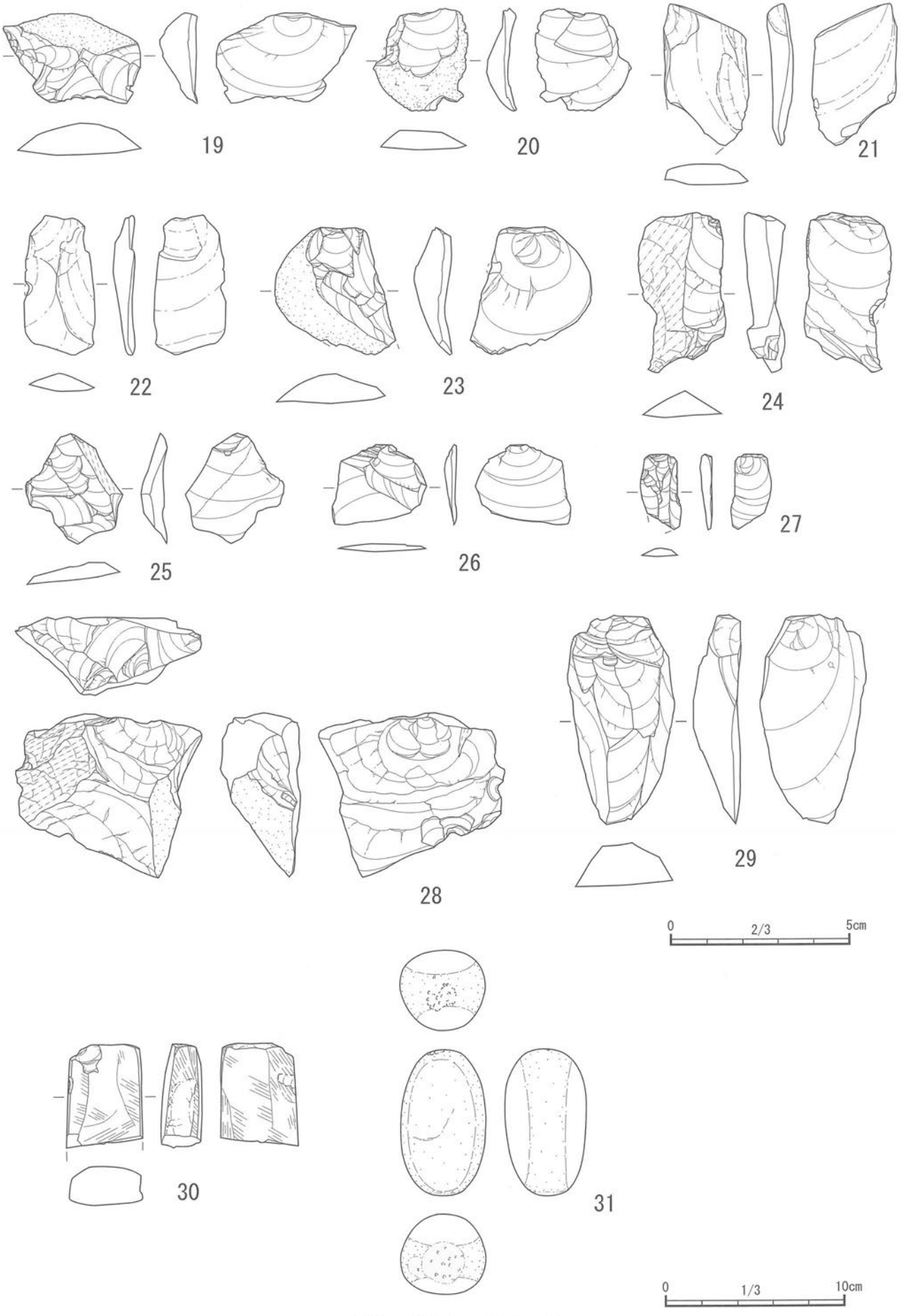
長峰西遺跡　CUT2

3



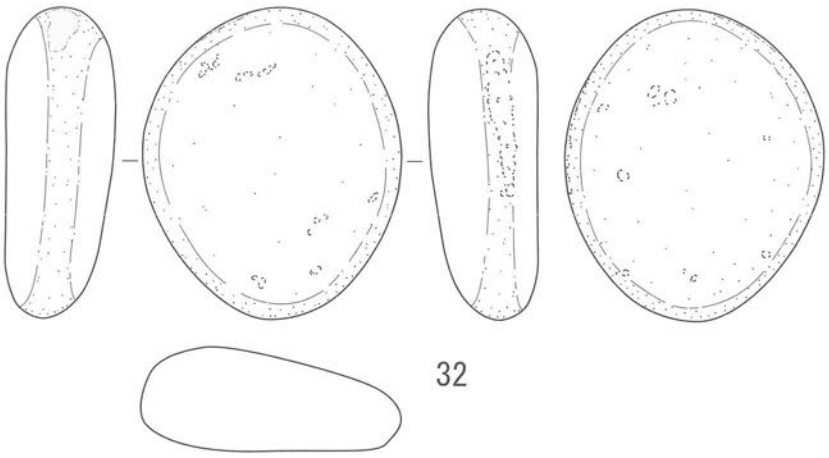
長峰西遺跡　CUT5 -1

4

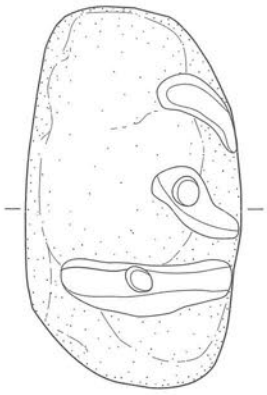


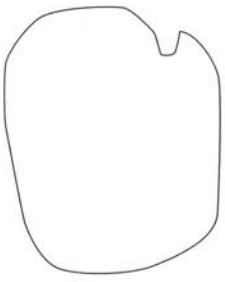
長峰西遺跡　CUT5 -2

5



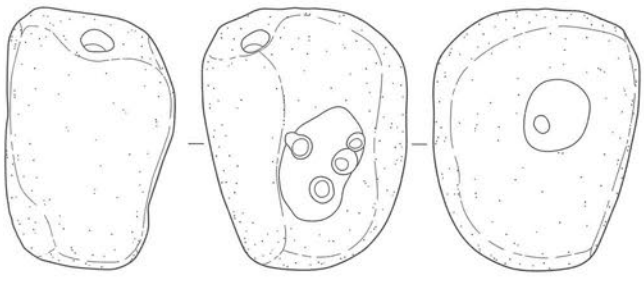
32





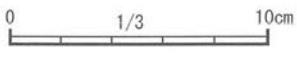
被熱資料

33

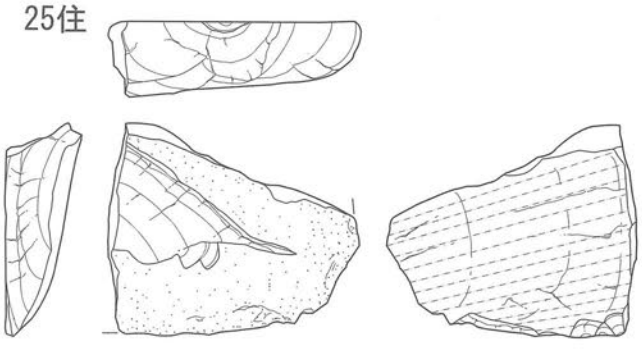


34

被熱資料

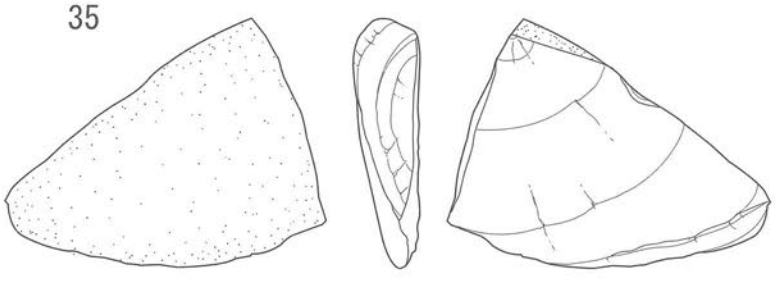


25住



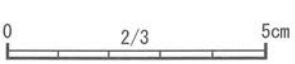
32住

35



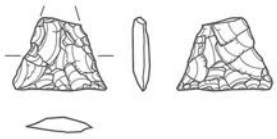
36

弥生時代

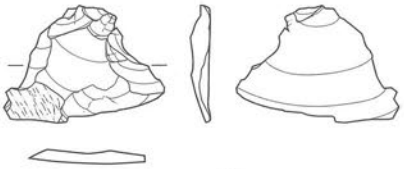


長峰西遺跡　CUT5 -3

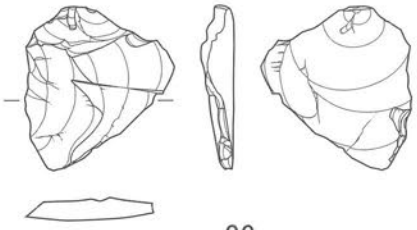
6



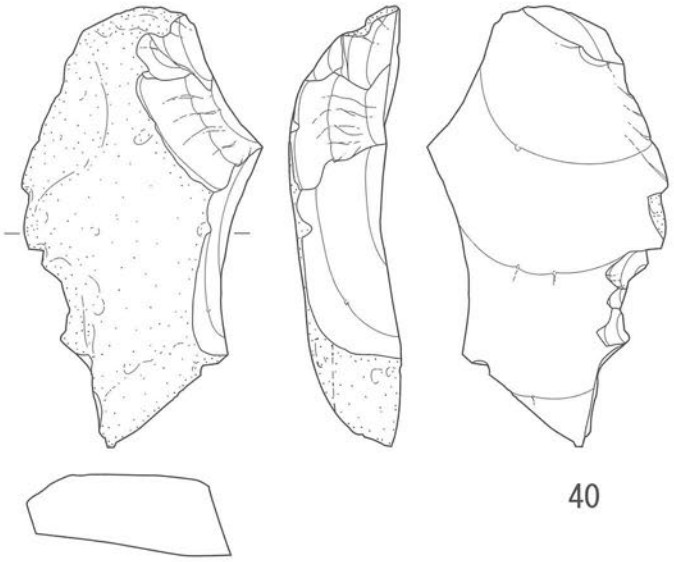
37



38

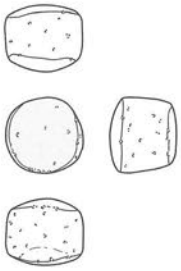


39

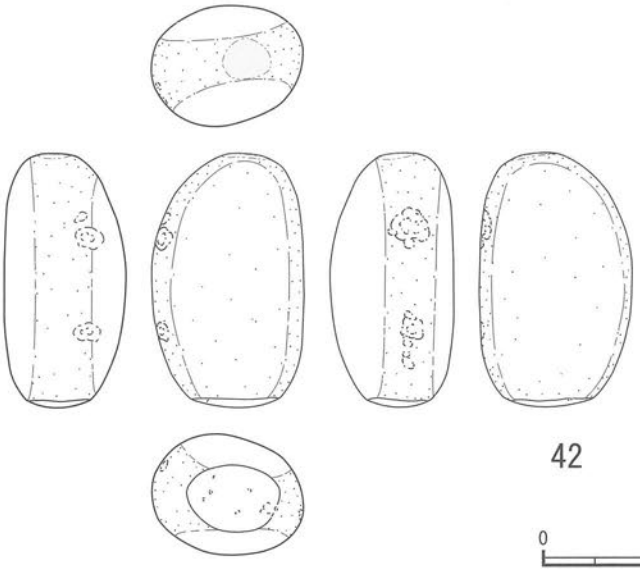


40

0 2/3 5cm



41

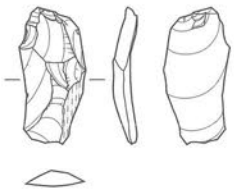


42

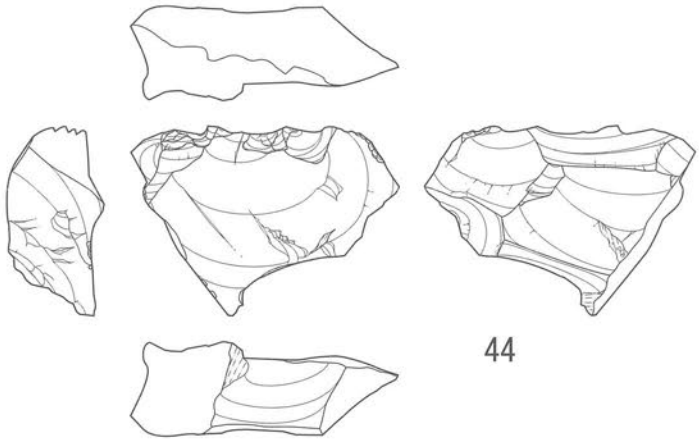
0 1/3 10cm

長峰西遺跡　CUT5 -4 グリッド

7



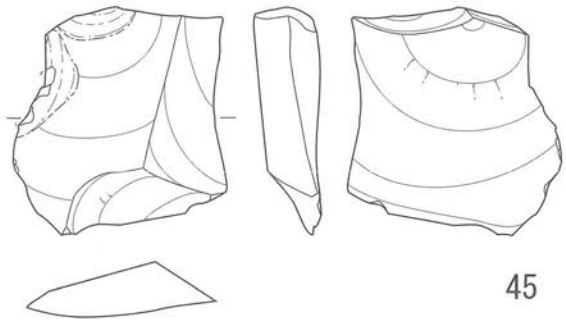
43



44

確認面

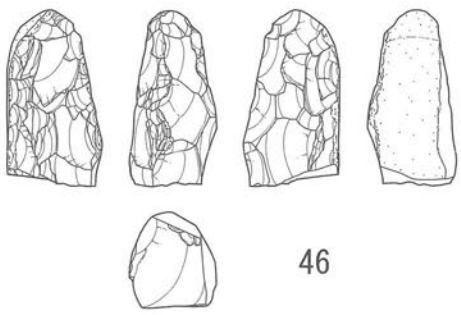
0 2/3 5cm



45

0 2/3 5cm

表採



46

0 1/3 10cm

表採確認面

長峰西遺跡　CUT5 -5　確認面、表採

8

CUT	注記	地区別図	図番号	時期	器種	石材	成形加工	刃部属性（石核作業面）	所見	法量（cm・g）				備考
										縦	横	厚さ	重量	
CUT10A	SI1	1	1	旧石器	ナイフ形石器	珪質頁岩	HP/刃潰し	素刃	石刃素材の杉久保系のナイフ形石器。	55.6	14.9	10.3	4.7	
CUT10A	SI1	1	2	旧石器	剥片	珪質頁岩	なし	なし	打面の折れた剥片。末端辺は階段状末端。	25.3	37	6.3	4.7	
CUT10A	SK5 W	1	3	縄文	敲石	斑糲岩	なし	敲打痕	表裏と側辺に敲打痕のある敲石。右側辺の敲打痕は斜めになっており、石器製作のハンマーとされた可能性がある。	81.9	66.2	34.8	272.7	
CUT1	SI8	2	1	縄文	石鏃	チャート	S'P	S'P	基部を薄くつくりだす、脚部形成直前の石鏃。	28.2	14.7	3.1	1.2	
CUT1	SI5	2	2	縄文	剥片	珪質頁岩	なし	なし	左側辺は旧打面と旧作業面が残る。打面転位をしたときの剥片。	59.9	51.2	20.7	37.9	
CUT1	SI11	2	3	縄文	石核	メノウ	なし	HD	亜角礫を素材にした石核。剥離面は小さく、剥離途上で放棄されている石核。	46.8	62.3	51.4	162.6	メノウ
CUT1	SI11 カマド	2	4	縄文	叩石	砂岩	なし	敲打痕	棒状礫素材の敲石。先端と裏面向こうに敲打痕が残る。被熱資料。	96.5	35.6	24.3	126.5	砂岩
CUT2	SI5 No.9	2	1	縄文	敲石	チャート	なし	敲打痕	円礫素材で、表裏に敲打痕が一対ずつ残されている。	125.8	91.9	54.3	109.3	
CUT5	SI30	3	1	縄文	石錐	チャート	なし	S'P	無打面の横長剥片素材。主要剥離面に押圧剥離で刃部を形成。	43.6	14.9	9.5	3.9	
CUT5	SI03	3	2	縄文	石鏃	チャート	S'P	S'P	基部を薄くつくりだす、脚部形成直前の石鏃。先端欠損。	15.1	15.4	3.5	0.7	
CUT5	SI19	3	3	縄文	石鏃	チャート	S'P	S'P	先端部欠損。	20.8	13.9	3.8	1	チャート
CUT5	SI24	3	4	縄文	石鏃	チャート	S'P	S'P	脚部未形成。未製品か。	16.7	11.8	2.4	0.5	
CUT5	SI10	3	5	縄文	石鏃未製品	チャート	S'P	刃部未加工	右側辺基部に一枚の押圧剥離が入る。	24.3	14.6	4.1	1.1	
CUT5	SI18 フク土	3	6	縄文	局部磨製石鏃	チャート	S'P・研磨	S'P	小形の局部磨製石鏃。正面と裏面に部分的な研磨痕がみられる。	17.2	15.3	2.7	0.6	
CUT5	SI18	3	7	縄文	尖頭器	めのう	S'D	S'D	めのうの剥片素材。ソフトハンマーの直接打撃で作られている。	65.4	41.4	12.2	28.6	草創期
CUT5	SI19	3	8	縄文	掻器	チャート	S'P	素刃・MF	正面右端に一枚の押圧剥離痕。刃部は掻器状。素材は平坦打面、ハードハンマーの直接打撃。	37.7	31.9	15.3	20.2	チャート
CUT5	SI04	3	9	縄文	楔形石器	チャート	なし	なし	小形剥片を両極打撃。石鏃ブランクの作成の楔形石器か。	11.7	17.8	7.3	1.2	チャート
CUT5	SI18	3	10	縄文	楔形石器	チャート	HVD	なし	石鏃製作のための楔形石器。石鏃素材ブランク。	21.6	21.5	4.6	2.2	
CUT5	SI10	3	11	縄文	削器	黒色頁岩	HP	MF	自然面打面、剥離角110度の剥片。剥離の開始部はコーン型。ハードハンマーの直接打撃。	42.7	43.1	13.4	15.7	
CUT5	SI06 ホリカタ	3	12	縄文	使用痕剥片	珪質頁岩	なし	MF	平坦打面、打面厚2.6mm。正面左側辺手前に微細剥離痕。	25.4	26.6	6.4	3.7	珪質頁岩
CUT5	SI03	3	13	縄文	剥片	チャート	なし	なし	剥離の開始部は曲げ型に近い。打面は切子打面。	14.7	19.4	6	1.3	
CUT5	SI04	3	14	縄文	剥片	チャート	なし	なし	剥離の開始部は曲げ型に近い。打面は切子打面。	14.7	30.9	10.7	3.7	チャート
CUT5	SI04	3	15	縄文	剥片	チャート	なし	なし	剥離の開始部は曲げ型。打面は平坦打面。	15.2	24.7	5.6	1.4	チャート
CUT5	SI04	3	16	縄文	剥片	チャート	なし	なし	打面折れ。	16.4	20.6	3.6	0.8	チャート
CUT5	SI04	3	17	縄文	剥片	チャート	なし	なし	剥離の開始部はコーン型。平坦打面。打面厚1mm。ソフトハンマーの間接打撃。	17.1	13.4	3.8	0.6	チャート
CUT5	SI13	3	18	縄文	剥片	チャート	なし	なし	剥離の開始部はコーン型。平坦打面。ハンマーはS'。	23.7	22.1	7.5	2.6	
CUT5	SI07	3	19	縄文	剥片	ガラス質安山岩	なし	なし	平坦打面、打面厚3.2mm。ソフトハンマーの直接打撃。	25.7	38.8	10.6	8.5	ガラス質安山岩
CUT5	SI07	3	20	縄文	剥片	ガラス質安山岩	なし	なし	線状打面。石核縁辺を擦って生じた剥片。	29	26.4	8.3	4.4	ガラス質安山岩
CUT5	SI07	3	21	縄文	剥片	凝灰岩	なし	なし	打面欠損。風化が強く剥離面は不明瞭。	40	23.8	7.7	7	トロトロ石
CUT5	SI07	3	22	縄文	剥片	凝灰岩	なし	なし	打面欠損。風化が強く剥離面は不明瞭。	39.5	20	6.2	3.9	トロトロ石
CUT5	SI10	3	23	縄文	剥片	凝灰岩	なし	なし	平坦打面、打面厚5.7mm。ソフトハンマーの直接打撃。被熱資料。	36	33.8	10.7	9.8	

CUT	注記	地区別図	図番号	時期	器種	石材	成形加工	刃部属性（石核作業面）	所見	法量（cm・g）				備考
										縦	横	厚さ	重量	
CUT5	SI19	3	24	縄文	剥片	チャート	なし	なし	切子打面、ハードハンマーの直接打撃。	45.3	24.4	11.7	9.9	チャート
CUT5	SI19	3	25	縄文	剥片	チャート	なし	なし	無打面。両面加工体製作のときにでる剥片。	31.1	27.1	7.5	2.8	チャート
CUT5	SI19	3	26	縄文	剥片	チャート	なし	なし	平坦打面。打面厚0.4mm。両面加工体製作のときにでる剥片。	22.7	26.6	3.5	1.5	チャート
CUT5	SI19	3	27	縄文	剥片	チャート	なし	なし	節理面打面。打面厚2mm。ソフトハンマーの間接打撃。	21.3	11.6	3.5	0.9	チャート
CUT5	SI30	3	28	縄文	剥片	チャート	なし	なし	切子打面、ハードハンマーの直接打撃。裏面末端辺に急角度剥離が1枚あるが事故剥離であろう。	46.2	52.2	22.2	45.5	
CUT5	SK83	3	29	縄文	剥片	ガラス質安山岩	なし	なし	平坦打面、打面厚6.5mm。ハードハンマーの直接打撃。	58.9	30	13.2	24	
CUT5	SI18	3	30	縄文	磨製石斧	凝灰岩	研磨	欠損	擦切技法の磨製石斧。右側辺に擦り切り痕が顕著に観察される。	29.2	21.8	11.5	14.1	擦切磨製石斧
CUT5	SI24 P1	3	31	縄文	叩石・磨石	安山岩	なし	敲打痕・磨痕	下面に磨面と敲打痕、上面に敲打痕。	82.5	48.2	45.6	270.1.	
CUT5	SI42 No.2	3	32	縄文	叩石・磨石	安山岩	なし	敲打痕・磨痕	右側辺上面に磨痕。左側辺に敲打痕。	123.2	101.2	43.1	767	
CUT5	SI24 No.24	3	33	縄文	不明	凝灰岩	穿孔痕	なし	柔らかい凝灰岩に回転穿孔痕が付く加工礫。	150.8	84.5	112.8	1111.6	
CUT5	SI35	3	34	縄文	不明	凝灰岩	穿孔痕	なし	柔らかい凝灰岩に回転穿孔痕が付く加工礫。	103.6	80.3	66.2	419.4	
CUT5	SI25	3	35	弥生	剥片	硬砂岩	なし	なし	礫端片の断片。	42.1	49.1	15	29.3	
CUT5	SI32・45	3	36	弥生	剥片	硬砂岩	なし	なし	礫端片の断片。	49.2	62.6	13.4	30	
CUT5	C5	3	37	縄文	石鏃	頁岩	S'P	S'P	先端部欠損。脚部未形成。	14.6	18.3	3.5	0.9	
CUT5	C3 24	3	38	縄文	剥片	チャート	なし	なし	無打面。両面加工体製作のときにでる剥片。	23.2	31.3	3.9	2	
CUT5	C5	3	39	縄文	剥片	チャート	なし	なし	平坦打面、打面厚2.6mm。ソフトハンマーの直接打撃。	32.4	29.1	6.8	5.8	
CUT5	C3 20	3	40	縄文	剥片	ガラス質安山岩	なし	なし	平坦打面、打面厚8.7mm。ソフトハンマーの直接打撃。	86.7	46.8	21.7	73	
CUT5	C4 10	3	41	縄文	土器磨石	安山岩	叩折？	摩耗	棒状礫を叩き折って、その折れ面を使用したと推定される。全面に敲打痕もみられる。	29.8	30.6	26.2	38.4	
CUT5	C5	3	42	縄文	叩石・磨石	閃緑岩	なし	敲打痕・磨痕	上面は磨り面。下面は柔らかい対象物を敲打した敲打痕。側辺にも敲打痕が付く。	100.1	59.4	47.9	425.5	
CUT5	カクニン	3	43	縄文	剥片	チャート	なし	なし	石核の縁辺を擦ったときに生じた剥片。	27	12.9	4.9	1.2	
CUT5	カクニン	3	44	縄文	石核	珪質頁岩	なし	HD	剥片素材の残核。	37.4	52.2	18.7	25.8	
CUT5	ヒョウサイ	3	45	縄文	剥片	凝灰岩	なし	なし	切子打面、ソフトハンマーの直接打撃。風化が強く剥離面不明瞭。	44.8	41.7	13.3	20.2	
CUT5	ヒョウサイ カクニン	3	46	縄文	スタンプ形石器	閃緑岩	HD	叩折面	三角錐形石器とも呼称。	69.5	34.5	37.6	112.1	
CUT6	SI3 カマド			縄文	剥片	めのう	なし	なし	水摩耗剥片・実測不要				1.3	メノウ

長峰西遺跡の石器の使用痕分析

はじめに

長峰西遺跡の石器から、ナイフ形石器、弥生時代の剥片2点、礫石器類4点を分析した。

観察方法

キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ（VH-7000）による高倍率ズームレンズ（VH-Z450）を用いて使用痕観察をおこなった。観察倍率は、200倍～450倍である。観察面は、適宜アルコールを浸したキムワイプで軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕分類は東北大学使用痕研究チームにより設定された分類基準などによっている（阿子島1981,1989、阿子島・梶原1984、梶原・阿子島1981、芹沢ほか1982）。礫石器の使用痕基準については、池谷の一連の実験などを参照とした（池谷2003abなど）。

石器刃部にみられる摩滅・剥離面などの特徴を観察するため、低倍率ズームレンズ（10～40倍）を併用した。

観察結果

ナイフ形石器（顕微鏡図版-1）

ナイフ形石器は石刃素材の杉久保系のナイフ形石器。

ナイフ形石器の先端側は80前後の急角度に左側面にのみ二次加工がみられる（写真1）。先端の右辺側には微小剥離痕がみられる。ハードハンマーの押圧剥離による刃つぶし加工と思われる。先端は折れてはいない。
素材末端側を基部とし、基部側は両側辺に80前後の急角度に二次加工がみられる（写真2、3）。

高倍率顕微鏡で検鏡したところ、石器表面に鈍い光沢が全面に確認できた（写真8、9）。この光沢は石器縁辺にまでひろがる（写真4から7）ので、いわゆる使用痕光沢の検出はできなかった。また線状痕など他の種類の使用痕も確認できなかったので、具体的な用途は不明である。

弥生時代の剥片（顕微鏡図版-2）

25号住居址と32号住居址から礫端片が出土した。弥生時代の大型直縁刃石器との可能性があったので、高倍率の顕微鏡を用いて縁辺を観察したが、使用痕光沢は確認できなかった（写真1）。なお、写真中央で白く輝いているのは岩石内部の鉱物であり、使用痕光沢ではない。

不明石製品（顕微鏡図版-2）

柔らかい砂岩（もしくは凝灰岩）の礫に回転穿孔痕が付いている石製品である。直径7から8mmであり、深さ10mm強の円筒形の孔であり、底は丸みを帯びている（写真2）。

表面がボロボロの石材であり、かりに対になる石錐などがあれば、その石器の縁辺には強度の摩滅が形成されると推定される。しかし、この遺跡の資料を観察する限り、そのような石器は確認されていない。

土器磨石（顕微鏡図版-2）

図面表裏に摩滅がある（写真4）。摩滅以外の側辺は細かい敲打痕が観察される（写真3）。詳細は不明である

敲石と叩石（顕微鏡図版-3、4）

敲石は円礫に小さな敲打痕の集合で窪みが形成される石器。通常は2箇所の窪みが形成される。棒状礫が多く、先端もしくは側面の一端に敲打痕が残される。

顕微鏡図版 -3 の方の資料は、上面に磨面、下面に敲打面、両側面に敲打がみられる。両側面の敲打は小さい孔の集合で形成（写真 3）されている。上面の磨面は平滑な面が形成され（写真 1）、下面は中央はザラザラしており（写真 2）、周辺ほど敲打痕が顕著になる（写真 2 の拡大）。なお石器の大きさのため高倍率では検鏡できなかった。

微鏡図版 -4 の方の資料は、上面は敲打によるもので（写真 1）、小さな孔の集合であり、高倍率顕微鏡では凹凸が激しく、ピントの合う範囲が狭く、ぼけた写真になった（写真 2）。下面は黒ずんでおり、かつ平滑面が形成されている（写真 4）。肉眼でも光沢がみられる。高倍率で検鏡した所、光沢が確認できた（写真 5）。粗く鈍い光沢であり、類似光沢は下宅部遺跡で確認されている（池谷 2006）。

そのため上下面とは明らかに異なる要因で形成されたのであろう。

参考文献

阿子島香　1981 「マイクロフレイキングの実験的研究（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 1）」『考古学雑誌』66-4　pp. 1-27

1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー 56　ニュー・サイエンス社

池谷勝典　2003a 「磨石・敲石・石皿の実験考古学的研究」『アルカ研究論集』1　pp. 45-53

2003b 「礫石器の使用痕研究―磨石類を中心として -」『古代』113　pp. 97-114

2006 「下宅部遺跡出土礫石器の使用痕分析」『下宅部遺跡Ⅰ』下宅部遺跡調査団　報告書添付 CD-ROM に所収

梶原洋・阿子島香　1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究―ポリッシュを中心とした機能推定の試み-（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 2）」『考古学雑誌』67-1　pp. 1-35

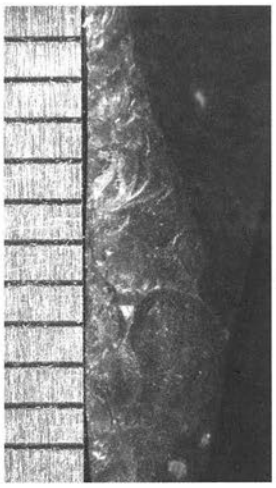
芹沢長介他　1982 「実験使用痕研究とその可能性（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 4）」『考古学と自然科学』14　pp. 67-87

高橋哲　　2003b 「使用痕実験報告と使用痕研究の課題」『アルカ研究論集』1　pp. 54-59

2008a「使用痕分析からみた縄文石器の機能についての考察」『アルカ研究論集』3　株式会社アルカ　pp. 1-25

（文責　高橋　哲）

1


2

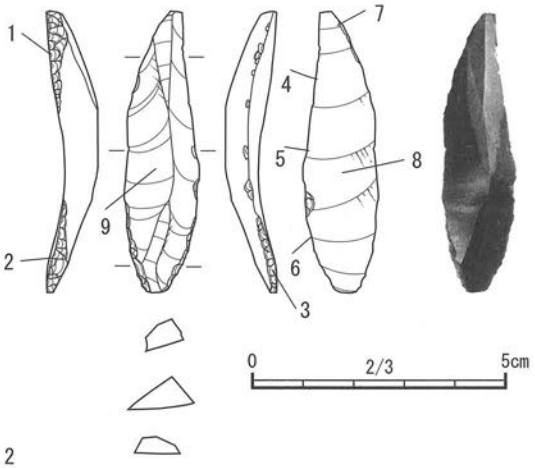
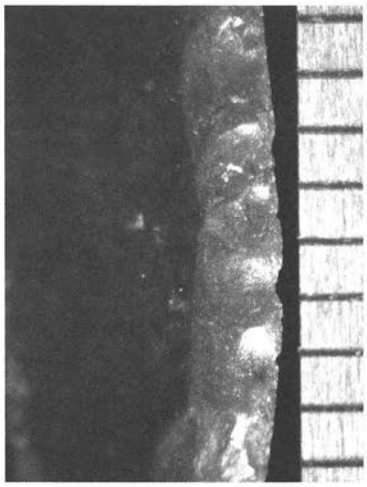
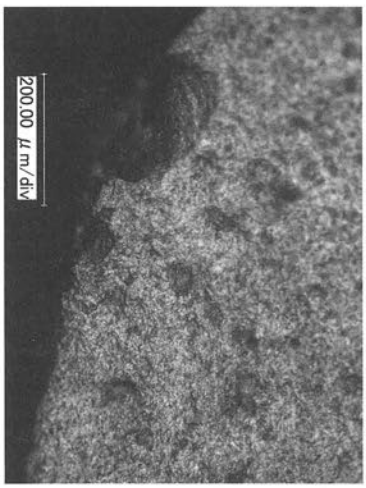


写真1の拡大

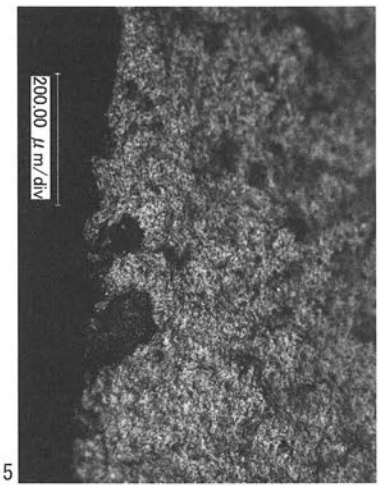
写真2の拡大


3

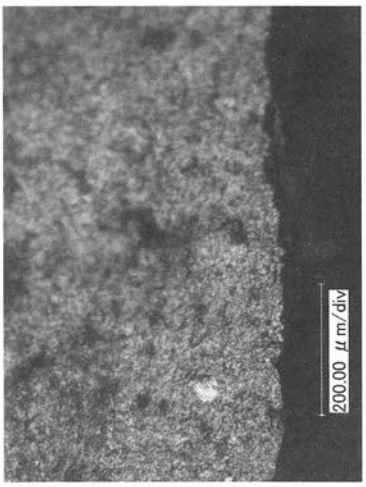


4

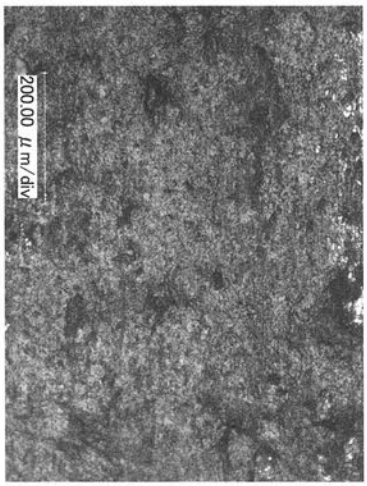
5



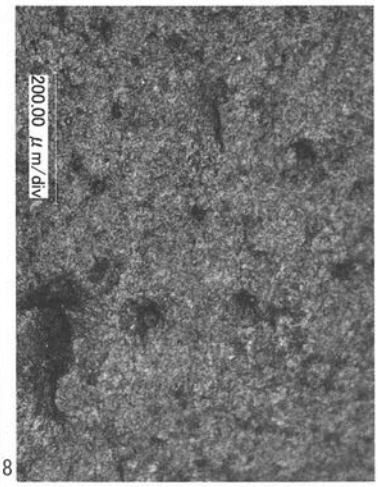
6



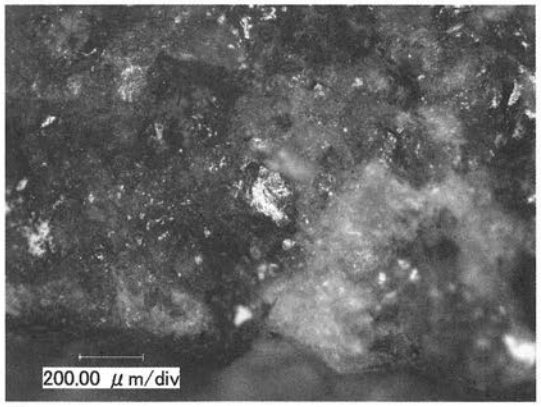
7



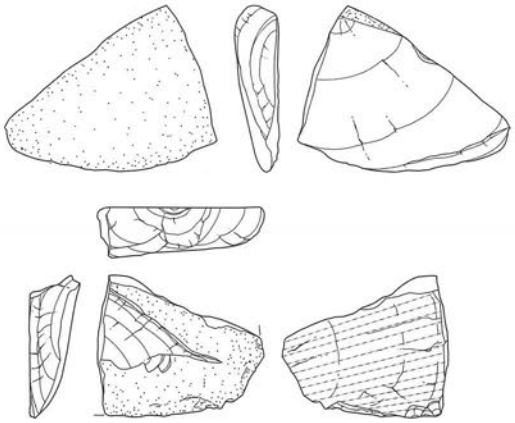
8

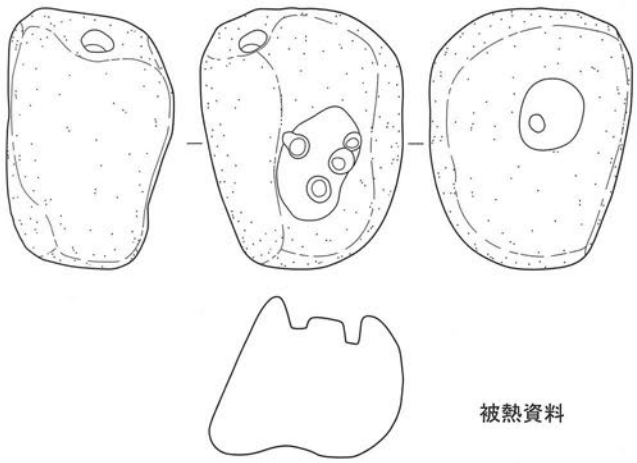


9

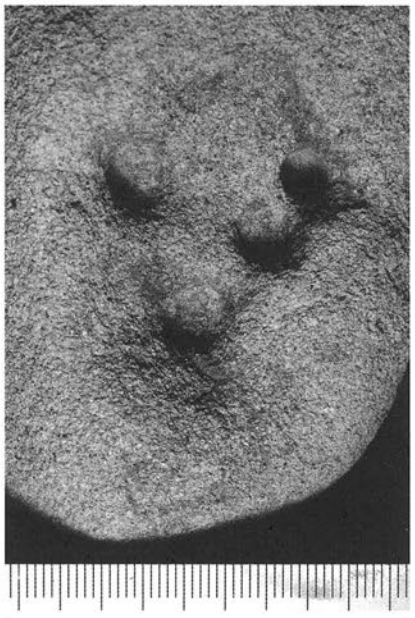


1

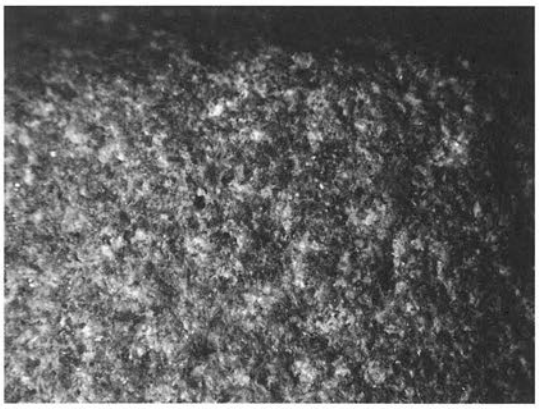




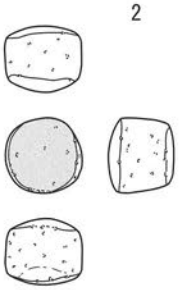
被熱資料

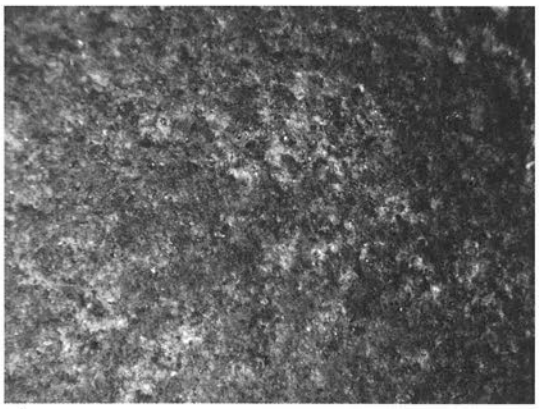


2



3





4

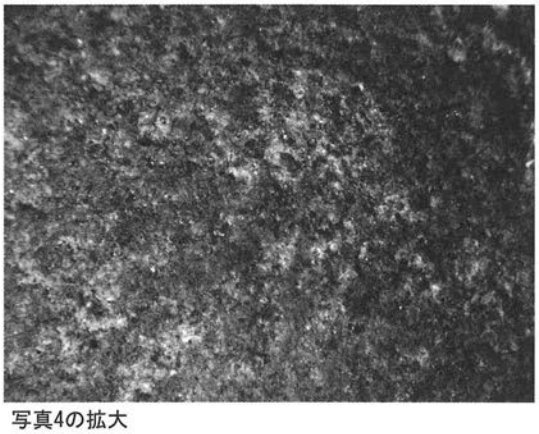
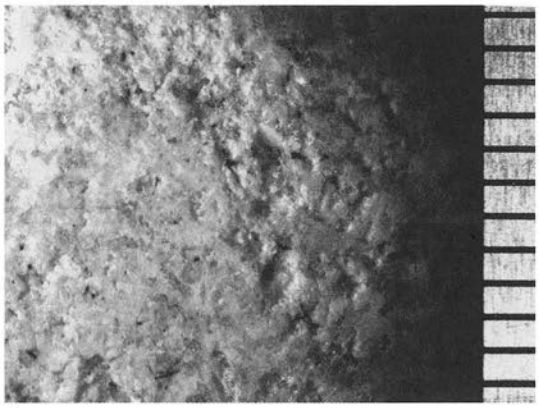
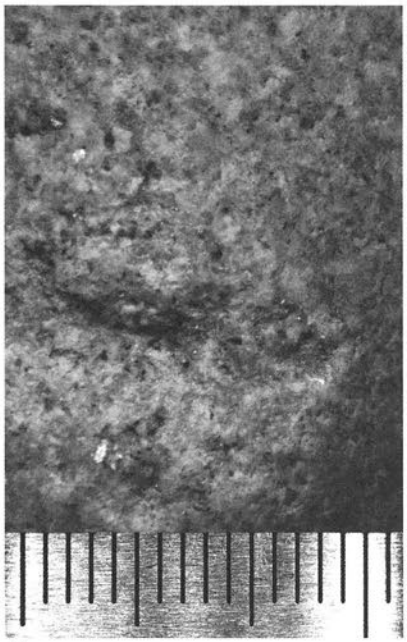


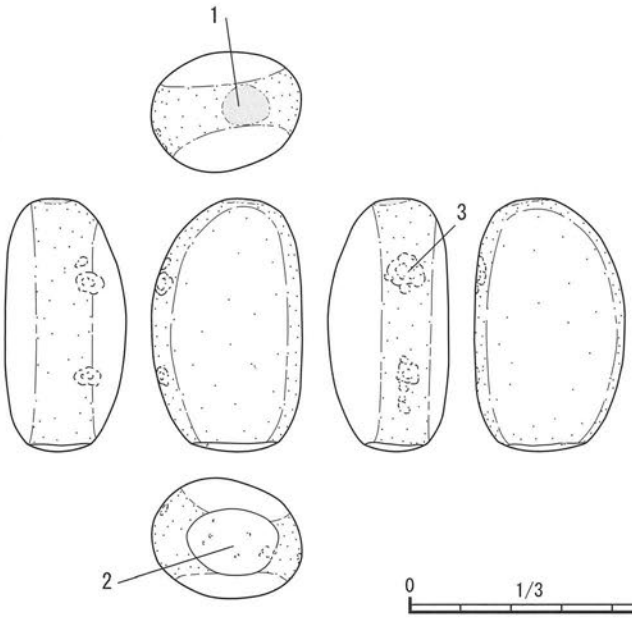
写真4の拡大



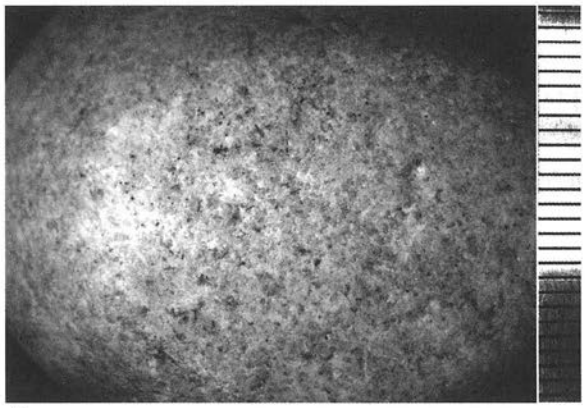
1



3



0 1/3 10cm



2

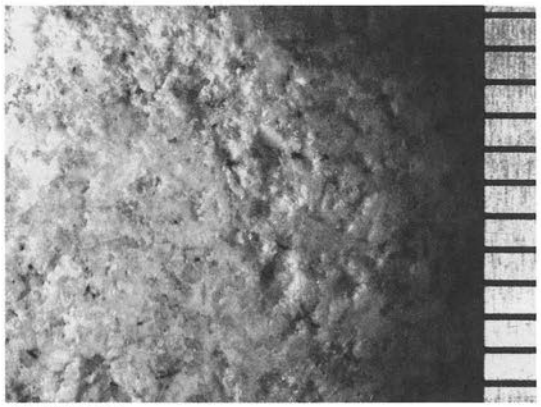
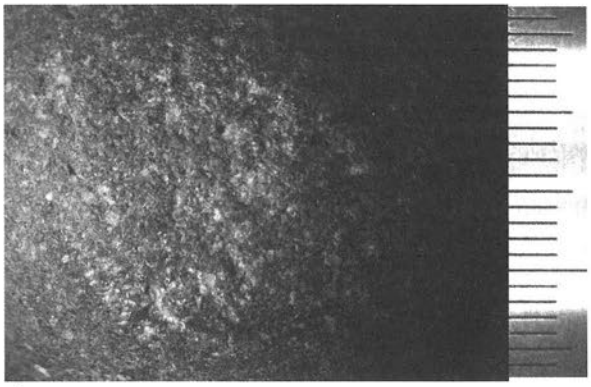


写真2の拡大



1

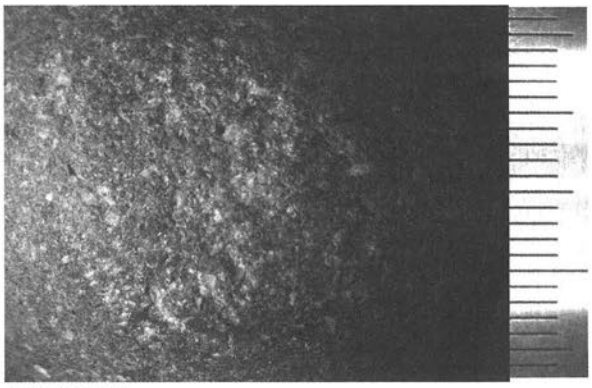
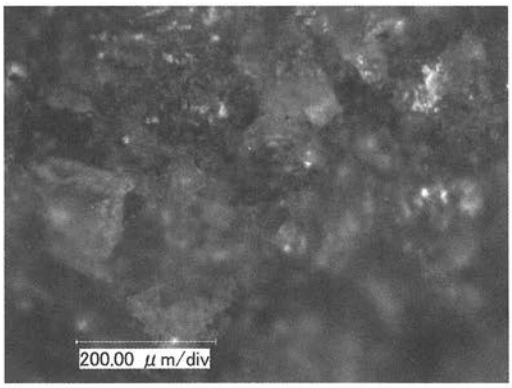
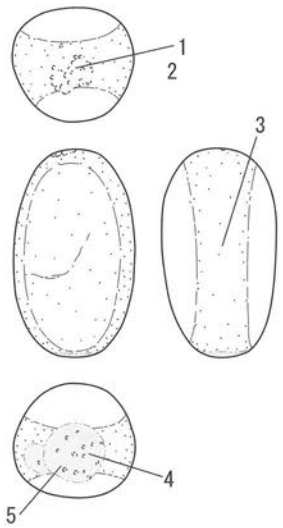
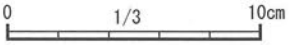


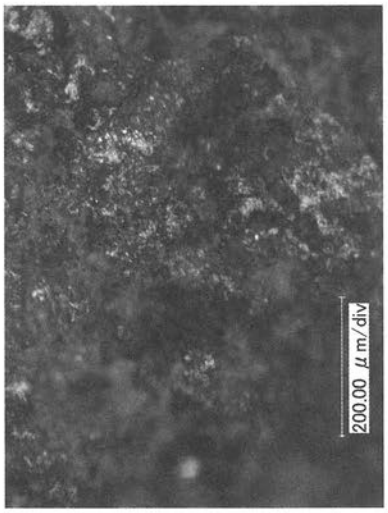
写真1の拡大



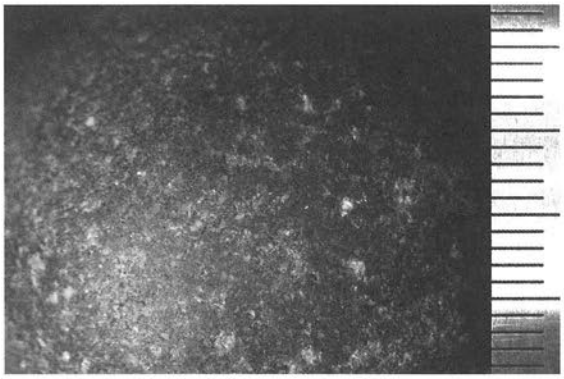
2







3



4

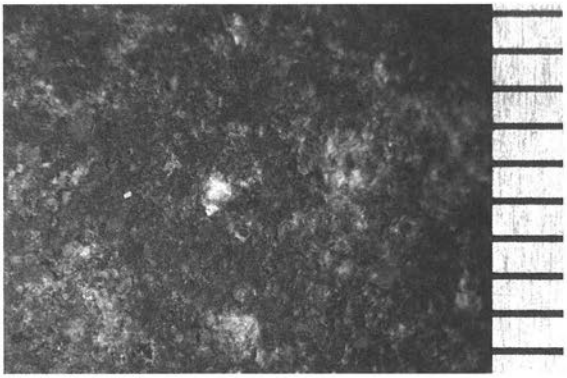
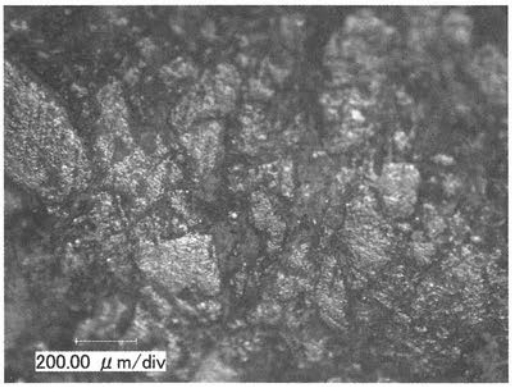


写真4の拡大



5

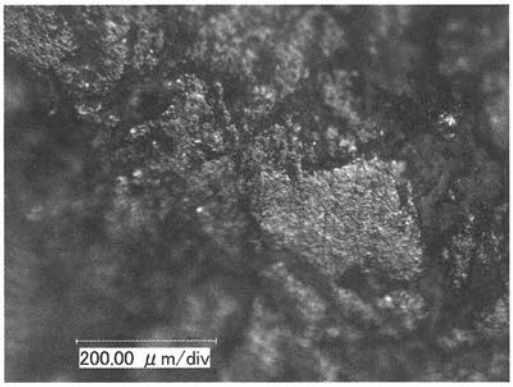


写真5の拡大

第2章　縄文土器　（第175図，図版112）

検出された縄文土器は長峰西遺跡全体で420.4gで極めて少量である。CUT別にみればCUT1で99.1g、CUT5で321.3gで他の地域からの出土は無い。掲載した縄文土器は出土資料のほぼ全量である。

第1群土器

1～6は丸棒状の口縁で無文。胎土中に石英や長石の白色粒子を多量に混入するものである。その特徴から、縄文早期無文系の土器群と判断される。

7は1～6同様の胎土焼成で、1条の原体圧痕が横走する。1～6とほぼ並行の土器と判断した。

第2群土器

8～16は胎土中に繊維を混入する一群である。単節縄文を施文するもので、11・14には末端ループ紋が見られる。

第3群土器

17は胴部下半に磨消懸垂文が観察される。縄文は単節RL。

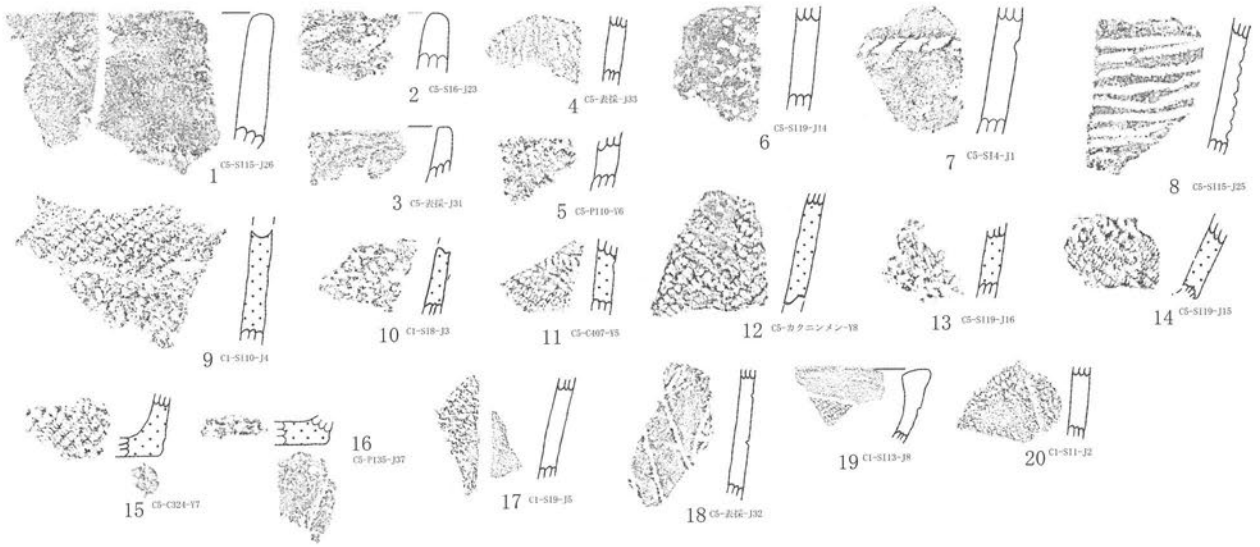
第4群土器　第1類土器

18は沈線による幾何学文様が描かれる。

第2類土器

19は内面が磨かれる浅鉢の口縁部破片である。20は同様の胴部破片である。

第1群は縄文早期平坂段階と考えている。撚糸文土器の末期に位置するものであろう。7の土器は稲荷原段階の可能性も想定される。第2群は縄文前期中葉の土器群と判断した。細片の為に明瞭ではないが、ループ紋が施文される点などから、関山式の可能性が高い。第3群土器は中期後半加曽利E式土器である。懸垂文の幅がやや広くなることからE3段階遺構と判断される。第4群土器は縄文後期をまとめた。第1類は幾何学的な文様が描かれるもので、堀之内2段階と判断した。第2類は内面に磨きが施される縄文後期中葉段階加曽利B式土器と判断した。



第175図　出土縄文土器

第3章　十王台式土器と古墳時代前期古式土師器の共伴について

第1節　十王台式期の住居

本遺跡における弥生時代の遺構と判断されたものは、CUT1では2号住居跡及び5号・10・13号の4軒である。また、CUT2では2・3号住居跡、CUT5では42号住居跡が検出されており、遺跡全体では7軒を数える。これらの住居跡から出土した弥生式土器は十王台式の範疇に含まれるもので、弥生時代後期の集落であることが判明している。近接する長峰東遺跡では大規模な弥生時代の集落が検出されており、その報告がまたれるところである。

ここでは、本遺跡で出土した十王台式土器について、若干の考察を加えるものである。

十王台式土器は茨城県北部の十王町出土の土器を標識にするものであるが、山内清男『先史土器図譜』への掲載以来早くからその存在については知られていたものの、その細分について管見に触れたものでは、平成5年茨城県教育財団の『研究ノート』3号に「茨城県後期弥生式土器編年の検討（Ⅲ）十王台式土器について」で試みられている。第176図によれば、1・2式の2段階に大分され、さらに1式は古段階と新段階の2段階に分類されている。

この分類に沿って本遺跡CUT1の5号住居跡、CUT2の3号住居跡、CUT5の42号住居跡の十王台式土器を分類すると、第1図に示すように1式新段階の遺物を主体にすることがわかる。東中根段階の遺物または上稲吉段階の遺物の混在は見られない。

第2節　十王台式土器と五領式土器を共伴する住居（第177図）

一方で第2図に示した資料は、五領式土器と十王台式土器が共伴した資料を提示したものである。CUT1の10号住居跡出土資料は、十王台式土器と五領式土器のセットが明瞭に捉えられたものである。

CUT1の10号住居跡出土遺物の6はほぼ完形の土器である。全体に器高に対して胴部の径が広くなり、ずんぐりした形状となる。また文様の構成は胴部の中央よりも下位にまで櫛描文が描かれる。櫛歯の単位は施文が不鮮明であるが3～5本を数える。また、7～9に示した壺形土器の口縁部は、指頭により押し潰した隆帯状の貼り付け文の上位に付加条第1種の縄文が細かに施文される。CUT1の5号住居跡出土遺物は十王台1式としたものであるが、これらの遺物の口縁部には頸部微隆帯の上位にまで櫛描文が描かれるものの、2式としたCUT1の10号住居跡では口縁部の櫛描が消失する傾向がみられる。

共伴する五領式土器は複合口縁の壺1、頸部が広く開く坩形土器（2）、折り返し部分に縦方向のハケ整形を行う鉢（3）、及び台付甕（4）、底部に穿孔のある小型の壺（甑ヵ）（5）などの土器があり、遺物の総量では19,147gの弥生土器、17,866gの土師器が出土しており、重量的にもほぼ同量である。

『研究ノート』第3号では五領式土器との共伴関係について日立市久慈吹上遺跡第2・3号住居跡出土遺物、東海村石橋向B遺跡第1号住居跡出土遺物、ひたちなか市部田野山崎遺跡第3・6・8・18号住居跡出土遺物、鷹巣遺跡5・7号住居跡、水戸市大塚新地遺跡、大鋸町遺跡第36号住居跡出土遺物、ひたちなか市武田遺跡18号住居跡の類例が提示されている。同書においてはこれだけの資料を提示しながらも、十王台式土器を主体に出土する住居跡から、客体的に古式土師器の出土する例がなく、逆に古式土師器の住居跡に客体的に十王台式土器が混在するとされ、十王台式と古式土師器の共存関係は明確ではないとしている。

確かに十王台式土器に比較して五領式土器は小形の器形が多く、遺物量的に判断すれば個体数が少ない十王台式土器の量が目立つ傾向にあるが、水戸市大鋸町遺跡で井上義安氏がハケ目を有する十王台の文様構成をモチーフとする土器について、折衷様式として大鋸式を提唱している、この点からも、五領式土器と十王台式土器の併存は明確であり、時間差は考えられない。武田遺跡、石橋向B遺跡の類例は主体または客体かの問題として捉えられているが、考古学的な手法から共存する土器（セット）として捉えるならば、十王台式土器は五領式土器に共伴するとするのが順

当であろう。

では十王台式土器のどの段階が五領式土器と共伴するのか、前述の『研究ノート』3号では新しい時期のものであろうと推測するにとどまっており、実際に各遺物の内容にまで論及をしていない。十王台式土器の細分論に戻らなければならないが、石橋向B遺跡1号住居跡17の遺物はスリット状区画の下端に弧状の文様を施文するもので、1式の特徴とされる。また同じく14の遺物は胴部文様帯の幅から見ても2式に含まれるものである。このようなことから、共伴する五領式土器の型式をもって十王台式後半の編年の再検討を行う必要があるのではなかろうか。

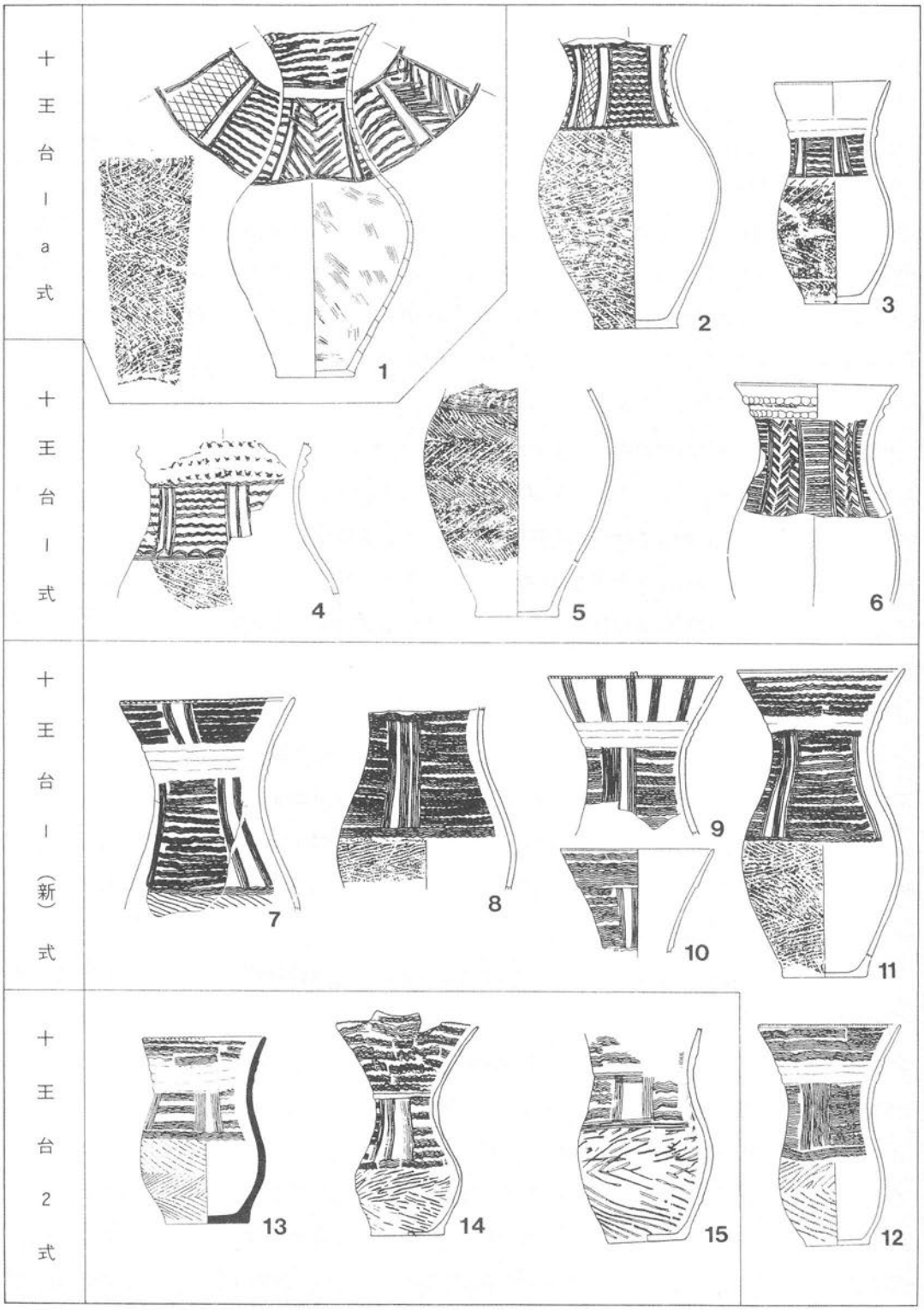
第3節　五領式土器を出土する住居跡（第178図）

五領式土器は複合口縁を出土したCUT1-10号住居跡1、及び13号住居跡1・2で4世紀前半～中葉に想定される。また、CUT1-10号住居跡2、CUT5-18号住居跡2、同21号住居跡3の坩形土器は比較的安定した平底で、胴部がやや扁平で、頸部が広く口縁部が大きくラッパ状に開くものである。同様の器形の遺物を出土する住居跡でありながら、十王台式土器を共伴した前者3軒と、共伴が見られない後者2軒が検出されている。このことから、五領式の土器を細分するならば十王台式を共伴する段階と、共伴しない段階で時期差が想定される。

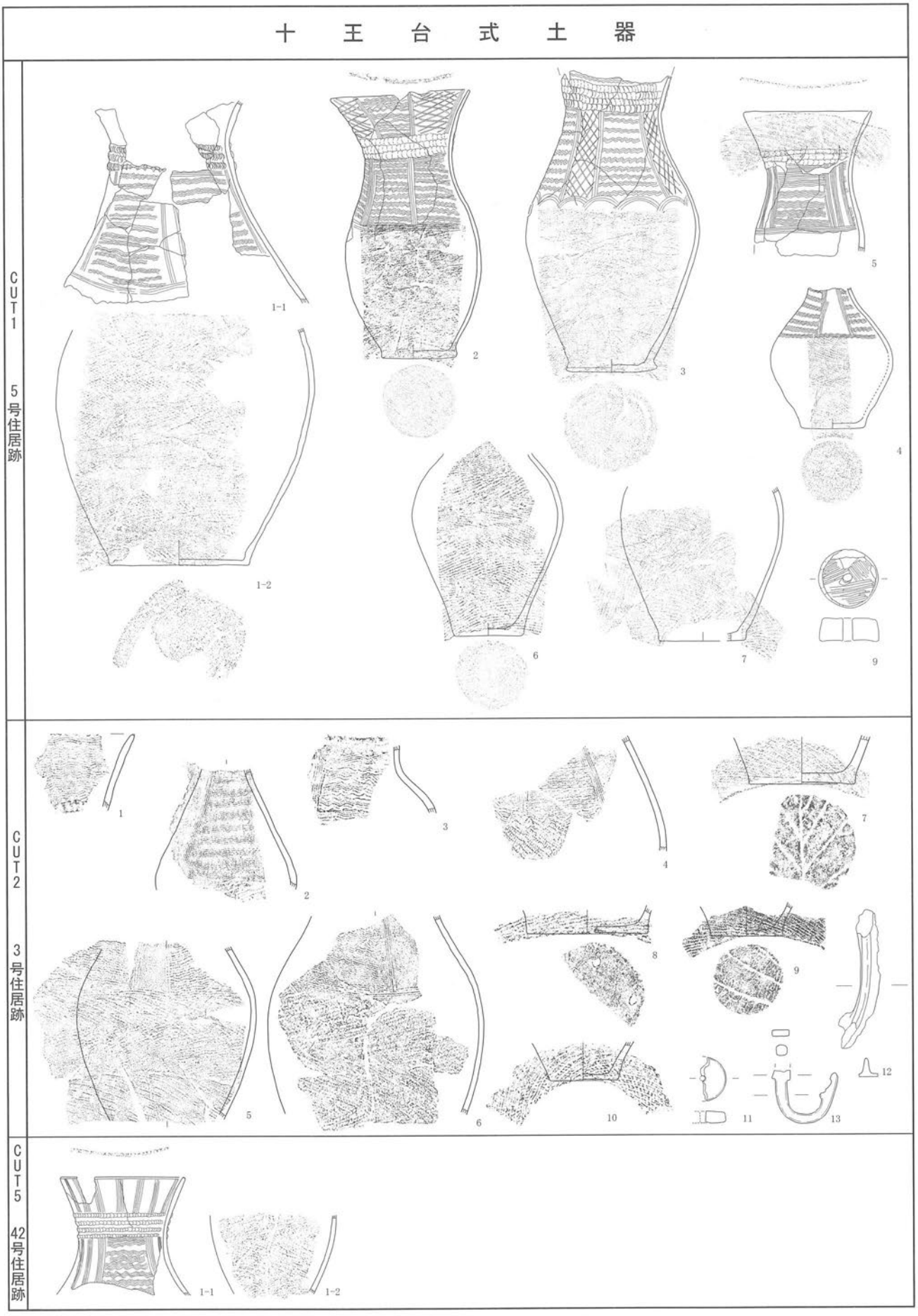
本遺跡では明確にできなかったが、高坏にその分類の鍵があるように思われる。CUT1-13号住居跡6の高坏は裾部に向かい緩やかに開くタイプで、CUT5-18号住居跡3の遺物は脚部が柱状またはエンタシス状になるものと予想される。

また一方では古式土師器の編年については「茨城のS字状台付甕について」（1～3）が『研究ノート』3号から7号で発表されている。五領式土器の地域性について比較検討の指標として、S字状台付甕が注目されている。S字台付甕の中心的な地域である関東地方北部、特に群馬県においてその細分が示されている。本遺跡でも、CUT1-10号住居跡4、CUT2-2号住居跡4に台付甕でハケ整形を行う遺物の出土が見られたが、口縁部の存在を確認できず、S字状台付甕と判断できるものは無かった。これらがS字口縁であるならば、S字状台付甕の出現期には十王台2段階の遺物が共伴することが推察できる。

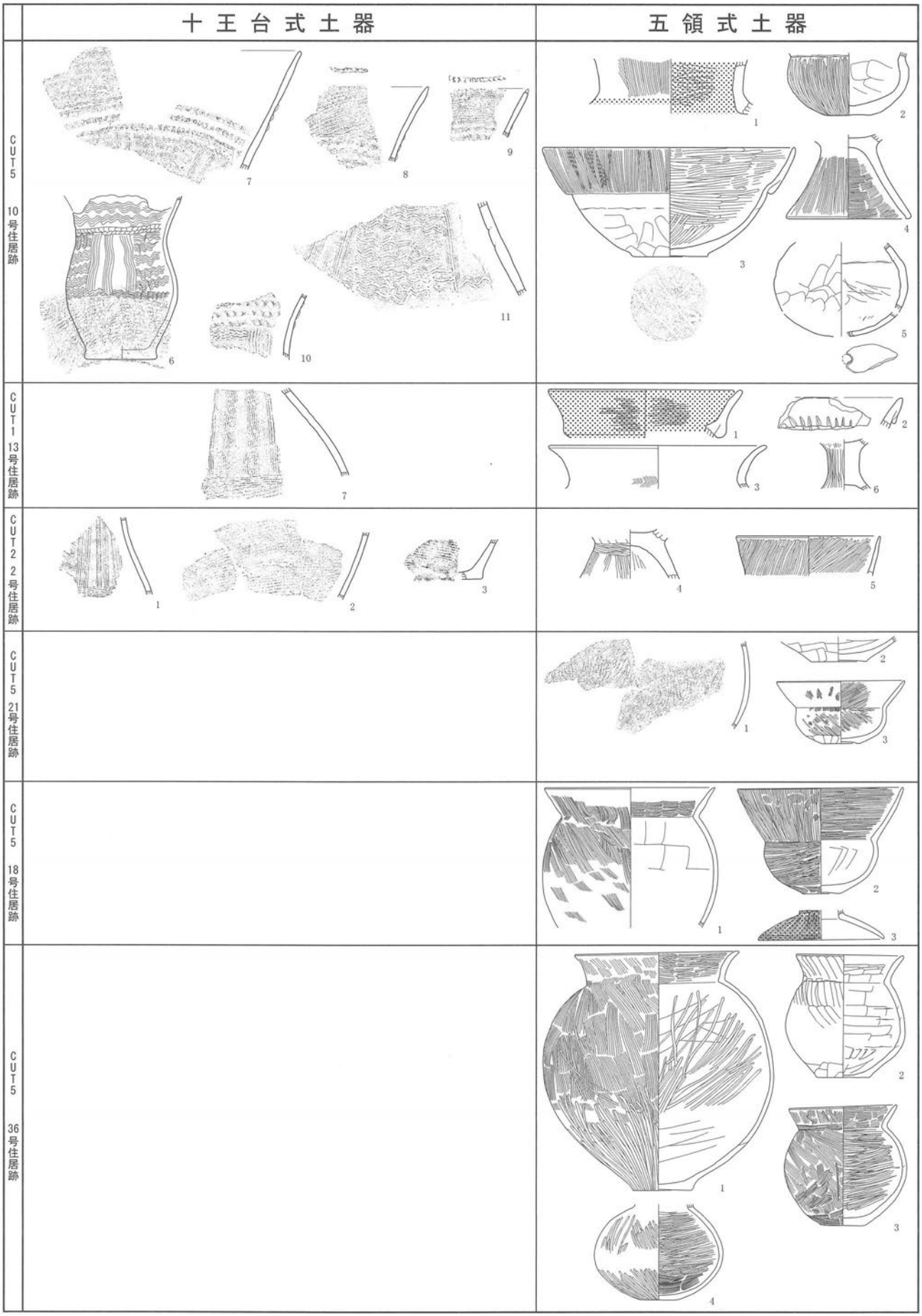
尚、CUT5-36号住居跡では、ハケ甕（1・3）に伴う坩（4）は頸部が細く胴部が球形となるもので、時期的には5世紀代和泉期に近い遺物と判断される。



第176図　十王台式土器編年（1）
「茨城県後期弥生式土器編年の検討（Ⅲ）十王台式土器について」『研究ノート』第3号より引用



第177図　十王台式土器編年（2）



第178図　十王台式土器編年（3）

第4章　長峯西遺跡で検出された初源期カマドについて

関東でカマドが出現するのは、古墳時代中期とされている。初源期カマドの様相は、次のような点があげられる。

第1にカマドは、煙道のために壁を切りこまず、袖構材の切り込みに対する侵入の割合は10%未満となる。第2に煙道部での上昇角度は、下部で60°～90°、上部で80°～90°となる。第3に火床の位置は、切り込みが設けられる以前に本来壁があったと推定される線から、カマド全長の80%離れたあたりにある。第4にカマドの長い両袖部の平面形状は、平行もしくは「ハ」の字に開いている。第5に土製支脚ではなく「転用支脚」が用いられ、主として倒立させた甕が用いられる。以上の5項目が特徴である。(※1)

CUT1には、古墳時代中期で、初源期のカマドが付設された竪穴住居跡であるSI04とSI08の2軒が存在している。2軒を前述5項目と照合したい。

SI04はプラン検出時の状態は悪く南壁は消失していたものの、4基の主柱穴と南西コーナーに貯蔵穴、北西壁中央にカマドが付設されている。またプラン中央部からやや北壁に寄った位置に地床炉が存在する点が特徴的である。

カマドの様相は全長97cm、巾は奥で102cm、手前で125cmとなる。第1に壁の切り込みはなく、壁の手前で袖部を構築している。第2に下部から上部にかけての立ち上がりは50°である。第3に火床の位置は全長97cmに対して壁から35cm離れた存在する34%の位置に存在する。第4に両袖部の平面形状はわずかに手前で開くがほぼ平行となる。第5に土製支脚が出土している。

SI04地床炉の存在は、カマドを増設した可能性と過渡的な様相を示してはいるのだが、第3・第4の項目とは合致しない。

遺物は、土師器坏と須恵器高坏が出土した。須恵器高坏脚裾部は1段の透かしを有し、端部が折り返すもので、TK208段階と判断される。

つぎにSI08である。SI08はローム層を掘り込んで構築された竪穴式住居跡で、覆土上面にローム、下層にいくにしたがっておびただしい焼土・炭化物が検出されており、焼失家屋と推定される。周溝を巡らした方形プランの四隅を結んだ対角線上に柱穴四本を配し、南西角に平面長方形をした蓋の痕跡と考えられる浅い掘りこみを有し、その中央に平面円形をした深い貯蔵穴が穿たれている、カマドはその北西壁中央に寄って構築されている。

カマドは、全長117cm。袖部の巾は、壁に近い奥で81cm、支脚のあたりで92cmとなっている。ロームに多量の砂を混入させた両袖部は、火災のためか異様なまでに全体が被熱していた。第1に壁の切り込みがなく、袖の構材は壁の手前に付設している。第2に下部から上部にかけて60°で立ち上がる。第3に火床の位置は全長117cmに対して96cm離れた、壁から80%弱の位置に存在する。第4に両袖部の平面形状は手前でわずかに開くが外観ほぼ平行をなしている。第5に出土した「転用支脚」は伏位倒立した土師器坩である。

5項目のうち第5に示した点以外は、差異はないということがわかる。

遺物は、土師器甕・坩・坏、須恵器坏、砥石、鉄製鍬が出土している。須恵器坏口縁部は端部がシャープで扁平になる。TK208前後の時期が想定できる。

以上のことからSI04とSI08とを比較したとき、両者の形態は、カマドの様相を除いて一致しており、出土遺物も古墳時代中期の様相を呈している。出土した須恵器は、5世紀中葉から後半の所産とされるTK208出土須恵器であり、当該地域における初源期のカマドとして貴重な資料となった。

※1　第1～4項目は、下記の（谷旬1982年）からの引用、第5項目は（佐藤克己1974年）からの引用である。

第5章　長峰西遺跡出土の墨書土器について　(図版113・114)

墨書土器はCUT5の7・10・13・14・16・19・22・32号住居跡、CUT6の3号住居跡CUT10Aの1号住居跡から合計

16点が出土した。10・14号住居跡は8世紀後半であるが、その他は9世紀後半を中心とした9世紀前半～10世紀前半の遺構である。小片での出土がほとんどのため、墨書内容が不明のものが多いが、ここでは釈読できた資料について述べる。

「万」 CUT5-22号住居跡。9世紀後半の住居から出土。人名とすれば「万呂」という人名と解釈できる。もしくは集団の標章として選択された可能性も考えられる。出土状況などからは祭祀的様相は窺えないため、吉祥句として解釈することは難しい。従って日常的な使用に供されたものと考えられる。

「大伴」CUT5-14号住居跡。8世紀後半の住居から出土した。氏族名であり、全国で出土例が多く、関東では千葉県八千代市権現後遺跡で「大伴□（部）」、東京都北区御殿前遺跡で「大伴」の墨書土器が出土している。

「片山」CUT10A-1号住居跡。遺跡内で最も標高が高い位置になるが、周辺が後世削平されていることから、遺構の東側、台地上にも本来集落が展開していたと推測される。よって他の墨書土器と同じ集落で使用されたものと考えられる。「片山」は3点出土したが、墨書位置や字形に共通性が見られ、3点が同時期に使用された可能性が高い。出土状況に特殊性はなく、日常什器として使用されたと推測される。文字内容は集団の標章かあるいは人名と考えられるが、管見の限り他での出土例が見られないため現段階では可能性を指摘するに留めたい。

第6章　遺跡全体の総括

本遺跡においては、弥生時代後期の十王台式の良好な資料群が出土し、特に終末期の五領式土器との共伴関係が確認されたことが重要である。また初期カマドの形態や炉とカマドの関係についても様々な所見を得られたと考える。

長峰西遺跡は舌状台地上に展開された遺跡だが、時期によって集落の位置は異なっていると考えられる。すなわち弥生時代後期～古墳時代中期にかけての集落はCUT1・2で検出されることから、台地の低位に展開していると想定される。

一方、奈良・平安時代の集落はそれよりやや高い位置であるCUT5で密度が濃く、後世の削平を受けた台地中央にかけて集落が展開していたと考えられる。また、おそらく遺物のみ出土した縄文時代の遺構も存在したと推測される。遺跡周辺には古墳群が密集しており、古くからの集落が営まれていた立地と想定され、本遺跡も建替えを行う住居跡が多く見られることから、古代において8世紀後半～10世紀前半までの長期的な拠点集落と評価することができる。また遺跡には6世紀～8世紀中葉の空白期があるが、隣接する台地に展開する長峰東遺跡など、周辺の遺跡との関連の中で考えていく必要があろう。

中近世の遺物・遺構については不明な点が多いが、今後の周辺の調査に期待したい。

引用・参考文献
茨城県立歴史館 1991 『茨城県史料考古資料編　弥生時代』
茨城県立歴史館 1994 『東国の古代仏教－寺と仏の世界－』特別展図録
上高津貝塚ふるさと歴史の広場 2006『火葬と古代の社会－死をめぐる文化の受容－』第11回特別展
栃木県立博物館 1995『東国火葬事始－古代人の生と死－』第53回企画展図録
谷旬　1982年「古代東国のカマド」『研究紀要7』（財団法人千葉県文化財センター）
佐藤克己　1974年『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　小室』（房総考古資料刊行会）第3章第2節
鈴木道之助　1974年（前掲書）第3節
大賀健　2008年 『千葉県柏市呼塚遺跡8次調査報告書』（有限会社　勾玉工房Mogi）第4章第2節
白石太一郎他　2006年 『年代のものさし陶邑の須恵器』（大阪府立近つ飛鳥博物館）
（財）茨城県教育財団　1994年 『研究ノート』3号～7号
吉澤悟　1995年「茨城県における古代火葬墓地域性」『土浦市立博物館紀要』第6号

遺　構　写　真　図　版

1　航空写真全景1（遺構配置）

2　航空写真全景2

CUT1

1　CUT1 航空写真

1　標準堆積土層

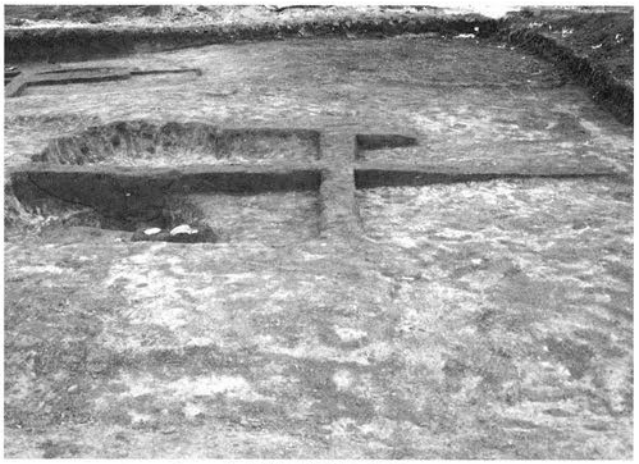
2　遺構確認全景

CUT1

1　1号住居跡全景

2　同 セクション

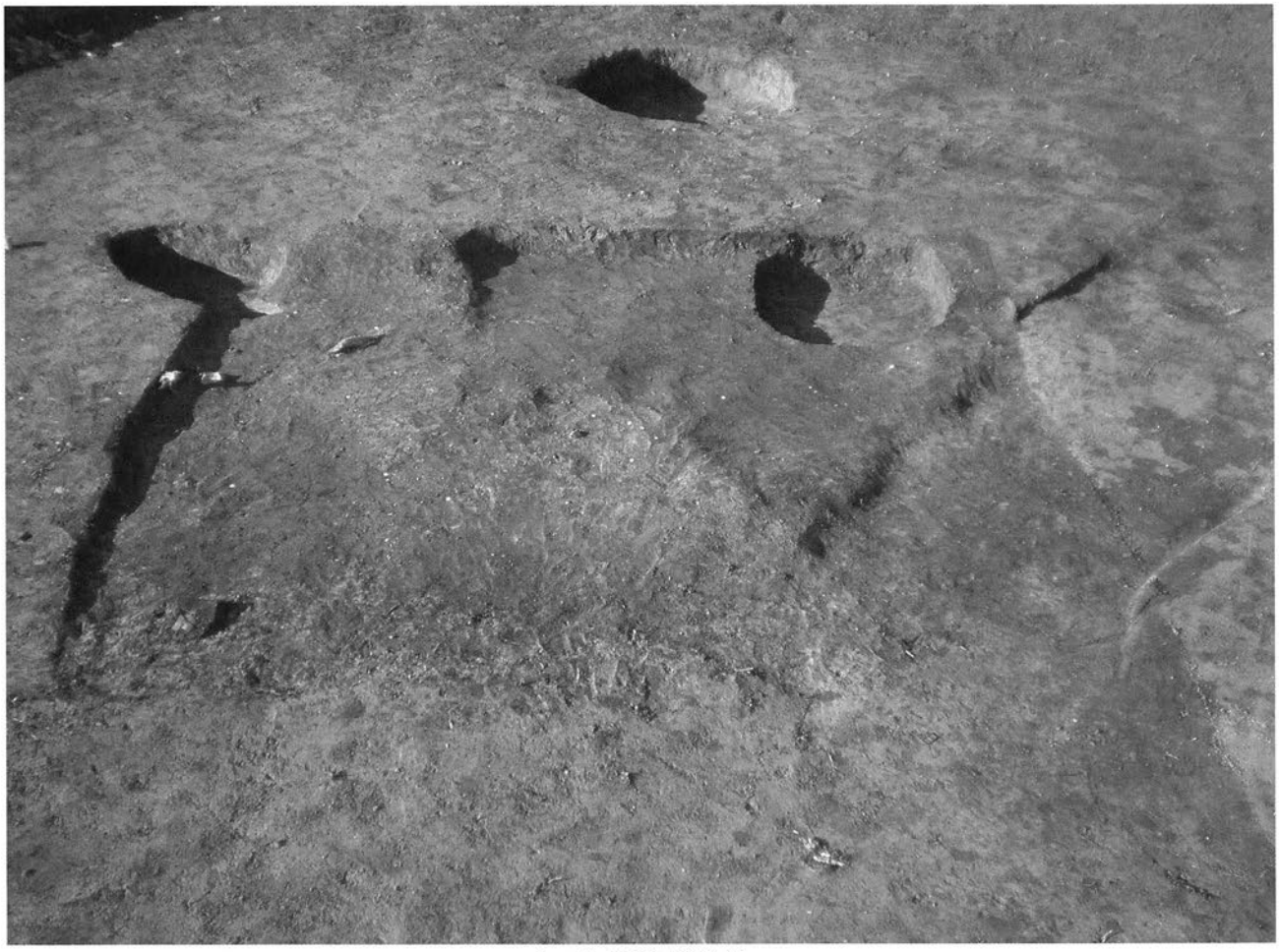
3　同 カマド



4　2号住居跡セクション

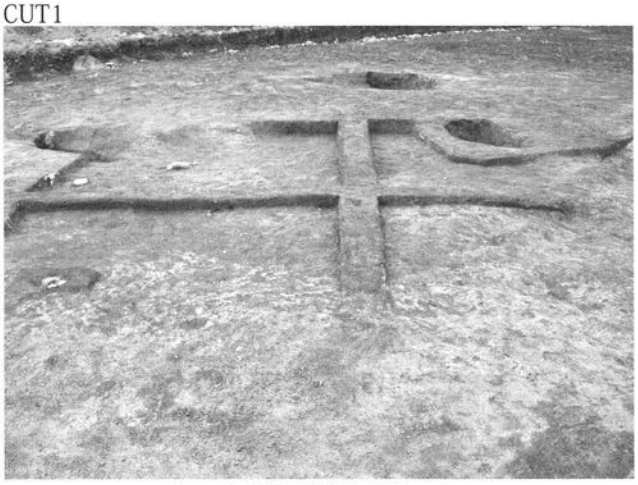
5　同 カマドセクション

1　2号住居跡全景



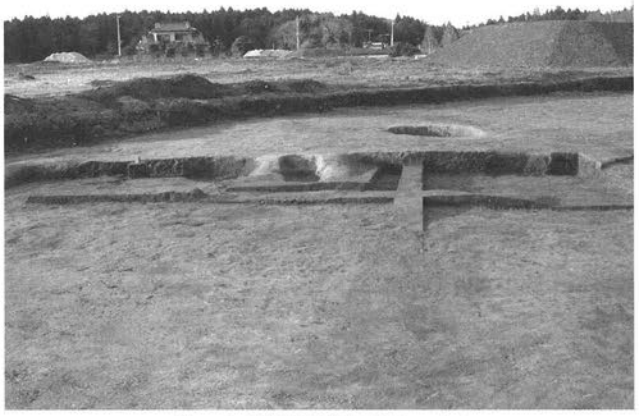
2　3号住居跡全景

CUT1

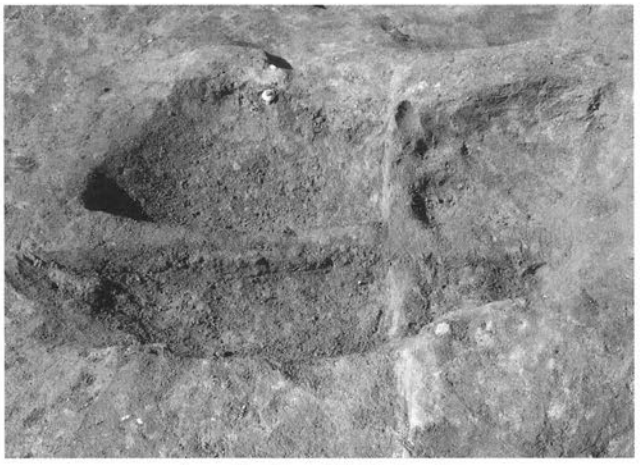


1　3号住居跡セクション

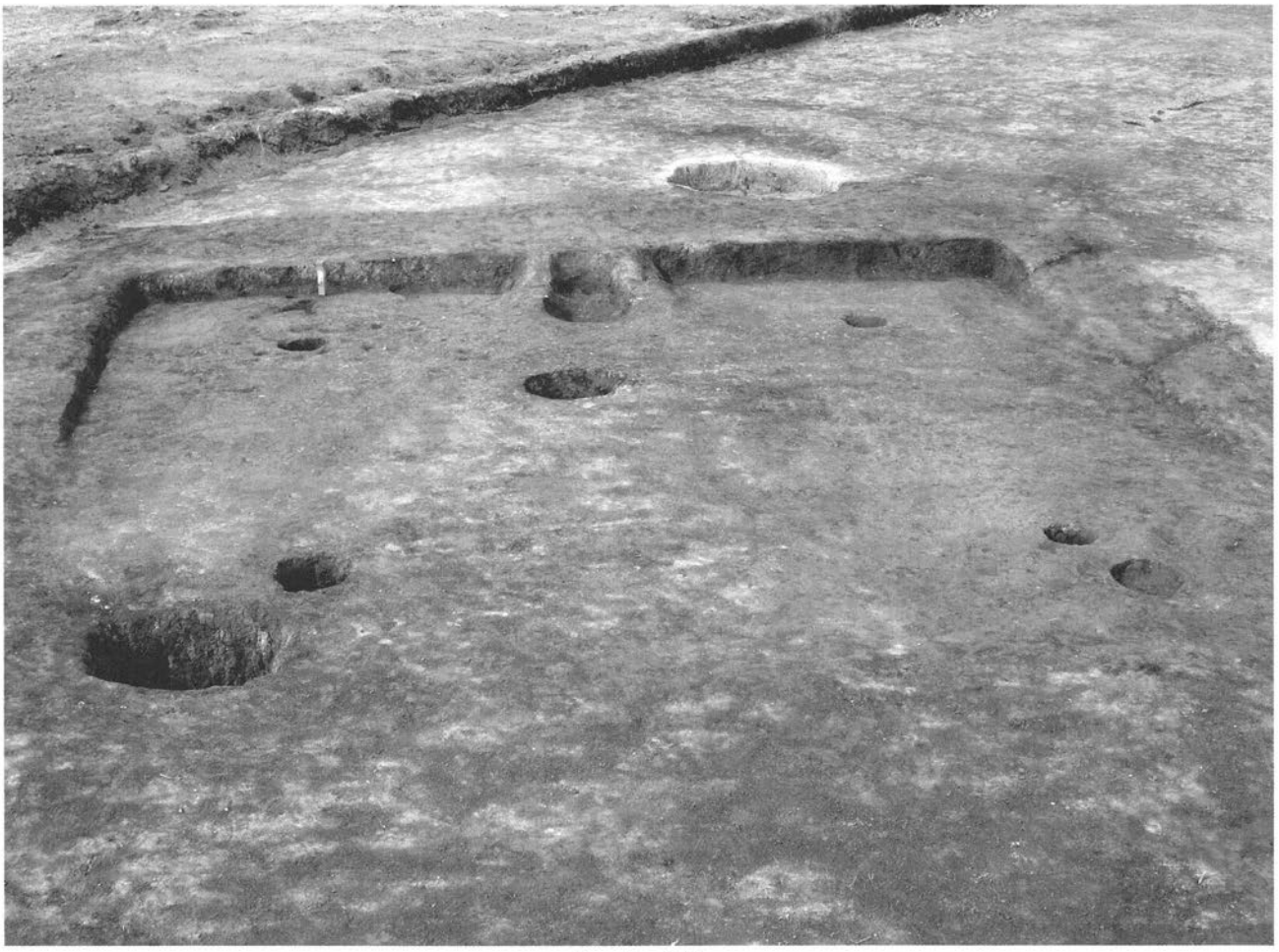
2　同 カマド



3　4号住居跡セクション

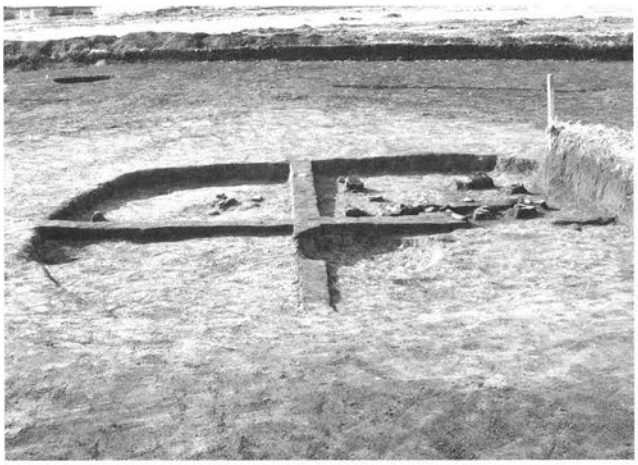


4　同 カマドセクション



5　同 全景

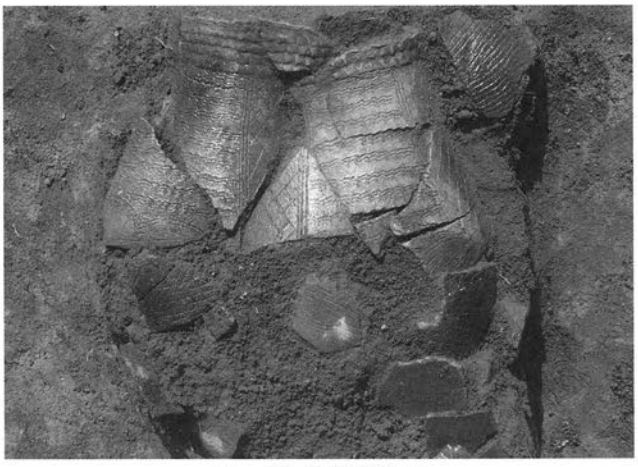
1　5号住居跡全景



2　同 セクション

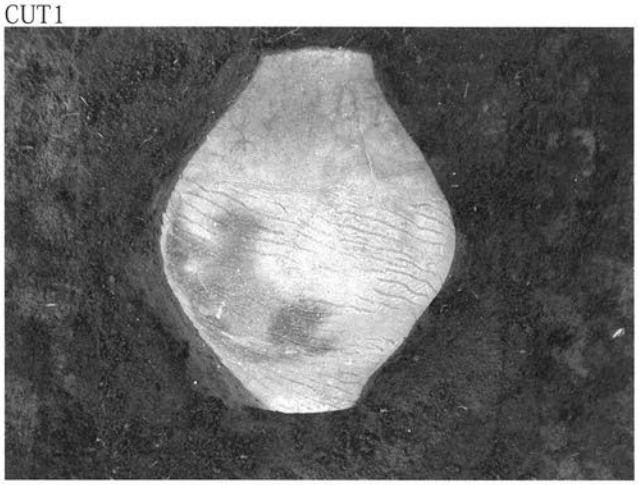
3　同 遺物出土状況

4　同 遺物近景1

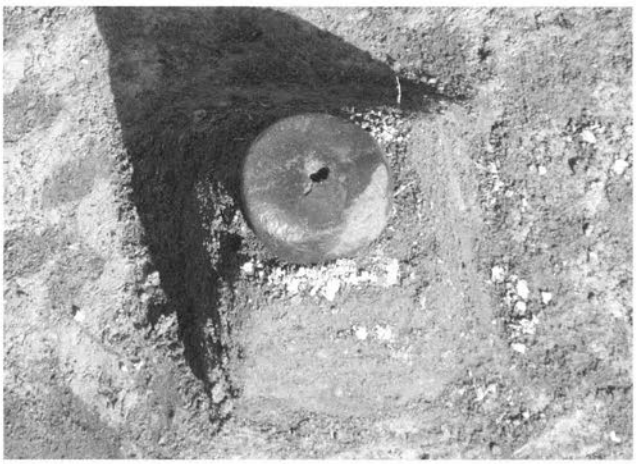


5　同 遺物近景2

CUT1



1　5号住居跡 遺物近景3

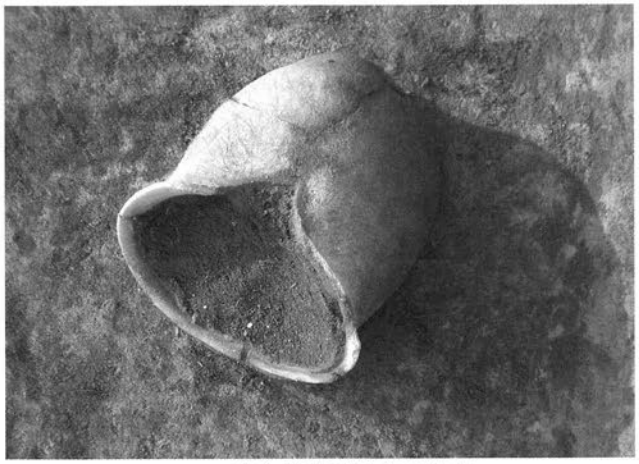


2　同 遺物近景4

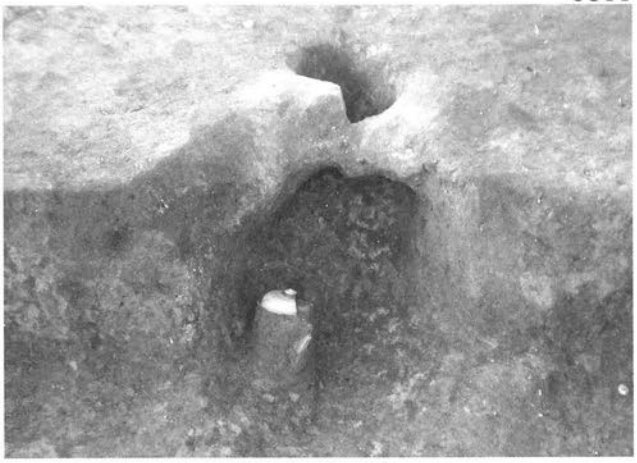
3　同 遺物近景5

4　同 炉セクション

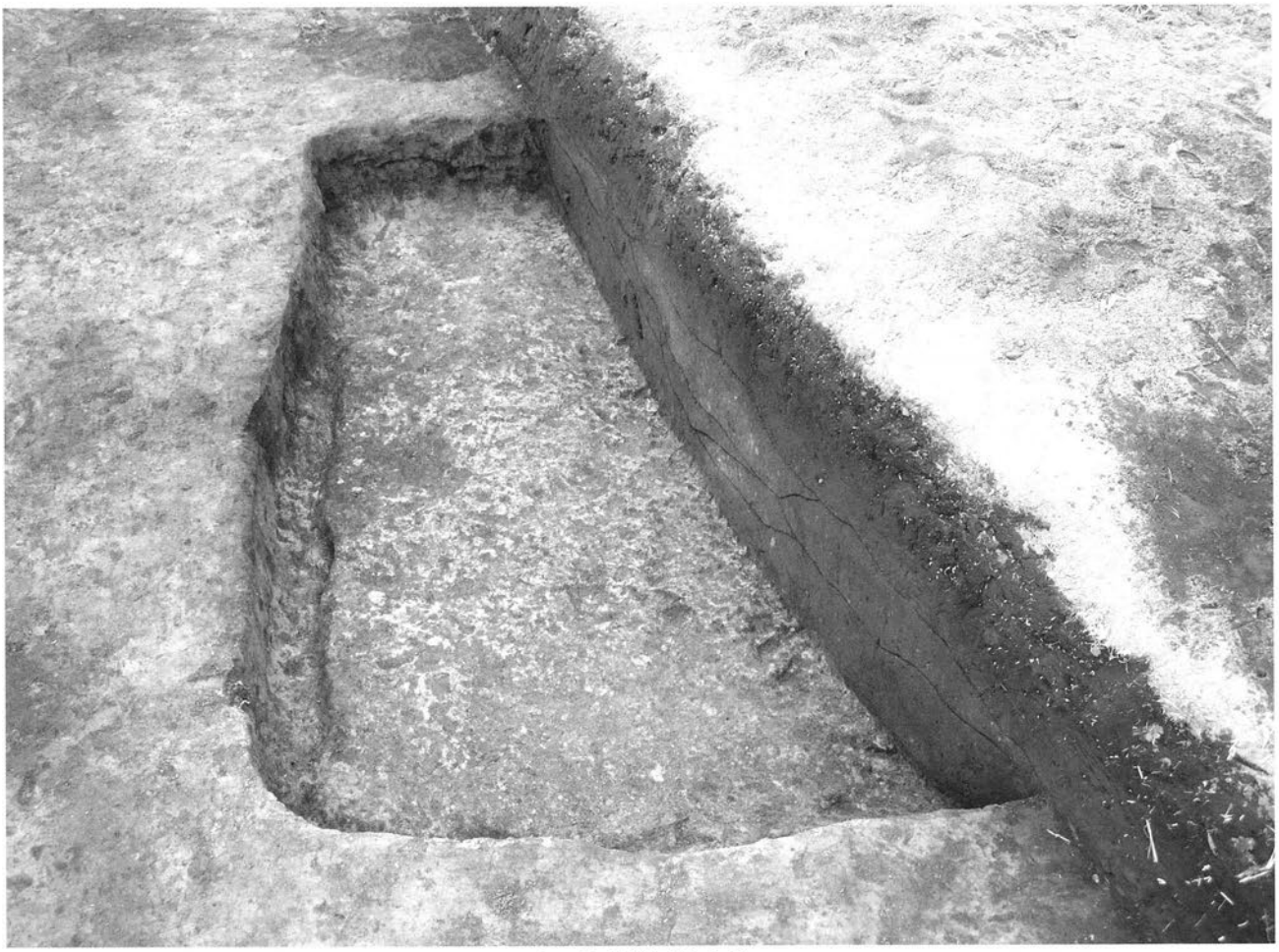
5　6号住居跡全景



1　6号住居跡遺物出土状況



2　同 カマド



3　7号住居跡全景

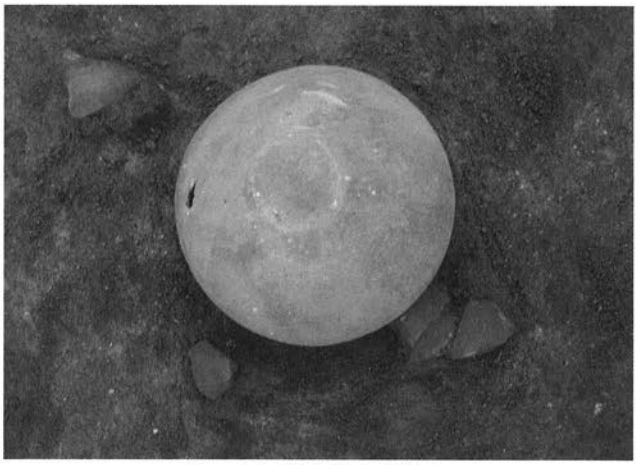
4　同 遺物出土状況

5　8号住居跡焼土分布状況

CUT1

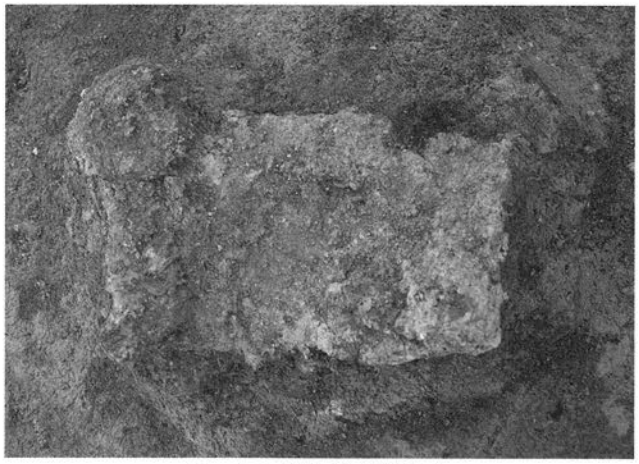
1　8号住居跡全景

2　同 遺物出土近景1



3　同 遺物出土近景2

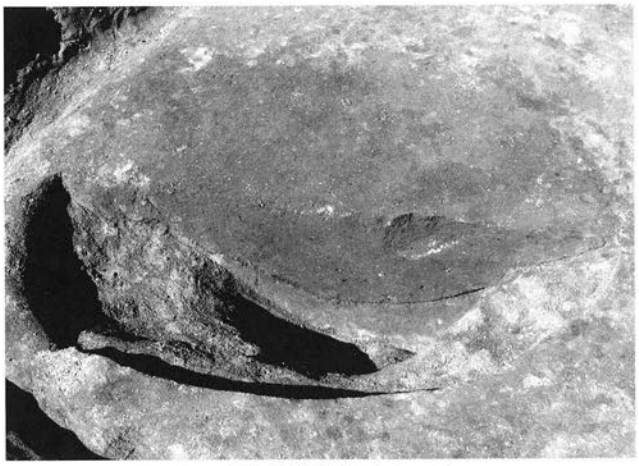
4　同 遺物出土近景3



5　同 遺物出土近景4

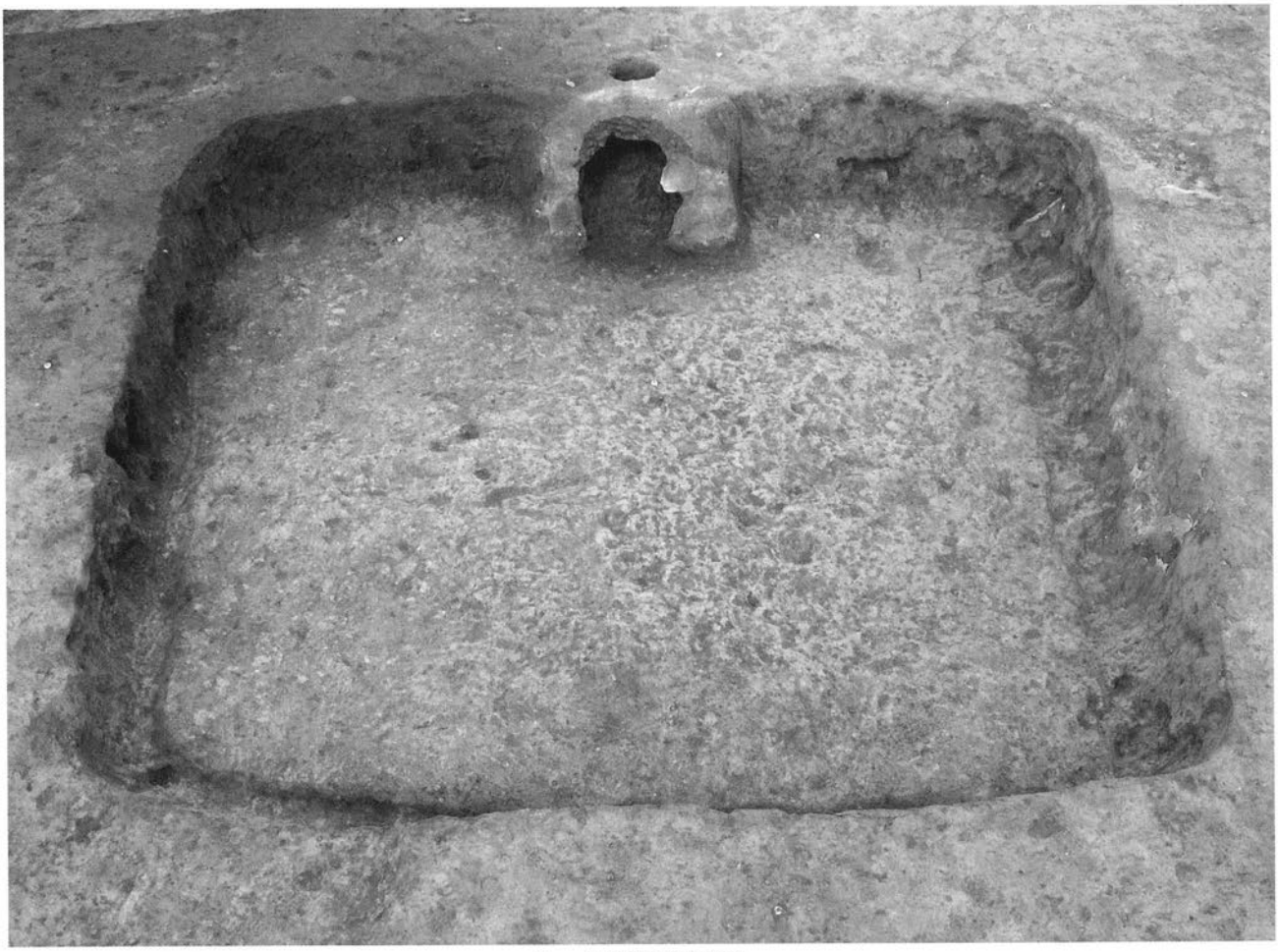
1　8号住居跡遺物出土近景

2　同 カマド



3　同 貯蔵穴セクション

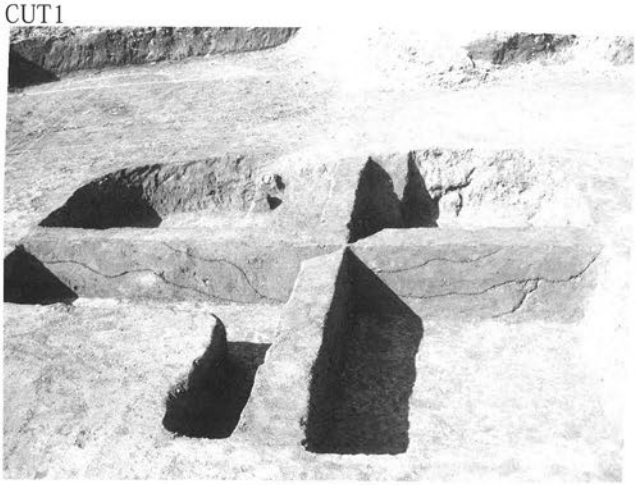
4　同 貯蔵穴完堀状況



5　9号住居跡全景

図版12

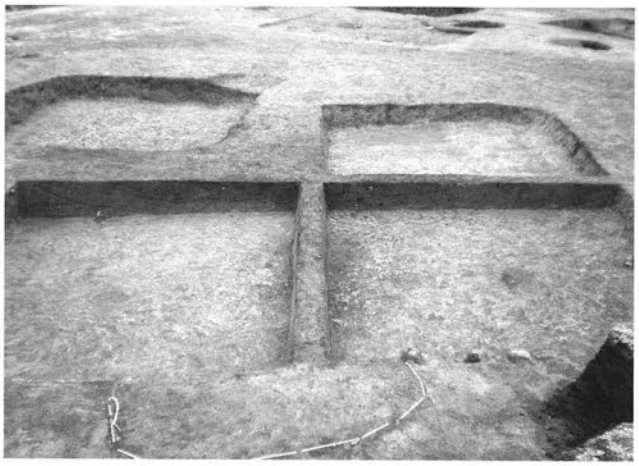
CUT1



1　9号住居跡セクション

2　同 カマドセクション

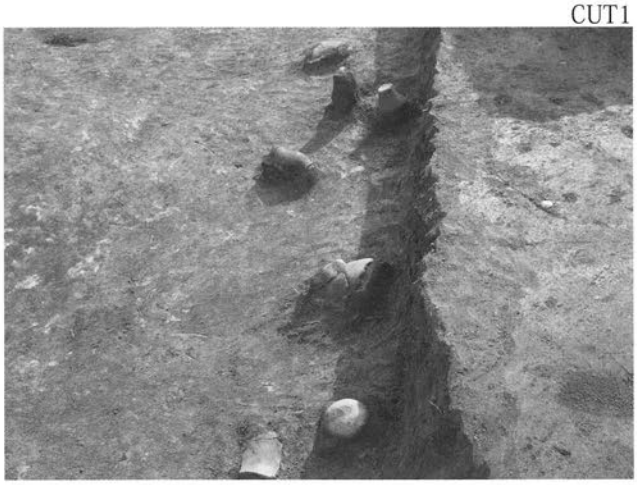
3　同 カマド



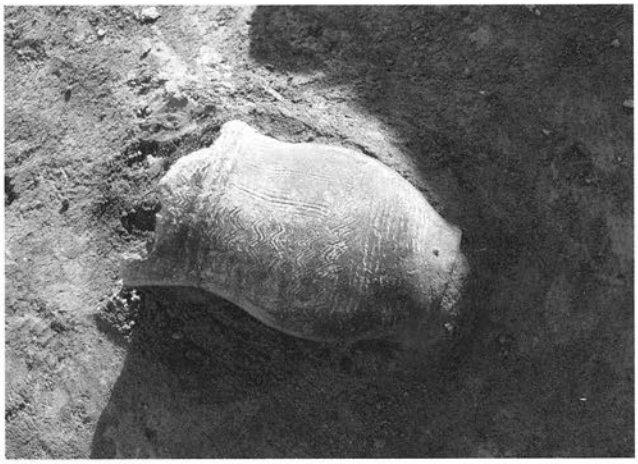
4　10号住居跡セクション

5　同 全景

1　10 号住居跡セクション



2　同 遺物出土状況 1



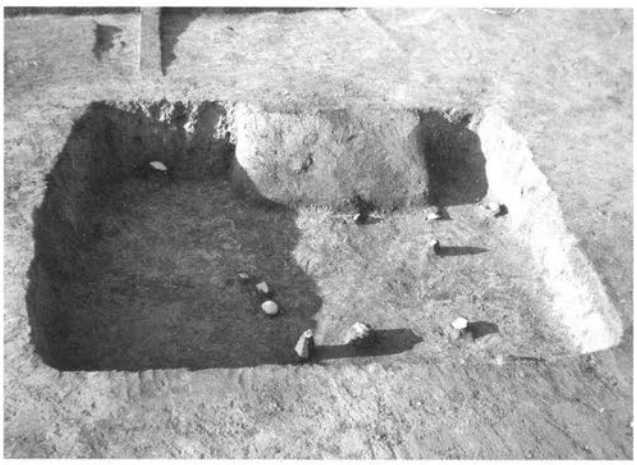
3　同 遺物出土状況 2

4　同 炉セクション

5　11 号住居跡全景

CUT1

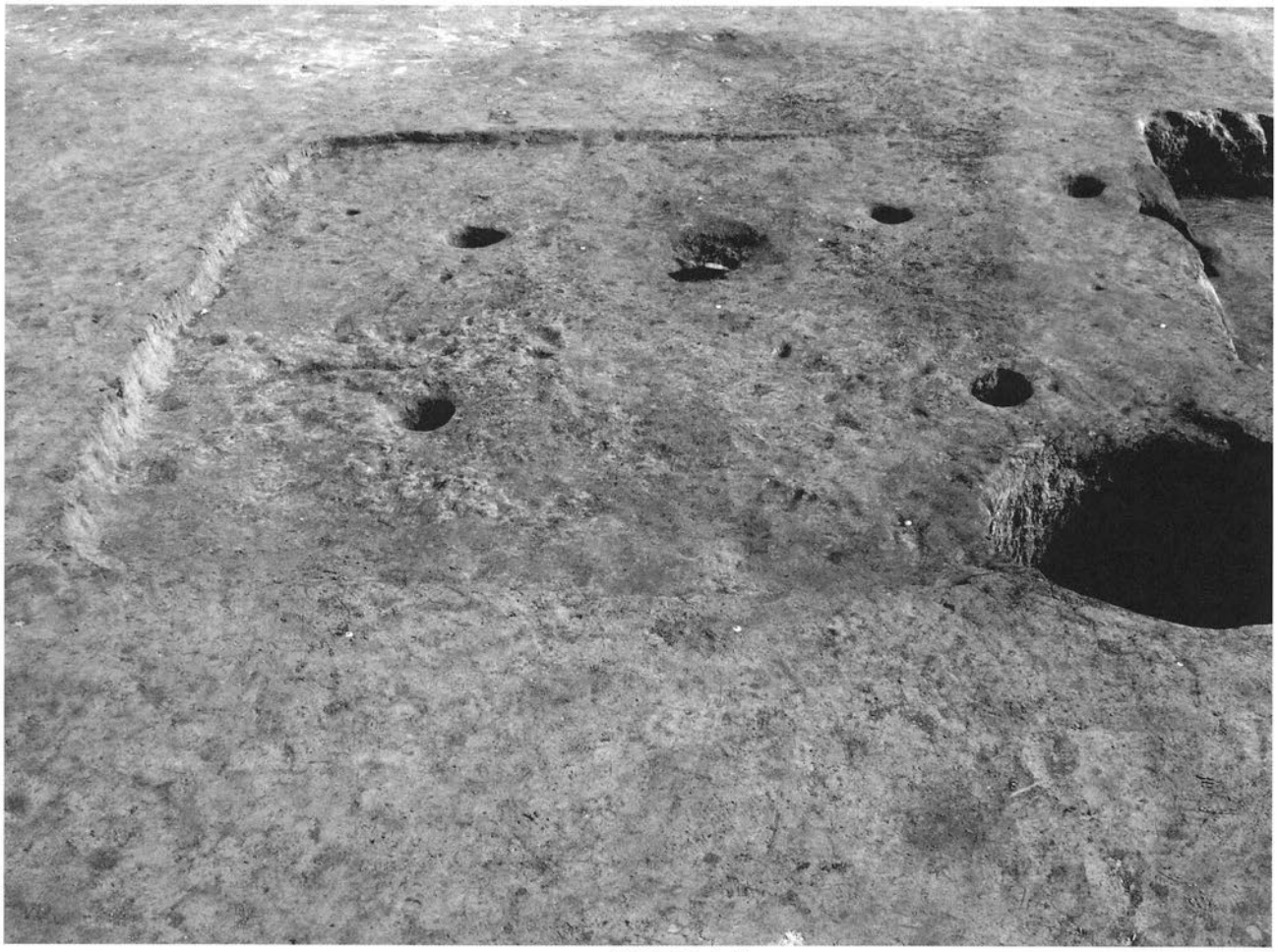
1　11号住居跡セクション



2　同 遺物出土状況

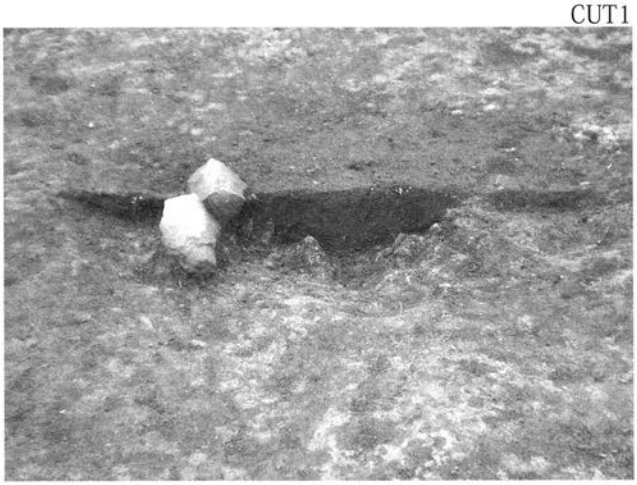
3　同 カマドセクション

4　同 カマド全景

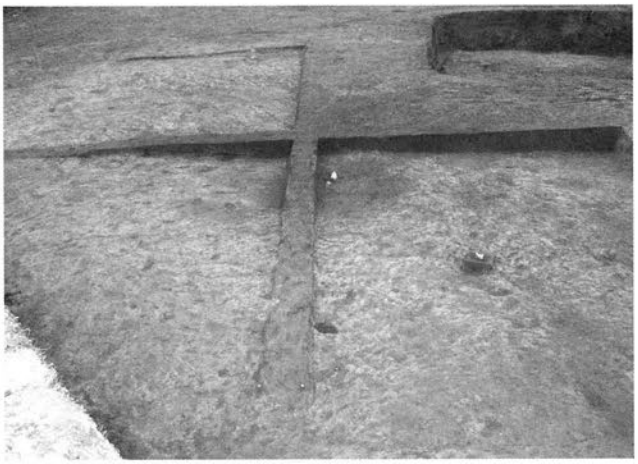


5　12号住居跡全景

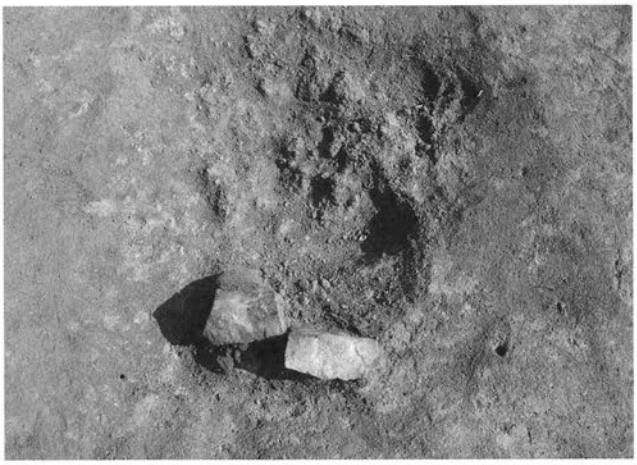
1　12号住居跡セクション



2　同 炉



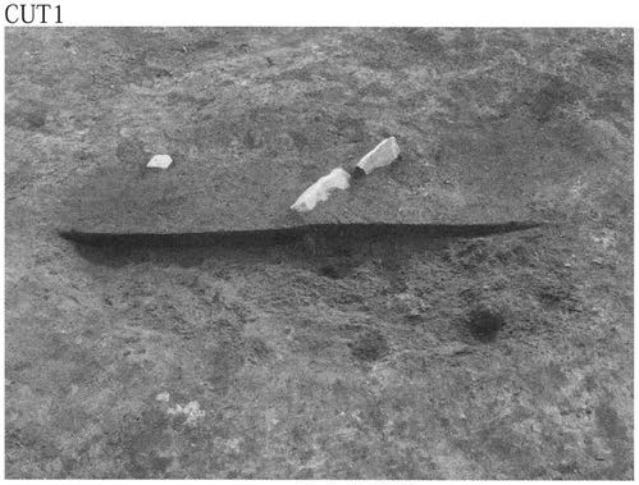
3　同 セクション



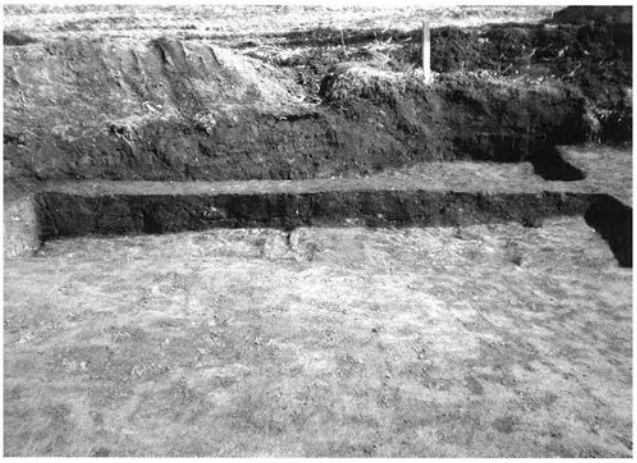
4　13号住居跡炉

5　同 全景

CUT1



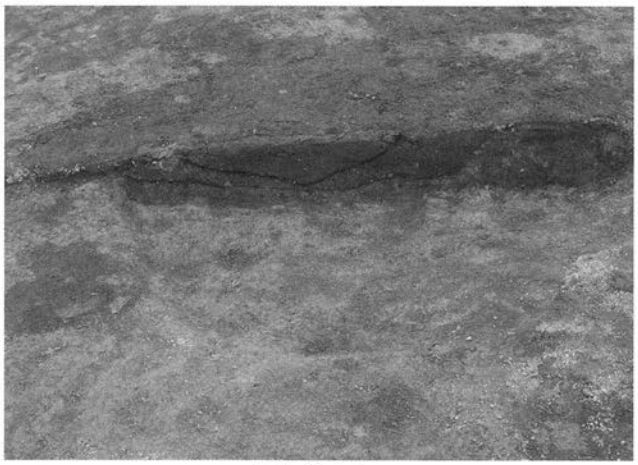
1　13号住居跡炉



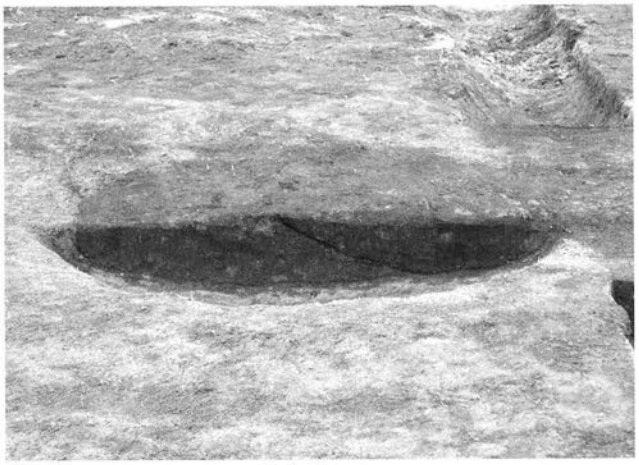
2　14号住居跡セクション

3　同 全景

4　1号土坑セクション

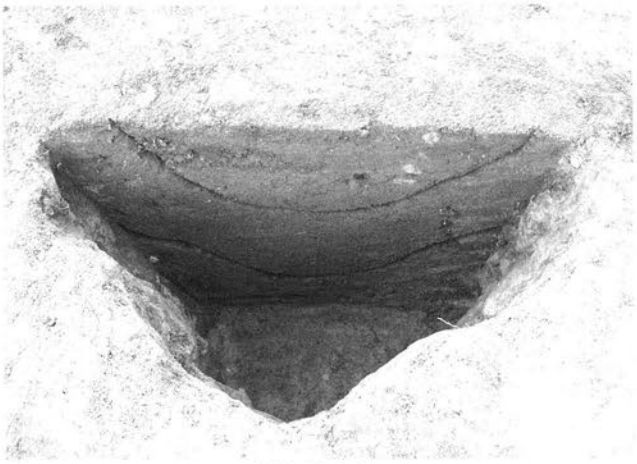


5　2号土坑セクション



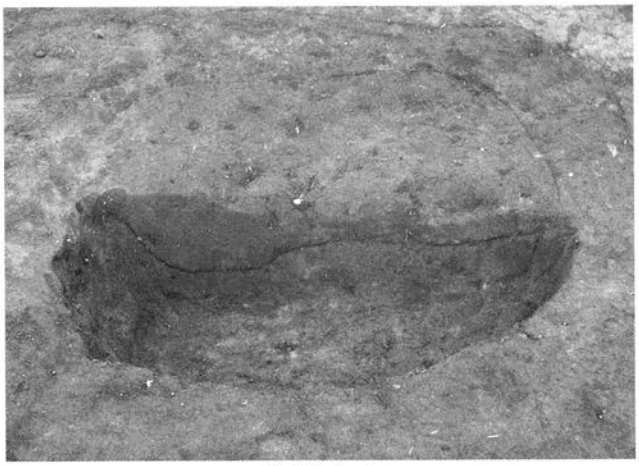
1　3号土坑セクション

2　4・5号土坑セクション



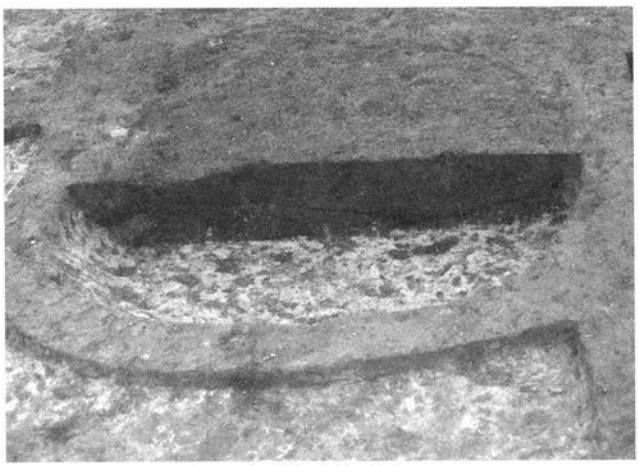
3　7号土坑セクション

4　8号土坑セクション

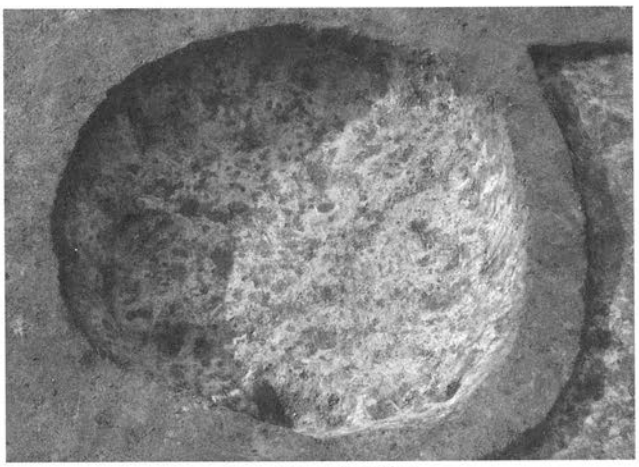


5　9号土坑セクション

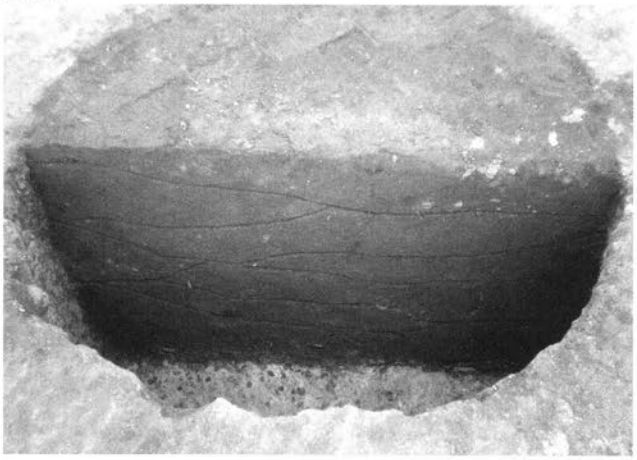
6　11号土坑セクション



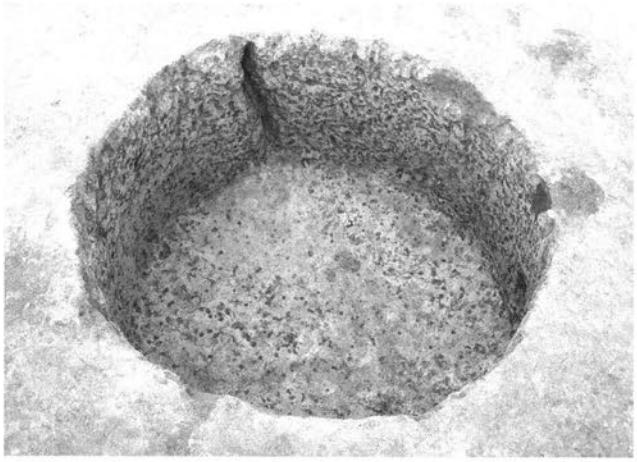
7　12号土坑セクション



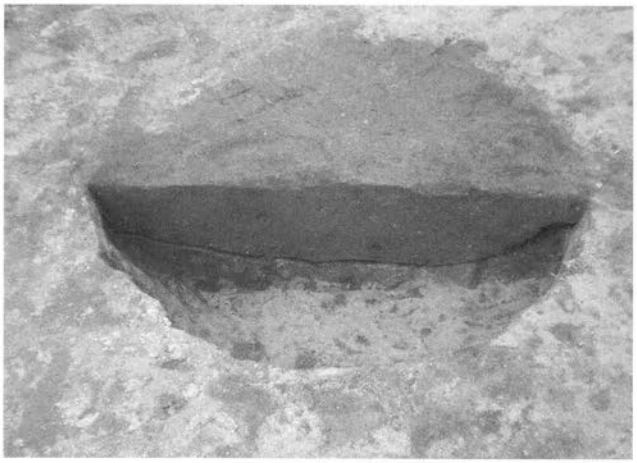
8　同 完掘状況



1　13 号土坑セクション

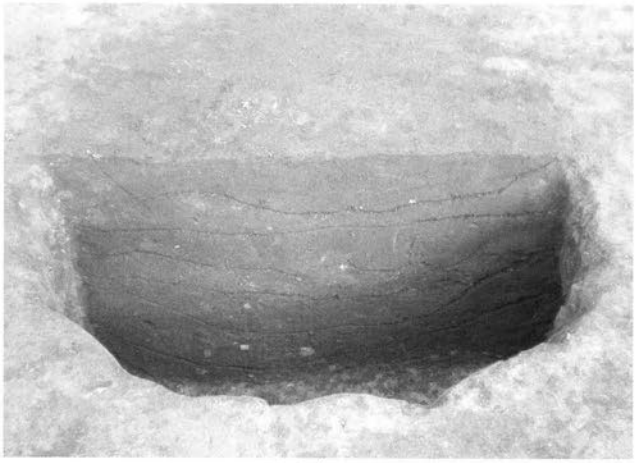


2　同 完掘状況

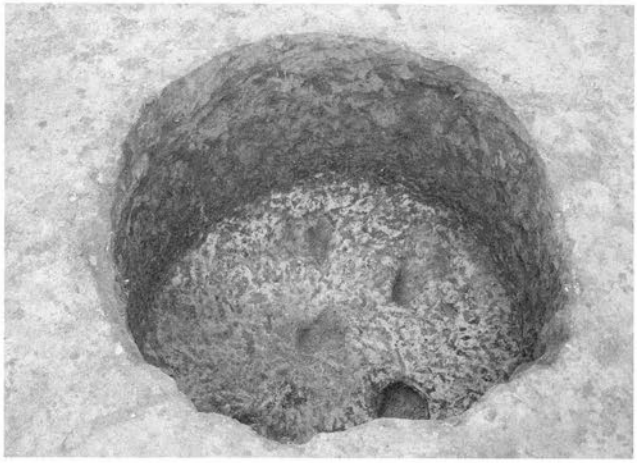


3　14 号土坑セクション

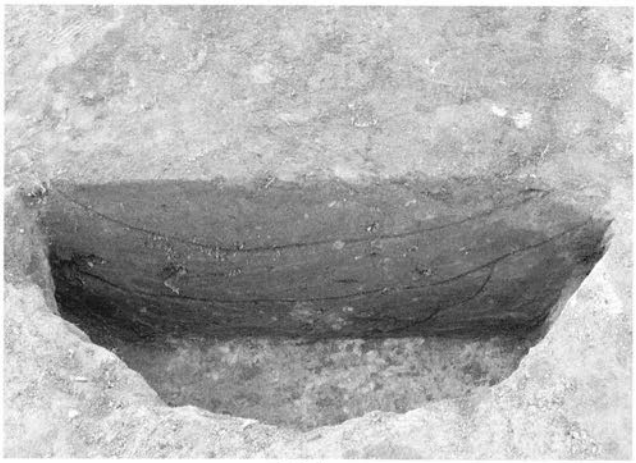
4　同 完掘状況



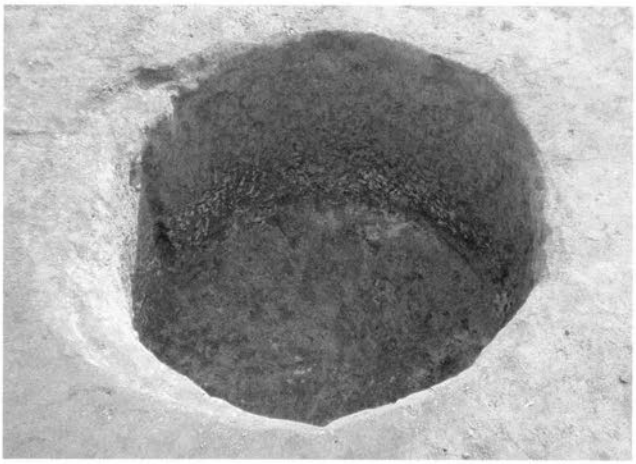
5　15 号土坑セクション



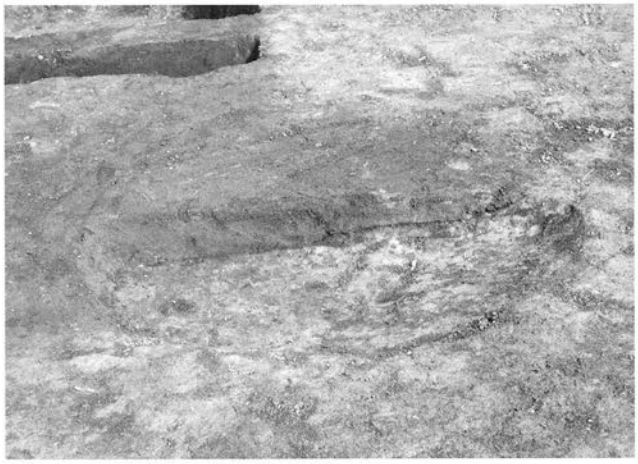
6　同 完掘状況



7　16 号土坑セクション



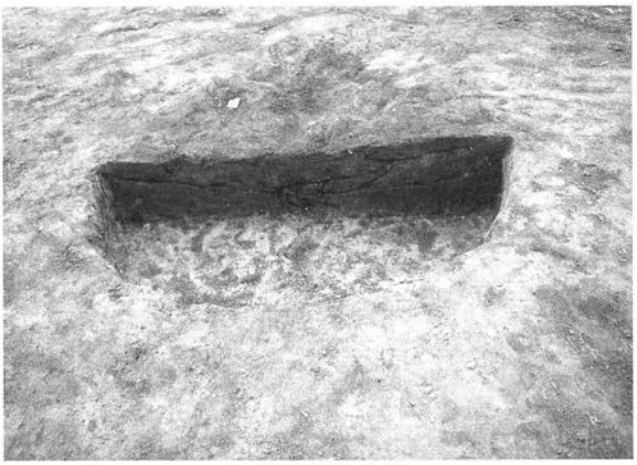
8　同 完掘状況



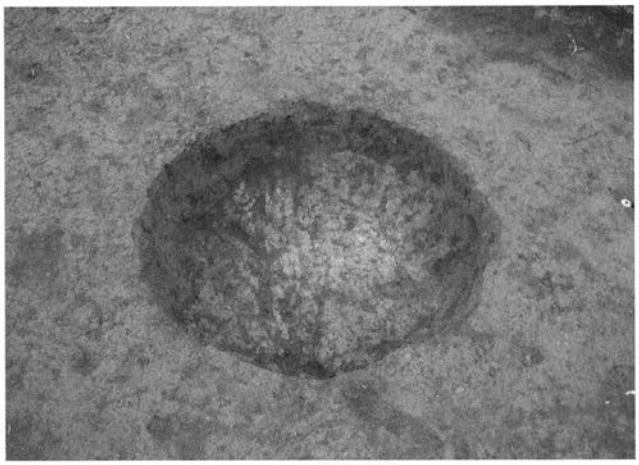
1　18 土坑セクション

2　同 完掘状況

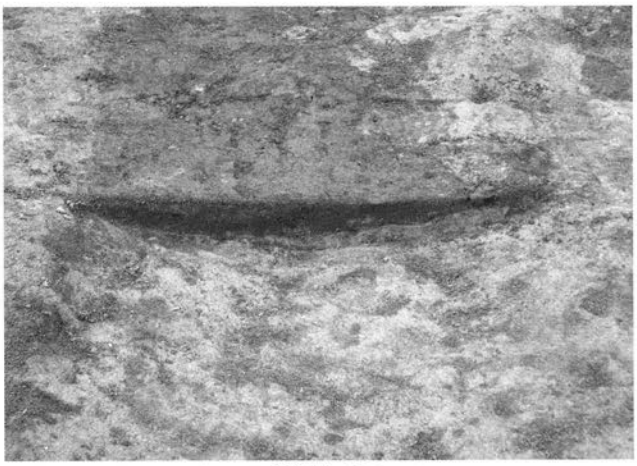
3　19 号土坑完掘状況



4　20 号土坑セクション



5　同 完掘状況

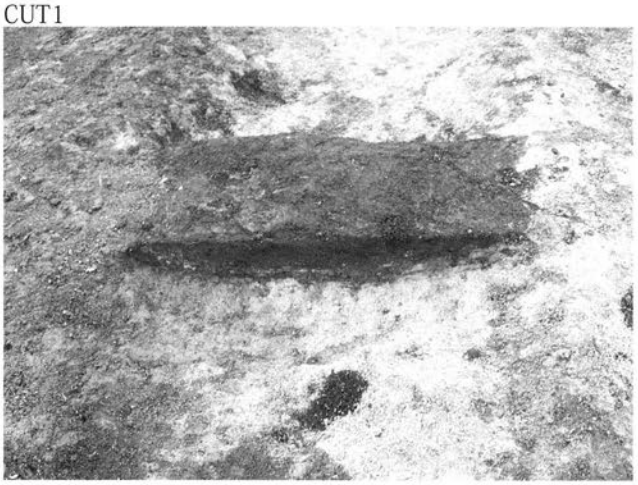


6　1 号溝セクション

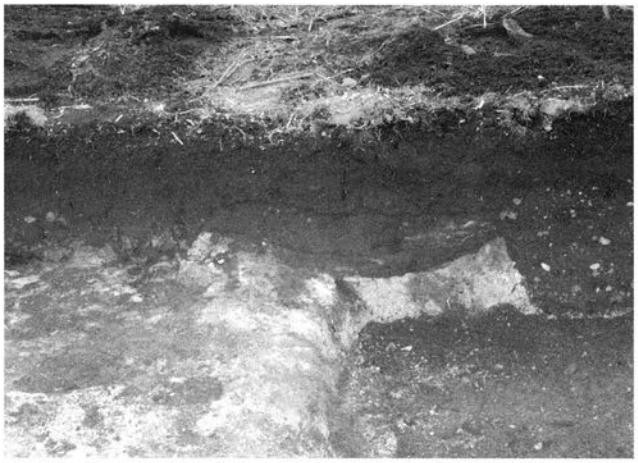
7　2 号溝セクション

8　3 号溝セクション

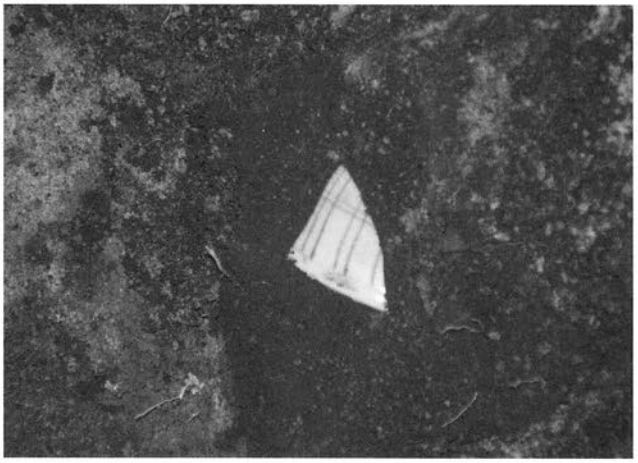
CUT1



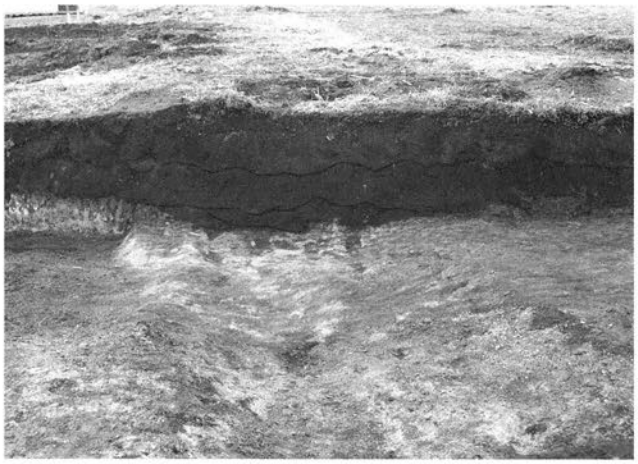
1　4号溝セクション1



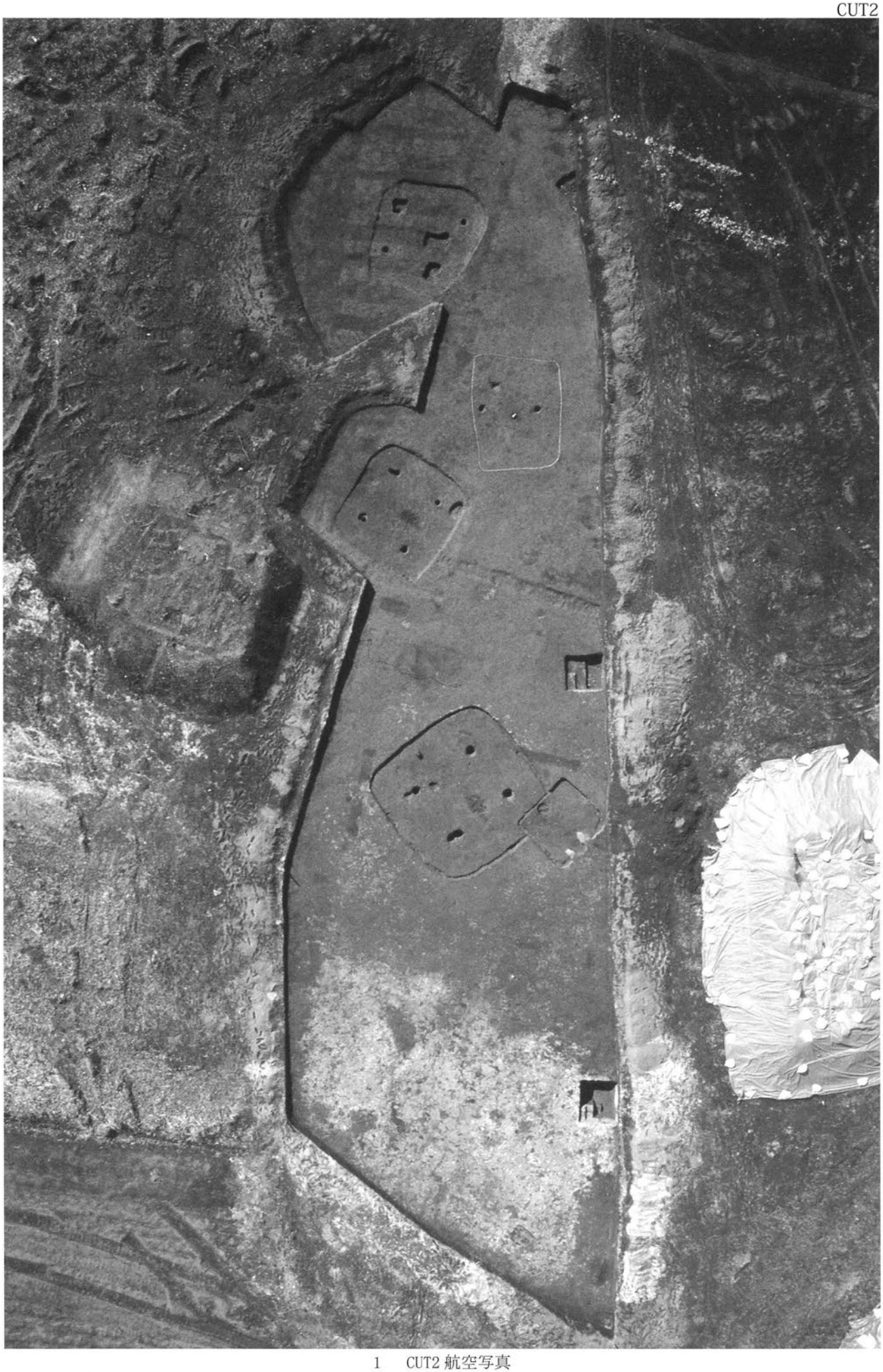
2　同 セクション2



3　同 出土遺物状況（近世磁器）



4　5号溝セクション

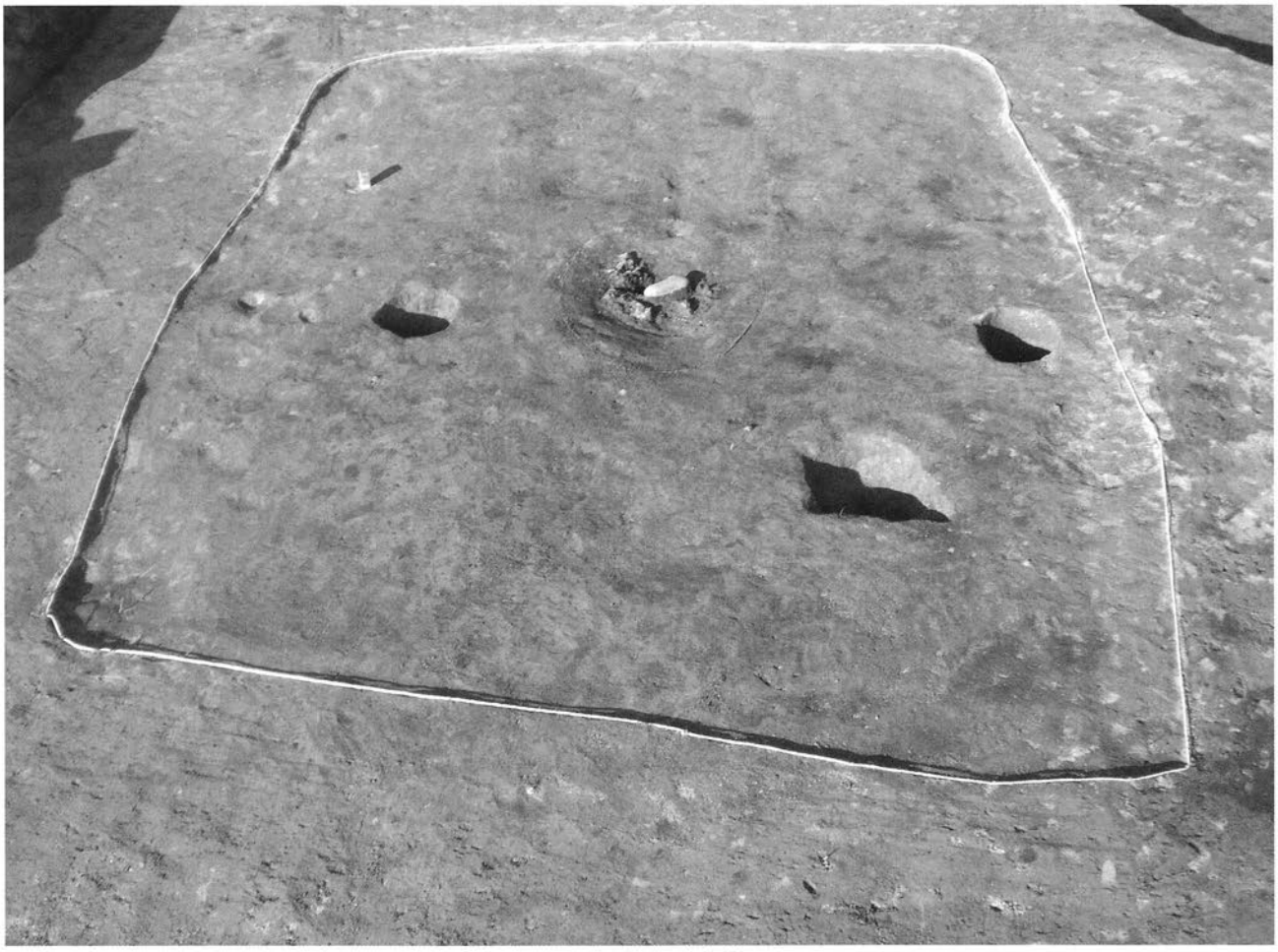


1　CUT2 航空写真

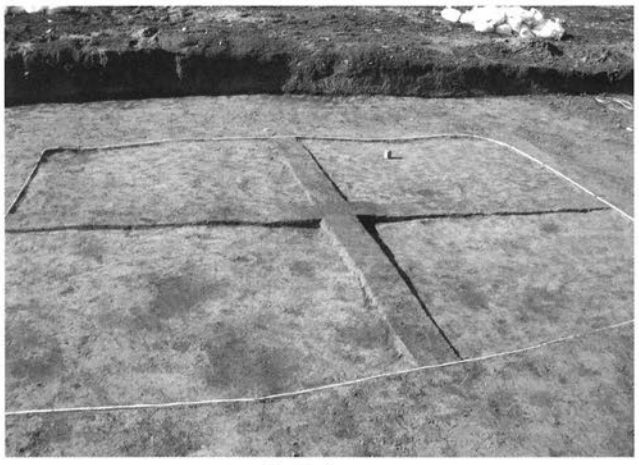
CUT2

1　標準堆積土層 1

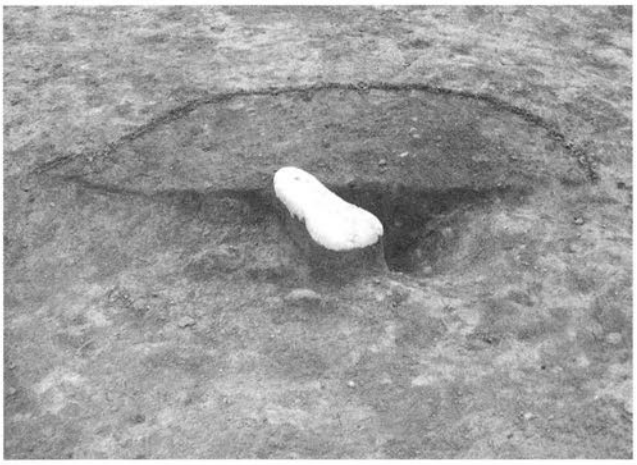
2　標準堆積土層 2



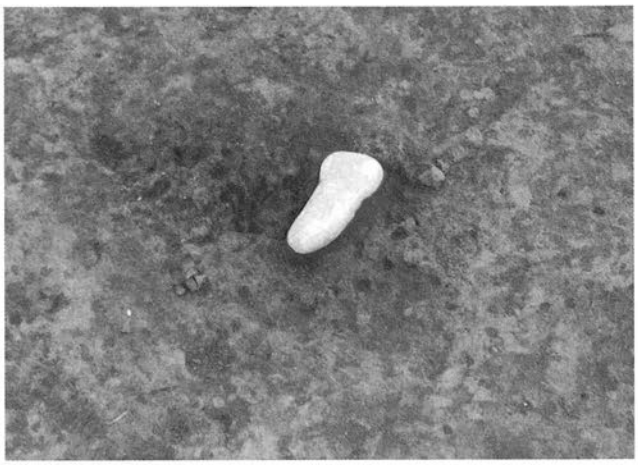
3　1 号住居跡全景



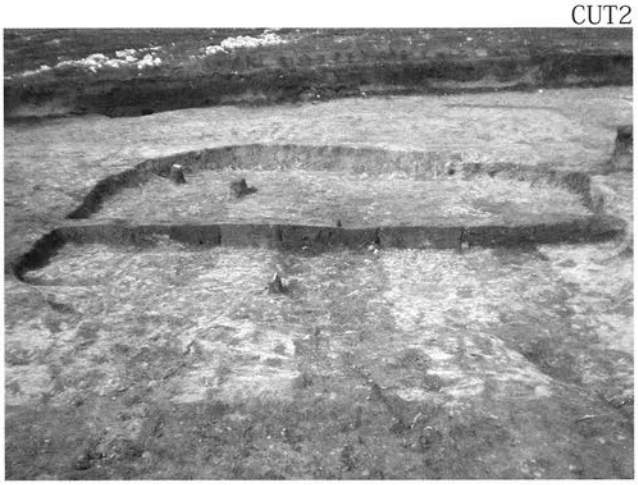
4　同 住居跡セクション



5　同 炉セクション

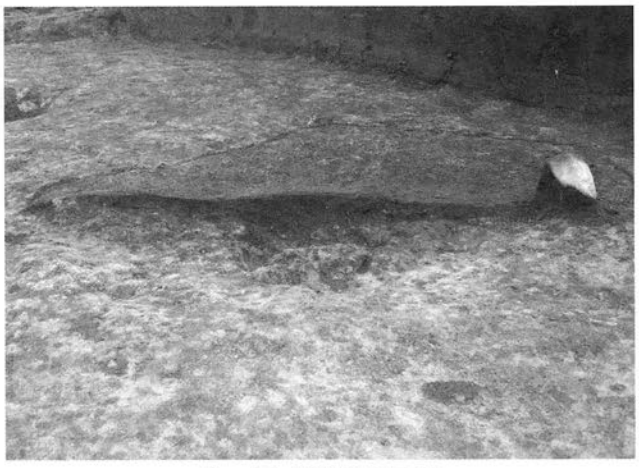


1　1号住居跡炉完堀

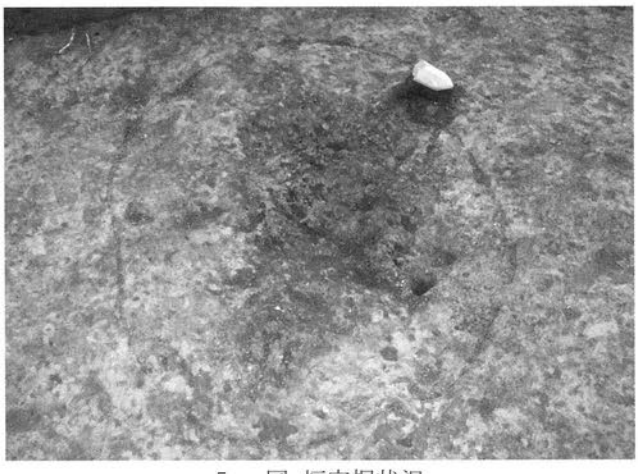


2　2号住居跡セクション

3　同 完掘状況

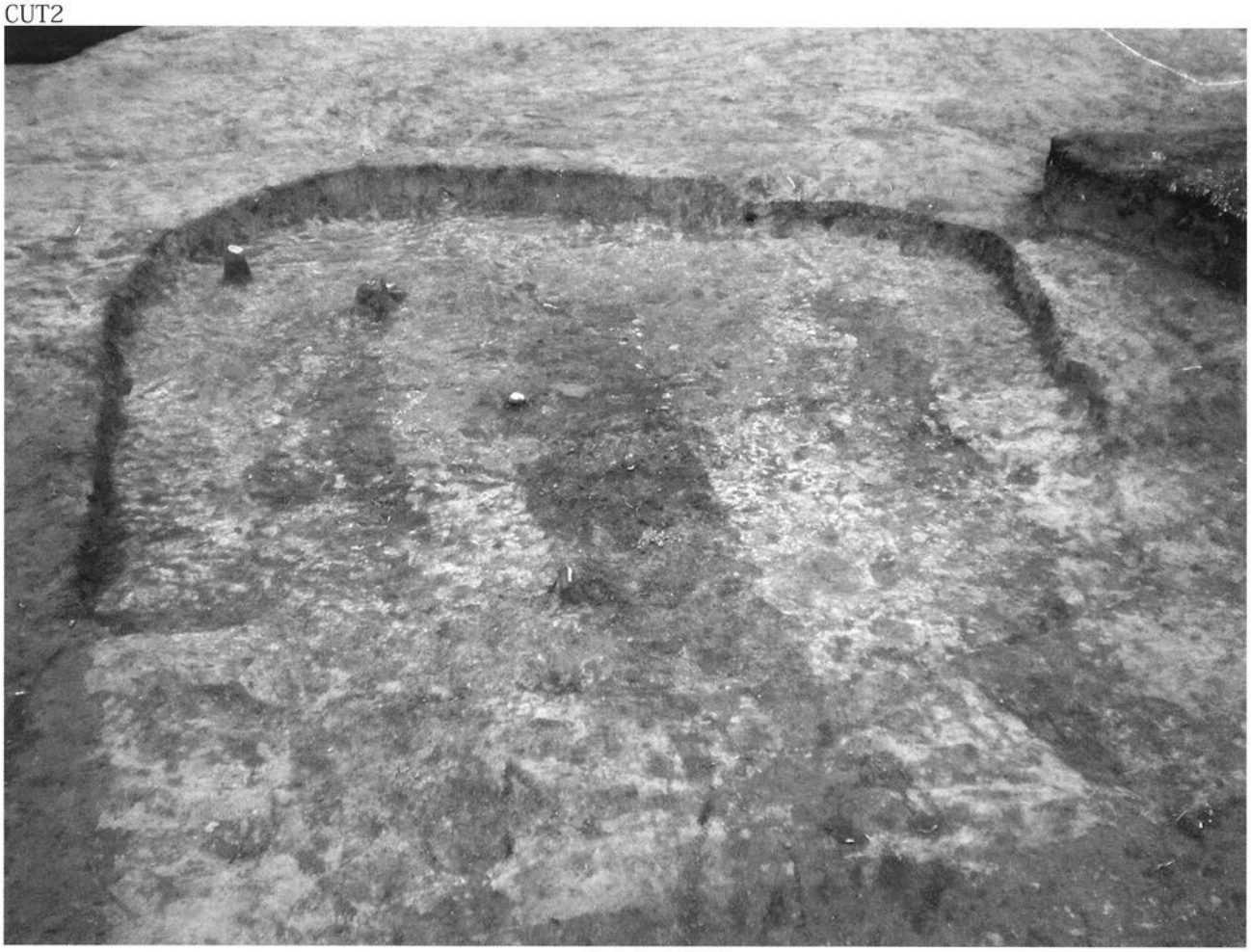


4　同 炉セクション

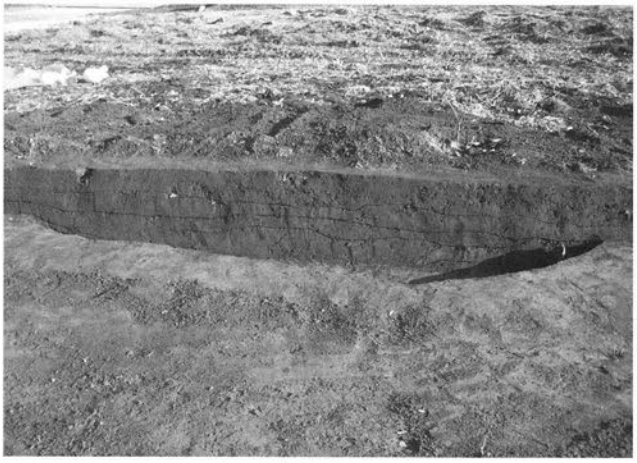


5　同 炉完掘状況

CUT2



1　3号住居跡全景



2　同 セクション

3　同 遺物出土状況

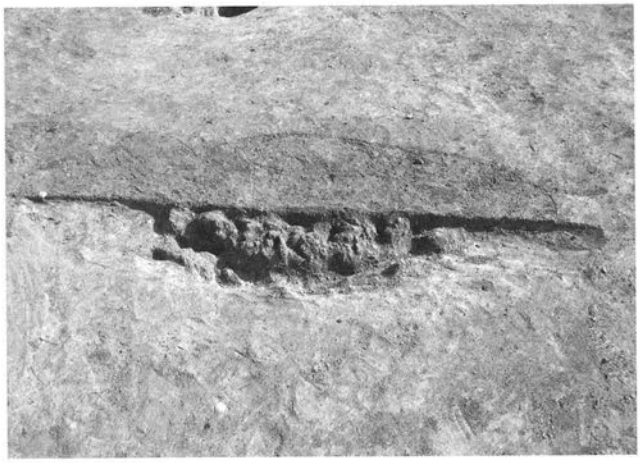
4　4号住居跡セクション

5　同 遺物出土状況

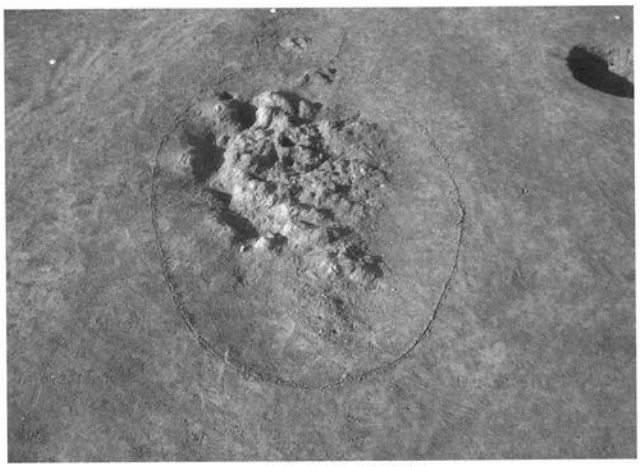
1　4号住居跡完掘全景

2　5号住居跡セクション

3　同 遺物出土状況



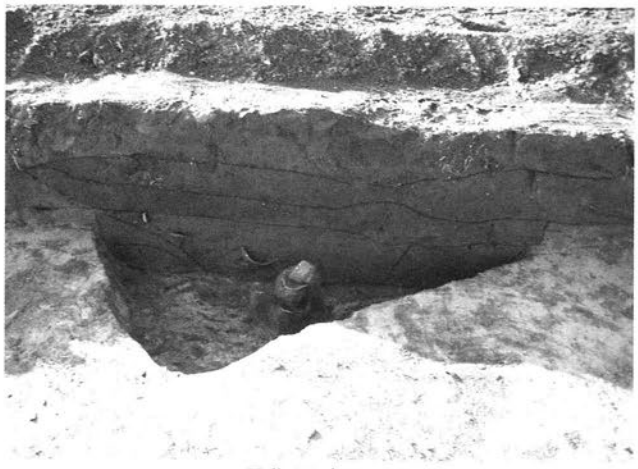
4　同 炉セクション



5　同 炉完掘状況

CUT2

1　5号住居跡全景



2　6号住居跡セクション

3　1号溝セクション

4　調査風景

1　CUT5 航空写真

1　調査前状況

2　遺構確認状況

1　標準堆積土層

2　調査風景 1

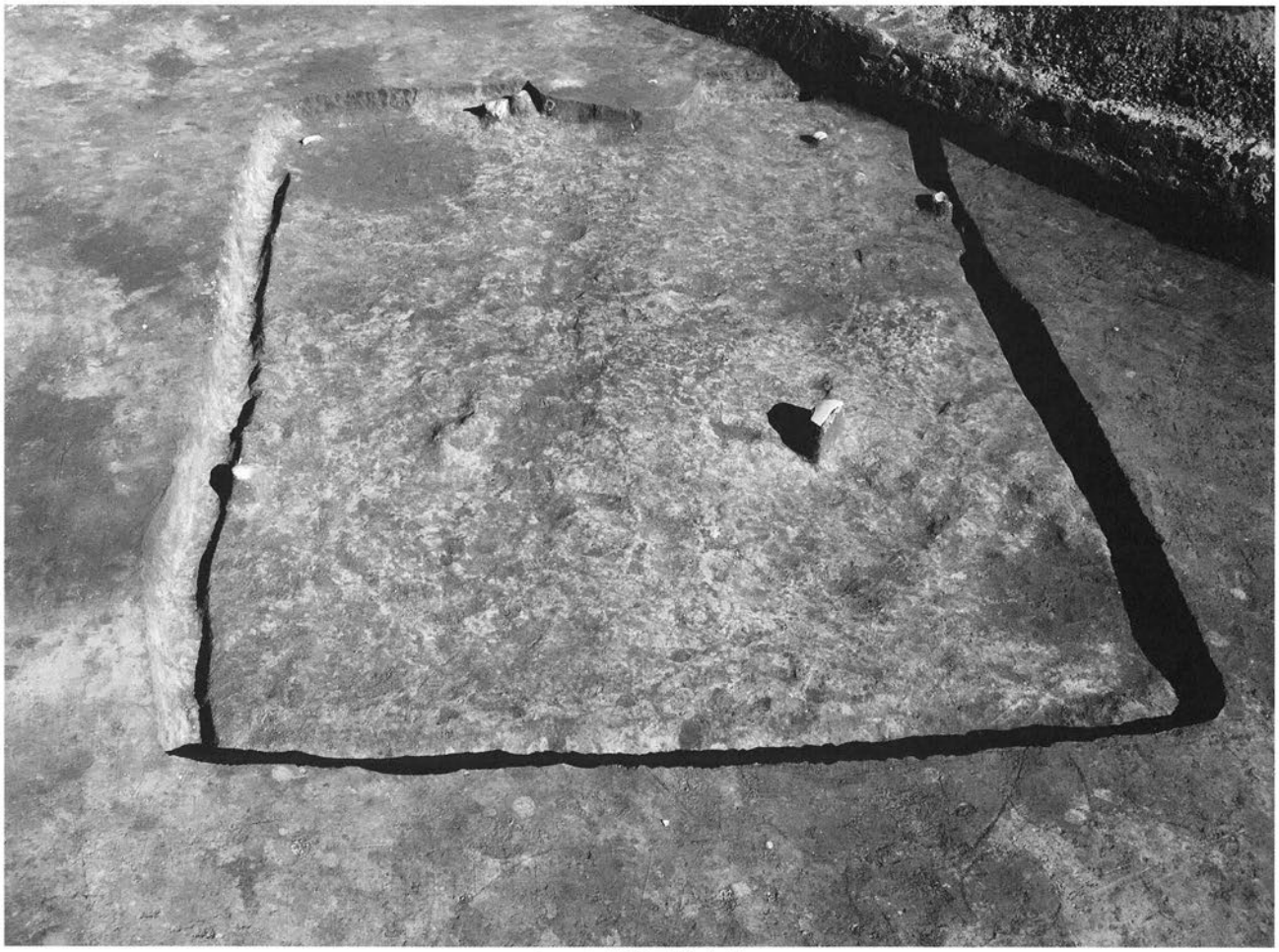
3　同 2

4　遺構確認東側

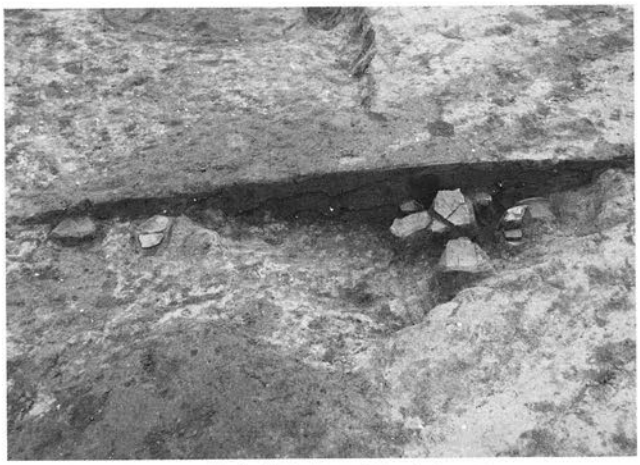
5　遺構確認西側

CUT5

1　1号住居跡全景



2　2号住居跡全景



1　2号住居跡カマドセクション

2　同 カマド遺物出土状況

3　3号住居跡セクション

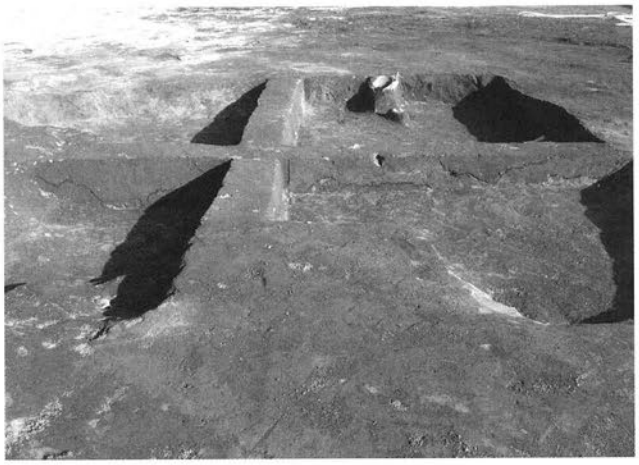
4　4号住居跡カマドセクション

5　同 カマド全景

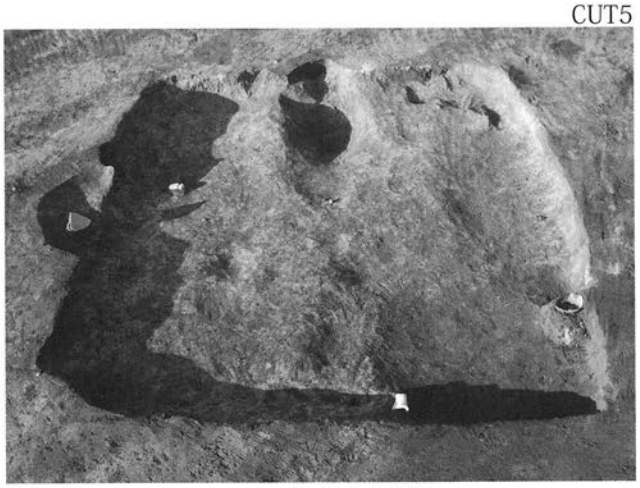
CUT5

1　4号住居跡全景

2　5・40号住居跡全景



1　5号住居跡セクション



2　同 遺物出土全景

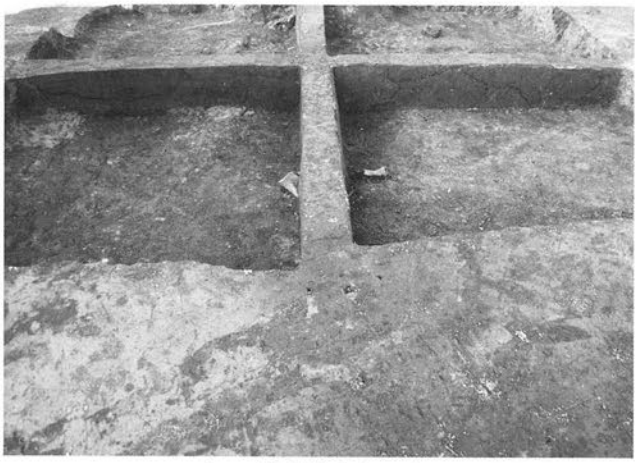
3　同 カマドセクション

4　同 カマド完掘

5　5号住居跡遺物出土状況

CUT5

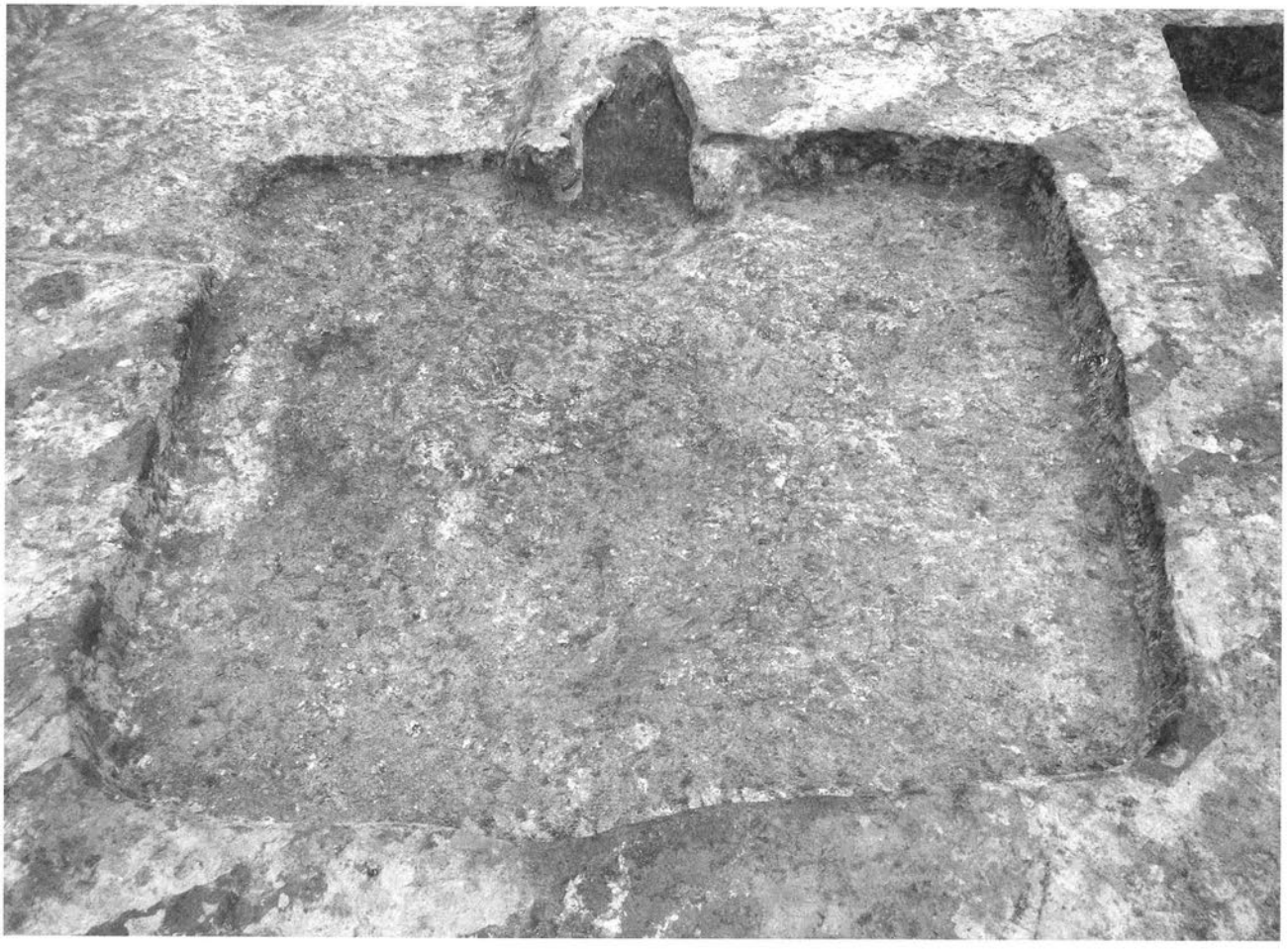
1　6号住居跡Aセクション



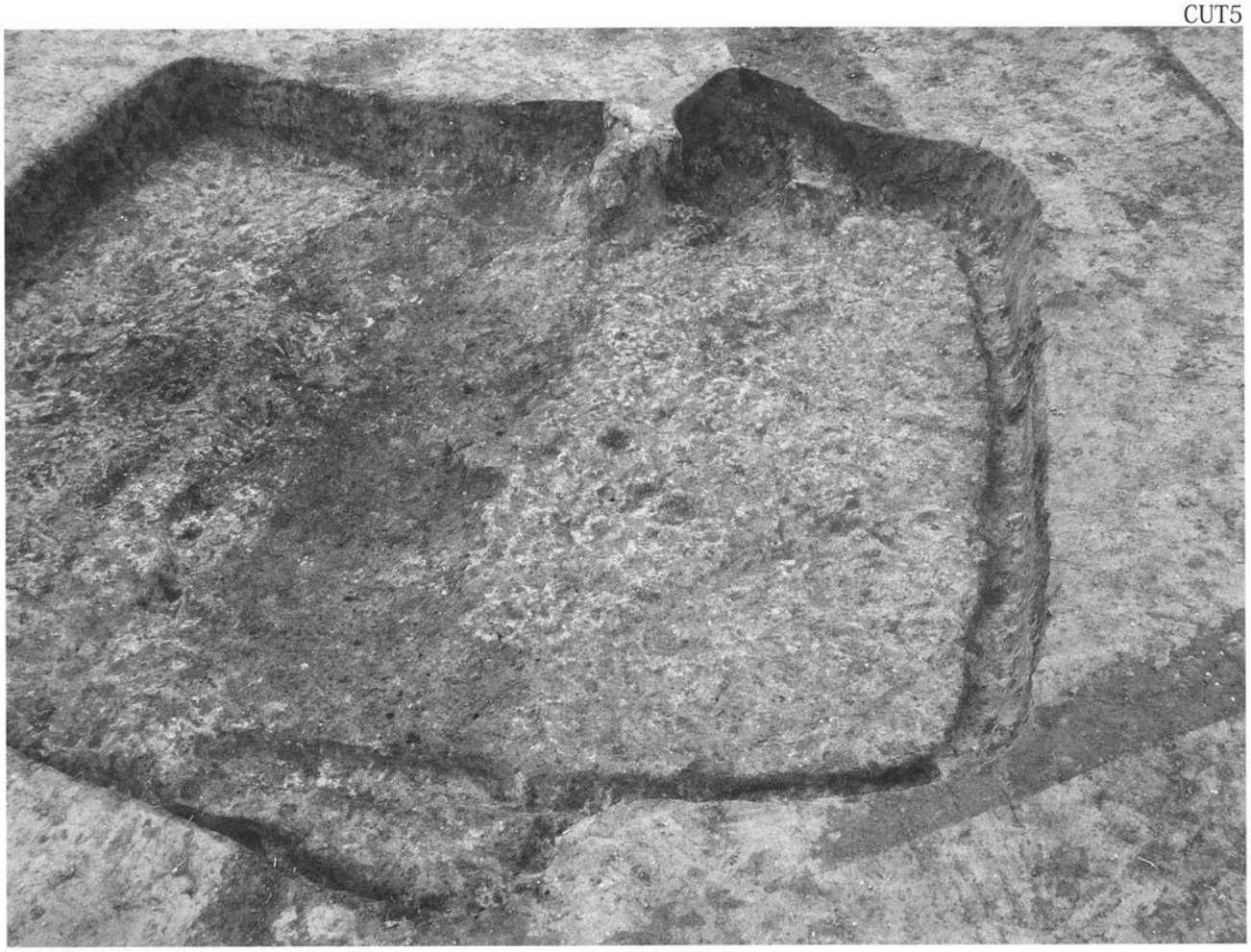
2　同 Bセクション

3　同 カマドセクション

4　同 カマド遺物出土状況

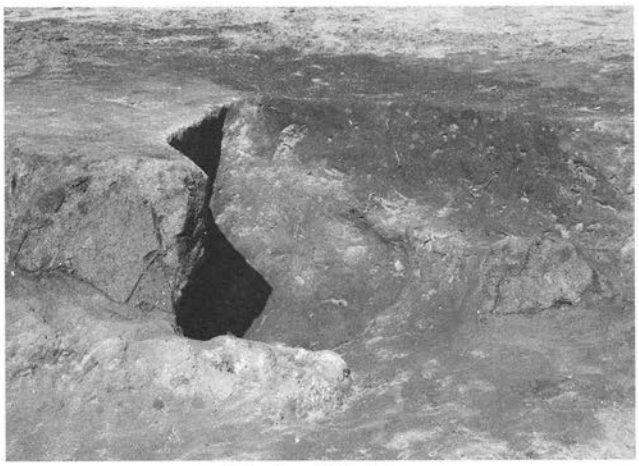


5　同 完堀状況



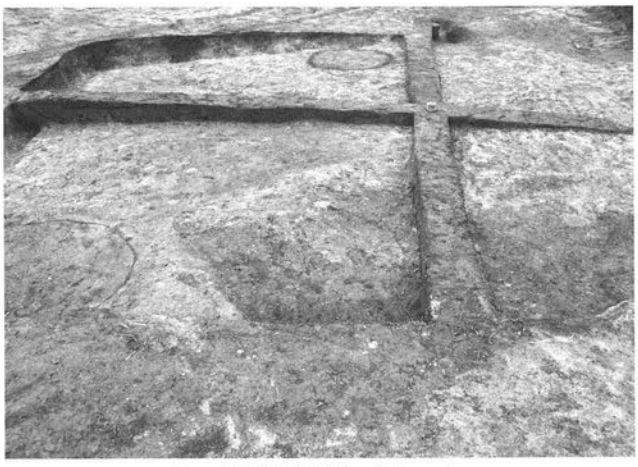
1　7号住居完掘状況

2　同 カマド遺物出土状況



3　同 カマドセクション

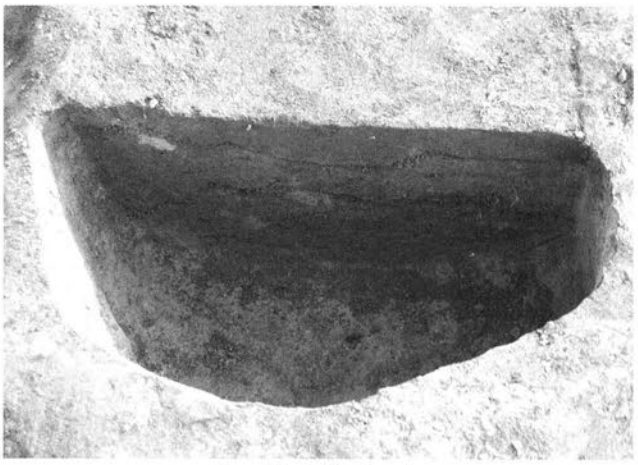
4　同 カマド完掘状況



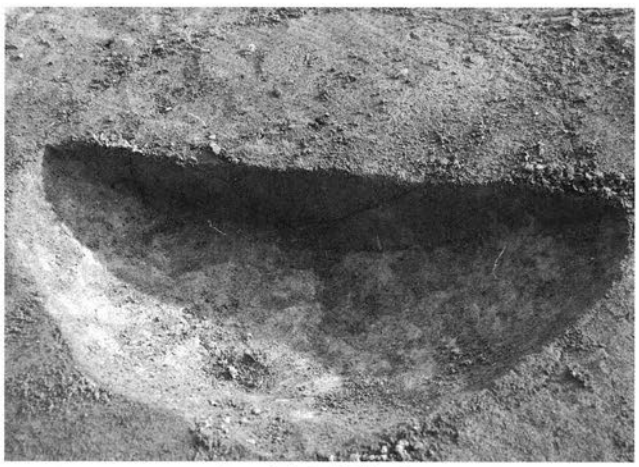
5　9号住居跡セクション

CUT5

1　9号住居跡セクション

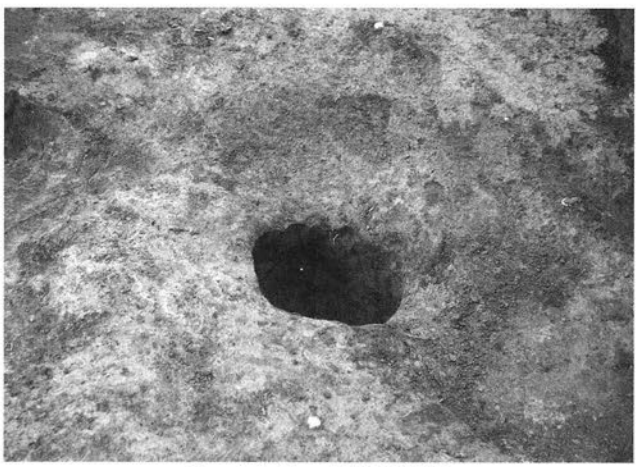


2　同 1号ピット



3　同 2号ピット

4　同 カマドセクション



5　同 カマド完堀状況

1　10 号住居跡完掘状況

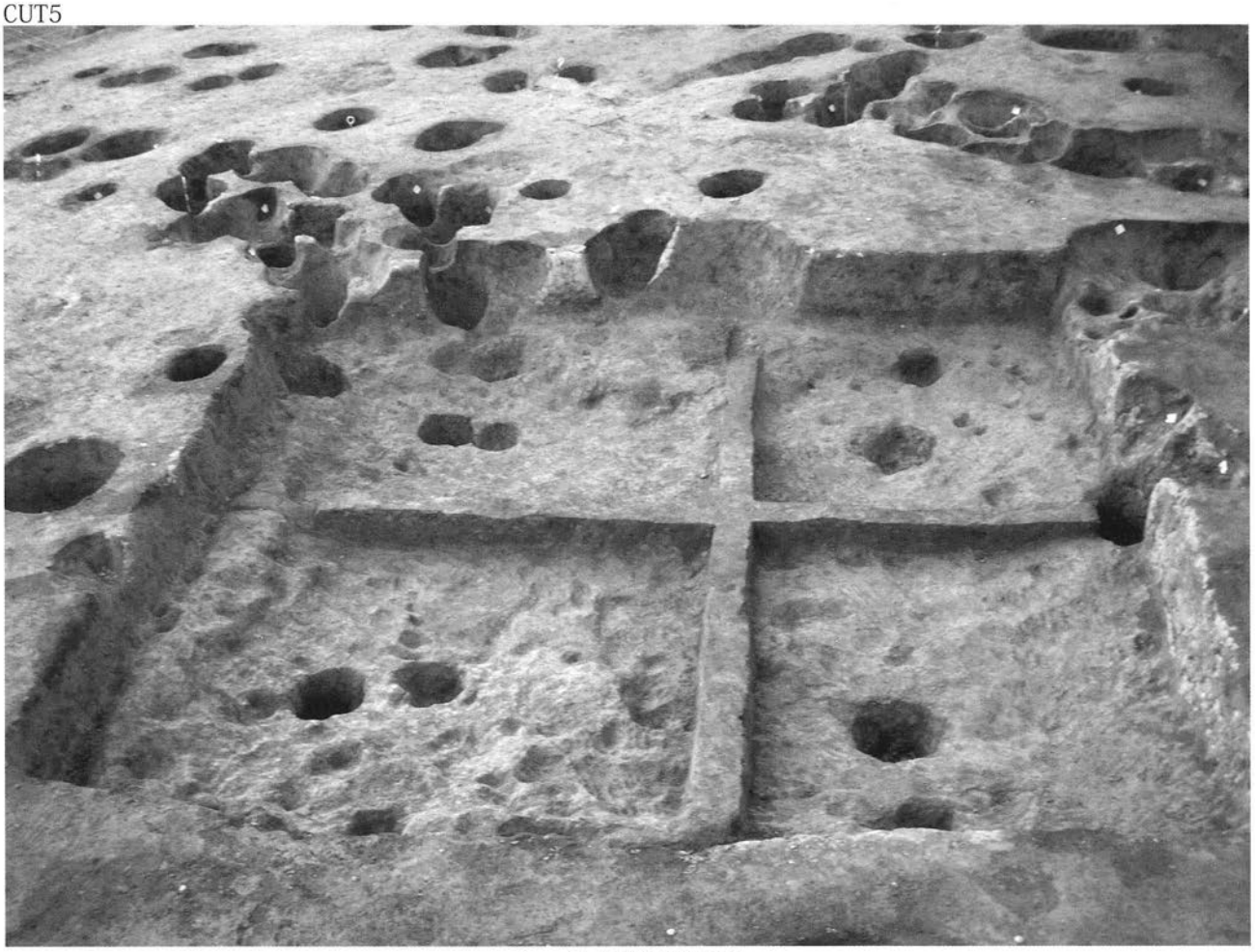
2　同 カマド袖

3　同 カマド掘方

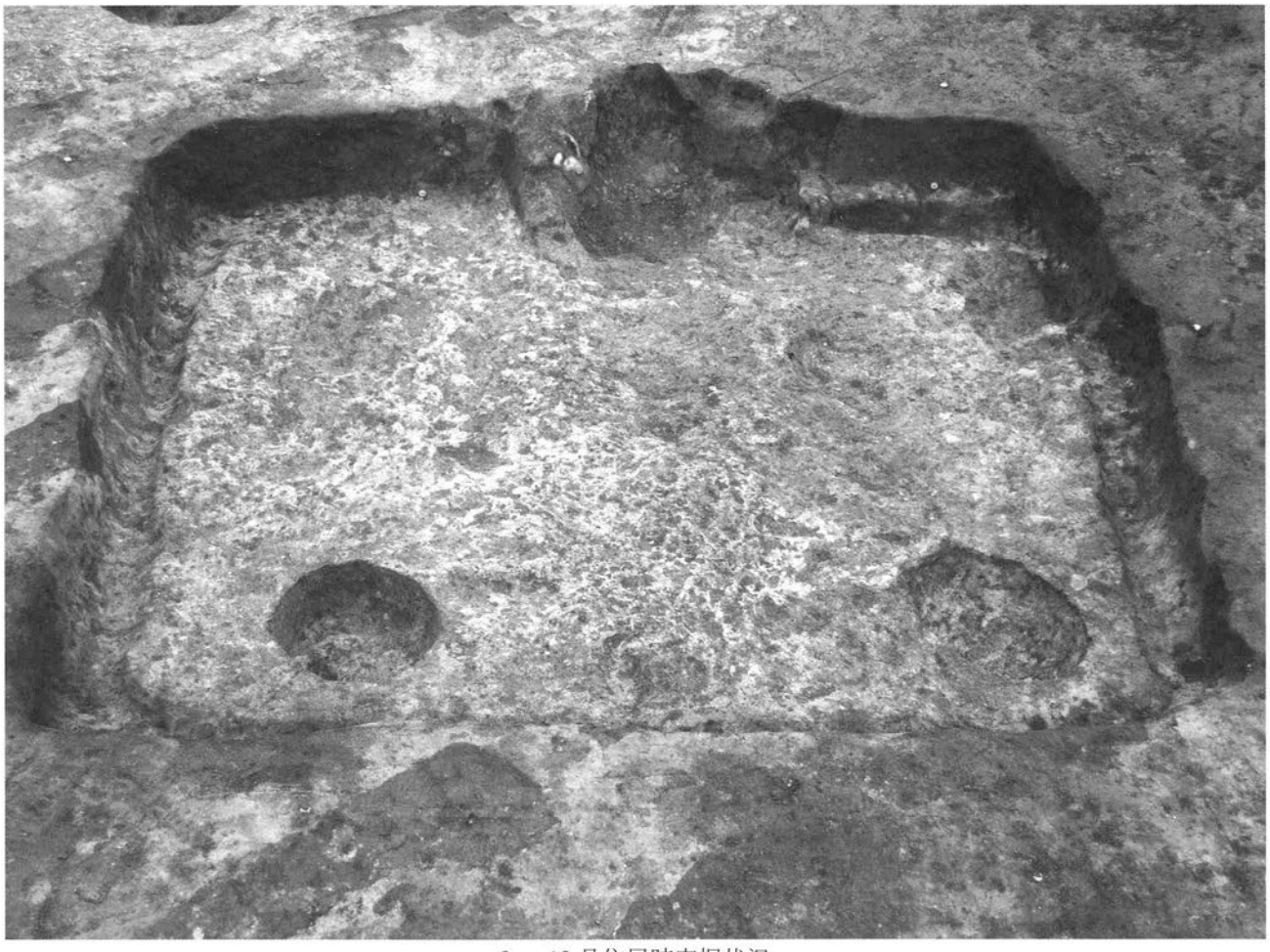
4　11 号住居跡カマド完掘状況

5　同 カマド袖

CUT5



1　11 号住居跡掘方

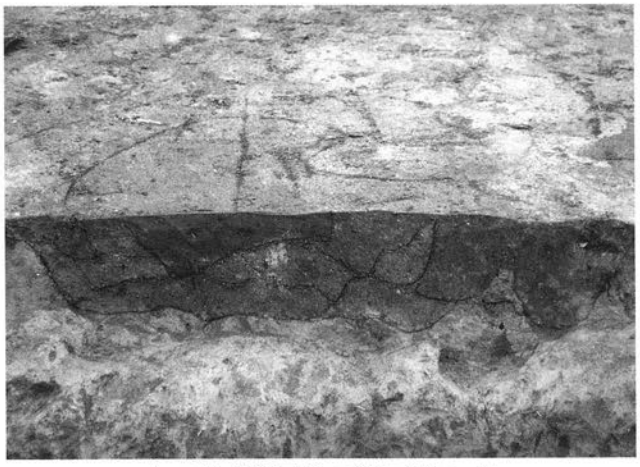


2　12 号住居跡完掘状況

1　12 号住居跡カマド遺物出土状況

2　同 カマド完堀状況

3　13・39 号住居跡完掘状況



4　13 号住居カマドセクション

5　同 カマド完掘状況

CUT5

1　14 号住居跡遺物出土状況

2　同 セクション

3　同 カマドセクション

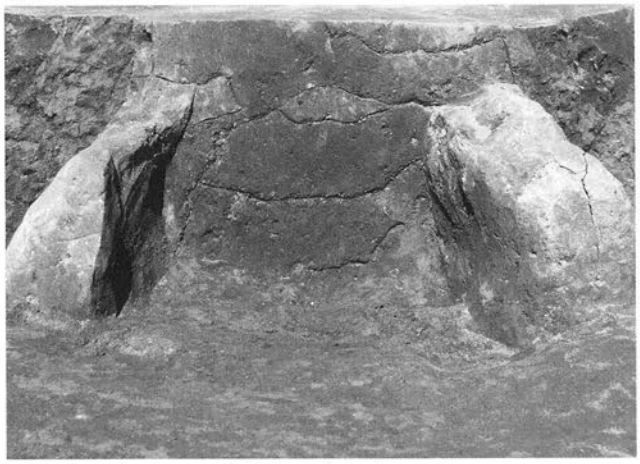
4　同 カマド遺物出土状況

5　同 カマド完堀状況

1　14号住居跡完掘状況

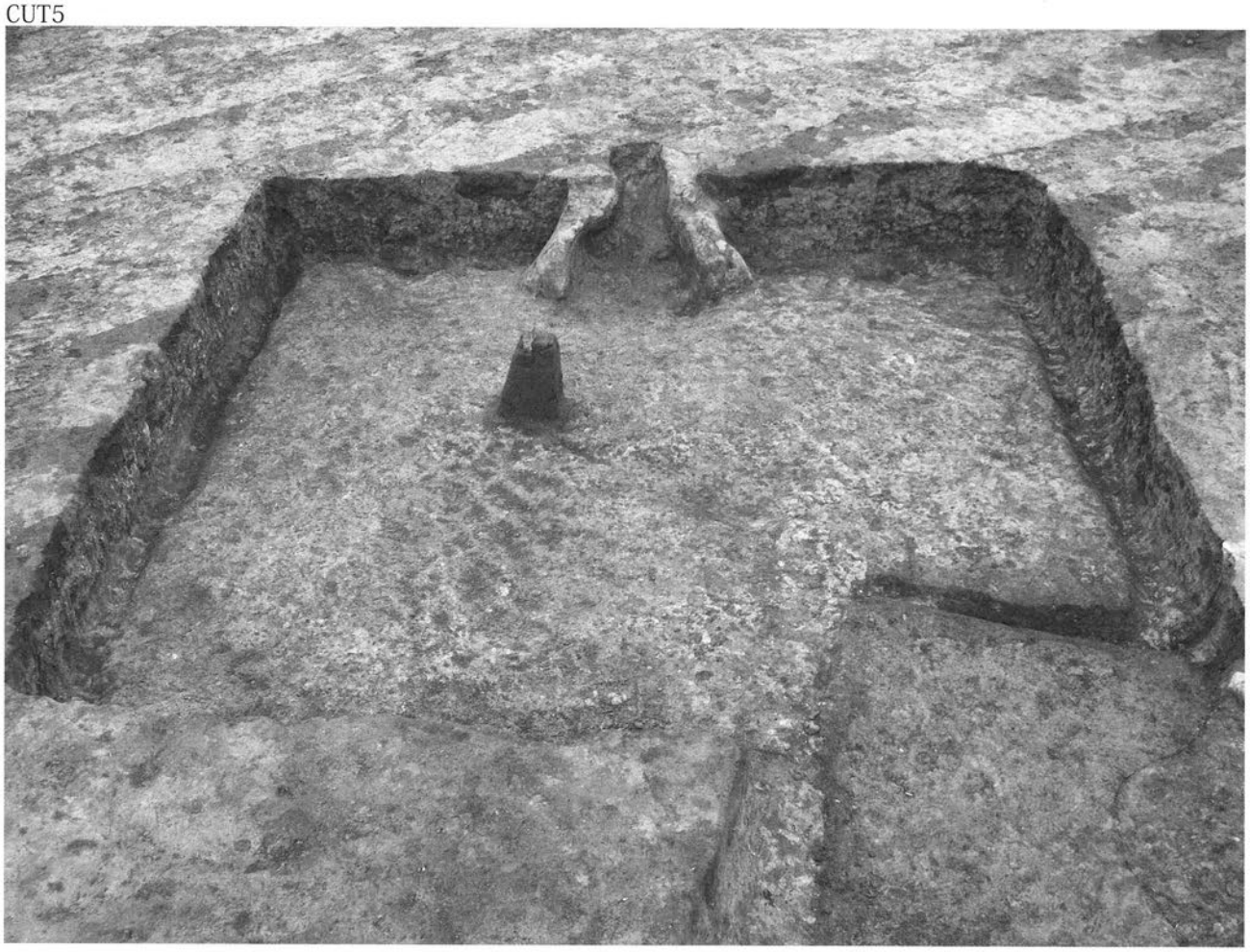
2　15号住居跡Aセクション

3　同 Bセクション



4　同 カマドセクション

5　同 カマド完掘状況



1　15 号住居完掘状況

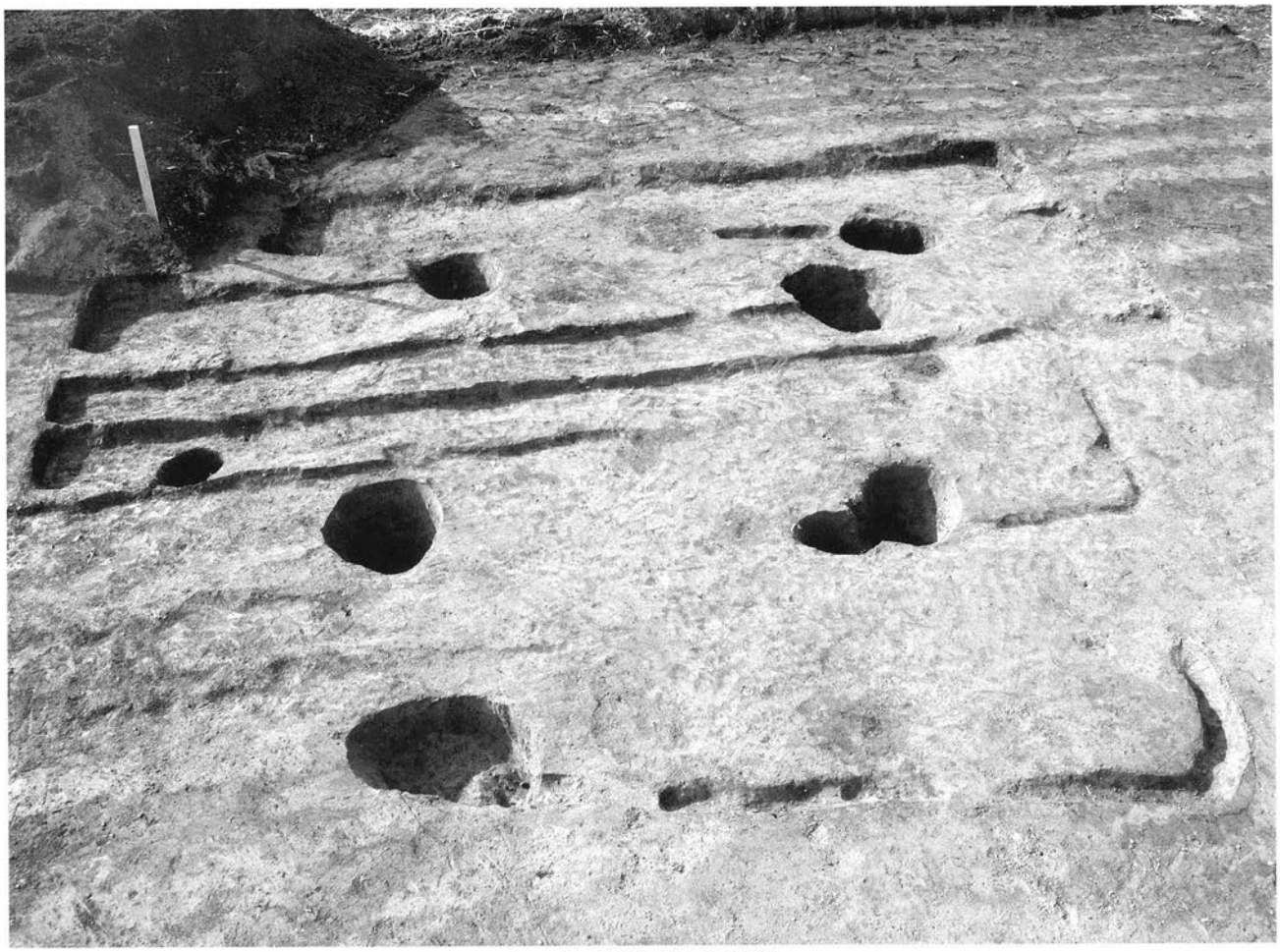
2　16 号住居跡完掘状況

1　16 号住居跡カマドセクション

2　同 カマド遺物出土状況 1

3　同 カマド遺物出土状況 2

4　同 カマド完掘状況



5　17 号住居跡完掘状況

CUT5

1　18号住居跡完掘状況

2　同 セクション

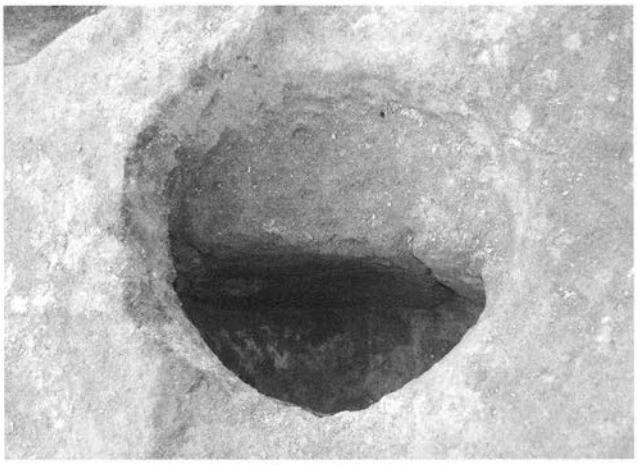
3　同 ピット5セクション

4　同 炉セクション

5　同 炉完掘状況

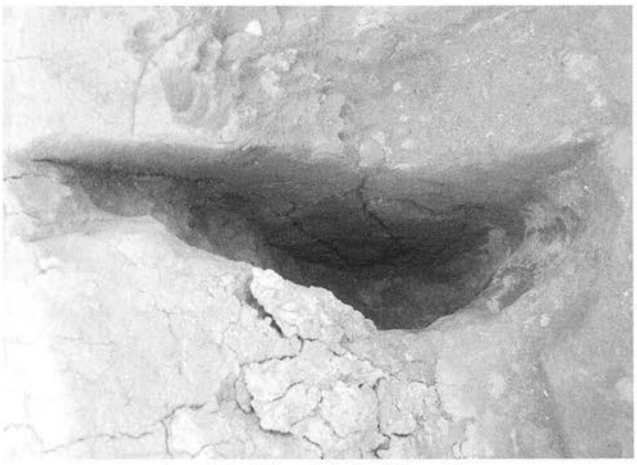
1　19・20号住居跡全景

2　同 ピット1セクション



3　同 ピット2セクション

4　同 ピット3セクション



5　同 ピット4セクション

1　19号住居跡カマドセクション1

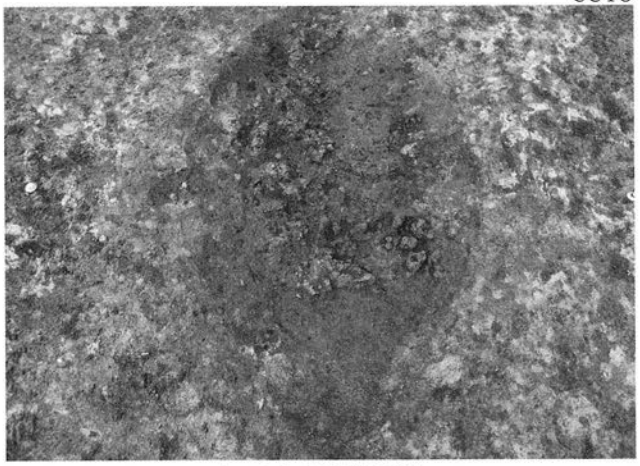
2　同 カマドセクション2

3　同 カマド遺物出土状況1

4　同 カマド遺物出土状況2

5　21号住居跡全景

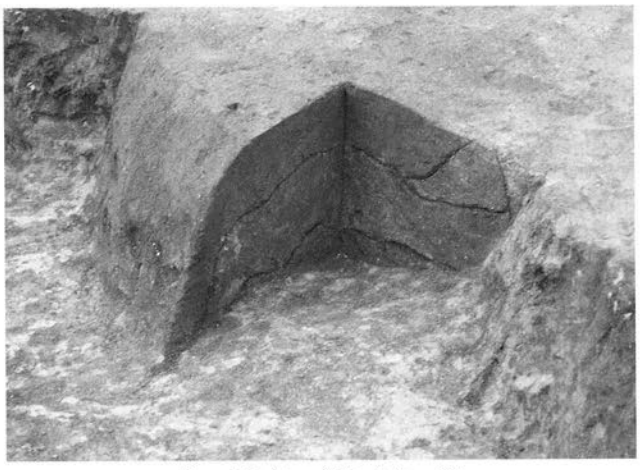
1　21 号住居跡炉セクション



2　同 炉完掘状況

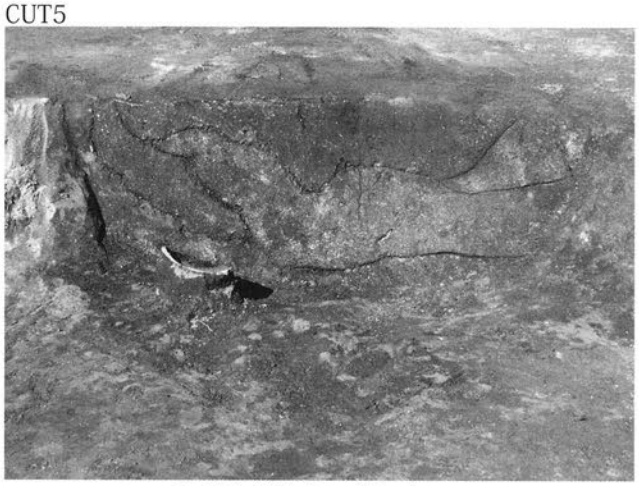
3　22・35 号住居跡遺物出土状況

4　同 住居跡セクション



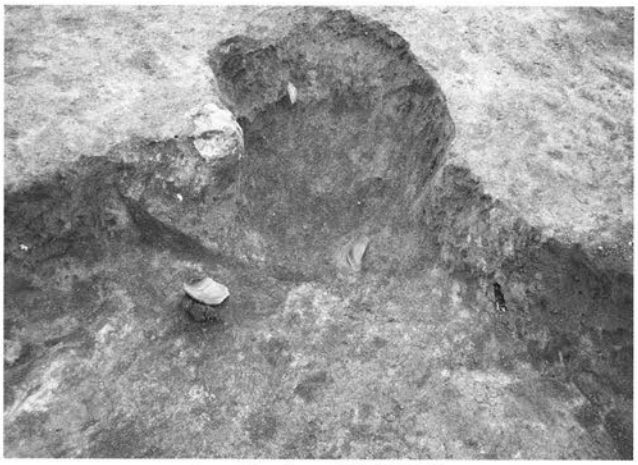
5　同 カマドセクション

CUT5



1　22 号住居跡カマドセクション 1

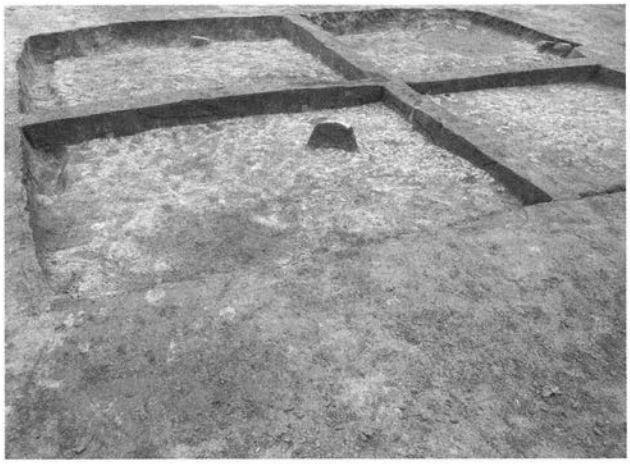
2　同 カマドセクション 2



3　同 カマド完掘状況

4　23 号住居跡カマドセクション

5　24 号住居跡全景



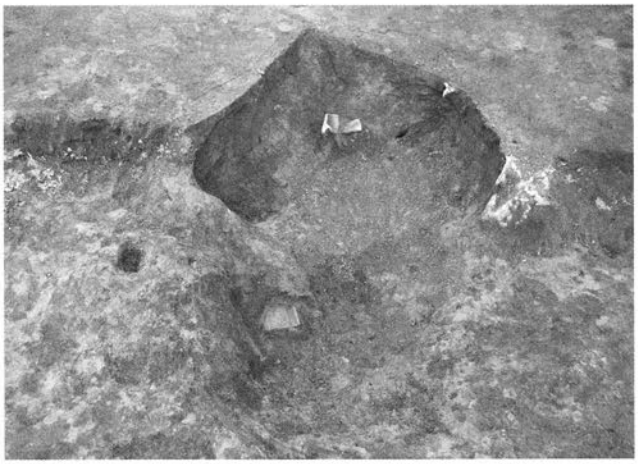
1　24号住居Aセクション

2　同 Bセクション

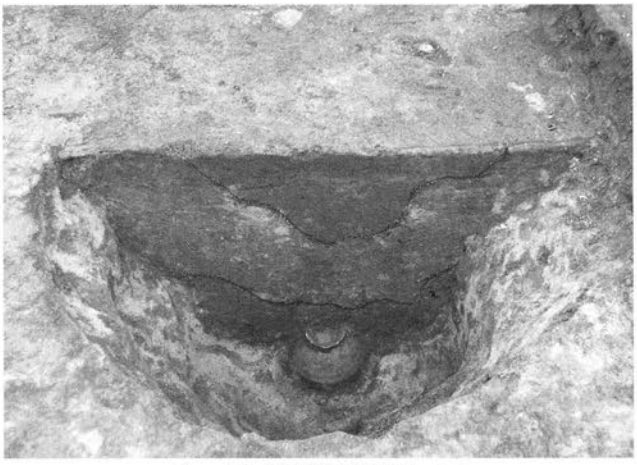
3　同 カマドAセクション

4　同 カマドBセクション

5　同 カマドセクション



6　同 カマド完掘状況



7　同 貯蔵穴セクション

8　同 貯蔵穴遺物出土状況

1　25号住居跡Aセクション

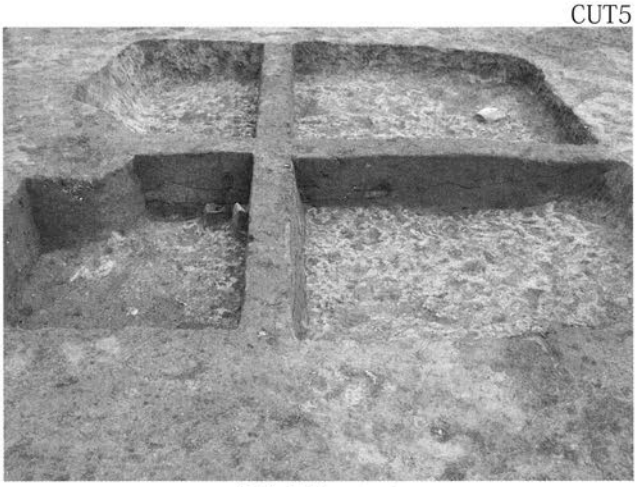
2　同 Bセクション

3　同 カマドAセクション

4　同カマドBセクション

5　26号住居跡遺物出土状況

1　26号住居跡カマドセクション



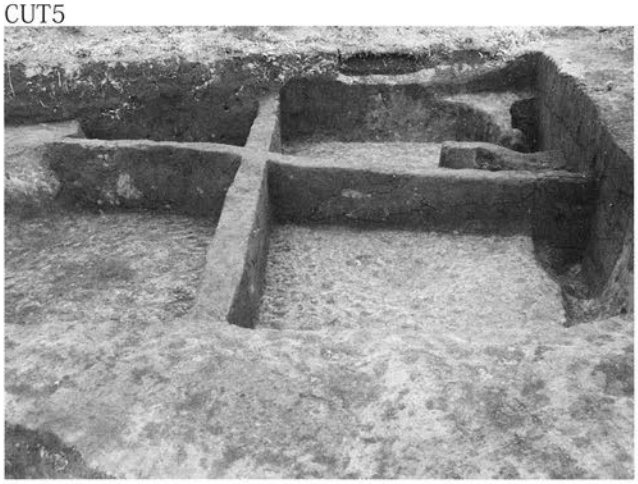
2　27号住居跡Aセクション

3　同 Bセクション

4　同 カマド遺物出土状況

5　同 全景

CUT5

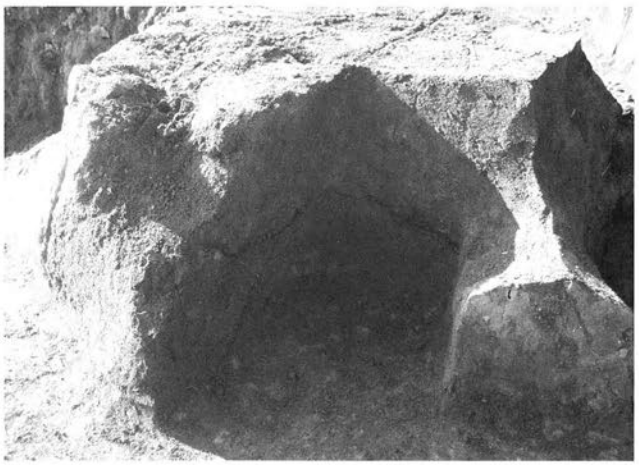


1　28号住居跡Aセクション

2　同 Bセクション

3　同　全景

4　同 セクション



5　同 カマドセクション

1　29 号住居カマドセクション

2　29・44 号住居跡セクション

3　30・44 号住居跡遺物出土状況

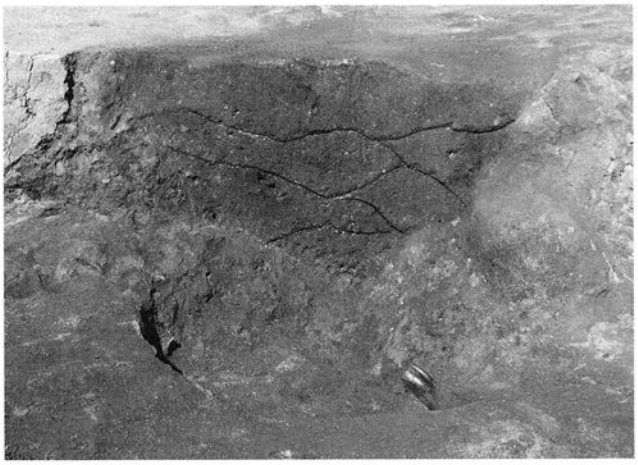
4　同 セクション

5　32・45 号住居跡セクション

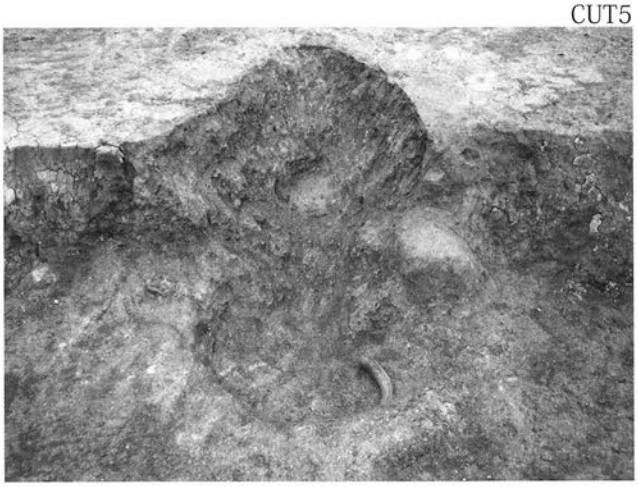
CUT5

1　31 号住居跡完掘状況

2　32・45 号住居跡遺物出土状況

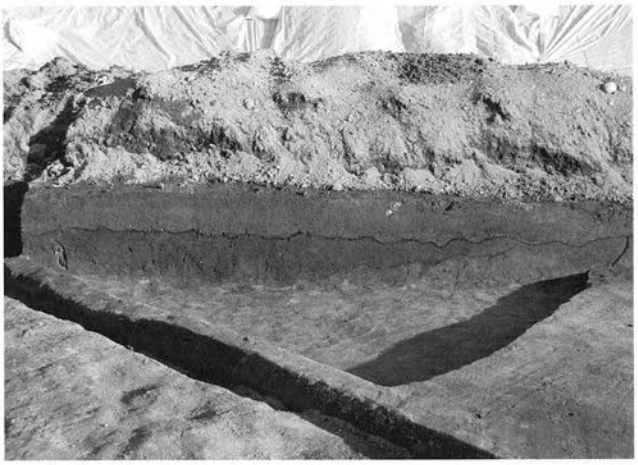


1　32 号住居跡カマドセクション



2　同 カマド完掘状況

3　32・45 号住居跡 B セクション



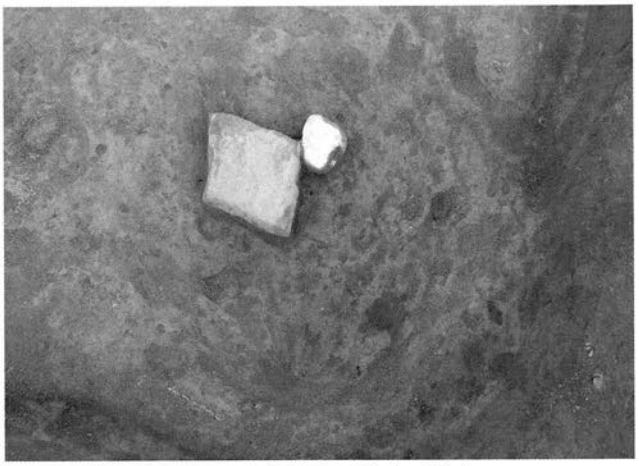
4　33 号住居跡セクション

5　33 号住居跡全景

CUT5

1　34 号住居跡全景

2　35 号住居跡全景

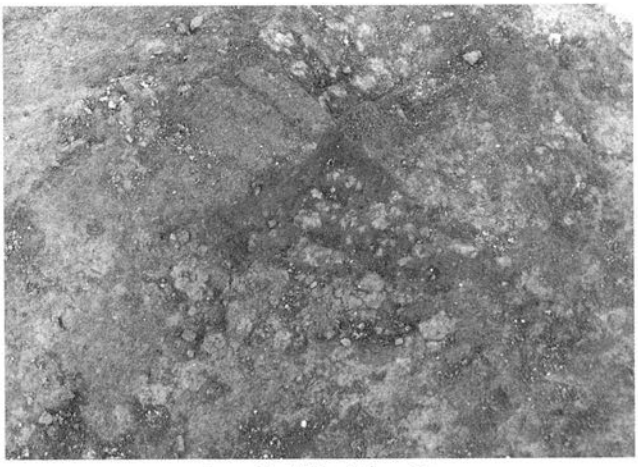


1　35 号住居跡遺物出土状況

2　同 カマドセクション

3　36 号住居跡遺物出土状況

4　同 セクション

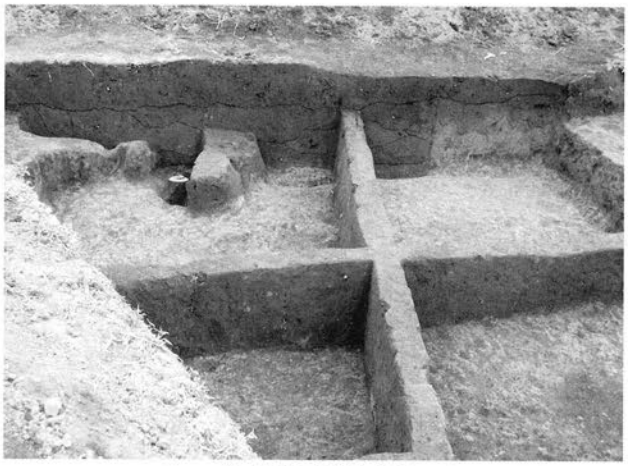


5　同 炉セクション

CUT5

1　37 号住居跡 A セクション

2　同 B セクション



3　41 号住居跡セクション

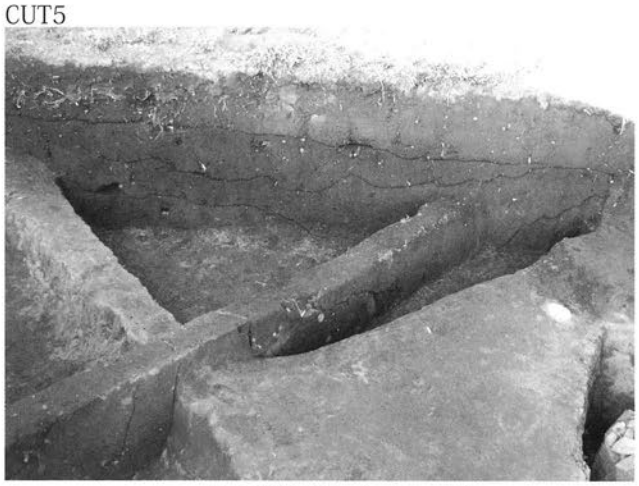
4　同 カマドセクション

5　同 カマド遺物出土状況

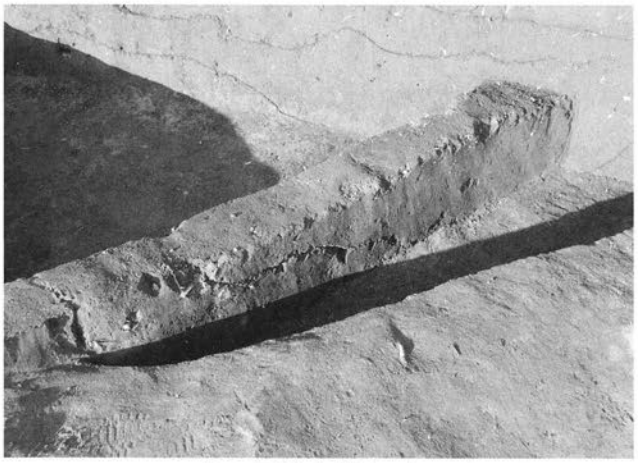
1　41 号住居跡全景

2　42 号住居跡全景

CUT5



1　43号住居跡Aセクション



2　同 Bセクション

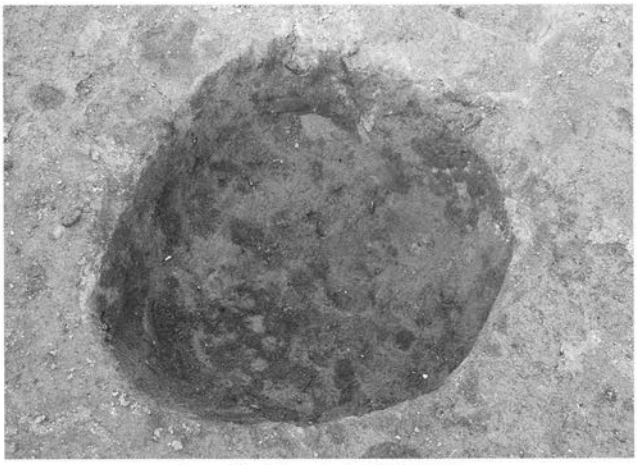
3　46号住居跡カマドセクション

4　同 セクション

5　同 完掘状況

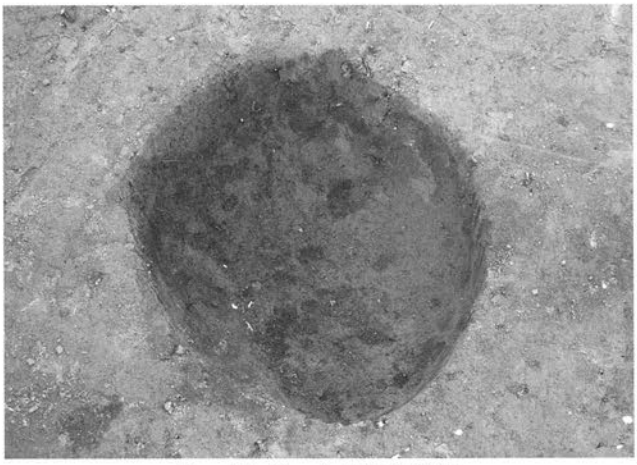
1　1号掘立柱建物跡

2　同 ピット1セクション



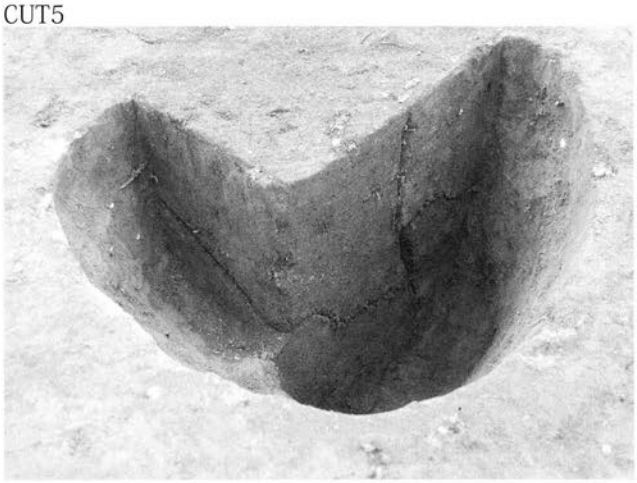
3　同 ピット1完掘状況

4　同 ピット2セクション



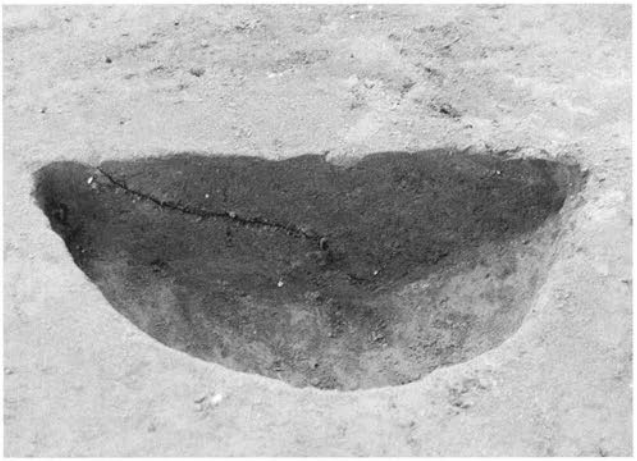
5　同 ピット2完掘状況

CUT5

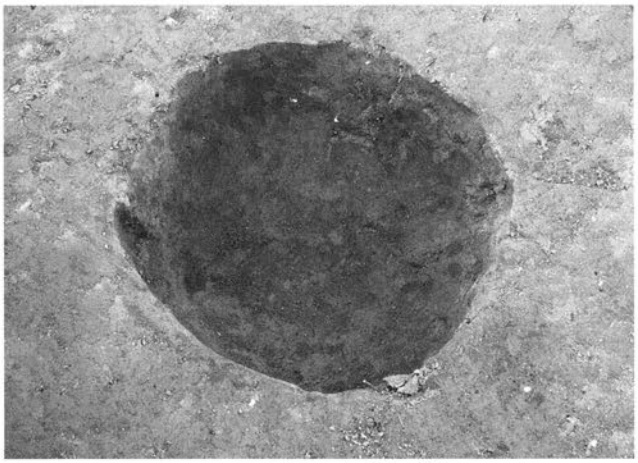


1　1号掘立柱建物跡ピット3セクション

2　同 ピット3完掘状況

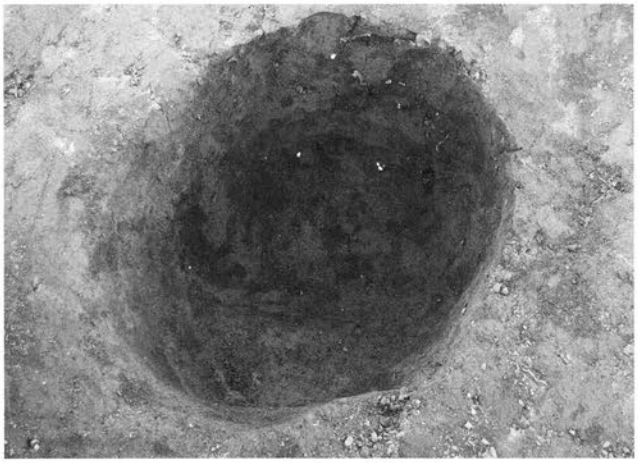


3　同 ピット4セクション

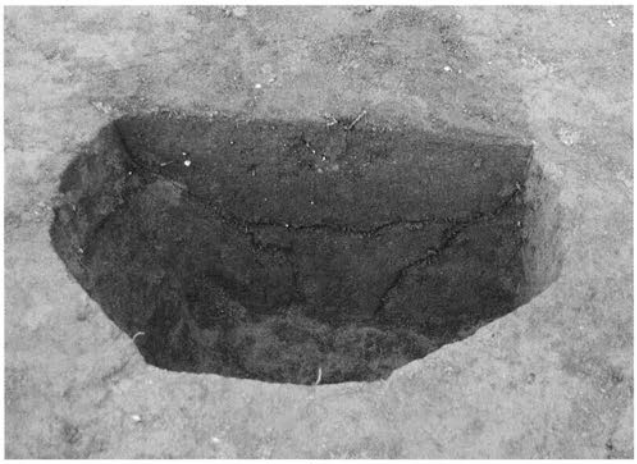


4　同 ピット4完掘状況

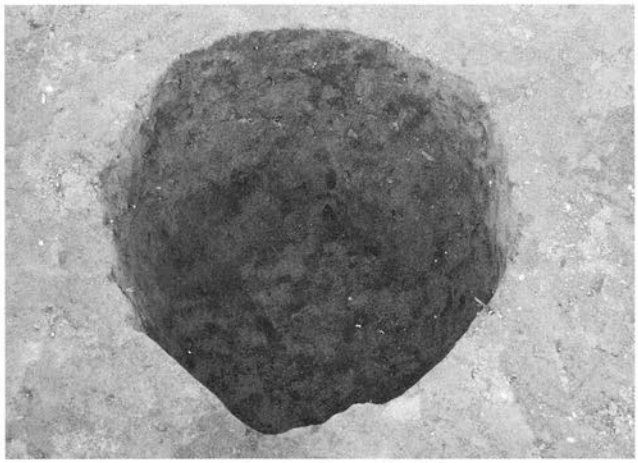
5　同 ピット5セクション



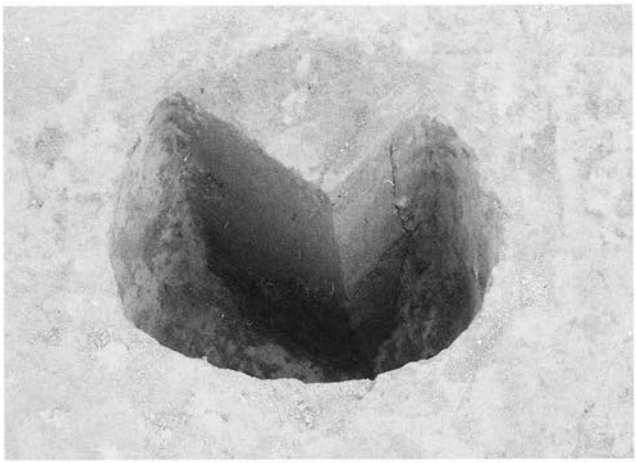
6　同 ピット5完掘状況



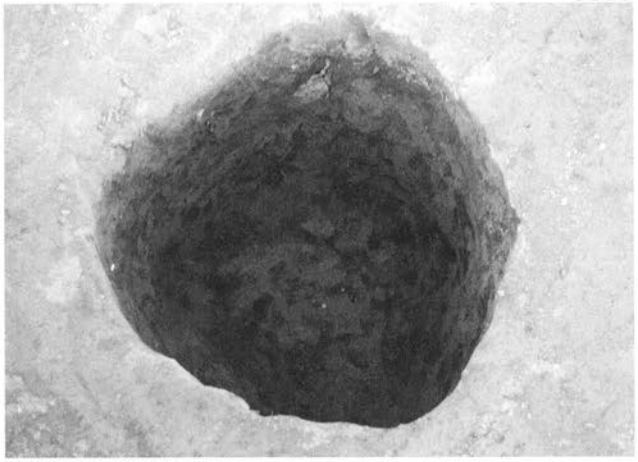
7　同 ピット6セクション



8　同 ピット6完掘状況

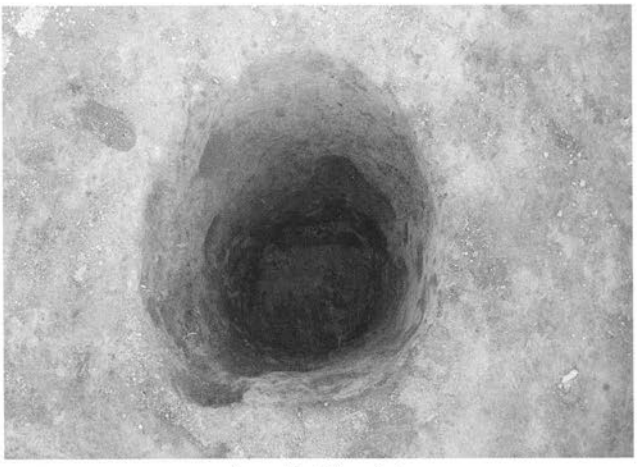


1　1号掘立柱建物跡ピット7セクション

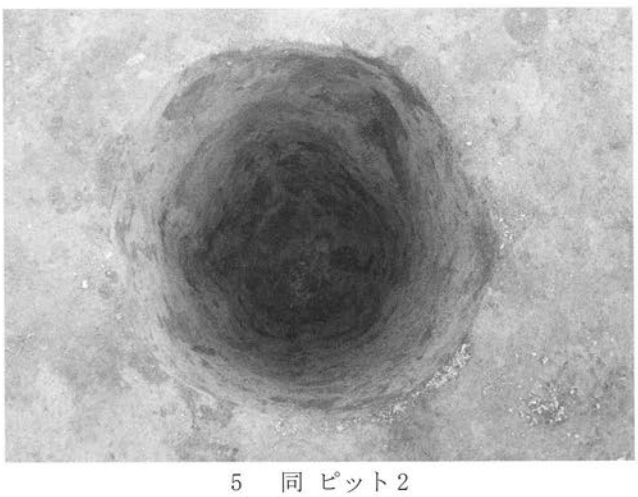


2　同 ピット7完掘状況

3　2号掘立柱建物跡

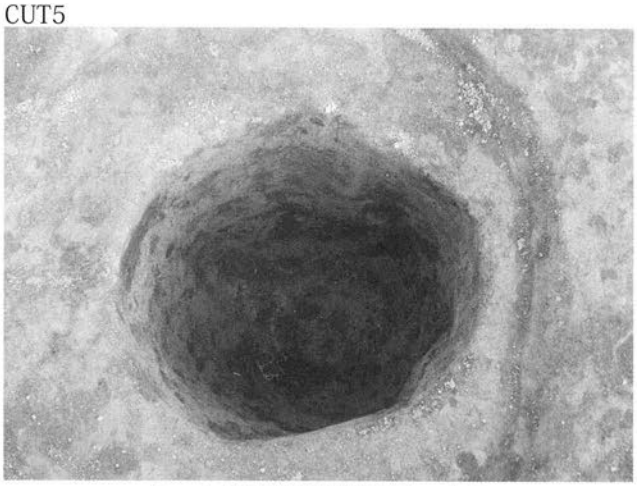


4　同 ピット1

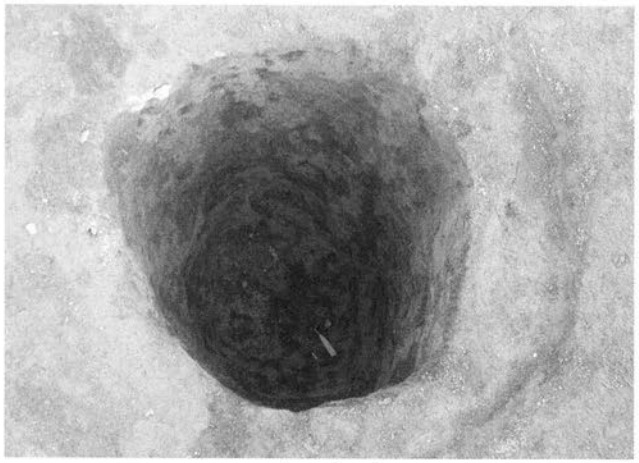


5　同 ピット2

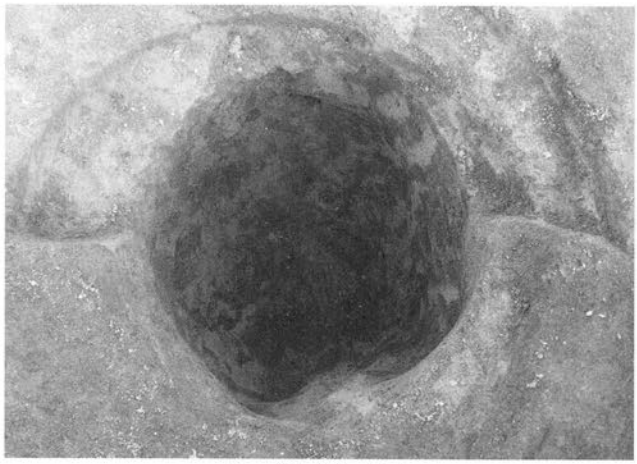
CUT5



1　2号掘立柱建物跡ピット3



2　同 ピット4



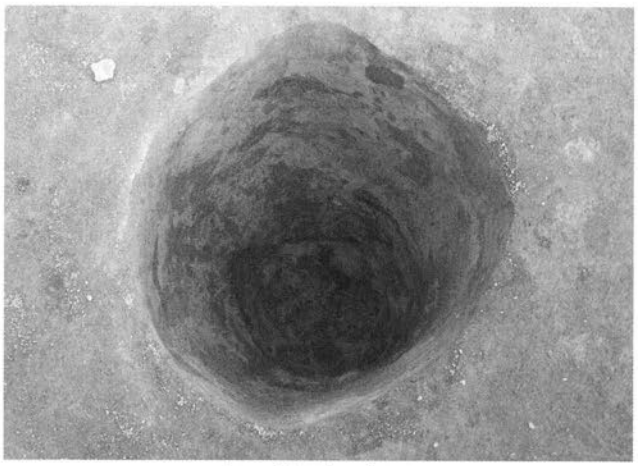
3　同 ピット5

4　同 ピット6

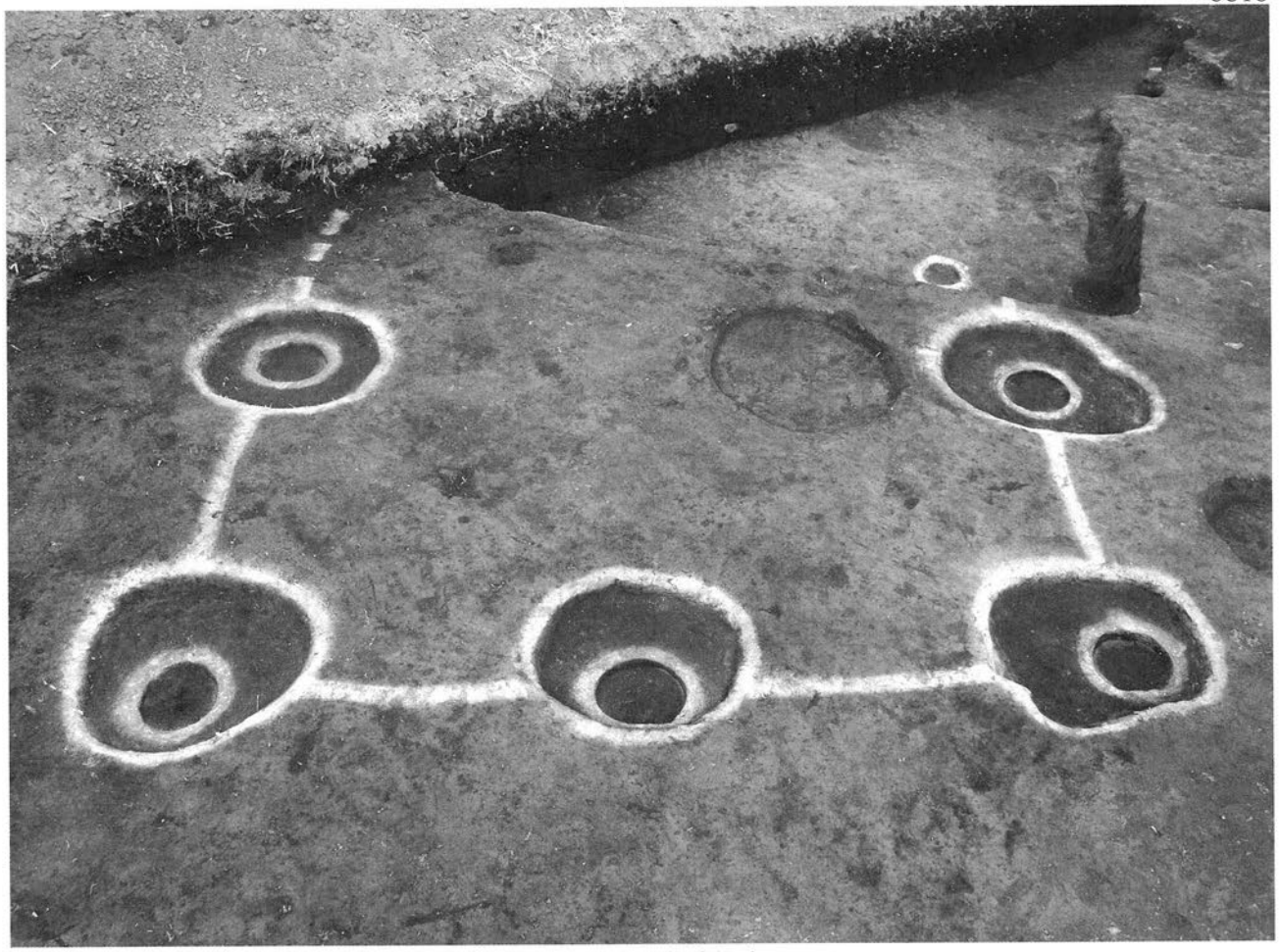
5　同 ピット7

6　同 ピット8

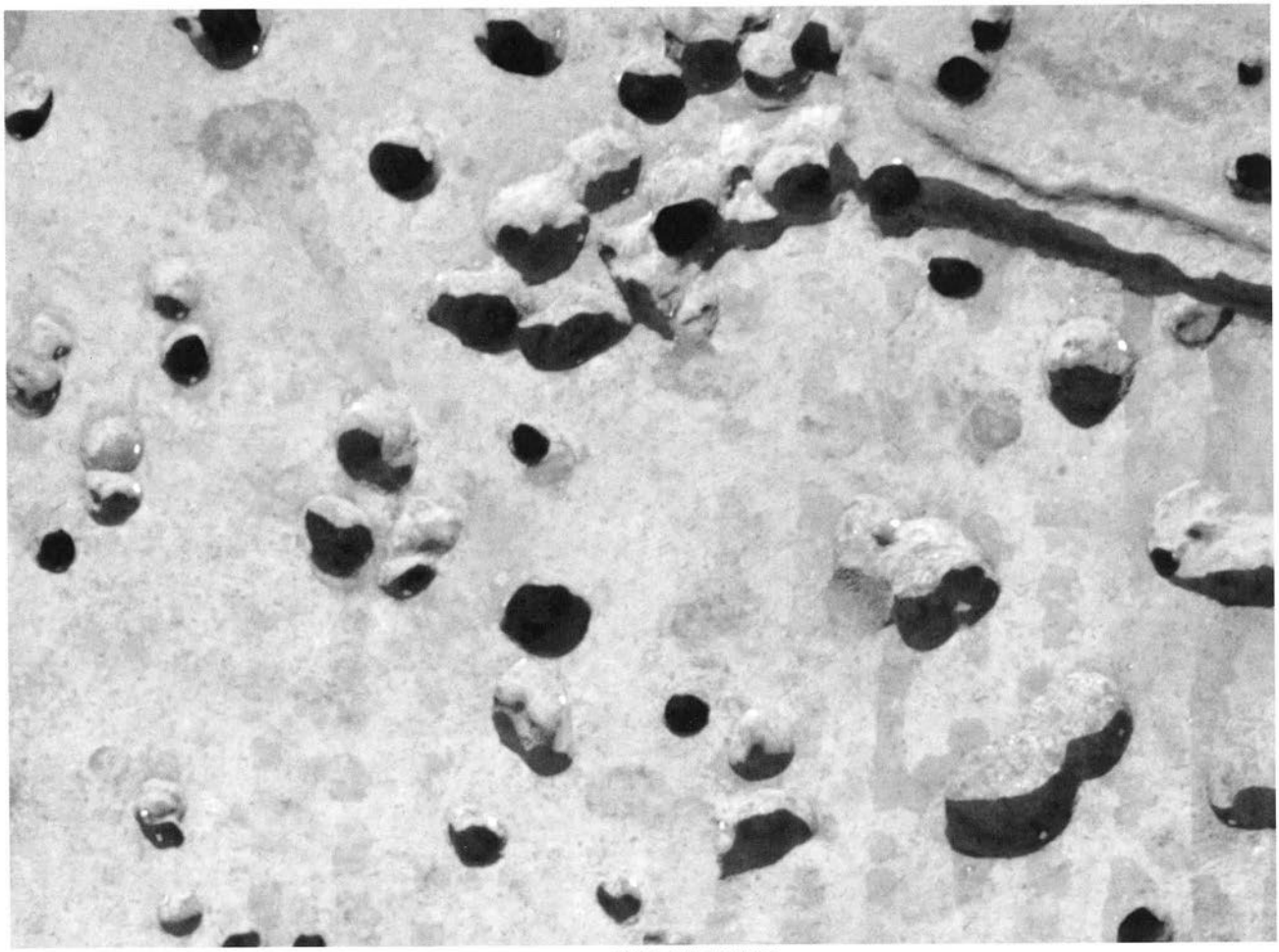
7　同 ピット9



8　同 ピット10

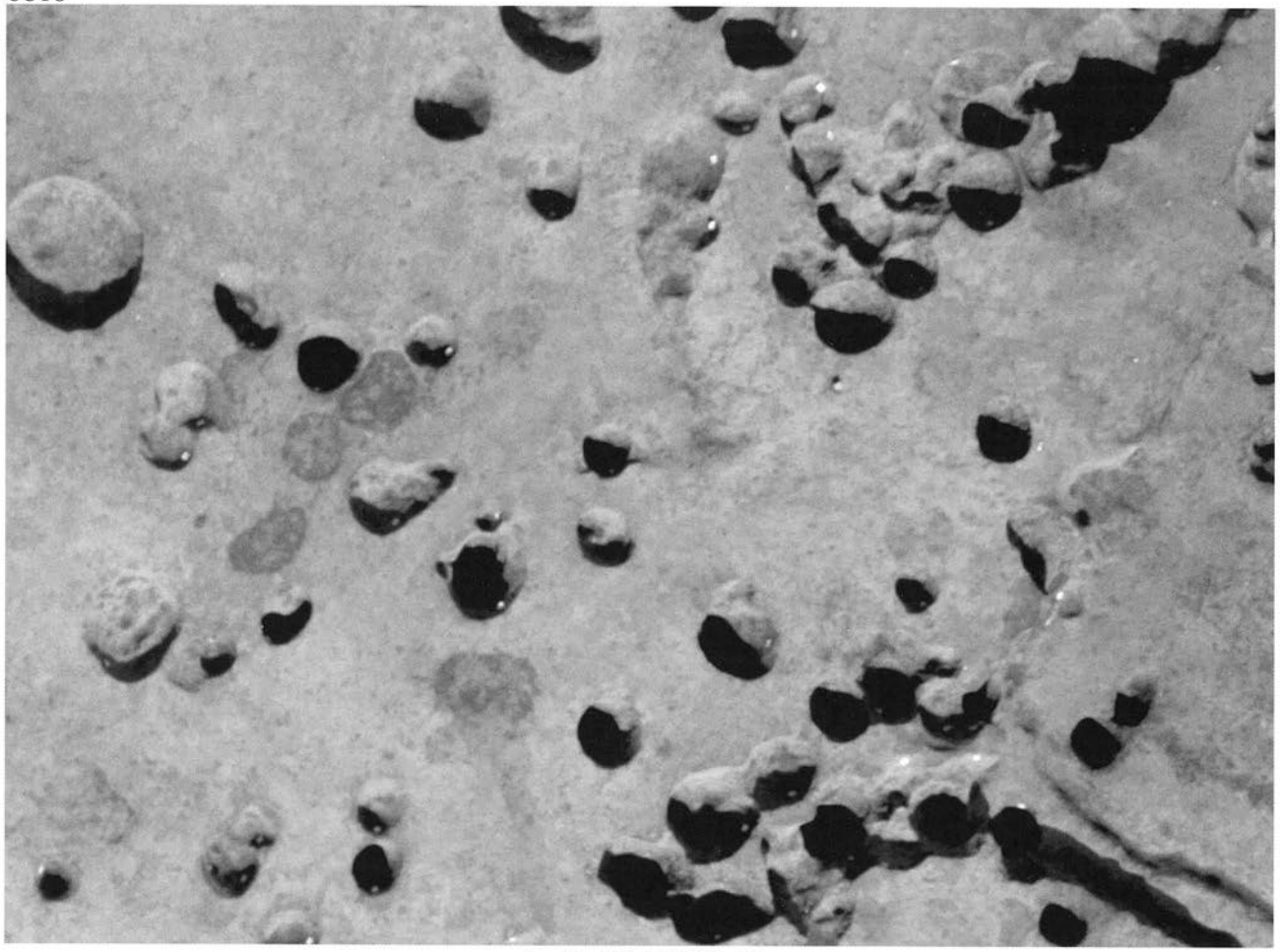


1　3号掘立柱建物跡

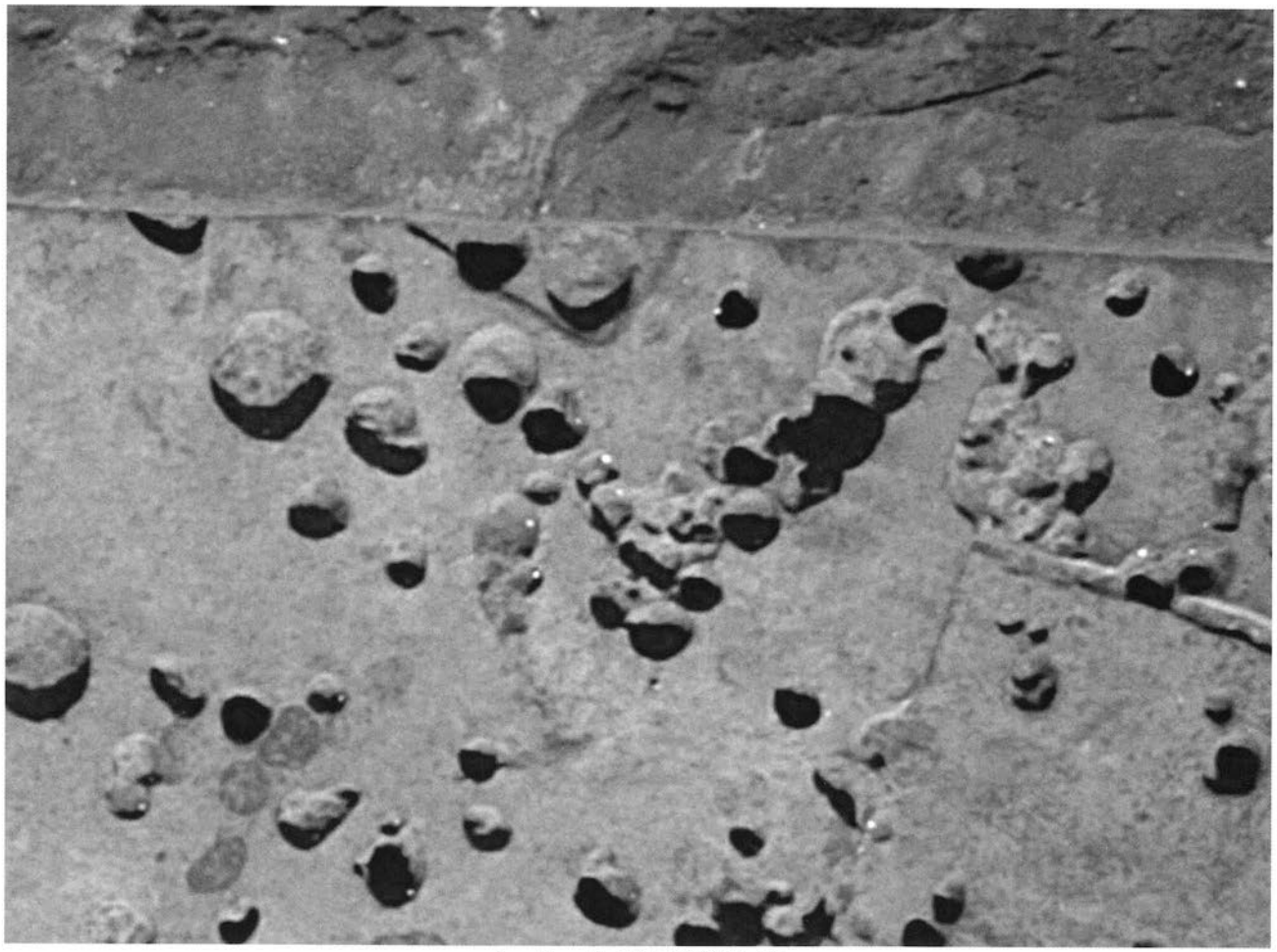


2　4・5号掘立柱建物跡

CUT5

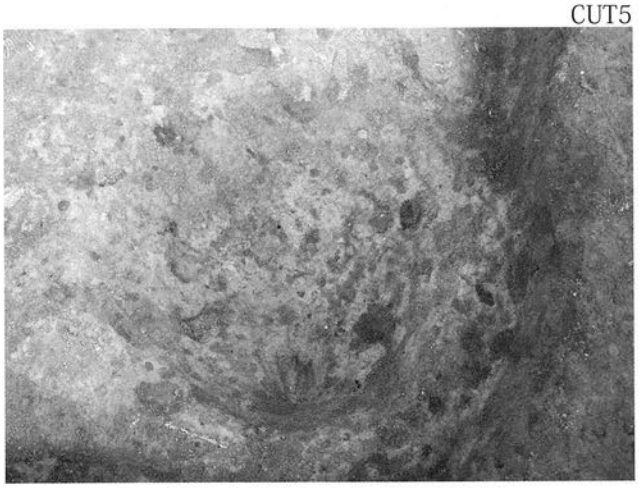


1　6号掘立柱建物跡

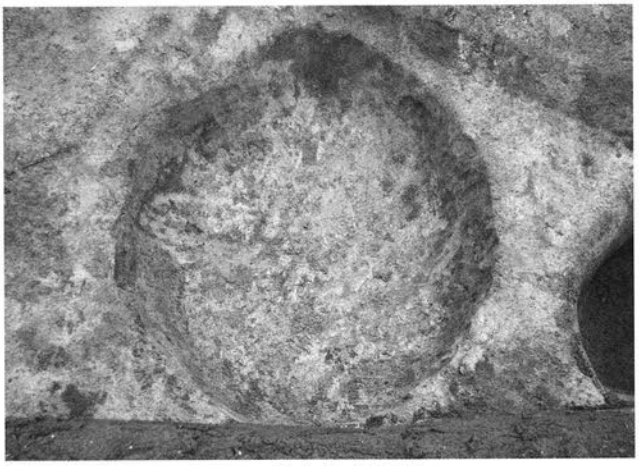


2　7～9号掘立柱建物跡

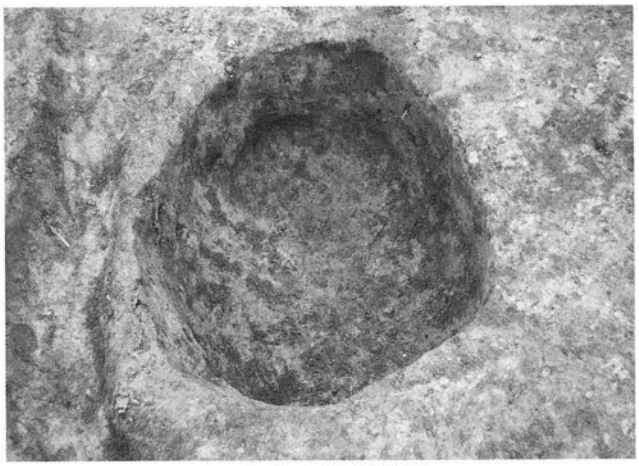
1　3号掘立柱建物跡



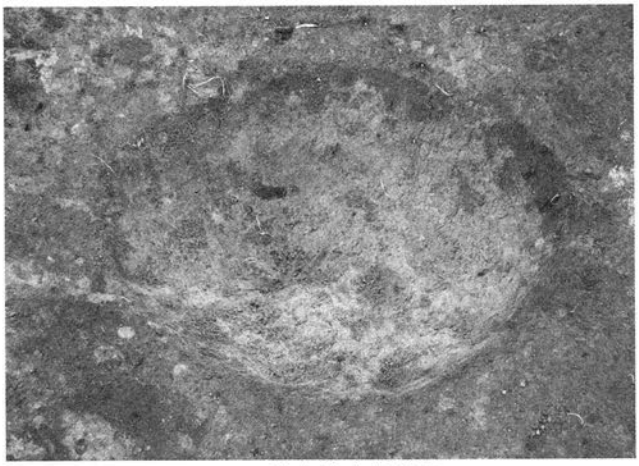
2　35号住居跡内1号土坑完掘状況



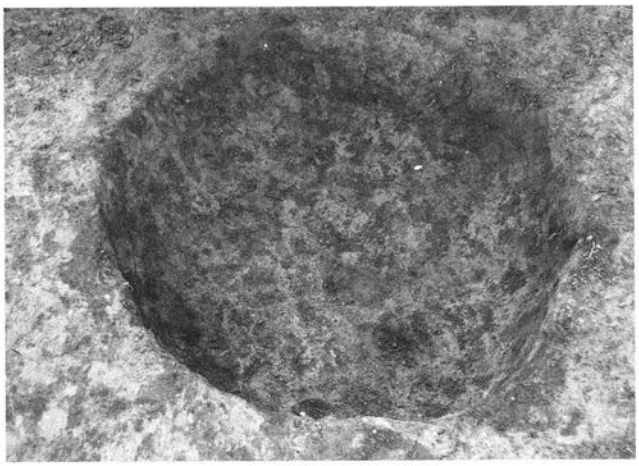
3　4号土坑完掘状況



4　6号土坑完掘状況

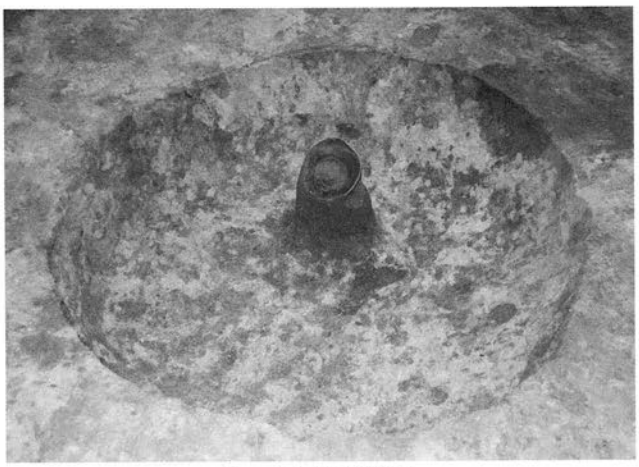


5　7号土坑完掘状況



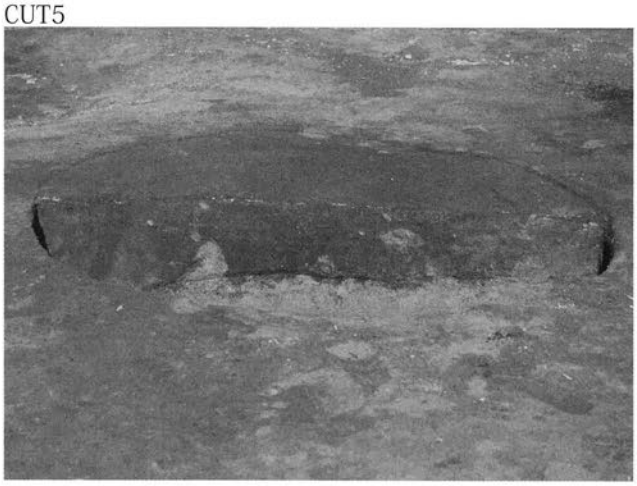
6　8号土坑完掘状況

7　9号土坑セクション



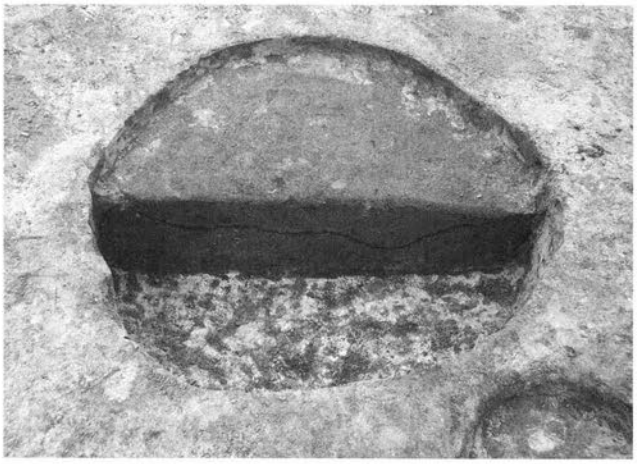
8　同 完掘状況

CUT5

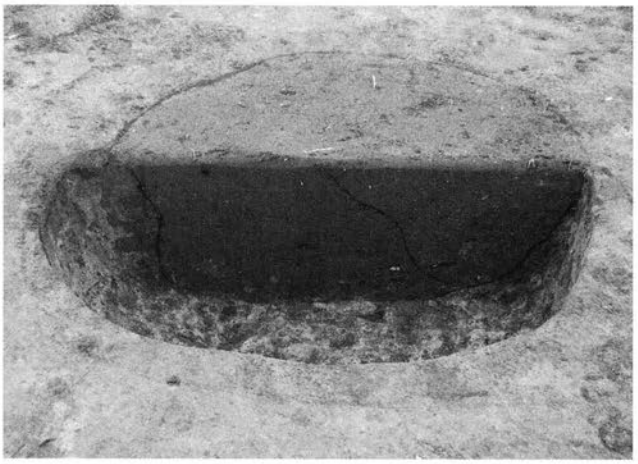


1　10号土坑セクション

2　11号土坑セクション

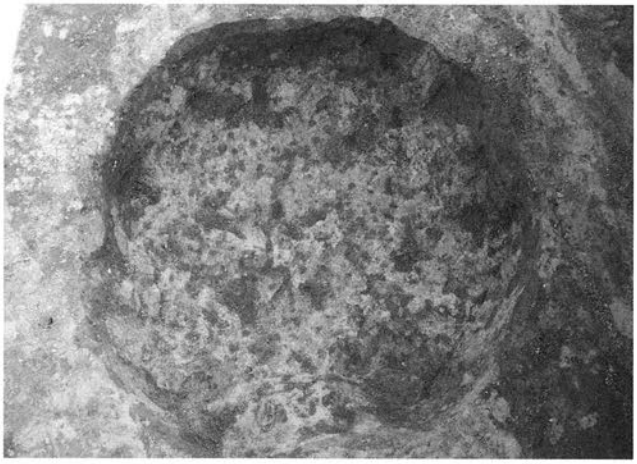


3　15号土坑セクション



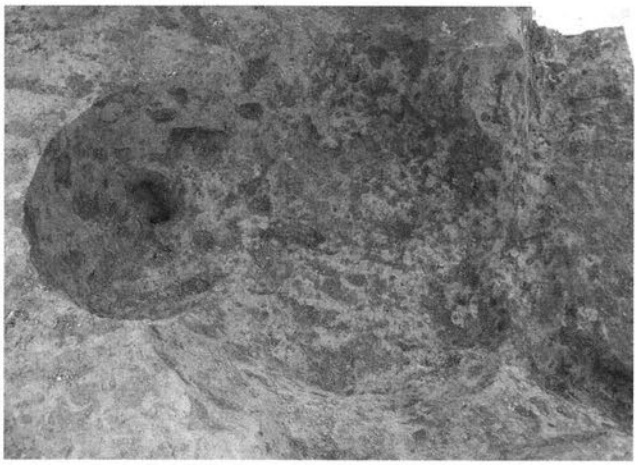
4　18号土坑セクション

5　56号土坑完掘状況

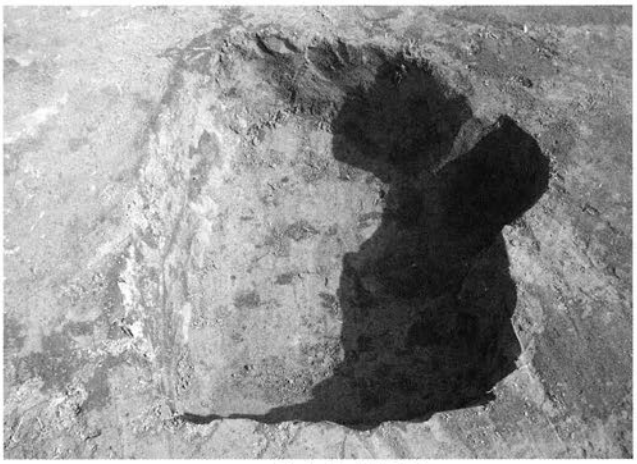


6　76号土坑完掘状況

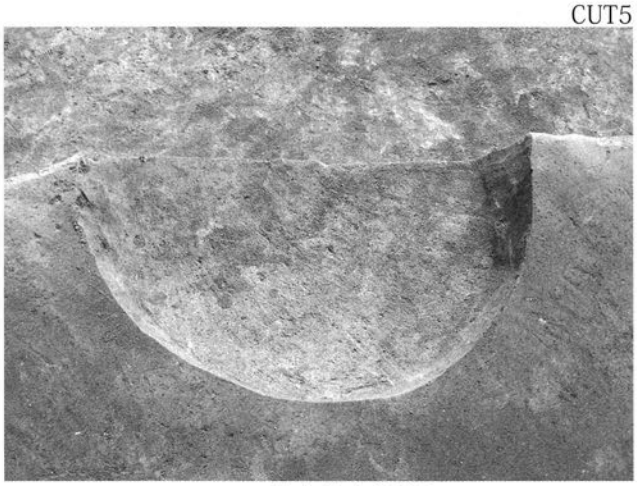
7　77号土坑完掘状況



8　78号土坑完掘状況



1　80 号土坑完掘状況



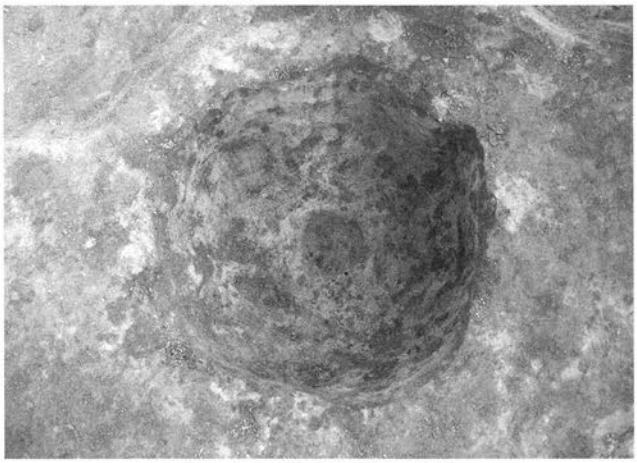
2　81 号土坑完掘状況

3　82 号土坑完掘状況

4　ピット 29・330 完掘状況

5　ピット 33 完掘状況

6　ピット 256 ～ 259 完掘状況

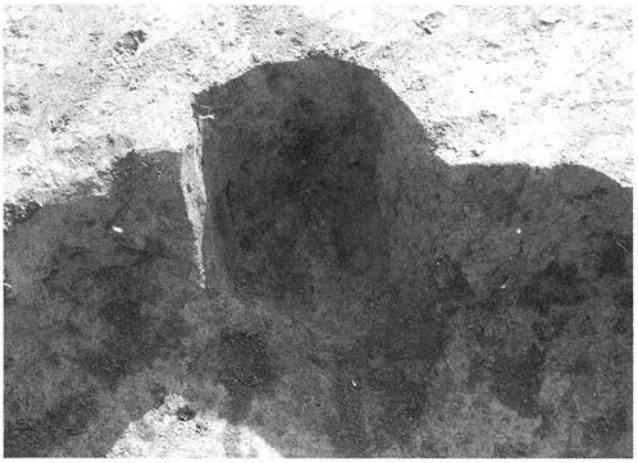


7　ピット 312 完掘状況

8　ピット 315 完掘状況

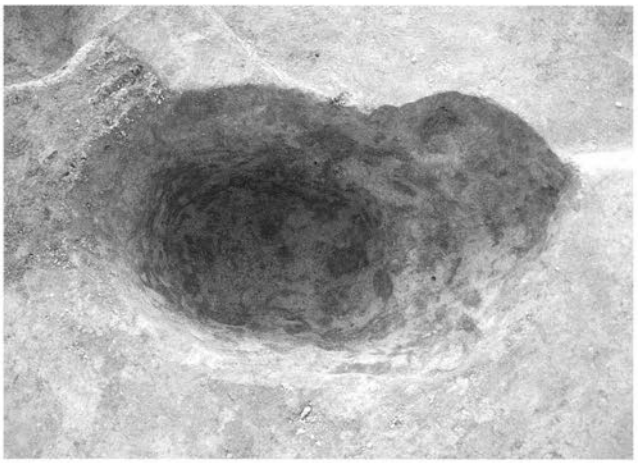
CUT5

1　ピット 31 完掘状況



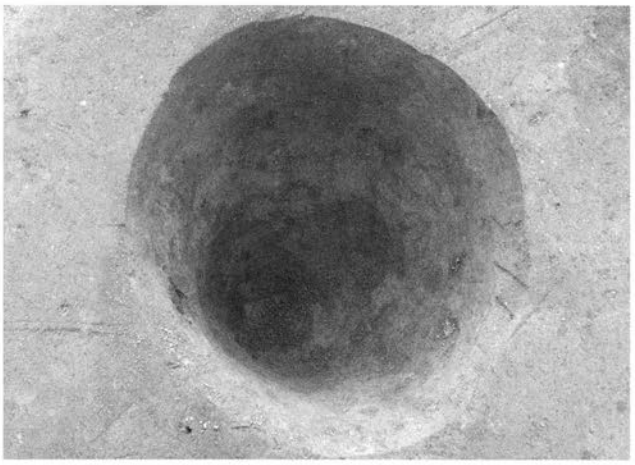
2　ピット 320 完掘状況

3　ピット 321 完掘状況

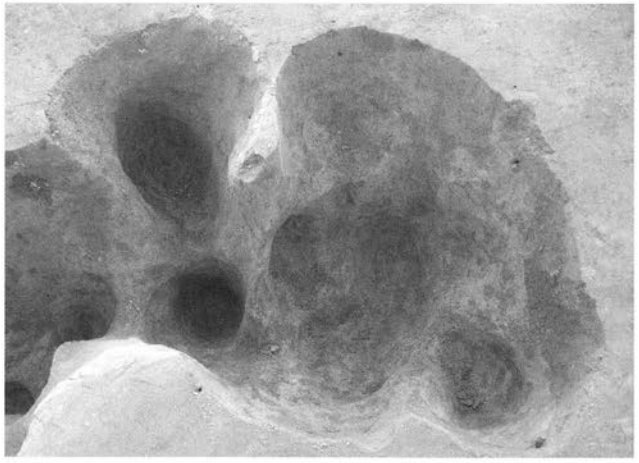


4　ピット 328 完掘状況

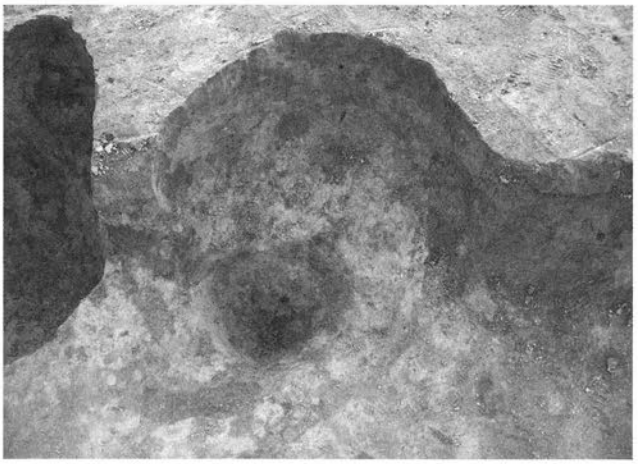
5　ピット 329 完掘状況



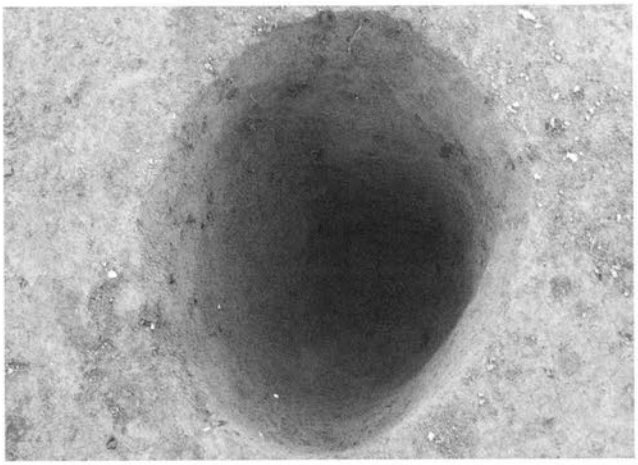
6　ピット 325 完掘状況



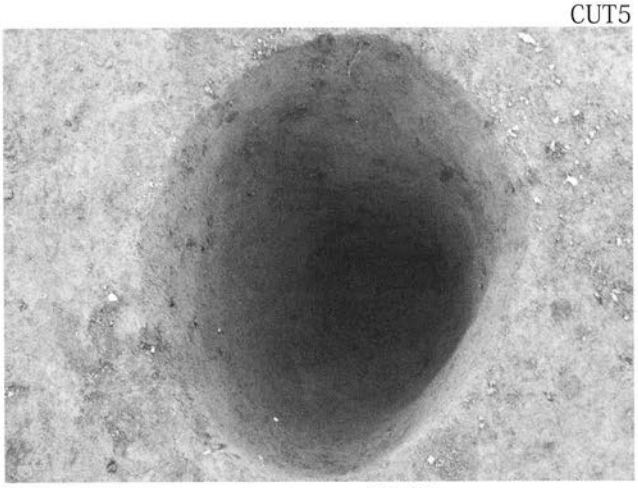
7　ピット 35・260・323・324 完掘状況



8　ピット 326 完掘状況

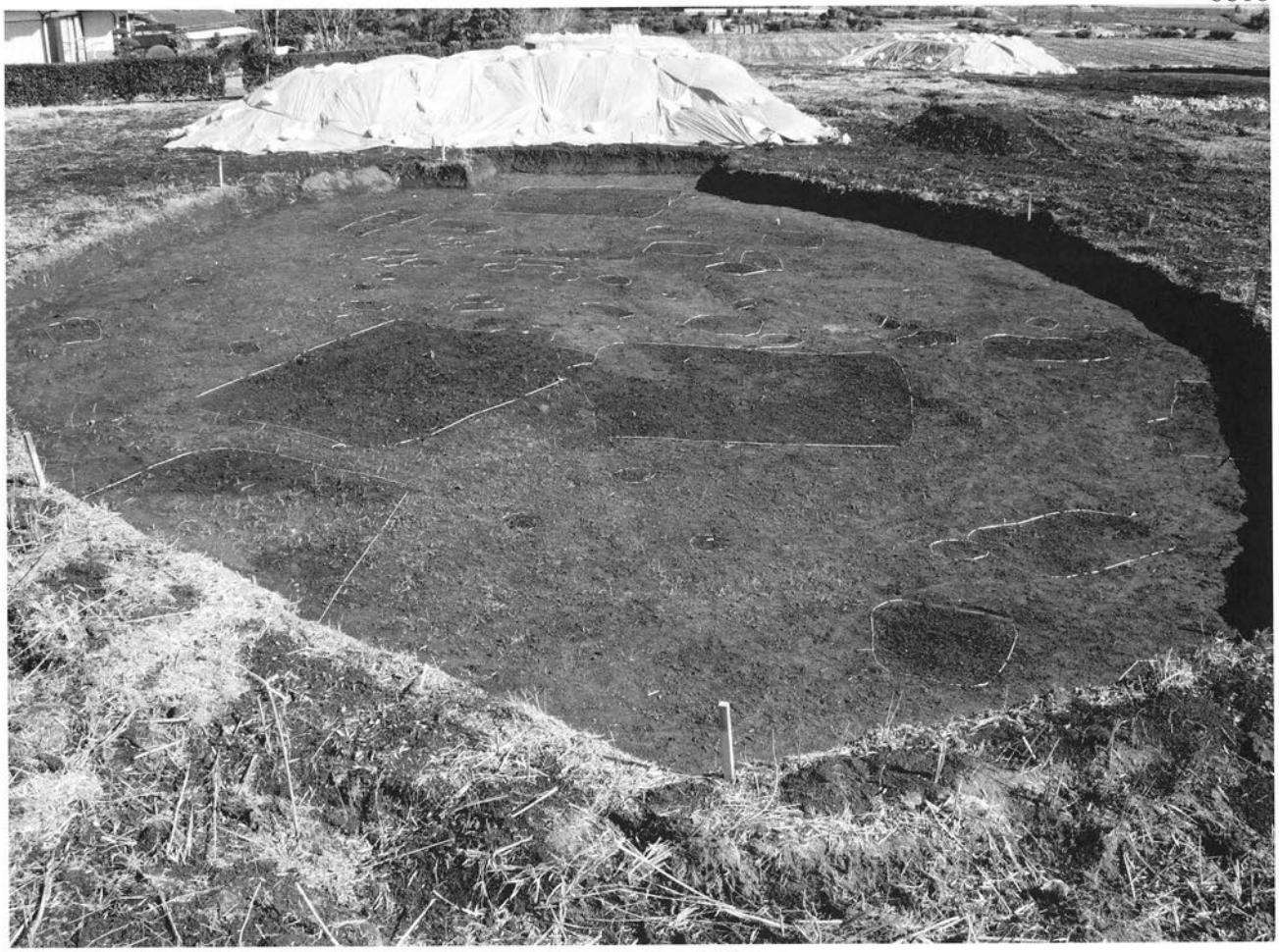


1　ピット 344 完掘状況



2　ピット 345 完掘状況

1　CUT6 航空写真



1　遺構確認全景

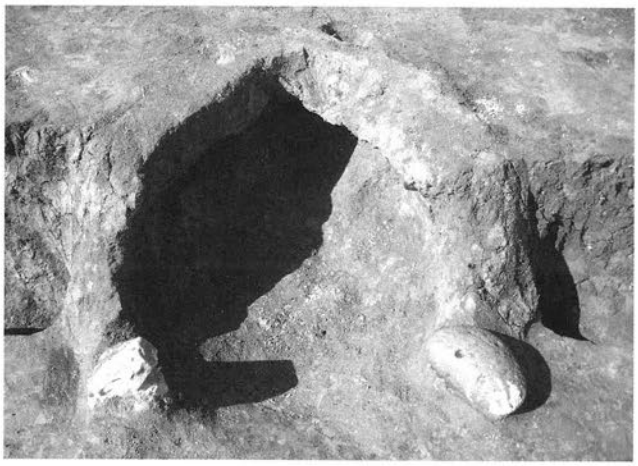
2　標準堆積土層

CUT6

1　1号住居跡全景

2　同 カマドセクション

3　同 カマド内遺物出土状況



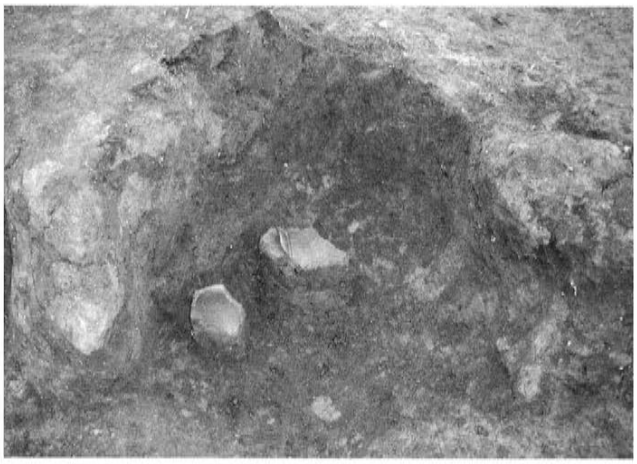
4　同 カマド全景

5　2号住居跡セクション

1　2号住居跡全景

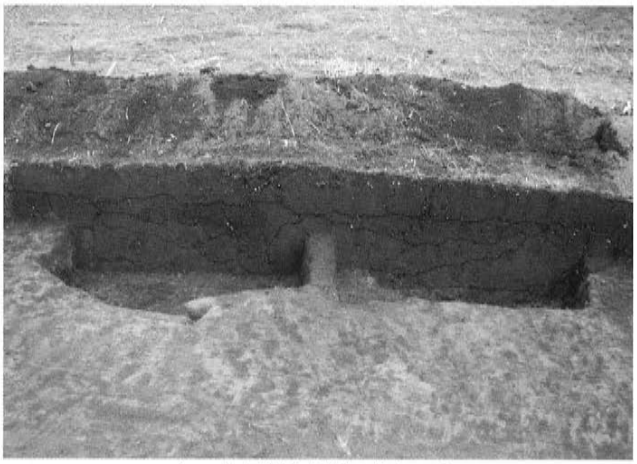
2　同 遺物出土状況

1　2号住居跡カマドセクション



2　同 カマド遺物出土状況

3　同 カマド完掘状況

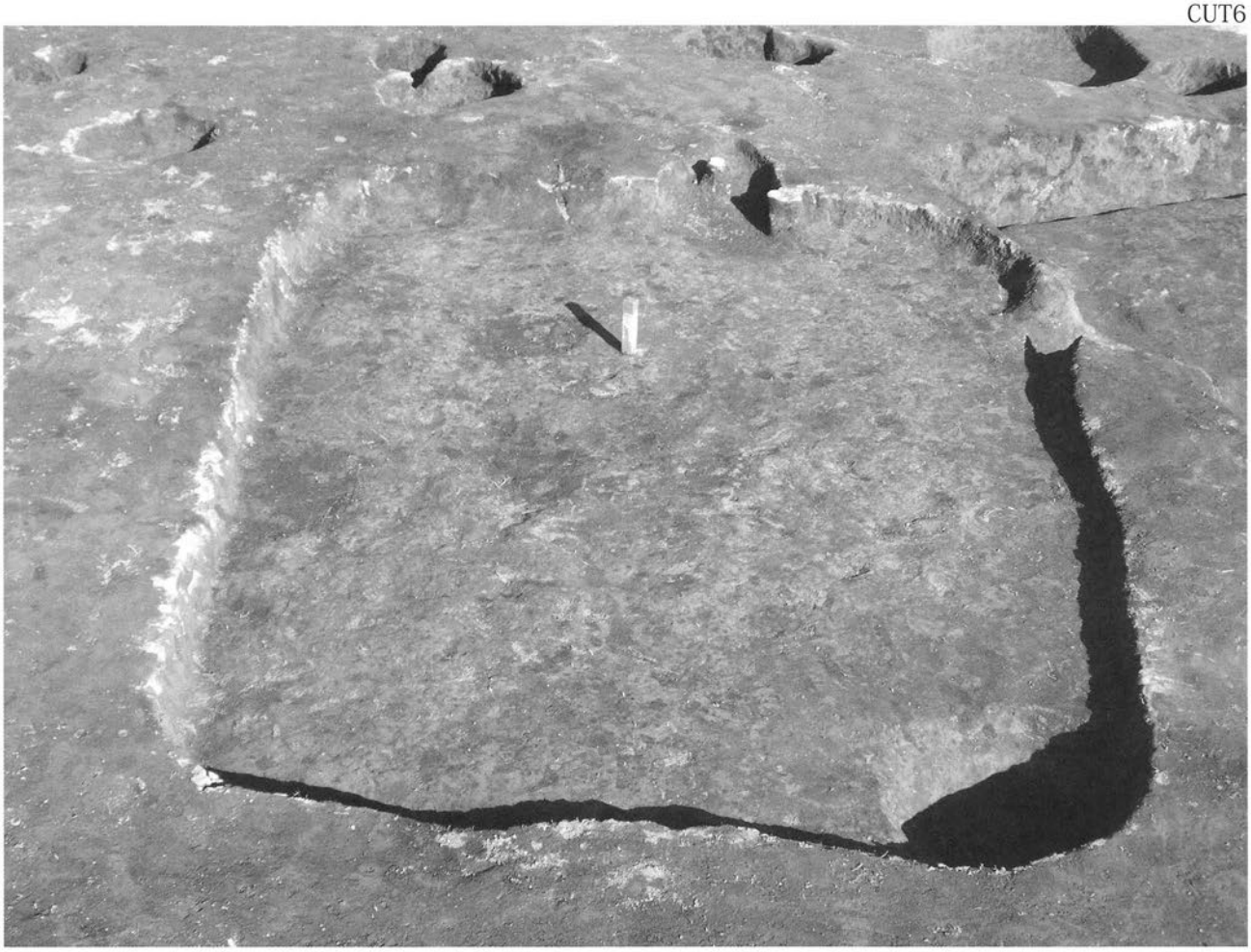


4　3号住居跡セクション

5　同 住居跡全景

6　同 カマド全景

7　4号住居跡カマド



1　4号住居跡全景

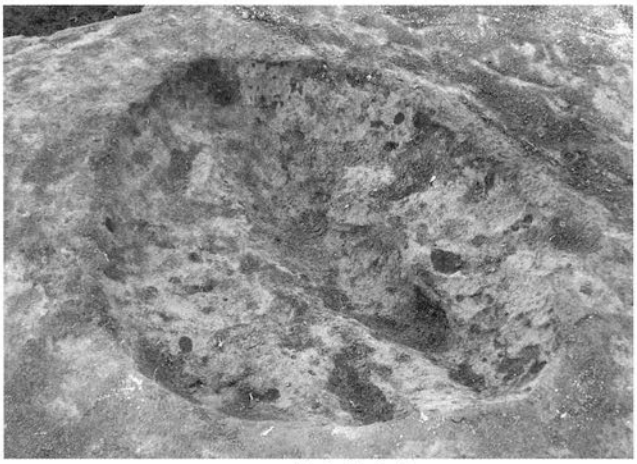
2　1号掘立柱建物跡全景

CUT6

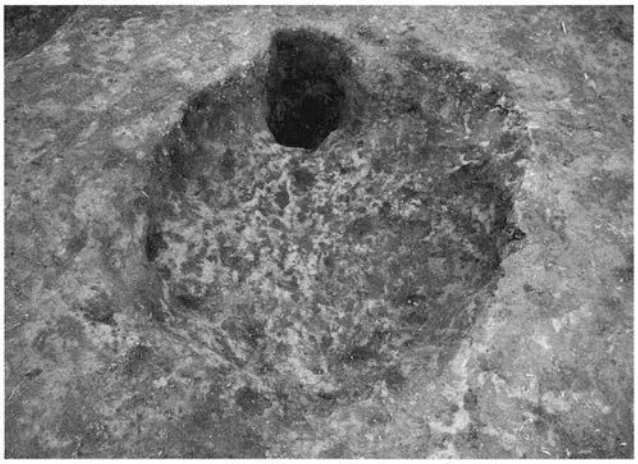
1　1号土坑全景

2　2号土坑セクション

3　3号土坑全景

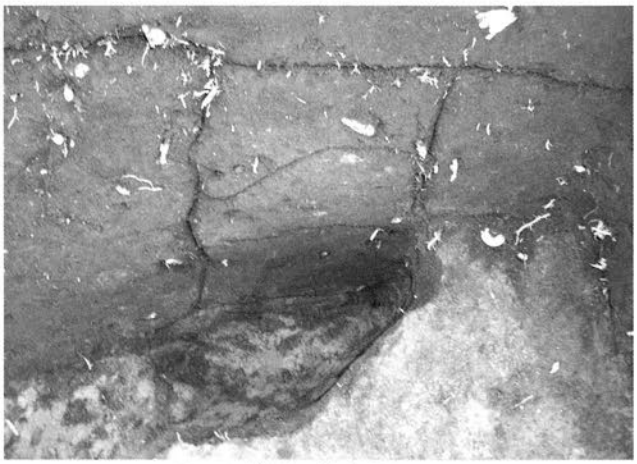


4　4号土坑全景



5　5号土坑・3号ピット全景

6　6号土坑全景

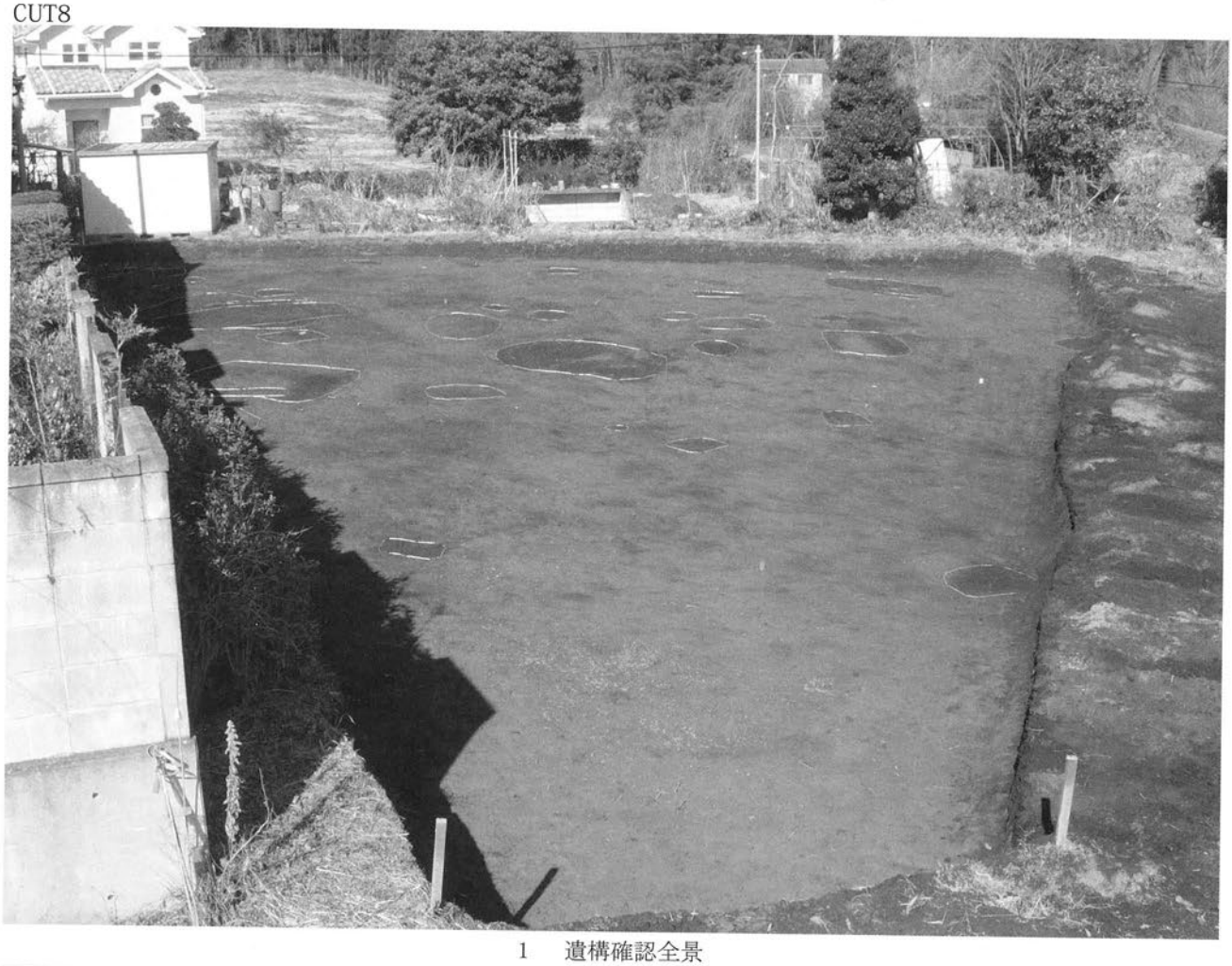


7　1号ピットセクション

8　1号住居跡全景

1　CUT8 航空写真

CUT8



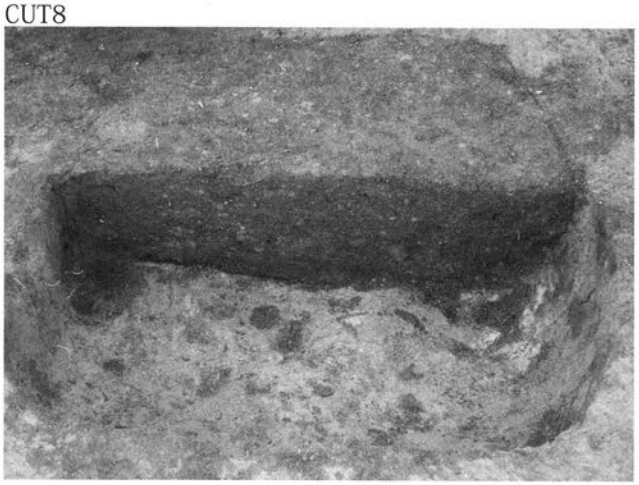
1　遺構確認全景

2　標準堆積土層

1　1号古墳セクション

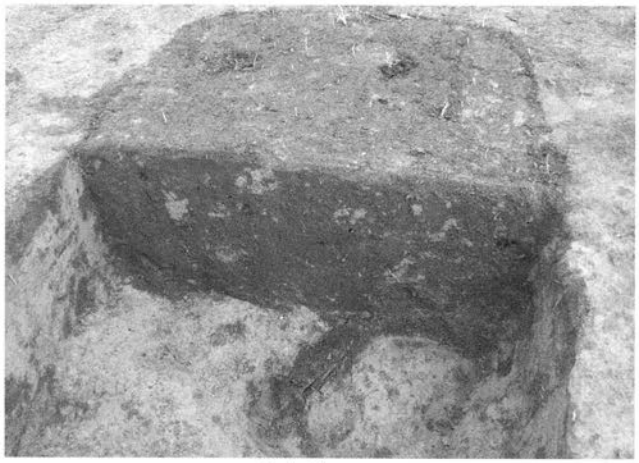
2　同 周溝

CUT8



1　1号土坑セクション

2　同 完掘状況

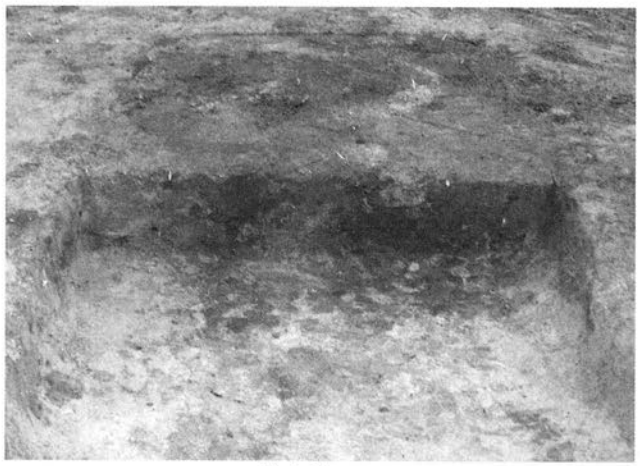


3　2号土坑セクション

4　同 完掘状況

5　3号土坑セクション

6　同 完掘状況

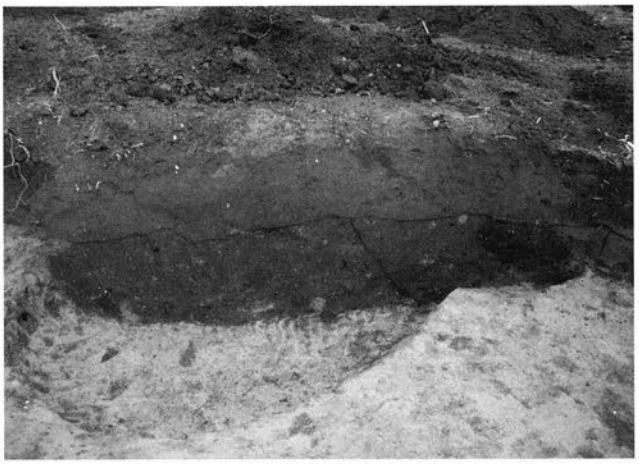


7　4号土坑セクション

8　同 完掘状況

1　5号土坑セクション

2　同 完掘状況



3　6号土坑セクション

4　同 完掘状況

5　7号土坑完掘状況

6　8号土坑セクション

7　9号土坑セクション

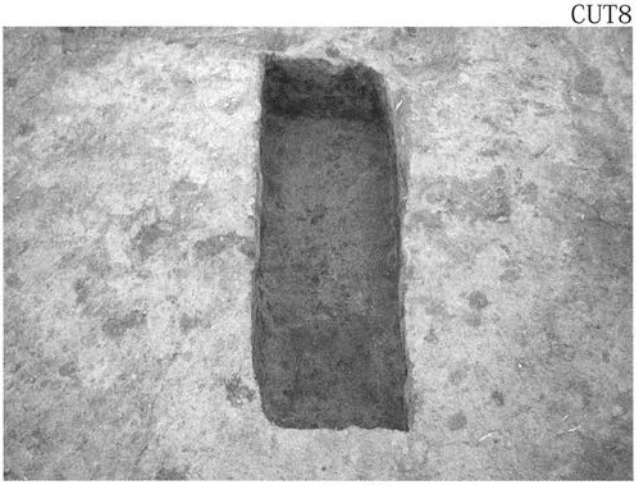
8　同 完掘状況

CUT8

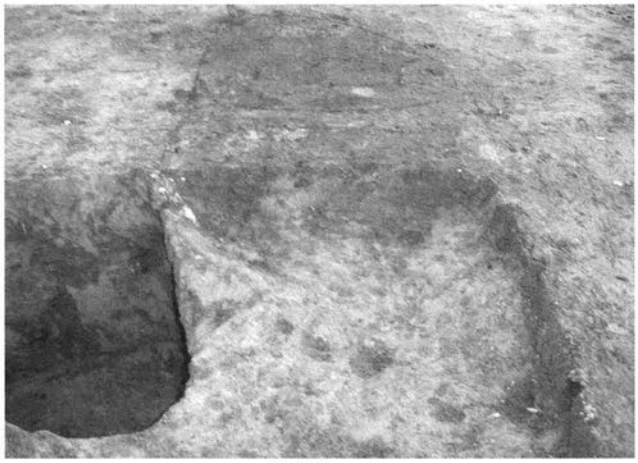
1　9号土坑蔵骨器

2　同 出土状況

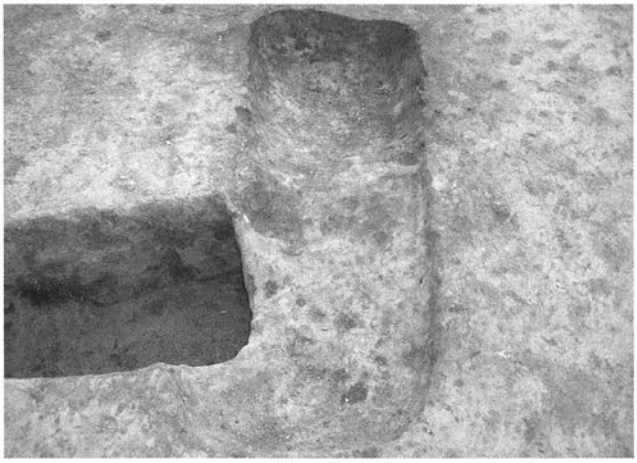
1　10 号土坑セクション



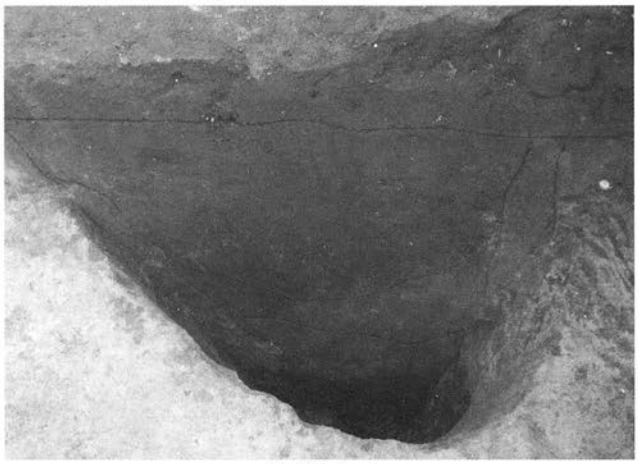
2　同 完掘状況



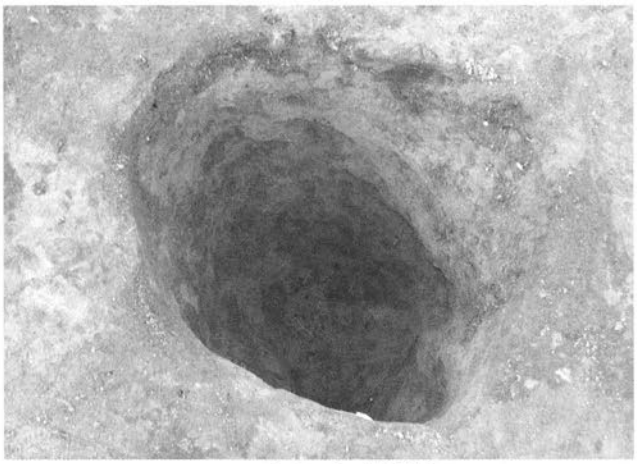
3　11 号土坑セクション



4　同 完掘状況



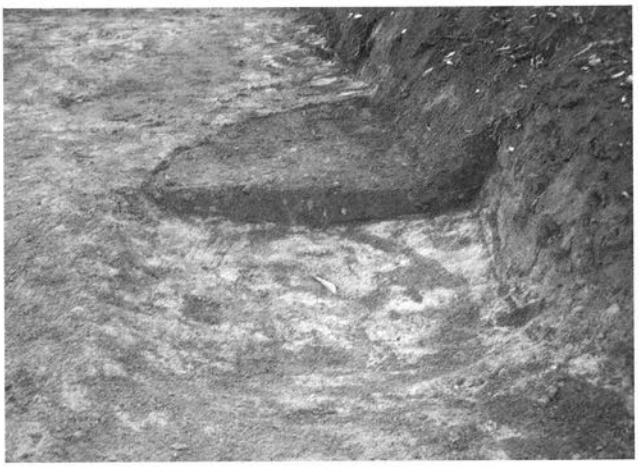
5　12 号土坑セクション



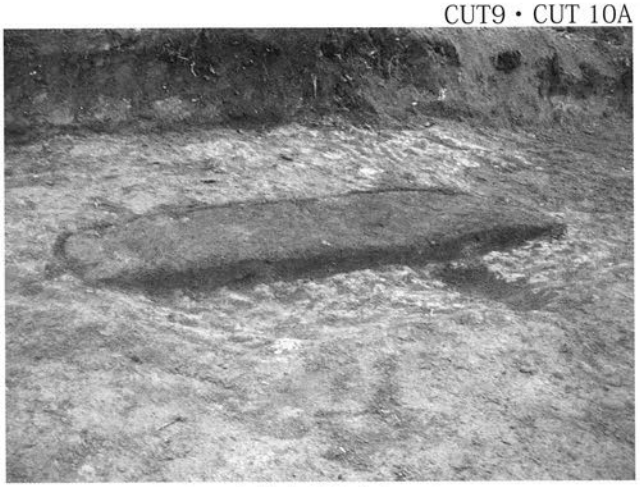
6　4 号ピット完掘状況

CUT9・CUT 10B

1　CUT9・CUT10B 航空写真

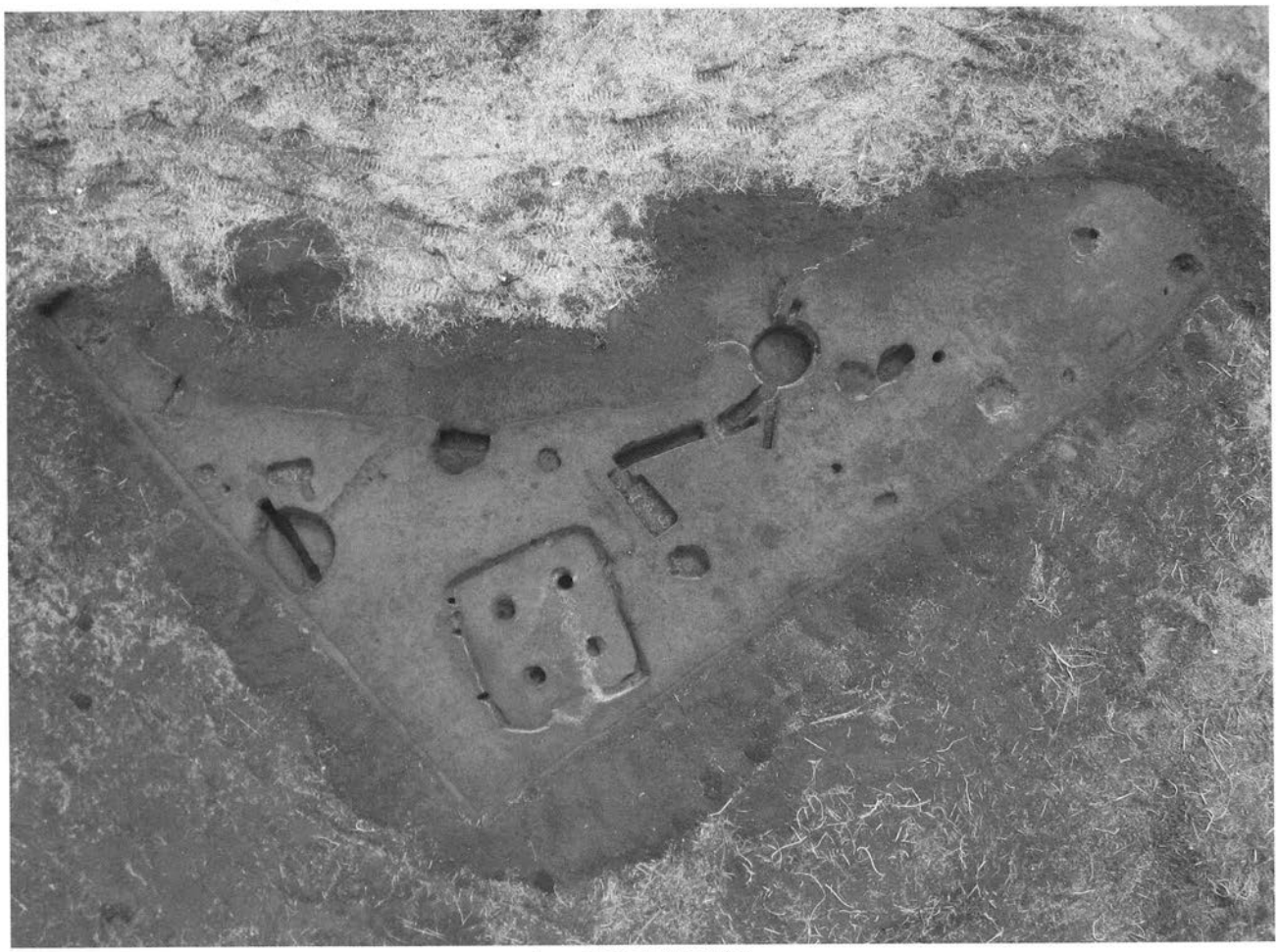


1　1号土坑セクション



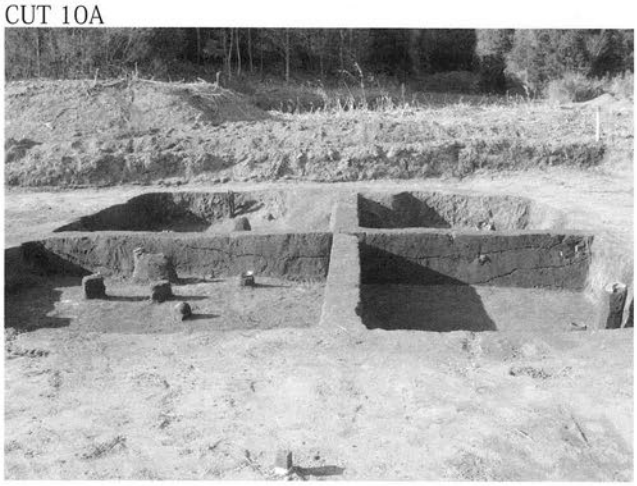
2　2号土坑セクション

3　3号溝セクション



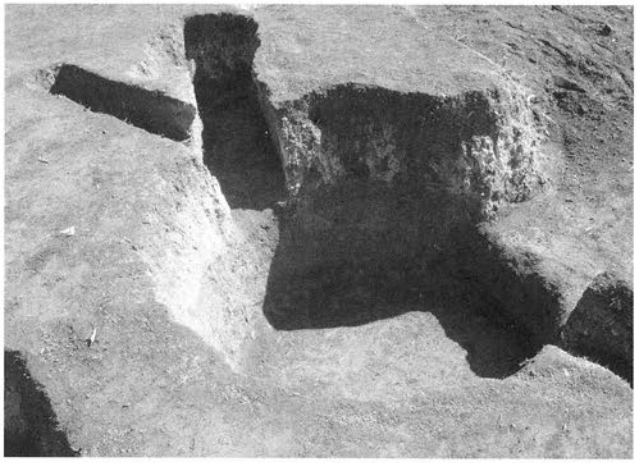
4　CUT10A航空写真

CUT 10A

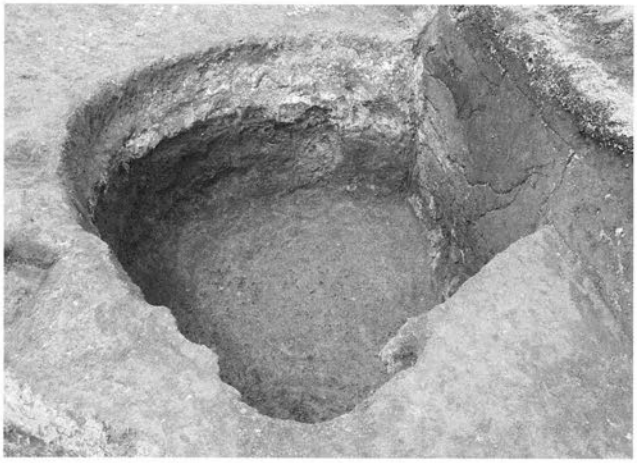


1　1号住居跡セクション

2　1号溝完掘状況



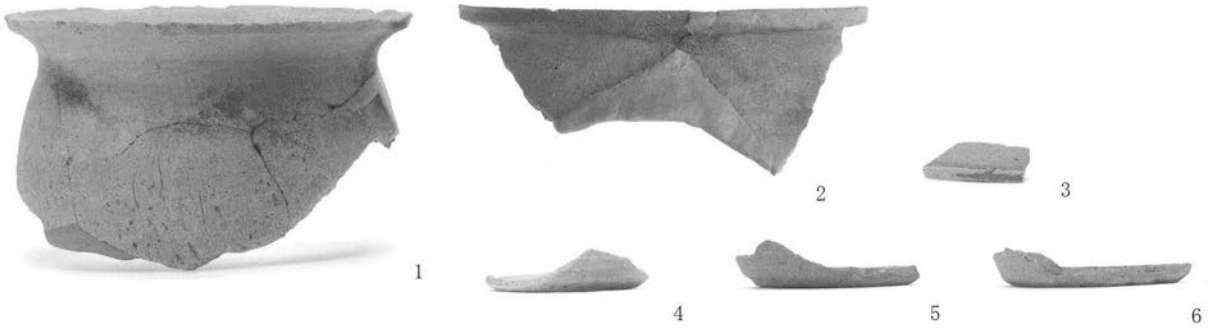
3　1号地下式坑完掘状況



4　2号地下坑完掘状況

遺　物　写　真　図　版

CUT01-SI01 出土遺物



CUT1-SI02 出土遺物

CUT1-SI03 出土遺物

CUT1-SI04 出土遺物

CUT1-SI05 出土遺物

1-1

1-2

2

3

4

5

6

7

8-2

8-3

8-1

CUT1-SI05 出土遺物

9

10

11

12

13

14

CUT1-SI06 出土遺物

1

2

4

5

3

6

CUT1-SI07 出土遺物

1

2

3

CUT1-SI08 出土遺物

1

2

3

4

5

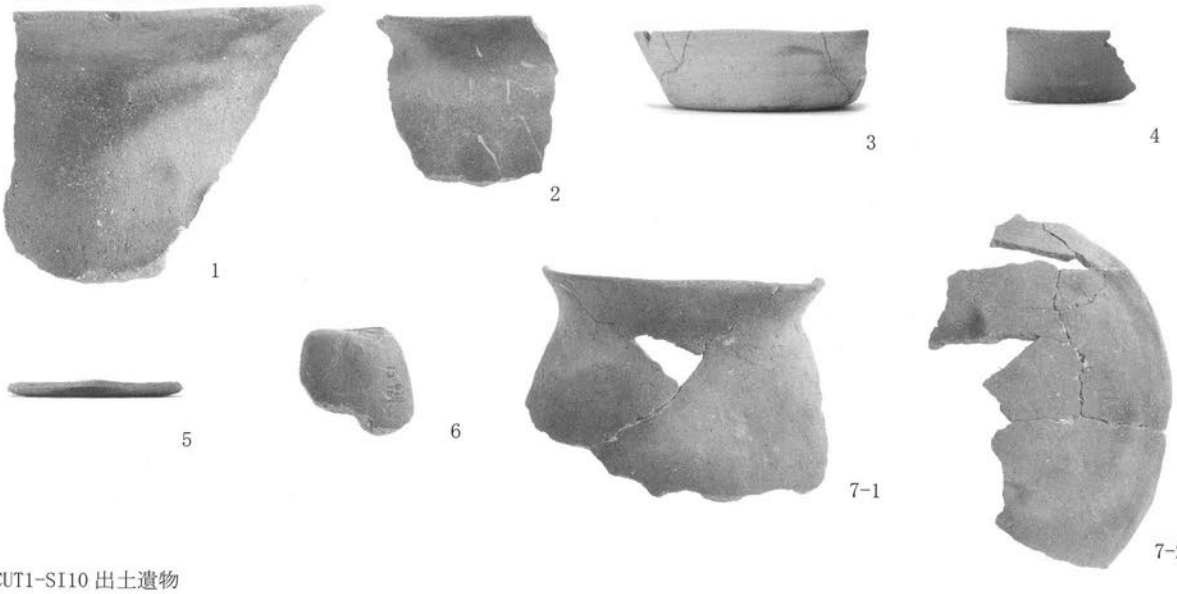
6

図版92

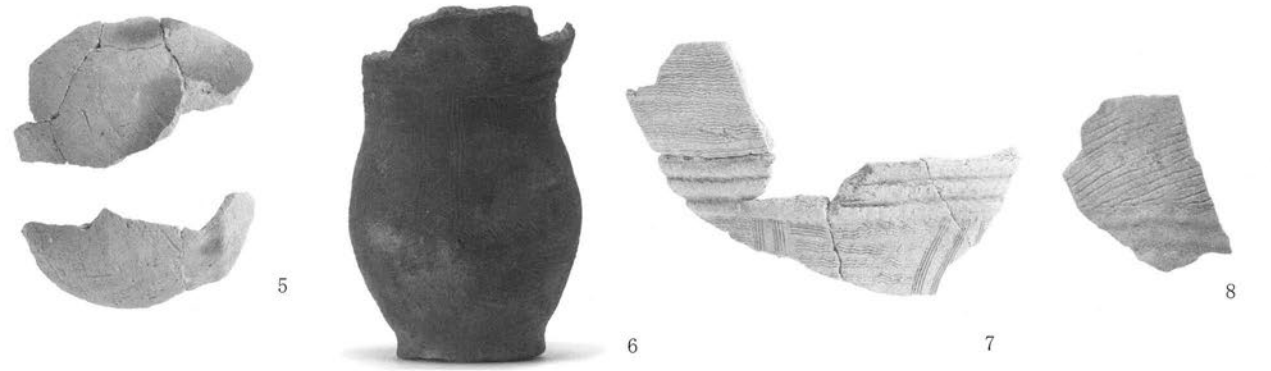
CUT1

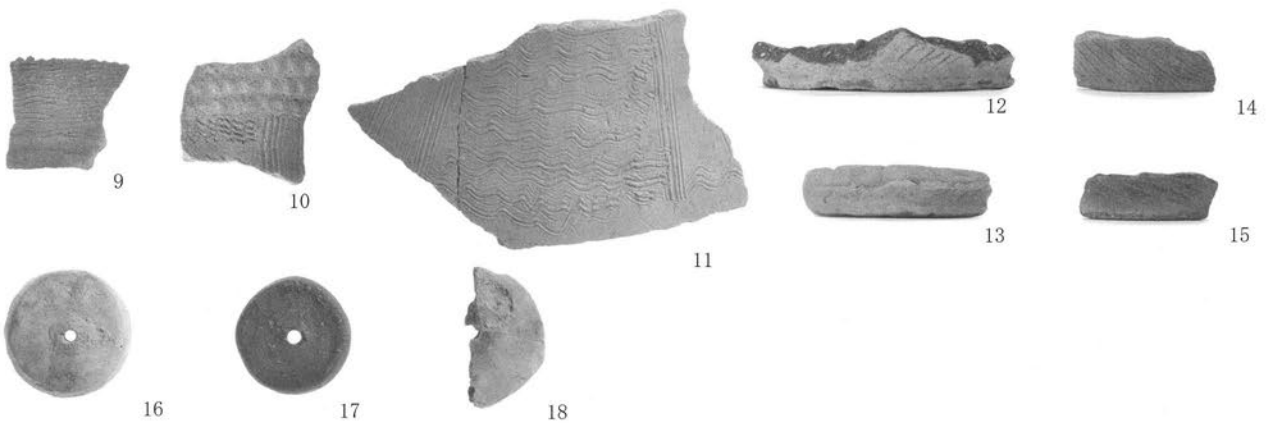
CUT1-SI08 出土遺物

CUT1-SI09 出土遺物



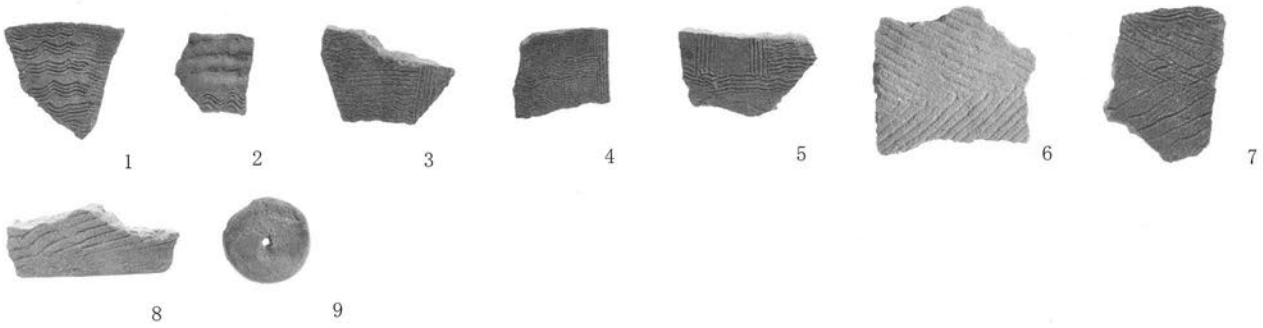
CUT1-SI10 出土遺物



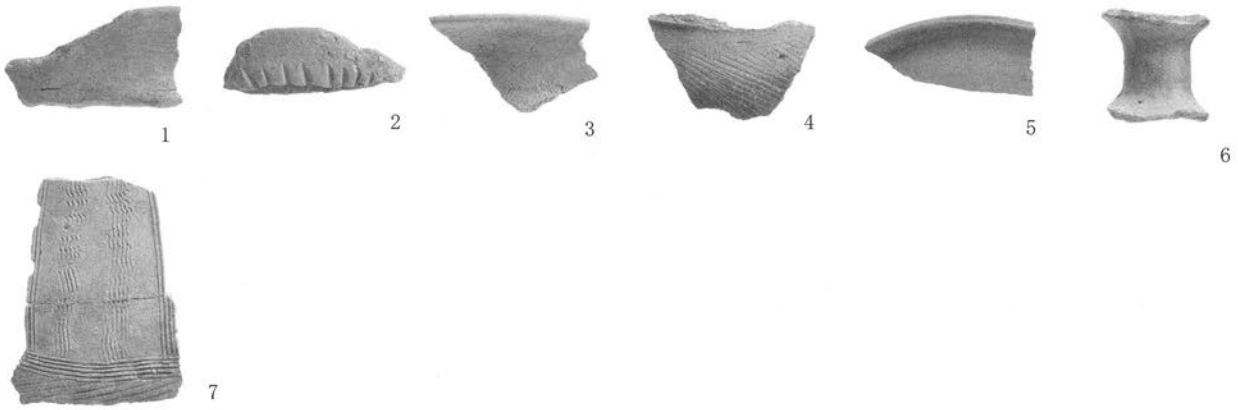


CUT1-SI11 出土遺物

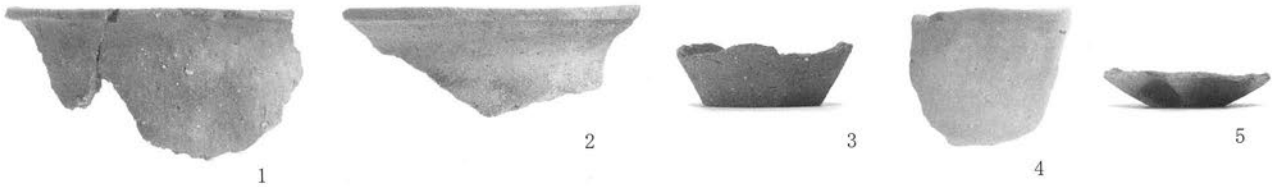
CUT1-SI12 出土遺物



CUT1-SI13 出土遺物



CUT1-SI14 出土遺物

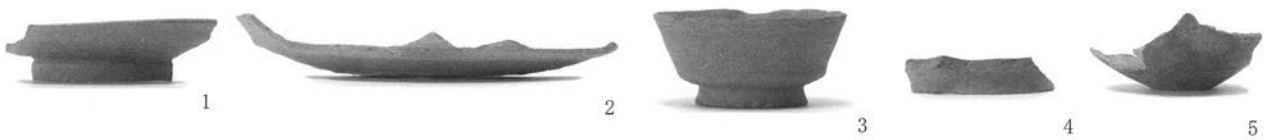


CUT1-SK15 出土遺物

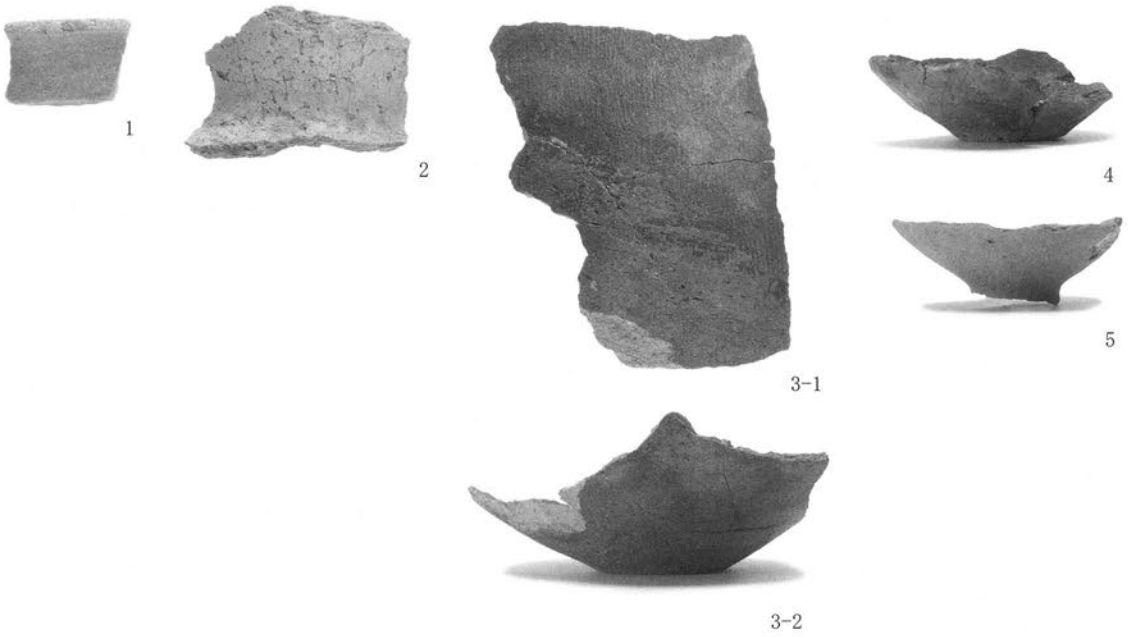
CUT2-SI02 出土遺物

CUT2-SI03 出土遺物

CUT2-SI04 出土遺物



CUT2-SI05 出土遺物



1

2

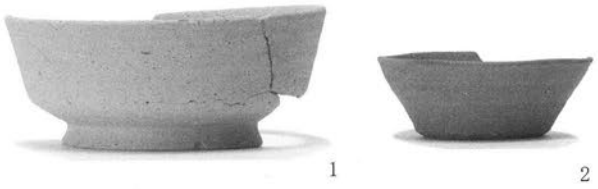
3-1

4

5

3-2

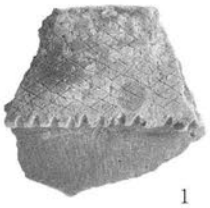
CUT2-SI06 出土遺物



1

2

CUT2- 遺構外出土遺物



1

CUT5-SI02 出土遺物

1

2

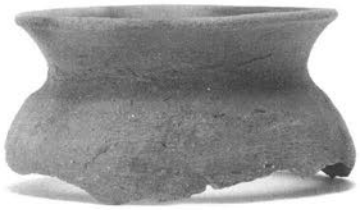
3

CUT5-SI03 出土遺物

1

2

CUT5-SI04 出土遺物



1

2

CUT5-SI05 出土遺物

1

2

3

CUT5-SI06 出土遺物

1

2

4

5

3

6

9

7

8

10

CUT5-SI07 出土遺物

1

2

3

CUT5-SI08 出土遺物

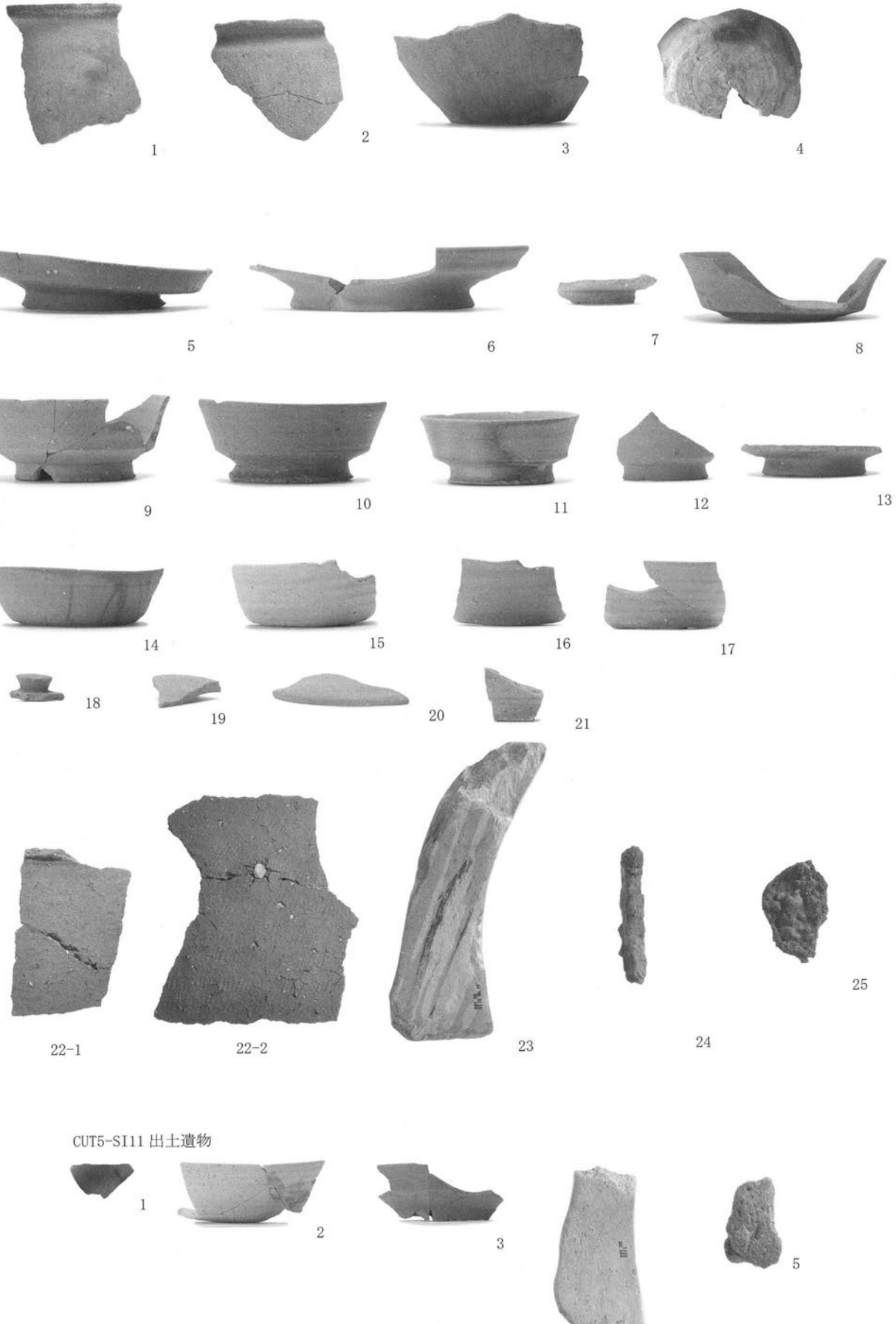
1

CUT5-SI09 出土遺物

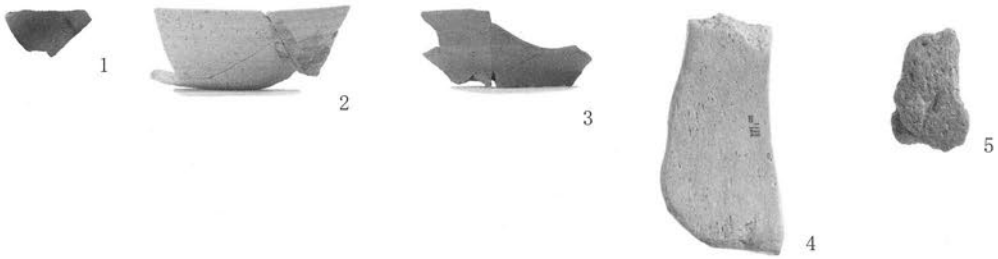
1

2

CUT5-SI10 出土遺物



CUT5-SI11 出土遺物



CUT5

CUT5-SI12 出土遺物

1

2

3

4

5

CUT5-SI13 出土遺物

1

2

3

4

5

6

7

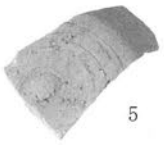
CUT5-SI14 出土遺物

1

2

3

4


5

6

7

8

9

10

11

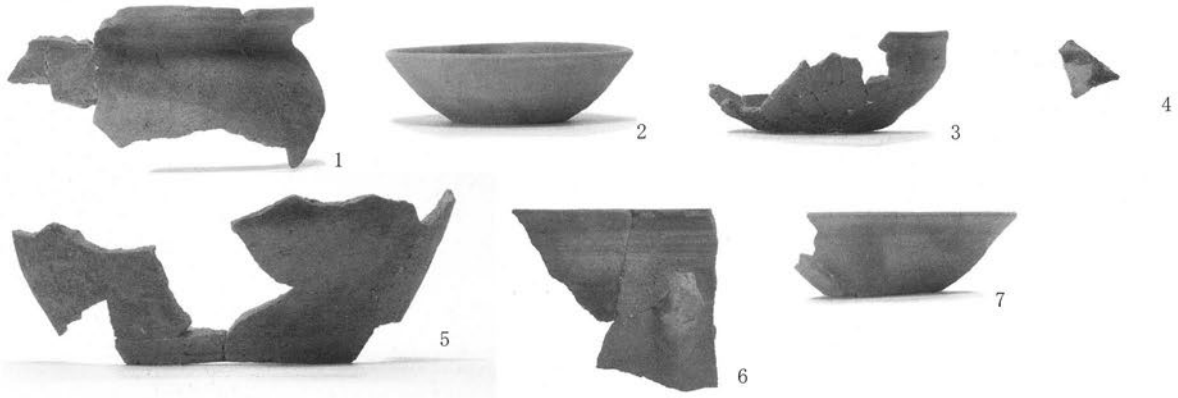
CUT5-SI15 出土遺物

1

2

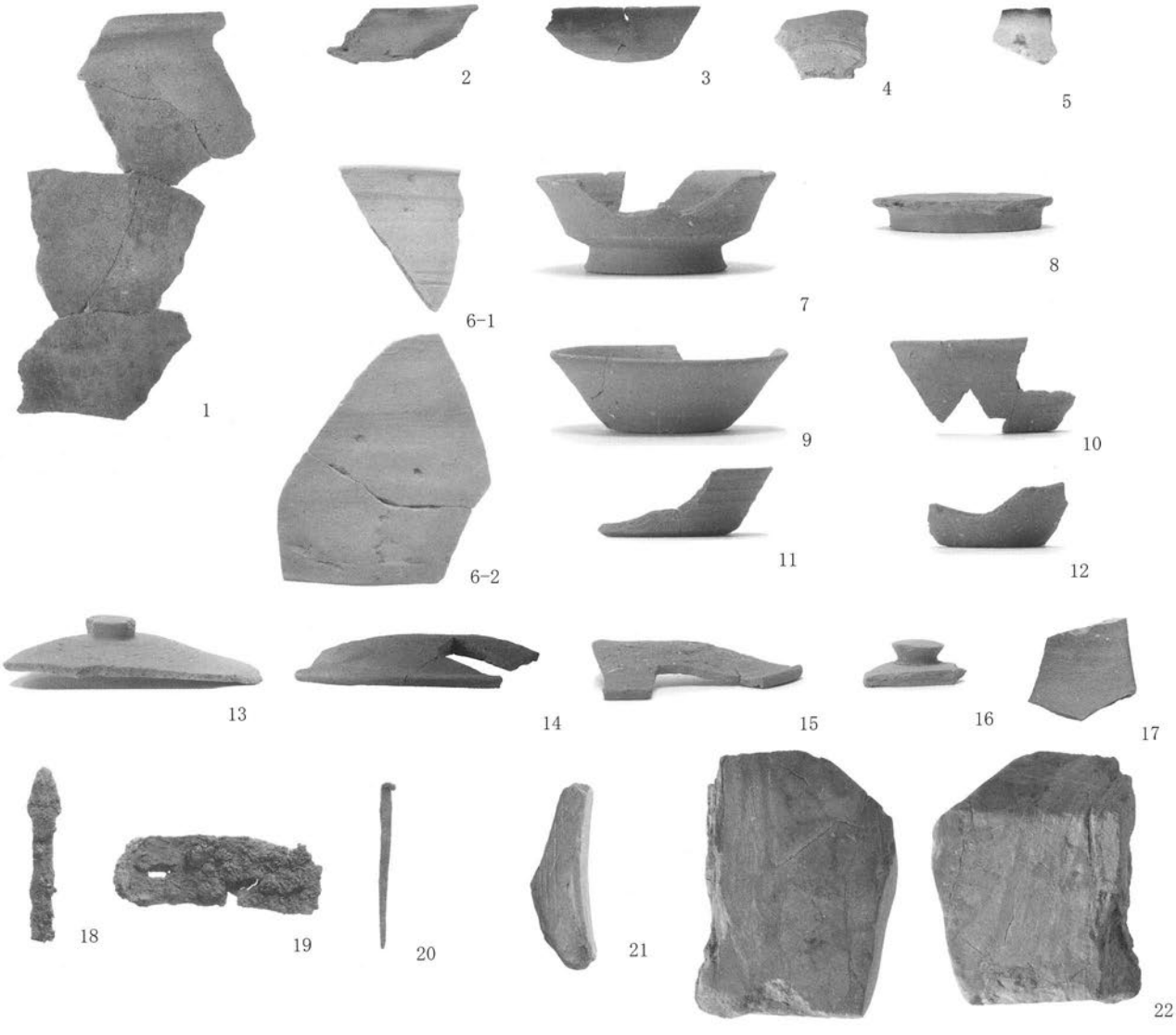
3

CUT5-SI16 出土遺物

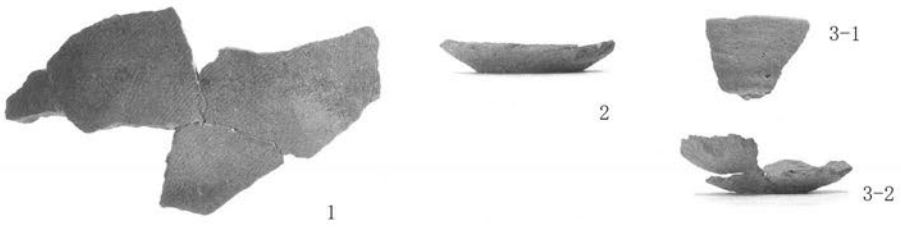


CUT5-SI18 出土遺物

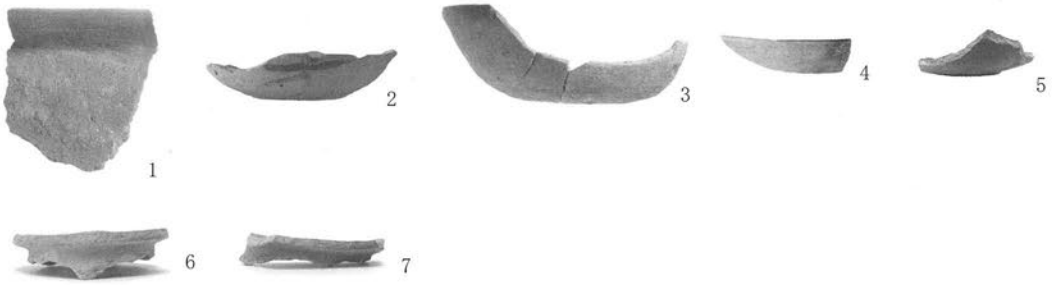
CUT5-SI19 出土遺物



CUT5-SI21 出土遺物

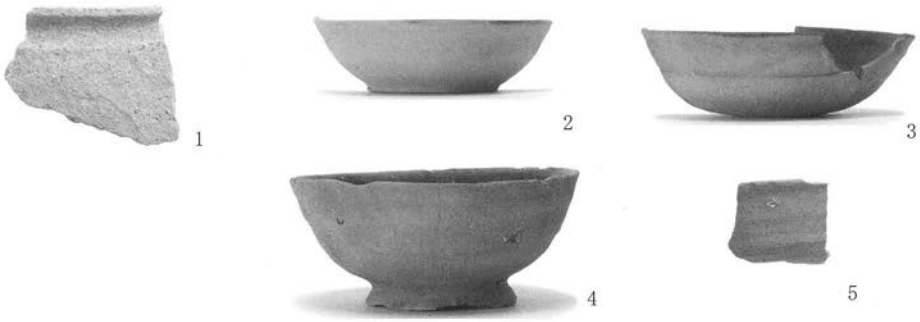


CUT5-SI22 出土遺物

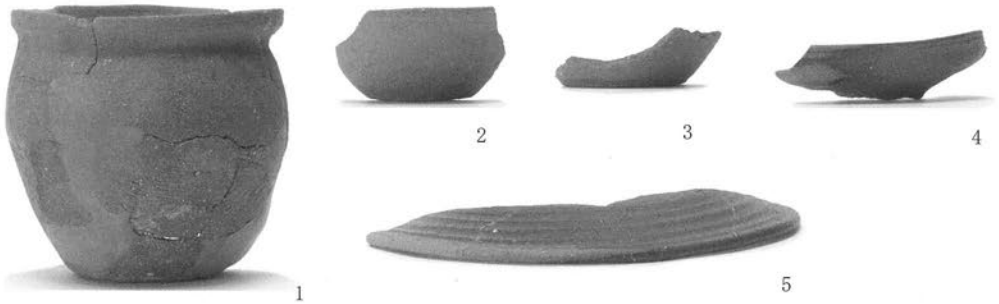


CUT5-SI23 出土遺物

CUT5-SI24 出土遺物

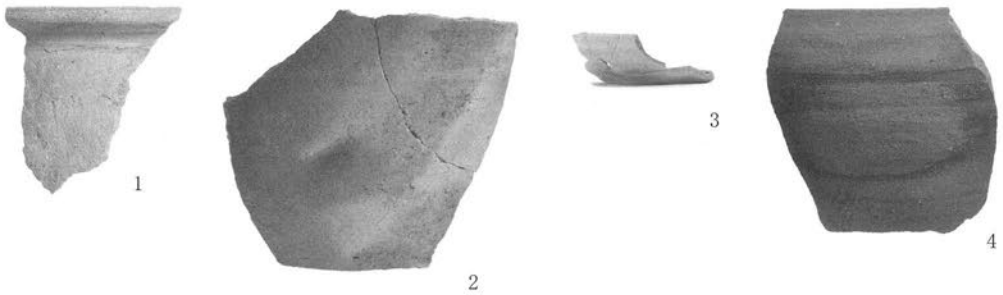


CUT5-SI25 出土遺物

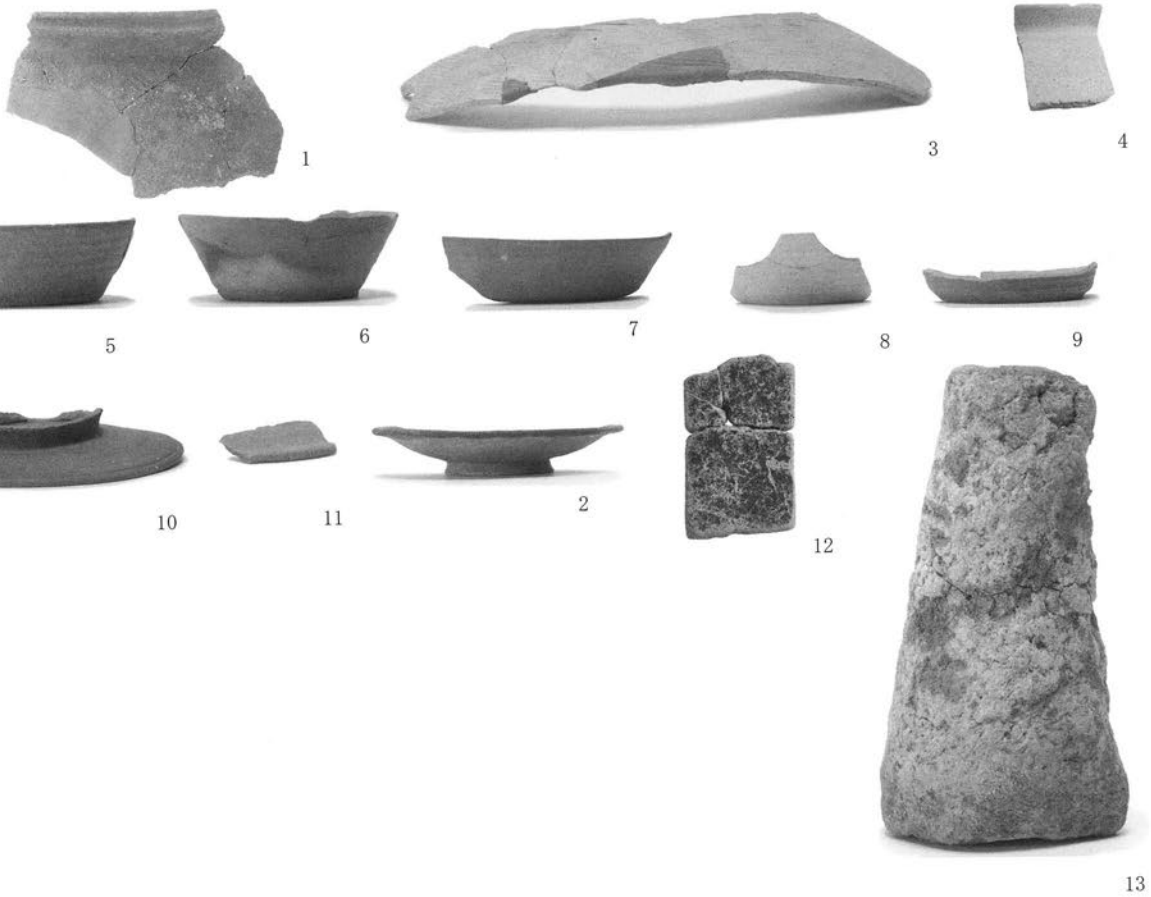


CUT5-SI26 出土遺物

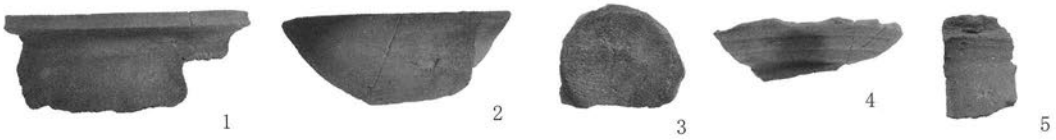
CUT5-SI27 出土遺物



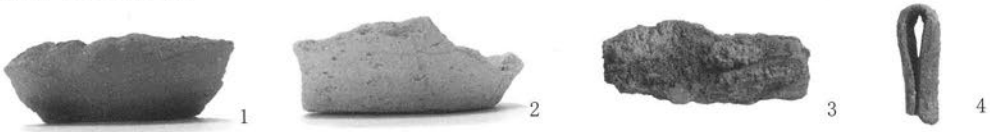
CUT5-SI28 出土遺物



CUT5-SI29 出土遺物

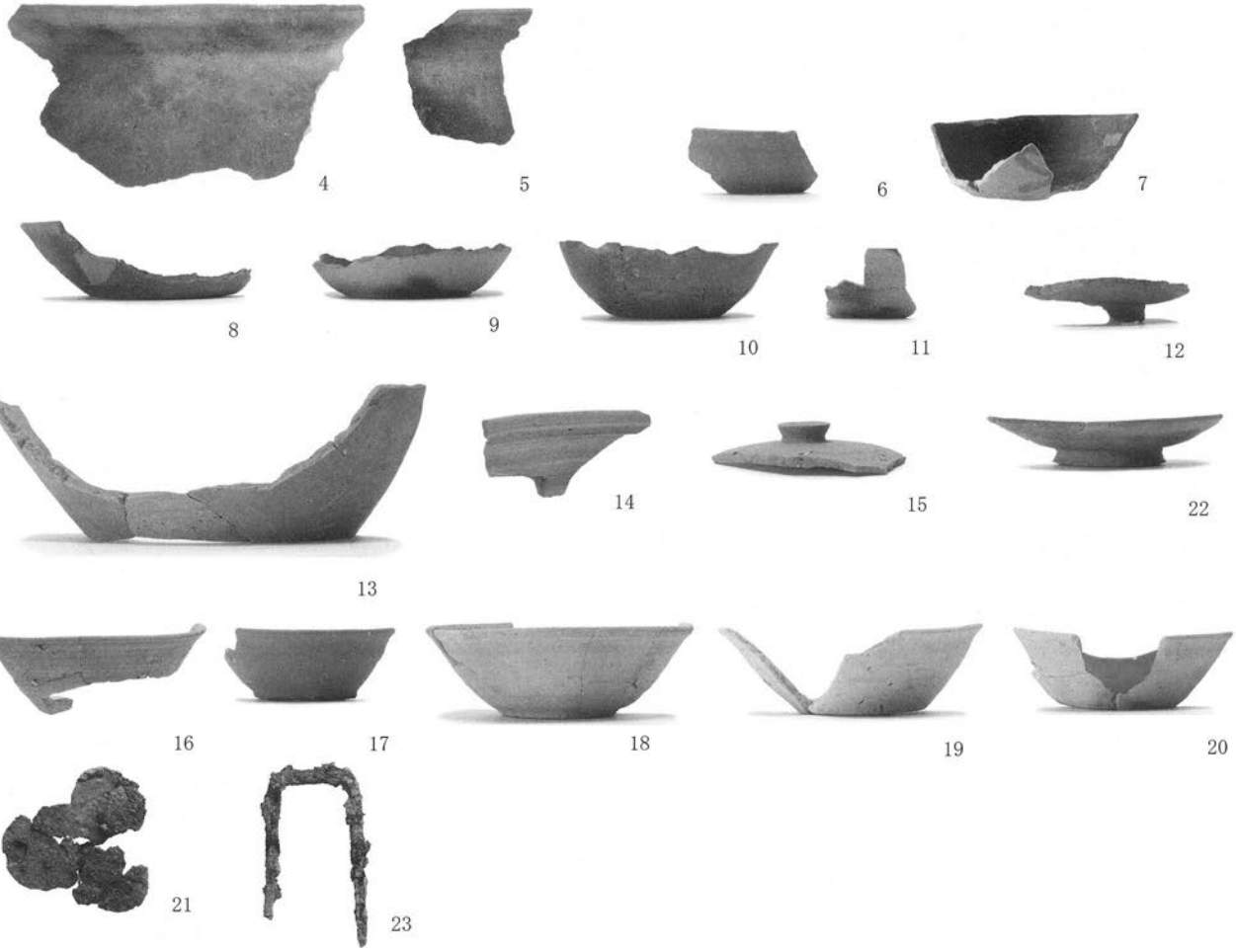


CUT5-SI30 出土遺物



CUT5-SI32・45 出土遺物

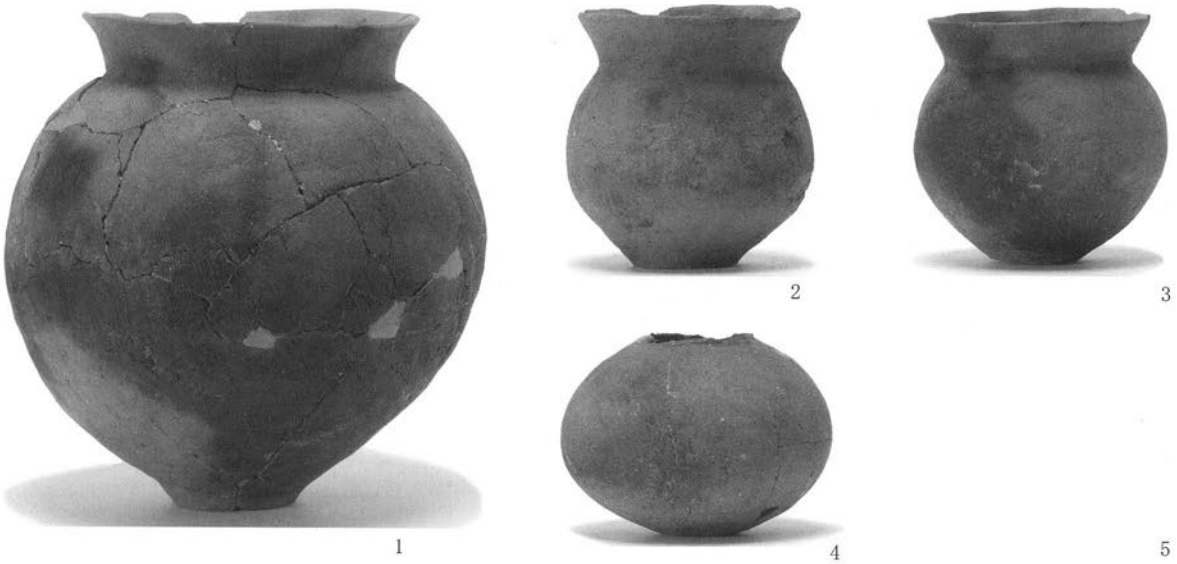
CUT5-SI32・45 出土遺物



CUT5-SI33 出土遺物

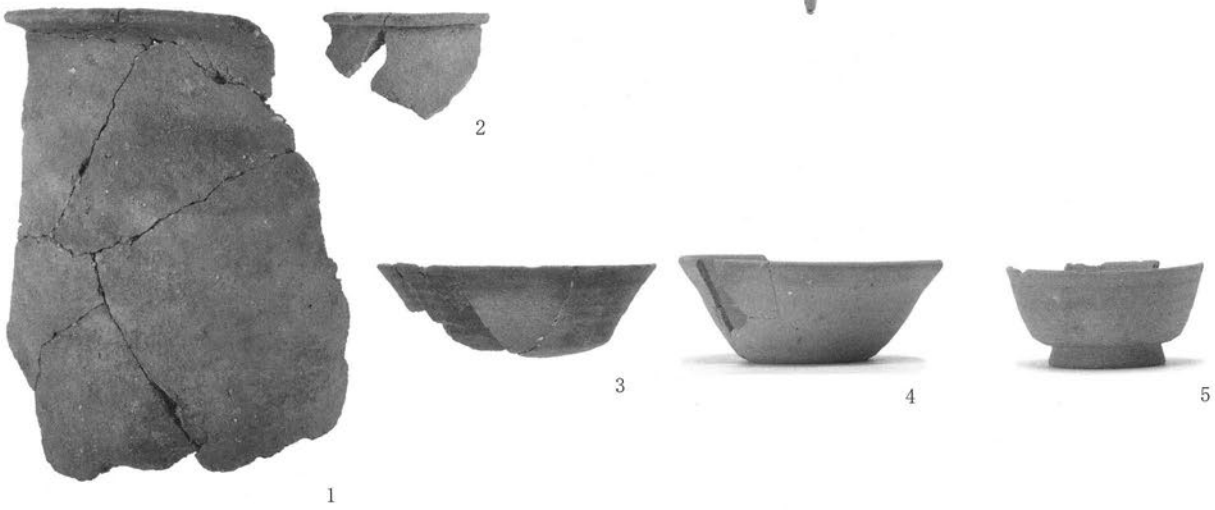
CUT5-SI35 出土遺物

CUT5-SI36 出土遺物

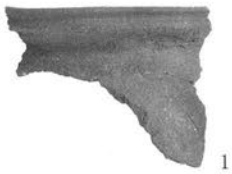


CUT5-SI37 出土遺物

CUT5-SI38 出土遺物



CUT5-SI41 出土遺物



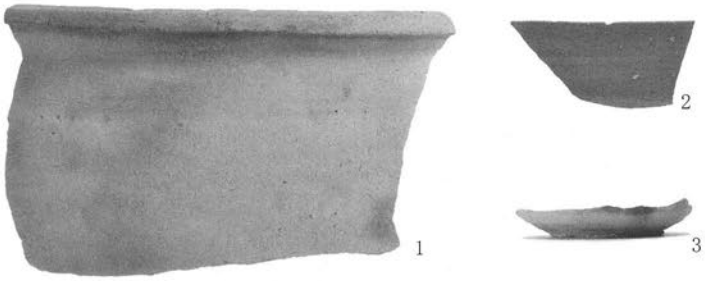
CUT5-SI42 出土遺物

CUT5-SK09 出土遺物

CUT5-SK19 出土遺物

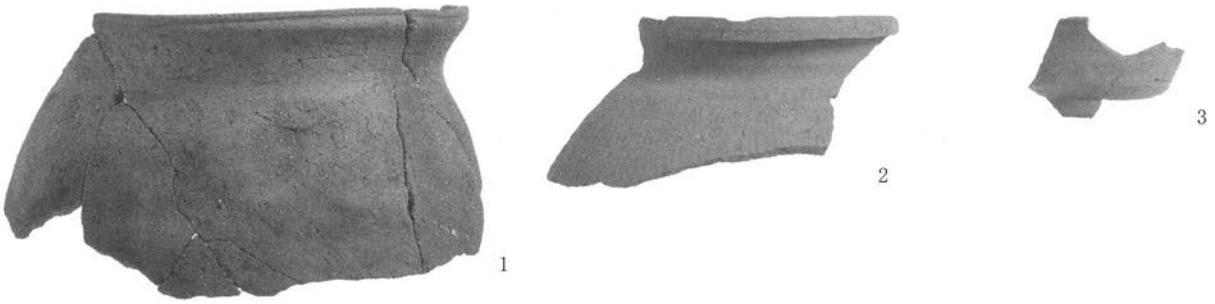
CUT5- ピット出土遺物

CUT5- 遺構外出土遺物

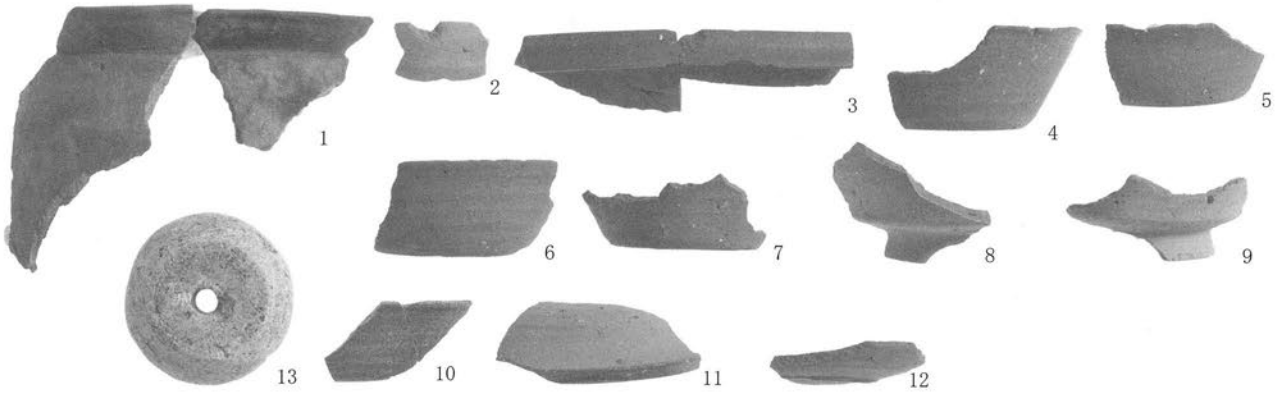


CUT6

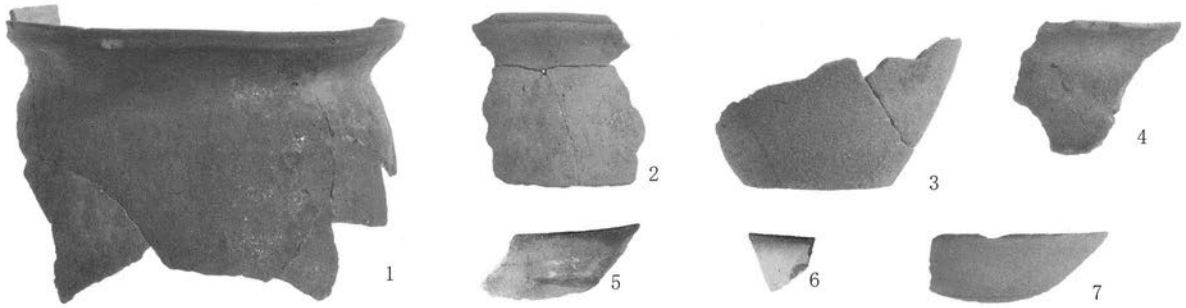
CUT6-SI01 出土遺物



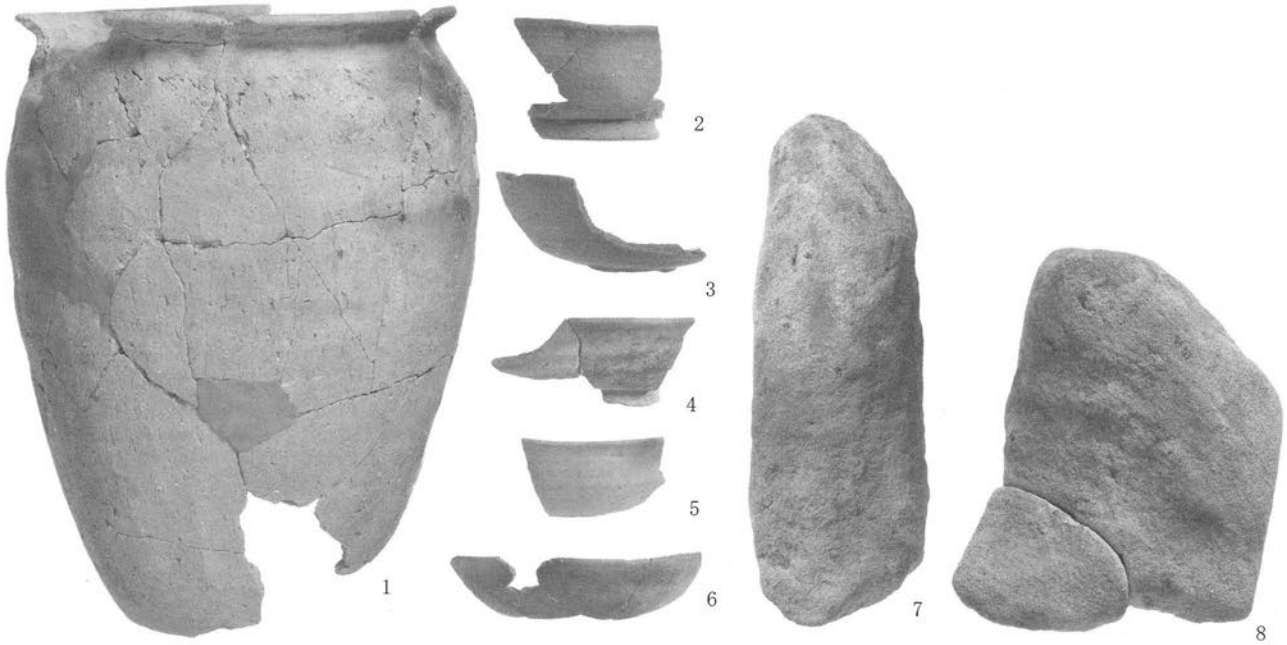
CUT6-SI02 出土遺物



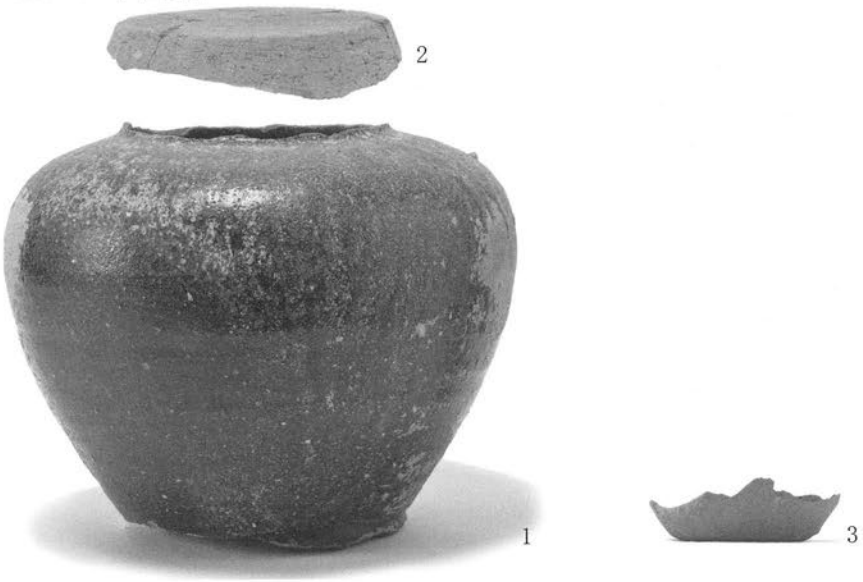
CUT6-SI03 出土遺物



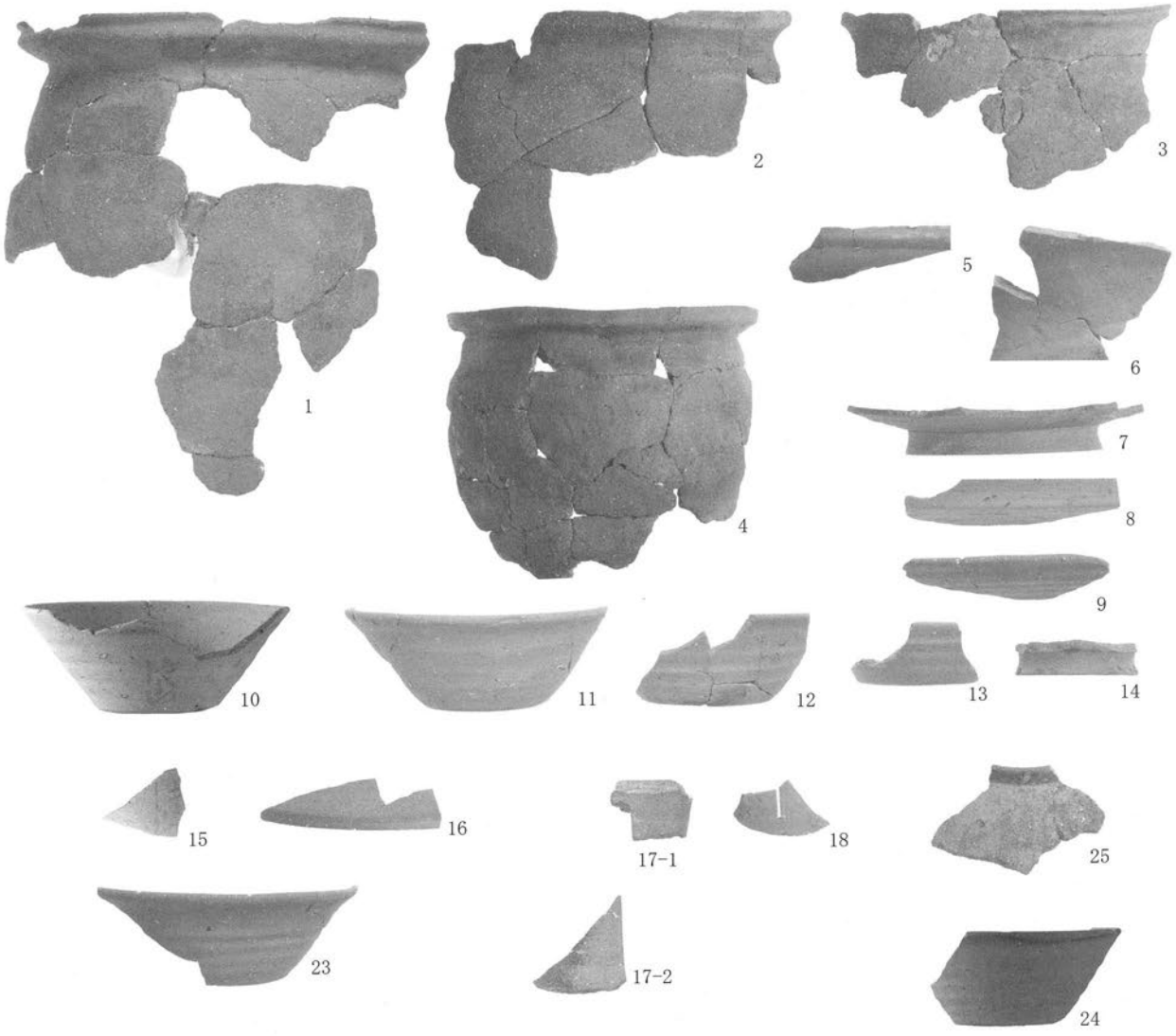
CUT6-SI04 出土遺物



CUT8-SK09 出土遺物



CUT10A-SI01 出土遺物



図版106 CUT10A・CUT10B

CUT10A-SI01 出土遺物

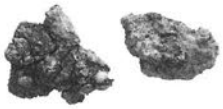
19

20

21

22

CUT10A-1 号地下式土坑出土遺物


1

CUT10A-SK01 出土遺物

1

CUT10A-SK05 出土遺物

1

2

CUT10A-SK09 出土遺物

1

CUT10A-SK12 出土遺物

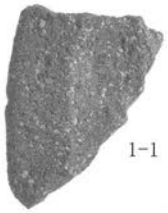
1

CUT10A-SD01 出土遺物

1

2

CUT10A- カクラン出土遺物


1-1

1-2

CUT10B-SK13 出土遺物

1

CUT10B-SK30 出土遺物

1

2

3

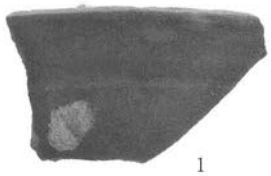
4

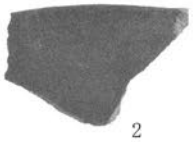
CUT10B-SK35 出土遺物

1

2

CUT10B-SK41 出土遺物


1


2

3

4

5

6

7

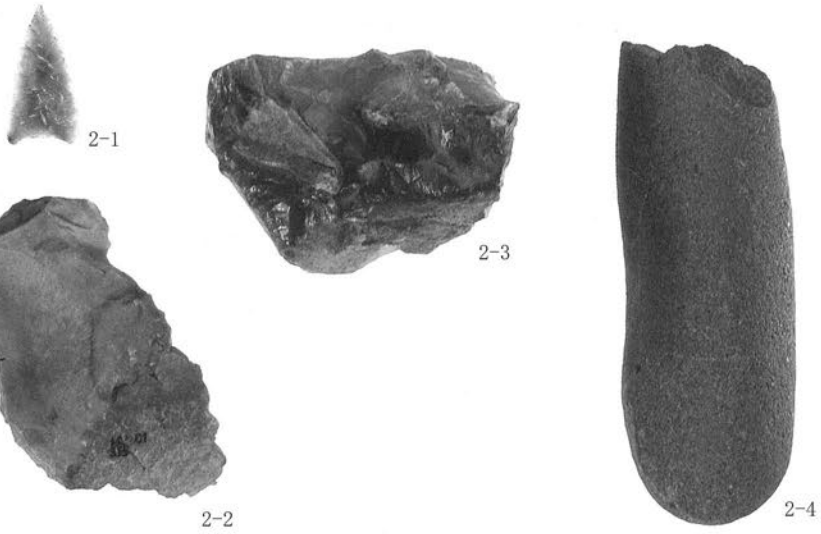
8

CUT10B- 遺構外出土遺物

1

2

CUT01-石器



2-1

2-2

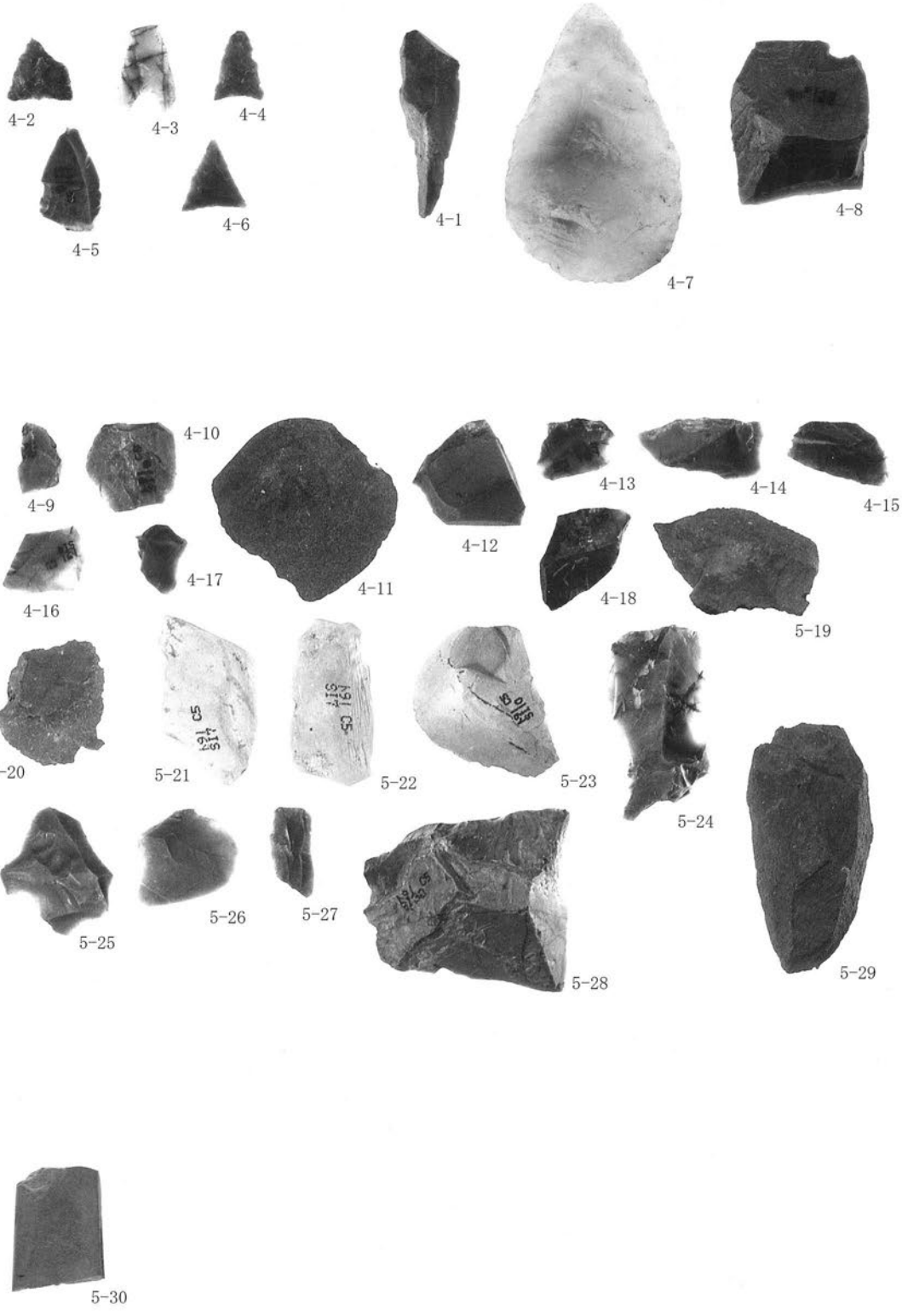
2-3

2-4

3-1

0　2/3　5cm

CUT05- 石器 -1


4-2
4-3
4-4
4-5
4-6
4-1
4-7
4-8
4-9
4-10
4-11
4-12
4-13
4-14
4-15
4-16
4-17
4-18
5-19
5-20
5-21
5-22
5-23
5-24
5-25
5-26
5-27
5-28
5-29
5-30
0
2/3
5cm

CUT05- 石器 -2

5-31

6-32

6-34

6-33

0　1/3　10cm

25 住　6-35

32 住　6-36

弥生時代

0　2/3　5cm

CUT05- 石器 -3

7-37
7-38
7-39
7-40
7-41
7-42
グリッド
8-43
8-44
8-45
8-46
確認面
表採
表採確認面
0 2/3 5cm

CUT10A- 石器

1-1

1-2

旧石器時代

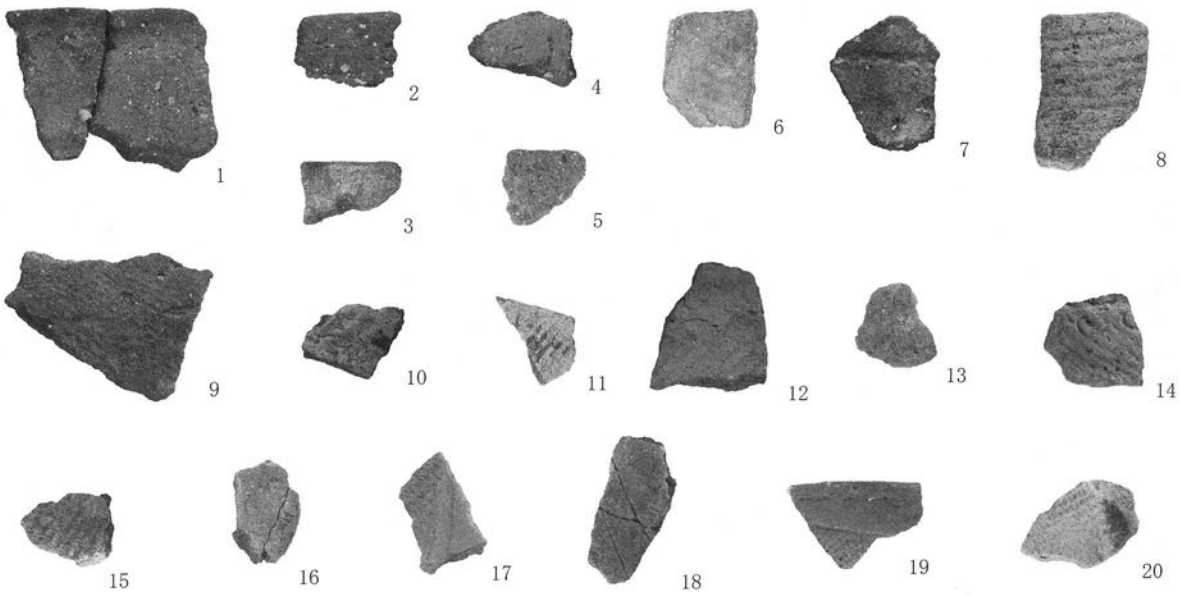
0　2/3　5cm

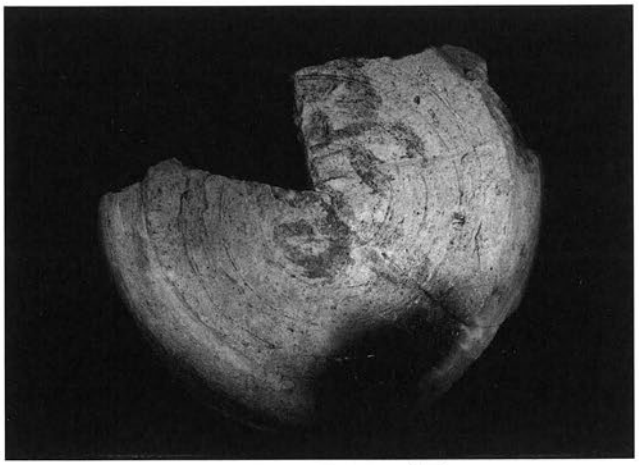
1-3

0　2/3　5cm

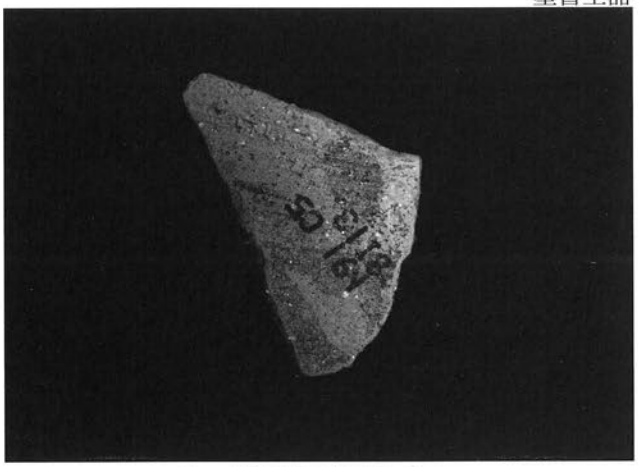
図版112　縄文土器

出土縄文土器





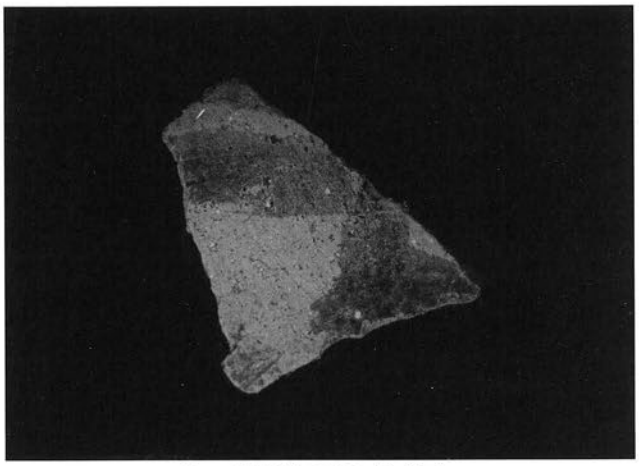
1　CUT05-SI10-04「□」



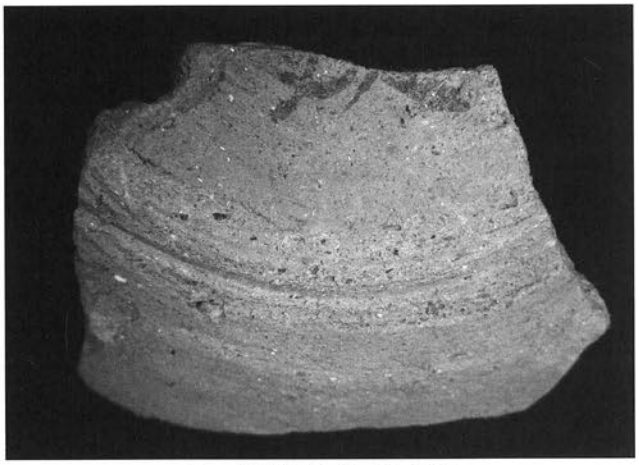
2　CUT05-SI13-05「□」

3　CUT05-SI14-04「大伴」

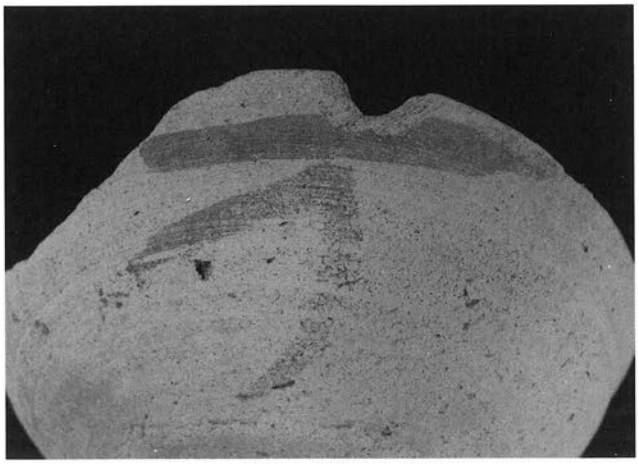
4　CUT05-SI14-05「□山」



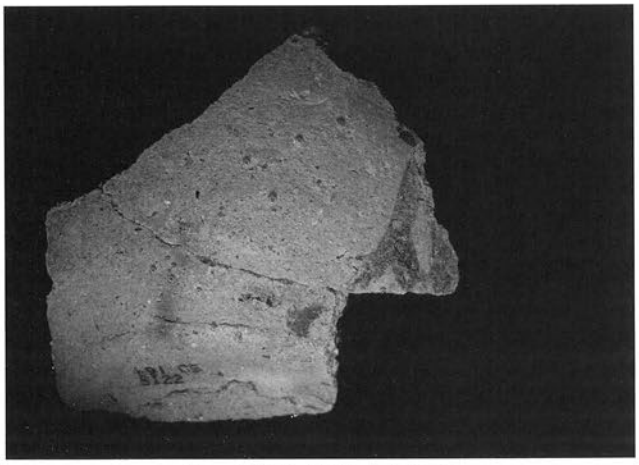
5　CUT05-SI16-04「□」



6　CUT05-SI19-04「□」

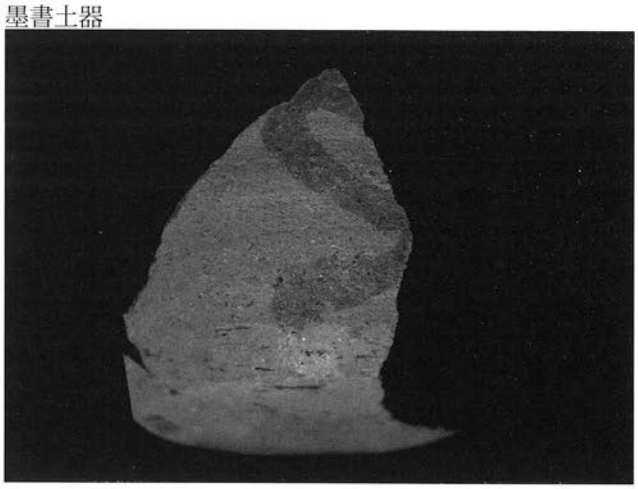


7　CUT05-SI22-02「万」



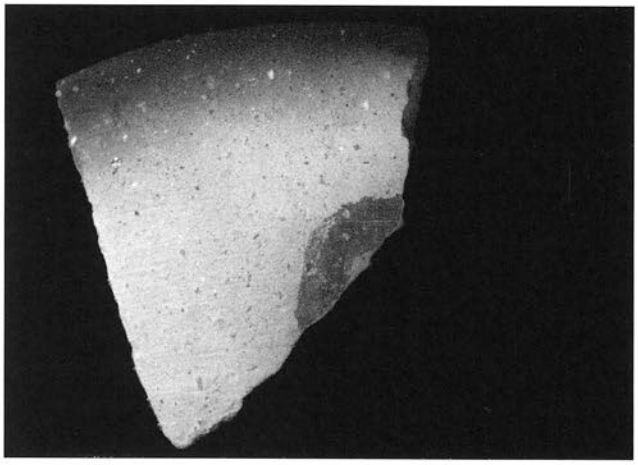
8　CUT05-SI22-05「□」

図版114 墨書土器



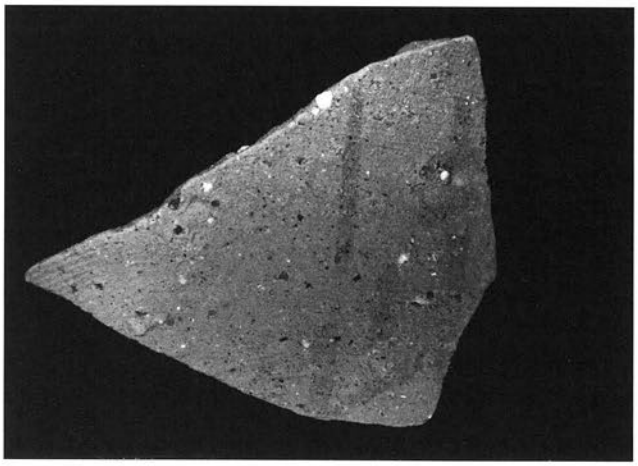
1　CUT05-SI32・45-07「□」

2　CUT06-SI03-05「□」

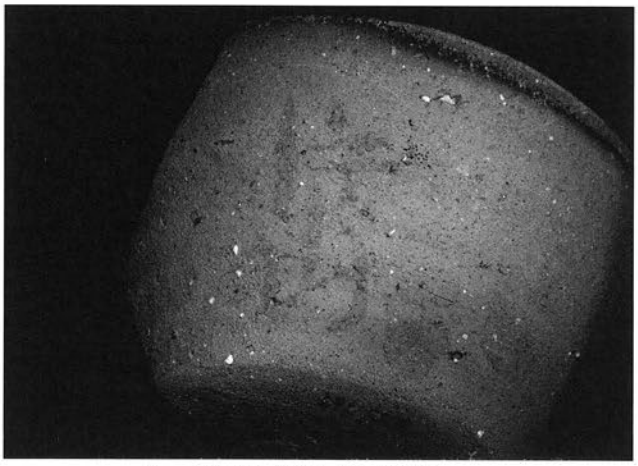


3　CUT06-SI03-06「□」

4　CUT10A-SI01-10「片山」



5　CUT10A-SI01-15「片山」



6　CUT10A-SI01-24「片山」

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ながみねにしいせき
書 名	長峰西遺跡
副 書 名	畑地帯総合整備事業（小原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シ リ ー ズ 名	
シ リ ー ズ 番 号	
編 著 者 名	笠間市教育委員会・大賀健・角張淳一・高橋 哲・田中暁穂・大越直樹・大賀さつき
編 集 機 関	有限会社　勾玉工房 Mogi
所 在 地	〒286-0203　千葉県富里市久能 238-100
発 行 年 月 日	西暦 2010 年　3　月　15　日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査 原因
ながみねにしいせき 長峰西遺跡	いばらきけんかさましおばら 茨城県笠間市小原 359 番地ほか	08321	091	36 22 05	140 20 30	20081215 ～ 20090331	5,815 ㎡	畑地帯総合整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長峰西遺跡	集落跡	旧石器時代		ナイフ形石器	
		縄文時代 （早期～後期）		土器・石鏃・石錐・掻器・削器・敲石・ 石核・剥片・スタンプ型石器	
		弥生時代（後期）	竪穴住居跡	弥生土器（十王台式土器・五領式土器・ ミニチュア土器）・土製紡錘車・鉄製品（鏃）	
		古墳時代（前～中期）	古墳・竪穴住居跡	土師器・須恵器・鉄製品（鏃）・砥石	
		奈良・平安時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡 ・火葬墓	土師器・須恵器・灰釉陶器・墨書土器・ 石製紡錘車・砥石・鉄製品（鏃・鎌・鋤・ 穂摘具・刀子釘）・蔵骨器	
		中近世	地下式坑・土坑・溝・ピット	土師質土器（かわらけ・内耳鍋）・陶磁器・茶臼	

要 約	遺跡は舌状台地上に位置し、旧石器時代のナイフ形石器が出土し、縄文時代早期～後期の土器・石器が出土しているが、遺構は検出されなかった。 弥生時代後期には集落が形成され、弥生後期の十王台式土器が出土し、2 式期には五領式土器が共伴する。 古墳時代には隣接する喜平塚古墳の周溝が検出された。集落は弥生時代から継続する古墳時代前期～中期まで確認され、炉と併設する初源期のカマドが検出された。 奈良・平安時代の集落は 8 世紀後半～ 10 世紀前半まで継続し、長期的な拠点集落と見られる。 中近世の遺構は台地上の端部に検出されているが、地下式坑以外は性格不明遺構・溝・土坑・ピットなど性格が明確ではない。

長 峰 西 遺 跡
平成 22 年 3 月 15 日発行

編 集 有限会社 勾玉工房 Mogi
〒286-0203 千葉県富里市久能 238-100
TEL 0476(92)0658

発 行 笠間市教育委員会
〒309-1698 茨城県笠間市石井717
TEL 0296(72)1111

印 刷 株式会社 エイティー
〒289-1115 千葉県八街市八街ほ 211
TEL 043(444)2024